Salesforce Winter '17 リリースノート

Salesforce, Winter '17

Lightning が新しくなって再登場

@salesforcedocs

最終更新日: 2016/10/18

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2016 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Winter '17 リリースノート 1
リリースノートの使用方法 3
機能が使用可能になる方法と状況 13
サポートされるブラウザ 50
Salesforce 全体 55
Lightning Experience 73
セールス 90
Data.com 146
分析 149
サービス 209
コミュニティ 265
Chatter 321
Files 339
モバイル 344
Financial Services Cloud 380
Health Cloud 382
カスタマイズ 386
セキュリティと ID 423
リリース 446
開発 448
マーケティング 528
重要な更新 529
ドキュメントコンテンツ 529
その他の Salesforce 製品 536

Salesforce Winter '17 リリースノート

Winter '17 リリースでは、人気のある多数の機能が従来よりも簡単に使用できるようになりました。Lightning Experience には、新しいナビゲーションバーと多数の重要なセールス、サービス、および分析機能があります。カスタマーコミュニティとパートナーコミュニティの管理、携帯電話からの業務の遂行、データとユーザのセキュリティ保護を行うオプションがさらに追加されました。カスタム Lightning アプリケーションを含む、多数の新しいカスタマイズとアプリケーション開発機能もあります。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

リリースノートでは、Salesforce の機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つ実装のヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

機能が使用可能になる方法と状況

Winter '17 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

Salesforce 全体: カスタムアプリケーション、効率的なナビゲーション、項目レベルのヘルプ

Winter '17 を使用すれば、Lightning Experience をさらに気に入ってもらえるでしょう。カスタムアプリケーションを作成したり、ナビゲーションを大幅に効率化したり、項目レベルのヘルプでユーザをガイドしたりできます。

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

セールス: Lightning Experience での効率的かつ迅速な販売

Lightning Experience は常に改良されています。マーケティングチームと営業チームは、Voice、拡張メールなどの新しい改善された生産性機能を使用して会社の業務を推進できるようになりました。より多くのレコードでニュース記事が表示されるため、担当者は常に最新情報を入手できます。データ評価によりデータ品質が改善されます。さらに、定番の契約、見積、キャンペーンインフルエンスなどに対する Lightning サポートが追加されました。

Data.com: クリーンアップルールの設定と取引先の会社情報

Lightning Experience で使用できる主要な Data.com 機能が増えました。クリーンアップルールの設定と、Data.com Clean のお客様向けに、取引先データに貴重な会社情報を追加するルールが追加されました。

Analytics: Lightning の機能強化、Wave のトレンド、Wave ダッシュボードデザイナなど

レポートとダッシュボード、および Wave Analytics のインサイトで意思決定を促進します。Lightning Experience のレポートとダッシュボードではアクセスの改善、検索条件オプションの追加、グラフの機能強化が行われました。Wave Analytics では、Wave のトレンド、事前作成済みアプリケーション、Wave ダッシュボードデザイナ、データマネージャツール、通知、Android アプリケーションがさらに進化しました。

サービス: CTI の大きな変更、Field Service の機能の追加

CTI (コンピュータテレフォニーインテグレーション) を使用している場合は注意が必要です。Spring '17 でデスクトップ CTI が廃止されるため、次のリリースまでに Open CTI に移行する必要があります (朗報としては、Open CTI が Lightning Experience で機能するようになりました)。多数の新しい Field Service Lightning の機能を使用して、フィールドサービス業務を専門的に管理できます。また、活気的な Twitter と Facebook のソーシャルカスタマーサービスに Instagram が追加されました。

コミュニティ: コミュニティの Field Service、Lightning Bolt、コメントのモデレーションなど

コミュニティの操作性がアップグレードされ、従来よりも堅牢、柔軟、拡張可能になりました。コミュニティのフィールドサービスでは、顧客がコミュニティ内から簡単に予定をスケジュールできます。Lightning Bolt を使用すると、コンサルティングパートナーと ISV はすばやくカスタムテンプレートおよびページをエクスポートし、顧客に配信できます。コメントのモデレーションでは、コミュニティマネージャがフィード全体を制御できます。その他多くの時間を節約できる機能があります。詳しく見てみましょう。

Chatter: 新しいグループウィザード、カスタムグループレポート、動画が使用可能に

フィードのグループフィード自動更新リッチコンテンツで、インライン画像とコードマークアップがサポートされ、コンテキスト内で動画が再生されるようになりました。また、カスタムグループレポートがサポートされ、操作性が向上したことにより、Chatter がさらに使いやすくなりました。

ファイル: 複数ファイルの投稿への添付、Files Connect のさらにスマートな利用、カスタムアプリケーションのアセットファイルのアップロード

Lightning Experience では最大 10 個のファイルを Chatter フィード投稿に添付できます。Files Connect の設定が簡単になり、コンテンツの関連性が向上したことで、作業が容易になりました。カスタム Lightning アプリケーションをパッケージ化するときは、Salesforce Files をアイコンとして使用します。

モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

モバイルを使用すると、どこにいても接続した状態なので、どこからでも仕事を行うことができます。そのため、オフィスの外で生産性を高める新しい方法が追加されました。同僚と情報を共有するためのインテリジェンス、アクション、オプションが追加され、Salesforce1 モバイルアプリケーションが強化されています。Salesforce Authenticator により、自動化された活動に関する通知と、接続済みのアカウントをバックアップ (復元) する新しいオプションで簡単にデータの安全とセキュリティを維持できます。

Financial Services Cloud: Lightning ページとカスタマイズ

稲妻 (Lightning) に打たれるのは一度だけと言ったのはだれですか? Financial Services Cloud が、クライアントと世帯をカスタマイズできる新しい Lightning ページを搭載して再登場です。一新された Advisor Wave が、Financial Services Cloud に埋め込まれた Wave ダッシュボードで大きな波を起こします。サーフボードをお忘れなく。

Health Cloud: ケアプランテンプレートなど

Salesforce は、ケアコーディネータがより多くの仕事ができ、患者への関わりが増えるように、開発を進めています。

カスタマイズ: 改善された Lightning Experience の [設定]、柔軟性が向上した Lightning ページ、外部オブジェクトのレポート

このリリースは、ポイント & クリック操作を行うシステム管理者にとって多くの利点があります。Lightning Experience の [設定] でグローバル検索を使用して情報を探すことができます。Lightning ページや選択リスト値を詳細に制御できます。会社で外部オブジェクトを使用している場合、保存場所に関係なくすべてのデータについてレポートを実行できます。

セキュリティと ID: より迅速なログイン、ポリシーベースの応答、独自の暗号化鍵の使用

さらに安全で便利になったログイン環境、2 要素認証用の U2F セキュリティキー、およびセキュリティ強化されたログイン処理を使用して、組織とユーザを保護します。Lightning Experience で、1 つのアプリケーションランチャービューから Salesforce アプリケーション、カスタムアプリケーション、接続アプリケーションにアクセスします。トランザクションセキュリティポリシーを使用して、指定されたセキュリティ状況にすばやく対応できます。独自の暗号化鍵を生成でき、さらに大量の OAuth トークンとパスワード項目を保存できます。

リリース: クイックリリースの柔軟性が向上、リリース可能な項目の追加

変更を組織に新しい方法でリリースできるようになりました。クイックリリースの時間枠拡張の活用、選択リスト値を追加したセットの変更、Apex テストスイートのリリースを実行できます。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Force.com は、組織のための、または別の組織に再販するための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

マーケティング: かつてない方法で顧客をエンゲージするツール

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。あらゆるソースからの顧客利用データを 1 か所で表示し、ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化できます。最適なタイミングですべてのチャネルとデバイスにパーソナライズされたコンテンツを配信し、リアルタイムでアプローチを最適化してより優れた結果をもたらすことができるように、ビジネスでの各インタラクションの影響を評価します。

重要な更新: LockerService の変更、Visualforce ページへのクリックジャック保護の追加

前回のリリースからの LockerService の重要な更新は延期されました。またこのリリースには、ページヘッダーが非表示の Visualforce ページに、従来のブラウザ互換のクリックジャック保護を拡張する重要な更新が含まれています。

ヘルプ & トレーニング

ウォークスルーおよび Trailhead モジュールも追加されました。また Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

その他の Salesforce 製品

リリースノートの使用方法

リリースノートでは、Salesforce の機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つ実装のヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
- デフォルトで、HTML 版のリリースノートに使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、ページの下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。

- これらのリリースノートは、新機能や変更された機能に関するものであり、既知の問題に関するものではありません。既知の問題についての詳細は、Salesforce の「既知の問題」のサイトを参照してください。

メモ: 本番組織で新しい Salesforce リリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しないか、以前の Salesforce リリースのドキュメントにリダイレクトされます。一部のドキュメントには、Salesforce リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み
検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握
Salesforce Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。また、今後数回のリリースでは Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

お客様のご要望
IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

その他のリソース
これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

リリースノートの変更
リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

フィードバックについて
貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

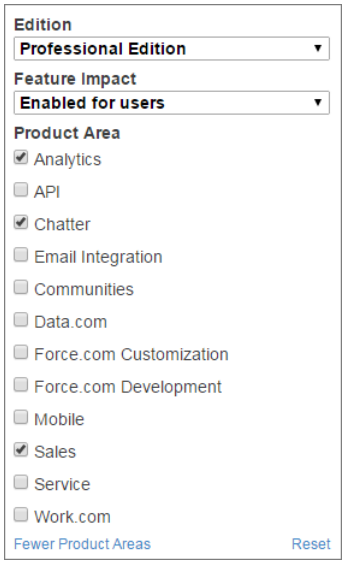
検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

エディション
: 使用可能な機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

機能の影響
: 有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

製品エリア
: 組織で使用する商品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、画面の右側にある [条件を表示] をクリックします。



検索条件を選択したら、リリースノートのリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択した後、URL をコピーして、その URL を任意の方法で配信します。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Salesforce Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。また、今後数回のリリースでは Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

この移行期間を成功させる鍵は、1 つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのため、リリースノートには情報が適用される最上位レベル (クラウド全体またはクラウド内の個々の機能) での環境情報を追加しました。次の 3 つの例を見てみましょう。

- 現在、コミュニティおよびそのすべての機能は Salesforce Classic でのみ使用可能であるため、コミュニティの「エディション」表にその点を示しています。「使用可能なエディション: Salesforce Classic」と記載されています。
- Service Cloud 機能であるケースフィードは、*両方のデスクトップ環境* で使用可能であるため、「この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。」と記載されています。
- Sales Cloud の新機能である商談ワークスペースは Lightning Experience でのみ使用可能であるため、「この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。」と記載されています。

モバイルアプリケーションである Salesforce1 で主要機能が使用可能な場合は、機能の説明でその点を示しています。Salesforce1 の新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することもできます。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現したアイデア
全般的な機能強化	
Lightning Experience 内でのフロート表示のヘルプテキスト	Lightning Experience で項目レベルヘルプを表示
Lightning Experience での [保存 & 新規] 標準ボタン	Lightning Experience で複数レコードをすばやく作成
営業	
Lightning Experience で納入商品、契約、および見積を使用できる必要あり	契約: Lightning Experience で業務を行うための合意条項を管理
Lightning Experience での見積の作成	Lightning Experience での商談への見積の追加
Salesforce 内でのメールの転送および再送機能	Salesforce からのメールの返信および転送
カスタムオブジェクトの Kanban ビューの有効化	Kanban: リード、契約、キャンペーンを視覚的に追跡および管理 *(部分的に実現)*
カレンダー用の追加の色	さまざまな色を使用したカレンダーのカスタマイズ *(部分的に実現)*
分析	
外部オブジェクトに対してレポートを直接的に実行	レポートに外部データを含めて視野を拡大
サービス	
反応型リストのフロート表示の有効化をユーザに許可	コンソールでのリストビューのフロート表示の制御
マクロの使用中にケース所有者を変更する機能	クイックアクションまたはマクロを使用したケース所有者の変更
デフォルトメールテンプレート	Lightning Experience と Salesforce1 でのデフォルトメールテンプレートを使用した一貫性の確保
デフォルトのメールアドレスとテンプレート	
ケースからメールを送信する場合のデフォルトの「送信元」アドレスの設定	エージェントがケースから送信するメールの送信元アドレスの標準化 *(部分的に実現)*
デフォルトのメールアドレスとテンプレート	
コミュニティ	

IdeaExchange	実現したアイデア
トピック機能の成熟化 コミュニティでのChatterアンサーに関する「毎日のダイジェスト」メール	トピックメール通知を送信して、MVP に情報提供 *(部分的に実現)*
パートナーにダッシュボードへのアクセスを提供、PRMユーザとダッシュボード—ダッシュボードページで[更新]ボタンを使用	コミュニティページへのレポートとダッシュボードの追加
ファイル	
Chatter項目に複数ファイルを添付する機能	Lightning Experience での 10 個のファイルを添付したフィード投稿のアップロード
モバイル	
Salesforce 1 での商談の商品の編集または追加	Salesforce1 での商談への商品の追加
Salesforce1 アプリケーションでの製品/価格表の表示を許可	Salesforce1 での商談への商品の追加
Salesforce1 で価格表と商品を追加できない	Salesforce1 での商談への商品の追加
カスタマイズ	
外部オブジェクトに対してレポートを直接的に実行	外部オブジェクトレポート—システムの境界を越えたデータのシームレスな表示
プロファイルとライセンスに基づいて権限セットライセンスの割り当てを自動化	権限セットと権限セットライセンスの容易な関連付け
プロセスビルダー内からの別のプロセスの作成	再利用可能なプロセスの作成
True の場合のディシジョンツリー	
プロセスビルダーでの判定ボックスの導入	
プロセスに入るための初期検索条件	
ネストした条件 (ステートメントの場合)	
プロセスビルダーの階層の作成	
所有者項目へのアクセス	プロセスビルダーからの所有者項目へのアクセス

IdeaExchange	実現したアイデア
Visual Workflow の画面レイアウト/フローの外観が醜悪 (部分的に実現)	Lightning スキンを使用したフローの実行 (ベータ)

その他のリソース

これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

- Release Readiness & Feature Adoption コミュニティ。Salesforce エキスパートのコミュニティに参加しましょう。
- リリースデモ。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- リリースの概要。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- Release Readiness & Feature Focus のイベントカレンダー。Expert Hours や他のイベントに登録します。
- Release Readiness の提供。新しい機能を登録し、活用します。
- Winter '17 リリース。新しい機能を確認します。
- Winter '17 リリースモジュール。Winter '17 Trailhead バッジを取得します。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

最新の情報 (以下の日付以降の差分) は英語版ご覧ください。

2016 年 10 月 26 日

コミュニティページへのレポートとダッシュボードの追加

カスタマーサービス (Napili) ベースのコミュニティでレポートリストビューを使用できないことに関する注意を追加しました。

2016 年 10 月 19 日

PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコールアウトとして動作 (重要な更新)

10 月 18 日の時点で、Visualforce PageReference `getContent()` メソッドと `getContentAsPDF()` メソッドはコールアウトとして動作し、コールトランザクションの制限に対してカウントされます。

1 か所でのプロセスのバージョン履歴の表示

プロセスバージョンの管理方法が変更されたことに関する注意を追加しました。

文字区切りによる、インポートファイルでのデータの区切り

データローダでは、CSV ファイルの区切り文字を指定できるようになりました。以前は、カンマとタブのみがサポートされていました。

$A.util.format() メソッドへの参照の削除

サポートされない JavaScript メソッド `$A.util.format()` への参照をドキュメントから削除しました。

別名でログインによる登録者組織での難読化コードの表示

今後のISVデバッグパイロットプログラムを有効にするための変更について、注意を追加しました。この変更は正式リリースです。

Chatter およびコミュニティ: Lightning Experience の考慮事項

リリースノートを訂正し、Lightning Experience での質問パブリッシャーの制限に関する情報を組み込みました。

2016 年 10 月 12 日

Salesforce Lightning インスペクタを使用した Lightning コンポーネントの高速で簡単なデバッグ

新しいバージョンの Salesforce Lightning インスペクタは、より多くのコンポーネント情報、パフォーマンスデータ、コールスタック、ローカライズで使用できます。

1 か所でのプロセスのバージョン履歴の表示

プロセスバージョンの管理方法が変更されたことに関する注意を追加しました。

新しい組織での従来のデータインポートツールの廃止

新しい組織で従来のデータインポートツールが使用できなくなり、既存の組織では Spring '17 でインポートツールが廃止されることに関する注意を追加しました。

Salesforce1 と Lightning Experience の関連リストのリスト項目アクションの一致

Lightning Experienceを有効にしていない組織での関連リスト項目のアクションに関する注意を追加しました。

Salesforce1 の要件の更新

Salesforce1 のテストに使用したデバイスの Winter '17 のリストから iPad Air を削除しました。

Salesforce1 からのテキストメッセージの送信

標準的な［電話］項目だけでなく、任意の電話番号項目に有効な電話番号が含まれるレコードの場合、[テキストを送信] アクションが使用できることを明示しました。

段階的廃止の一環として Salesforce1 の従来のグラフを拡張グラフに置き換え (Summer '17 で全面廃止)

Salesforce1 で従来のグラフを廃止する期限と計画を改訂しました。Salesforce1 の従来のグラフの廃止は、Spring '17 ではなく、Summer '17 リリースに計画されることになりました。拡張グラフが自動的に有効になることはありません (Summer '16 リリース以降に作成された、新しい組織を除く)。

Salesforce Authenticator と Lightning Login でのパスワードの廃止

パスワードを覚えて、メンテナンスして入力する代わりに、Lightning Login で Salesforce Authenticator を使用できるようにしました。

Salesforce Authenticator でのアカウントの並び替え

Salesforce Authenticator では、アプリケーションでアカウントを並び替えることができるようになりました。アカウントをタップしたまま上下にドラッグしてください。

2016 年 10 月 5 日

Lightning Experience でのカスタムアプリケーションの作成とより効率的なナビゲーション

どの項目でアクションがサポートされるかを指定すること、および Lightning Experience ナビゲーションバーで最近のレコードとリストに直接アクセスすることに関する注意を追加しました。

ヘルプ & トレーニング
[ヘルプ & トレーニング] セクションが追加されました。

Lightning 基本コンポーネントの概要
`lightning:card` コンポーネントの変更に関する情報を追加しました。

メタデータ API
PermissionSet オブジェクトの新しい項目 `license` に関する情報を追加しました。この項目によって `userLicense` は置き換えられて非推奨になります。

LockerService の重要な更新は延期
この重要な更新は、Winter '17 で自動的に有効になるようにスケジュールされました。この自動有効化日付が Summer '17 まで延期されました。

すべての組織で LockerService の重要な更新を切り替え可能
この重要な更新を無効にするオプションが、すべての組織に含まれることになりました。Lightning コンポーネントの設定ページの新しい設定では、管理パッケージからインストールしたコンポーネントで LockerService を適用するかどうかを制御できます。

Lightning Experience での Open CTI を使用した通話
Lightning Experience の Open CTI デモアダプタへのリンクを追加しました。

最新のオペレーティングシステムのサポートが含まれるデータローダの新バージョン
TLS 1.1 と 1.2 の暗号化プロトコルがサポートされることを明記しました。

Financial Services Cloud の Wave
Financial Services Cloud の新しいアプリケーションに関する情報を追加しました。

2016 年 9 月 28 日

Lightning Login を使用してパスワードなしでログイン (ページ 426)
Lightning Login のデフォルトセキュリティレベルを [高保証] から [標準] に更新しました。

CustomApplication メタデータオブジェクトの変更
パッケージからインストールした CustomApplication で `formFactors` が動作する方法について詳しく説明しました。

複数のレコードに対するカスタム一括アクションの実行
Lightning Experience のリストビューでボタンを 1 回クリックするだけで、複数のレコードを選択します。

バージョン履歴の削減による Sandbox サイズの制御
Sandbox で組み込むバージョン履歴の量を指定して、Sandbox のサイズを縮小できます。

Lightning コンポーネントのアクセス権チェックエラーの適用日範囲の明記
2016 年 10 月 15 日から 10 月 19 日の間に、重要な更新がすべての組織に適用されます。

Lightning 基本コンポーネントの概要
Lightning 基本コンポーネントの新しい属性と変更済み属性に関する情報を追加しました。

Lightning 基本コンポーネントの考慮事項
Lightning 基本コンポーネントの使用に関するガイドラインを追加しました。

ブラウザの Cookie を設定し、ゲストユーザのデバッグログを有効化

公開ユーザに `debug_logs` という名前のブラウザ Cookie があるときに限り、公開ユーザのデバッグログが収集されるようになりました。

2016 年 9 月 21 日

CustomApplication メタデータオブジェクトの変更

Winter '17 リリースの前に作成された Salesforce Classic パッケージで、`formFactors` 項目を Lightning Experience デスクトップ用に使用する方法を明記し、次の項目を復元しました。

- `footerColor`
- `headerColor`
- `logo`

関数の改善

新しい関数 ISCLONE では、ある項目が別の項目のコピーであるかどうかが確認されます。DATEVALUE 関数と ROUND 関数のドキュメントを改善しました。

動的に作成されたコンポーネントのイベントの適切な伝達

イベント伝達動作を修正し、コードでプログラムによって作成されたコンポーネントが、マークアップで宣言して作成されたコンポーネントと同じ方法で動作するようにしました。

Salesforce for Outlook ユーザに必須の重要なアップグレード

一部のユーザにアップグレードが緊急に必要であることを明記しました。Salesforce for Outlook が重要な更新コンソール (CRUC) の設定にどのように対応して、TLS 1.0 の無効化の準備をテストすることが許可されるかも明記しました。

サービスの中断を避けるためのセキュリティプロトコルの検証

Salesforce for Outlook が重要な更新コンソール (CRUC) の設定にどのように対応して、TLS 1.0 の無効化の準備をテストすることが許可されるかを明記しました。

新規追加または変更された Lightning コンポーネント

`lightning` 名前空間で変更されたコンポーネントに関する情報を追加しました。

2016 年 9 月 14 日

Lightning データサービスの紹介 (開発者プレビュー)

Lightning コンポーネントでデータにアクセスして変更するための新しい方法を開発者プレビューで利用できます。

Lightning コンポーネントのアクセス権チェックエラーの適用日の追加

この重要な更新は、10 月 15 日にすべての組織に適用されます。

合理化された作業指示の価格設定

作業指示と作業指示品目での価格設定項目の更新について説明します。

新しい Lightning イベント

`lightning:openFiles` Lightning イベントを追加しました。

Lightning 基本コンポーネントの概要

`lightning` 名前空間で新しいコンポーネントを使用できることに関する情報を追加しました。

新規追加または変更された Lightning コンポーネント

`force`、`lightning`、`ui` の名前空間の新しいコンポーネントと変更済みコンポーネントに関する情報を追加しました。

フィードでの動画の直接再生

カスタマーサービス (Napili) テンプレートのみに基づいて、フィードのインラインの動画を再生することが、Lightning Experience とコミュニティで可能であることを反映するように更新されました。この機能は、Salesforce1 モバイルアプリケーションのフィードでは使用できません。

U2F セキュリティキーで ID を検証

[私のドメイン] を組織でまだリリースしていない場合に、この機能を有効にすることに関する情報を追加しました。

プラットフォームイベントを使用してカスタマイズ可能なイベントの配信 (ベータ)

リリースノートエントリがリンクするプラットフォームイベント (ベータ) ガイドを更新しました。この更新には、`EventBus.RetryableException` の訂正情報と Apex の例が含まれます。

アクセス権チェック違反のコミュニティへの適用

アクセス権チェックエラーの適用日を追加しました。この重要な更新は、2016 年 10 月 15 日にすべての組織に適用されます。

サービスコンソールでクリックジャック保護が有効な Visualforce ページを使用可能

この機能を知らせるリリースノートが削除されました。この機能強化は遅れています。

最新の Wave for iOS を体験

バージョン 2.4 の機能を組み込むように更新しました。

2016 年 9 月 7 日

SOAP API の新規、変更、および廃止されたコール

LOGIN_KEY と SESSION_KEY を 24 個のイベント種別に追加し、ENTITY_NAME を REST API イベント種別に追加しました。

Lightning Experience でのカスタムアプリケーションの作成とより効率的なナビゲーション

新しい Lightning アプリケーションの制限を Edition ごとに追加しました。

コミュニティでの項目レベルヘルプの表示

項目レベルヘルプをコミュニティで使用できることに関するセクションを追加しました。

新しいオブジェクト

`UserCustomBadge` オブジェクトと `UserCustomBadgeLocalization` オブジェクトを追加しました。

Lightning Experience でのレポートへの登録

この機能を知らせるリリースノートが削除されました。Lightning レポート登録は終了したパイロット機能です。

2016 年 8 月 31 日

お客様のご要望

当社が配信したアイデアが追加されました。

ケース参照リンクの新しい場所

質問がエスカレーションされたとき、コミュニティの質問に表示されるケース参照リンクの新しい場所に関する情報を追加しました。

変更されたオブジェクト

FeedItem と FeedComment の API オブジェクトの変更に関する情報を追加しました。

プロファイルオブジェクトの変更に関する情報を追加しました。

WorkOrder オブジェクトと WorkOrderLineItem オブジェクトの Status 項目と StatusCategory 項目のデフォルト値のリストを更新しました。

サービス予約による作業のスケジュール

Status 項目が編集可能であり、その他の項目に基づいて計算されないことを明記しました。

作業指示の新しい状況オプション

作業指示と作業指示品目の Status 項目と Status Category 項目のデフォルト値のリストを更新しました。

Custom Metadata Loader の機能強化

更新済みカスタムメタデータローダの実際の GitHub リンクを追加しました。そのリンクは使用可能になりました。

デフォルトの証明書は新しい組織では使用不可

Winter '17 からは、新しい組織に [デフォルトの証明書] オプションがなくなるため、自己管理証明書を使用する必要があります。

アクション API

アクション API の更新について説明するセクションを追加しました。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- フィードバックフォーム: Salesforce ヘルプ、リリースノート、Salesforce Developers の開発者ガイドのすべてのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter:** Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

機能が使用可能になる方法と状況

Winter '17 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience でサポートされるブラウザ	✅			
Salesforce Classic でサポートされるブラウザ	✅			

Salesforce 全体

Winter '17 を使用すれば、Lightning Experience をさらに気に入ってもらえるでしょう。カスタムアプリケーションを作成したり、ナビゲーションを大幅に効率化したり、項目レベルのヘルプでユーザをガイドしたりできます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
検索				
カスタムオブジェクトでスペル修正	✅			
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に	✅			
個人取引先検索の強化機能で適切なレコードを検索	✅			
検索インデックスの暗号化 (正式リリース)			✅	
スニペットを使用した適切なナレッジ記事の検索	✅			
グローバルインスタント結果でより見やすいビューを表示	✅			
検索を実行したら常に上位の結果に移動	✅			
左側での検索結果の絞り込み	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience でのカスタムアプリケーションの作成とより効率的なナビゲーション		✅		
リニューアル: アプリケーションランチャーの新デザイン			✅	
Lightning Experience で項目レベルヘルプを表示	✅	✅		
Lightning Experience で複数レコードをすばやく作成	✅			
Lightning Experience のレコード詳細タブが状態を保持	✅			
レコードの、より明確で実効性のあるポップアップメッセージ	✅			
Lightning Experience でのレコードエラーに対する迅速かつ簡単なトラブルシューティング	✅			
レコード作成時にさらに詳細な情報が表示されるようになったダイアログタイトル	✅			
バージョン履歴の削減による Sandbox サイズの制御		✅		

Lightning Experience

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
このリリースの Lightning Experience の機能			✅	
Winter '17 の Lightning Experience で使用できない機能			✅	

セールス

Lightning Experience は常に改良されています。マーケティングチームと営業チームは、Voice、拡張メールなどの新しい改善された生産性機能を使用して会社の業務を推進できるようになりました。より多くのレコードでニュース記事が表示されるため、担当者は常に最新情報を入手できます。データ評価によりデータ品質が改善されます。さらに、定番の契約、見積、キャンペーンインフルエンスなどに対する Lightning サポートが追加されました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
中核的なセールス機能				
取引先				
取引先に自動アップグレードを追加 (リリース遅延)	✅			
取引先ロゴで全体像を把握 (正式リリース)	✅			
会社のトップリーダーの詳細情報を得る	✅			
取引先責任者				
取引先責任者を複数の取引先に関連付ければ、さらにうまくいく			✅	
取引先責任者のニュースが届きました	✅			
Summer '17 での登録情報照会の廃止	✅			
リード				
Lightning Experience での重複リードの特定とマージ	✅			
リードのニュースで案件成立への道をひらく	✅			
キャンペーン				
カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを使用した商談のクレジットの複数キャンペーンへの割り当て (正式リリース)			✅	
カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスの設定			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
契約	✅			
商談				
Lightning Experience でのスケジュールを使用した商品の追加	✅			
セールスパスの有効化がさらに簡単に	✅			
Lightning Experience での商談への見積の追加			✅	
ニュース				
取引先インサイトは、ニュースに名称変更	✅			
Chatter のニュースを拡散開始	✅			
ニュース項目のフィードバックを送信するときのクリック数の削減	✅			
データ評価				
Lightning Experience での取引先データ評価の要求			✅	
データ評価完了通知のメール受信		✅		
生産性機能				
ホーム				
アシスタントでの対応策の実行	✅			
役に立たない「おすすめ」の破棄	✅			
Lightning Voice				
ユーティリティバーから Voice へのアクセス			✅	
キーボードまたは仮想ダイアルパッドを使用した電話発信	✅			
活動履歴への簡単なアクセス	✅			
通知と通話転送による不在着信の処理	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
メール				
Salesforce からのメールの返信および転送	✅			
API による 1 日の送信メール数の組織制限の緩和		✅		
活動				
活動タイムラインの絞り込み		✅		
さまざまな色を使用したカレンダーのカスタマイズ		✅		
行動の月間表示		✅		
Cloud Scheduler の廃止			✅	
リストビュー				
インライン編集でクリック数と時間を削減 (ベータ)	✅			
複数のメンバーをキャンペーンにすばやく追加	✅			
複数のリードの所有権の一括取得	✅			
複数のレコードに対するカスタム一括アクションの実行	✅			
Kanban				
Kanban ビューで必要な項目を迅速に更新	✅			
Kanban ビューからのレコードの変更	✅			
Lightning for Gmail (ベータ)				
Google カレンダー™ から Salesforce への予定の同期 (ベータ)			✅	
Microsoft® インテグレーション				
Lightning for Outlook				
Lightning for Outlook と Shield プラットフォームの暗号化の連動		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning for Outlook のカスタマイズ (ベータ)			✅	
Lightning Sync				
Professional Edition: 同期		✅		
Lightning Sync と Shield プラットフォームの暗号化の連動		✅		
Microsoft® Exchange から Salesforce への安全かつ簡単な接続			✅	
営業担当の行動と最も関連性のある Salesforce 取引先責任者またはリードの自動関連付け			✅	
Salesforce for Outlook				
Salesforce for Outlook ユーザに必須の重要なアップグレード			✅	
Salesforce サイドパネルの定期的な行動	✅			
Microsoft® Outlook® 2007 および Microsoft Exchange 2007 のサポートの終了			✅	
Microsoft® とのインテグレーションでのその他の変更				
サービスの中断を避けるためのセキュリティプロトコルの検証			✅	
Connect for Office Microsoft® Excel アドオン: 2017 年 3 月でサポート終了			✅	
Connect for Office Microsoft® Word アドオンおよび標準差し込み印刷: 2017 年 3 月でサポート終了			✅	
Pardot				
新しい Pardot スタイル: 改善された UI デザイン	✅			
簡略化されたメール保存: 改善されたメールの保存および編集操作	✅			
拡張ソーシャル投稿: ソーシャルメディアツールが改善	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Engagement Studio: パーソナライズされた購入ジャーニーの作成			✅	
スコアリングカテゴリ: プロスペクトのエンゲージメントを複数のレベルで追跡	✅			
Sales Cloud のその他の変更				
セールスコンソールの変更	✅			
私の取引先と取引先責任者をインポートウィザードは廃止	✅			
取引先の自動入力で表示される会社数の増加	✅			
カスタムレポートタイプでの行の名前項目の表示	✅			
商談: Lightning Experience で編集可能な [確度] 項目	✅			

Data.com

Lightning Experience で使用できる主要な Data.com 機能が増えました。クリーンアップルールの設定と、Data.com Clean のお客様向けに、取引先データに貴重な会社情報を追加するルールが追加されました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience のクリーンアップルールの設定			✅	
取引先レコードへの主要情報の自動追加			✅	

分析

レポートとダッシュボード、および Wave Analytics のインサイトで意思決定を促進します。Lightning Experience のレポートとダッシュボードではアクセスの改善、検索条件オプションの追加、グラフの機能強化が行われました。Wave Analytics では、Wave のトレンド、事前作成済みアプリケーション、Wave ダッシュボードデザイナ、データマネージャツール、通知、Android アプリケーションがさらに進化しました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポートとダッシュボード				
キーボードショートカットを使用したダッシュボードの設計とスクリーンリーダーの使用	✅			
Lightning Experience でのロール階層によるレポートの絞り込み	✅			
Lightning Experience での相対日付によるレポートの絞り込み	✅			
Lightning Experience のダッシュボードからレポートにドリルインするときの条件の保持	✅			
Lightning Experience のグラフの改善: 表形式グラフ、ゲージグラフ、棒グラフ、散布図、折れ線グラフ、複合グラフ	✅			
レポートに外部データを含めて視野を拡大			✅	
Wave Analytics				
トレンド分析 Wave ダッシュボードで経時的にビジネスを追跡			✅	
事前作成済み Wave アプリケーションによる分析の加速化				
更新された Sales Wave を使用して Sales Cloud Analytics を合理化	✅			
Service Wave で適切なデータを適切な時期に入手し、サービスの意思決定をスマートに	✅			
Event Monitoring Wave を使用してスマートなインサイトを組織の活動に迅速に導入	✅			
事前作成済み Wave アプリケーションの新しいバージョンへのアップグレード時における精度向上			✅	
Wave: 探索、視覚化、容易なデザイン				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
比較テーブルのアップグレード	✅			
グラフの追加で視覚化が充実	✅			
Wave ダッシュボードデザイナ (正式リリース): ダッシュボードの作成がさらに簡単に	✅			
バインドに追加される変更について		✅		
ダッシュボードユーザサポートとドキュメントの強化でサポートが充実	✅			
Wave: すべてのビジネスプロセスで Wave Analytics が使用可能に				
スマート通知を設定して、最も重要なビジネス総計値を追跡	✅			
Lightning ページへの Wave の埋め込み			✅	
モバイルページへの Wave の埋め込み		✅		
Wave ダッシュボードへのアノテーション付加とコラボレーションがさらに簡単に	✅			
Wave ダッシュボードデザイナでダッシュボードウィジェットデータをダウンロード			✅	
セッションセキュリティ HttpOnly 属性設定の選択	✅			
Wave: Wave モバイルアプリケーションを持って外出				
最新の Wave for iOS を体験	✅			
期待の Wave が登場: Wave Analytics for Android	✅			
Wave: データの統合				
新しいデータマネージャでの準備、複製、監視			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
複製を使用したデータフローの最適化 (正式リリース)			✓	
データの準備を使用したデータセットの作成 (ベータ)				✓
sliceDataset 変換を使用したデータセットからの項目の削除		✓		
Wave: SAQL および REST API を機能強化したプラットホームでの開発				
新しい文字列および集計 SAQL 機能の活用		✓		
Wave REST API の更新の確認		✓		

サービス

CTI (コンピュータテレフォニーインテグレーション) を使用している場合は注意が必要です。Spring '17 でデスクトップ CTI が廃止されるため、次のリリースまでに Open CTI に移行する必要があります (朗報としては、Open CTI が Lightning Experience で機能するようになりました)。多数の新しい Field Service Lightning の機能を使用して、フィールドサービス業務を専門的に管理できます。また、活気的な Twitter と Facebook のソーシャルカスタマーサービスに Instagram が追加されました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
CTI				
Lightning Experience での Open CTI を使用した通話の発信			✓	
デスクトップ CTI がまもなく廃止	✓			
フィールドサービス				
サービス人員による従業員の管理			✓	
サービス予約による作業のスケジュール			✓	
フィールドサービスフットプリントをサービステリトリーを使用して定義			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
スキルによる従業員の専門知識の追跡			✅	
業務時間による日次スケジュールの管理			✅	
Field Service Lightning のレポート			✅	
Field Service Lightning での地理コードデータの取得	✅			
作業指示の機能強化				
作業種別で作業指示を標準化				
Professional Edition での作業指示のサポート	✅			
作業指示への所要時間と必須スキルの追加			✅	
作業指示に推奨記事を表示	✅			
作業指示の有効化の変更	✅			
作業指示に対する条件ベースの共有ルールの作成 (ベータ)				✅
作業指示の更新に関する通知の受信			✅	
作業指示階層に対する制限の更新	✅			
作業指示の新しい状況オプション			✅	
合理化された作業指示の価格設定			✅	
ソーシャルカスタマーサービス				
Instagram の正式リリース			✅	
ソーシャル取引先の同期の高速化			✅	
Lightning Experience で利用可能なソーシャル投稿と人格ホームページ			✅	
Lightning Experience で利用可能なケースフィードソーシャルアクション			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
「お気に入り」から「いいね!」への変更			✅	
元の投稿をインポートせずに Facebook で返信			✅	
LinkedIn パイロットの終了			✅	
ナレッジ				
REST API によるデータカテゴリと記事へのアクセス			✅	
Professional Edition でのナレッジの使用を開始			✅	
Salesforce コンソール				
コンソールでのリストビューのフロート表示の制御	✅			
オムニチャネル				
Omni-Channel Supervisor: スーパーバイザにリアルタイムのインサイトを提供 (ベータ)				
エージェント、作業、およびキューの詳細へのドリルダウン	✅			
エージェントの作業スケジュールの表示	✅			
並び替えと絞り込みで必要な情報を確認	✅			
Live Agent				
Live Agent チャットのオムニチャネルルーティング: オムニチャネルキューを使用したチャットとその他の作業の転送 (ベータ)				
その他のオムニチャネル作業と一緒にチャットの優先順位付け	✅			
オムニチャネルでのエージェント通知の統合			✅	
Omni-Channel Supervisor を使用してオムニチャネルで転送されたチャットのリアルタイムデータをスーパーバイザに提供 (ベータ)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
オムニチャネル設定に移動した多くのチャット設定		✅		
Live Agent チャットのオムニチャネルルーティングの制限		✅		
Live Chat トランスクリプト: トランスクリプトのメジャーアップグレード				
Live Chat トランスクリプトの新しいページレイアウト			✅	
ペーパークリップが不要に サイドバーのルックアップコンポーネントを使用したチャットトランスクリプトへのレコードの添付			✅	
オムニチャネルで転送されるチャットのより多くのデータへのアクセス			✅	
チャットタイムアウトのカスタマイズと応答のない顧客についてのエージェントへのアラート通知			✅	
ケースフィード				
クイックアクションまたはマクロを使用したケース所有者の変更			✅	
ケースページにすべての取引先責任者項目を表示			✅	
ケースフィード: Lightning Experience メールへのアップグレード				
Lightning Experience と Salesforce1 でのデフォルトメールテンプレートを使用した一貫性の確保			✅	
Lightning Experience でケースメールの折りたたみ可能な [CC] 項目と [BCC] 項目を使用した画面の整理	✅			
エージェントがケースから送信するメールの送信元アドレスの標準化			✅	
Lightning Experience でケースからメールの添付ファイルを送信	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience のメールフィード項目でメールの添付ファイルを表示	✓			
Chatter アンサー: 顧客への回答をすばやく				
Chatter アンサーは Winter '18 で廃止	✓			
エンタイトルメント管理				
エンタイトルメントプロセスの更新ルールの更新	✓			
サービス契約階層の制限の更新	✓			
納入商品				
納入商品階層の制限の更新	✓			
Snap-Ins: Service Cloud コンポーネントの機能の Web サイトへの組み込み				
スナップインチャットを使用した Webサイトからのお客様へのサポート (ベータ)			✓	
Service Cloud Lightning Snap-ins SDK: iOS 版の正式リリース		✓		

コミュニティ

コミュニティの操作性がアップグレードされ、従来よりも堅牢、柔軟、拡張可能になりました。コミュニティのフィールドサービスでは、顧客がコミュニティ内から簡単に予定をスケジュールできます。Lightning Bolt を使用すると、コンサルティングパートナーと ISV はすばやくカスタムテンプレートおよびページをエクスポートし、顧客に配信できます。コメントのモデレーションでは、コミュニティマネージャがフィード全体を制御できます。その他多くの時間を節約できる機能があります。詳しく見てみましょう。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
アクセス権チェック違反のコミュニティへの適用		✓		
コミュニティの LockerService の重要な更新は延期			✓	
コミュニティビルダー				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Bolt ソリューション: 作成は一度だけ、配布と利用は何度でも		✅		
カスタムテーマレイアウトを使用した迅速なブランド変更		✅		
コミュニティビルダーの合理化によりワークスペースの領域が拡大		✅		
コミュニティビルダーで AppExchange から Lightning コンポーネントを追加		✅		
Google Analytics を使用した追跡、学習、および調整		✅		
コミュニティ内の各ページの公開アクセスの制御		✅		
SEO の機能強化による検索エンジンランキングの改善		✅		
ページレイアウトがコンテンツレイアウトに名前変更		✅		
グローバル Lightning コンポーネント、インターフェース、およびイベントの開発とカスタマイズ		✅		
コミュニティテンプレート				
Napili がカスタマーサービス (Napili) に名前変更		✅		
刷新されたウィザードによるコミュニティの作成		✅		
カスタマーサービス (Napili) テンプレートでサポートされるオブジェクトの追加		✅		
コミュニティでの項目レベルヘルプの表示		✅		
テンプレート主導のコミュニティで外部データソースからコンテンツを公開			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コミュニティページへのレポートとダッシュボードの追加		✅		
ケース、リード、その他のレコードから直接リッチテキストメールを送信	✅			
セールスパスを使用したパートナーによる会社のセールスプロセス適用の支援		✅		
トピック: メール通知の取得、重要なトピックの検索など				
トピックメール通知を送信して、MVP に情報提供	✅			
注目するトピックの検索が簡単		✅		
ブレッドクラムがあれば迷わない、ヘンゼルとグレーテルのように		✅		
すべての翻訳言語にトピックをすばやく追加		✅		
トピックのさらなる改善		✅		
フィールドサービスデータを追加してコミュニティを拡大		✅		
関連記事の参照カウントの表示	✅			
関連質問のインタラクションカウントの表示	✅			
強化されたリッチコンテンツエディタでインライン編集と動画をさらに簡単に		✅		
リストビューへの行レベルのアクションの追加	✅			
一目で確認できるリスト			✅	
新しいリストビューレイアウトの誕生	✅			
Koa、Kokua、およびカスタマーサービス (Napili) でのテンプレートの変更のサポートが終了		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コミュニティテンプレートの Chatter およびファイル				
コミュニティで質問ができる Chatter フィードの増加	✅			
コメントと回答へのリッチコンテンツとコードスニペットの導入	✅			
インライン画像でコメントと回答を強調	✅			
フィード項目をミュートする方法の追加	✅			
コミュニティのモバイルビューでのパブリッシャーの最適化	✅			
よくある質問によるトピックフィードの並び替え	✅			
自分のコメントまたは回答にいいね! と言ったユーザの確認	✅			
フィードでの動画の直接再生	✅			
ケース参照リンクの新しい場所	✅			
ファイルリストコンポーネントがモバイルで使用可能に	✅			
[ファイルリスト]コンポーネントへのコンテンツライブラリの追加	✅			
コミュニティ管理				
モデレーションのデザインの刷新		✅		
外部ユーザによるコミュニティコンテンツのモデレートを許可			✅	
事前モデレーション: コミュニティメンバーからの投稿とコメントの確認 (正式リリース)		✅		
コメントの事前モデレーション — スパムをここで阻止			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce タブ + Visualforce コミュニティでの事前モデレーションの使用		✅		
レコードフィードのモデレーション		✅		
スパムとマークしてメモを残す		✅		
フラグ付きコメントインサイトレポート		✅		
投稿またはコメントが確認待機中の場合に通知を受信		✅		
独自のコミュニティダッシュボードの作成と任意のラベルの使用		✅		
おすすめをクリックした人の判別			✅	
大きく丸くなったユーザプロファイル写真	✅			
カスタムコミュニティロールと会社名によるメンバーの識別		✅		
グループメンバーをスマートに追加	✅			
[グループエンゲージメント]タブのカスタマイズ	✅			
グループの作成ウィザード	✅			
お知らせに関するメール (正式リリース)	✅			
カスタマイズ可能なグループ (ベータ)				✅
カスタムグループレポートグラフ		✅		
単独の[メンバーの追加]コンポーネントが使用可能に	✅			
検索ダッシュボードによるコミュニティの検索品質の向上		✅		
コミュニティのその他の変更				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
デフォルトのグループアイコンを改善	✅			
Salesforce1 の Visualforce ページ間のリンク		✅		
デフォルトページのバリエーションが不要に	✅			
ナビゲーションメニューへの未公開のページの追加不可	✅			
ページ表示設定の自動公開の廃止	✅			

Chatter

フィードのグループフィード自動更新リッチコンテンツで、インライン画像とコードマークアップがサポートされ、コンテキスト内で動画が再生されるようになりました。また、カスタムグループレポートがサポートされ、操作性が向上したことにより、 Chatter がさらに使いやすくなりました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
グループ				
グループの魔法使い(ウィザード)の表示	✅			
スマートな方法でグループメンバーを追加	✅			
DIY カスタムレポートグラフによるカスタマイズ		✅		
グループフィードのライブ表示 (リリース遅延)	✅			
お知らせに関するメールが正式リリースに	✅			
カスタマイズ可能なグループを使用したグループの自在な作成 (ベータ)				✅
グループアイコンのデザインの変更	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
		フィード		
「フィード」から「Chatter」への表示ラベル変更	✅			
質問パブリッシャーの使用可能な場所の増加	✅			
コメントのライブ表示 (リリース遅延)	✅			
詳細ビューからのフィード項目のミュート	✅			
フィードでの動画の直接再生	✅			
コメントにいいね! と言うユーザの確認	✅			
フィード投稿とコメントの編集場所の追加、参照カウントの取得			✅	
リッチコンテンツとインライン画像の使用可能な場所の増加	✅			
投稿とコメントのデザインの更新	✅			
名前にカーソルを置いてミニプロファイルを表示	✅			
Chatter でニュースを共有	✅			

Files

Lightning Experience では最大 10 個のファイルを Chatter フィード投稿に添付できます。Files Connect の設定が簡単になり、コンテンツの関連性が向上したことで、作業が容易になりました。カスタム Lightning アプリケーションをパッケージ化するときは、Salesforce Files をアイコンとして使用します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience での 10 個のファイルを添付したフィード投稿のアップロード	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience での投稿編集時のファイルの追加および削除			✅	
カスタム Lightning アプリケーションでの Salesforce Files のアイコンとしての使用			✅	
Azure を使用した Files Connect for Office 365 の設定の簡素化		✅		
Files Connect から除外された SharePoint システムフォルダ	✅			

モバイル

モバイルを使用すると、どこにいても接続した状態なので、どこからでも仕事を行うことができます。そのため、オフィスの外で生産性を高める新しい方法が追加されました。同僚と情報を共有するためのインテリジェンス、アクション、オプションが追加され、Salesforce1 モバイルアプリケーションが強化されています。Salesforce Authenticator により、自動化された活動に関する通知と、接続済みのアカウントをバックアップ (復元) する新しいオプションで簡単にデータの安全とセキュリティを維持できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce1				
このリリースでの Salesforce1 の機能強化				
Salesforce1 の要件の更新	✅			
BlackBerry デバイスでの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのサポート終了	✅			
Spring '17 で Salesforce1 に iOS 10 が必要になることに関する事前のお知らせ	✅			
Salesforce1 からのテキストメッセージの送信	✅			
Salesforce1 でのレコードタイプの変更	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce1 と Lightning Experience の関連リストのリスト項目アクションの一致	✅			
Salesforce1 のルックアップ検索でのインスタント結果の関連性向上	✅			
取引先インサイトは、「ニュース」に名称変更され、Salesforce1 のより多くの場所で使用可能に	✅			
Salesforce1 の Chatter でのニュース項目の共有	✅			
Salesforce1 でより簡単に提供できるようになったニュース項目のフィードバック	✅			
Salesforce1 の取引先での会社ロゴの表示 (正式リリース)	✅			
Salesforce1 での商談の [確度] 項目の編集	✅			
Salesforce1 での商談への商品の追加	✅			
Salesforce1 でスケジュールを設定した商品を追加			✅	
Salesforce1 での商談への見積の追加			✅	
Salesforce1 での商談への影響のある複数のキャンペーンの追加 (正式リリース)			✅	
Salesforce1 で契約に機能強化	✅			
ダウンロード可能アプリケーションでの ToDo リストの概要と詳細の表示 (タブレットのみ)	✅			
ToDo リストのアクションバーからリスト項目アクションへの置き換え (タブレットのみ)	✅			
Salesforce1 でのケースの取引先責任者項目の表示			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce1 のケースメールの機能強化			✅	
Salesforce1 でフィールドサービスの詳細情報にアクセス			✅	
Salesforce1 でのソーシャル人格と投稿の把握	✅			
段階的廃止の一環として Salesforce1 の従来のグラフを拡張グラフに置き換え (Summer '17 で全面廃止)	✅			
Salesforce1 での散布図(および改善された表形式グラフとゲージグラフ)の表示	✅			
Salesforce1 でのさらに多くのダッシュボード総計値の同時読み込み	✅			
Chatter への拡張グラフのスナップショットの投稿			✅	
Salesforce1 ナビゲーションメニューのフィード項目が Chatter に名称変更	✅			
Salesforce1 の Chatter 項目の不要な情報の削減	✅			
Salesforce1 でのグループメンバーシップの拡大	✅			
Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを使用したグループ写真の追加	✅			
Salesforce1 でのプロファイルおよびグループバナーの表示	✅			
Salesforce1 のアプリケーションホーム Lightning ページからのフローの実行 (ベータ)			✅	
Salesforce1 の項目レベルヘルプを表示			✅	
Salesforce Authenticator				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce Authenticator で自動化された活動に関する通知を受信	✅			
Salesforce Authenticator で接続済みのアカウントのバックアップ作成と復元	✅			
Salesforce Authenticator でコードのコピーとタイマーを簡単に参照	✅			
Salesforce Authenticator と Lightning Login でパスワードが不要に			✅	
Salesforce Authenticator でのアカウントの並び替え	✅			

Financial Services Cloud

稲妻 (Lightning) に打たれるのは一度だけと言ったのはだれですか? Financial Services Cloud が、クライアントと世帯をカスタマイズできる新しい Lightning ページを搭載して再登場です。一新された Advisor Wave が、Financial Services Cloud に埋め込まれた Wave ダッシュボードで大きな波を起こします。サーフボードをお忘れなく。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
[クライアント] および [世帯] レコードページのカスタマイズ			✅	
カスタム個人および世帯レコードタイプの作成				
Financial Services Cloud の Wave				

Health Cloud

Salesforce は、ケアコーディネータがより多くの仕事ができ、患者への関わりが増えるように、開発を進めています。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ケアプランテンプレートで患者の受け入れを簡略化			✅	
患者の取引先レコードへのアクセスがさらに簡単に		✅		
個人またはグループのカスタムレコードタイプの設定			✅	
Health Cloud の新しいカスタムオブジェクト		✅		

カスタマイズ

このリリースは、ポイント & クリック操作を行うシステム管理者にとって多くの利点があります。Lightning Experience の [設定] でグローバル検索を使用して情報を探すことができます。Lightning ページや選択リスト値を詳細に制御できます。会社で外部オブジェクトを使用している場合、保存場所に関係なくすべてのデータについてレポートを実行できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience の [設定]				
グローバル検索で Lightning Experience 設定を検索		✅		
アプリケーションマネージャを使用したアプリケーションの一元管理		✅		
Lightning Experience の [設定] でのグローバル選択リストの管理			✅	
Lightning アプリケーションビルダー				
カスタムレコードページを Lightning アプリケーションに割り当てるか、すべてのデフォルトとして設定		✅		
Lightning アプリケーションビルダーで新しくインストールされたコンポーネントをコンポーネントリストの更新で表示		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightningアプリケーションビルダーの新しいアプリケーションページテンプレートを使用した新しいスタイルのアプリケーションページの作成		✅		
フィードコンポーネントの名称変更と 2 つの新規 Chatter コンポーネントの導入		✅		
フローコンポーネントによる Lightning ページの強化 (ベータ)		✅		
Lightningアプリケーションビルダーで管理パッケージから参照のみの Lightning ページを表示および有効化		✅		
レポートグラフコンポーネントの動的サイズ変更		✅		
Lightningアプリケーションビルダーで AppExchangeからコンポーネントを追加		✅		
レコードの強調表示パネルの合理化による表示データの増加		✅		
Salesforce Connect				
外部オブジェクトレポート — システムの境界を越えたデータのシームレスな表示			✅	
カスタマーサービス (Napili) テンプレートで構築されたコミュニティでの外部オブジェクトデータの公開			✅	
外部オブジェクトのフィードベースのページレイアウトの作成			✅	
外部オブジェクトの検索結果の増加	✅			
プロセスビルダー				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
再利用可能なプロセスの作成		✅		
1 か所でのプロセス種別の表示		✅		
プロセスビルダーからの所有者項目へのアクセス		✅		
プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (パイロット)				✅
1か所でのプロセスのバージョン履歴の表示				✅
選択リスト管理				
グローバル選択リストによる選択リストのメンテナンスの合理化 (正式リリース)			✅	
Lightning Experience でのグローバル選択リストの作成と管理			✅	
選択リストの連動関係でのグローバル値セットの使用			✅	
グローバル選択リストの値の置換			✅	
ユーザインターフェースからの共有選択リストのデータ型の変換			✅	
無制限カスタム選択リストの無効な値の管理			✅	
既存のカスタム選択リストの必須化			✅	
選択リストのユーザインターフェース表示ラベルの更新		✅		
選択リストのメタデータ API の合理化		✅		
標準選択リストの制限の引き上げ		✅		
データのインポート				
データインポートウィザードを使用したキャンペーンメンバーの追加および更新	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
最新のオペレーティングシステムのサポートが含まれるデータローダの新バージョン	✅			
文字区切りによる、インポートファイルでのデータの区切り	✅			
新しい組織での従来のデータインポートツールの廃止	✅			
共有				
オブジェクト固有の共有ロックを使用した共有ルールの更新 (正式リリース) (リリース遅延)		✅		
全般的な管理				
アクションからの Lightning コンポーネントの起動		✅		
数式で作成されるオブジェクトあたりのリレーションの拡大の増加	✅			
権限セットと権限セットライセンスの容易な関連付け		✅		
権限セットリストビューでのライセンスの種類の確認		✅		
ページレイアウトエディタの [Salesforce1 アクション] カテゴリの名称変更		✅		
Salesforce ニュースレターオプションの削除		✅		
プロファイルの [項目レベルセキュリティ] で UI 表示が改善		✅		
Cloud Flow Designer でのフィードバックの合理化		✅		
関数の改善	✅			

セキュリティと ID

さらに安全で便利になったログイン環境、2 要素認証用の U2F セキュリティキー、およびセキュリティ強化されたログイン処理を使用して、組織とユーザを保護します。Lightning Experience で、1 つのアプリケーションランチャービューから Salesforce アプリケーション、カスタムアプリケーション、接続アプリケーションにアクセスします。トランザクションセキュリティポリシーを使用して、指定されたセキュリティ状況にすばやく対応できます。独自の暗号化鍵を生成でき、さらに大量の OAuth トークンとパスワード項目を保存できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
認証と ID				
Lightning Login を使用してパスワードなしでログイン (リリース遅延)			✅	
既存の接続アプリケーションの説明の更新			✅	
アプリケーションランチャーをランディングページに設定			✅	
External Identity のアプリケーションランチャーの新しいデザイン			✅	
U2F セキュリティキーで ID を検証			✅	
Salesforce Authenticator を使用してロケーションベースの自動検証の制限			✅	
複数の認証アプリケーションの接続をユーザに許可	✅			
接続アプリケーションの認証用に ID トークンオプションを追加			✅	
接続アプリケーションのプロビジョニング時にユーザを再認証			✅	
Salesforce Shield				
プラットフォームの暗号化				
Bring Your Own Key サービスの導入 (正式リリース)			✅	
検索インデックスの暗号化 (正式リリース)			✅	
Trailhead の Shield Platform Encryption	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
一括暗号化プロセスの改善			✅	
Shield Platform Encryption が FedRAMP 承認済みに			✅	
PCI-DSS 準拠の暗号化されたファイルおよび添付ファイル			✅	
Shield Platform Encryption での Pardot Connect ツールのサポート			✅	
Shield Platform Encryption での同期のサポート			✅	
暗号化項目で Shared Activities 参照を使用可能			✅	
カスタム数式項目、フロー、プロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (パイロット)				
トランザクションセキュリティ				
すべてのポリシーで向上したリソースの利用状況			✅	
効率性が向上したログインポリシー			✅	
「トランザクションセキュリティ」ログイベントを使用して利用状況を監視			✅	
完成度を増した Apex の例			✅	
その他の変更				
Salesforce サーバインスタンスへのログインに HTTPS を必須化	✅			
リモートサイトの設定には「設定・定義を参照する」権限が必要		✅		
状態チェックを使用してセキュリティリスクをすぐに修正		✅		
状態チェックでの証明書と鍵の管理設定の監査		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ユーザ権限によって制限されるセキュリティヘルスチェックへのアクセス		✅		
デフォルトの証明書は新しい組織では使用不可		✅		

リリース

変更を組織に新しい方法でリリースできるようになりました。クイックリリースの時間枠拡張の活用、選択リスト値を追加したセットの変更、Apex テストスイートのリリースを実行できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい変更セットコンポーネント		✅		
クイックリリースのスケジュール日数の増加		✅		
Apex テストスイートの他の組織へのリリース		✅		

開発

Force.com は、組織のための、または別の組織に再販するための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
デバッグ				
ブラウザの Cookie を設定し、ゲストユーザのデバッグログを有効化		✅		
開発者コンソール				
テストスイートの名前変更と編集の簡素化		✅		
AppExchange				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
AppExchange と Salesforce 組織がついに統合		✅		
カスタムメタデータ型				
メタデータリレーション項目の完全サポート (正式リリース)		✅		
リストビューの結果にリンクとして表示される EntityDefinition へのメタデータリレーション項目		✅		
Custom Metadata Loader の機能強化		✅		
参照オブジェクトを削除するときのカスタムメタデータレコードの簡単な管理		✅		
メタデータリレーション項目のビューの検索条件の変更		✅		
完全削除の前に — 削除したメタデータリレーション項目の復元		✅		
SOQL でカスタムメタデータ型をクエリする場合の制限事項		✅		
Apex コード				
Apex スタブ API を使用してモックフレームワークを作成(パイロット)				✅
診断メソッドを使用してプラットフォームキャッシュを監視		✅		
指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトの差し込み項目での特殊文字のエスケープ		✅		
Apex テスト実行に関する詳細情報の表示		✅		
新規および変更された Apex クラス、例外、およびインターフェース				
新規 Apex クラス		✅		
変更された Apex クラス		✅		
新規 Apex 例外		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい Apex インターフェース		✅		
ConnectApi (Chatter in Apex)				
新規および変更された Chatter in Apex クラス		✅		
新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス		✅		
新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス		✅		
新規および変更された Chatter in Apex Enum		✅		
Lightning コンポーネント				
Lightning 基本コンポーネントの概要				
Lightning 基本コンポーネントの考慮事項		✅		
Lightning Data Service の概要 (開発者プレビュー)		✅		
カスタムアクション用に Lightning コンポーネントを有効化		✅		
アクセス権チェック違反の適用			✅	
LockerService の重要な更新は延期			✅	
すべての組織で LockerService の重要な更新を切り替え可能			✅	
バブルアップしていく前のキャプチャイベント		✅		
コンテナコンポーネントでのバブルイベントの処理		✅		
動的に作成されたコンポーネントのイベントの適切な伝達		✅		
Lightning アプリケーションでの Lightning Design System の使用		✅		
Lightning Out および Lightning Components for Visualforce の		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Design System を使用した一貫性のあるデザインの作成				
カスタム Lightning コンポーネントを特定のオブジェクトに制限		✅		
Lightning コンポーネントから別のコンポーネントへの移動 (ベータ)		✅		
Salesforce Lightning インスペクタを使用した Lightning コンポーネントの高速で簡単なデバッグ		✅		
Lightning コンポーネント: その他の変更				
$Label の参照の改善		✅		
Lightning コンポーネントエラーメッセージの詳細な情報		✅		
$A.util.format() メソッドへの参照の削除		✅		
新規追加または変更された Lightning コンポーネント		✅		
新しい Lightning イベント		✅		
Visualforce				
ページヘッダーのない Visualforce ページのクリックジャック保護の改善			✅	
ページヘッダーのない Visualforce ページの従来のブラウザ用クリックジャック保護 (重要な更新)			✅	
PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコールアウトとして動作 (重要な更新)			✅	
Lightning Design System				
新しい Lightning Design System コンポーネントクラス		✅		
クラスおよびバリエーションの変更および追加		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい Lightning Design System ユーティリティクラス		✅		
廃止された Lightning Design System コンポーネントクラス		✅		
Lightning Out、Lightning アプリケーション、および Visualforce 用の Lightning コンポーネント への Lightning Design System の拡張		✅		
API				
API コール数を増やして API 制限の計算時の負荷を軽減		✅		
新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト				
新しいオブジェクト		✅		
変更されたオブジェクト		✅		
SOQL				
外部キーの名前へのアクセス		✅		
SOSL				
WITH SNIPPET へのサポートの拡張		✅		
REST API				
REST API を使用したデータカテゴリと記事へのアクセス		✅		
Composite リソースを使用した複数の要求の一度での実行(パイロット)				✅
新しいリソース: Flows と Flow Interviews (パイロット)				✅
変更されたリソース: Parameterized Search		✅		
変更されたリソース: Search Suggested Records		✅		
変更されたリソース: SObject Suggested Articles		✅		
SOAP API				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新規、変更、および廃止されたコール		✅		
Chatter REST API				
新規および変更された Chatter REST API リソース		✅		
新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ		✅		
新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ		✅		
レポートおよびダッシュボード REST API				
新しいリソース: Analytics Notifications、 Analytics Notifications List、 Analytics Notifications Limits		✅		
変更されたリソース: reportMetadata および Dashboard Results		✅		
Bulk API				
Bulk API で処理できるレコード数が 2 倍に増加		✅		
Messaging				
プラットフォームイベントを使用してカスタマイズ可能なイベントの配信 (ベータ)				✅
Tooling API				
Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト		✅		
Tooling API におけるコールおよびリソースの変更		✅		
アクション API				
有効なプロセスの呼び出し		✅		
メタデータ API		✅		
Open CTI API		✅		
ISVforce: API を使用したパッケージのアップロードおよびアップグレードの自動化				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
メール通知による登録者パッケージエラーの追跡				✅
API による管理パッケージの転送アップグレードの自動化		✅		
Tooling API を使用した管理パッケージおよび未管理パッケージのアップロード		✅		
別名でログインによる登録者組織での難読化コードの表示		✅		

サポートされるブラウザ

Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning Experience は、Mac OS X の Apple® Safari® バージョン 8.x および 9.x、Windows® 10 の Microsoft® Edge でサポートされています。また、Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。Microsoft® Internet Explorer® バージョン 11 は Summer '16 以降は廃止されます。Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9 ～ 10 を使用している場合、Salesforce Classic にリダイレクトされます。いくつか制限事項があります。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10、11、Mac OS X の Apple® Safari® バージョン 8.x、Windows® 10 の Microsoft® Edge でサポートされています。また、Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。いくつか制限事項があります。

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning Experience は、Mac OS X の Apple® Safari® バージョン 8.x および 9.x、Windows® 10 の Microsoft® Edge でサポートされています。また、Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。Microsoft® Internet Explorer® バージョン 11 は Summer '16 以降は廃止されます。Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9 ～ 10 を使用している場合、Salesforce Classic にリダイレクトされます。いくつか制限事項があります。

メモ: モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce1 アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce1 でサポートされるモバイルブラウザについては、「Salesforce1 モバイルアプリケーションの要件」を参照してください。

エディション

Lightning Experience を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Microsoft Edge

Lightning Experience では、Windows 10 の Microsoft Edge がサポートされています。次の制限があります。

- Microsoft Edge の HTML ソリューションエディタは、Salesforce ナレッジではサポートされていません。
- Microsoft Edge は、開発者コンソールではサポートされていません。
- Microsoft Edge は、CTI Toolkit バージョン 4.0 以降を使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。

Microsoft Internet Explorer バージョン 11

重要: Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、Summer '16 以降サポートされなくなります。

- 既存の組織のユーザは、2017 年 12 月 16 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- Summer '16 以降に作成された新規組織のユーザは、IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスすることはできません。代わりに、IE11 ユーザは自動的に Salesforce Classic にリダイレクトされます。

この変更についての詳細は、「Retirement of Support for Accessing Lightning Experience and Salesforce1 Using Internet Explorer 11」を参照してください。

Internet Explorer を使用する場合は、Salesforce でサポートされている最新バージョンを使用することをお勧めします。すべての Microsoft ソフトウェア更新を適用してください。次の制限があります。

- Salesforce フルサイトは、標準キーボードおよびマウス入力が可能な Windows 8 および 8.1 搭載タッチ対応ラップトップの Internet Explorer 11 でのみサポートされます。タッチが主要な操作手段であるモバイルデバイスやタブレットではサポートされていません。代わりに Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを使用してください。
- Internet Explorer 11 の HTML ソリューションエディタは、Salesforce ナレッジではサポートされていません。
- Internet Explorer の互換表示機能はサポートされていません。
- `X-UA-Compatibility` ヘッダーなどを使用したブラウザの互換性解析モードの変更はサポートされていません。
- Internet Explorer 11 は、開発者コンソールではサポートされていません。

- Internet Explorer 11 は、CTI Toolkit バージョン 4.0 以降を使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。
- フィードコメントへのファイルのドラッグアンドドロップは Internet Explorer ではサポートされていません。

設定の推奨事項については、「Internet Explorer の設定」を参照してください。

Mozilla® Firefox® の最新の安定バージョン

Salesforce は Firefox の最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。設定の推奨事項については、「Firefox の設定」を参照してください。

Google Chrome™ の最新の安定バージョン

Chrome では自動的に更新が適用されます。Salesforce は、最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。Chrome の設定に関する推奨事項はありません。

メモ: Google Chromium™ の最新の安定バージョンがサポートされています。

Mac OS X の Apple® Safari® バージョン 8.x および 9.x

Safari の設定に関する推奨事項はありません。

Safari は、以下ではサポートされていません。

- バージョン 4.0 より前の CTI Toolkit を使用して作成された Salesforce CRM Call Center
- Salesforce Wave Analytics

Wave Analytics でサポートされるブラウザ

ブラウザサポートは、Microsoft Internet Explorer バージョン 11、および Mozilla Firefox と Google Chrome の最新の安定バージョンで使用できます。

すべてのブラウザに関する推奨事項と要件

- すべてのブラウザに対して、JavaScript、Cookie、TLS 1.2 を有効にします。TLS 1.2 が使用できない場合、TLS 1.1 を有効にします。TLS 1.1 または TLS 1.2 をサポートしていないブラウザの場合、TLS 1.0 が無効化されると、Salesforce にアクセスできなくなります。無効化は、Sandbox 組織については 2016 年 6 月、本番組織については 2017 年前半にスケジュールされていますが、確定ではありません。
- すべての Salesforce 機能をサポートするために必要な最小画面解像度は 1024×768 です。画面解像度がそれより低い場合、レポートビルダーやページレイアウトエディタなどの Salesforce 機能が正しく表示されない可能性があります。
- Apple Safari または Google Chrome を使用している Mac OS ユーザは、システム設定の［スクロールバーを表示］が [常に] に設定されていることを確認してください。
- 一部のサードパーティ Web ブラウザプラグインと拡張は、Chatter の機能に干渉する可能性があります。Chatter が正常に機能しなかったり、整合性のない動作をする場合は、Web ブラウザのプラグインと拡張を無効にしてから、もう一度試してみてください。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

エディション

Salesforce Classic を使用可能なエディション: すべてのエディション

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10、11、Mac OS X の Apple® Safari® バージョン 8.x、Windows® 10 の Microsoft® Edge でサポートされています。また、Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。いくつか制限事項があります。

メモ: モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce1 アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce1 でサポートされるモバイルブラウザについては、「Salesforce1 モバイルアプリケーションの要件」を参照してください。

Microsoft Edge

Salesforce Classic では、Windows 10 の Microsoft Edge がサポートされています。次の制限があります。

- Microsoft Edge の HTML ソリューションエディタは、Salesforce ナレッジではサポートされていません。
- Microsoft Edge は、開発者コンソールではサポートされていません。
- Microsoft Edge は、CTI Toolkit バージョン 4.0 以降を使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。

Microsoft Internet Explorer バージョン 9、10、11

Internet Explorer を使用する場合は、Salesforce でサポートされている最新バージョンを使用することをお勧めします。すべての Microsoft ソフトウェア更新を適用してください。次の制限があります。

- Salesforce フルサイトは、標準キーボードおよびマウス入力が可能な Windows 8 および 8.1 搭載タッチ対応ラップトップの Internet Explorer 9、10、11 でのみサポートされます。タッチが主要な操作手段であるモバイルデバイスやタブレットではサポートされていません。代わりに Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを使用してください。
- Internet Explorer 11 の HTML ソリューションエディタは、Salesforce ナレッジではサポートされていません。
- Internet Explorer での互換モードと互換表示はいずれもサポートされていません。
- Internet Explorer 10 の Metro バージョンはサポートされません。
- Internet Explorer 11 は、開発者コンソールではサポートされていません。
- Internet Explorer 11 は、CTI Toolkit バージョン 4.0 以降を使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。
- セルフサービスのコミュニティテンプレートでは、Internet Explorer 9 以降でデスクトップユーザが、Internet Explorer 11 以降でモバイルユーザがサポートされています。
- Internet Explorer 9 は Salesforce Wave Analytics ではサポートされていません。
- Internet Explorer 9 および 10 は、Lightning アプリケーションビルダーではサポートされていません。
- Internet Explorer 9 ユーザには、ブラウザベースのスペルチェックがありません。
- フィードコメントへのファイルのドラッグアンドドロップは Internet Explorer ではサポートされていません。

設定の推奨事項については、「Internet Explorer の設定」を参照してください。

メモ: Salesforce Classic での Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7 および 8 のサポートは、Summer '15 をもって終了しています。

Mozilla Firefox の最新の安定バージョン

Salesforce は Firefox の最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。

- Mozilla Firefox は、セルフサービスのコミュニティテンプレートのデスクトップユーザに対してのみサポートされています。

設定の推奨事項については、「Firefox の設定」を参照してください。

Google Chrome の最新の安定バージョン

Chrome では自動的に更新が適用されます。Salesforce は、最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。Chrome の設定に関する推奨事項はありません。

Chrome は、以下ではサポートされていません。

- [コンソール] タブ (Salesforce コンソールはサポート対象)

Mac OS X の Apple Safari バージョン 8.x および 9.x

Safari の設定に関する推奨事項はありません。iOS の Apple Safari は、Salesforce フルサイトではサポートされていません。

Safari は、以下ではサポートされていません。

- Salesforce コンソール
- バージョン 4.0 より前の CTI Toolkit を使用して作成された Salesforce CRM Call Center
- Salesforce Wave Analytics

Wave Analytics でサポートされるブラウザ

ブラウザサポートは、Microsoft Internet Explorer バージョン 10 と 11、および Mozilla Firefox と Google Chrome の最新の安定バージョンで使用できます。

すべてのブラウザに関する推奨事項と要件

- すべてのブラウザに対して、JavaScript、Cookie、TLS 1.2 を有効にします。TLS 1.2 が使用できない場合、TLS 1.1 を有効にします。TLS 1.1 または TLS 1.2 をサポートしていないブラウザの場合、TLS 1.0 が無効化されると、Salesforce にアクセスできなくなります。無効化は、Sandbox 組織については 2016 年 6 月、本番組織については 2017 年前半にスケジュールされていますが、確定ではありません。
- すべての Salesforce 機能をサポートするために必要な最小画面解像度は 1024×768 です。画面解像度がそれより低い場合、レポートビルダーやページレイアウトエディタなどの Salesforce 機能が正しく表示されない可能性があります。
- Apple Safari または Chrome を使用している Mac OS ユーザは、システム設定の［スクロールバーを表示］が [常に] に設定されていることを確認してください。
- 一部のサードパーティ Web ブラウザプラグインと拡張は、Chatter の機能に干渉する可能性があります。Chatter が正常に機能しなかったり、整合性のない動作をする場合は、Web ブラウザのプラグインと拡張を無効にしてから、もう一度試してみてください。

Salesforce の一部の機能や、一部のデスクトップクライアント、ツールキット、およびアダプタには、独自のブラウザ要件があります。以下に例を示します。

- Internet Explorer は、次の機能を唯一サポートしているブラウザです。
  - 標準差し込み印刷
  - Windows Mobile デバイスへの Salesforce Classic Mobile のインストール
  - Connect Offline
- 高度なページレイアウトエディタで最適な操作性を得るには、Firefox を使用します。
- 8 GB の RAM を搭載したマシンの Salesforce コンソールで最適な操作性を得るには、Chrome を使用します。
- Chatter で複数のファイルをアップロードする場合には、ブラウザ要件も適用されます。

Salesforce 全体: カスタムアプリケーション、効率的なナビゲーション、項目レベルのヘルプ

Winter '17 を使用すれば、Lightning Experience をさらに気に入ってもらえるでしょう。カスタムアプリケーションを作成したり、ナビゲーションを大幅に効率化したり、項目レベルのヘルプでユーザをガイドしたりできます。

このセクションの内容:

検索: 情報の高速検索
検索は、さらにスマートに、より直観的になり続けています。最初に Lightning Experience グローバル検索ボックスが改良され、ユーザがアプリケーションのどこにいても、推奨レコードに複数のオブジェクトが含まれるようになりました。すべての検索で、[上位の結果] に最も近い結果の概要が示されます。結果ページのレイアウトは新しくなりましたが、流動的な機能は同じです。さらに、Salesforce ナレッジ記事の検索結果にスニペットが含まれ、検索インデックスを暗号化できるようになりました。また、より多くのオブジェクトが検索可能になり、スペル修正はカスタムオブジェクトまで拡張されました。

Lightning Experience でのカスタムアプリケーションの作成とより効率的なナビゲーション
Lightning Experience のナビゲーションが刷新されて、ユーザの効率性が向上し、ブランド設定およびカスタマイズできるアプリケーションを切り替えることができるようになりました。Salesforce Classic の使用経験がある方は、この更新されたナビゲーションモデルを親しみのあるナビゲーションモデルの改善版のように感じることでしょう。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

リニューアル: アプリケーションランチャーの新デザイン
アプリケーションランチャーを使用すると、ユーザの業務に必要なすべての情報に、少ないクリックで簡単にアクセスできます。アプリケーションランチャーでは、1 つの場所で Salesforce やその他のサービスプロバイダからアプリケーションにアクセスできます。また、承認されたユーザはワンクリックで直接 AppExchange に移動して、最新のアプリケーションを確認できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Lightning Experience で項目レベルヘルプを表示
Salesforce Classic ユーザはカスタム項目用に作成された項目レベルヘルプを常に活用してきました。これからは、Lightning Experience ユーザにもお使いいただけます。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Lightning Experience で複数レコードをすばやく作成

Lightning Experience でレコードを作成、編集、またはコピーした後、[保存 & 新規] ボタンを使用して別のレコードを作成できます。[保存&新規]ボタンを使用して、ユーザはアプリケーション内の場所を離れることなく、繰り返しレコードを作成できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Lightning Experience のレコード詳細タブが状態を保持

Lightning Experience のレコード詳細でセクションを展開または折りたたむと、Salesforce の他の領域に移動しても、セクションはその状態を保持します。この変更により、ユーザはレコードをより高速にスクロールでき、興味対象の情報のみが表示されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

レコードの、より明確で実効性のあるポップアップメッセージ

ユーザが Lightning Experience および Salesforce1 の関連リストからレコードを正常に作成、編集、削除、またはコピーした後に表示される確認メッセージが変更になりました。メッセージにはレコード名が表示され、より詳細なコンテキストが提供されます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Lightning Experience でのレコードエラーに対する迅速かつ簡単なトラブルシューティング

ユーザがレコードをインラインで編集したときにエラーが発生すると、エラー項目が下部にポップアップで表示され、簡単に確認できます。ポップアップの項目にはリンクが設定されているため、ユーザはその項目にすばやく移動して修正できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

レコード作成時にさらに詳細な情報が表示されるようになったダイアログタイトル

ユーザが Lightning Experience でレコードを作成するときに、[作成] ダイアログのタイトルにレコードタイプが表示されます (存在する場合)。たとえば、取引先サイズを表す 2 つのレコードタイプ [大] と [小] が取引先オブジェクトに割り当てられているとします。ユーザが [大] レコードタイプの取引先を作成する場合、[作成] ダイアログのタイトルに [大] と表示されて、より詳細なコンテキストが提供されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

バージョン履歴の削減による Sandbox サイズの制御

本番組織から取り込むバージョン履歴の量を最小限に抑えると、Sandbox のコピー時間を短縮できます。Full Sandbox を作成または更新するとき、[コンテンツバージョン履歴] オプションを設定できます。履歴は 0 ～ 180 日分のコピーが可能で、30 日単位で増加できます。デフォルトは 0 日です。

検索: 情報の高速検索

検索は、さらにスマートに、より直観的になり続けています。最初に Lightning Experience グローバル検索ボックスが改良され、ユーザがアプリケーションのどこにいても、推奨レコードに複数のオブジェクトが含まれるようになりました。すべての検索で、[上位の結果]に最も近い結果の概要が示されます。結果ページのレイアウトは新しくなりましたが、流動的な機能は同じです。さらに、Salesforce ナレッジ記事の検索結果にスニペットが含まれ、検索インデックスを暗号化できるようになりました。また、より多くのオブジェクトが検索可能になり、スペル修正はカスタムオブジェクトまで拡張されました。

エディション

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

このセクションの内容:

カスタムオブジェクトでスペル修正

スペルミスにより最初は結果が返されない用語をユーザが検索すると、その用語の修正されたスペルに一致する結果が代わりに表示されます。スペル修正はカスタムオブジェクトでも利用できます (英語のみ)。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

検索結果に表示されるオブジェクトが増えました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できます。

個人取引先検索の強化機能で適切なレコードを検索

法人取引先項目と取引先責任者項目の両方に使用される用語が含まれる個人取引先検索は、個人取引先の検索結果が返されるようになりました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

検索インデックスの暗号化 (正式リリース)

Shield Platform Encryption を有効にすると、検索インデックスの暗号化でセキュリティの強化ができます。組織固有の AES-256 ビット暗号化キーを使用して検索インデックスファイルを暗号化します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

スニペットを使用した適切なナレッジ記事の検索

記事検索結果では、コンテキストが最も重要視されます。完全なグローバル検索を実行した後の記事の検索結果ページでは、記事タイトルの下の抜粋に、周囲のテキストのコンテキスト内で一致した検索語が強調表示されます。スニペットを使用すると、最も関連性の高い記事をいとも簡単に表示できるようになります。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できます。

グローバルインスタント結果でより見やすいビューを表示

検索では、ユーザが利用しているオブジェクトだけでなく、複数のオブジェクトから最近または一致したレコードの候補が表示されます。これらのインスタント結果により、ユーザは全文検索をしなくても、すばやくレコードにアクセスできます。候補の広範なビューを使用すれば、ユーザがアプリケーション内のどこを操作していても、探している内容が短時間で見つかります。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

検索を実行したら常に上位の結果に移動

レコードを検索する場合、絞り込む前に広い視野から開始する方がうまくいきます。このため、検索では常に、ユーザがアプリケーション内のどこを操作していても、[上位の結果] ページに移動します。ユーザはすべての使用頻度の高いオブジェクトの中から適切な一致項目の概要を取得します。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

左側での検索結果の絞り込み

新しいナビゲーションバーを導入するため、機能を一つも損なうことなく、検索結果ページを刷新しました。この全く新しいレイアウトで、検索結果のページの左側のオブジェクト名をクリックして結果を絞り込むことができます。そのオブジェクトのレコードのみがリストされる検索結果ページが表示されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

カスタムオブジェクトでスペル修正

スペルミスにより最初は結果が返されない用語をユーザが検索すると、その用語の修正されたスペルに一致する結果が代わりに表示されます。スペル修正はカスタムオブジェクトでも利用できます(英語のみ)。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 検索結果に表示される検索語のバリエーションは?

このリリースの Lightning Experience の機能

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

検索結果に表示されるオブジェクトが増えました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できます。

オブジェクト	**Lightning Experience** で新たに検索可能	**Salesforce Classic** で新たに検索可能	**Salesforce1** モバイルブラウザアプリケーションで新たに検索可能
契約	✔		
ナレッジ記事	✔		
業務時間	✔	✔	✔
人員不在		✔	
サービス予約	✔	✔	✔
サービス人員	✔	✔	✔
サービス人員スキル		✔	
サービステリトリー	✔	✔	✔
サービステリトリーメンバー		✔	

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 検索可能なオブジェクトと項目

このリリースの Lightning Experience の機能

個人取引先検索の強化機能で適切なレコードを検索

法人取引先項目と取引先責任者項目の両方に使用される用語が含まれる個人取引先検索は、個人取引先の検索結果が返されるようになりました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

個人取引先オブジェクトには、法人取引先オブジェクトと取引先責任者オブジェクトの両方から取得した項目が含まれます。以前は、ユーザの検索語に法人取引先オブジェクトと取引先責任者オブジェクトの両方の情報(名前と役職や名前と住所など)が含まれている場合でも、一致する個人取引先が常に検索結果に返されるとは限りませんでした。検索語に両方の種別の情報が含まれていれば、適切な個人取引先レコードが返されるようになりました。

たとえば、サンフランシスコのアカウントエグゼクティブである Agatha Parker の個人取引先レコードを見つけたいとします。`Agatha San Francisco` を検索すると、検索結果に Agatha Parker の個人取引先レコードが表示されます。この場合、`Agatha` は法人取引先オブジェクトから、`San Francisco` は取引先責任者オブジェクトから取得しています。

関連トピック:

このリリースの Lightning Experience の機能

検索インデックスの暗号化 (正式リリース)

Shield Platform Encryption を有効にすると、検索インデックスの暗号化でセキュリティの強化ができます。組織固有の AES-256 ビット暗号化キーを使用して検索インデックスファイルを暗号化します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

インデックスファイルはレコードコンテンツの一部で、データベースの元のレコードに対応付けられていますが、これを暗号化できるようになりました。ユーザインターフェースは変更されていません。

有効にする手順は、次のとおりです。

- **Shield Platform Encryption** を使用していないお客様 — Salesforce アカウントエグゼクティブに問い合わせて Shield Platform Encryption を有効にし、検索インデックスの暗号化を要求します。
- **Shield Platform Encryption** を使用しているお客様 — Salesforce アカウントエグゼクティブに問い合わせるかサポートチケットを開いて、検索インデックスの暗号化を有効にします。
- 検索インデックスの暗号化(パイロット)に参加したお客様—追加のアクションは必要ありません。検索インデックスの暗号化は有効になっています。

エディション

アドオンサブスクリプションとして使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited Edition**。Salesforce Shield の購入が必要です。

Summer '15 以降に作成された **Developer Edition** 組織は無料で使用できます。

Government Isolation Architecture のお客様は使用できません。

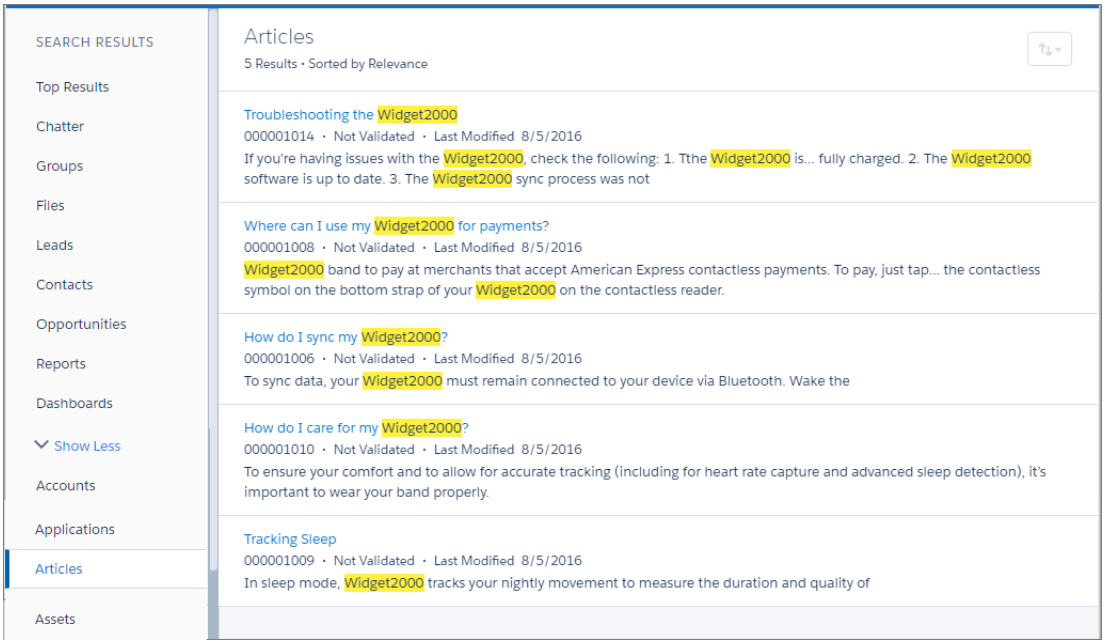
関連トピック:

Salesforce ヘルプ: バックグラウンド: 検索インデックスの暗号化のプロセス

このリリースの Lightning Experience の機能

スニペットを使用した適切なナレッジ記事の検索

記事検索結果では、コンテキストが最も重要視されます。完全なグローバル検索を実行した後の記事の検索結果ページでは、記事タイトルの下の抜粋に、周囲のテキストのコンテキスト内で一致した検索語が強調表示されます。スニペットを使用すると、最も関連性の高い記事をいとも簡単に表示できるようになります。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できます。



この機能には、いくつかの重要な制限事項があります。

- ナレッジ記事は Lightning Experience ではサポートされていないため、検索結果の記事をクリックすると、Salesforce Classic で記事が表示されます。
- ナレッジの記事が [上位の結果] に表示されても、スニペットは表示されません。
- [上位の結果] に表示される列はカスタマイズできません。デフォルトの列は、[記事番号]、[公開状況] (システム管理者が有効にしている場合)、および [最終更新日] です。
- ナレッジ記事の並び替えはできません。

関連トピック:

このリリースの Lightning Experience の機能

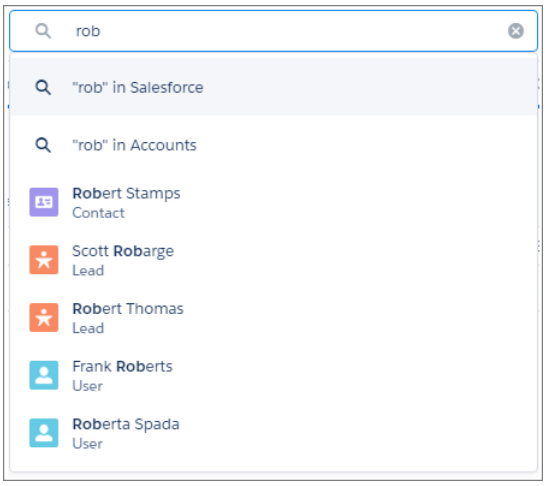
グローバルインスタント結果でより見やすいビューを表示

検索では、ユーザが利用しているオブジェクトだけでなく、複数のオブジェクトから最近または一致したレコードの候補が表示されます。これらのインスタント結果により、ユーザは全文検索をしなくても、すばやくレコードにアクセスできます。候補の広範なビューを使用すれば、ユーザがアプリケーション内のどこを操作していても、探している内容が短時間で見つかります。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

ユーザが検索ボックスに入力すると、推奨レコードのリストが複数オブジェクトにわたって表示されます。これまでは、ユーザがレコードまたはオブジェクトページから検索すると、そのオブジェクトのみに対するインスタント結果が表示されていました。

入力したときのインスタント結果には、セカンダリ項目で各レコードのオブジェクト種別も表示され、簡単にレコードタイプを特定できます。

ユーザは、インスタント結果にレコードが表示されない場合、全文検索を実行して、より多くの一致レコードを確認できます。



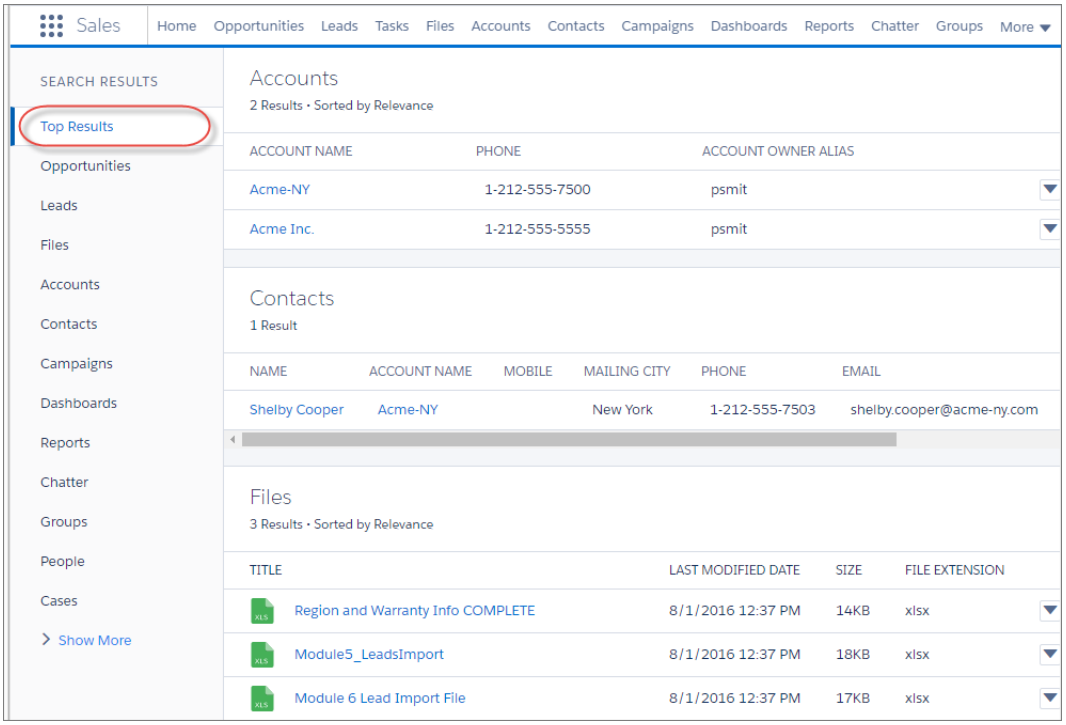
関連トピック:

このリリースの Lightning Experience の機能

検索を実行したら常に上位の結果に移動

レコードを検索する場合、絞り込む前に広い視野から開始する方がうまくいきます。このため、検索では常に、ユーザがアプリケーション内のどこを操作していても、[上位の結果]ページに移動します。ユーザはすべての使用頻度の高いオブジェクトの中から適切な一致項目の概要を取得します。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

特定のオブジェクトで検索を実行するには、インスタント結果の 2 番目のオプションを選択します (使用可能な場合)。たとえば、[取引先] ホームページから *Acme* を検索する場合は、インスタント結果のドロップダウンで [取引先の「**Acme**」] 検索オプションを選択します。[取引先] の検索結果ページがすぐに表示されます。



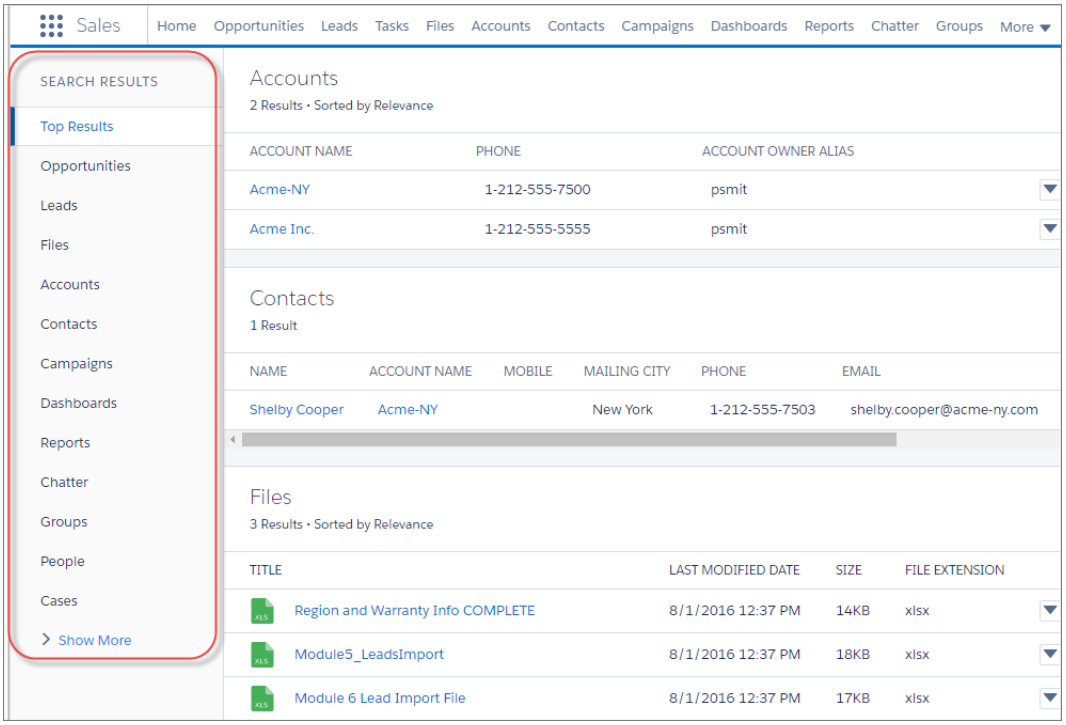
関連トピック:

- このリリースの Lightning Experience の機能

左側での検索結果の絞り込み

新しいナビゲーションバーを導入するため、機能を一つも損なうことなく、検索結果ページを刷新しました。この全く新しいレイアウトで、検索結果のページの左側のオブジェクト名をクリックして結果を絞り込むことができます。そのオブジェクトのレコードのみがリストされる検索結果ページが表示されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

検索可能なオブジェクトは、ナビゲーションバーでの表示と同じ順序で検索結果に表示されます。オブジェクトが表示されない場合は、[さらに表示]を選択すると、使用可能なすべてのオブジェクトがアルファベット順に表示されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience で検索結果を絞り込む方法は?

このリリースの Lightning Experience の機能

Lightning Experience でのカスタムアプリケーションの作成とより効率的なナビゲーション

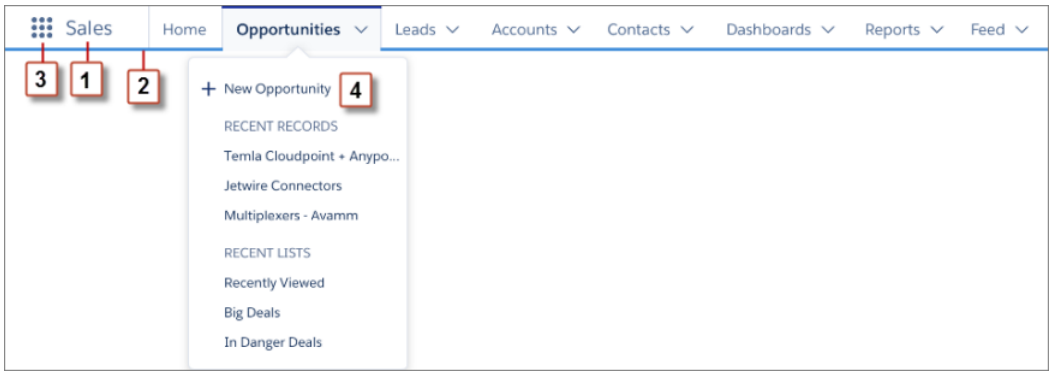
Lightning Experience のナビゲーションが刷新されて、ユーザの効率性が向上し、ブランド設定およびカスタマイズできるアプリケーションを切り替えることができるようになりました。Salesforce Classic の使用経験がある方は、この更新されたナビゲーションモデルを親しみのあるナビゲーションモデルの改善版のように感じることでしょう。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

稲妻 (Lightning) のような速度のナビゲーション

改善されたナビゲーションモデルでは、以前は Lightning Experience の側面に表示されていたナビゲーションメニューがページ上部に水平ナビゲーションバーとして表示されます。これにより、ユーザは次のことが可能になります。

- アイコンの代わりにわかりやすい項目名を使用して必要な情報を検索する
- ワンクリックでアクションを実行して最近のレコードやリストにアクセスする
- 使い慣れた、一貫したナビゲーション操作を使用する

ナビゲーションバーは一連の項目と機能のコンテナだと考えてください。ナビゲーションバーは常にそこにありますが、表示される項目は使用しているアプリケーションに合わせて変わります。



- アプリケーション名はナビゲーションバーの左側 (1) に表示され、カスタムの色およびブランド設定 (2) によって各アプリケーションが一意になり、識別しやすくなっています。
- ユーザは、[アプリケーションランチャー] アイコン (3) またはアプリケーション名をクリックして他の項目やアプリケーションにアクセスできます。
- ユーザは、[商談] などのナビゲーションバーの特定の項目 (4) から直接レコードを作成したり、最近のレコードやリストにアクセスしたりできます。
- 組織でユーティリティ機能を使用している場合、Lightning Experience のフッターで、統合音声などの生産性ツールにすばやくアクセスできるアプリケーションのユーティリティバーを有効にできます。

メモ: ナビゲーションバーから直接、特定の項目の新規レコードを作成したり、最近のレコードやリストにアクセスしたりできます。いくつかの例外を除き、名前の横に ▽ がある項目は、この機能をサポートしています。ToDo とメモでは、新規レコードを作成できますが、最近のレコードやリストにアクセスすることはできません。レポートおよびダッシュボードでは、最近のレコードを表示できますが、最近のリストを表示したり、新規レコードを作成したりすることはできません。

アプリケーションランチャーでの項目およびアプリケーションの検索

アプリケーションランチャーが再設計されて、簡単にアプリケーションを切り替えたり、使用可能な項目や機能にアクセスしたりできるようになりました。アプリケーションランチャーは Lightning Experience のナビゲーションの中心であるため、いつでも簡単にアクセスできるようにナビゲーションバーの左側に移動しました。

最も重要なのはアプリケーション

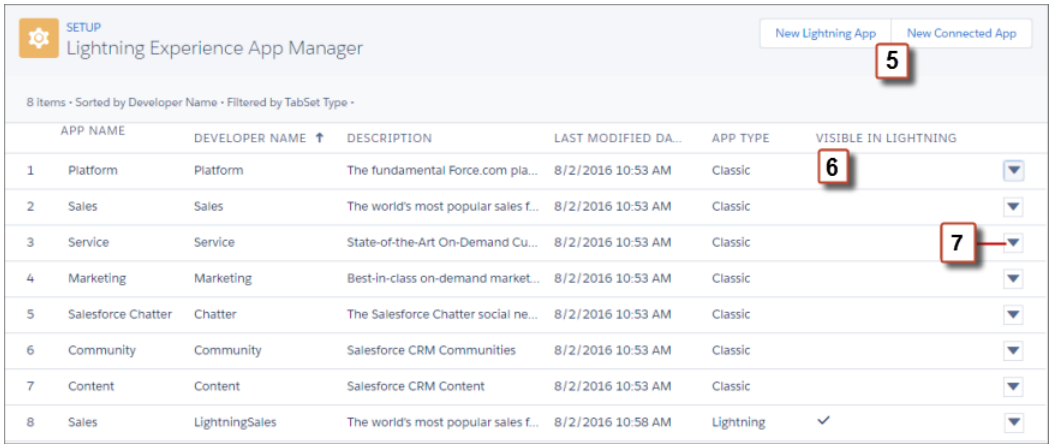
Salesforce Classic と同様に、Lightning Experience のアプリケーション (いわゆる Lightning アプリケーション) により、ユーザはナビゲーションバーの一元化された便利なバンドルで一連のオブジェクト、タブ、およびその他の項目にアクセスできます。ただし、Lightning アプリケーションは、Salesforce Classic のアプリケーション (Classic アプリケーション) よりも一段高いレベルに達しています。Lightning アプリケーションでは、カスタムの色やロゴを使用してアプリケーションをブランド設定できます。さらに、ユーティリティバーや Lightning ページのタブを Lightning アプリケーションに含めることもできます。

組織で作成できる Lightning アプリケーションの数は、エディションによって異なります。

エディション	Lightning アプリケーションの制限
Professional Edition	10
Enterprise Edition	25
Unlimited Edition	制限なし

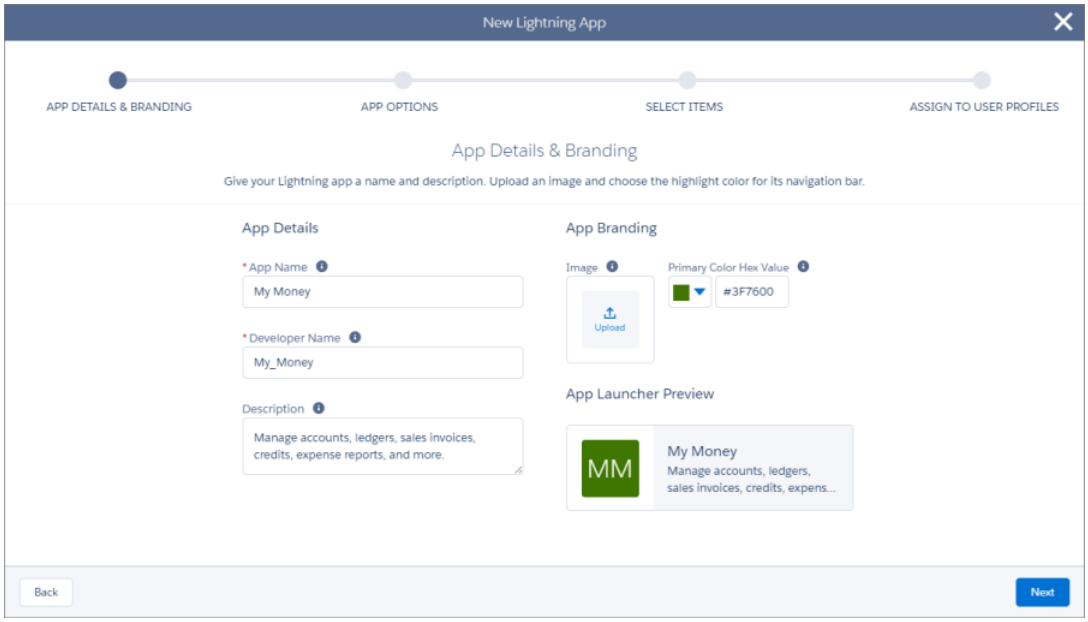
Lightning Experience アプリケーションマネージャ

アプリケーションマネージャは、Lightning Experience のアプリケーションを管理する場所です。アプリケーションマネージャには、すべての接続アプリケーションおよび Salesforce アプリケーション (Classic と Lightning の両方) が表示されます。



Lightning Experience アプリケーションマネージャを使用して、次の作業を行います。

- Lightning アプリケーションまたは接続アプリケーションを作成する (**5**)
- Lightning Experience のユーザが Classic アプリケーションにアクセスできるかどうかを確認する (**6**)
- Lightning Experience のアプリケーションのすべての利点を活用できるように Classic アプリケーションを編集、削除、アップグレードする (**7**)



Lightning アプリケーションは簡単に作成、編集できます。アプリケーションに名前を付けてプライマリ色を設定し、ロゴをアップロードします。また、アプリケーションのナビゲーションバーに表示される項目を指定し、アプリケーションをユーザプロファイルに割り当てます。組織に Lightning Voice や Open CTI ソフトフォンなどのユーティリティがある場合、それらを Lightning Experience のフッターに表示されるアプリケーションのユーティリティバーに追加するためのオプションが表示されます。

既存のカスタマイズに与える影響

Lightning Experience のナビゲーションメニューをすでに作成している場合、これらのメニューは組織が Winter '17 にアップグレードされたときに Lightning アプリケーションに変換されます。

ヒント: 名前、説明、ロゴ、ナビゲーションバーの色、およびその他の重要な設定が正しく行われるようにアプリケーションを編集します。詳細は、この便利な「FAQ」を参照してください。

Classic アプリケーションは、何の変更も行わずに Lightning Experience で機能しますが、アップグレードすれば Lightning Experience で使用できるカスタムブランド設定や高度なナビゲーション機能を利用できます。

Lightning Experience の Classic アプリケーションをアップグレードすると、Classic アプリケーションがコピーされるため、Classic アプリケーションと Lightning アプリケーションの 2 つのバージョンが表示されます。2 つのバージョンは個別に管理されます。Classic アプリケーションに行った変更は、Lightning バージョンには反映されません (逆も同様)。Lightning アプリケーションは、Salesforce Classic では使用できません。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

リニューアル: アプリケーションランチャーの新デザイン

アプリケーションランチャーを使用すると、ユーザの業務に必要なすべての情報に、少ないクリックで簡単にアクセスできます。アプリケーションランチャーでは、1つの場所でSalesforceやその他のサービスプロバイダからアプリケーションにアクセスできます。また、承認されたユーザはワンクリックで直接AppExchangeに移動して、最新のアプリケーションを確認できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

各アプリケーションはそれぞれ、名前、説明、ロゴを含む別のタイルに表示されます。Salesforce 標準アプリケーションは、デフォルトでアプリケーションランチャーに表示されます。他のアプリケーションをアプリケーションランチャーに追加し、プロファイルと権限セットを使用してどのユーザにどのアプリケーションが表示されるかを制御できます。

エディション

アプリケーションランチャーを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

- [すべてのアプリケーション]では、カスタムアプリケーション、標準アプリケーション、Lightning Experience アプリケーション、および接続アプリケーションが1か所にリストされますSalesforceに接続するサードパーティアプリケーション (Gmail、Google Drive、Windows 365 など) を選択します (**1**)
- [すべての項目] には、ホームページ、フィード、ToDo、行動、オブジェクト、カスタムタブの種類などが表示されます これらの項目は、ナビゲーションバーに表示されるアプリケーションに依存しません。(**2**)
- ユーザは、［アプリケーションまたは項目を検索］ボックスで、アプリケーション、オブジェクト、およびその他のリソースを名前で検索できます (**3**)
- 承認されたユーザは、Lightning Experience を離れることなく、ワンクリックで直接 AppExchange に移動できます (**4**)

アプリケーションランチャーの場所

アプリケーションランチャーにアクセスするには、ナビゲーションバーの[アプリケーションランチャー]アイコン () をクリックします。

私のアプリケーションはどこにありますか?

アプリケーションランチャー (**3**) の上部にある［アプリケーションまたは項目を検索］を使用して、アプリケーションと項目を名前で検索します。たとえば、「service」など、アプリケーションの名前を入力し始めると、入力と同時にその文字列が含まれるすべてのアプリケーションと項目が表示されます。

アプリケーションランチャーの並び替え

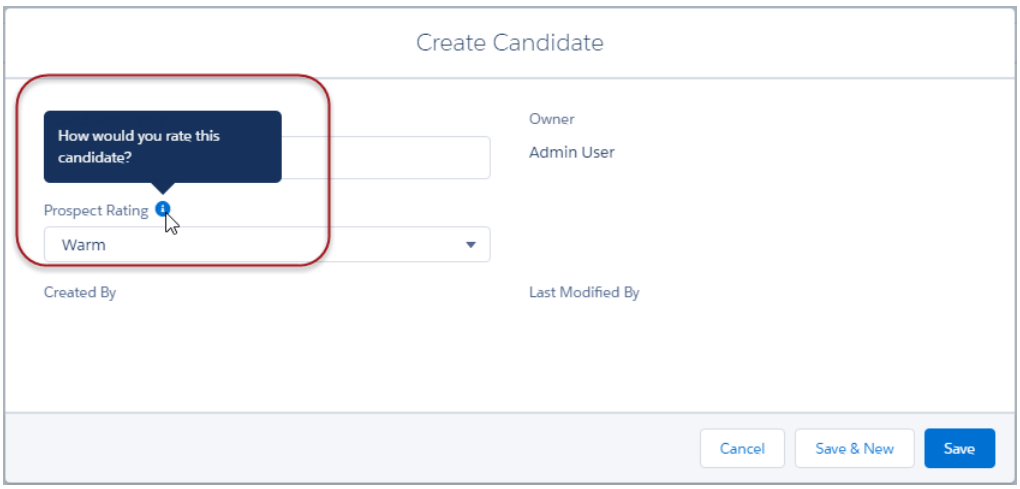
ユーザはアプリケーションをドラッグアンドドロップして並び替えることができます。アプリケーションマネージャからアプリケーションが表示されるデフォルトの順序を変更できます。

Lightning Experience で項目レベルヘルプを表示

Salesforce Classic ユーザはカスタム項目用に作成された項目レベルヘルプを常に活用してきました。これからは、Lightning Experience ユーザにもお使いいただけます。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

これまで、ヘルプは Salesforce Classic でのみ表示されていました。

項目の横の情報アイコンにカーソルを合わせて、ヘルプを表示します。Lightning Experience の項目レベルヘルプはすべてのブラウザでサポートされています。画面サイズ、項目のデータ型、レイアウト内の項目の場所に関わらず、表示されます。



カスタムオブジェクトと標準オブジェクトの項目のヘルプを設定する方法は、Salesforce ヘルプの「項目レベルのヘルプの定義」を参照してください。

関連トピック:

- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス
- *Idea Exchange*: Help Text on Hover Inside Lightning Experience (Lightning Experience 内でカーソルを置くと表示されるヘルプテキスト)

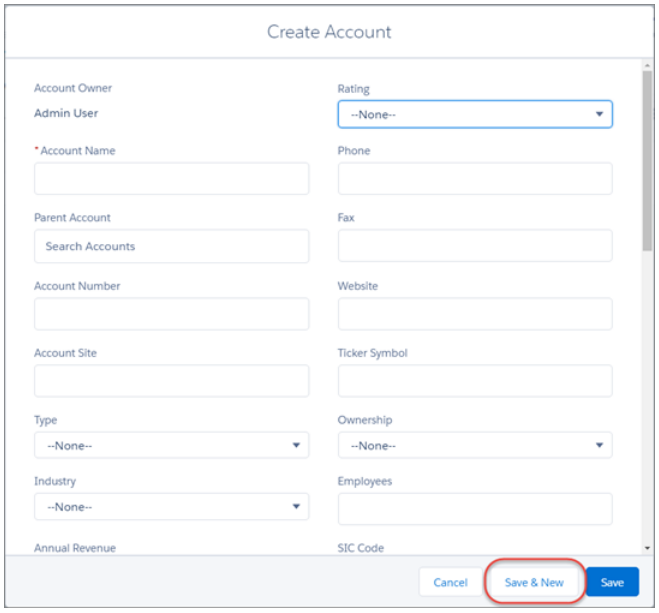
Lightning Experience で複数レコードをすばやく作成

Lightning Experience でレコードを作成、編集、またはコピーした後、[保存 & 新規] ボタンを使用して別のレコードを作成できます。[保存 & 新規] ボタンを使用して、ユーザはアプリケーション内の場所を離れることなく、繰り返しレコードを作成できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

このボタンは、Salesforce Classic と同じ場所にあり、この場所には [作成]、[編集]、[コピー] ページのほとんどが含まれます。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Idea Exchange: Save & New Standard Button in Lightning Experience (Lightning Experience の [保存 & 新規] 標準ボタン)

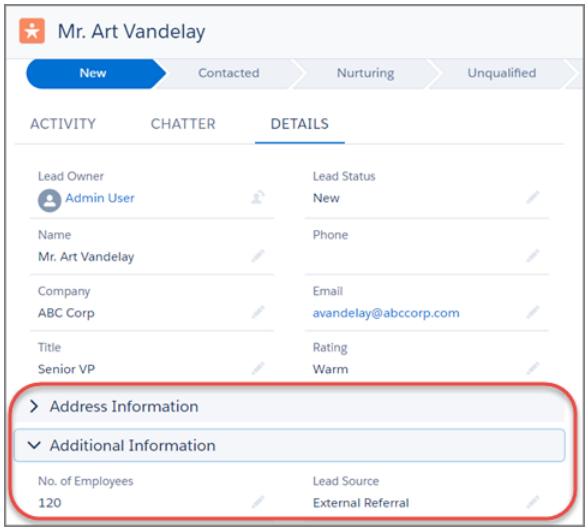
Lightning Experience のレコード詳細タブが状態を保持

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

Lightning Experience のレコード詳細でセクションを展開または折りたたむと、Salesforce の他の領域に移動しても、セクションはその状態を保持します。この変更により、ユーザはレコードをより高速にスクロールでき、興味対象の情報のみが表示されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

たとえば、リードの詳細でユーザが住所情報セクションを折りたたみ、追加情報セクションを展開したとします。次回ユーザがリードの詳細を同じレイアウトで表示するときは、これらのセクションはそれぞれ折りたたみおよび展開された状態になっています。



Salesforce Classic と同じように、[作成]、[編集]、[コピー] ページのセクションは常に展開されています。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

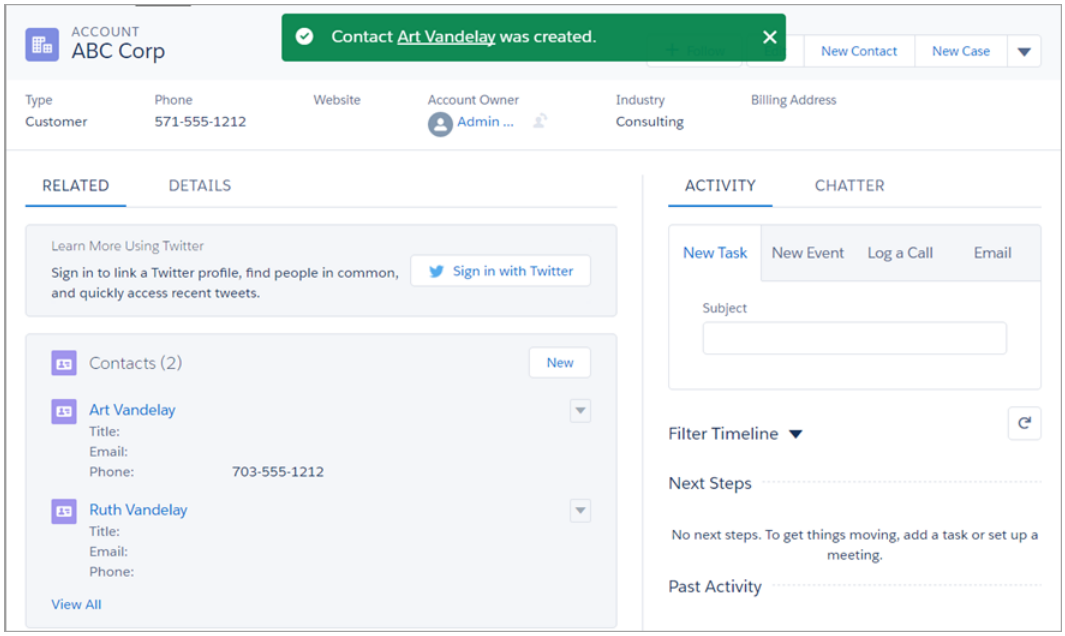
レコードの、より明確で実効性のあるポップアップメッセージ

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

ユーザが Lightning Experience および Salesforce1 の関連リストからレコードを正常に作成、編集、削除、またはコピーした後に表示される確認メッセージが変更になりました。メッセージにはレコード名が表示され、より詳細なコンテキストが提供されます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

また、Lightning Experience (Salesforce1 ではない) の関連リストでレコードを作成後に現れるポップアップメッセージにはレコードへのリンクが含まれるので、簡単に移動できます。次に例を示します。



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

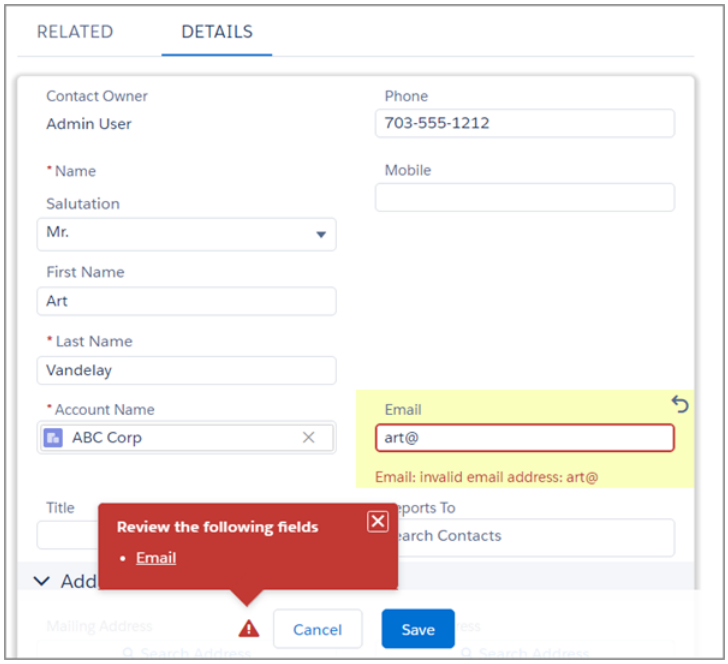
Lightning Experience でのレコードエラーに対する迅速かつ簡単なトラブルシューティング

ユーザがレコードをインラインで編集したときにエラーが発生すると、エラー項目が下部にポップアップで表示され、簡単に確認できます。ポップアップの項目にはリンクが設定されているため、ユーザはその項目にすばやく移動して修正できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

以前のリリースと同様、項目の下には項目エラーの説明も表示されます。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

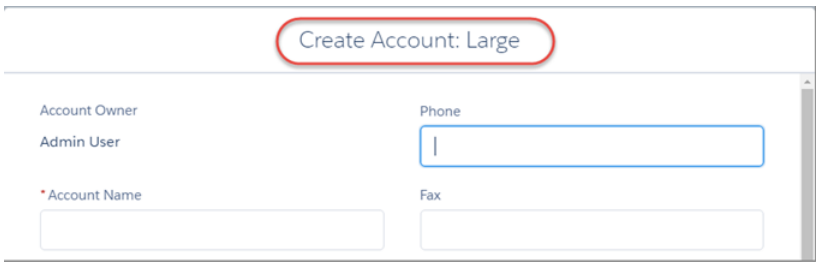


関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

レコード作成時にさらに詳細な情報が表示されるようになったダイアログタイトル

ユーザが Lightning Experience でレコードを作成するときに、[作成] ダイアログのタイトルにレコードタイプが表示されます(存在する場合)。たとえば、取引先サイズを表す 2 つのレコードタイプ [大] と [小] が取引先オブジェクトに割り当てられているとします。ユーザが [大] レコードタイプの取引先を作成する場合、[作成] ダイアログのタイトルに [大] と表示されて、より詳細なコンテキストが提供されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

バージョン履歴の削減による Sandbox サイズの制御

本番組織から取り込むバージョン履歴の量を最小限に抑えると、Sandbox のコピー時間を短縮できます。Full Sandbox を作成または更新するとき、[コンテンツバージョン履歴] オプションを設定できます。履歴は 0 ～ 180 日分のコピーが可能で、30 日単位で増加できます。デフォルトは 0 日です。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

このリリースの Lightning Experience の機能
次に、Lightning Experience のより効率的かつ迅速な販売を行うためのインターフェースにする強力な機能および機能強化のリストを示します。このリストを使用して、各機能の詳細にすばやくアクセスできます (取引先や Chatter の機能強化など、一部の Lightning Experience 機能は Winter '17 リリース後 24 時間以内に使用可能になります。それ以外の機能はすぐに使用可能になります)。

Winter '17 の Lightning Experience で使用できない機能
新しい Lightning Experience の機能と機能強化については、Salesforce Classic で使用できる機能と比較した、制限事項や使用できない機能を参照してください。次のトピックを参照して、ビジネスに不可欠な機能がこのリリースで制限されたり、使用できなくなったりしていないか確認してください。このリストを確認する場合には、一時的に Salesforce Classic に切り替えれば新しいインターフェースでまだサポートされていない機能にいつでもアクセスできることを覚えておいてください。

関連トピック:

[クライアント] および [世帯] レコードページのカスタマイズ

このリリースの Lightning Experience の機能

次に、Lightning Experience のより効率的かつ迅速な販売を行うためのインターフェースにする強力な機能および機能強化のリストを示します。このリストを使用して、各機能の詳細にすばやくアクセスできます (取引先や Chatter の機能強化など、一部の Lightning Experience 機能は Winter '17 リリース後 24 時間以内に使用可能になります。それ以外の機能はすぐに使用可能になります)。

全般的な機能強化

Lightning Experience でのカスタムアプリケーションの作成とより効率的なナビゲーション

Lightning Experience のナビゲーションが刷新されて、ユーザの効率性が向上し、ブランド設定およびカスタマイズできるアプリケーションを切り替えることができるようになりました。Salesforce Classic の使用経験がある方は、この更新されたナビゲーションモデルを親しみのあるナビゲーションモデルの改善版のように感じることでしょう。

リニューアル: アプリケーションランチャーの新デザイン

アプリケーションランチャーを使用すると、ユーザの業務に必要なすべての情報に、少ないクリックで簡単にアクセスできます。アプリケーションランチャーでは、1 つの場所で Salesforce やその他のサービスプロバイダからアプリケーションにアクセスできます。また、承認されたユーザはワンクリックで直接 AppExchange に移動して、最新のアプリケーションを確認できます。

カスタム Lightning アプリケーションでの Salesforce Files のアイコンとしての使用

Lightning Experience でカスタムアプリケーションをパッケージ化する場合、アプリケーションアイコンが Salesforce Files として保存されるようになりました。Salesforce Files としてカスタムアプリケーションアイコンを保存すると、バージョン、プレビュー、共有ルールなど、Files のすべてのプラットフォーム機能が活用できます。このように Salesforce Files を使用することを、*アセットファイル*と呼びます。

Lightning Experience で項目レベルヘルプを表示

Salesforce Classic ユーザはカスタム項目用に作成された項目レベルヘルプを常に活用してきました。これからは、Lightning Experience ユーザにもお使いいただけます。

Lightning Experience で複数レコードをすばやく作成

Lightning Experience でレコードを作成、編集、またはコピーした後、[保存 & 新規] ボタンを使用して別のレコードを作成できます。[保存&新規] ボタンを使用して、ユーザはアプリケーション内の場所を離れることなく、繰り返しレコードを作成できます。

Lightning Experience のレコード詳細タブが状態を保持

Lightning Experience のレコード詳細でセクションを展開または折りたたむと、Salesforce の他の領域に移動しても、セクションはその状態を保持します。この変更により、ユーザはレコードをより高速にスクロールでき、関心のある情報のみが表示されます。

レコードの、より明確で実効性のあるポップアップメッセージ

ユーザが Lightning Experience および Salesforce1 の関連リストからレコードを正常に作成、編集、削除、またはコピーした後に表示される確認メッセージが変更になりました。メッセージにはレコード名が表示され、より詳細なコンテキストが提供されます。

Lightning Experience でのレコードエラーに対する迅速かつ簡単なトラブルシューティング

ユーザがレコードをインラインで編集したときにエラーが発生すると、エラー項目が下部にポップアップで表示され、簡単に確認できます。ポップアップの項目にはリンクが設定されているため、ユーザはその項目にすばやく移動して修正できます。

レコード作成時にさらに詳細な情報が表示されるようになったダイアログタイトル

ユーザが Lightning Experience でレコードを作成するときに、[作成] ダイアログのタイトルにレコードタイプが表示されます (存在する場合)。たとえば、取引先サイズを表す 2 つのレコードタイプ [大] と [小] が取引先オブジェクトに割り当てられているとします。ユーザが [大] レコードタイプの取引先を作成する場合、[作成] ダイアログのタイトルに [大] と表示されて、より詳細なコンテキストが提供されます。

アクションで Lightning コンポーネントを起動

Lightning コンポーネントアクションは、Lightning コンポーネントを呼び出すカスタムアクションです。Apex と JavaScript がサポートされるため、Lightning コンポーネントアクションを使用するとセキュアな方法でクライアント側のカスタム機能を開発できます。

ページレイアウトエディタの [Salesforce1 アクション] カテゴリの名称変更

Lightning コンポーネントアクションが導入されたため、高度なページレイアウトエディタの [Salesforce1 アクション] というカテゴリ名は、使用できるすべてのアクションを表していません。このカテゴリ内のアクションは、Salesforce1 と Lightning Experience の両方で使用できます。このため、[Salesforce1 および Lightning アクション] という名前に変更されました。

コアセールス

取引先に自動アップグレードを追加

組織の取引先を強化するために、指一本動かす必要はありません。新規および既存の組織に、ニュース、ロゴ、および自動入力が標準搭載されます。

取引先ロゴで全体像を把握 (正式リリース)

取引先をかつてないほど明瞭に把握できます。ロゴが取引先レコードに自動的に追加されるようになったため、営業担当は新しい切り口でのビジネスの視覚化が行えます。

取引先ロゴのフィードバックはお気軽に

取引先レコードにロゴが表示される機能をご満足いただけると確信していますが、そうでない場合はご意見をいただければ、対応いたします。

会社のトップリーダーの詳細情報を得る

会社の実力者がだれかを知るだけでは十分ではありません。だれが何を考えているのかも知る必要があります。営業担当が取引先レコードで会社のトップエグゼクティブに関する最新ニュースに簡単にアクセスできるようになりました。

取引先責任者のニュースが届きました

営業担当が販売のターゲット人物についての最新かつタイムリーなニュースにアクセスできるようなれば、事前準備でその営業担当の右に出る人はいなくなるでしょう。

取引先責任者を複数の取引先に関連付ければ、さらにうまくいく

取引先責任者-to-複数取引先では、優れた機能により営業担当が容易に人とビジネスの関係を管理できるので、トップへのアプローチを継続できます。新しい機能を使用すれば、この多対多数データモデルを採用したくなること間違いなしです。

Lightning Experience での重複リードの特定とマージ

重複リードレコードを取り除いて、複数の営業担当が同じリードに連絡しないようにします。データ品質の向上が容易になりました。営業担当は、重複リードレコードを見つけたときに解決できます。Salesforce は複数のレコードで主要項目の違いを特定し、営業担当が上位 3 つのレコードから最適な情報をマージできるようにします。

リードのニュースで案件成立への道をひらく

販売のターゲット人物に関する最新のタイムリーなニュースに営業担当がアクセスすると、販売増につながります。

取引先インサイトは、ニュースに名称変更

またもやりました。最初は取引先ニュースで、次が取引先インサイト、今はニュースです。ただし、名前だけではなく、ニュース機能自体も改良しました。

Chatter のニュースを拡散開始

営業担当は Chatter でニュース記事を共有して、組織の全員に最新ニュースを配信できます。

ニュース項目のフィードバックを送信するときのクリック数の削減

ニュースフィードバックオプションが簡略化され、問題発生時のフィードバックが簡単になりました。

Lightning Experience でスケジュールを設定した商品を追加

場所や時間に制約されることなく、収益または数量によるスケジュールを設定した商品を商談に追加できます。

商談: Lightning Experience で編集可能な [確度] 項目

商談所有者は、Salesforce Classic に切り替えることなく、手動で［確度］項目を編集できるようになりました。

セールスパスの有効化がさらに簡単に

メインの [セールスパス設定] ページからセールスパスの有効化または無効化を行います。設定ウィザードを再度実行する必要はありません。

契約: Lightning Experience で業務を行うための合意条項を管理

取引先と商談に関連付けられた契約のライフサイクルを Lightning Experience の追加機能で管理します。

Lightning Experience での商談への見積の追加

Lightning Experience の見積を利用して、会社で提供する商品およびサービスの価格を顧客に提示できるようになりました。営業担当は見積と見積品目名の作成および編集を行って見積を商談に追加し、PDF形式で保存できます。

私の取引先と取引先責任者をインポートウィザードは廃止

私の取引先と取引先責任者をインポートウィザードは廃止になりました。代わりにデータインポートウィザードを使用してデータをアップロードするようにユーザに伝えてください。詳細については、「Winter '17 での [私の取引先と取引先責任者をインポート] の廃止」を参照してください。

Lightning Experience での取引先データ評価の要求

Lightning Experience を使用して Data.com Clean データ評価を要求できるようになり、取引先データの品質に関して情報に基づく判断を下せるようになりました。これまで、データ評価を要求するには Salesforce Classic を使用する必要がありました。評価では、取引先の全体的なデータ品質の概要と、主要な取引先項目の分析が提供されます。組織のデータが変更されることはありません。データ評価は米国とカナダの組織のみで使用できます。

データ評価完了通知のメール受信

組織の取引先レコード数が 100 を超える場合、ユーザが要求したデータ評価が完了すると、通知がメールで送信されるようになりました。これまで、通知はメールで送信されませんでした。Lightning Experience では引き続き通知を受信します。

営業の生産性

ホーム: アシスタントに機能追加

アシスタントがさらに適切で実効性のあるものに更新されました。営業担当は、メールの送信、ToDo または行動の作成など、異なるおすすめに対して直接アクションを実行できます。営業担当は関連のないおすすめを閉じることもできます。

Lightning Voice: 多数の通話新機能

通話や通話転送に関する新しい機能など、多数の新機能を Voice に追加しました。また、Lightning Voice は Winter '17 リリースからはユーティリティバーでのみ使用できるようになるため、この機能を継続して使用するには追加の作業が必要です。

インライン編集でクリック数と時間を削減 (ベータ)

リストビューの Lightning Edit を使用すると、営業担当は Lightning Experience でレコード更新を簡単に行えます。営業担当はレコードを開かずにリストビューから直接編集ができます。さらには、複数レコードを同時に保存できます。

複数のメンバーをキャンペーンにすばやく追加

メンバーのいないキャンペーンはファンのいないファンクラブのようなものです。残念ですよね。そこで、リストビューから一度にキャンペーンメンバーを追加して、キャンペーンが光り輝くのを見守りましょう。

リードの権利を主張

チームメンバー間でリードの優先順位付けと割り当てにキューを使用している場合、営業担当はキューから一度に複数のリードの所有権を取得できるようになりました。

Kanban: リード、契約、キャンペーンを視覚的に追跡および管理

商談で使用する Kanban スタイルと同じビジュアルレイアウトを使用すれば、営業担当はリード、契約、キャンペーンの進捗状況をさらに効果的に監視できます。

Kanban ビューからのレコードの変更

回り道はだれでも嫌なものでしょう。営業担当は、Kanban ビューからレコードを編集または削除できるようになりました。

Kanban ビューで必要な項目を迅速に更新

必要な項目に煩わされることはなくなりました。営業担当はレコードを別のフェーズまたは状況に移動するために必要な項目の入力を Kanban ビュー内からできるようになりました。

Salesforce からのメールの返信および転送

多くの場合、メールを読んだらすぐに返信する必要があります。それが可能になりました。メールの詳細ページまたは活動タイムラインから [返信]、[全員に返信]、または [転送] をクリックするだけで済みます。メール送信と同じくらい簡単です。これらのオプションは、拡張メールを使用している組織でのみ使用可能です。拡張メールはほとんどのお客様に対し自動的に有効になっています。

Microsoft® インテグレーション

Lightning for Outlook

Lightning for Outlook のカスタマイズ (ベータ)

営業チームが取引先、取引先責任者、商談、リード、ケース以外のレコードに焦点を当てたいと考えていませんか?自社でカスタマイズした機能を使用することを熱望していませんか?営業担当は、Microsoft® Outlook®

で表示および操作する Salesforce レコードタイプを選択して、より関連性の高い Lightning for Outlook にすることができます。

Lightning for Outlook と Shield Platform Encryption の連動

Lightning for Outlook は、Shield Platform Encryption を使用している顧客が利用できます。「暗号化されたデータの参照」権限が有効になっていない営業担当の場合、メールと行動に関連する暗号化項目が含まれるレコードが Lightning for Outlook に表示されないことがあります。

Lightning Sync

Professional Edition: 同期

Salesforce Professional Edition で作業している場合は、ユーザの取引先責任者および行動を会社のメールサーバと Salesforce との間で同期できます。

Lightning Sync と Shield Platform Encryption の連動

「暗号化されたデータの参照」権限のあるユーザの場合、Lightning Sync と Shield Platform Encryption の互換性が確保されるようになりました。これまで、プラットフォームの暗号化を使用している組織は Lightning Sync を実行できませんでした。

Microsoft® Exchange から Salesforce への安全かつ簡単な接続

定番のサービスアカウントに加えて、OAuth 2.0 の接続方法のオプションが導入されました。OAuth 2.0 では Microsoft Office 365® アカウントが必要ですが、アカウントを取得すれば残りの作業は簡単です。

営業担当の行動と最も関連性のある Salesforce 取引先責任者またはリードの自動関連付け

「暗号化されたデータの参照」権限のあるユーザの場合、Lightning Sync と Shield Platform Encryption の互換性が確保されるようになりました。これまで、プラットフォームの暗号化を使用している組織は Lightning Sync を実行できませんでした。

Salesforce for Outlook

Salesforce サイドパネルの定期的な行動

営業担当は、Salesforce サイドパネルから定期的な行動を表示して Salesforce レコードに関連付けることができます。

Microsoft® Outlook® 2007 および Microsoft Exchange 2007 のサポートの終了

Microsoft が Outlook 2007 および Exchange 2007 のサポートを終了するため (2017 年 4 月予定)、Salesforce でもサポートを終了します。

Skype for Salesforce

Microsoft とのインテグレーションでのその他の変更

Microsoft® とのインテグレーションでのその他の変更

Microsoft とのインテグレーションでのその他の変更に注意してください。

レポートとダッシュボード

キーボードショートカットを使用したダッシュボードの設計とスクリーンリーダーの使用

キーボードショートカットとスクリーンリーダーのサポートにより、Lightning Experience ダッシュボードデザイナが以前より使いやすくなりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Lightning Experience でのロール階層によるレポートの絞り込み

西部のチームによって管理されたすべての商談を確認したいですか?ロール階層で商談レポートを絞り込むことで、特定のマネージャを上司に持つ営業担当または特定の役割の営業担当が所有する商談を表示できます。

Lightning Experience での相対日付によるレポートの絞り込み

今年成立したすべての商談を確認したいですか? カレンダー日付で絞り込む (例: `Close Date greater than Jan 1, 2016`) 代わりに、相対日付でレポートを絞り込みます (`Close Date equals THIS YEAR`)。わかりやすいだけでなく、2017 年がきたらレポート検索条件を更新するということを覚えておく必要もありません。

Lightning Experience のダッシュボードからレポートにドリルインするときの条件の保持

ダッシュボードを絞り込んで、コンポーネントレポートのいずれかを表示します。以前は、絞り込まれていない状態でレポートが開いていました。ダッシュボードと同じように絞り込まれた状態でレポートが開くようになったので、冷静にデータを分析できます。

Lightning Experience のグラフの改善: 表形式グラフ、ゲージグラフ、棒グラフ、散布図、折れ線グラフ、複合グラフ

1 枚の写真に 1,000 の言葉と同じ価値があるとしたら、1 枚のグラフには 1,000 個のインサイトと同じ価値があるでしょうか?Lightning Experience のグラフに対する一連の最新の機能強化により、グラフでより多くのインサイトを得られるようになりました。

サービス

Lightning Experience での Open CTI を使用した通話

Open CTI とそのすばらしい機能が Lightning Experience で使用できるようになりました。Open CTI は、パートナーが Salesforce とコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムを統合するのをサポートします。この重要な新機能はすべて、アダプタプログラムをユーザのマシンにインストールすることなく動作します。

フィールドサービス: Field Service Lightning ツールボックスの追加

Winter '17 では、フィールドサービス業務の管理に使用可能な新機能のセットが追加されました。サービス予約で作業を追跡し、サービス人員で作業要員を管理し、作業種別で作業指示を標準化するなど、多くのことができます。

Lightning Experience で利用可能なソーシャル投稿と人格ホームページ

Lightning Experience から移動することなくソーシャル投稿および人格タブにアクセスできます。

Lightning Experience で利用可能なケースフィードソーシャルアクション

Lightning Experience 内でケースフィードのソーシャルメディアに対していいね!、いいね!の取り消し、ソースの表示、削除を行うことができます。ただし、投稿への返信は Salesforce Classic で行う必要があります。

クイックアクションまたはマクロを使用したケース所有者の変更

Lightning Experience と Salesforce1 でケース所有者項目を公開したため、ケース所有者の変更が簡単になりました。これまで、エージェントはケースの詳細ページに移動して項目を変更する必要がありました。

ケースページにすべての取引先責任者項目を表示

Lightning Experience および Salesforce1 ユーザは、取引先責任者項目がケースページレイアウトに含まれていれば、ケースページでケース取引先責任者情報を表示できます。Lightning Experience と Salesforce1 モバイルアプ

リケーションのすべてのバージョンで［取引先責任者　電話］、［取引先責任者　メール］、［取引先責任者　Fax］、および［取引先責任者　携帯］項目が使用できるようになりました。

ケースフィード: Lightning Experience メールの更新

ケースの［メールを送信］アクションが改善され、エージェントが Lightning Experience でメールを使用してより効率的に作業できるようになりました。

納入商品階層の制限の更新

納入商品階層に最大 10,000 レコードを設定でき、階層の深さと幅に制限がなくなりました。これまで、納入商品には最大 2,000 の子納入商品、納入商品の階層には最大 50 レベルを設定できました。

スナップインチャットを使用した Web サイトからのお客様へのサポート (ベータ)

スナップインチャットウィジェットをWebサイトに追加すると、サイトの閲覧中にエージェントとのチャットによって疑問をすばやく解決できます。スナップインチャットでは Live Agent が使用されますが、設定は簡単です。

Chatter

グループの魔法使い (ウィザード) の表示

グループ作成のプロセスを合理化し、簡単に新しいグループを設定できる一連の手順を考え出しました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

スマートな方法でグループメンバーを追加

グループへのメンバーの追加がさらに簡単になりました。的確な新しい［メンバーの追加］コンポーネントと、どのメンバーが適任かについてのインテリジェントな提案によって、初めからグループに適した人材を追加できます。スマート検索ボックスでは、他のメンバーやグループとのやりとりに基づいて、グループの一員となることを望む可能性が高いメンバーが提案されます。新しい検索には、入力中の名前候補の表示などの便利な機能も含まれています。

DIY カスタムレポートグラフによるカスタマイズ

標準レポートは時間を節約できる一方で、求めているニュアンスを正確に捉えられないことがあります。そんなときは、グループのカスタムレポートグラフが便利です。リードや取引先などのグループに関連付けられたレコードに基づいてレポートを作成でき、新しいインサイトがグループに追加されます。

グループフィードのライブ表示

Lightning Experience でグループフィードがリアルタイムに表示されます。ページを更新しなくても、ユーザの意見を発言と同時に確認できます。新規の投稿は、注意を引くために一時的に強調表示されます。

お知らせに関するメールが正式リリースに

お知らせに関するメールがベータではなくなり、正式リリースとなりました。お知らせを投稿すると、グループマネージャはメールと通知をメールの設定に関わらずすべてのグループメンバーに送信でき、全員が情報を見たことを確認できます。一度に大量のユーザにスパムを送信できるため、この機能には権限による制限があります。グループ所有者がこの強力な機能を使用するには、システム管理者が「お知らせメールを送信」権限を有効にする必要があります。

グループアイコンのデザインの変更

外観がきれいに整理されたことはお話ししましたか?洗練された新しいデザインに合わせて、デフォルトグループアイコンを更新しました。

「フィード」から「Chatter」への表示ラベル変更

Lightning Experience でフィードを探すときには、代わりに「Chatter」を探してください。多くの場所で、フィードとコラボレーションという表示ラベルは Chatter に変更されています。

質問パブリッシャーの使用可能な場所の増加

投稿とアンケートに続いて、Lightning およびコミュニティフィードに新しい公開オプションである質問が追加されました。質問パブリッシャーを使用して、質問をグループやコミュニティに投稿し、回答を広く募ることができます。質問を認知されやすくして、最適なソリューションを集めます。コミュニティでは、質問パブリッシャーは取引先、グループ、プロファイル、およびケースフィードで使用できます。

コメントのライブ表示

Lightning Experience でコメントがリアルタイムに表示されます。ページの更新をしなくても、投稿についてのコメントが行われた瞬間にその内容を見ることができるようになりました。新規のコメントは、注意を引くために一時的に強調表示されます。登録後、コメントは更新されて常にライブ表示されます。登録は簡単で、コメント項目をクリックするだけです。

詳細ビューからのフィード項目のミュート

Lightning Experience とコミュニティフィードで、詳細ビューからフィード投稿をミュートするオプションを使用できるようになりました。通知から詳細ビューに移動したときに、その場で直接、投稿をミュートできます。フィードで投稿の日付をクリックすると、詳細ビューに移動できます。

フィードでの動画の直接再生

動画をフィードでインライン再生する機能が、Lightning Experience で使用できるようになりました。動画を投稿またはコメントに添付すると、誰でも投稿された場所で直接再生できます。

コメントにいいね! と言うユーザの確認

Lightning Experience のコメントに、投稿にいいね! と言った人の完全なリストが表示されるようになりました。

フィード投稿とコメントの編集場所の追加、参照カウントの取得

お待たせしていた機能がついに実現しました。Lightning Experience でフィード投稿とコメントを編集できます。システム管理者によるわずかな設定で、フィード投稿とコメントの両方のアクションメニューに[編集]オプションが表示されます。ぜひご利用ください。

リッチコンテンツとインライン画像の使用可能な場所の増加

大文字表記だけでは十分ではない場合、太字、*斜体*、<u>アンダースコア</u>を使用できます。もっと視覚効果が必要ですか?投稿やコメントにインライン画像を追加しましょう。リッチコンテンツをほぼどこにでも使用できるようになったため、可能性は無限です。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

投稿とコメントのデザインの更新

投稿とコメントのモバイル表示に対する互換性が向上しました。

名前にカーソルを置いてミニプロファイルを表示

名前にカーソルを置くと、個人のプロファイルの短いバージョンが表示されます。名前をクリックすると、詳細なプロファイルページが表示されます。フロート表示情報(コンパクトユーザプロファイルレイアウトから取得) も個人のプロファイル写真の横に表示されます。

Files

Lightning Experience での 10 個のファイルを添付したフィード投稿のアップロード

少ないことが必ずしも十分なわけではありません。1 個ではなく、最大 10 個のファイルをフィード投稿に添付します。

Lightning Experience での投稿編集時のファイルの追加および削除

Lightning Experience で Chatter 投稿の編集がサポートされ、編集時にファイルの追加と削除も実行できるようになりました。

Azure を使用した Files Connect for Office 365 の設定の簡素化

Azure 管理コンソールを使用した新しい設定プロセスで、Files Connect for SharePoint Online または OneDrive for Business の設定がさらに簡単になりました。2 つの別の場所にログインしてオプションを設定するのではなく、Windows Azure 管理コンソールを使用して、1 ステップでアプリケーションを登録できます。ポイント & クリック操作ですべて設定できるので、XML のスニペットをコピーして貼り付ける必要はありません。

Files Connect から除外された SharePoint システムフォルダ

大掃除の季節が早くやってきました。SharePoint システムフォルダの Style Library、Customized Reports、および Form Templates が Files Connect で表示されなくなったため、必要な外部ファイルを以前よりも簡単に見つけることができます。この更新はデフォルトで有効になり、Salesforce Classic、Lightning Experience、すべての API、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンに適用されます。

検索

カスタムオブジェクトでスペル修正

スペルミスにより最初は結果が返されない用語をユーザが検索すると、その用語の修正されたスペルに一致する結果が代わりに表示されます。スペル修正はカスタムオブジェクトでも利用できます (英語のみ)。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

検索結果に表示されるオブジェクトが増えました。

個人取引先検索の強化機能で適切なレコードを検索

法人取引先項目と取引先責任者項目の両方に使用される用語が含まれる個人取引先検索で、個人取引先の検索結果が返されるようになりました。

検索インデックスの暗号化 (正式リリース)

Shield Platform Encryption を有効にすると、検索インデックスの暗号化でセキュリティの強化ができます。組織固有の AES-256 ビット暗号化キーを使用して検索インデックスファイルを暗号化します。

スニペットを使用した適切なナレッジ記事の検索

記事検索結果では、コンテキストが最も重要視されます。完全なグローバル検索を実行した後の記事の検索結果ページでは、記事タイトルの下の抜粋に、周囲のテキストのコンテキスト内で一致した検索語が強調表示されます。スニペットを使用すると、最も関連性の高い記事をいとも簡単に表示できるようになります。

グローバルインスタント結果でより見やすいビューを表示

検索では、ユーザが利用しているオブジェクトだけでなく、複数のオブジェクトから最近または一致したレコードの候補が表示されます。これらのインスタント結果により、ユーザは全文検索をしなくても、すばやくレコードにアクセスできます。候補の広範なビューを使用すれば、ユーザがアプリケーション内のどこを操作していても、探している内容が短時間で見つかります。

検索を実行したら常に上位の結果に移動

レコードを検索する場合、絞り込む前に広い視野から開始する方がうまくいきます。このため、検索では常に、ユーザがアプリケーション内のどこを操作していても、[上位の結果] ページに移動します。ユーザはすべての使用頻度の高いオブジェクトの中から適切な一致項目の概要を取得します。

左側での検索結果の絞り込み

新しいナビゲーションバーを導入するため、機能を一つも損なうことなく、検索結果ページを刷新しました。この全く新しいレイアウトで、検索結果のページの左側のオブジェクト名をクリックして結果を絞り込むことができます。そのオブジェクトのレコードのみがリストされる検索結果ページが表示されます。

Data.com

Lightning Experience のクリーンアップルールの設定

Data.com クリーンアップルールを使用して、適切なデータを適切なタイミングで営業担当に提供できます。クリーンアップルールは、既存のデータを最新の状態に保つだけのものではありません。取引先やリードを、地理コード、業種、収益、従業員数、D-U-N-S Number などの貴重な情報で補強するためにも使用できます。Summer '16 では、Salesforce Classic にクリーンアップルールが導入されました。今回、Data.com Clean のユーザは Lightning Experience を使用してクリーンアップルールを有効化することもできるようになりました。

取引先レコードへの主要情報の自動追加

新しい取引先の会社情報クリーンアップルールを有効にすると、営業チームは取引先をセグメント化し、テリトリーを計画して、顧客への理解を深めることができます。このルールで Dun & Bradstreet から 100 項目を超える会社、業種、および財務情報 (クリーンアップジョブの場合と同じ項目) にアクセスできます。

設定

アプリケーションマネージャを使用したアプリケーションの一元管理

Lightning Experience アプリケーションマネージャによって Lightning Experience の [設定] が強化されました。アプリケーションの作成と管理をすべて 1 か所でできるようになりました。

Lightning Experience の [設定] でのグローバル選択リストの管理

どちらのユーザインターフェースからでもグローバル選択リスト値セットを作成して管理できるようになりました。[設定] ですべての選択リストを管理するために、何度も切り替える必要はもうありません。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

グローバル検索で Lightning Experience 設定を検索

クィック検索の代わりにグローバル検索を使用して、リードソース選択リストや営業担当プロファイルなどの特定の設定レコードを検索できるようになりました。

データのインポート

データインポートウィザードを使用したキャンペーンメンバーの追加および更新

すべてのキャンペーンで、簡単に取引先責任者、個人取引先、リードを新規キャンペーンメンバーとして追加したり、1 つのソースファイルから既存のキャンペーンメンバーを Salesforce ID ですべて更新したりできるようになりました。Salesforce ID は、キャンペーンメンバー ID、取引先責任者 ID、またはリード ID です。

最新のオペレーティングシステムのサポートが含まれるデータローダの新バージョン

データローダの新バージョンがリリースされました。TLS 1.0 が無効になっていて TLS 1.1 または 1.2 を使用する必要のある組織では、Microsoft® Windows® 7 以降と Mac® OS X El Capitan がサポートされます。Mac OS X の以前のバージョンでは、TLS 1.2 は完全にはサポートされません。

Lightning アプリケーションビルダー

カスタムレコードページを Lightning アプリケーションに割り当てるか、すべてデフォルトに設定

Lightning アプリケーションビルダーでカスタムレコードページを有効化するとき、2 つのオプションのいずれかを選択できるようになりました。レコードページをすべてのユーザのデフォルトにできます。または、レコードページを 1 つ以上の Lightning アプリケーションに割り当て、作業中のアプリケーション向けにカスタマイズされたページにユーザがアクセスできるようにします。

Lightning アプリケーションビルダーの新しいアプリケーションページテンプレートを使用した新しいスタイルのアプリケーションページの作成

Lightning アプリケーションビルダーの新しい [ヘッダーと 2 列] テンプレートでは、異なる方法でアプリケーションページのレイアウトをカスタマイズできます。

レコードの強調表示パネルの合理化による表示データの増加

Lightning アプリケーションビルダーの新しい属性を使用すると、強調表示パネルを少ないスペースで表示したり、表示されるボタンを削減したり、横方向から縦方向に方向を変更したりできます。これらのカスタマイズにより、ページのスクロールやヘッダーの切り捨てが削減されて、ユーザは一目で重要な情報を簡単に確認できます。

Lightning アプリケーションビルダーで管理パッケージの参照のみ Lightning ページを表示および有効化

これまで、Lightning アプリケーションビルダーでは管理ページを開けませんでした。これからは、参照のみのエディタで管理パッケージから Lightning ページを開き、確認、有効化、または無効化できるようになります。

レポートグラフコンポーネントの動的サイズ変更

レポートグラフコンポーネントが、表示されているページのサイズに対してより動的に反応するようになりました。横方向は自動的にサイズ変更され、最大幅 800 ピクセルまでの大きな表示領域いっぱいに表示されるようになりました。高さは 300 ピクセルに制限されています。

Lightning ページへの Wave の埋め込み

Lightning で Wave を使用すると、任意のデバイスでインサイトへアクセスできます。Wave を Lightning ホームページ、レコードページ、およびアプリケーションホームページに統合します。Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションの分析アプリケーションをわずか数分で作成します。

フローコンポーネントによる Lightning ページの強化 (ベータ)

Lightning アプリケーションビルダーに新しいコンポーネントが追加されました。フローコンポーネントを使用して、有効なフローを Lightning ページに埋め込みます。

フィードコンポーネントの名称変更と 2 つの新規 Chatter コンポーネントの導入

Lightning アプリケーションビルダーで、フィードコンポーネントという名前が Chatter に変更されました。これは、パブリッシャーとフィードで構成されます。新しい Chatter パブリッシャーと Chatter フィードを使用してフィードを各部分に分解する 2 つの新規コンポーネントも作成されました。パブリッシャーとフィードをページ上の任意の場所に別個に配置できるようになりました。

Salesforce Connect

外部オブジェクトレポート — システムの境界を越えたデータのシームレスな表示

お待たせしました!外部オブジェクトをレポートに含めることができるようになりました。留意すべき制限事項と考慮事項がまだいくつか残っていますが、保存場所に関係なくすべてのデータのレポートを実行できるようになりました。

外部オブジェクトのフィードベースのページレイアウトの作成

レコードのフィード用と詳細および関連リスト用に 1 つずつ、別個のビューが含まれているため、ユーザは外部オブジェクトレコードを処理しやすくなります。ユーザは、フィードビューと詳細ビューを切り替えて、いつでも必要な情報に注力できます。

外部オブジェクトの検索結果の増加

外部オブジェクトの検索結果が 25 行に制限されなくなりました。

Visual Workflow

Lightning スキンを使用したフローの実行 (ベータ)

フローのデザインを良くしたいと思ったことはありませんか?Salesforce も同じです。このベータ機能を有効にすると、すべての URL ベースのフローが Classic ランタイムではなく Lightning ランタイムを使用して表示されます。

Lightning ページへのフローの埋め込み (ベータ)

Lightning アプリケーションビルダーのフローコンポーネントがロールアウトされます。Lightning ページ (アプリケーションページ、レコードページ、ホームページなど) にフローを追加できるようになりました。

2 列のフロー画面の表示 (ベータ)

多数の情報を収集するフローを作成する場合、フロー画面が無制限の細長い項目の列として表示される可能性があります。特定のフローを 2 列で表示して、フロー画面のレイアウトを分割します。

セキュリティと ID

認証と ID: 迅速なログイン、接続アプリケーションの機能強化、認証オプションの増加

Lightning Login や U2F セキュリティキーなどの 2 要素認証オプションによるパスワードを使用しないログインが導入され、OAuth 機能が拡張されました。アプリケーションランチャーが再設計されて、アプリケーションランチャーのタイルに接続アプリケーションの説明が表示されるようになりました。External Identity ユーザのアプリケーションランチャーのデザインも新しくなりました。

既存の接続アプリケーションの説明の更新

アプリケーションランチャーが改良されて、アプリケーションランチャーのタイルにアプリケーションの名前と説明が表示されるようになり、ユーザが接続アプリケーションを簡単に見つけられるようになりました。説明は、アプリケーションの作成時に説明項目に入力したテキストから取得されます。Winter '17 より前に作成した接続アプリケーションの場合も、これらの説明がアプリケーションランチャーに表示されます。そのため、既存のアプリケーションの名前と説明にミスがなく、一般利用者に適した内容であることを確認してください。説明に使用できる文字数は 256 文字です。適切にご活用ください。

ランディングページとして表示できるアプリケーションランチャー

再設計されたアプリケーションランチャーを Salesforce にログインしたときのデフォルトのランディングページとして表示することで、Salesforce Identity ユーザは必要なアプリケーションに簡単にアクセスできます。

External Identity のアプリケーションランチャーの新しいデザイン

顧客またはパートナー (External Identity と呼ばれる) に Salesforce Identity を設定する場合、Aloha コミュニティテンプレートとアプリケーションランチャーを併用していることがあります。Winter '17 リリースでは、アプリケーションランチャーのデザインが、再設計されたアプリケーションランチャーの新しいデザインになります。

接続アプリケーションをプロビジョニングするときの適切なユーザの再認証

接続アプリケーションに Salesforce プロビジョニングを使用している顧客の、承認取り消し後に再認証したユーザの処理方法が改善されました。以前は、ユーザを再認証すると、作成イベントがトリガされていましたが、ユーザがすでに存在しているためにエラーになることがありました。Salesforce によって既存のユーザが再有効化されるようになりました。

プラットフォームの暗号化: Bringing your own encryption key、政府クラウドのサポート、一括暗号化の高速化

Bringing your own encryption key (BYOK) により、データセキュリティをさらに詳細に制御できます。また、FedRAMP の準拠規格の適合、検索インデックスの暗号化、Lightning for Outlook と Lightning Sync の同期などを実行できます。

開発

カスタム Lightning コンポーネントを特定のオブジェクトに制限

Lightning ページで使用するように設計されたカスタム Lightning コンポーネントバンドルがある場合、新しい `<sfdc:object>` タグセットを .design ファイルに追加し、コンポーネントを特定のオブジェクトに制限します。

AppExchange と Salesforce 組織がついに統合

Trailhead と言えば Astro 社、Dreamforce と言えば基調講演会場での自撮りなど、お馴染みの組み合わせがあります。さらにぴったりの組み合わせが導入されました。AppExchange と Salesforce です。組織を離れることなく、アプリケーション、コンポーネント、その他の AppExchange サービスをインストールできるようになりました。

Apex テスト実行に関する詳細情報の表示

[Apex テスト履歴] ページにテストの実行の開始日時が表示されるようになりました。また、状況列が更新されて、テスト実行で失敗したメソッドとキューに追加されたメソッドの数が表示されるようになりました。

Winter '17 の Lightning Experience で使用できない機能

新しい Lightning Experience の機能と機能強化については、Salesforce Classic で使用できる機能と比較した、制限事項や使用できない機能を参照してください。次のトピックを参照して、ビジネスに不可欠な機能がこのリリースで制限されたり、使用できなくなったりしていないか確認してください。このリストを確認する場合には、一時的に Salesforce Classic に切り替えれば新しいインターフェースでまだサポートされていない機能にいつでもアクセスできることを覚えておいてください。

メモ: Lightning Experience で使用できない機能と制限事項の完全なリストは、Salesforce ヘルプの「Lightning Experience で使用できない機能」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

データアクセスおよびビュー: Lightning Experience の考慮事項
セールス機能: Lightning Experience の考慮事項
カスタマーサービスの機能: Lightning Experience の考慮事項
レポートおよびダッシュボード: Lightning Experience の考慮事項
Chatter およびコミュニティ: Lightning Experience の考慮事項
ナビゲーションおよびアクション: Lightning Experience の考慮事項
検索: Lightning Experience の考慮事項
データのインポートおよび管理: Lightning Experience の考慮事項
セキュリティ: Lightning Experience の考慮事項

データアクセスおよびビュー: Lightning Experience の考慮事項

Lightning Experience でリストビューを使用するときに想定される問題について説明します。

リストビュー

リストビューでは一度に最大 200 項目まで選択できます。200 項目を超える場合は、ヘッダー行のチェックボックスで最初の 200 行のみが選択されます。

リストビューで、スクロールせずに 50 個の表示された項目を一度に読み込みます。50 個を超えて項目 (または行) を選択するには、スクロールして最後の項目を読み込み、項目の範囲を選択します。

インライン編集では、1つの項目を編集した後、その変更を複数のレコードに一度に適用することはできません。しかし、複数の行で項目を編集して、その変更をすべて一度に保存することはできます。

リストビューの複数選択は、オブジェクトに一括アクションがあるリストビューのみで使用できます。

セールス機能: Lightning Experience の考慮事項

ここでは、Lightning Experience で営業チームに発生する可能性がある問題について説明します。

取引先階層

取引先階層は Lightning Experience で使用できません。ただし、無料の AppExchange パッケージ Lightning Account Hierarchy を使用することをお勧めします。

取引先チーム

取引先責任者の組織の共有設定が非公開に設定されていても、取引先チームに追加された取引先責任者はデフォルトで非公開にはなりません。

取引先責任者-to-複数取引先

個人取引先を使用している場合は、Salesforce Classic に切り替えて、営業担当が使用する個人取引先ページレイアウトに [関連取引先] 関連リストを追加します。

商談見積のメール送信

PDF のプレビュー、見積詳細ページ、または PDF の横にある [見積 PDF] 関連リストから直接見積をメール送信することはできません。代わりに Salesforce で見積 PDF を作成して保存し、PDF をダウンロードしてからローカルメールアプリケーションを使用してメール送信できます。

契約

- [契約履歴] 関連リストは使用できません。
- 状況選択リスト値については、契約状況に基づいての絞り込みは行われません。したがって、すべての状況値が選択リストに表示されます。契約について無効な状況を選択すると、エラーメッセージにその契約で有効な値が表示されます。たとえば、新規でコピーされた契約については、「ドラフト」が唯一の有効な値です。

カスタマーサービスの機能: Lightning Experience の考慮事項

組織でカスタマーサービスツールを使用している場合に想定される問題について説明します。通常、Service Cloud データと機能はこのリリースの Lightning Experience ではサポートされていません。ケースはサポートされていますが、Salesforce Classic と完全に同じ機能を使用できるわけではありません。

ソーシャル投稿と人格ホームページ

Lightning Experience から移動することなくソーシャル投稿および人格タブにアクセスできます。

ケースフィードソーシャルアクション

Lightning Experience 内でケースフィードのソーシャルメディアに対していいね!、いいね!の取り消し、ソースの表示、削除を行うことができます。ただし、投稿への返信は Salesforce Classic で行う必要があります。

Open CTI とコールセンター

- 標準搭載されたコールセンターアプリケーションは、Salesforce Classic アプリケーションです。コールセンターアプリケーションでソフトフォンを使用すると、コールセンターアプリケーションが Lightning Experience から起動された場合、これらのソフトフォンは機能しません。Open CTI for Lightning Experience は Lightning アプリケーションでのみ動作し、Open CTI for Salesforce Classic は Classic アプリケーションでのみ動作します。

  Open CTI for Lightning Experience を使用するには、Lightning Experience アプリケーションを作成します。

- Open CTI for Lightning Experience では、新規ブラウザタブやウィンドウで開く画面ポップがサポートされていません。

レポートおよびダッシュボード: Lightning Experience の考慮事項

ここでは、Lightning Experience でレポートとダッシュボードを使用するときに想定される問題について説明します。

Lightning Experience でのダッシュボードへのテーブルの追加

Lightning Experience ダッシュボードのテーブルには、条件付き強調表示と Chatter 写真が表示されますが、条件付き強調表示と Chatter 写真を設定するには、Salesforce Classic に切り替える必要があります。

ゲージグラフにパーセンテージを表示

Lightning Experience のゲージグラフのパーセンテージは非表示にできません。

Chatter およびコミュニティ: Lightning Experience の考慮事項

ここでは、Lightning Experience でユーザが Chatter または Salesforce Communities を使用してコラボレーションするときに想定される問題について説明します。一部のコラボレーション機能はサポートされていません。また、一部の機能は Salesforce Classic と同等ではありません。

Chatter

ユーザが過去にあった質問をすると、Salesforce Classic とは異なり、オートコンプリートオプションは提供されません。

ナビゲーションおよびアクション: Lightning Experience の考慮事項

Lightning Experience でアクションを使用するときに想定される問題について説明します。

クイックアクション

外部オブジェクトに対するクイックアクションはサポートされていません。

検索: Lightning Experience の考慮事項

Lightning Experience で検索するときに想定される問題について説明します。

検索可能なオブジェクト

Salesforce Classic では検索できて Lightning Experience では検索できないオブジェクトは、活動 (行動と ToDo)、添付ファイル、コーチング、コミュニティ、契約品目名、D&B 企業、ドキュメント、ディスカッション、エンタイトルメント、目標、アイデア、Live Chat トランスクリプト、マクロ、総計値、注文、パフォーマンスサイクル、質問、クイックテキスト、見積、人員不在、報奨資金、報奨資金種別、Salesforce CRM Content、セルフサービスユーザ、サービス契約、サービス人員スキル、サービステリトリーメンバー、スキル、ソリューション、トピック、ユーザ、作業指示品目です。

ナレッジ記事は並べ替え不可

ナレッジ記事での検索結果の並べ替えは使用できません。

上位の結果のナレッジ記事でスニペットは非表示

ナレッジ記事が [上位の結果] 検索結果に表示される場合、スニペットは表示されません。検索の範囲が記事である場合にスニペットが表示されます。また、検索結果に表示される列をカスタマイズすることもできません。デフォルトの列は、[記事番号]、[公開状況] (システム管理者が有効にしている場合)、および [最終更新日] です。

データのインポートおよび管理: Lightning Experience の考慮事項

- Data.com Clean は有効または無効にできません。
- Data.com クリーンアップジョブを設定したり、クリーンアップジョブの総計値または分析を表示したりすることはできません。
- クリーンアップジョブを使用していて、オブジェクトで会社情報ルールが有効になっていない場合、ユーザはレコードを手動でクリーンアップできません。クリーンアップジョブに関連付けられている [クリーンアップ] ボタンがオブジェクトレイアウトに含まれていても、Lightning Experience ではボタンは表示されません。
- クリーンアップ情報オブジェクト (取引先、リード、取引先責任者) の項目は変更できません。

セキュリティ: Lightning Experience の考慮事項

Lightning Experience の Salesforce セキュリティ機能で想定される問題について説明します。

JSON 逐次化を使用したプラットフォームの暗号化

JSON 逐次化または Database.Query() を使用しているときは、Lightning Experience で暗号化データがマスクされません。そのデータは、「暗号化されたデータの参照」権限の有無に関係なくプレーンテキストで表示されます。

セールス: Lightning Experience での効率的かつ迅速な販売

Lightning Experience は常に改良されています。マーケティングチームと営業チームは、Voice、拡張メールなどの新しい改善された生産性機能を使用して会社の業務を推進できるようになりました。より多くのレコードでニュース記事が表示されるため、担当者は常に最新情報を入手できます。データ評価によりデータ品質が改善されます。さらに、定番の契約、見積、キャンペーンインフルエンスなどに対する Lightning サポートが追加されました。

このセクションの内容:

主要なセールス機能: Lightning Experience を使用して営業担当の販売をサポート
営業担当が適切な販売ツールにアクセスできるようにサポートします。

生産性機能: Lightning Experience を使用して営業担当の生産性向上をサポート
営業担当は、商談を円滑に進めるための作業に賢く時間を費やすことができます。ToDo と行動をアシスタントのおすすめから作成してより多くの Voice 機能を使用し、Kanban 式のビジュアルレイアウトを活用することで、営業担当が重要事項に集中して迅速に商談を成立できるようにします。

Google インテグレーション: ソフトウェアをインストールせずに Google カレンダー™ のイベントと Salesforce を同期 (ベータ)
営業担当は、手間のかかるデータ入力なしで Google カレンダーのイベントを Salesforce に取り込む簡単な方法を探していますか? これ以上探す必要はありません。Lightning Sync は Google カレンダーと互換性があるため、営業担当が重要な予定を簡単に Salesforce に取り込めるように設定できます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

Microsoft® とのインテグレーション: Microsoft システムと Salesforce 間の同期および操作
Microsoft システムと Salesforce で行った作業を統合し、営業担当の生産性を最大化します。営業担当は、メールアプリケーションと Salesforce 間で取引先責任者、行動、ToDo を同期できます。または、営業担当が Outlook® から直接 Salesforce を操作するように設定できます。

Pardot: より簡単かつ強力に
UI が新しくなり、メールの保存と編集が簡易化し、営業担当がプロスペクトに連絡するときに生産性が向上したことにより、Pardot をより簡単に使用できるようになりました。また、バイヤーのジャーニーがパーソナライズされ、プロスペクトのスコアリングが詳細にできるようになったことにより、Pardot がさらに強力になりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Sales Cloud のその他の変更
使い勝手を向上するために加えられたその他の変更について説明します。

主要なセールス機能: Lightning Experience を使用して営業担当の販売をサポート

営業担当が適切な販売ツールにアクセスできるようにサポートします。

このセクションの内容:

取引先: 担当する個人または法人に関する情報の保存

このリリースでは、Lightning Experience の取引先に注目です。ロゴが強化されて正式リリースされ、エグゼクティブニュースがすぐ目に付く中央に配置されました。

取引先責任者: 知る必要がある人についての知る必要がある内容の把握

取引先責任者-to-複数取引先が大幅に改善され、取引先責任者にニュースが追加されました。

リード: 商談成立がこれほど楽しかったことはない

Lightning Experience のリードは常に改良されています。リードのマージによってデータ品質が改善され、営業担当はリードに関するニュースによって内情に通じるようになります。

キャンペーン:カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを使用した商談のクレジットの複数キャンペーンへの割り当て (正式リリース)

商談成立に貢献した各キャンペーンにクレジットを割り当てる方法を決定します。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

契約: Lightning Experience で業務を行うための合意条項を管理

取引先と商談に関連付けられた契約のライフサイクルを Lightning Experience の追加機能で管理します。契約は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。一部の契約機能は Lightning Experience でのみ使用可能です。

商談: 商談の追跡と管理

スケジュールが設定された商品を追加して、セールスパスの管理を容易にします。

ニュース: 読みつくす

いま入ってきたニュースです。取引先インサイトコンポーネントがニュースという名前に変わり、取引先責任者とリードで使用可能になりました。しかも、ニュース記事を Chatter で共有し、数回クリックするだけでフィードバックを送信できます。

データ評価: Lightning Experience による要求、およびメール通知のサポート

Lightning Experience でデータ評価を要求でき、評価の準備ができると Salesforce からメールが送信されるようになりました。

取引先: 担当する個人または法人に関する情報の保存

このリリースでは、Lightning Experience の取引先に注目です。ロゴが強化されて正式リリースされ、エグゼクティブニュースがすぐ目に付く中央に配置されました。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

取引先に自動アップグレードを追加
組織の取引先を強化するために、指一本動かす必要はありません。新規および既存の組織に、ニュース、ロゴ、および自動入力が標準搭載されます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

取引先ロゴで全体像を把握 (正式リリース)
取引先をかつてないほど明瞭に把握できます。ロゴが取引先レコードに自動的に追加されるようになったため、営業担当は新しい切り口でのビジネスの視覚化が行えます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

会社のトップリーダーの詳細情報を得る
会社の実力者がだれかを知るだけでは十分ではありません。だれが何を考えているのかも知る必要があります。営業担当が取引先レコードで会社のトップエグゼクティブに関する最新ニュースに簡単にアクセスできるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

取引先に自動アップグレードを追加

組織の取引先を強化するために、指一本動かす必要はありません。新規および既存の組織に、ニュース、ロゴ、および自動入力が標準搭載されます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

ニュース
: 米国のニュースソースからカスタマイズされた関連ニュースのリストが、ユーザにタイムリーに提供されます。ニュースは、取引先、取引先責任者、リード、商談、およびホームページで使用できます。ニュースコンポーネントをページレイアウトに追加する必要がある場合があります。

取引先ロゴ
: 米国を拠点とする取引先に企業のロゴが表示されます (ロゴを使用可能な場合)。新しいロゴでソーシャルプロファイルのロゴを置き換えることができます。ロゴは取引先候補でも表示されます。

取引先の自動入力
: ユーザが情報を入力すると、米国を拠点とする企業が [取引先名] 項目に表示されます。ユーザは候補の企業をリストから選択できるため、法人取引先を容易に作成できます (このオプションは Salesforce1 では使用できません)。

それぞれの機能は [取引先設定] ページでオフに切り替えることができますが、オフにする理由があるでしょうか。

重要: 次の条件のいずれかと一致する組織では、これらの機能は自動的には有効になりません。

- 拠点が米国外である組織

- 政府機関、ヘルスケア、金融業、非営利団体など、規制が厳しい一部の業種
- Salesforce への連絡によって除外した組織

ただし、このような組織でも、[取引先設定] ページでこれらの機能を有効にしたり無効にしたりできます。

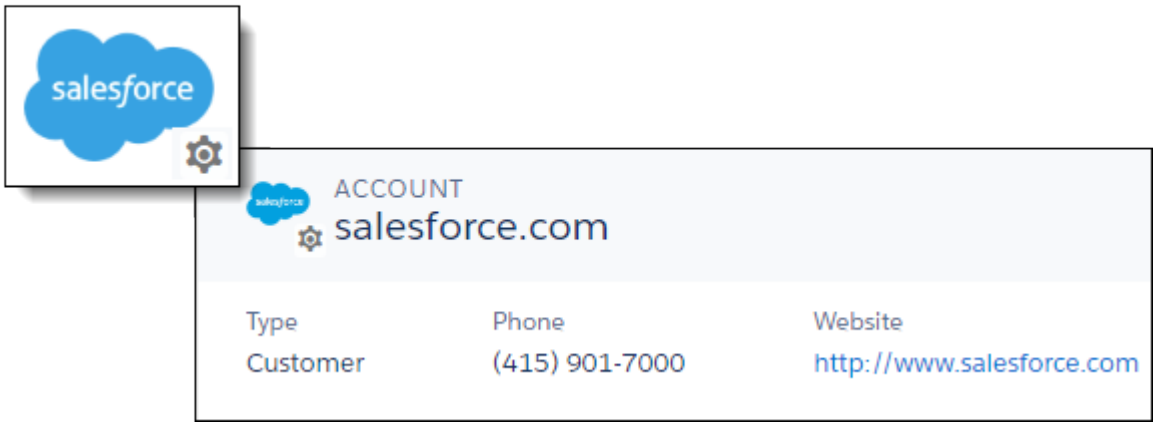
関連トピック:

ニュース: 読みつくす
取引先ロゴで全体像を把握 (正式リリース)
取引先の自動入力で表示される会社数の増加
Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

取引先ロゴで全体像を把握 (正式リリース)

取引先をかつてないほど明瞭に把握できます。ロゴが取引先レコードに自動的に追加されるようになったため、営業担当は新しい切り口でのビジネスの視覚化が行えます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

使用可能になると、米国に本拠地を置く取引先については自動的にロゴが表示されます。営業担当が取引先の作成時に確認した会社の候補でも、ロゴが表示されます。[ソーシャル取引先] を使用している場合は、営業担当がソーシャルネットワークから手動で追加したロゴが最新のロゴに置換されることがあります。



取引先ロゴは、新しい組織と既存の組織のほとんどで有効になりますが、[取引先設定] ページからこの機能をオンまたはオフに切り替えることができます。

関連トピック:

取引先ロゴのフィードバックはお気軽に
取引先に自動アップグレードを追加
Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

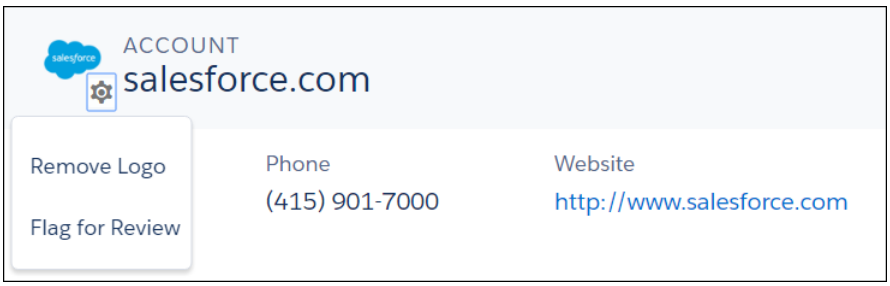
取引先ロゴのフィードバックはお気軽に

取引先レコードにロゴが表示される機能をご満足いただけると確信していますが、そうでない場合はご意見をいただければ、対応いたします。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

次に、フィードバックオプションを示します。

画像の削除
: ロゴが商標権を侵害する場合に、このオプションを使用します。システム管理者のみがロゴを削除できます。ロゴは、組織内のすべてのユーザから削除されます。このアクションは元に戻すことができないため、削除は慎重に行ってください。ただし、誰にでも間違えることはあるため、誤って削除した場合は Salesforce サポートに連絡してください。[画像の削除] オプションは、リリース後 24 時間以内に使用可能になります。

確認フラグ
: ロゴが誤っているか画質が低い場合に、このオプションを使用します。システム管理者とエンドユーザはロゴにフラグを設定できます。ユーザがロゴにフラグを設定すると、そのロゴはユーザのビューから削除されます。同じ組織の別のユーザがこのロゴにフラグを設定すると、そのロゴは組織のすべてのユーザから削除されます。異なる 5 つの組織のユーザが、このロゴにそれぞれフラグを設定した場合は、そのロゴはすべての組織のビューから削除され、完全に消去されます。



ご安心ください。細心の注意を払ってロゴが適切であることを確認してから提供しています。

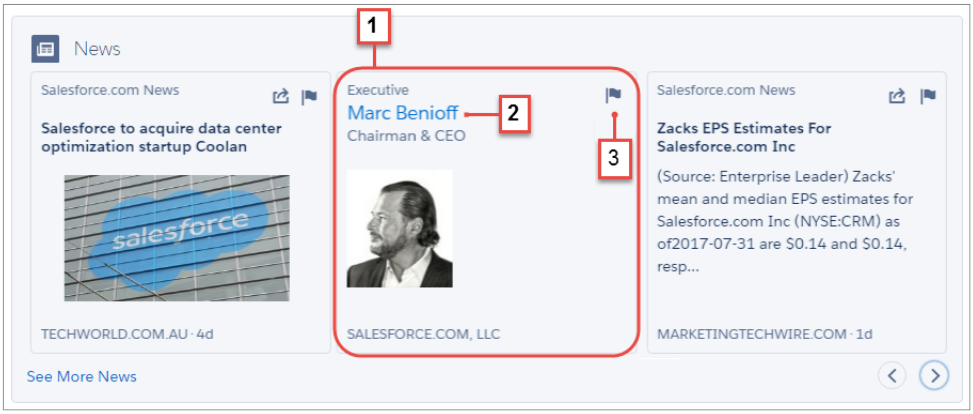
関連トピック:

- 取引先ロゴで全体像を把握 (正式リリース)
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

会社のトップリーダーの詳細情報を得る

会社の実力者がだれかを知るだけでは十分ではありません。だれが何を考えているのかも知る必要があります。営業担当が取引先レコードで会社のトップエグゼクティブに関する最新ニュースに簡単にアクセスできるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

会社の上層部に関するニュース記事がある場合は、取引先レコードにエグゼクティブカード (1) が含まれます。エグゼクティブカードを表示させるには、そのエグゼクティブが Salesforce 内の取引先責任者である必要はありません。その人物に関する重要な情報をカードで確認してからクリックし (2)、その人物に関する関連ニュース項目のリストを確認します。人物が正しくない場合や、名前または役職に誤りがある場合は、そのエグゼクティブに確認フラグ (3) を付けてください。



関連トピック:

- 取引先インサイトは、ニュースに名称変更
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

取引先責任者: 知る必要がある人についての知る必要がある内容の把握

取引先責任者-to-複数取引先が大幅に改善され、取引先責任者にニュースが追加されました。

このセクションの内容:

取引先責任者を複数の取引先に関連付ければ、さらにうまくいく

取引先責任者-to-複数取引先では、優れた機能により営業担当が容易に人とビジネスの関係を管理できるので、トップへのアプローチを継続できます。新しい機能を使用すれば、この多対多数データモデルを採用したくなること間違いなしです。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

取引先責任者のニュースが届きました

営業担当が販売のターゲット人物についての最新かつタイムリーなニュースにアクセスできるようなれば、事前準備でその営業担当の右に出る人はいなくなるでしょう。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Summer '17 での登録情報照会の廃止

登録情報照会により、ユーザは送信 Salesforce メールを送信して取引先責任者と個人取引先で更新された取引先責任者情報を要求できますが、これは Summer '17 で廃止される予定です。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

取引先責任者を複数の取引先に関連付ければ、さらにうまくいく

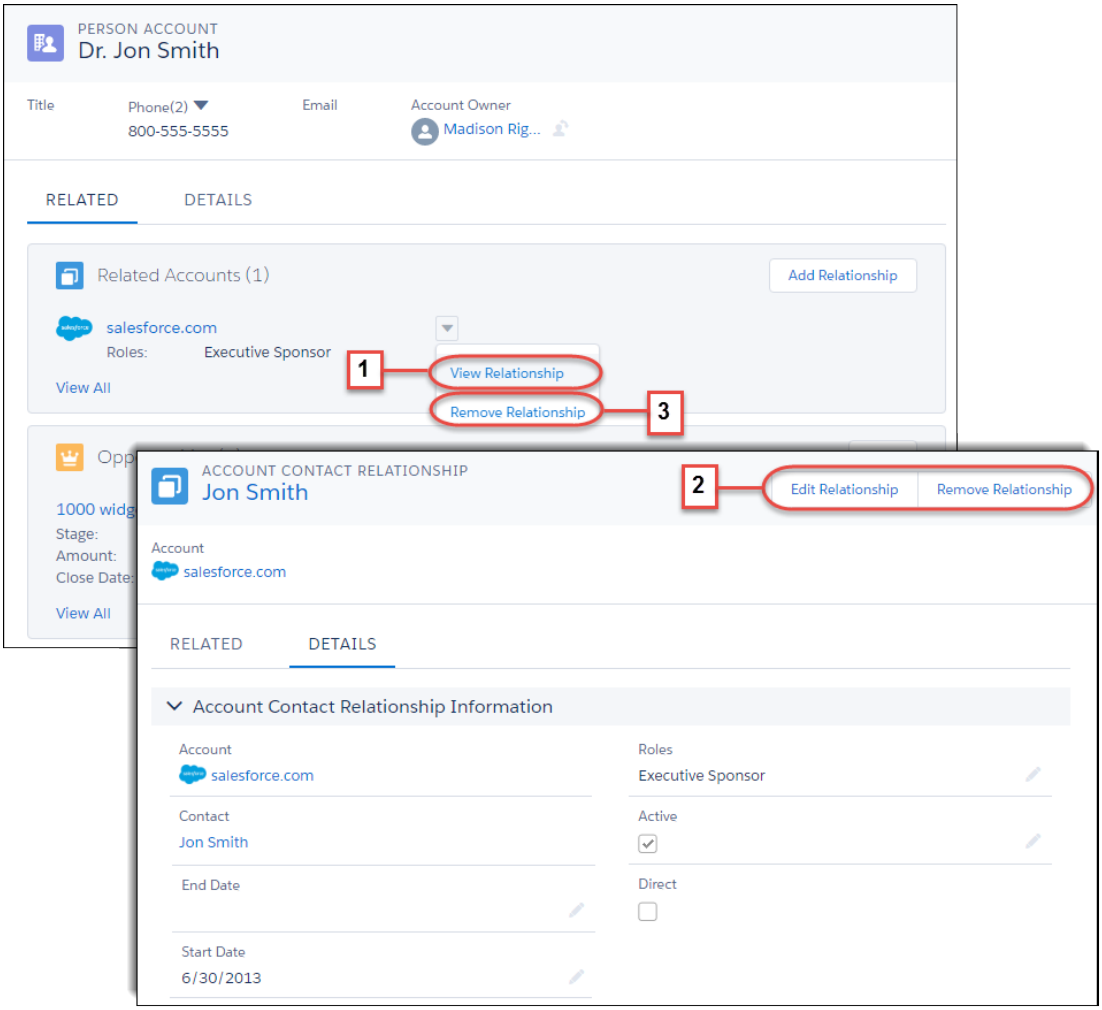
取引先責任者-to-複数取引先では、優れた機能により営業担当が容易に人とビジネスの関係を管理できるので、トップへのアプローチを継続できます。新しい機能を使用すれば、この多対多数データモデルを採用したくなること間違いなしです。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

取引先責任者-to-複数取引先はどのように改善されたのでしょうか。ここではその改善点について説明します。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

- 個人取引先を間接的に法人取引先に関連付けることができます。Salesforce Classic の [設定] から、営業担当が使用する個人取引先ページレイアウトに [関連取引先] 関連リストを追加します。
- トリガが、[取引先と取引先責任者のリレーション] オブジェクトでサポートされるようになりました。たとえば、トリガを作成し、リレーションが無効としてマークされた場合に、終了日に現在の日付が入力されるようにします。
- 入力規則が、[取引先と取引先責任者のリレーション] オブジェクトでサポートされるようになりました。たとえば、入力規則を作成し、リレーションが保存された場合に、開始日を参照のみに変更します。
- 取引先と取引先責任者のリレーションをコミュニティビルダーベースのテンプレートから参照、作成、および編集できるようになりました。
- 新しい [リレーションを表示] アクション (1) により、営業担当に取引先と取引先責任者のリレーションの詳細ページが表示されます。そのページから、間接リレーションを編集または削除 (2) したり、直接リレーションを編集したりできます。もちろん、取引先レコードや取引先責任者レコードの関連リストからも、引き続き間接リレーション (3) を削除できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 取引先責任者-to-複数取引先の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

暗号化項目で Shared Activities 参照を使用可能

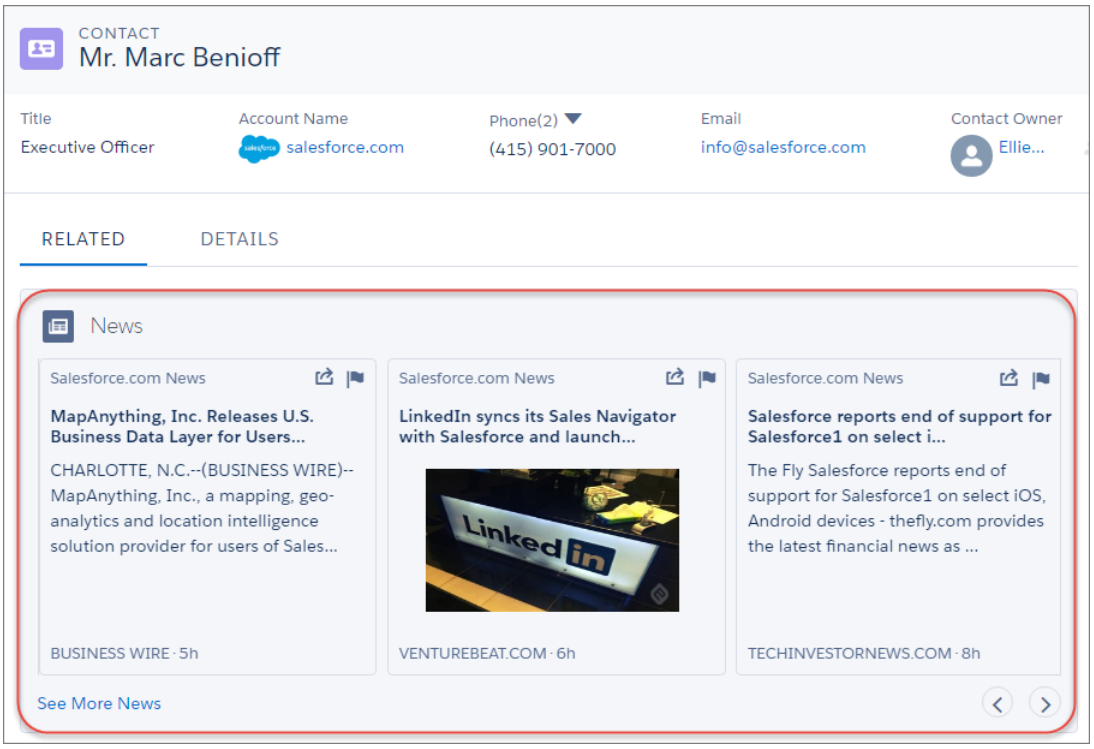
取引先責任者のニュースが届きました

営業担当が販売のターゲット人物についての最新かつタイムリーなニュースにアクセスできるようなれば、事前準備でその営業担当の右に出る人はいなくなるでしょう。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

取引先責任者レコードに関するニュースは、他のオブジェクトと同様に動作します。ニュース項目は、取引先責任者の関連取引先、そのエグゼクティブ、業種に基づいて、米国のニュースソースから選択されます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Performance** Edition、**Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition、および **Professional** Edition



ニュースは新しい組織と既存の組織の両方で有効になりますが、ニュースコンポーネントを取引先責任者ページレイアウトに追加する必要がある場合があります。すべてのオブジェクトのニュースは、[取引先設定]ページの [設定] で無効にできます。

関連トピック:

- 取引先インサイトは、ニュースに名称変更
- Chatter のニュースを拡散開始
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Summer '17 での登録情報照会の廃止

登録情報照会により、ユーザは送信 Salesforce メールを送信して取引先責任者と個人取引先で更新された取引先責任者情報を要求できますが、これは Summer'17 で廃止される予定です。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

この廃止計画については、最新情報を照会する必要があります。詳細をすべて確認してください。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

リード: 商談成立がこれほど楽しかったことはない

Lightning Experience のリードは常に改良されています。リードのマージによってデータ品質が改善され、営業担当はリードに関するニュースによって内情に通じるようになります。

このセクションの内容:

Lightning Experience での重複リードの特定とマージ
重複リードレコードを取り除いて、複数の営業担当が同じリードに連絡しないようにします。データ品質の向上が容易になりました。営業担当は、重複リードレコードを見つけたときに解決できます。Salesforce は複数のレコードで主要項目の違いを特定し、営業担当が上位 3 つのレコードから最適な情報をマージできるようにします。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

リードのニュースで案件成立への道をひらく
販売のターゲット人物に関する最新のタイムリーなニュースに営業担当がアクセスすると、販売増につながります。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Lightning Experience での重複リードの特定とマージ

重複リードレコードを取り除いて、複数の営業担当が同じリードに連絡しないようにします。データ品質の向上が容易になりました。営業担当は、重複リードレコードを見つけたときに解決できます。Salesforce は複数のレコードで主要項目の違いを特定し、営業担当が上位 3 つのレコードから最適な情報をマージできるようにします。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

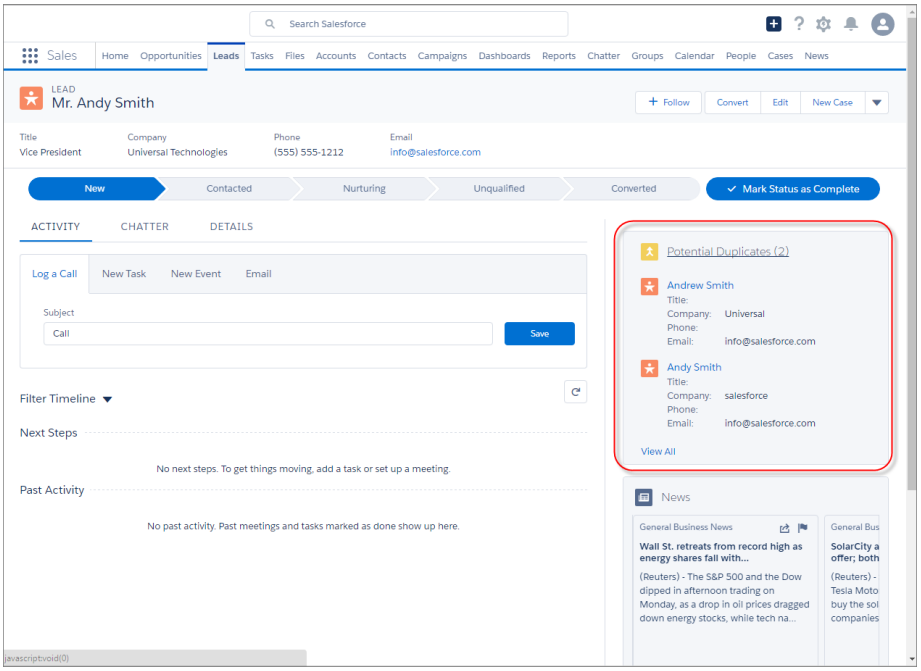
エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition (Sales Cloud 付属)

ユーザ権限

リードを参照する
- リードに対する「参照」

リードをマージする
- リードに対する「削除」



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

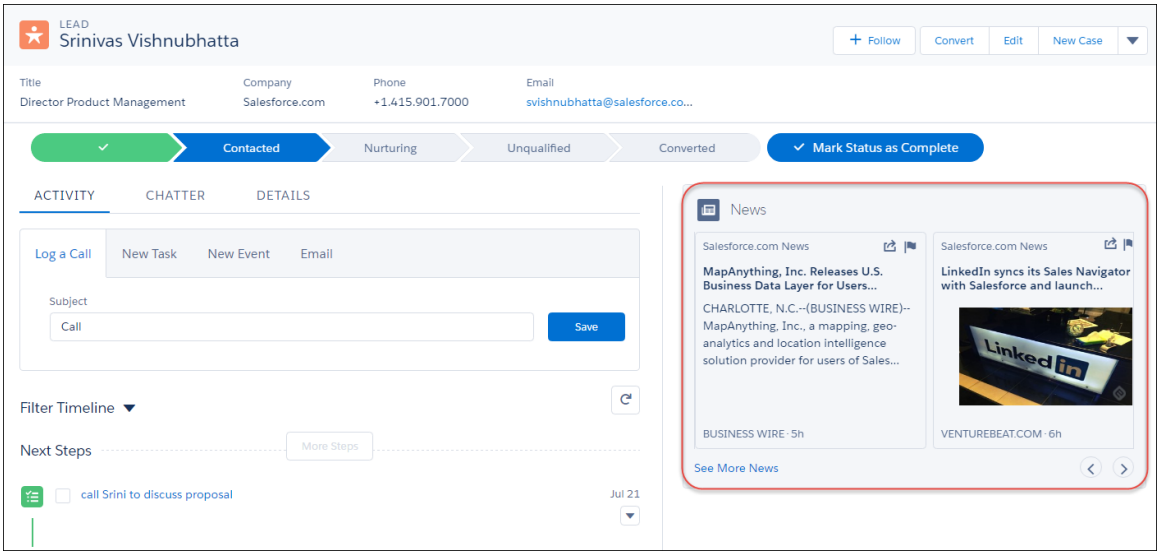
リードのニュースで案件成立への道をひらく

販売のターゲット人物に関する最新のタイムリーなニュースに営業担当がアクセスすると、販売増につながります。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

リードレコードに関するニュースは、他のオブジェクトと同様に動作します。ニュース項目は、リードの関連取引先、そのエグゼクティブ、業種に基づいて、米国のニュースソースから選択されます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition



ニュースは新しい組織と既存の組織の両方で有効になりますが、ニュースコンポーネントをリードページレイアウトに追加する必要がある場合があります。すべてのオブジェクトのニュースは、[取引先設定]ページの[設定] で無効にできます。

関連トピック:

- 取引先インサイトは、ニュースに名称変更
- Chatter のニュースを拡散開始
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス
- *Salesforce* ヘルプ:ニュースコンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

キャンペーン: カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを使用した商談のクレジットの複数キャンペーンへの割り当て (正式リリース)

商談成立に貢献した各キャンペーンにクレジットを割り当てる方法を決定します。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

- カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを使用した商談のクレジットの複数キャンペーンへの割り当て (正式リリース)
  複数のキャンペーンにわたる柔軟な収益属性により、1) ビジネスインテリジェンスの向上、2) マーケティングアカウンタビリティの増大、3) セールスとマーケティングの連携改善が実現します。
- カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスの設定
  マーケティング部門は、複数のキャンペーンに収益を割り当てることができます。

カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを使用した商談のクレジットの複数キャンペーンへの割り当て (正式リリース)

複数のキャンペーンにわたる柔軟な収益属性により、1) ビジネスインテリジェンスの向上、2) マーケティングアカウンタビリティの増大、3) セールスとマーケティングの連携改善が実現します。

カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスでは、複数の方法を設定して、キャンペーンが商談に及ぼす影響を追跡できます。使用する方法ごとに、別個のキャンペーンインフルエンス属性モデルを作成します。キャンペーンによって発生した商談のクレジットをキャンペーンに割り当てるには、マーケティングユーザおよび営業ユーザが手動でキャンペーンを商談に関連付けます。自分または自分のパートナーがトリガとワークフローを作成し、レコードを自動的に追加することもできます。ユーザは、キャンペーンで生成した商談、および合計収益をキャンペーン詳細ページで確認できます。

収益をキャンペーンに割り当てる方法の決定

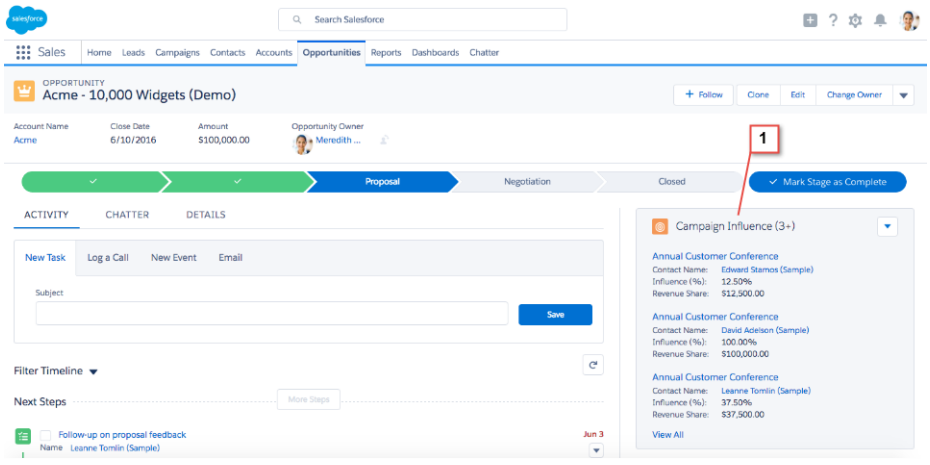
標準の Salesforce インフルエンスモデルでは、収益クレジットの 100% が主キャンペーンに割り当てられ、ユーザが商談に割り当てたその他のキャンペーンには収益クレジットが割り当てられません。より柔軟に収益をキャンペーンに割り当てるため、独自にまたはパートナーに依頼してカスタムインフルエンス属性モデルを作成できます。

たとえば、商談のクレジットを、それに関連したすべてのキャンペーンに均等に割り当てるモデルを作成します。または、商談に関連する最初のキャンペーンまたは最後のキャンペーンに 100% のクレジットを割り当てるモデルを作成します。カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスでは、ほぼどのような状況でも、ビジネスに合ったモデルを作成できます。

セールスユーザやマーケティングユーザがキャンペーンインフルエンスレコードを追加したり編集したりできないようにする場合は、属性モデルをロックできます。ロックされたモデルのレコードは、API でのみ更新できます。

商談に影響したキャンペーンの確認

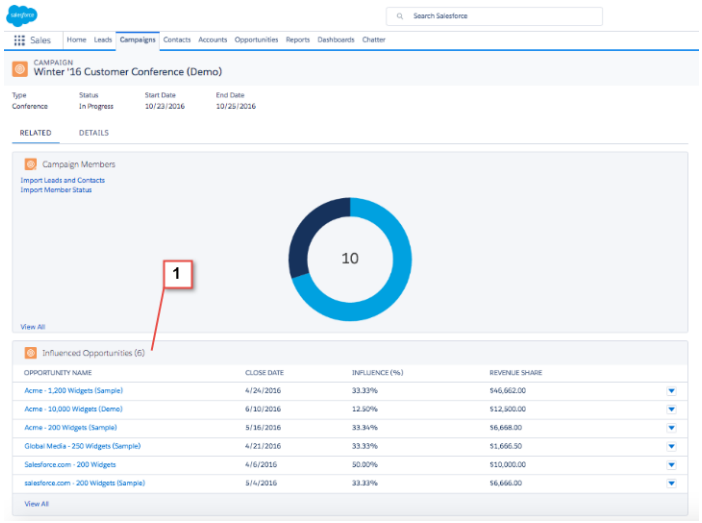
キャンペーンインフルエンスレコードは、どのキャンペーンが特定の商談に影響したかを示します。どのキャンペーンが商談に貢献したかをユーザが確認できるようにするには、[キャンペーンインフルエンス] 関連リスト (1) を商談ページレイアウトに追加します。[キャンペーンインフルエンス] 関連リストには、[設定] でプライマリモデルとして指定した属性モデルのレコードのみ表示されます。ユーザがキャンペーンインフルエンスレコードの追加と編集を商談詳細ページから行うことができるようにするには、プライマリモデルのロックを解除したままにします。その他の属性モデルはキャンペーンインフルエンスレコードを獲得できますが、トリガ、ワークフロー、API を経由する必要があります。



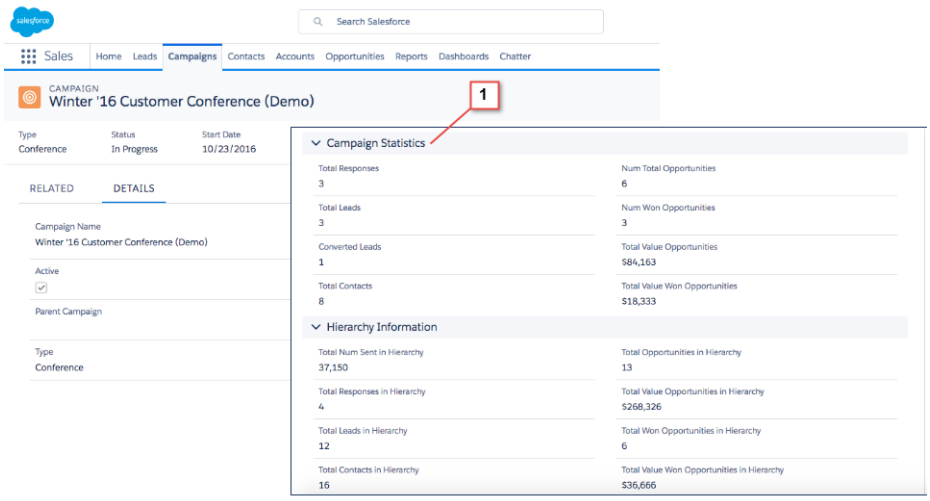
ビジネスニーズに応じて、カスタム項目をキャンペーンインフルエンスレコードに追加できます。たとえば、キャンペーンが商談に貢献した順位を追跡する場合は、数値項目を追加できます。

キャンペーンで生成された商談数の確認

[影響を受ける商談] 関連リスト (1) をキャンペーンページレイアウトに追加すると、ユーザはキャンペーンで生成された商談の数を明確に確認できるようになります。



キャンペーン詳細ページの [キャンペーン統計] セクションには、キャンペーンのインフルエンスレコードでの属性のパーセントに基づいて、キャンペーンで得られた収益が表示されます。[キャンペーン統計] セクションには、キャンペーンで生成された商談の現在の数、および成立した合計数も表示されます。



カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスの設定

マーケティング部門は、複数のキャンペーンに収益を割り当てることができます。

ユーザ権限

カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを設定する
- 「アプリケーションのカスタマイズ」

1. Sales Cloud または CRM 権限セットライセンスがユーザプロファイルに設定されていることを確認します。

   これらの権限セットでは、カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを有効にしたり管理したりできます。

2. カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを [設定] で有効にします。

   デフォルトでは、Salesforce 属性モデルがプライマリモデルとして選択されています。Salesforce モデルは常にロックされています。ロックされたモデルのキャンペーンインフルエンスレコードの追加や編集は、ワークフローと API を介してのみ実行できます。ユーザは Salesforce でレコードを手動追加できません。

3. 元のバージョンのキャンペーンインフルエンスを使用する場合は、属性が 0% の既存のキャンペーンインフルエンスレコードを新しい Salesforce モデルに移行するかどうかを選択します。

4. 独自の方法を実装して商談のクレジットをキャンペーンに割り当てる場合は、独自のカスタム属性モデルを追加します。

   複数のインフルエンスモデルを設定する場合は、いずれかをプライマリモデルとして指定します。プライマリモデルのレコードは、商談の [キャンペーンインフルエンス] 関連リストおよびキャンペーンの [影響を受ける商談] 関連リストに表示されます。

5. キャンペーンインフルエンスの権限を、それを必要とするセールスユーザとマーケティングユーザに割り当てます。

6. [キャンペーンインフルエンス] 関連リストを商談ページレイアウトに追加します。

   この関連リストには、商談に関連したキャンペーンが表示されます。プライマリインフルエンスモデルのキャンペーンインフルエンスレコードのみがリストに表示されます。

7. [影響を受ける商談] 関連リストをキャンペーンページレイアウトに追加します。

   この関連リストには、キャンペーンの影響を受けた商談が表示されます。プライマリインフルエンスモデルのキャンペーンインフルエンスレコードのみがリストに表示されます。

8. [キャンペーン結果] セクションをキャンペーンページレイアウトに追加します。

   [キャンペーン結果] セクションには、プライマリキャンペーンインフルエンスモデルに基づいて、キャンペーンで得られた合計金額が表示されます。

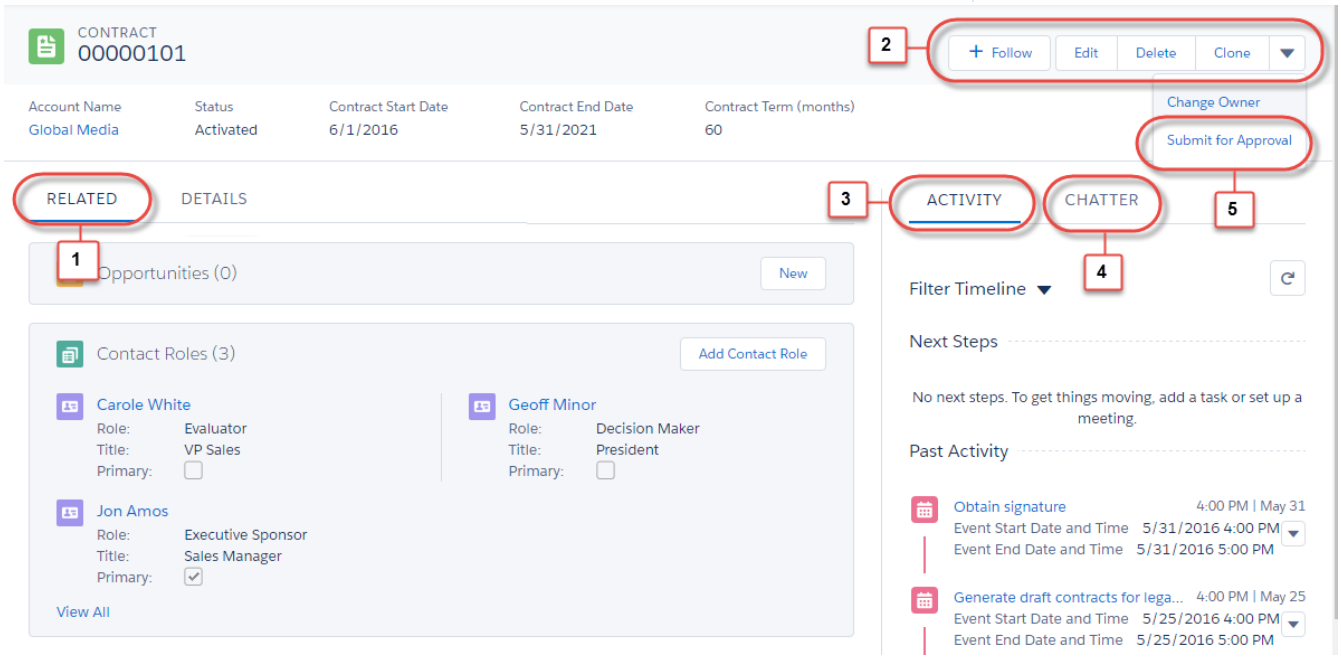
契約: Lightning Experience で業務を行うための合意条項を管理

取引先と商談に関連付けられた契約のライフサイクルを Lightning Experience の追加機能で管理します。契約は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。一部の契約機能は Lightning Experience でのみ使用可能です。

エディション

使用可能なエディション: **Performance** Edition、**Developer** Edition

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition (Sales Cloud 付属)



- 取引先責任者の役割やメモなどに関する情報を管理します (1)。
- 取引先と商談の契約の作成、更新、削除を行います (2)。
- メール、行動、記録された活動、ToDo を活動タイムラインで管理します (3)。これは Lightning Experience 固有の機能です。
- 契約管理プロセス中に、Chatter を使用してコラボレーションします。情報、更新、ドキュメントを共有し、契約レコードの状況と主要項目の変更を監視します (4)。
- 承認プロセスを管理します (5)。
- Kanban ビューの概要をつかみます。これは Lightning Experience 固有の機能です。

契約関連リストを取引先と商談に追加している場合は、何も実行する必要はありません。関連リストは Lightning Experience に含まれます。

契約の項目を Chatter で監視するには、追跡する項目のフィード追跡を有効にします。

関連トピック:

- Kanban: リード、契約、キャンペーンを視覚的に追跡および管理
- セールス機能: Lightning Experience の考慮事項
- *Salesforce* ヘルプ: プロセスの自動化: Lightning Experience にはない機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス
- *Idea Exchange*: Lightning Experience で使用可能な納入商品、契約、見積

商談: 商談の追跡と管理

スケジュールが設定された商品を追加して、セールスパスの管理を容易にします。

エディション

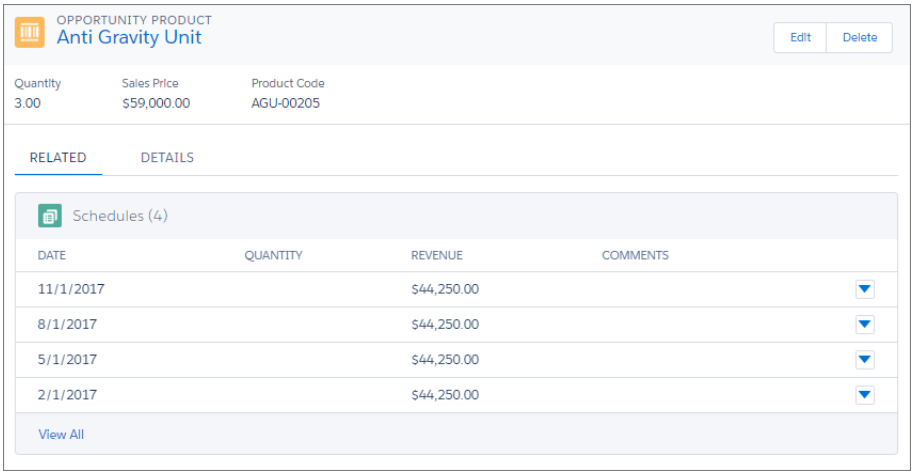
Lightning Experience で使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

- Lightning Experience でのスケジュールを使用した商品の追加
  場所や時間に制約されることなく、収益または数量によるスケジュールを設定した商品を商談に追加できます。営業担当が収益や数量スケジュールを達成した商品を商談に追加すると、達成済みスケジュールが商談品目に追加されます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。
- セールスパスの有効化がさらに簡単に
  メインの [セールスパス設定] ページからセールスパスの有効化または無効化を行います。設定ウィザードを再度実行する必要はありません。ユーザが使用できる既存のセールスパス、および後で有効にするために保存したセールスパスを一目で確認できるようになりました。新しいセールスパスを使用可能にするときに、ワンクリックで有効にできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。
- Lightning Experience での商談への見積の追加
  Lightning Experience の見積を利用して、会社で提供する商品およびサービスの価格を顧客に提示できるようになりました。営業担当は見積と見積品目名の作成および編集を行って見積を商談に追加し、PDF 形式で保存できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Lightning Experience でのスケジュールを使用した商品の追加

場所や時間に制約されることなく、収益または数量によるスケジュールを設定した商品を商談に追加できます。営業担当が収益や数量スケジュールを達成した商品を商談に追加すると、達成済みスケジュールが商談品目に追加されます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。



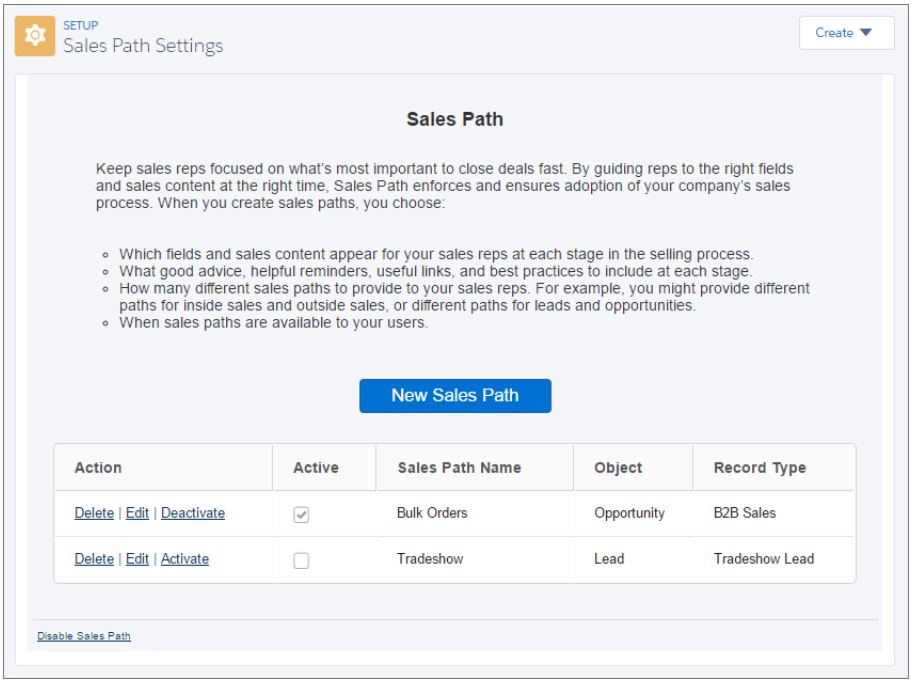
Salesforce Classic に戻って商品スケジュールを有効にするか、商品のスケジュールを設定または変更します。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

セールスパスの有効化がさらに簡単に

メインの[セールスパス設定]ページからセールスパスの有効化または無効化を行います。設定ウィザードを再度実行する必要はありません。ユーザが使用できる既存のセールスパス、および後で有効にするために保存したセールスパスを一目で確認できるようになりました。新しいセールスパスを使用可能にするときに、ワンクリックで有効にできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

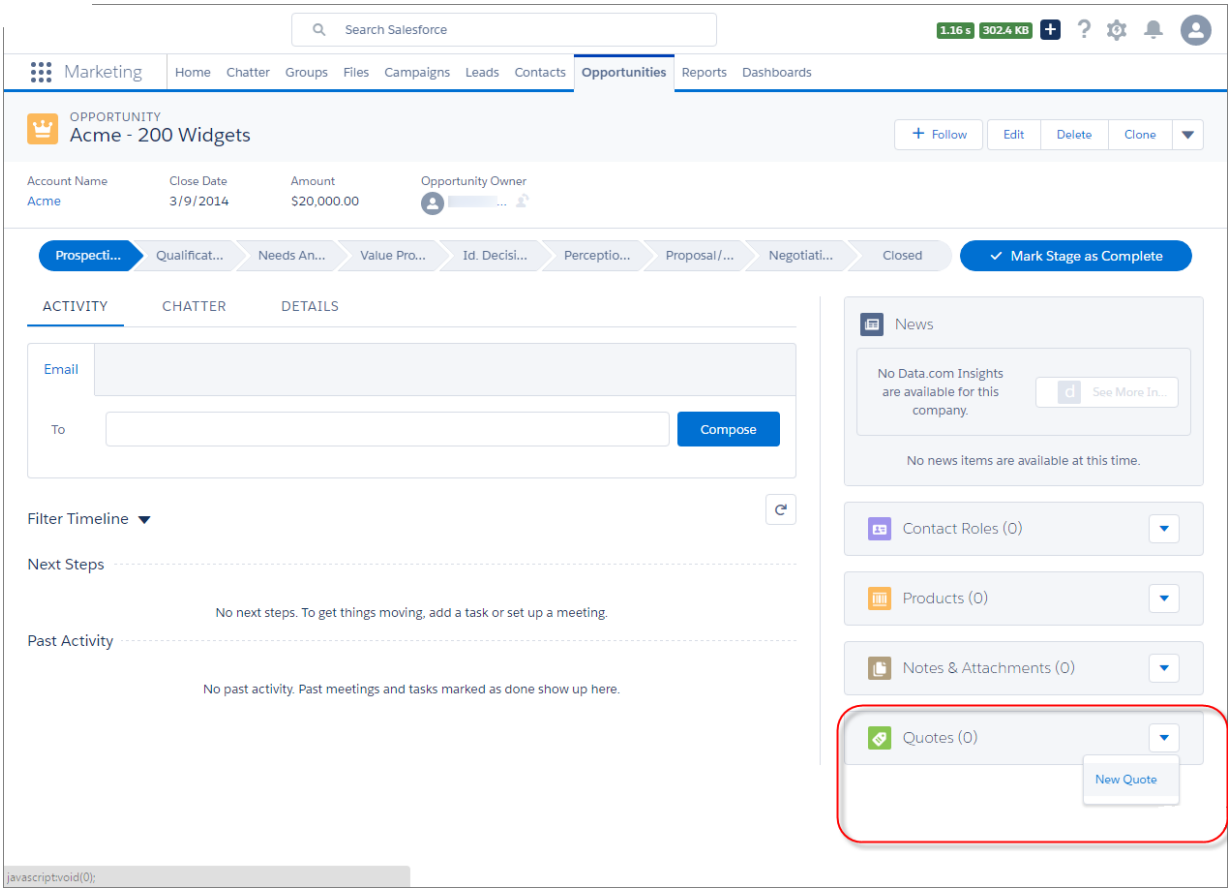
Lightning Experience での商談への見積の追加

Lightning Experience の見積を利用して、会社で提供する商品およびサービスの価格を顧客に提示できるようになりました。営業担当は見積と見積品目名の作成および編集を行って見積を商談に追加し、PDF 形式で保存できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Performance** Edition、**Developer** Edition

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition (Sales Cloud 付属)



関連トピック:

- セールス機能: Lightning Experience の考慮事項
- Salesforce1 での商談への見積の追加
- *Salesforce* ヘルプ: 見積の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Idea Exchange*: Lightning Experience で見積を作成

ニュース: 読みつくす

いま入ってきたニュースです。取引先インサイトコンポーネントがニュースという名前に変わり、取引先責任者とリードで使用可能になりました。しかも、ニュース記事を Chatter で共有し、数回クリックするだけでフィードバックを送信できます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

取引先インサイトは、ニュースに名称変更
またもやりました。最初は取引先ニュースで、次が取引先インサイト、今はニュースです。ただし、名前だけではなく、ニュース機能自体も改良しました。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

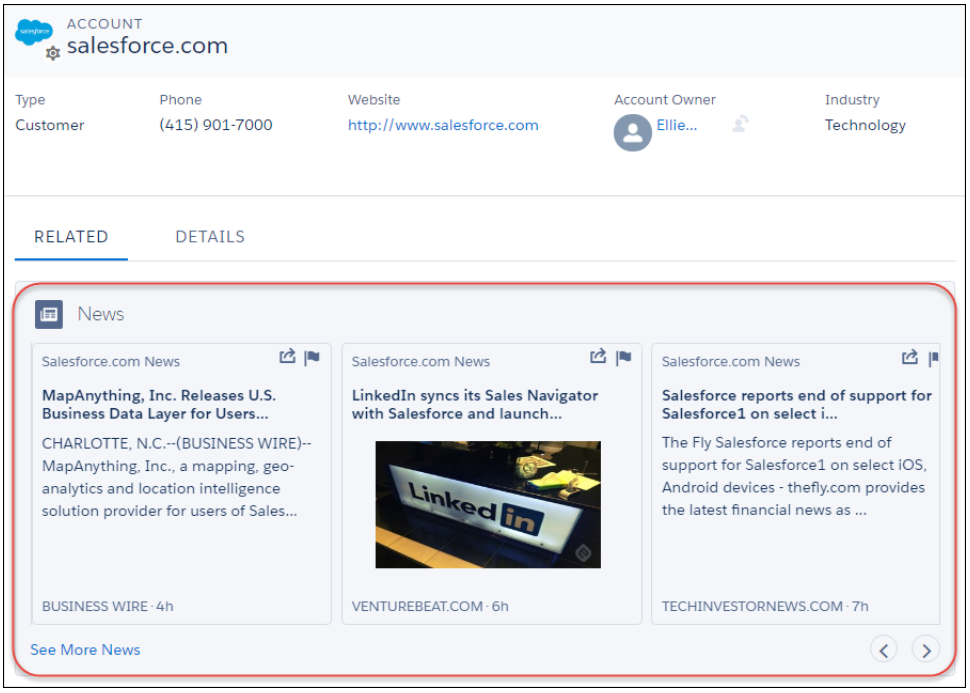
Chatter のニュースを拡散開始
営業担当は Chatter でニュース記事を共有して、組織の全員に最新ニュースを配信できます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

ニュース項目のフィードバックを送信するときのクリック数の削減
ニュースフィードバックオプションが簡略化され、問題発生時のフィードバックが簡単になりました。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

取引先インサイトは、ニュースに名称変更

またもやりました。最初は取引先ニュースで、次が取引先インサイト、今はニュースです。ただし、名前だけではなく、ニュース機能自体も改良しました。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

営業担当は、関連ニュース記事やTwitterの投稿をタイムリーに受け取って取引先や商談について最新の状況を把握できますが、さらに取引先責任者やリードレコードに関するニュースも確認できるようになりました。しかも、それぞれのニュース記事を Chatter で共有できます。



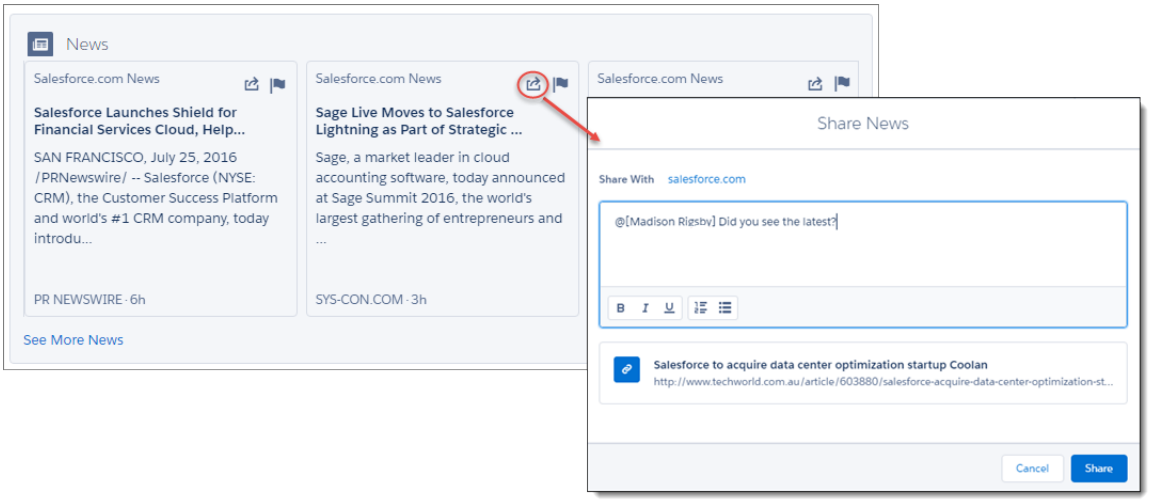
関連トピック:

- 取引先責任者のニュースが届きました
- リードのニュースで案件成立への道をひらく
- Chatter のニュースを拡散開始
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Chatter のニュースを拡散開始

営業担当は Chatter でニュース記事を共有して、組織の全員に最新ニュースを配信できます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

ニュース機能には米国発のタイムリーで関連性のあるニュースが含まれており、取引先、取引先責任者、リード、商談、およびホームページで使用できます。営業担当は、他の人にとっても重要になると思われる記事を見つけたら、共有アイコン ( ) をクリックして、他の人と簡単に共有するか、関連レコードの Chatter フィードに投稿することができます。



営業担当がレコードの詳細ページで新しい記事を共有すると、記事がそのレコードのChatterフィードに投稿されます。個々のユーザまたはグループに @メンションすることもできます。

ホームまたはニュースアプリケーションで新しい記事を共有すると、記事が営業担当自身のChatterプロファイルに投稿されるため、すべてのフォロワーに表示されます。

関連トピック:

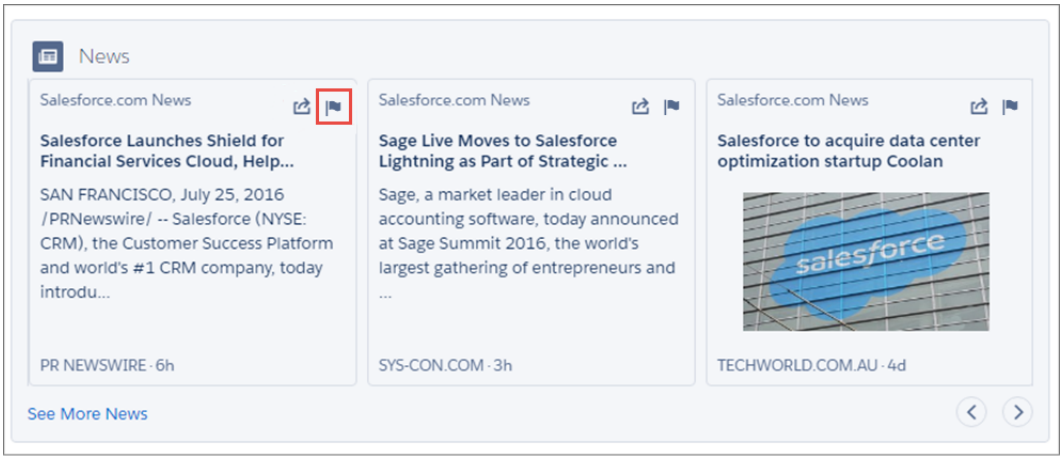
- リードのニュースで案件成立への道をひらく
- 取引先責任者のニュースが届きました
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

ニュース項目のフィードバックを送信するときのクリック数の削減

ニュースフィードバックオプションが簡略化され、問題発生時のフィードバックが簡単になりました。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

ニュース記事またはTwitter投稿が対象のレコードと関係性がない、またはエグゼクティブについて誤った情報があるなどの報告を営業担当がする場合は、フラグアイコン ( ) をクリックします。Salesforce はその項目を調査し、必要があれば修正を行います。

[類似のニュースの表示件数を増やす] と [類似のニュースの表示件数を減らす] オプションは、ニュース項目の関係性を改善するために使用されましたが、廃止されました。



データ評価: Lightning Experience による要求、およびメール通知のサポート

Lightning Experience でデータ評価を要求でき、評価の準備ができると Salesforce からメールが送信されるようになりました。

エディション

Lightning Experience で使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Lightning Experience での取引先データ評価の要求

Lightning Experience を使用して Data.com Clean データ評価を要求できるようになり、取引先データの品質に関して情報に基づく判断を下せるようになりました。これまで、データ評価を要求するには Salesforce Classic を使用する必要がありました。評価では、取引先の全体的なデータ品質の概要と、主要な取引先項目の分析が提供されます。組織のデータが変更されることはありません。データ評価は米国とカナダの組織のみで使用できます。

データ評価完了通知のメール受信

組織の取引先レコード数が 100 を超える場合、ユーザが要求したデータ評価が完了すると、通知がメールで送信されるようになりました。これまで、通知はメールで送信されませんでした。Lightning Experience では引き続き通知を受信します。

Lightning Experience での取引先データ評価の要求

Lightning Experience を使用して Data.com Clean データ評価を要求できるようになり、取引先データの品質に関して情報に基づく判断を下せるようになりました。これまで、データ評価を要求するには Salesforce Classic を使用する必要がありました。評価では、取引先の全体的なデータ品質の概要と、主要な取引先項目の分析が提供されます。組織のデータが変更されることはありません。データ評価は米国とカナダの組織のみで使用できます。

ユーザ権限

データ評価を参照する
- 「データ評価」

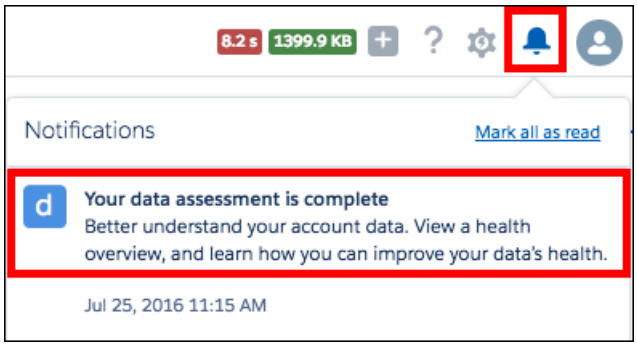
データ評価を要求するには、Data.com クリーンアップルールを有効化します。

メモ: Data.com Clean ライセンスがあり、クリーンアップジョブを使用する場合は、データ評価の要求ではなく、無償の AppExchange パッケージ「Data.com Clean Reports」の使用をお勧めします。

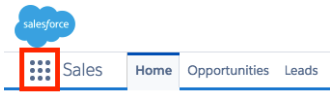
1. [設定]から、[クイック検索]ボックスに「クリーンアップルール」と入力し、[クリーンアップルール]を選択します。
2. 取引先の会社情報ルールを有効化します。
   ルールを有効化するには、データ評価の契約条件に同意する必要があります。

重要: 組織の取引先数が 100 以下の場合、評価の準備ができても通知は送信されません。

組織の取引先数が 100 を超える場合、評価が準備できると、Salesforce によりメールおよび Lightning Experience で通知されます。



組織の規模によっては、評価に 24 時間以上かかることがあります。評価が完了したら、Lightning Experience のアプリケーションランチャーに移動し、データ評価アプリケーションを選択して、評価をいつでも参照することができます。



評価を組織の他のユーザと共有するには、それらのユーザに「データ評価」権限を付与します。

関連トピック:

このリリースの Lightning Experience の機能

データ評価完了通知のメール受信

組織の取引先レコード数が 100 を超える場合、ユーザが要求したデータ評価が完了すると、通知がメールで送信されるようになりました。これまで、通知はメールで送信されませんでした。Lightning Experience では引き続き通知を受信します。

関連トピック:

このリリースの Lightning Experience の機能

生産性機能: Lightning Experience を使用して営業担当の生産性向上をサポート

営業担当は、商談を円滑に進めるための作業に賢く時間を費やすことができます。ToDo と行動をアシスタントのおすすめから作成してより多くの Voice 機能を使用し、Kanban 式のビジュアルレイアウトを活用することで、営業担当が重要事項に集中して迅速に商談を成立できるようにします。

このセクションの内容:

ホーム: アシスタントに機能追加

アシスタントがさらに適切で実効性のあるものに更新されました。営業担当は、メールの送信、ToDo または行動の作成など、異なるおすすめに対して直接アクションを実行できます。営業担当は関連のないおすすめを閉じることもできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Lightning Voice: 新しい通話機能の追加

通話や通話転送に関する新しい機能など、多数の新機能を Voice に追加しました。また、Lightning Voice は Winter '17 リリースからはユーティリティバーでのみ使用できるようになるため、この機能を継続して使用するには追加の作業が必要です。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

メール: Lightning Experience でメールに簡単に対応

拡張メールを使用している組織では、必要なときに必要な場所で対応できる Salesforce のメールでさらに簡単に生産性を上げることができます。しかも、API による 1 日の送信メール数の組織制限が緩和されました。

活動: Lightning Experience で必要な活動のみ確認

グローバル検索で活動タイムラインを絞り込んで ToDo と行動を検索できるようになったことで、営業担当による最も関連性の深い活動の検索がかつてないほど簡単になりました。カレンダーが改善され、時間を簡単に管理できます。

リストビュー: Lightning Experience のインライン編集と一括アクションを使用した仕事の迅速な完了

営業担当がリストビューから作業するときに、数回クリックするだけでより多くの作業を完了できるようになりました。項目をインライン編集するか、または複数のレコードを選択して一括アクションを実行します。メンバーをすばやくキャンペーンに追加したり、キューからリードを受け取ったり、ボタンクリックでカスタム Visualforce アクションを実行したりすることもできます。

Kanban: リード、契約、キャンペーンを視覚的に追跡および管理

商談で使用する Kanban スタイルと同じビジュアルレイアウトを使用すれば、営業担当はリード、契約、キャンペーンの進捗状況をさらに効果的に監視できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

ホーム: アシスタントに機能追加

アシスタントがさらに適切で実効性のあるものに更新されました。営業担当は、メールの送信、ToDo または行動の作成など、異なるおすすめに対して直接アクションを実行できます。営業担当は関連のないおすすめを閉じることもできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

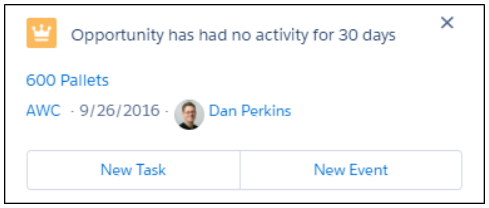
このセクションの内容:

アシスタントでの対応策の実行
営業担当の作業効率を高めるため、おすすめに関連アクションが追加されました。たとえば営業担当が商談に活動予定が含まれていない更新を受信した場合、ToDo または行動をおすすめから直接作成できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

役に立たない「おすすめ」の破棄
営業担当は、関連性のないおすすめを簡単に破棄できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

アシスタントでの対応策の実行

営業担当の作業効率を高めるため、おすすめに関連アクションが追加されました。たとえば営業担当が商談に活動予定が含まれていない更新を受信した場合、ToDo または行動をおすすめから直接作成できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



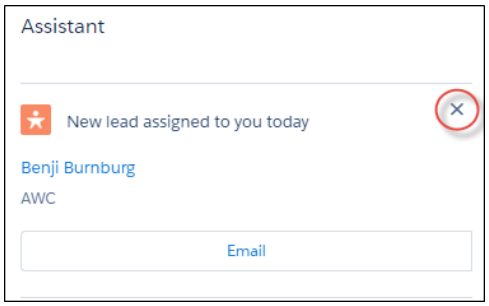
表示されるアクションは、おすすめの種別によって異なります。次のアクションを使用できます。

- ToDo の作成
- 行動の作成
- 商談の編集
- メールの送信

アクションが完了すると、その関連おすすめはアシスタントから削除されます。

役に立たない「おすすめ」の破棄

営業担当は、関連性のないおすすめを簡単に破棄できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



おすすめを破棄するには をクリックします。使用可能なすべてのカードを削除した後でアシスタントが更新され、使用可能なおすすめがさらにチェックされます。

Lightning Voice: 新しい通話機能の追加

通話や通話転送に関する新しい機能など、多数の新機能を Voice に追加しました。また、Lightning Voice は Winter '17 リリースからはユーティリティバーでのみ使用できるようになるため、この機能を継続して使用するには追加の作業が必要です。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

メモ: 現時点では、米国とカナダへの発信電話のみがサポートされています。

エディション

Voice は、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition で使用できます (有料オプション)。

このセクションの内容:

ユーティリティバーから Voice へのアクセス

Lightning Voice を継続して使用するには、システム管理者がアプリケーションマネージャを使用して、ページ下部のユーティリティバーから機能を使用できるようにします。ユーティリティバーでは、営業担当がよく使用するツールにすばやくアクセスできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

キーボードまたは仮想ダイアルパッドを使用した電話発信

営業担当は、Voice コールで通話するために電話番号をレコードと関連付ける必要はもうありません。キーボードまたは仮想ダイアルパッドを使用して、電話番号や内線を入力できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

活動履歴への簡単なアクセス

営業担当が最も頻繁に連絡する電話番号に従来よりも簡単にアクセスできるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

通知と通話転送による不在着信の処理

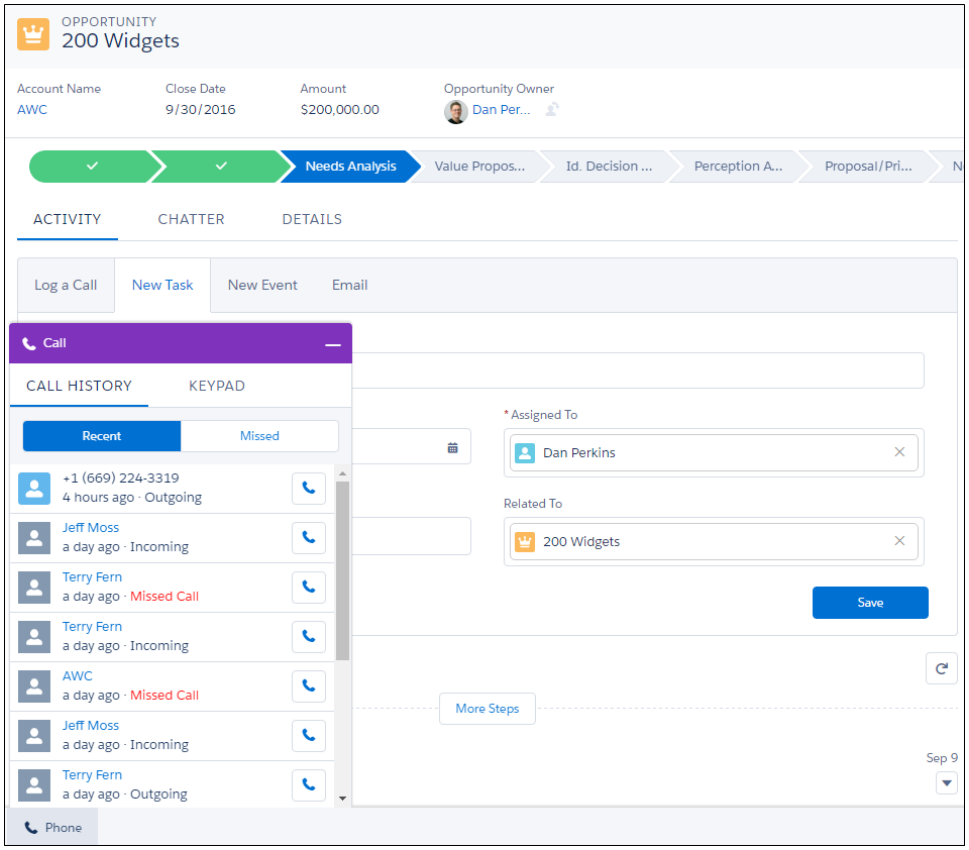
不在着信があっても心配する必要はありません。営業担当に、不在着信が通知されるようになりました。また、電話を携帯番号に転送して、重要な営業の電話を決して逃さないようにできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

ユーティリティバーから Voice へのアクセス

Lightning Voice を継続して使用するには、システム管理者がアプリケーションマネージャを使用して、ページ下部のユーティリティバーから機能を使用できるようにします。ユーティリティバーでは、営業担当がよく使用するツールにすばやくアクセスできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

ユーザ権限

Voice 機能を有効にする
- 「アプリケーションのカスタマイズ」



1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーションマネージャ」と入力し、[アプリケーションマネージャ] を選択します。
2. 既存の Lightning アプリケーションを編集するか、[新規 Lightning アプリケーション] をクリックします。また、カスタム Classic アプリケーションを Lightning アプリケーションにアップグレードすることもできます。

   営業ユーザ用に設定済みの多くのオプションが、Lightning Sales アプリケーションに表示されます (使用可能な場合)。
3. [アプリケーションオプション] タブで **[Lightning Voice]** を選択します。
4. [ユーザプロファイルへの割り当て] タブで、関連ユーザプロファイルでのアプリケーションの使用を可能にします。
5. アプリケーション名、ブランド情報、使用可能なメニュー項目など、その他のアプリケーションの詳細を検証します。

6. 変更内容を保存します。

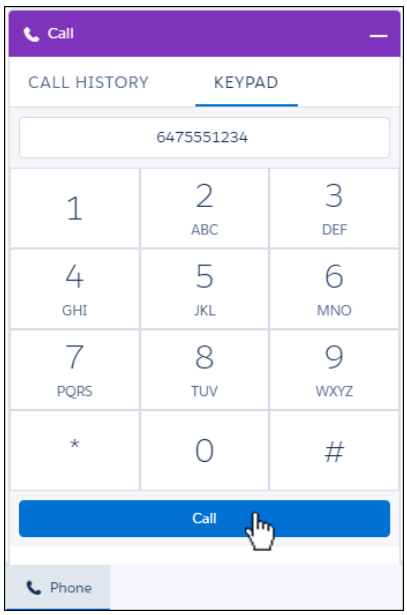
   変更内容を確認するには、[アプリケーションランチャー]をクリックし、Lightning Voiceが有効になっているアプリケーションを選択します。

ユーザに Lightning Voice への新しいアクセス方法を知らせます。よく使用されるアプリケーションで Voice が使用できない場合は、この通知が特に重要です。

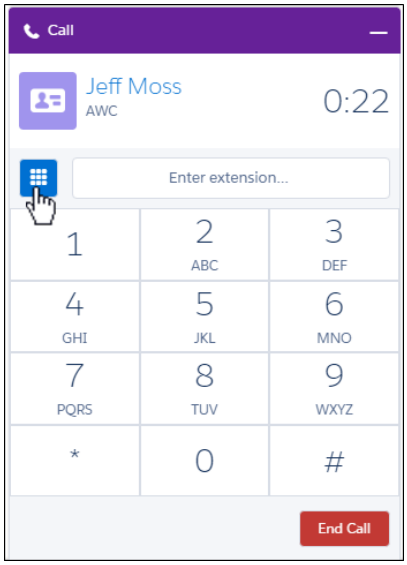
アプリケーションマネージャについての詳細は、「Lightning Experience アプリケーションマネージャ」を参照してください。

キーボードまたは仮想ダイアルパッドを使用した電話発信

営業担当は、Voiceコールで通話するために電話番号をレコードと関連付ける必要はもうありません。キーボードまたは仮想ダイアルパッドを使用して、電話番号や内線を入力できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



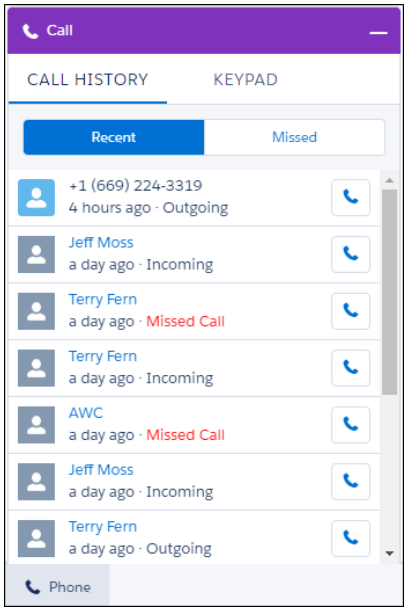
営業担当は、通話中にダイアルパッドボックスをクリックして、ダイアルパッドと通話メモを切り替えることができます。



活動履歴への簡単なアクセス

営業担当が最も頻繁に連絡する電話番号に従来よりも簡単にアクセスできるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

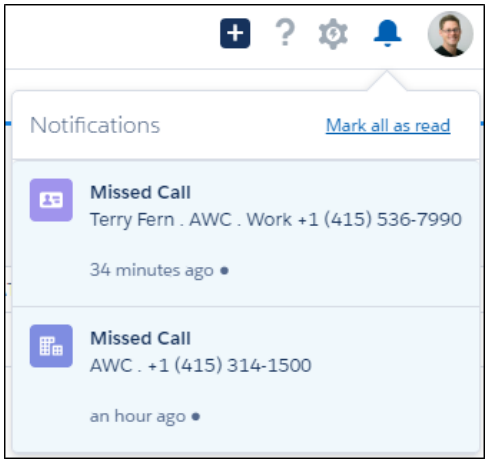
営業担当は、最近の着信電話と発信電話を確認できるだけでなく、すべての不在着信も 1 か所で確認できます。レコード名をクリックして詳細ページを表示するか、 をクリックして電話をかけることができます。



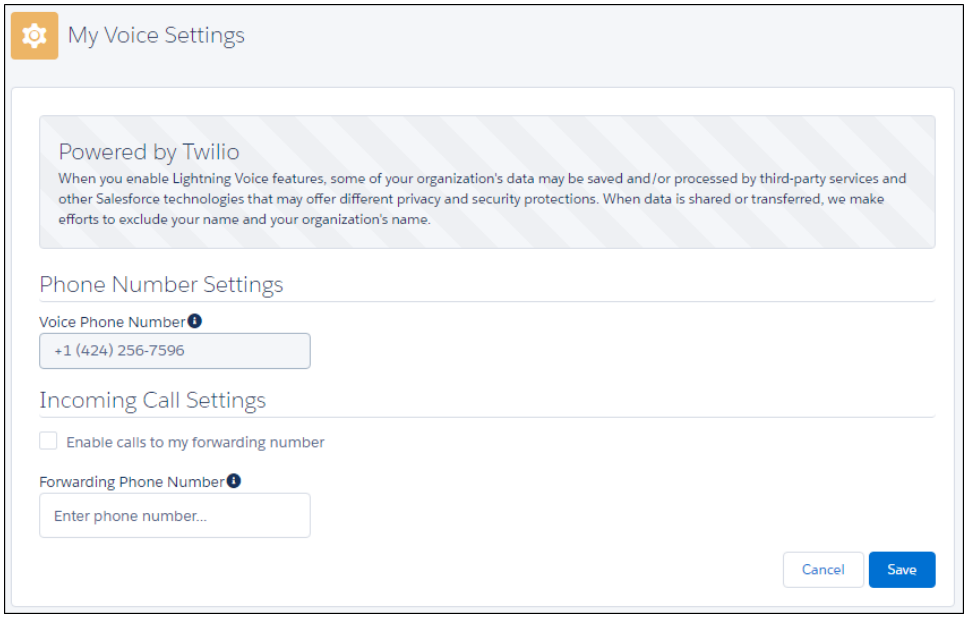
通知と通話転送による不在着信の処理

不在着信があっても心配する必要はありません。営業担当に、不在着信が通知されるようになりました。また、電話を携帯番号に転送して、重要な営業の電話を決して逃さないようにできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

不在着信アラートは、[通知] ドロップダウンに表示されます。



営業担当は、転送番号を入力して電話を決して逃さないようにすることもできます。携帯番号またはメインのビジネス回線を使用することをお勧めします。転送番号を入力するには、[個人設定] から、[クイック検索] ボックスに「*私の Voice 設定*」と入力し、[私の音声設定] を選択します。



有効になると、営業担当は、ブラウザと転送番号で同時に電話を受信します。

メール: Lightning Experience でメールに簡単に対応

拡張メールを使用している組織では、必要なときに必要な場所で対応できる Salesforce のメールでさらに簡単に生産性を上げることができます。しかも、API による 1 日の送信メール数の組織制限が緩和されました。

エディション

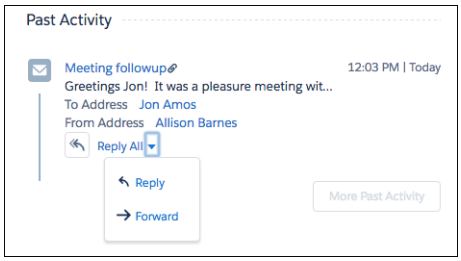
拡張メールを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Salesforce からのメールの返信および転送
API による 1 日の送信メール数の組織制限の緩和

Salesforce からのメールの返信および転送

多くの場合、メールを読んだらすぐに返信する必要があります。それが可能になりました。メールの詳細ページまたは活動タイムラインから [返信]、[全員に返信]、または [転送] をクリックするだけで済みます。メール送信と同じくらい簡単です。これらのオプションは、拡張メールを使用している組織でのみ使用可能です。拡張メールはほとんどのお客様に対し自動的に有効になっています。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



返信と転送のしくみについて理解しておくべき点がいくつかあります。

- Salesforce Classic で送信されたメールの添付ファイルを Lightning Experience で転送することはできません。
- メールを転送する場合、元のメールで送信されたバージョンではなく最新バージョンのファイルが添付されます。

API による 1 日の送信メール数の組織制限の緩和

Salesforce API または Apex を使用して、グリニッジ標準時 (GMT) に基づき 1 日に 5,000 個の外部メールアドレスに単一メールを送信できるようになりました。組織ごとに 1 日あたり 5,000 個の外部メールアドレスに一括メールを送信することもできます。外部メールアドレスの最大数に、Salesforce のエディションによる制限がなくなりました。エディションに関係なく、1日の外部メールアドレスの残存数を、必要な数の一括メール送信で使用できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

API による 1 日の送信メール数の組織制限の緩和

Salesforce API または Apex を使用して、グリニッジ標準時 (GMT) に基づき 1 日に 5,000 個の外部メールアドレスに単一メールを送信できるようになりました。組織ごとに 1 日あたり 5,000 個の外部メールアドレスに一括メールを送信することもできます。外部メールアドレスの最大数に、Salesforce のエディションによる制限がなくなりました。エディションに関係なく、1 日の外部メールアドレスの残存数を、必要な数の一括メール送信で使用できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Salesforce の Email Author やコンポーザを使用して送信したメールは、この制限に含まれません。取引先、取引先責任者、リード、商談、ケース、キャンペーン、カスタムオブジェクトの各ページから、組織の取引先責任者、リード、個人取引先、ユーザに個別のメールを直接送信する場合は、制限はありません。

活動: Lightning Experience で必要な活動のみ確認

グローバル検索で活動タイムラインを絞り込んで ToDo と行動を検索できるようになったことで、営業担当による最も関連性の深い活動の検索がかつてないほど簡単になりました。カレンダーが改善され、時間を簡単に管理できます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

活動タイムラインの絞り込み
営業担当は、活動タイムラインを絞り込んで、最も関連性の深いコンテンツを表示できるようになりました。過去 7 日間にやり取りしたメールをすべて迅速に確認する必要がありますか? 条件設定を使用して、必要な活動のみをすぐに表示します。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

さまざまな色を使用したカレンダーのカスタマイズ
実務や個人的な好みに合わせてカレンダーのさまざまな色を変更する必要がありますか?それが可能になりました。色を選択するか独自の色を作成し、カレンダーにテクスチャをプラスすることもできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

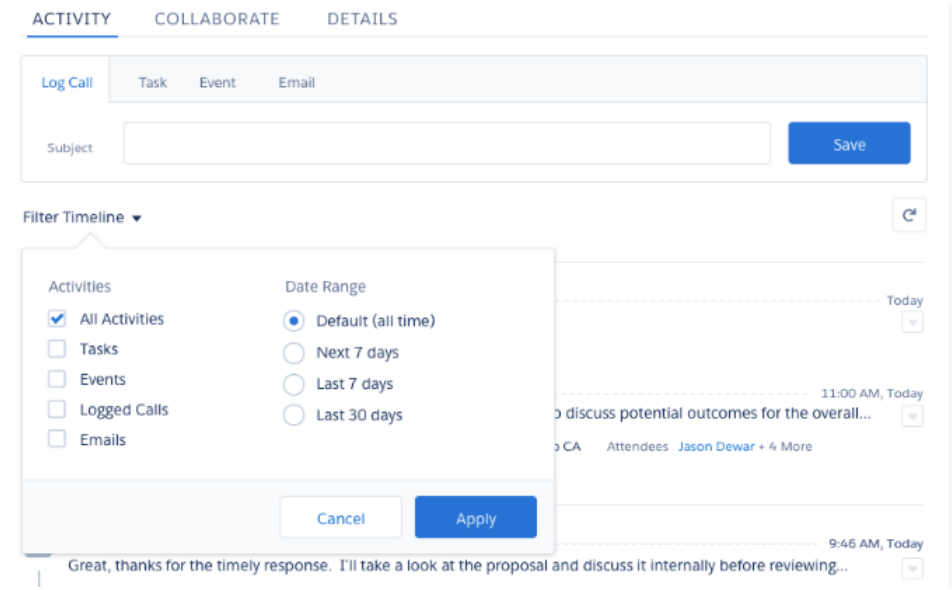
行動の月間表示
営業担当は、Lightning Experience でその月の行動をすべて表示できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Cloud Scheduler の廃止
Cloud Scheduler は、Winter '17 以降、段階的に廃止されます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

活動タイムラインの絞り込み

営業担当は、活動タイムラインを絞り込んで、最も関連性の深いコンテンツを表示できるようになりました。過去 7 日間にやり取りしたメールをすべて迅速に確認する必要がありますか? 条件設定を使用して、必要な活動のみをすぐに表示します。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

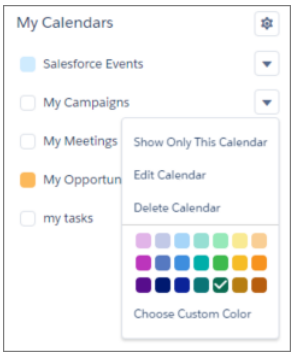
営業担当は、活動種別と日付の範囲で絞り込むことができます。

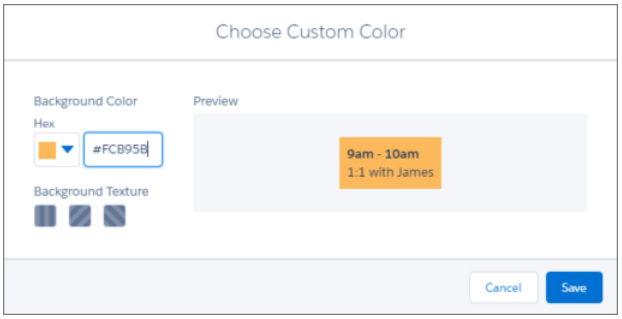


デフォルト設定では、すべての時間のすべての活動種別が表示されます。

さまざまな色を使用したカレンダーのカスタマイズ

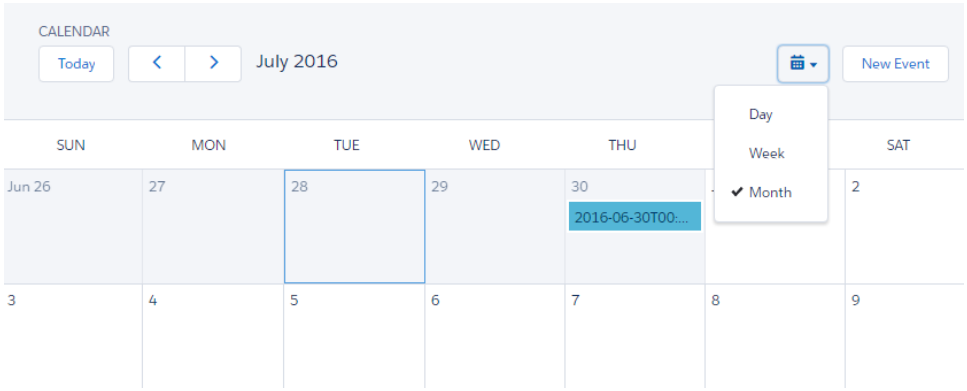
実務や個人的な好みに合わせてカレンダーのさまざまな色を変更する必要がありますか? それが可能になりました。色を選択するか独自の色を作成し、カレンダーにテクスチャをプラスすることもできます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。





行動の月間表示

営業担当は、Lightning Experience でその月の行動をすべて表示できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



Cloud Scheduler の廃止

Cloud Scheduler は、Winter '17 以降、段階的に廃止されます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

重要: Winter '17 以降に作成された Salesforce 組織では、Cloud Scheduler を使用できません。Winter '17 より前に Cloud Scheduler を有効にした場合は、Winter '18 まで組織で引き続き使用できます。ただし、[新規ミーティング要請] ボタンを削除すると、追加し直すことはできません。

詳細は、「Winter '17 で段階的な廃止を開始する Cloud Scheduler」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: **Personal Edition** と **Database.com** Edition を除くすべてのエディション

リストビュー: Lightning Experience のインライン編集と一括アクションを使用した仕事の迅速な完了

営業担当がリストビューから作業するときに、数回クリックするだけでより多くの作業を完了できるようになりました。項目をインライン編集するか、または複数のレコードを選択して一括アクションを実行します。メンバーをすばやくキャンペーンに追加したり、キューからリードを受け取ったり、ボタンクリックでカスタム Visualforce アクションを実行したりすることもできます。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Personal** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

インライン編集でクリック数と時間を削減 (ベータ)

リストビューの Lightning Edit を使用すると、営業担当は Lightning Experience でレコード更新を簡単に行えます。営業担当はレコードを開かずにリストビューから直接編集ができます。さらには、複数レコードを同時に保存できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

複数のメンバーをキャンペーンにすばやく追加

メンバーのいないキャンペーンはファンのいないファンクラブのようなものです。残念ですよね。そこで、リストビューから一度にキャンペーンメンバーを追加して、キャンペーンが光り輝くのを見守りましょう。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

複数のリードの所有権の一括取得

チームメンバー間でリードの優先順位付けと割り当てにキューを使用している場合、営業担当はキューから一度に複数のリードの所有権を取得できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

複数のレコードに対するカスタム一括アクションの実行

Visualforce を使用して Salesforce Classic で作成した素晴らしいカスタムボタンを憶えていますか? Lightning Experience リストビューで複数のレコードを選択する機能が付いて、これらのボタンは新しくなりました。ボタンをクリックしてカスタム一括アクションを複数レコードに一度に実行できるので、営業担当の生産性が向上します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

インライン編集でクリック数と時間を削減 (ベータ)

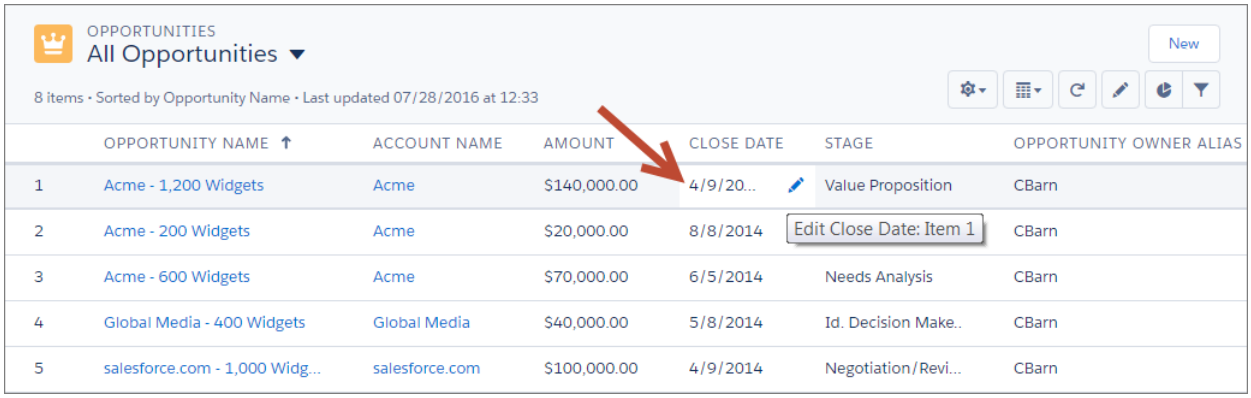
リストビューの Lightning Edit を使用すると、営業担当は Lightning Experience でレコード更新を簡単に行えます。営業担当はレコードを開かずにリストビューから直接編集ができます。さらには、複数レコードを同時に保存できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

重要: このリリースには、Lightning Edit のベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。

たとえば、営業担当は[リード]リストビューのレコードのグループでリード状況を更新できます。リストビューでは一度に 1 つの項目しか編集できませんが、項目の変更は複数のレコードで同時に保存できます。

ほとんどの標準項目とカスタム項目はインラインで編集可能です。編集できない項目は、セルに錠 ( ) が表示されます。

インライン編集に特別な権限は必要ありません。ただし通常どおり、営業担当はアクセスできるレコードのみ編集できます。



メモ: インラインの編集は、「一括アクション」の実行とは異なります。両方ともリストビューで行い、効率的です。ただしインライン編集では、1つ以上のレコードで項目の変更を保存します。それに対し一

括アクションでは、複数のレコードを選択してからボタンをクリックし、それらのレコードでキャンペーンへのレコードの追加などのアクションを実行します。

このベータリリースの制限事項

次のような場合、営業担当はリストビューでインライン編集できません。

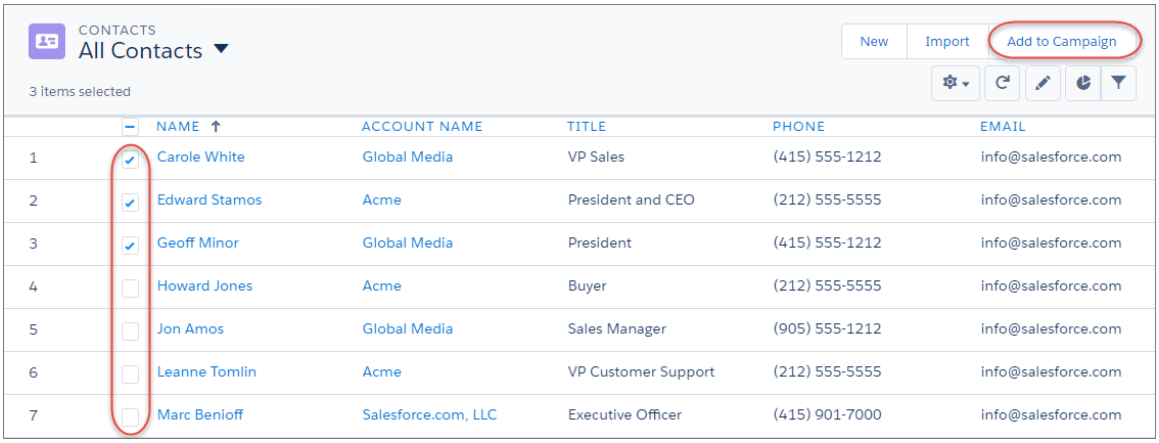
- リストビューに複数のレコードタイプが含まれている。
- リストビューで条件ロジックを使用し、OR 句が含まれている。
- リストビューに参照項目または連動選択リスト項目が含まれている。

レコードタイプを1つしか含まないように事前定義されている[最近参照したデータ]リストビューまたは[チーム]リストビューでは、インライン編集できます。ToDo オブジェクトのホームページの ToDo も、リストビューに表示されていなくても編集できます。

複数のメンバーをキャンペーンにすばやく追加

メンバーのいないキャンペーンはファンのいないファンクラブのようなものです。残念ですよね。そこで、リストビューから一度にキャンペーンメンバーを追加して、キャンペーンが光り輝くのを見守りましょう。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

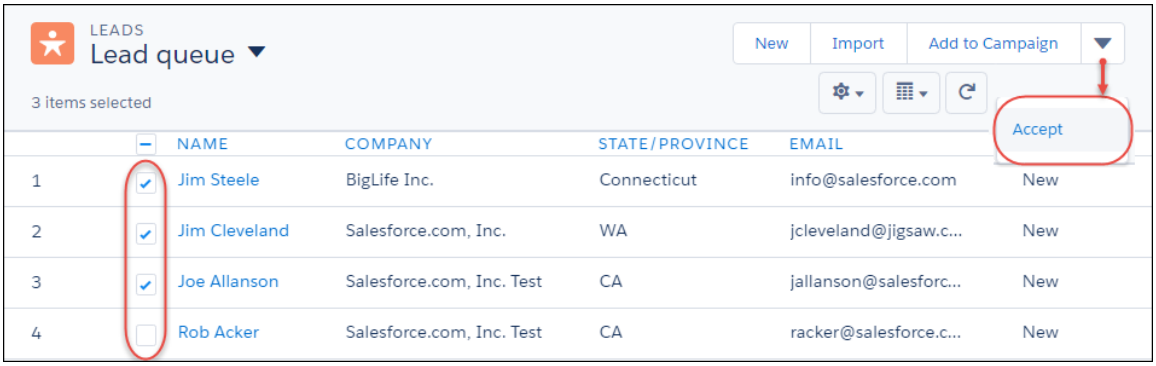
営業担当は、リードと取引先責任者のリストビューから [キャンペーンに追加] ボタンを使用して、最大 200 件のメンバーを同時に難なく追加できます。Salesforce Classic と同様に、営業担当は新規メンバーに状況を割り当てる必要があり、既存のメンバーにも状況を割り当てるかどうかを選択できます。



複数のリードの所有権の一括取得

チームメンバー間でリードの優先順位付けと割り当てにキューを使用している場合、営業担当はキューから一度に複数のリードの所有権を取得できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

営業担当は、必要となるすべてのリードをキューリストビューから選択できます (最大 200 件)。[引き受ける] をクリックすると確定され、営業担当はリードを使用できるようになります。[リード 所有者] 項目は、リードを引き受けたユーザに変わります。営業担当は、数回クリックするだけでそのリードに着手できます。

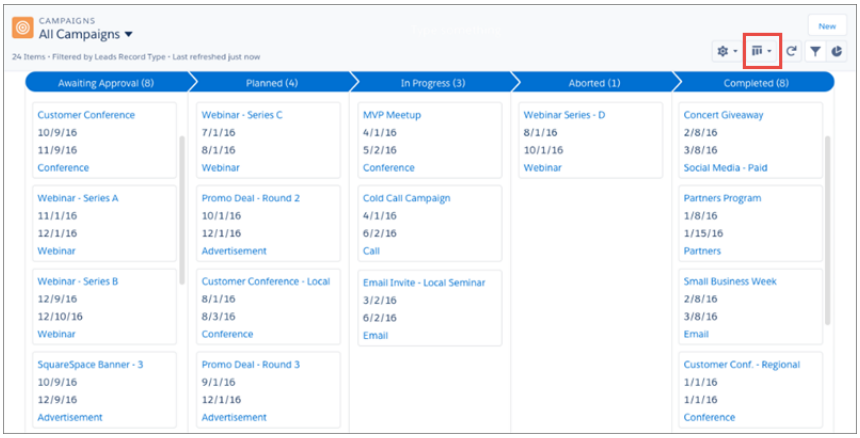


複数のレコードに対するカスタム一括アクションの実行

Visualforce を使用して Salesforce Classic で作成した素晴らしいカスタムボタンを憶えていますか? Lightning Experience リストビューで複数のレコードを選択する機能が付いて、これらのボタンは新しくなりました。ボタンをクリックしてカスタム一括アクションを複数レコードに一度に実行できるので、営業担当の生産性が向上します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Kanban: リード、契約、キャンペーンを視覚的に追跡および管理

商談で使用する Kanban スタイルと同じビジュアルレイアウトを使用すれば、営業担当はリード、契約、キャンペーンの進捗状況をさらに効果的に監視できます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



Kanban ビューにアクセスするには、[表示] メニューから [Kanban] を選択します。表示しているリストビューに複数のレコードタイプが含まれる場合は、1 つのレコードタイプに絞り込んでレコードを Kanban ビューに読み込みます。

このセクションの内容:

Kanban ビューで必要な項目を迅速に更新

必要な項目に煩わされることはなくなりました。営業担当はレコードを別のフェーズまたは状況に移動するために必要な項目の入力を Kanban ビュー内からできるようになりました。

Kanban ビューからのレコードの変更

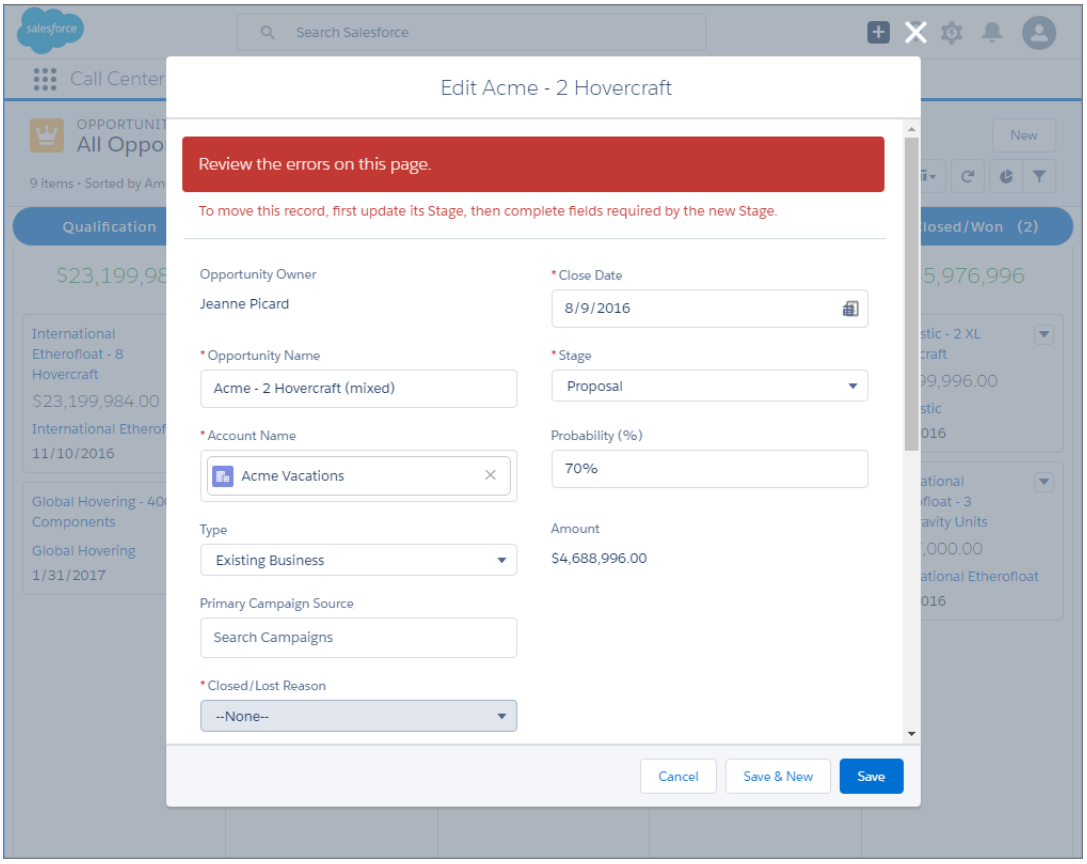
回り道はだれでも嫌なものでしょう。営業担当は、Kanban ビューからレコードを編集または削除できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Kanban ビューで必要な項目を迅速に更新

必要な項目に煩わされることはなくなりました。営業担当はレコードを別のフェーズまたは状況に移動するために必要な項目の入力を Kanban ビュー内からできるようになりました。



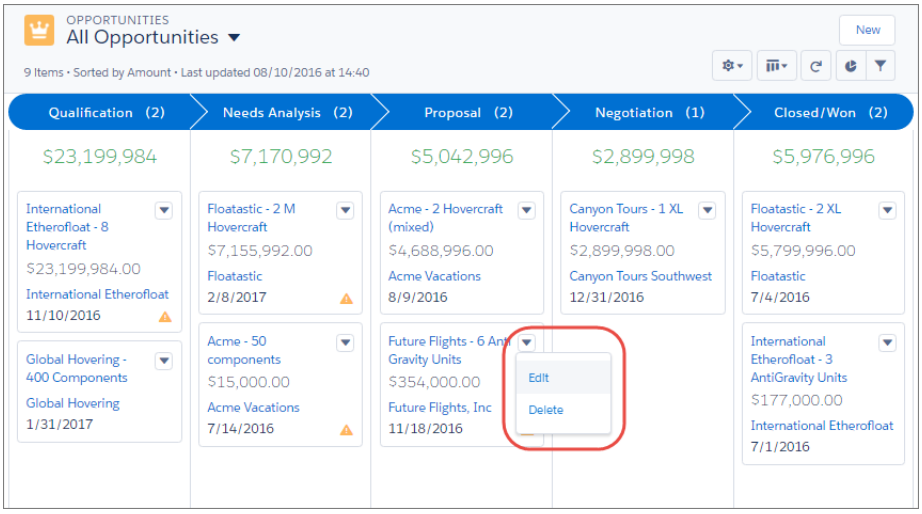
営業担当が、別の項目またはより多くの項目が必要となるフェーズや状況にカードを移動しようとすると、空の項目に情報を入力するよう要求されます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Kanban ビューからのレコードの変更

回り道はだれでも嫌なものでしょう。営業担当は、Kanbanビューからレコードを編集または削除できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Google インテグレーション: ソフトウェアをインストールせずに Google カレンダー™ のイベントと Salesforce を同期 (ベータ)

営業担当は、手間のかかるデータ入力なしで Google カレンダーのイベントを Salesforce に取り込む簡単な方法を探していますか? これ以上探す必要はありません。Lightning Sync は Google カレンダーと互換性があるため、営業担当が重要な予定を簡単に Salesforce に取り込めるように設定できます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

エディション

管理可能なエディション: Salesforce Classic と Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Google カレンダー™ から Salesforce への予定の同期 (ベータ)

営業担当の Google カレンダーの予定を Salesforce と同期するように設定すると、生産性が向上します。この理由は、営業担当が 2 つの異なるアプリケーションで行動を管理する必要がなくなるためです。営業担当は Salesforce で行動を使用して従来より多くの作業を行えるため、Salesforce の採用率も増加します。たとえば、Salesforce レコードで関連する行動を追跡し、その詳細を同僚と簡単に共有できます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

Google カレンダー™ から Salesforce への予定の同期 (ベータ)

営業担当の Google カレンダーの予定を Salesforce と同期するように設定すると、生産性が向上します。この理由は、営業担当が 2 つの異なるアプリケーションで行動を管理する必要がなくなるためです。営業担当は Salesforce で行動を使用して従来より多くの作業を行えるため、Salesforce の採用率も増加します。たとえば、Salesforce レコードで関連する行動を追跡し、その詳細を同僚と簡単に共有できます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

Lightning Sync for Google の設定には、社内の Google システム管理者または IT プロフェッショナルのサポートが必要です。

最初に Google システム管理者が Salesforce に接続する Google アカウントを設定します。次に、自分で同期設定を選択し、営業担当の同期操作を定義します。たとえば、営業担当が非公開としてマークした予定を同期すること、またはユーザがカレンダーから削除した予定を Salesforce で自動的に削除することなどを選択できます。

現在、Lightning Sync for Google では次のことができません。

- 連絡先の同期
- Salesforce から Google カレンダーへの行動の同期
- 定期的な行動の同期
- 行動の招待者に関する詳細の同期
- 行動の対応可能状況または予定あり状況の同期
- Salesforce の行動項目に対応付けられる Google の予定項目の編集

Lightning Sync for Google の設定についての詳細は、Salesforce ヘルプを参照してください。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Microsoft® とのインテグレーション: Microsoft システムと Salesforce 間の同期および操作

Microsoft システムと Salesforce で行った作業を統合し、営業担当の生産性を最大化します。営業担当は、メールアプリケーションと Salesforce 間で取引先責任者、行動、ToDo を同期できます。または、営業担当が Outlook® から直接 Salesforce を操作するように設定できます。

このセクションの内容:

Lightning for Outlook: 営業担当に表示される内容のカスタマイズと Salesforce セキュリティ機能の利用

Outlook と Salesforce 間を切り替えずに、営業担当がより多くの作業を行えるようにします。営業担当に Lightning for Outlook からカスタムコンポーネントへのアクセス権を付与して、営業担当が参照して操作できる Salesforce コンテンツをカスタマイズします。Lightning for Outlook は顧客が管理用ソフトウェアをインストールする必要がないため、すべてのリリースの最新機能とバグ修正に自動的にアクセスできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方から管理できます。

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: より多くのユーザに対応する互換性、より迅速な設定方法、イベントの自動追跡の導入

Microsoft Exchange ベースのメールと Salesforce 間で営業担当が取引先責任者や行動を同期できるようになりました。ソフトウェアのインストールや保守は必要ありません。Salesforce の互換性が追加されたため、より多くの営業担当が Lightning Sync を利用できます。さらに、より迅速に設定できるようになったため、営業担当は Microsoft のイベントを簡単に関連付けることができます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

Salesforce for Outlook: Microsoft® Outlook® から定期的な行動を直接操作

Salesforce は常に新しい機能を調査し、最も定評のある Microsoft インテグレーション製品を継続的に改善しています。たとえば、営業担当は Salesforce サイドパネルから直接、定期的な行動を操作できるようになりました。是非試してみてください。Salesforce for Outlook は、Lightning Experience および Salesforce Classic の両方で管理できます。

Microsoft® とのインテグレーションでのその他の変更

Microsoft とのインテグレーションでのその他の変更に注意してください。

Lightning for Outlook: 営業担当に表示される内容のカスタマイズと Salesforce セキュリティ機能の利用

Outlook と Salesforce 間を切り替えずに、営業担当がより多くの作業を行えるようにします。営業担当に Lightning for Outlook からカスタムコンポーネントへのアクセス権を付与して、営業担当が参照して操作できる Salesforce コンテンツをカスタマイズします。Lightning for Outlook は顧客が管理用ソフトウェアをインストールする必要がないため、すべてのリリースの最新機能とバグ修正に自動的にアクセスできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方から管理できます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Lightning for Outlook と Shield プラットフォームの暗号化の連動

Lightning for Outlook は、Shield Platform Encryption を使用している顧客が利用できます。「暗号化されたデータの参照」権限が有効になっていない営業担当の場合、メールと行動に関連する暗号化項目が含まれるレコードが Lightning for Outlook に表示されないことがあります。

Lightning for Outlook のカスタマイズ (ベータ)

営業チームが取引先、取引先責任者、商談、リード、ケース以外のレコードに焦点を当てたいと考えていませんか?自社でカスタマイズした機能を使用することを熱望していませんか?営業担当は、Microsoft® Outlook® で表示および操作する Salesforce レコードタイプを選択して、より関連性の高い Lightning for Outlook にすることができます。

Lightning for Outlook と Shield プラットフォームの暗号化の連動

Lightning for Outlook は、Shield Platform Encryption を使用している顧客が利用できます。「暗号化されたデータの参照」権限が有効になっていない営業担当の場合、メールと行動に関連する暗号化項目が含まれるレコードが Lightning for Outlook に表示されないことがあります。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning for Outlook のカスタマイズ (ベータ)

営業チームが取引先、取引先責任者、商談、リード、ケース以外のレコードに焦点を当てたいと考えていませんか? 自社でカスタマイズした機能を使用することを熱望していませんか? 営業担当は、Microsoft® Outlook® で表示および操作する Salesforce レコードタイプを選択して、より関連性の高い Lightning for Outlook にすることができます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンのメールアプリケーションペインが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。この機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正規リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。メールアプリケーションペインに関するフィードバックや提案は、Success コミュニティの IdeaExchange または Lightning for Outlook グループに投稿してください。

アプリケーションビルダーを使用して、カスタマイズしたメールアプリケーションペインを営業担当が使用できるようにします。取引先、取引先責任者、ケースなど、営業担当がよく使用する標準コンポーネントを追加します。または、Salesforce 開発者と協力して、会社の業種またはブランドを反映するカスタムコンポーネントを追加します。AppExchange にある便利なコンポーネントを利用することもできます。

アプリケーションビルダーから、ユーザが使用する標準またはカスタムコンポーネントをドラッグアンドドロップするか、コンポーネントのプロパティを変更します。営業担当が最も重要なコンポーネントにすぐにアクセスできるように、コンポーネントを再配置することもできます。

完了したら、営業担当に適切なユーザプロファイルを割り当て、メールアプリケーションペインをロールアウトします。複数のペインを作成して異なるユーザプロファイルに割り当て、各ロールのチームメンバーに異なる環境を提供します。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: より多くのユーザに対応する互換性、より迅速な設定方法、イベントの自動追跡の導入

Microsoft Exchange ベースのメールと Salesforce 間で営業担当が取引先責任者や行動を同期できるようになりました。ソフトウェアのインストールや保守は必要ありません。Salesforce の互換性が追加されたため、より多くの営業担当が Lightning Sync を利用できます。さらに、より迅速に設定できるようになったため、営業担当は Microsoft のイベントを簡単に関連付けることができます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic と Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Professional Edition: 同期
Salesforce Professional Edition で作業している場合は、ユーザの取引先責任者および行動を会社のメールサーバと Salesforce との間で同期できます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

Lightning Sync と Shield プラットフォームの暗号化の連動
「暗号化されたデータの参照」権限のあるユーザの場合、Lightning Sync と Shield Platform Encryption の互換性が確保されるようになりました。これまで、プラットフォームの暗号化を使用している組織は Lightning Sync を実行できませんでした。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

Microsoft® Exchange から Salesforce への安全かつ簡単な接続
定番のサービスアカウントに加えて、OAuth 2.0 の接続方法のオプションが導入されました。OAuth 2.0 では Microsoft Office 365® アカウントが必要ですが、アカウントを取得すれば残りの作業は簡単です。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

エディション

管理可能なエディション: Salesforce Classic と Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

営業担当の行動と最も関連性のある Salesforce 取引先責任者またはリードの自動関連付け
Lightning Sync を設定して営業担当のカレンダーを確認し、重要なイベントを適切な Salesforce 取引先責任者またはリードに自動的かつインテリジェントに関連付けることで、営業マネージャが営業担当の営業予定をあらゆる角度から把握し、営業担当が早めに仕事を切り上げるようにすることさえも可能になります。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

Professional Edition: 同期

Salesforce Professional Edition で作業している場合は、ユーザの取引先責任者および行動を会社のメールサーバと Salesforce との間で同期できます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Sync と Shield プラットフォームの暗号化の連動

「暗号化されたデータの参照」権限のあるユーザの場合、Lightning Sync と Shield Platform Encryption の互換性が確保されるようになりました。これまで、プラットフォームの暗号化を使用している組織は Lightning Sync を実行できませんでした。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

関連トピック:

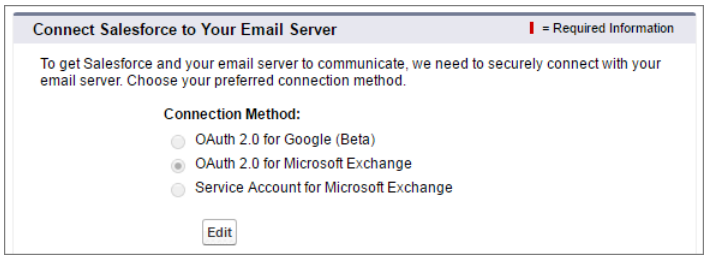
Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Microsoft® Exchange から Salesforce への安全かつ簡単な接続

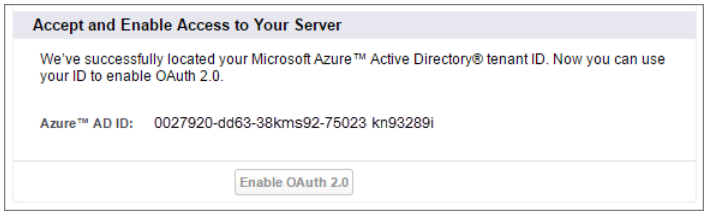
定番のサービスアカウントに加えて、OAuth 2.0 の接続方法のオプションが導入されました。OAuth 2.0 では Microsoft Office 365® アカウントが必要ですが、アカウントを取得すれば残りの作業は簡単です。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

OAuth 2.0 が優れている理由 1 つ目は、Microsoft Exchange ログイン情報を Salesforce に保存する必要がないことです。そのため、一部の会社はこの方法を好むようです。2 つ目の理由として、設定が非常に簡単です。

使用を開始するには、[Lightning Sync の設定] から優先する接続方法として **[Microsoft Exchange の OAuth 2.0]** を選択します。



このプロセスの途中で、Office 365 にリダイレクトされます。そこで、グローバル管理者の支援を得て会社のアカウントにログインします。Office 365 での Lightning Sync アクセスを受け入れると [Lightning Sync の設定] にリダイレクトされ、Microsoft Azure™ Active Directory® テナント ID が入力されている状態になります。有効化ボタンをクリックすれば完了です。



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

営業担当の行動と最も関連性のある Salesforce 取引先責任者またはリードの自動関連付け

Lightning Sync を設定して営業担当のカレンダーを確認し、重要なイベントを適切な Salesforce 取引先責任者またはリードに自動的かつインテリジェントに関連付けることで、営業マネージャが営業担当の営業予定をあらゆる角度から把握し、営業担当が早めに仕事を切り上げるようにすることさえも可能になります。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で Lightning Sync を管理できます。

Salesforce の営業担当の同期設定から、[Salesforce レコードに Exchange の行動を自動的に関連付ける] を選択します。

同期設定を保存すると、Lightning Sync は営業担当のカレンダーから関連する Salesforce 取引先責任者に予定を関連付けます。関連する取引先責任者が存在しない場合、Lightning Sync は関連するリードにイベントを関連付けます。

営業担当が Lightning for Outlook ユーザでもある場合、営業担当が Salesforce に関連付けるイベントも同期するように設定します。これは、営業担当が両方のシステムでイベントを管理する必要をなくすためのもう 1 つの方法です。

関連トピック:

- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Salesforce for Outlook: Microsoft® Outlook® から定期的な行動を直接操作

Salesforce は常に新しい機能を調査し、最も定評のある Microsoft インテグレーション製品を継続的に改善しています。たとえば、営業担当は Salesforce サイドパネルから直接、定期的な行動を操作できるようになりました。是非試してみてください。Salesforce for Outlook は、Lightning Experience および Salesforce Classic の両方で管理できます。

この機能と最新のバグ修正にアクセスできるように、営業担当が最新バージョンの Salesforce for Outlook v3.2.0 にアップグレードしていることを確認してください。

エディション

この機能を管理可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: すべてのエディション

このセクションの内容:

- Salesforce for Outlook ユーザに必須の重要なアップグレード

  Salesforce が TLS 1.0 暗号化プログラムを無効にした後も、Salesforce for Outlook を引き続き使用するようにコンピューティングシステムを準備してください。Salesforce は、ローリングスケジュールに沿って 2017 年 3 月までに TLS 1.0 を無効にしていきます。Salesforce 全体での無効化の準備に必要となる予防措置に加えて、Salesforce for Outlook v2.9.3 以前を使用しているお客様は、最新バージョンにアップグレードしてサービスの中断を避ける必要があります。

- Salesforce サイドパネルの定期的な行動

  営業担当は、Salesforce サイドパネルから定期的な行動を表示して Salesforce レコードに関連付けることができます。

- Microsoft® Outlook® 2007 および Microsoft Exchange 2007 のサポートの終了

  Microsoft が Outlook 2007 および Exchange 2007 のサポートを終了するため (2017 年 4 月予定)、Salesforce でもサポートを終了します。

Salesforce for Outlook ユーザに必須の重要なアップグレード

Salesforce が TLS 1.0 暗号化プログラムを無効にした後も、Salesforce for Outlook を引き続き使用するようにコンピューティングシステムを準備してください。Salesforce は、ローリングスケジュールに沿って 2017 年 3 月までに TLS 1.0 を無効にしていきます。Salesforce 全体での無効化の準備に必要となる予防措置に加えて、Salesforce for Outlook v2.9.3 以前を使用しているお客様は、最新バージョンにアップグレードしてサービスの中断を避ける必要があります。

ユーザのアップグレードに加えて、Salesforce ヘルプの「TLS 1.0 が無効になった後に組織で Salesforce for Outlook を使用し続けるための準備」で説明されている要件に従う必要があります。

重要な更新コンソール (CRUC) の設定を有効にして、コンピューティングシステムで TLS 1.0 無効化が可能かどうかをテストする場合、Salesforce for Outlook v2.9.3 以前では Salesforce for Outlook は動作しません。Salesforce for Outlook v3.0.0 以降では動作します。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: Prepare Your Org to Continue Using Salesforce for Outlook After TLS 1.0 Disablement (TLS 1.0 の無効化後も Salesforce for Outlook を使い続けるための組織の準備)
- *ナレッジ記事*: TLS 1.0 無効化の重要な更新コンソール (CRUC) 設定
- *ナレッジ記事*: Salesforce による TLS 1.0 の無効化
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Salesforce サイドパネルの定期的な行動

営業担当は、Salesforce サイドパネルから定期的な行動を表示して Salesforce レコードに関連付けることができます。

営業担当が Outlook カレンダーから定期的な行動を選択すると、その定期的な行動にすでに関連付けられている Salesforce レコードがサイドパネルに表示されます。Outlook の定期的な行動をサイドパネルから直接 Salesforce レコードに関連付けることもできます。

関連トピック:

- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Microsoft® Outlook® 2007 および Microsoft Exchange 2007 のサポートの終了

Microsoft が Outlook 2007 および Exchange 2007 のサポートを終了するため (2017 年 4 月予定)、Salesforce でもサポートを終了します。

引き続き Salesforce for Outlook を使用するには、サポートされているバージョンの Outlook と Exchange に営業担当を移行します。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: Salesforce for Outlook システム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Microsoft® とのインテグレーションでのその他の変更

Microsoft とのインテグレーションでのその他の変更に注意してください。

このセクションの内容:

サービスの中断を避けるためのセキュリティプロトコルの検証

Salesforce が TLS 1.0 暗号化プログラムを無効にした後も、Lightning for Outlook、Lightning Sync、Salesforce for Outlook のいずれかを引き続き使用するようにコンピューティングシステムを準備してください。Salesforce は、ローリングスケジュールに沿って 2017 年 3 月までに TLS 1.0 を無効にしていきます。Salesforce 全体での無効化の準備に必要となる予防措置に加えて、Microsoft インテグレーション製品を使用しているお客様は、追加の予防措置を講じてサービスの中断を避ける必要があります。

Connect for Office Microsoft® Excel アドオン: 2017 年 3 月でサポート終了

Salesforce が 2017 年 3 月に TLS 1.0 を無効にしたら、Connect for Office Microsoft Excel アドオンのサポートは終了となります。Excel アドオン はインストール可能な機能であり、営業担当はこの機能によって Salesforce レポートを Microsoft Excel から表示、更新できます。

Connect for Office Microsoft® Word アドオンおよび標準差し込み印刷: 2017 年 3 月でサポート終了

Salesforce が 2017 年 3 月に TLS 1.0 を無効にしたら、Connect for Office Microsoft Word アドオンおよび標準差し込み印刷のサポートは終了となります。これには、営業担当が差し込み印刷テンプレートを Microsoft Word から直接作成する機能が含まれます。

サービスの中断を避けるためのセキュリティプロトコルの検証

Salesforce が TLS 1.0 暗号化プログラムを無効にした後も、Lightning for Outlook、Lightning Sync、Salesforce for Outlook のいずれかを引き続き使用するようにコンピューティングシステムを準備してください。Salesforce は、ローリングスケジュールに沿って 2017 年 3 月までに TLS 1.0 を無効にしていきます。Salesforce 全体での無効化の準備に必要となる予防措置に加えて、Microsoft インテグレーション製品を使用しているお客様は、追加の予防措置を講じてサービスの中断を避ける必要があります。

Microsoft インテグレーション機能で TLS 1.0 の無効化の準備をするには、製品固有の記事を確認し、そこで説明されている要件に従ってください。

Winter '17 では、重要な更新コンソールの設定を使用して、TLS 1.0 無効化の後に引き続き Lightning for Outlook と Lightning Sync を使用する準備がシステムで整っているかどうかをテストできます。TLS 1.0 無効化への準備状況テストは 24 時間以上行うことをお勧めします。Lightning for Outlook に設定が適用されるまで 24 時間かかる場合があります。

Salesforce for Outlook ユーザの場合、重要な更新コンソール (CRUC) の設定を有効にして、コンピューティングシステムで TLS 1.0 無効化が可能かどうかをテストする場合、Salesforce for Outlook v2.9.3 以前では Salesforce for Outlook は動作しません。Salesforce for Outlook v3.0.0 以降では動作します。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: TLS 1.0 無効化の重要な更新コンソール (CRUC) 設定
- *ナレッジ記事*: Prepare Your Org to Continue Using Lightning for Outlook and Lightning Sync After TLS 1.0 Disablement (TLS 1.0 の無効化後に Lightning for Outlook および Lightning Sync の使用を継続するための組織の準備)
- *ナレッジ記事*: Prepare Your Org to Continue Using Salesforce for Outlook After TLS 1.0 Disablement (TLS 1.0 の無効化後も Salesforce for Outlook を使い続けるための組織の準備)
- *ナレッジ記事*: Salesforce による TLS 1.0 の無効化
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Connect for Office Microsoft® Excel アドオン: 2017 年 3 月でサポート終了

Salesforce が 2017 年 3 月に TLS 1.0 を無効にしたら、Connect for Office Microsoft Excel アドオンのサポートは終了となります。Excel アドオン はインストール可能な機能であり、営業担当はこの機能によって Salesforce レポートを Microsoft Excel から表示、更新できます。

Salesforce AppExchange で提供される同等の機能に移行して、Salesforce レポートを Microsoft Excel から引き続き操作できるように営業担当を設定できます。Salesforce ヘルプの記事「End of Support for Excel Add-In from Connect for Office in March 2017」で、いくつかの代替策をお勧めしています。

この機能をアンインストールすることで、Connect for Office をコンピューティングシステムから削除できます。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: End of Support for Excel Add-In from Connect for Office in March 2017 (2017 年 3 月の Connect for Office からの Excel Add-In のサポート終了)
- *ナレッジ記事*: Salesforce による TLS 1.0 の無効化
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Connect for Office Microsoft® Word アドオンおよび標準差し込み印刷: 2017 年 3 月でサポート終了

Salesforce が 2017 年 3 月に TLS 1.0 を無効にしたら、Connect for Office Microsoft Word アドオンおよび標準差し込み印刷のサポートは終了となります。これには、営業担当が差し込み印刷テンプレートを Microsoft Word から直接作成する機能が含まれます。

代わりに、営業担当が拡張差し込み印刷に移行することをお勧めします。拡張差し込み印刷には、TLS 1.1 以上のような TLS のバージョンとの互換性があり、Salesforce のサポートも継続されます。

拡張差し込み印刷では、差し込み印刷テンプレートが自動的に作成されません。ただし、営業担当が標準差し込み印刷で以前に作成したテンプレートを使用して差し込み印刷を生成するか、Microsoft Word でテンプレートを手動で作成することができます。

拡張差し込み印刷の使用を開始するには、Salesforce カスタマーサポートに連絡してこの機能を有効にしてください。

移行のメリットについては、Salesforce ヘルプの記事「End of Support for Connect for Office's Word Add-In and Standard Mail Merge in March 2017」を参照してください。

この機能をアンインストールすることで、Connect for Office をコンピューティングシステムから削除できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 差し込み印刷テンプレートの作成

ナレッジ記事: End of Support for Word Add-In from Connect for Office and Standard Mail Merge in March 2017 (2017 年 3 月の Connect for Office からの Word Add-In および標準差し込み印刷のサポート終了)

ナレッジ記事: Salesforce による TLS 1.0 の無効化

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Pardot: より簡単かつ強力に

UI が新しくなり、メールの保存と編集が簡易化し、営業担当がプロスペクトに連絡するときに生産性が向上したことにより、Pardot をより簡単に使用できるようになりました。また、バイヤーのジャーニーがパーソナライズされ、プロスペクトのスコアリングが詳細にできるようになったことにより、Pardot がさらに強力になりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

新しい Pardot スタイル: 改善された UI デザイン

新しいデザインでより効率的かつ合理化されたナビゲーションを使用して、Pardot をすばやく操作できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

簡略化されたメール保存: 改善されたメールの保存および編集操作

簡略化された保存プロセス、およびドラフトとテンプレートのロックによって、Pardot でのメール作成がかつてないほど簡単になりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

拡張ソーシャル投稿: ソーシャルメディアツールが改善

拡張された画像投稿、投稿スケジュール、エンゲージメント追跡、再投稿を使用すれば、プロスペクトとリードに連絡するためにソーシャルメディアを最大限に活用できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Engagement Studio: パーソナライズされた購入ジャーニーの作成

新しい Engagement Studio では、対象を絞ったメールをプロスペクトに送信するリードナーチャリングプログラムを作成し、パーソナライズされた購入体験を提供してプロスペクトを割り当て済みにすることができます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

スコアリングカテゴリ: プロスペクトのエンゲージメントを複数のレベルで追跡

複数の製品や部署について、プロスペクトをスコアリングし、エンゲージメントをより正確に測定して効果的な販売活動を促進します。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

関連トピック:

Shield Platform Encryption での Pardot Connect ツールのサポート

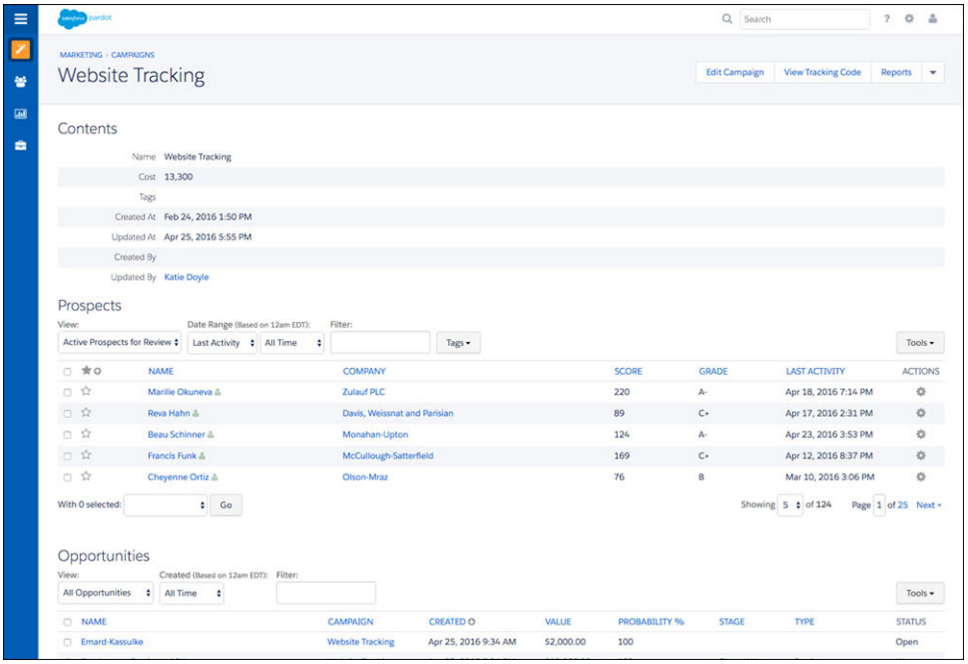
新しい Pardot スタイル: 改善された UI デザイン

新しいデザインでより効率的かつ合理化されたナビゲーションを使用して、Pardot をすばやく操作できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Pardot のデザインが更新され、フォントとスタイルが新しくなりました。この新しいスタイルは、Pardot をより簡単かつ効率的に使用できるように設計されています。フォントが新しくなって最も重要なデータがわかりやすくなりました。また、ボタンのスタイルと色が新しくなり、ユーザがワークフローを進めるために必要な次のステップが強調されました。また、操作の一貫性を高めるためにアプリケーションのナビゲーションが合理化されました。

エディション

使用可能なエディション: **Pardot Standard** Edition、**Pro** Edition、および **Ultimate** Edition



関連トピック:

Salesforce Pardot ヘルプ: Introducing the New and Improved Pardot UI (新しい改善された Pardot UI の導入)

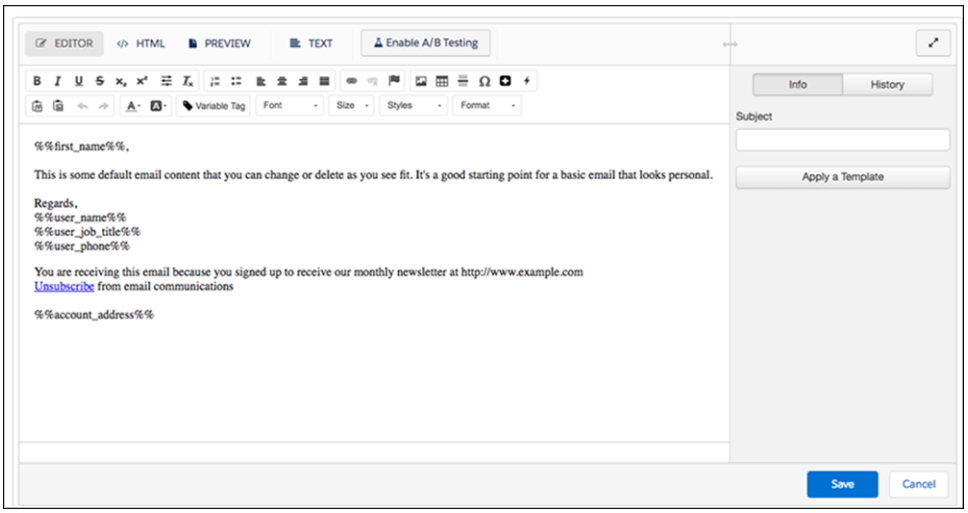
簡略化されたメール保存: 改善されたメールの保存および編集操作

エディション

使用可能なエディション: **Pardot Standard** Edition、**Pro** Edition、および **Ultimate** Edition

簡略化された保存プロセス、およびドラフトとテンプレートのロックによって、Pardot でのメール作成がかつてないほど簡単になりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

メールドラフトとテンプレートの保存および編集操作が改善されました。以前は、複数のユーザがメールドラフトとテンプレートを同時に編集できたため、編集が頻繁に上書きされていました。テンプレートは編集時にロックされるようになったため、一度に 1 ユーザのみが変更できます。テンプレートの保存方法も簡略化されました。用途に応じて異なる保存ボタンをクリックする代わりに、[保存] をクリックするだけで済みます。



関連トピック:

- *Salesforce Pardot* ヘルプ: Introducing Simplified Email Savings (簡略化されたメール保存の導入)
- *Salesforce Pardot* ヘルプ: 複数ユーザによるメールとテンプレートの編集

拡張ソーシャル投稿: ソーシャルメディアツールが改善

エディション

使用可能なエディション: **Pardot Standard** Edition、**Pro** Edition、および **Ultimate** Edition

拡張された画像投稿、投稿スケジュール、エンゲージメント追跡、再投稿を使用すれば、プロスペクトとリードに連絡するためにソーシャルメディアを最大限に活用できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

以前は画像サポートに制限があり、画像にリンクするにはカスタムリダイレクトを使用する必要がありました。Pardot から直接 Twitter、Facebook、および LinkedIn に画像を投稿できるようになりました。

投稿インターフェースの簡略化、投稿のスケジュールとレポートの改善、およびメッセージの再投稿機能の追加も行われています。

関連トピック:

Salesforce Pardot ヘルプ: ソーシャル投稿の概要

Salesforce Pardot ヘルプ: Introducing Enhanced Social Posting (拡張ソーシャル投稿の導入)

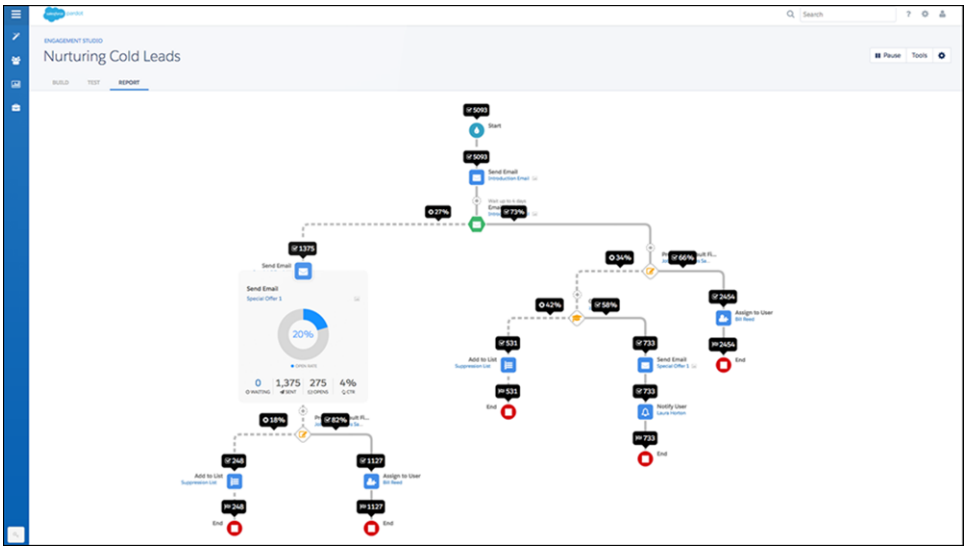
Engagement Studio: パーソナライズされた購入ジャーニーの作成

エディション

使用可能なエディション: **Pardot Standard** Edition、**Pro** Edition、および **Ultimate** Edition

新しい Engagement Studio では、対象を絞ったメールをプロスペクトに送信するリードナーチャリングプログラムを作成し、パーソナライズされた購入体験を提供してプロスペクトを割り当て済みにすることができます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Engagement Studio は、Pardot の新しい次世代のリードナーチャリング製品であり、マーケティングオートメーションプラットフォームの真のインテリジェンスエンジンとして機能します。リアルタイムの顧客データと重要な評価値に基づき、トリガ、アクション、およびルールを使用して、複雑化した複数の経路 (パス) を持つ購入ジャーニーを作成できます。このジャーニーでは、パーソナライズされた適応型の購入体験がプロスペクトに提供されます。



Engagement Studio のテスト機能では、プロスペクトと同じ購入パスをたどることができるため、プロスペクトがジャーニーから外れる領域をすばやく特定し、プログラムを立ち上げる前にジャーニーを修正できます。サ

クセスメトリックは Engagement Program 上に直接階層化されているため、レポートを表示するために画面を切り替える必要はありません。

関連トピック:

Salesforce Pardot ヘルプ: Engagement Studio Overview (Engagement Studio の概要)

Salesforce Pardot ヘルプ: Salesforce Announces General Availability of Pardot Engagement Studio — B2B Marketing Automation Reimagined (Pardot Engagement Studio の正式リリースのお知らせ — B2B マーケティングオートメーションの刷新)

スコアリングカテゴリ: プロスペクトのエンゲージメントを複数のレベルで追跡

エディション

使用可能なエディション: **Pardot Pro** Edition および **Ultimate** Edition

複数の製品や部署について、プロスペクトをスコアリングし、エンゲージメントをより正確に測定して効果的な販売活動を促進します。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

スコアリングカテゴリは全体的なプロスペクトスコアとは別に用意されたものであり、プロスペクトが関心を持っているアセットに基づいて補足的なスコアを提供します。

スコアリングカテゴリはフォルダにカテゴリを割り当てることで機能します。プロスペクトがフォルダ内のアセットを操作すると、その特定のカテゴリ固有のプロスペクトスコアが作成されます。

スコアリングカテゴリスコアをリードレイアウトおよび取引先責任者ページレイアウトに追加し、Salesforce でそのレポートを作成することもできます。

関連トピック:

Salesforce Pardot ヘルプ: スコアリングカテゴリの概要

Salesforce Pardot ヘルプ: Introducing Multiple Scoring Categories (複数のスコアリングカテゴリの概要)

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手を向上するために加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

セールスコンソールの変更

セールスコンソールにいくつかの変更が加えられました。リストビューがコンソールにフロート表示されるかどうかを制御できるようになりました。コンソールを表示するには、Salesforce Classic を使用する必要があります。

私の取引先と取引先責任者をインポートウィザードは廃止

私の取引先と取引先責任者をインポートウィザードは廃止になりました。代わりにデータインポートウィザードを使用してデータをアップロードするようにユーザに伝えてください。詳細については、「Import My Accounts and Contacts Retirement in Winter '17」を参照してください。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に影響します。

取引先の自動入力で表示される会社数の増加

営業担当が [取引先名] 項目への会社名の入力を開始すると、該当する候補が表示されるため、すばやく正確にデータを入力できます。自動入力で表示される会社の数が増えたため、営業担当は探している会社を見つける可能性が高くなります。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

カスタムレポートタイプでの行の名前項目の表示

共有ルールによってアクセスできない行の名前値は、カスタムレポートタイプで表示されるようになりました。これらの行は、参照行の名前値が検索条件に一致しない場合にのみ非表示になります。

商談: Lightning Experience で編集可能な [確度] 項目

商談所有者は、Salesforce Classic に切り替えることなく、手動で [確度] 項目を編集できるようになりました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

セールスコンソールの変更

セールスコンソールにいくつかの変更が加えられました。リストビューがコンソールにフロート表示されるかどうかを制御できるようになりました。コンソールを表示するには、Salesforce Classic を使用する必要があります。

詳細は、「Salesforce Console for Service」セクションを参照してください。この変更はセールスコンソールにも適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

私の取引先と取引先責任者をインポートウィザードは廃止

私の取引先と取引先責任者をインポートウィザードは廃止になりました。代わりにデータインポートウィザードを使用してデータをアップロードするようにユーザに伝えてください。詳細については、「Import My Accounts and Contacts Retirement in Winter '17」を参照してください。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に影響します。

エディション

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

取引先の自動入力で表示される会社数の増加

営業担当が[取引先名]項目への会社名の入力を開始すると、該当する候補が表示されるため、すばやく正確にデータを入力できます。自動入力で表示される会社の数が増えたため、営業担当は探している会社を見つける可能性が高くなります。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

カスタムレポートタイプでの行の名前項目の表示

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

共有ルールによってアクセスできない行の名前値は、カスタムレポートタイプで表示されるようになりました。これらの行は、参照行の名前値が検索条件に一致しない場合にのみ非表示になります。

以前は、参照関係を使用してオブジェクトの名前項目を絞り込み、検索条件で null 値を除外した場合、共有ルールによってアクセスできない参照オブジェクトで行が非表示になっていました。

たとえば、取引先責任者との参照関係があるケースに基づくカスタムレポートがあるとします。すべての取引先責任者名は表示されますが、他の取引先責任者項目は組織の共有ルールによって null 値が表示されます。たとえば、「A」で始まる取引先責任者名の検索条件を追加した場合、名前が「A」で始まる取引先責任者に関連するケース行がレポート結果で返されるようになりました。

商談: Lightning Experience で編集可能な [確度] 項目

商談所有者は、Salesforce Classic に切り替えることなく、手動で［確度］項目を編集できるようになりました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

関連トピック:

- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Data.com: クリーンアップルールの設定と取引先の会社情報

エディション

Data.com Clean ライセンスのある Lightning Experience および Salesforce Classic で使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Lightning Experience で使用できる主要な Data.com 機能が増えました。クリーンアップルールの設定と、Data.com Clean のお客様向けに、取引先データに貴重な会社情報を追加するルールが追加されました。

このセクションの内容:

- Lightning Experience のクリーンアップルールの設定

  Data.com クリーンアップルールを使用して、適切なデータを適切なタイミングで営業担当に提供できます。クリーンアップルールは、既存のデータを最新の状態に保つだけのものではありません。取引先やリードを、地理コード、業種、収益、従業員数、D-U-N-S Number などの貴重な情報で補強するためにも使用できます。Summer '16 では、Salesforce Classic にクリーンアップルールが導入されました。今回、Data.com Clean のユーザは Lightning Experience を使用してクリーンアップルールを有効化することもできるようになりました。

取引先レコードへの主要情報の自動追加
新しい取引先の会社情報クリーンアップルールを有効にすると、営業チームは取引先をセグメント化し、テリトリーを計画して、顧客への理解を深めることができます。このルールで Dun & Bradstreet から 100 項目を超える会社、業種、および財務情報(クリーンアップジョブの場合と同じ項目)にアクセスできます。ルールは、Lightning Experience または Salesforce Classic で簡単に設定できます。

Lightning Experience のクリーンアップルールの設定

Data.com クリーンアップルールを使用して、適切なデータを適切なタイミングで営業担当に提供できます。クリーンアップルールは、既存のデータを最新の状態に保つだけのものではありません。取引先やリードを、地理コード、業種、収益、従業員数、D-U-N-S Number などの貴重な情報で補強するためにも使用できます。Summer '16 では、Salesforce Classic にクリーンアップルールが導入されました。今回、Data.com Clean のユーザは Lightning Experience を使用してクリーンアップルールを有効化することもできるようになりました。

関連トピック:
このリリースの Lightning Experience の機能

取引先レコードへの主要情報の自動追加

新しい取引先の会社情報クリーンアップルールを有効にすると、営業チームは取引先をセグメント化し、テリトリーを計画して、顧客への理解を深めることができます。このルールで Dun & Bradstreet から 100 項目を超える会社、業種、および財務情報 (クリーンアップジョブの場合と同じ項目) にアクセスできます。ルールは、Lightning Experience または Salesforce Classic で簡単に設定できます。

ユーザ権限

取引先を手動でクリーンアップする
- D&B 企業オブジェクトに対する「参照」および「作成」

取引先の会社情報ルールを有効にする場合の考慮事項

評価オプションの代わりに AppExchange パッケージの使用を推奨
取引先の会社情報クリーンアップルールには、データの更新または参照のみの評価を生成するオプションが含まれています。

既存のクリーンアップ設定との競合
取引先の会社情報クリーンアップルールは、クリーンアップジョブと競合します。競合と混乱を防ぐには、次の手順を実行します。

- 取引先でクリーンアップジョブを無効にします。
- 取引先ページレイアウトで、クリーンアップジョブに関連する要素 ([クリーンアップ] ボタンと [クリーンアップ状況] 項目) を削除します。

レコードを手動でクリーンアップするユーザのアクセス
ユーザが手動で取引先をクリーンアップできるようにするには、次の手順を実行します。

- ユーザが D&B 企業オブジェクトへの「参照」および「作成」アクセス権を持っていることを確認します。ユーザが取引先をクリーンアップすると、ルールにより関連する D&B 企業レコードが作成されます (レコードが存在しない場合)。

- 項目レベルセキュリティを調整して、ルールで指定したデータを含むすべての取引先項目へのアクセス権をユーザに付与します。

トリガ、ワークフロー、転送通知
会社情報ルールを有効にする前に、トリガ、ワークフロー、および転送通知の設定を確認します。会社情報ルールを使用すると、これらのメカニズムが有効になります。

項目の対応付けのカスタマイズに対するサポートはなし
会社情報ルールでは、項目の対応付けのカスタマイズはできません。クリーンアップジョブのカスタマイズ済み項目の対応付けを会社情報ルールに引き継ぐこともできません。

取引先の会社情報ルールで指定されたデータを含む項目

取引先名	従業員数	SIC コード
取引先部門	Fax	SIC の説明
年間売上	業種	株式コード
請求先住所	NAICS コード	取引形態
会社の D-U-N-S Number	NAICS の説明	設立年
D&B 企業	会社形態	Web サイト
説明	電話	

取引先の会社情報ルールの有効化

1. [設定]から、[クイック検索]ボックスに「クリーンアップルール」と入力し、[クリーンアップルール]を選択します。
2. 取引先の会社情報クリーンアップルールを編集します。

会社情報ルールには、ルールが有効化または保存される場合に、すべてのレコードをクリーンアップするオプションが含まれています。このオプションを選択すると、Salesforce では既存の取引先で新しいデータが使用可能かどうかが、すぐに確認されます。新規取引先については、Salesforce で取引先の保存時に新しいデータが使用可能かどうかが確認されます。新しいデータは空白項目にのみ追加されます。データが上書きされることはありません。

取引先の会社情報ルールを有効にするときの手動レコードクリーンアップのガイドライン

手動クリーンアップ中にユーザが会社の D-U-N-S Number 項目値を更新する場合、ルールではデータが上書きされないため、D&B企業項目値を削除する必要があります。これで、会社情報が追加されると、クリーンアップでこれら 2 つの項目の更新された値が追加され、正しい D&B 企業レコードが取引先にリンクされます。

関連トピック:

このリリースの Lightning Experience の機能

Analytics: Lightning の機能強化、Wave のトレンド、Wave ダッシュボードデザイナなど

レポートとダッシュボード、および Wave Analytics のインサイトで意思決定を促進します。Lightning Experience のレポートとダッシュボードではアクセスの改善、検索条件オプションの追加、グラフの機能強化が行われました。Wave Analytics では、Wave のトレンド、事前作成済みアプリケーション、Wave ダッシュボードデザイナ、データマネージャツール、通知、Android アプリケーションがさらに進化しました。

このセクションの内容:

レポートおよびダッシュボード: データを取得する新しい方法
Lightning Experience でデータを操作する新しい方法が導入されました。Lightning Experience のダッシュボードエディタでは、キーボードショートカットとスクリーンリーダーの両方がサポートされます。標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに加えて、外部オブジェクトを含むレポートを実行します。もちろん、グラフには多数の機能強化があります。

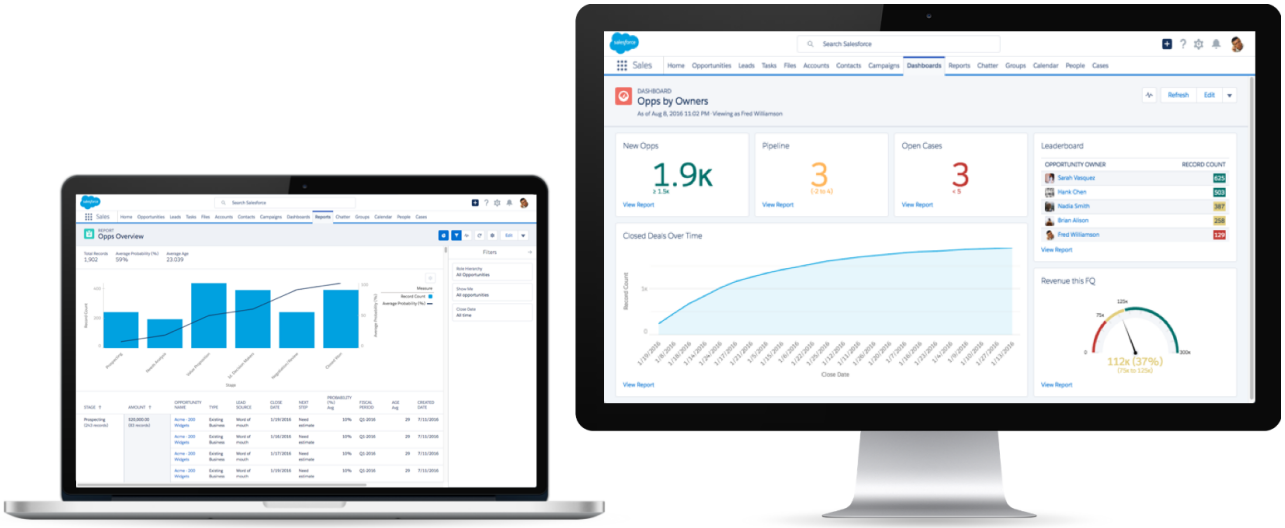
Wave Analytics: データ分析の進化
Wave のツールと機能が新しくなり、一段と使いやすくなりました。データからのビジネスインサイトの取得がさらに簡単になりました。クリック 1 回で Salesforce データのトレンドが視覚化できます。効率的でシンプルな Wave アプリケーションを使用して、セールス、サービス、およびイベント監視ビジネスを実行します。強力でシンプルになった Wave ダッシュボードデザイナを活用してください。Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションで組み込みダッシュボードを使用する場合には Wave を配置します。

レポートおよびダッシュボード: データを取得する新しい方法

Lightning Experience でデータを操作する新しい方法が導入されました。Lightning Experience のダッシュボードエディタでは、キーボードショートカットとスクリーンリーダーの両方がサポートされます。標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに加えて、外部オブジェクトを含むレポートを実行します。もちろん、グラフには多数の機能強化があります。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



このセクションの内容:

キーボードショートカットを使用したダッシュボードの設計とスクリーンリーダーの使用

キーボードショートカットとスクリーンリーダーのサポートにより、Lightning Experience ダッシュボードデザイナが以前より使いやすくなりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Lightning Experience でのロール階層によるレポートの絞り込み

西部のチームによって管理されたすべての商談を確認したいですか?ロール階層で商談レポートを絞り込むことで、特定のマネージャを上司に持つ営業担当または特定の役割の営業担当が所有する商談を表示できます。

Lightning Experience での相対日付によるレポートの絞り込み

今年成立したすべての商談を確認したいですか? カレンダー日付で絞り込む (例: `Close Date greater than Jan 1, 2016`) 代わりに、相対日付でレポートを絞り込みます (`Close Date equals THIS YEAR`)。わかりやすいだけでなく、2017 年がきたらレポート検索条件を更新するということを覚えておく必要もありません。

Lightning Experience のダッシュボードからレポートにドリルインするときの条件の保持

ダッシュボードを絞り込んで、コンポーネントレポートのいずれかを表示します。以前は、絞り込まれていない状態でレポートが開いていました。ダッシュボードと同じように絞り込まれた状態でレポートが開くようになったので、冷静にデータを分析できます。

Lightning Experience のグラフの改善: 表形式グラフ、ゲージグラフ、棒グラフ、散布図、折れ線グラフ、複合グラフ

写真に 1,000 の言葉と同じ価値があるとしたら、1 枚のグラフは 1,000 個のインサイトと同じ価値があるでしょうか?Lightning Experience のグラフに対する一連の最新の機能強化により、グラフでより多くのインサイトを得られるようになりました。

レポートに外部データを含めて視野を拡大

Salesforce Connect 外部オブジェクトを含むレポートを実行し、システムの境界を越えてデータをシームレスに表示します。外部オブジェクトの動作はカスタムオブジェクトと似ていますが、Salesforce 組織外に保存されたデータに対応付けられるという点が異なります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

キーボードショートカットを使用したダッシュボードの設計とスクリーンリーダーの使用

キーボードショートカットとスクリーンリーダーのサポートにより、Lightning Experience ダッシュボードデザイナが以前より使いやすくなりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

次回のダッシュボードの作成には、次の便利なキーボードショートカットを使用しましょう。

キーボードショートカット	アクション
Tab	ダッシュボード内の次の項目にフォーカスを移動
Shift + Tab	ダッシュボード内の前の項目にフォーカスを移動
Spacebar	移動するコンポーネントまたはサイズ変更するコンポーネントの隅を選択
↑、↓、←、→	ウィジェットの移動またはサイズ変更
Enter	ボタンのクリック
Ctrl+Z	元に戻す
Ctrl+Y	やり直し
Ctrl+S	保存
Ctrl+N	コンポーネントの追加
Esc	コンポーネントの移動またはサイズ変更をキャンセル

ダッシュボードのコンポーネント間をタブで移動するときに、スクリーンリーダーで各グラフのデータセットを読み上げるオプション [グラフデータセットを読み上げる (スクリーンリーダー)] を使用できます。

Salesforce でのスクリーンリーダーの使用についての詳細は、Salesforce ヘルプの「*Salesforce アクセシビリティの推奨事項*」を参照してください。

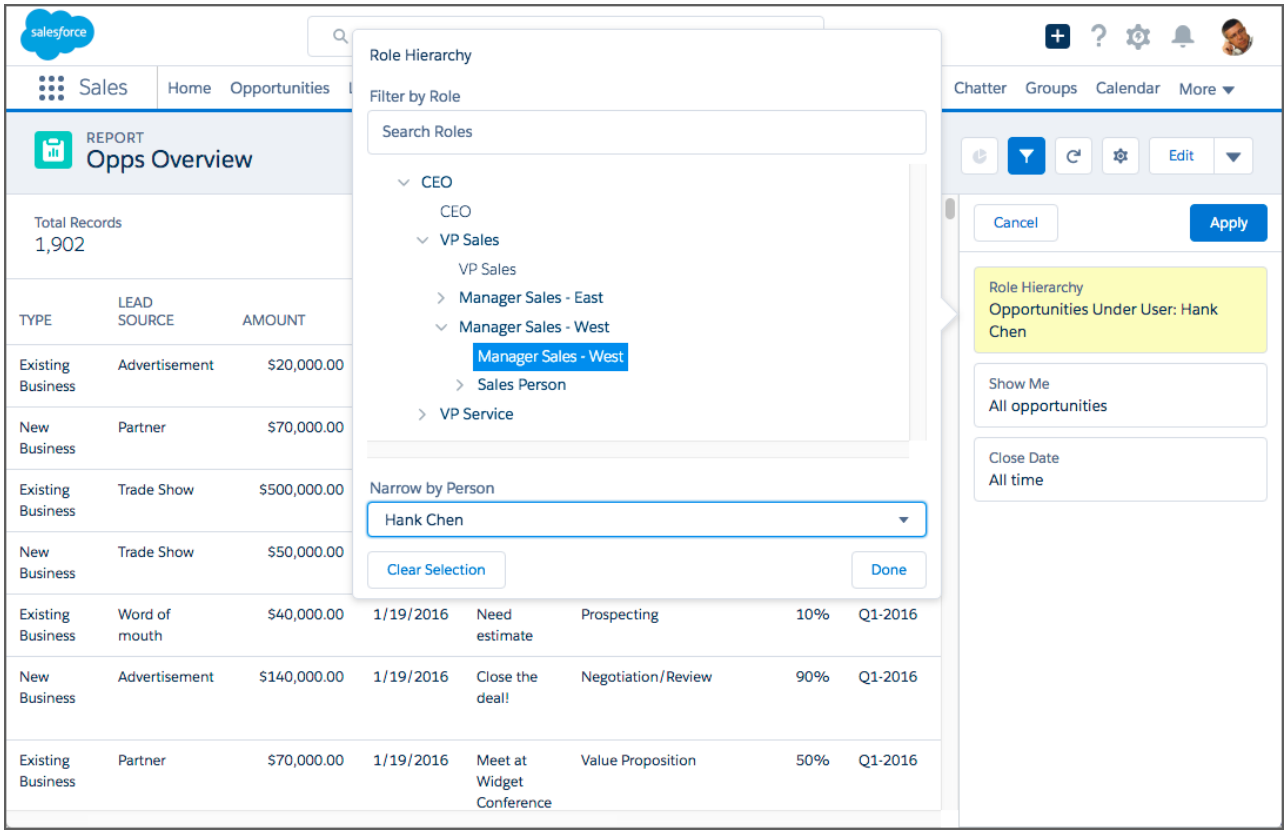
関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience でのロール階層によるレポートの絞り込み

西部のチームによって管理されたすべての商談を確認したいですか? ロール階層で商談レポートを絞り込むことで、特定のマネージャを上司に持つ営業担当または特定の役割の営業担当が所有する商談を表示できます。

ロール階層検索条件を `Manager Sales - West` に設定すると、レポートはすべての西部営業マネージャとそのすべての部下が所有する商談を返します。特定の西部営業マネージャの商談を返すには、そのマネージャを選択してロール階層検索条件を絞り込みます。

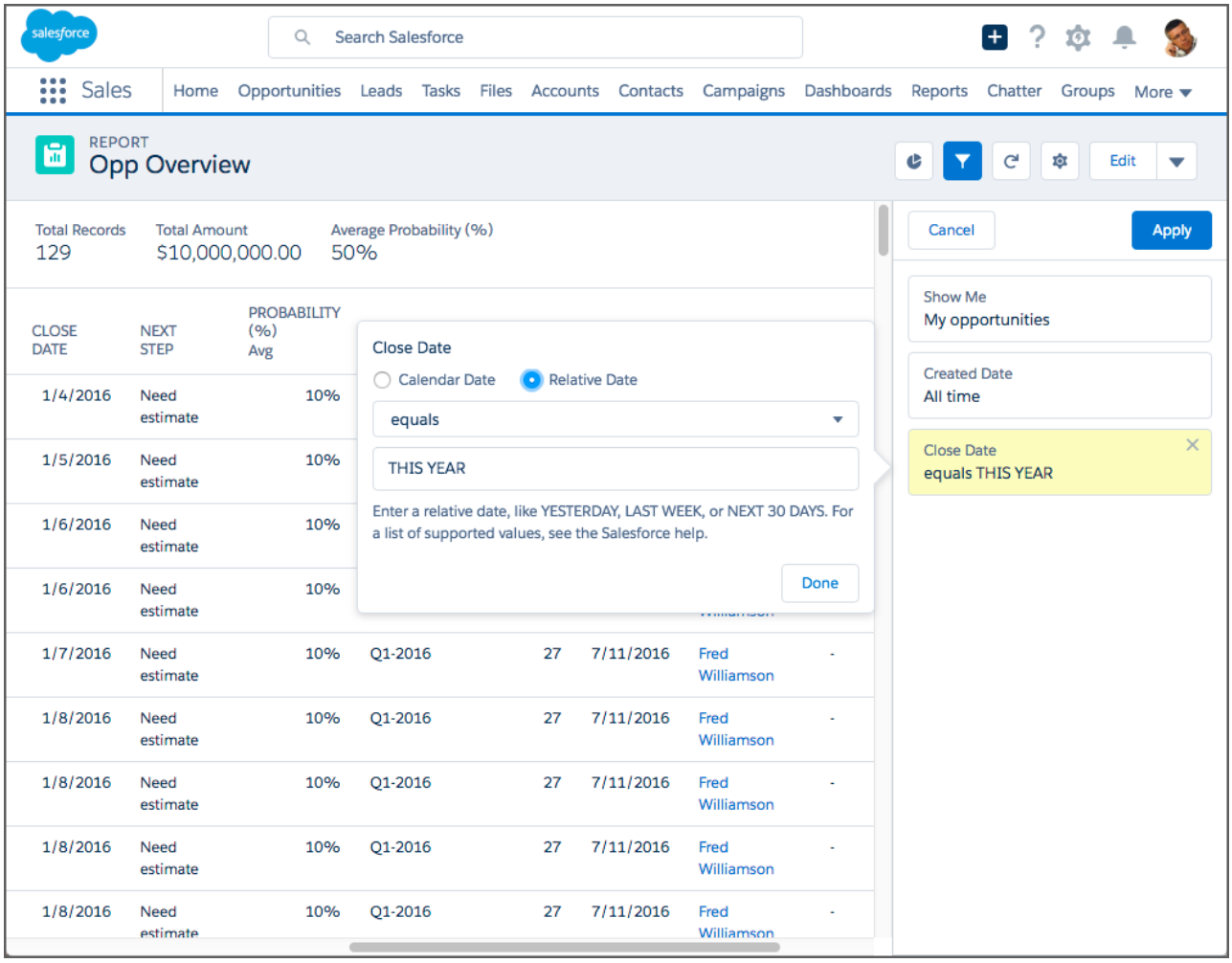


関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience での相対日付によるレポートの絞り込み

今年成立したすべての商談を確認したいですか? カレンダー日付で絞り込む (例: `Close Date greater than Jan 1, 2016`) 代わりに、相対日付でレポートを絞り込みます (`Close Date equals THIS YEAR`)。わかりやすいだけでなく、2017 年がきたらレポート検索条件を更新するということを覚えておく必要もありません。



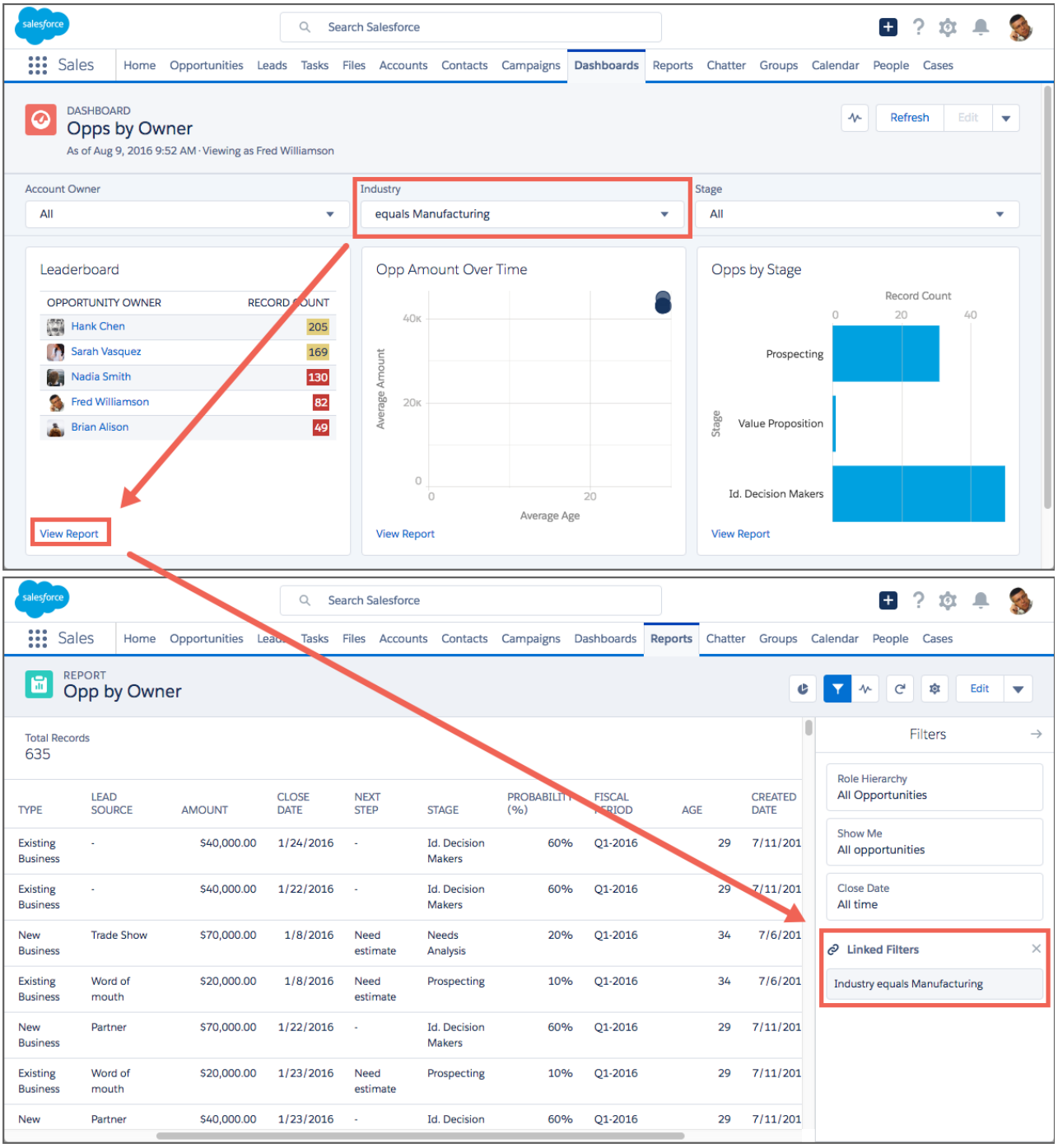
関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience のダッシュボードからレポートにドリルインするときの条件の保持

ダッシュボードを絞り込んで、コンポーネントレポートのいずれかを表示します。以前は、絞り込まれていない状態でレポートが開いていました。ダッシュボードと同じように絞り込まれた状態でレポートが開くようになったので、冷静にデータを分析できます。

ダッシュボードからレポートに伝搬された検索条件は「*リンクされた検索条件*」と呼ばれます。リンクされた検索条件はレポートから削除できますが、直接編集することはできません。リンクされた検索条件は、レポートを離れた後は保持されません。



関連トピック:

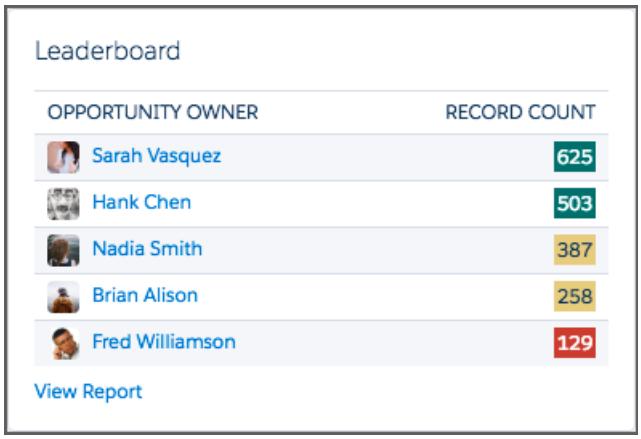
Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience のグラフの改善: 表形式グラフ、ゲージグラフ、棒グラフ、散布図、折れ線グラフ、複合グラフ

写真に 1,000 の言葉と同じ価値があるとしたら、1 枚のグラフは 1,000 個のインサイトと同じ価値があるでしょうか? Lightning Experience のグラフに対する一連の最新の機能強化により、グラフでより多くのインサイトを得られるようになりました。

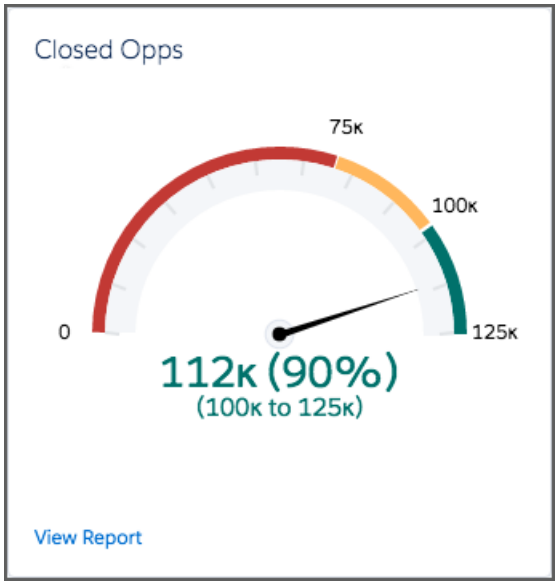
Lightning Experience でのダッシュボードへのテーブルの追加

Lightning Experience ダッシュボードエディタから、テーブルコンポーネントを追加し、コンポーネントエディタで列を並び替えることができるようになりました。Lightning Experience ダッシュボードのテーブルには、条件付き強調表示と Chatter 写真が表示されますが、条件付き強調表示と Chatter 写真を設定するには、Salesforce Classic に切り替える必要があります。



ゲージグラフにパーセンテージを表示

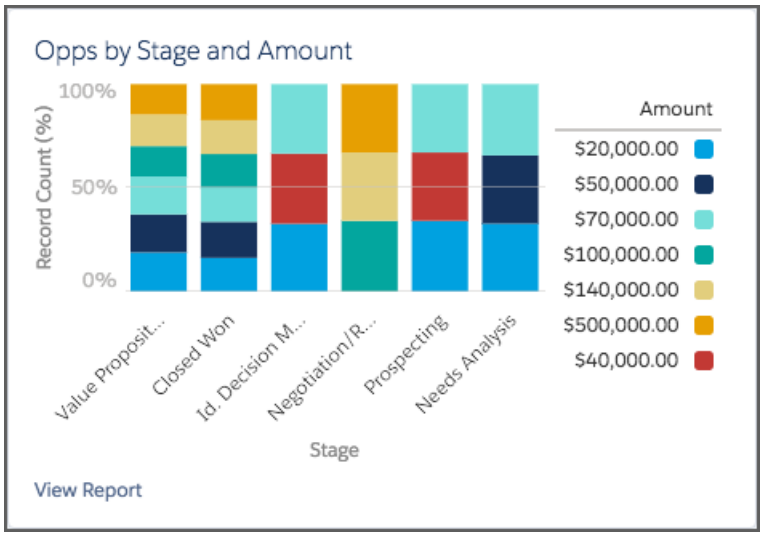
Lightning Experience に追加されたゲージグラフには、デフォルトでパーセントが表示されるようになりました。Salesforce Classic でパーセントを表示するように設定されたゲージグラフは、Lightning Experience でもパーセントが表示されるようになりました。



100% 積み上げ棒グラフ

積み上げ棒グラフは、絶対値を横に並べて比較する場合に非常に役立ちます。100% 積み上げ棒グラフは、相対値を横に並べて比較できます。たとえば、フェーズごとの商談と*合計*商談金額を比較する代わりに、積み上げ棒グラフでフェーズごとの商談金額の*比率*を比較できます。

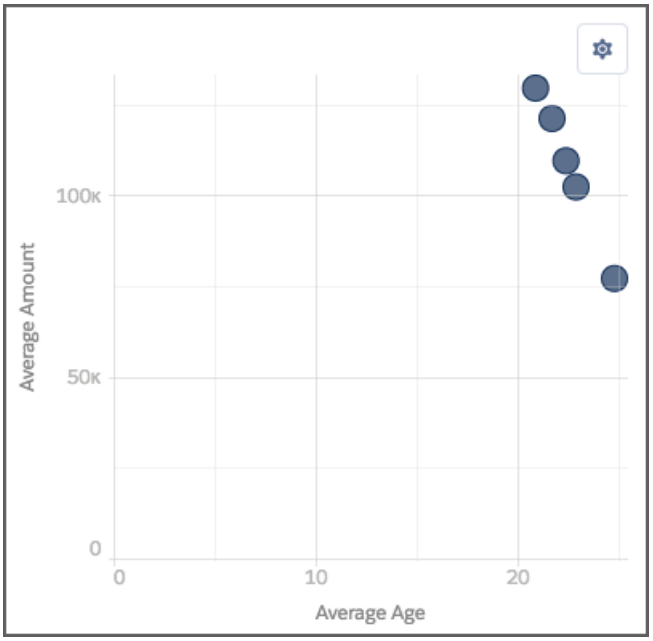
棒グラフを 100% に積み上げるには、レポートに 2 つ以上のグルーピングがあり、その 1 つが数値である必要があります。



散布図でのレポートデータの表示

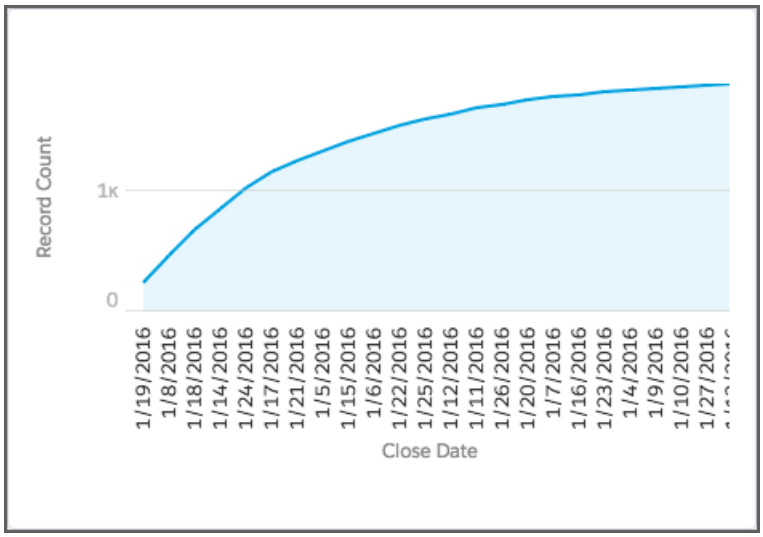
散布図は、商談日数がどのように商談金額に影響しているかを簡単に確認できます。

散布図にレポートデータを表示するには、レポートに 2 つ以上の集計項目がある必要があります。



累積折れ線グラフでのレポートデータの表示

レポートを累積折れ線グラフで表示し、経時的な売上成長をわかりやすく強調表示できるようになりました。



Lightning Experience でのレポートの組み合わせグラフの表示

以前は、Salesforce Classic でレポートに追加された組み合わせグラフは Lightning Experience では棒グラフまたは円グラフとして表示されていました。今回のリリースで、Salesforce Classic でレポートに追加された組み合わせグラフは、Lightning Experience ではレポートの上に表示されるようになりました。

関連トピック:

Lightning Experience: **最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス**
レポートおよびダッシュボード: Lightning Experience **の考慮事項**

レポートに外部データを含めて視野を拡大

Salesforce Connect **外部オブジェクトを含むレポートを実行し、システムの境界を越えてデータをシームレスに表示します。外部オブジェクトの動作はカスタムオブジェクトと似ていますが、**Salesforce **組織外に保存されたデータに対応付けられるという点が異なります。この機能は、**Lightning Experience **と** Salesforce Classic **の両方で使用できます。**

エディション

使用可能なエディション: **Developer** Edition

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

外部オブジェクトを含むレポートの動作は特殊であり、制限があります。Salesforce ヘルプの考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) に目を通してください。

関連トピック:

外部オブジェクトレポート — システムの境界を越えたデータのシームレスな表示

Salesforce ヘルプ: Report Considerations for Salesforce Connect—All Adapters (Salesforce Connect — すべてのアダプタのレポートに関する考慮事項) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Wave Analytics: データ分析の進化

Wave のツールと機能が新しくなり、一段と使いやすくなりました。データからのビジネスインサイトの取得がさらに簡単になりました。クリック 1 回で Salesforce データのトレンドが視覚化できます。効率的でシンプルな Wave アプリケーションを使用して、セールス、サービス、およびイベント監視ビジネスを実行します。強力でシンプルになった Wave ダッシュボードデザイナを活用してください。Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションで組み込みダッシュボードを使用する場合には Wave を配置します。

エディション

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition。**Developer** Edition でも使用可能。

このセクションの内容:

トレンド分析 Wave ダッシュボードで経時的にビジネスを追跡

データは、ビジネスが過去と現在にどんな状態で、今後どうなるかを示します。しかし、時間経過にそってデータを追跡するにはどうすればよいでしょうか? Wave のトレンド分析を使用すれば、変化し続けるビジネスデータからのインサイトの視覚化と共有をすばやく簡単に実行できます。Salesforce レポートを実行して、**[Wave でトレンド分析]** をクリックします。Wave で経時的にデータを追跡できます。

事前作成済み Wave アプリケーションによる分析の加速化

Service Wave、Event Monitoring Wave、および更新された Sales Wave で提供される、事前作成済みアプリケーションが拡張されました。アップグレードツールも拡張したので、アップグレードによるアプリケーションの変更部分をプレビューできます。

Wave: 探索、視覚化、容易なデザイン

Wave ダッシュボードデザイナを使用して、洗練されたダッシュボードをすばやく生成します。強力で新しい数式エディタを使用して、他にはない比較テーブルを作成します。また、ピラミッド、ゲージ、および評価グラフを使用して、視覚化に新しい操作性を追加します。

Wave: すべてのビジネスプロセスで Wave Analytics が使用可能に

Wave Analytics を、Lightning Experience、Salesforce1 モバイルアプリケーション、モバイル Visualforce ページ、Chatter、メールなどの、作業を行う場所に追加しましょう。通知、アノテーション、その他の機能強化を使用すると、フォロー、コラボレーション、共有がさらに簡単になります。

Wave: Wave モバイルアプリケーションを持って外出

最新バージョンの iOS アプリケーションと新しい Android アプリケーションの Wave を携えて出かけましょう。

Wave: データの統合

新しいデータマネージャによりすべてのデータの準備ツールが1か所に配置され、複製の設定、データセットの作成、およびデータフローの管理が簡単になりました。

Wave: SAQL および REST API を機能強化したプラットホームでの開発

要望が多かった新しい SAQL 関数の追加と REST API の更新により、Wave プラットホームでの開発が引き続き強化されています。

トレンド分析 Wave ダッシュボードで経時的にビジネスを追跡

データは、ビジネスが過去と現在にどんな状態で、今後どうなるかを示します。しかし、時間経過にそってデータを追跡するにはどうすればよいでしょうか? Wave のトレンド分析を使用すれば、変化し続けるビジネスデータからのインサイトの視覚化と共有をすばやく簡単に実行できます。Salesforce レポートを実行して、[Wave でトレンド分析] をクリックします。Wave で経時的にデータを追跡できます。

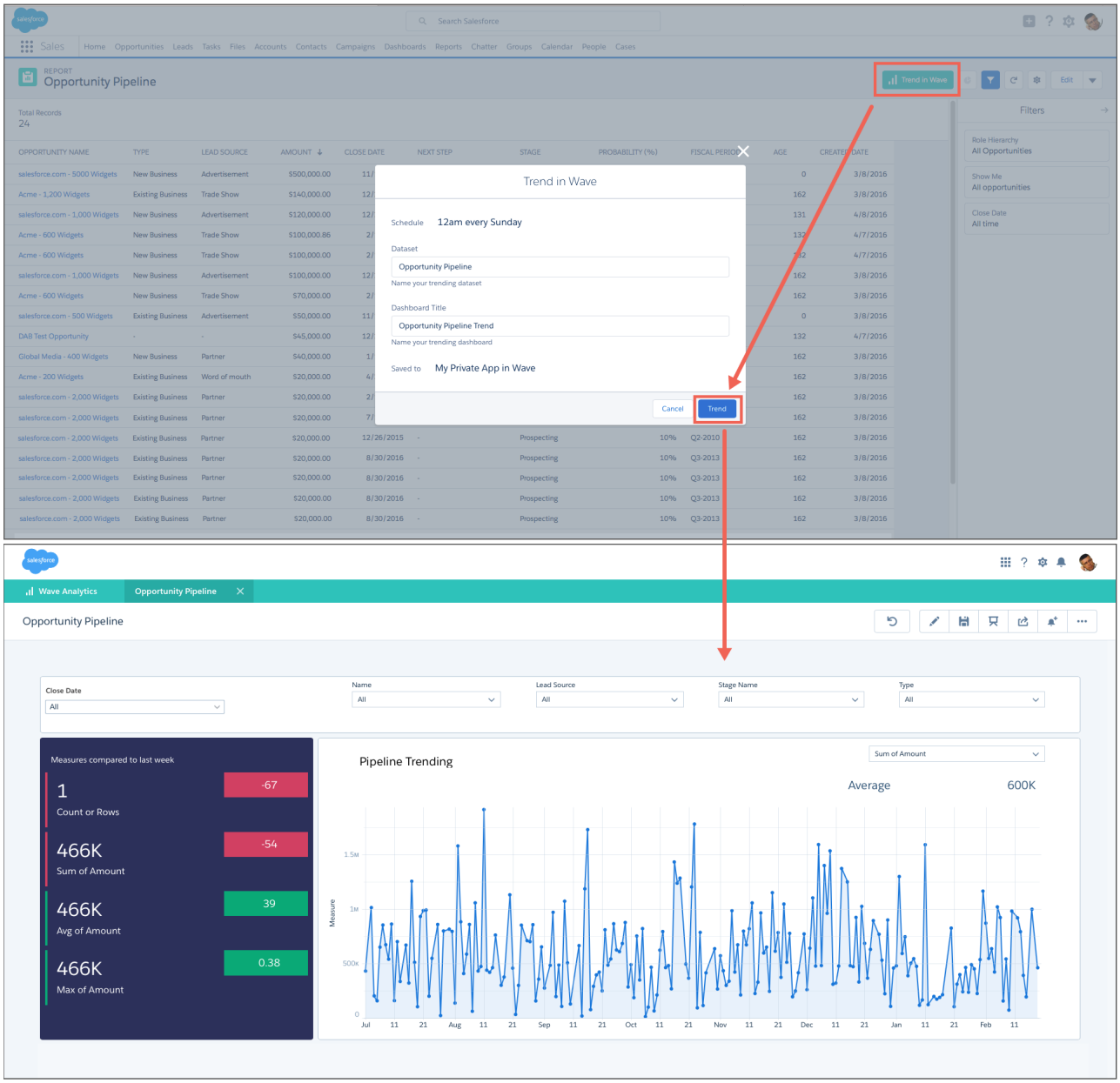
ユーザ権限

Wave Analytics でレポートをトレンド分析する

- 「Wave Analytics を使用」

  および

  「Wave Analytics のトレンドレポートデータ」



レポートをトレンド分析すると、レポートのスナップショットが毎週 Wave データセットにアップロードされます。モバイルに対応し、完全なカスタマイズや共有が可能な Wave ダッシュボードを使用できます。このダッシュボードはトレンド分析データからのインサイトを示します。トレンド分析 Wave ダッシュボードを使用して、進行中のパイプライン、完了した商談、エスカレーション済みのケースなどの主な総計値を経時的に追跡します。レンズを使用してトレンド分析データセットを探索するか、独自の Wave ダッシュボードを最初から作成します。非常にシンプルです。

たとえば、商談の追跡はセールス活動の全体的な健全性を測定する場合に重要です。商談レポートは一時期の状況を示しますが、効果的にパイプラインを追跡するには、商談の経時的な変化を知る必要があります。パイプラインの健全性を監視する方法の 1 つは、成立する確率が 50% 超ある商談を示すレポートをトレンド分析することです。

1. 商談レポートを実行または作成します。

2. **[Wave でトレンド分析]** をクリックします。
3. トレンド分析ダッシュボードとデータセットに名前を付けて、**[トレンド]** をクリックします。トレンド分析ダッシュボードがいつ使用できるようになるかを通知するメールが送信されます。
4. ダッシュボードを表示するには、トレンド分析レポートを実行し、**[トレンドを表示]** をクリックします。

   Wave にトレンド分析ダッシュボードが開きます。最初は、ダッシュボードにデータポイントが 1 つ表示されますが、毎週更新されデータが追加されます。ダッシュボードを毎週確認して、パイプラインの経時的な変化を追跡します。

   他の Wave ダッシュボードと同様、Lightning ページ、レコード詳細ページ、またはチームが作業している場所ならどこでも、このダッシュボードを共有または埋め込みができます。

Wave Analytics で Salesforce レポートのトレンド分析の準備ができたら、次の考慮事項と制限事項に留意してください。

- Wave のトレンドが機能するには、[設定] で **[Wave ダッシュボードデザイナを有効化]** 設定を有効にする必要があります。
- トレンド分析が始まったら、基礎となるレポートへのアクセス権限の変更、ディメンションや基準の追加および削除を行わないようにしてください。レポートやアクセス権限の変更を行うと、スナップショットが作成される時点でエラーや不正確性が発生する場合があります。
- スナップショットは毎週日曜日深夜 (現地時間) に作成されます。ただし、データの処理と表示には通常、最大数時間かかります。
- トレンド分析を停止して再開した場合は、新規トレンド分析ダッシュボードで新規スナップショットデータセットが作成されます。前のトレンド分析データセットは新規ダッシュボードに含まれません。
- 良好なパフォーマンスを実現するため、各ユーザが作成可能なスナップショットのサイズとトレンド分析データセットの数に次の制限があります。
  - ユーザあたりの最大トレンド分析データセット数: 5
  - スナップショットあたりの最大行数: 100,000
  - 組織あたりのすべてのスナップショットの月間最大行数: 4 千万
  - トレンド分析データセットは、行の合計数など、Wave プラットホーム全体の制限についてカウントされます。
  - トレンド分析ダッシュボードは結合レポートからは作成できません。

事前作成済み Wave アプリケーションによる分析の加速化

Service Wave、Event Monitoring Wave、および更新された Sales Wave で提供される、事前作成済みアプリケーションが拡張されました。アップグレードツールも拡張したので、アップグレードによるアプリケーションの変更部分をプレビューできます。

ユーザ権限

Wave アプリケーションを使用する
- 「Analytics Cloud テンプレートアプリケーションの使用」
- アプリケーションごとに指定する追加の権限

Wave アプリケーションを作成および管理する
- 「Analytics Cloud テンプレートアプリケーションの管理」
- 「Wave Analytics データフローの編集」

このセクションの内容:

更新された Sales Wave を使用して Sales Cloud Analytics を合理化

新しいバージョンの Sales Wave で、全く新しいダッシュボードを作成すると、営業チームのすべてのメンバーが今まで以上に高速な分析を体験できます。

Service Wave で適切なデータを適切な時期に入手し、サービスの意思決定をスマートに

Service Wave Analytics アプリケーションの組み込みダッシュボードを使用すると、あらゆるデバイスで Service Cloud データを直接探索できます。サービスマネージャとエージェントは、1 か所でベストプラクティス KPI を確認し、より適切なカスタマーサービスを提供できます。

Event Monitoring Wave を使用してスマートなインサイトを組織の活動に迅速に導入

Event Monitoring Wave アプリケーションでは、組み込みの Wave インテグレーションを使用して組織のイベント監視データを活用できます。

事前作成済み Wave アプリケーションの新しいバージョンへのアップグレード時における精度向上

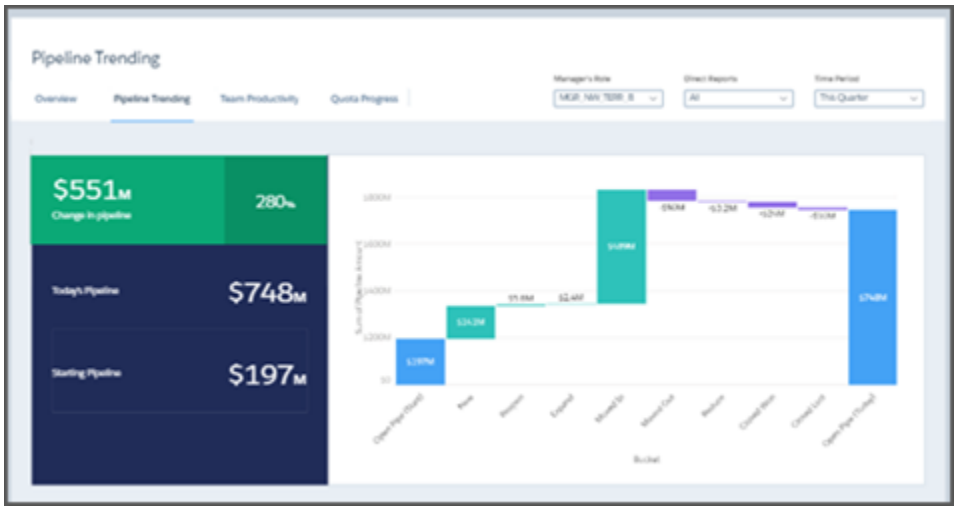
処理を完了する前に、アップグレード後のアプリケーションのデータセットとダッシュボードの変更部分を確認します。

更新された Sales Wave を使用して Sales Cloud Analytics を合理化

新しいバージョンの Sales Wave で、全く新しいダッシュボードを作成すると、営業チームのすべてのメンバーが今まで以上に高速な分析を体験できます。

ユーザ権限

Sales Wave アプリケーションを使用する
- 「Analytics Cloud テンプレートアプリケーションの使用」
- 「Sales Cloud Analytics テンプレートおよびアプリケーションへのアクセス」



まったく新しいSales Wave Analyticsアプリケーションで、直感的で操作が容易なダッシュボードを使用して、分析の操作性を合理化できます。デスクトップでも、モバイルデバイスでも、Salesforceデータの値を今までになく、簡単で高速に検索できます。ユーザが営業マネージャ、営業担当者、または操作担当者かで、ロールに合わせたダッシュボードが表示されるので、分析からアクションへ迅速に移行できます。また、ダッシュボードや他の機能強化が追加されると、アラートが表示されるようになったため、新バージョンへのアップグレード時期がわかるようになりました。

Sales Waveの使用を開始するには、Salesforceヘルプの*「Sales Wave Analyticsアプリケーション」*を参照してください。

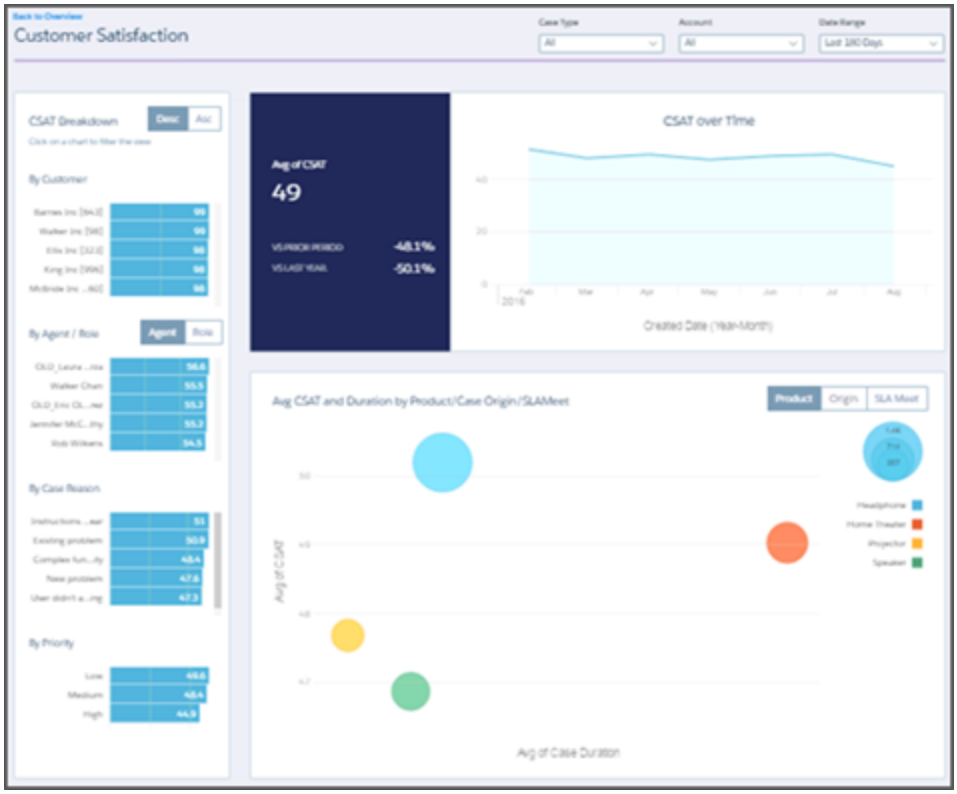
Service Waveで適切なデータを適切な時期に入手し、サービスの意思決定をスマートに

Service Wave Analyticsアプリケーションの組み込みダッシュボードを使用すると、あらゆるデバイスでService Cloudデータを直接探索できます。サービスマネージャとエージェントは、1か所でベストプラクティスKPIを確認し、より適切なカスタマーサービスを提供できます。

ユーザ権限

Service Waveアプリケーションを使用する

- 「Analytics Cloudテンプレートアプリケーションの使用」
- 「Service Cloud Analyticsテンプレートおよびアプリケーションへのアクセス」



Service Wave を使用すれば、サービスマネージャとエージェントは、現在のケース負担、チームおよびチャネルのパフォーマンス、顧客満足度、および履歴トレンドについてのインサイトを得ることができます。Service Cloud データに基づいて、チームのすべてのメンバーが適切な判断をしてサービスを向上できるように、アプリケーションは設計されています。サービスマネージャダッシュボードでは、トレンド、履歴、対等評価などのサービス顧客データの全体像を把握できます。ユーザがエージェントの場合は、サイドバーからすべてのケースと顧客のスナップショットをすばやく表示できます。このサイドバーはサービスコンソールなどの Salesforce ページに直接埋め込み可能です。

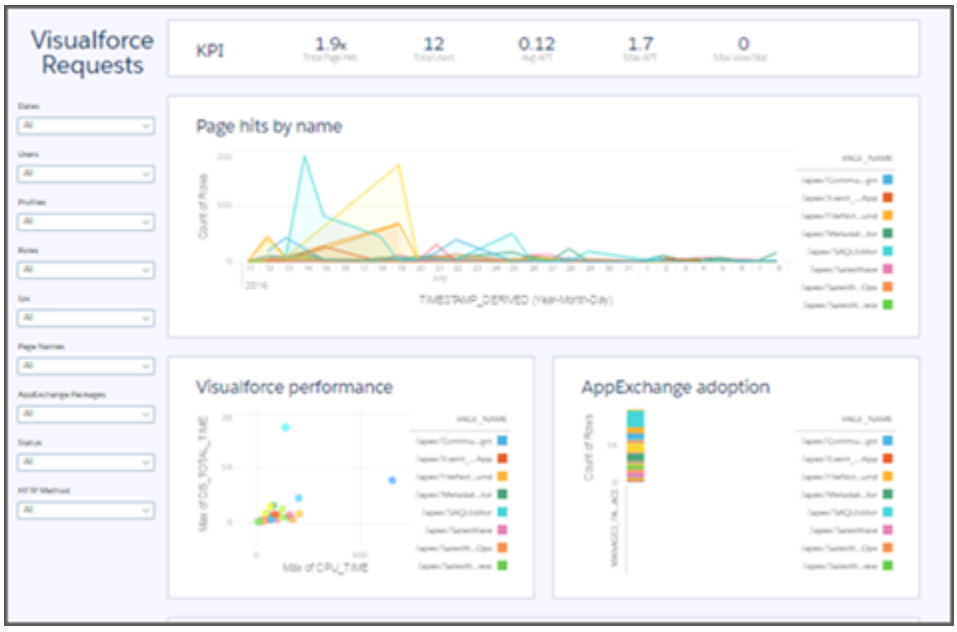
ステップバイステップで使用開始するための詳細は、*「The Service Wave Analytics App」* を参照してください。

Event Monitoring Wave を使用してスマートなインサイトを組織の活動に迅速に導入

Event Monitoring Wave アプリケーションでは、組み込みの Wave インテグレーションを使用して組織のイベント監視データを活用できます。

ユーザ権限

Event Monitoring Wave アプリケーションを使用する
- 「Analytics Cloud テンプレートアプリケーションの使用」
- 「Event Monitoring Wave Analytics テンプレートおよびアプリケーションにアクセス」



ビジネスアナリストは、Event Monitoring Wave で監視データのインサイトを一目で把握できます。これは、Salesforce の監視データを探索する初めての組み込み機能です。アプリケーションにはデータセットと、イベントログファイルデータを組織から Wave へ自動的に抽出する事前作成済みダッシュボードが含まれています。Event Monitoring Wave で組織のデータにドリルインし、疑わしい動作、ページのパフォーマンス低下、ユーザ導入の低下を迅速に識別できます。Salesforce イベントログから、組織にアクセスしている人数、IP アドレス、タイムアウトになっている Visualforce 要求、[設定] で変更を行ったユーザなどの価値のある情報をすぐに取得できます。

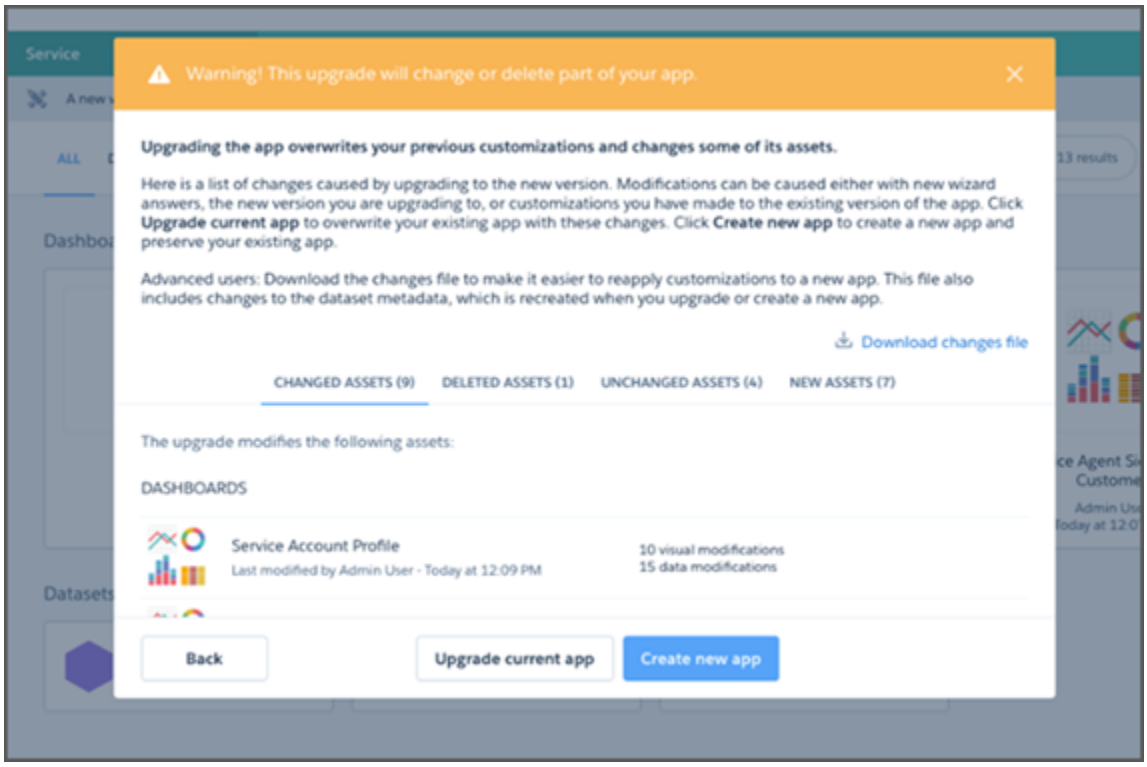
Event Monitoring Wave の使用を開始するには、*「Event Monitoring Wave アプリケーション」*を参照してください。

事前作成済み Wave アプリケーションの新しいバージョンへのアップグレード時における精度向上

処理を完了する前に、アップグレード後のアプリケーションのデータセットとダッシュボードの変更部分を確認します。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



Sales Wave、Service Wave、および Event Monitoring Wave アプリケーションのアップグレードは、アップグレード機能の強化により、結果が予測しやすくなりました。

新しいバージョンにアプリケーションをアップグレードする場合、Wave でアップグレードから影響を受けるアセットを正確に把握できます。処理を完了する前に変更、削除、追加されるデータセット、ダッシュボード、レンズの数がわかります。アセットがどのように変更されるか(変更されたのはデータか、外観か)も確認できます。

また、Wave ではアプリケーションに追加する変更のコードを記載したファイルが作成されるので、カスタマイズのコードをコピーして、新バージョンのアプリケーションに貼り付けられます。

この機能が必要なく、以前と同じ方が良い場合は、アップグレードをキャンセルするオプションがあります。現在のアプリケーションのアップグレード(追加したカスタマイズをすべて上書き)か、新規アプリケーションの作成 (現在のアプリケーションとカスタマイズを保持) を選択することもできます。

Wave: 探索、視覚化、容易なデザイン

Wave ダッシュボードデザイナを使用して、洗練されたダッシュボードをすばやく生成します。強力で新しい数式エディタを使用して、他にはない比較テーブルを作成します。また、ピラミッド、ゲージ、および評価グラフを使用して、視覚化に新しい操作性を追加します。

このセクションの内容:

比較テーブルのアップグレード
比較テーブルがセダンレベルから F1 レーサーレベルへとアップグレードされました。基本の算術関数に加えて、SAQL 算術関数、case ステートメント、およびその他のほぼすべての SAQL 関数が統合されるようになりました。SAQL をゼロから書くのは好きではないですか? それとも大嫌いですか? 新しい組み込みウィンドウ関数が、あなたに代わって SAQL を記述します。

グラフの追加で視覚化が充実
ピラミッド、ゲージ、および評価グラフが Wave ダッシュボードデザイナに新たに追加され、業務に最適な視覚化が選択できるようになりました。

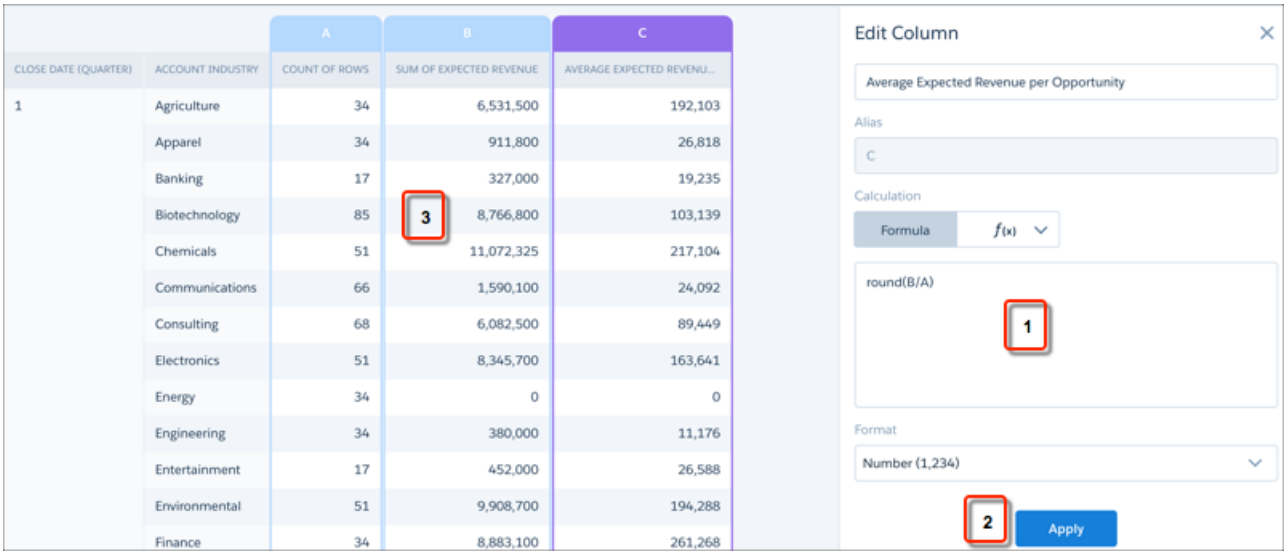
Wave ダッシュボードデザイナ (正式リリース): ダッシュボードの作成がさらに簡単に
「Wave ダッシュボードデザイナ」は、以前は Flex ダッシュボードデザイナと呼ばれていたものです。操作性が大きく向上したため、初心者であってもすばやく簡単に任意のデバイスに反応型ダッシュボードを作成できます。テンプレートを使用してベストプラクティスダッシュボードのデザインを実装します。レイアウトを使用して各種のデバイスに対応するダッシュボードをカスタマイズします。ウィザードを使用してすばやくウィジェットを作成します。新しいウィジェットプロパティでグラフを活用します。これらすべての変更を、コードを書かずに、クリック数回で実行できます。

バインドに追加される変更について
Winter '17 では、Wave ダッシュボードデザイナにより、ステップに新しいバインド構文が使用されます。Classic デザイナで作成されたダッシュボードを Wave ダッシュボードデザイナに変換すると、Wave によってバインドが新しい構文に変換されます。まれに、この変更により一部のダッシュボードで問題が発生することがあります。

ダッシュボードユーザサポートとドキュメントの強化でサポートが充実
Wave ダッシュボードデザイナを使用したダッシュボードのバインドに関するドキュメントの完全なセットを追加しました。アプリケーション内ユーザサポートを有効にするために、直感的な UI 表示ラベルを追加し、複雑なプロパティにはわかりやすいツールチップを追加しました。

比較テーブルのアップグレード

比較テーブルがセダンレベルから F1 レーサーレベルへとアップグレードされました。基本の算術関数に加えて、SAQL 算術関数、case ステートメント、およびその他のほぼすべての SAQL 関数が統合されるようになりました。SAQL をゼロから書くのは好きではないですか? それとも大嫌いですか? 新しい組み込みウィンドウ関数が、あなたに代わって SAQL を記述します。

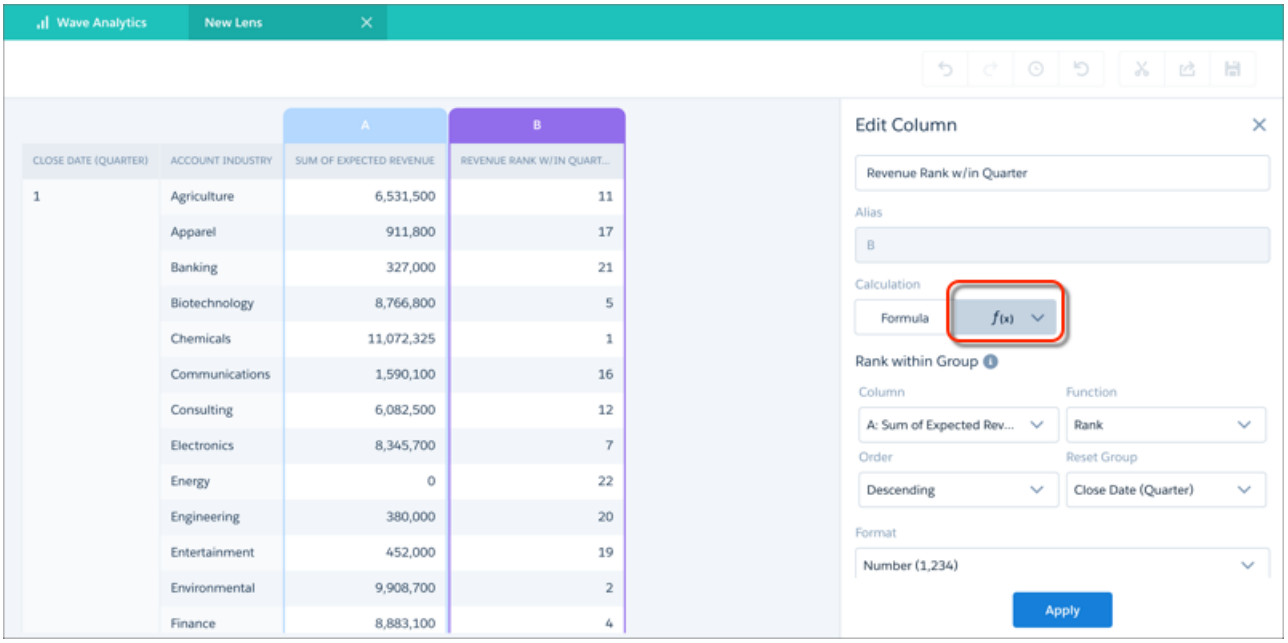


比較テーブルでは、他にも多くのアップグレードが行われています。

- 列の名前付け、数式編集、組み込み関数はすべてテーブルと同じページに表示されます。数式エディタがここ (1) に配置され、面倒なダイアログウィンドウがなくなりました。
- [適用] (2) をクリックして変更を適用します。数式の結果がすぐに表示されます。
- 比較テーブルがHTMLベースになり、列から直接テキストをコピーしてChatter投稿やメールに貼り付けることができるようになりました (3)。
- 並び替えと集計がサーバ側で実行されるようになったため、スピードと精度が大幅に改善されました。

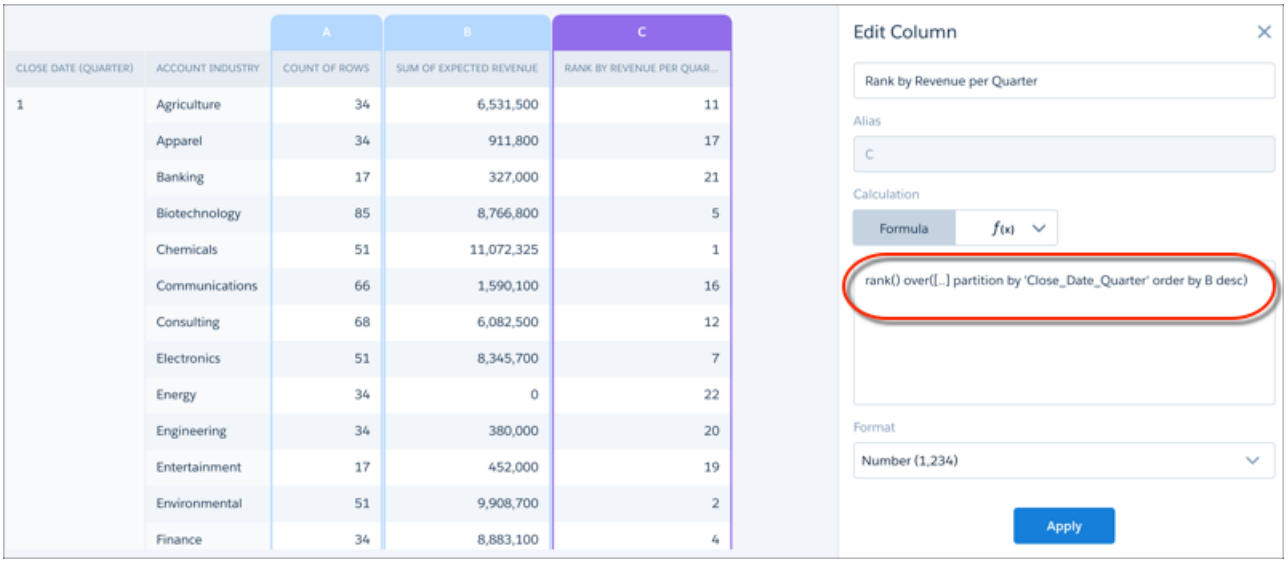
数式エディタでSAQL関数が使用できるようになりました (1)。これにより、単純な算術から複雑な集計へ (フェラーリの速度が 0 から 60 マイル/時まで加速するように) 瞬時に移行できます。`log()` や `round()` などの強力な関数に加えて、集計、日付関数、case ステートメントなども使用できます。ライブ編集や即時適用など、処理能力の向上によりさらに強力な数式を作成して、すぐにテストできるようになりました。

ウィンドウ関数で行をグループ化せずに関連テーブル行のセット内で計算が実行できるようになり、各行のIDが維持されるようになりました。たとえば、累計値またはグループの割合のビューは便利ですが、作成するには、SAQL 関数を完全に記述するためのツールボックスを所有している必要があります。ここで、新しいピボクルーの登場です。



関数エディタをクリックし、組み込みウィンドウ関数のいずれかを選択します。

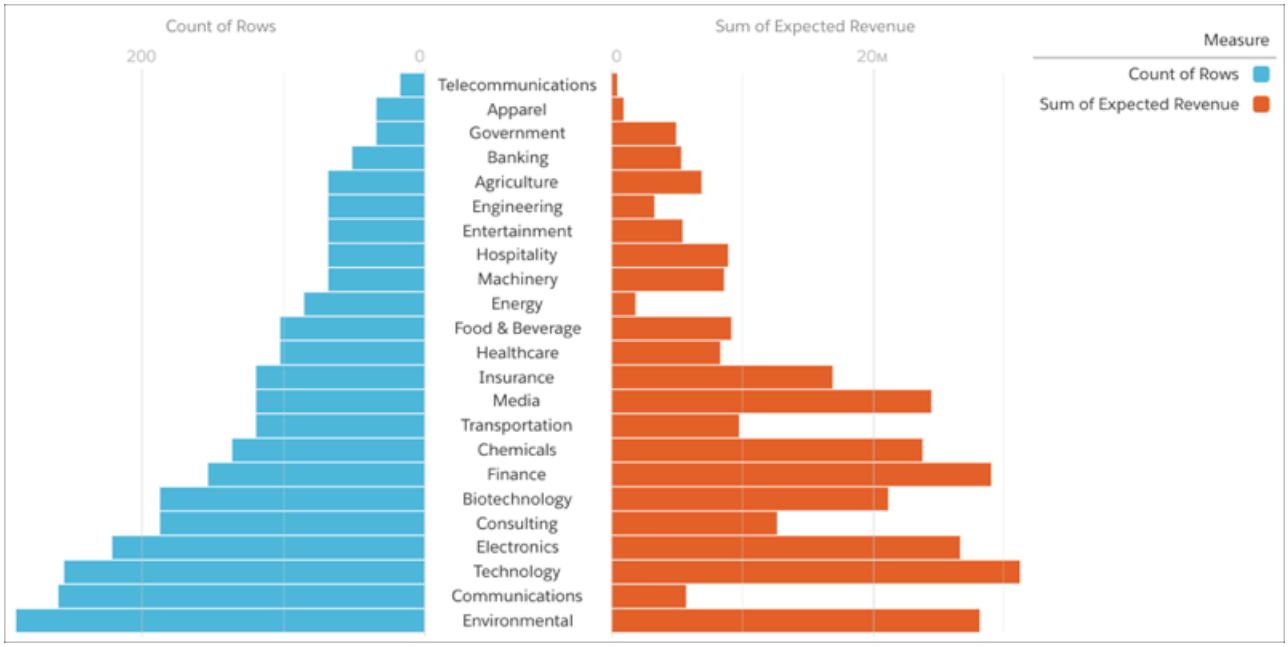
パラメータを設定して数式エディタに戻り、選択したとおりに出力された SAQL を表示します。



グラフの追加で視覚化が充実

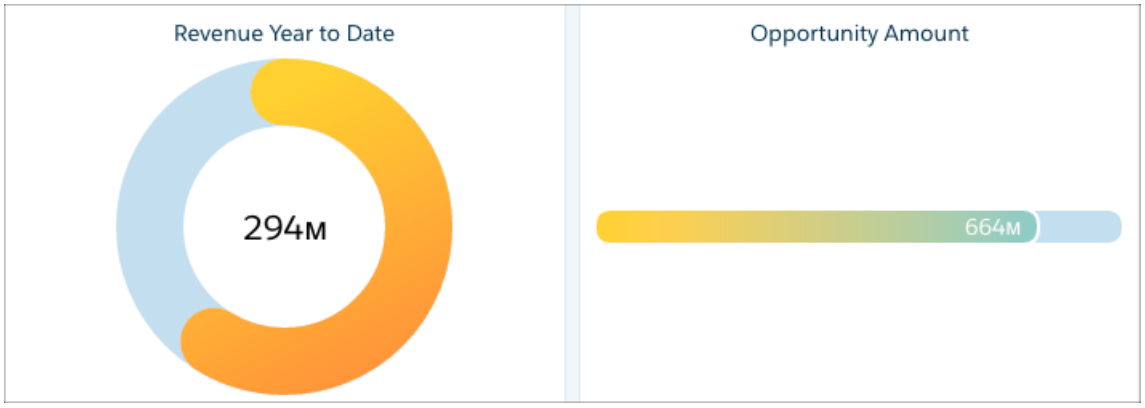
ピラミッド、ゲージ、および評価グラフが Wave ダッシュボードデザイナに新たに追加され、業務に最適な視覚化が選択できるようになりました。

- ピラミッドグラフ (積み上げピラミッドを含む)



ピラミッドグラフを使用して積み上げ形式のディメンション値の相対サイズを視覚的に強調します。2番目の測定を追加して、サイズに関して相対的に影響を評価するための比較を行います。この例では、各業界の取引先数がその予測収益と対比して表示されています。

- 極座標およびフラットゲージ



ゲージグラフを使用して、単一の測定の進捗状況 (収益目標達成率など) を追跡します。

- 評価グラフ

評価グラフは測定された品質 (顧客満足度など) の評価を表示します。

Wave ダッシュボードデザイナのグラフのプロパティ

グラフを設定するため、多くの新しいプロパティを Wave ダッシュボードデザイナで直接使用できるようになりました。グラフを思いどおりに動作させて表示することができ、JSON を調整する必要はありません。グラフごとのすべてのプロパティのリストと説明については、「グラフによるデータの視覚化」を参照してください。

Wave ダッシュボードデザイナ (正式リリース): ダッシュボードの作成がさらに簡単に

「Wave ダッシュボードデザイナ」は、以前は Flex ダッシュボードデザイナと呼ばれていたものです。操作性が大きく向上したため、初心者であってもすばやく簡単に任意のデバイスに反応型ダッシュボードを作成できます。テンプレートを使用してベストプラクティスダッシュボードのデザインを実装します。レイアウトを使用して各種のデバイスに対応するダッシュボードをカスタマイズします。ウィザードを使用してすばやくウィジェットを作成します。新しいウィジェットプロパティでグラフを活用します。これらすべての変更を、コードを書かずに、クリック数回で実行できます。

Wave ダッシュボードデザイナはデフォルトで有効になっており、すべてのユーザがアクセスできます。これまでは、管理者がこの機能を有効にする必要がありました。Wave は開かれているダッシュボードがなくても、

Waveダッシュボードデザイナへのレンズをクリップするようになりました。これまでは、Classicデザイナへのレンズをクリップしていました。(「Classic デザイナ」は従来のダッシュボードデザイナの新しい名前です。)

各ユーザは、Wave ダッシュボードデザイナかClassic デザイナの使用を選択できます。

このセクションの内容:

テンプレートとウィジェットウィザードを使用してダッシュボードを手早く作成

Wave ダッシュボードデザイナの新しいダッシュボードテンプレートを活用してください。これらのテンプレートはダッシュボードのベストプラクティスを考慮して作成されました。各テンプレートで、空のウィジェットを含んだ固有のダッシュボードレイアウトを使用できます。各ウィジェットをクリックすると、ウィザードが開き、ウィジェットにデータを設定できます。この簡潔なウィザードを使用すると、時間が節約でき、自動的に最適なステップが作成されます。

レイアウト: 各種デバイス用にダッシュボードを最適化

デスクトップに表示するための完璧なダッシュボードを作成したとしても、モバイルデバイスに表示すると野暮ったく見えます。そこで、各種デバイス用にカスタマイズしたレイアウトの作成とプレビューができるようになりました。各レイアウトでウィジェットの削除、配置、スタイル設定を行います。

新しいバインド構文の機能強化

Wave ダッシュボードデザイナの新しいバインド構文を使用すると、条件付きフォーマッティングを適用してコンテンツを強調表示したり、選択または結果に基づいて動的にウィジェットのプロパティを変更したりできます。たとえば、しきい値に基づいて数値ウィジェットの値を色コード化して、高い数値や低い数値が注目されるようにします。または、切り替えウィジェットを追加して、動的にグラフの種類を設定し、マップまたは棒グラフを表示します。

静的ステップの簡単な構築

JSON ではなく、ウィジェットウィザードを使用して、静的ステップを構築します。このウィザードでは、ステップにカスタム値を追加するプロセスを行います。たとえば、ケースの優先度の高、中、低というオプションに基づいてグラフでケースレコードを絞り込む切り替えウィジェットを作成できます。

操作性の向上によりすばやく作成

Wave ダッシュボードデザイナでは操作性が大きく向上したため、今まで以上に使いやすいダッシュボードを簡単にすばやく作成できます。たとえば、新しいグラフプロパティを使用してグラフの表示をすべてカスタマイズできます。デザイナグリッドの列数を増やすと、ダッシュボードにウィジェットを配置するときの操作性が向上します。リフローを使用して、新規ウィジェットを追加するスペースを作ります。

新しいプロパティでダッシュボードの操作性が向上

Wave ダッシュボードには、新しい機能の設定とグラフの詳細設定のための新しいプロパティが追加されました。操作性を向上させるために、複数のプロパティに新しい表示ラベルと場所が追加になりました。また、新しいプロパティが追加になったことで、いくつかの既存のプロパティが必要ではなくなりました。

Wave デザイナのダッシュボード JSON の変更

ダッシュボード JSON は変更され、JSON を最初から作成するユーザは、この変更から影響を受けます。

テンプレートとウィジェットウィザードを使用してダッシュボードを手早く作成

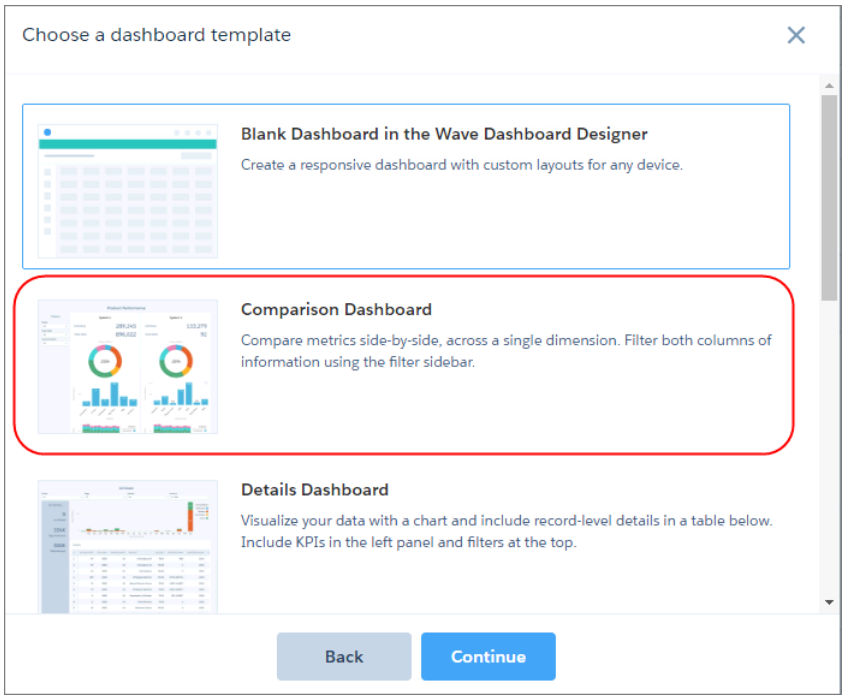
Waveダッシュボードデザイナの新しいダッシュボードテンプレートを活用してください。これらのテンプレートはダッシュボードのベストプラクティスを考慮して作成されました。各テンプレートで、空のウィジェットを含んだ固有のダッシュボードレイアウトを使用できます。各ウィジェットをクリックすると、ウィザードが開き、ウィジェットにデータを設定できます。この簡潔なウィザードを使用すると、時間が節約でき、自動的に最適なステップが作成されます。

メモ: 「従来のデザイナの空白のダッシュボード」テンプレートを除いて、Classic デザイナテンプレートは使用できなくなります。これらのテンプレートで作成された既存のダッシュボードは動作します。

テンプレートでは新しいウィジェットウィザードが活用されます。これまでは、ウィジェットを作成する場合、ウィジェットをダッシュボードに追加し、ステップを作成して、そのステップをウィジェットに追加する必要がありました。グラフ、テーブル、および検索条件ウィジェットの作成プロセスを簡潔にするために、新しいウィジェットウィザードではこれらすべてのタスクを一度に実行します。たとえば、日付ウィジェットを作成する場合、結果の絞り込みに使用するデータセットの日付項目をウィザードで選択できます。

どんなに簡単かを見るには、ダッシュボードを作ってみましょう。この例では、2つの異なるシステムの実運用パフォーマンスを比較するダッシュボードを作成します。

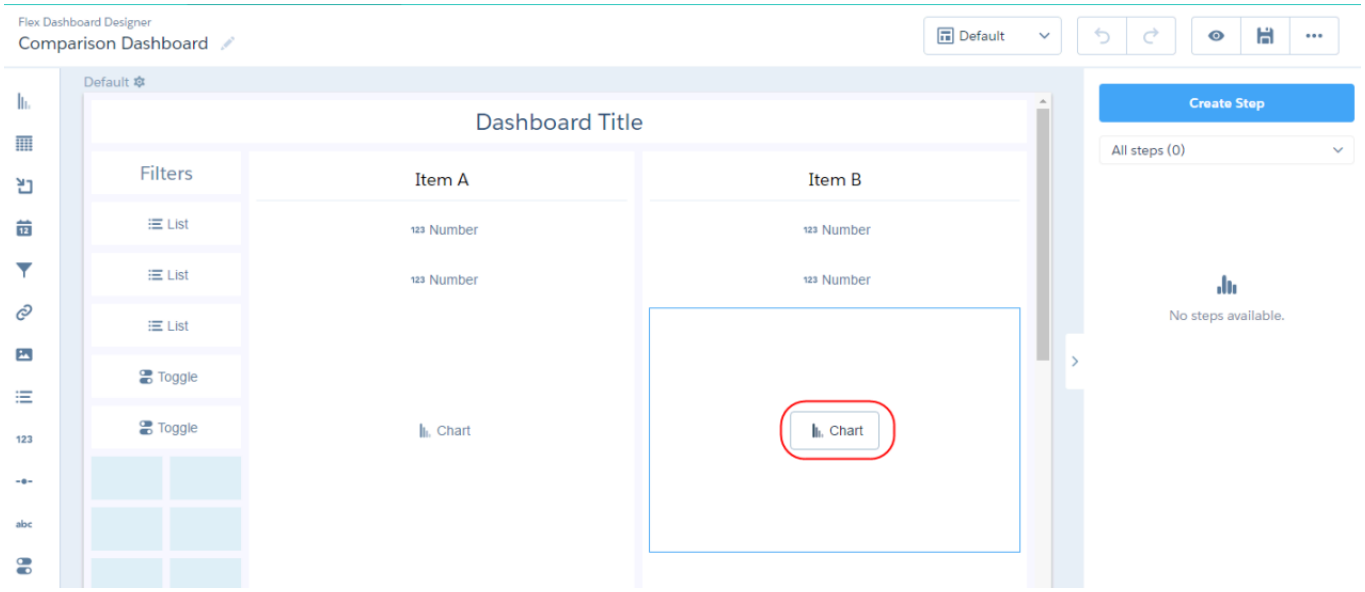
1. Wave で、[作成] > [ダッシュボード] を選択します。



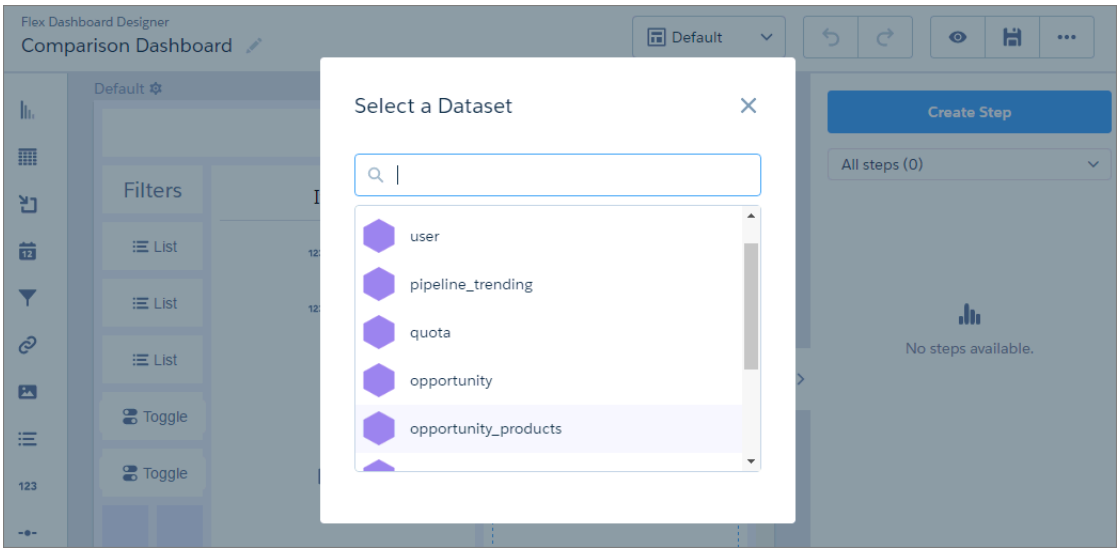
2. テンプレートのリストで、[Comparison Dashboard (比較ダッシュボード)] を選択して、[続行] をクリックします。

   テンプレートには定義済みの空のウィジェットがすでにありますが、ステップはまだ適用されていません。

3. をクリックして、ダッシュボードを編集します。
4. ウィジェット内のアイコンにカーソルを置くと、ボタンが表示されます。

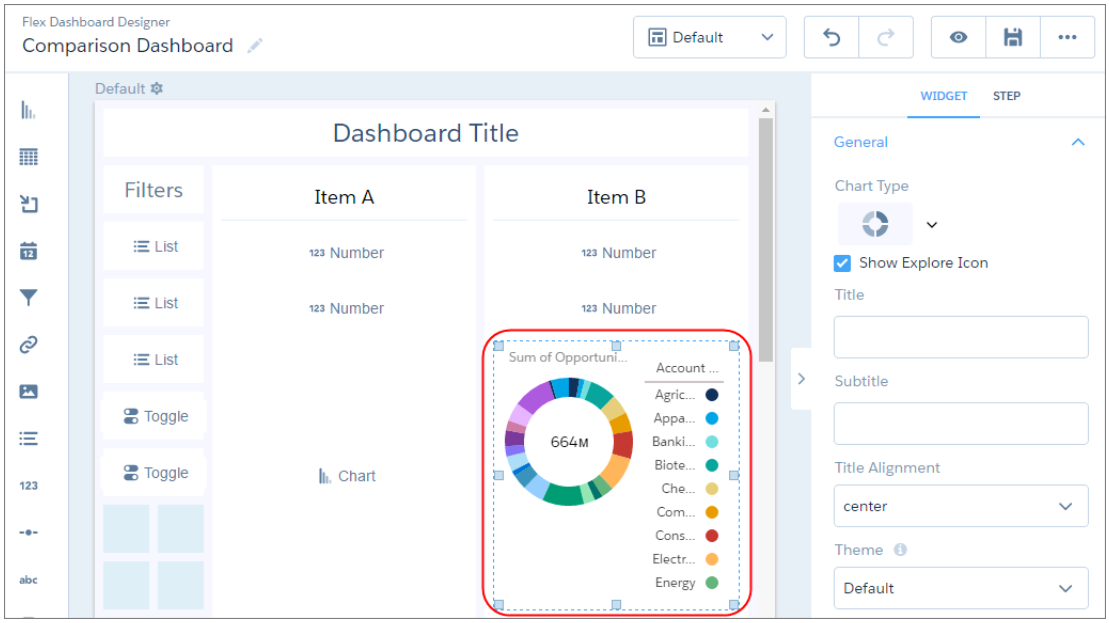


5. ウィジェットウィザードを開くには、ボタンをクリックします。



6. このウィジェットの基本となるステップを作成するには、ウィザードのタスクを実行します。

   ウィザードを完了後、Waveによりステップがステップパネルに追加されます。Waveでステップがウィジェットにも適用され、ウィジェットにデータが設定されます。



7. ステップを残りのウィジェットに適用するには、同じタスクを実行します。
8. レイアウトからウィジェットを除外するには、ウィジェットを選択してキーボードで Delete キーを押します。(ウィジェットを削除するこの方法は新機能です。)

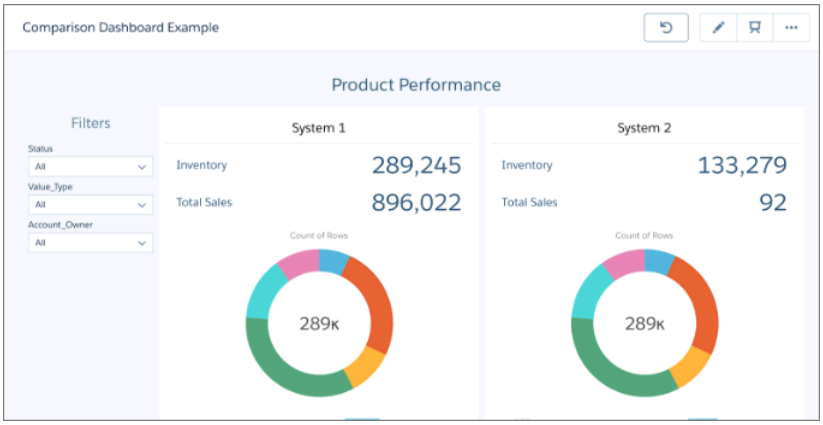
   メモ: 複数のウィジェットを選択するには、Windows の場合は Ctrl キーを押しながらクリック、iOS の場合は Cmd キーを押しながらクリックします。すべてのウィジェットを選択するには、Ctrl+A キーまたは Cmd+A キーを押します。(複数選択も新機能です。)

9. 必要に応じて、ウィジェットの配置を変更します。

   テンプレートの構造は一例にすぎませんので、お好みに合わせて使用してください。Shift キーを押しながらウィジェットを追加または移動すると、ウィジェットの間を拡げてこのウィジェットが配置され、その他のウィジェットはリフローして場所を作ります。(もちろん、お察しのとおり、リフローはもう一つの便利な新機能です。)

10. ダッシュボードをアプリケーションに保存します。

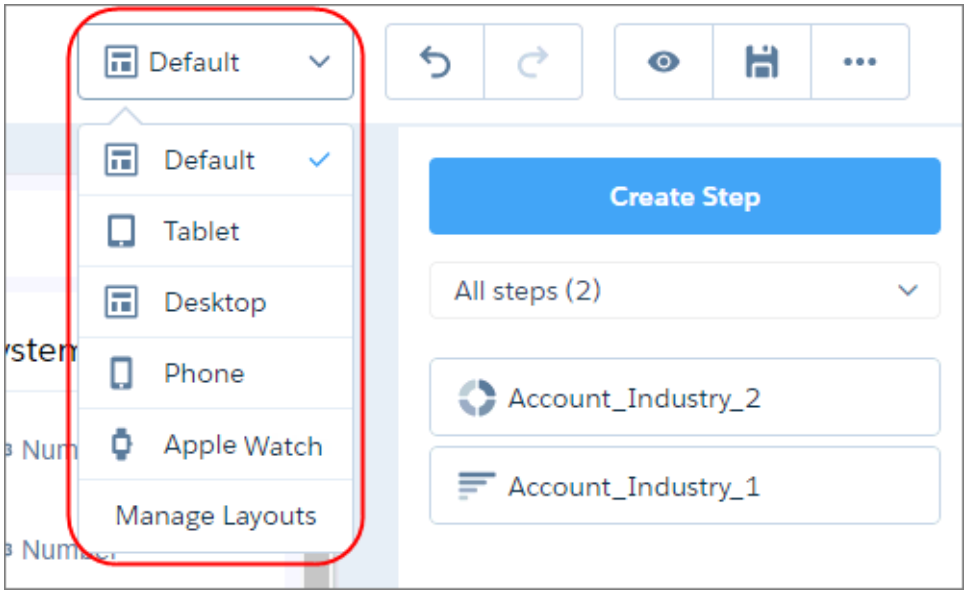
    これで完了です。簡単ですよね?



レイアウト: 各種デバイス用にダッシュボードを最適化

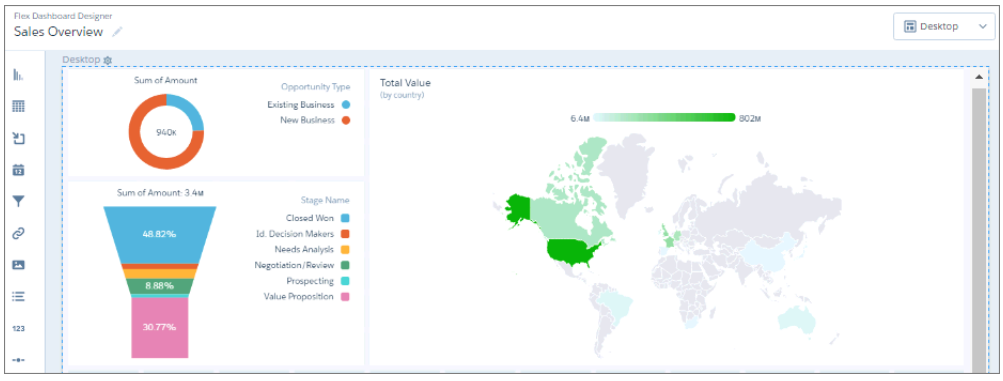
デスクトップに表示するための完璧なダッシュボードを作成したとしても、モバイルデバイスに表示すると野暮ったく見えます。そこで、各種デバイス用にカスタマイズしたレイアウトの作成とプレビューができるようになりました。各レイアウトでウィジェットの削除、配置、スタイル設定を行います。

レイアウトをプレビューするには、[レイアウト] メニューでレイアウトを選択します。

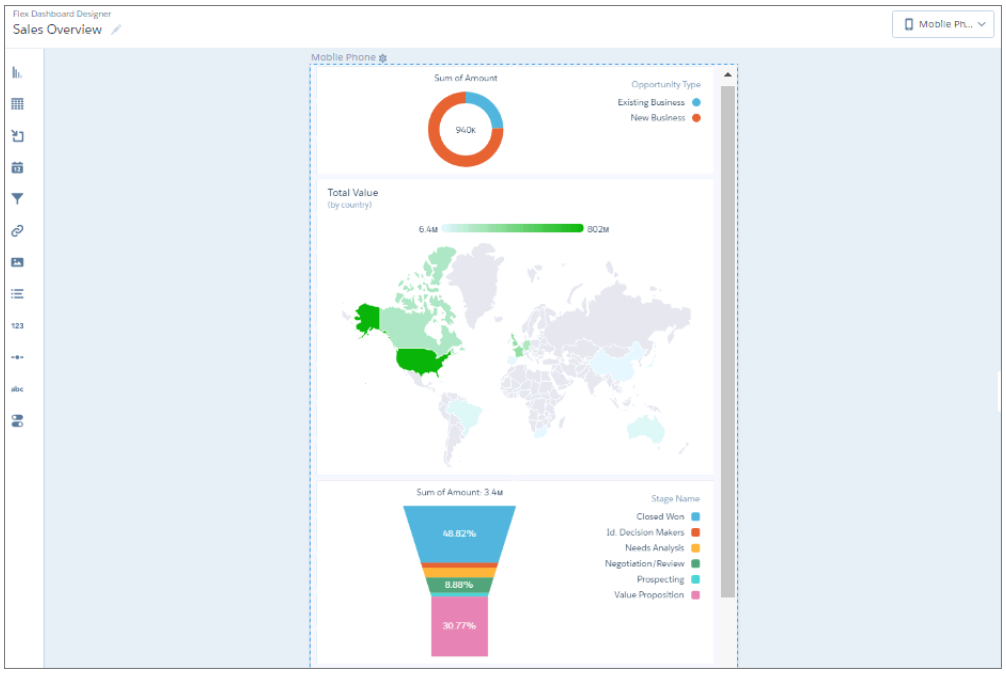


同じダッシュボードのレイアウト例を次に示します。

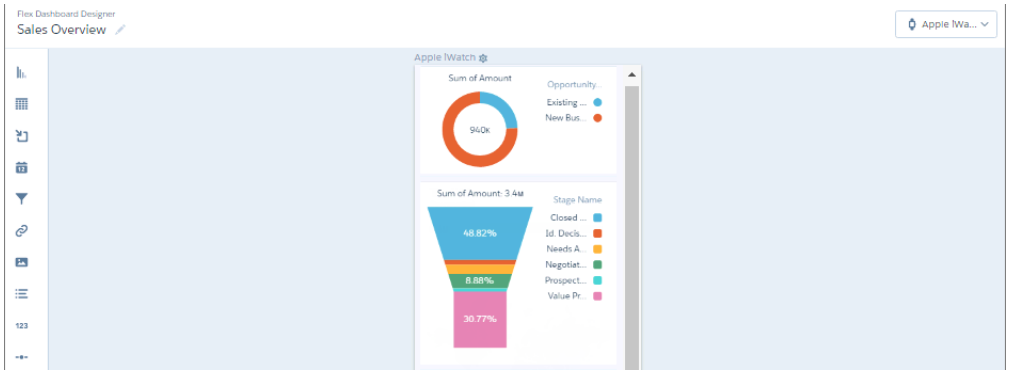
デスクトップレイアウト



モバイルレイアウト



Apple Watch レイアウト



このレイアウトでは、他のレイアウトよりもウィジェットが 1 つ少なくなっています。

メモ: Classic デザイナを使用して作成したダッシュボードにモバイルレイアウトを追加し、このダッシュボードを Wave ダッシュボードデザイナに変換した場合、レイアウトは引き継がれません。Wave ダッシュボードデザイナでモバイルレイアウトを再作成する必要があります。

このセクションの内容:

[デバイスごとに固有のレイアウトを生成](#)
ダッシュボードがデスクトップ、タブレット、携帯電話などさまざまなデバイスに適切に対応するよう、デバイスごとにレイアウトを作成します。デバイスの向きが縦方向または横方向かによって異なるレイアウトをデザインすることもできます。レイアウトにはそれぞれウィジェットとデザインを設定できます。

Wave でデバイスのレイアウトを選択する方法について

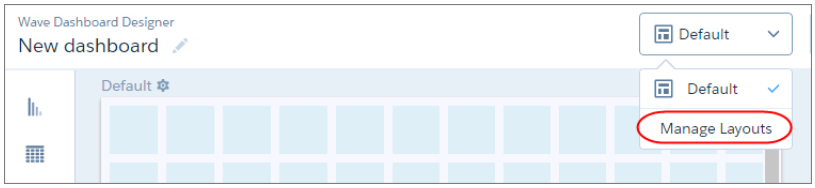
Wave でレイアウトプロパティを使用して、各種別のデバイスに使用するレイアウトを決定する方法について学習します。Wave のロジックを理解することで、プロパティを適切に設定できます。

デバイスごとに固有のレイアウトを生成

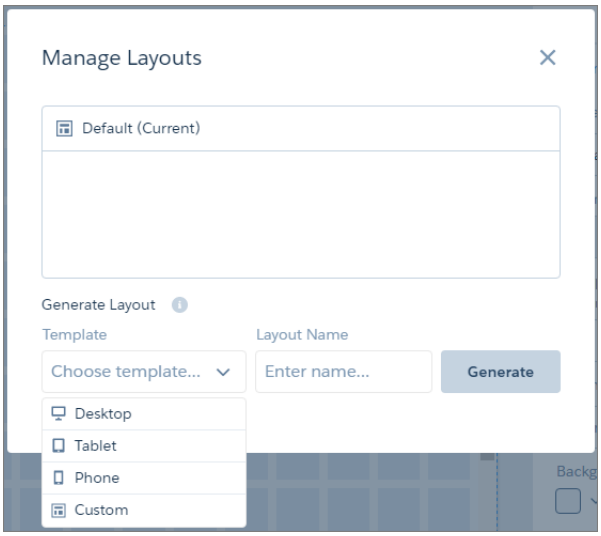
ダッシュボードがデスクトップ、タブレット、携帯電話などさまざまなデバイスに適切に対応するよう、デバイスごとにレイアウトを作成します。デバイスの向きが縦方向または横方向かによって異なるレイアウトをデザインすることもできます。レイアウトにはそれぞれウィジェットとデザインを設定できます。

新規レイアウトを生成すると、Wave は現在選択されているレイアウトから新規レイアウトへウィジェットを追加します。レイアウトごとに異なるウィジェットを追加できるので、このステップは重要です。このため、レイアウト生成を開始する前に、新規レイアウトに追加するウィジェットを含むレイアウトを選択します。

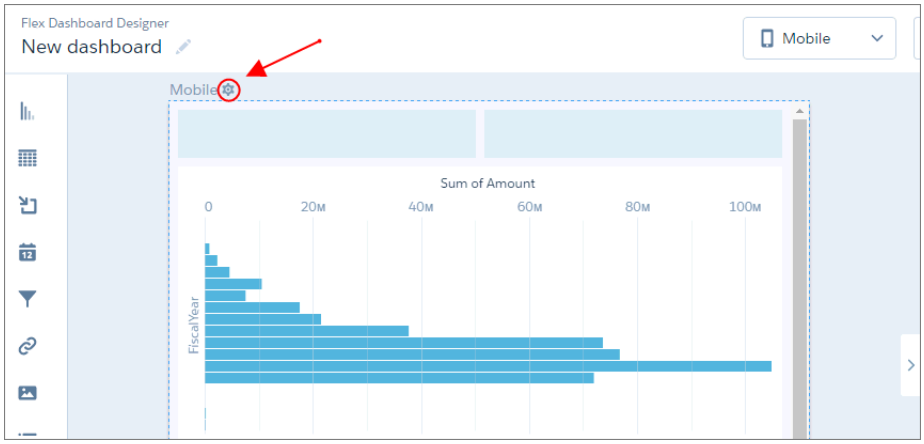
1. [レイアウト] メニューで、[レイアウトを管理] を選択します。



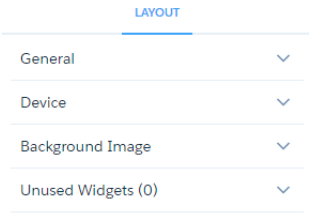
2. レイアウトテンプレートを選択し、一意のレイアウト名を入力します。



3. [生成] をクリックします。
   レイアウトのプロパティが新規レイアウトに表示されます。必要に応じて、 をクリックして [レイアウト] パネルを表示します。



4. [レイアウト]パネルで、次のセクションを展開し、必要に応じて、デフォルトのプロパティを変更します。

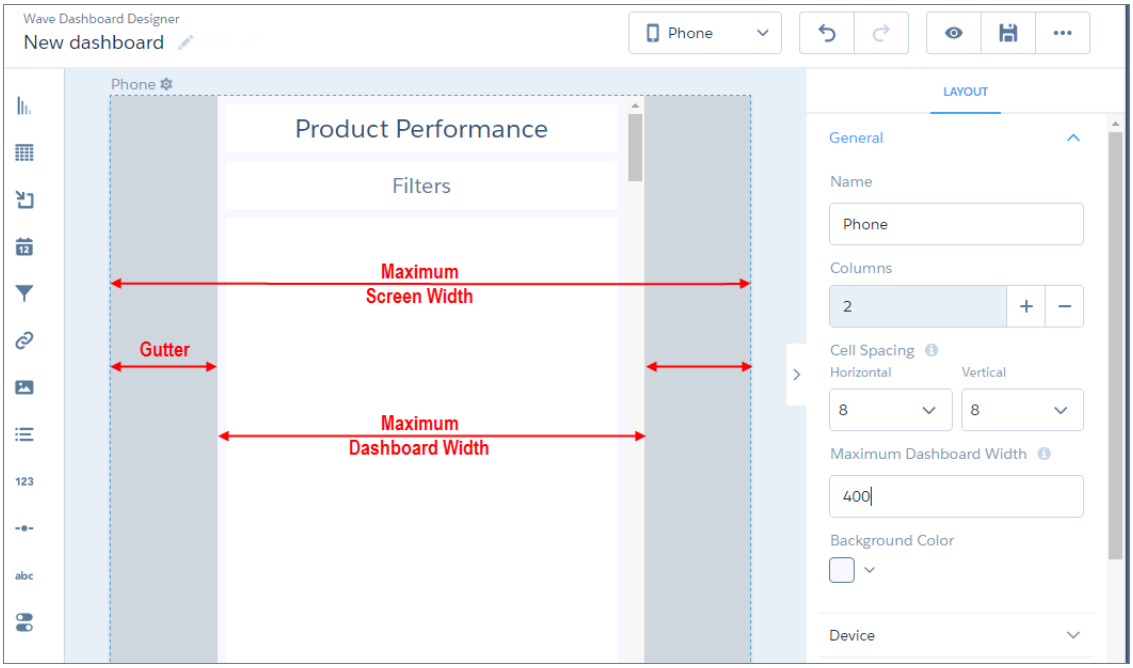


一般情報
: レイアウト名、デザイナグリッド設定 (グリッド列数、グリッドセル間隔など)、最大ダッシュボード幅、および背景色の設定をします。

デバイス
: このレイアウトを使用するデバイスに関する情報を指定します。Wave でこれらのプロパティがどのように使用されて、適切なレイアウトが選択されるかについての詳細は、「Wave でデバイスのレイアウトを選択する方法について」を参照してください。

背景画像
: このレイアウトを使用する場合、ダッシュボード全体に背景画像を適用するには、背景画像の詳細を入力します。背景画像を追加する必要はありません。

デザイナで、レイアウトプロパティ設定に基づいたダッシュボードとレイアウトのプレビューをします。リアルタイムでプレビューが更新されるため、変更によってダッシュボードレイアウトがどのように変化するかを確認できます。ダッシュボードの最大幅を小さくすると、デザイナはウィジェットを新しいサイズに合うように配置を変更します。



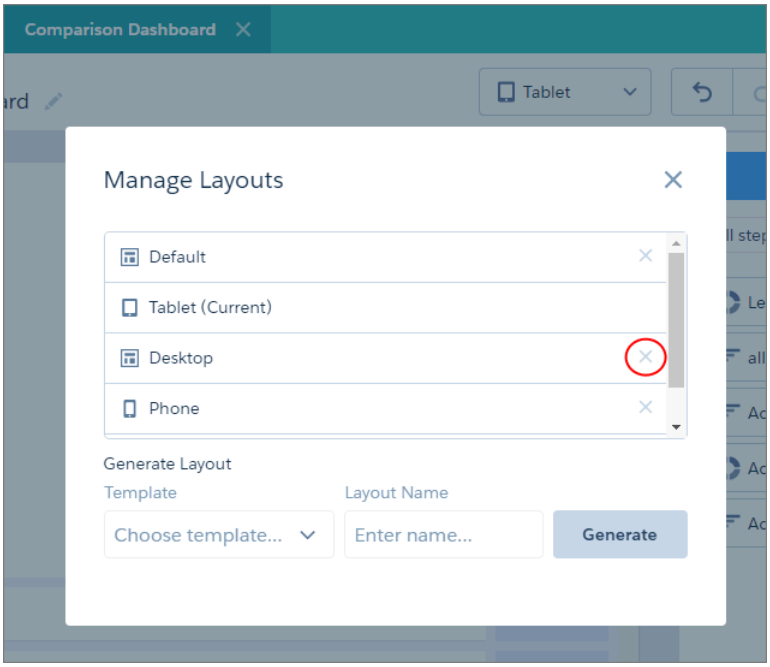
5. 必要に応じて、ウィジェットの配置を変更します。
6. レイアウトでウィジェットを非表示にするには、ウィジェットを選択して、をクリックします、ウィジェットを非表示にすると、レイアウトプロパティの [未使用のウィジェット] セクションに表示されます。

7. 未使用のウィジェットをレイアウトに追加するには、[未使用のウィジェット] セクションからキャンバスへウィジェットをドラッグします。
8. ウィジェットを作成するには、ウィジェットツールバーからキャンバスへウィジェットをドラッグします。

   メモ: Wave は新規ウィジェットを現在のレイアウトのみに追加して、すべての他のレイアウトの未使用のウィジェットのリストに追加します。ウィジェットを別のレイアウトに追加するには、そのレイアウトを開き [未使用のウィジェット] セクションからウィジェットをドラッグします。

9. レイアウトの変更とダッシュボードを保存するには、 をクリックします。

10. レイアウトを削除するには、[レイアウト] メニューで [レイアウトを管理] をクリックして、レイアウトの横にある × をクリックします。



Wave でデバイスのレイアウトを選択する方法について

Wave でレイアウトプロパティを使用して、各種別のデバイスに使用するレイアウトを決定する方法について学習します。Wave のロジックを理解することで、プロパティを適切に設定できます。

デバイスで使用するレイアウトを決定する場合、Wave では次のロジックが使用されます。

1. [レイアウト] パネルで設定されたすべてのデバイスプロパティを満たすダッシュボードにデバイスがアクセスすると、レイアウトが使用可能になります。
2. 複数のレイアウトが使用可能な場合は、最も多くのデバイスプロパティが設定されているレイアウトが使用されます。デバイスプロパティの設定数が同じレイアウトがある場合は、最後に定義されたレイアウトが使用されます。
3. デバイスで使用できるレイアウトがない場合、最初に定義されたレイアウトが使用されます。

新しいバインド構文の機能強化

Wave ダッシュボードデザイナの新しいバインド構文を使用すると、条件付きフォーマッティングを適用してコンテンツを強調表示したり、選択または結果に基づいて動的にウィジェットのプロパティを変更したりできます。たとえば、しきい値に基づいて数値ウィジェットの値を色コード化して、高い数値や低い数値が注目されるようにします。または、切り替えウィジェットを追加して、動的にグラフの種類を設定し、マップまたは棒グラフを表示します。

数値が高 (緑色)、中 (黄色)、低 (赤色) のいずれになるかに基づいて、3 つの数値ウィジェットで測定値の色を変更するとします。

ダッシュボード JSON **で、各ステップの測定値に基づいて色を計算します。次に各数値ウィジェットの** `numberColor` **項目に計算された色を適用します。**

```
{
  "label": "Sales Overview",
  "state": {
    "gridLayouts": [...],
    "layouts": [],
    "steps": {
      "color_1": {
        "type": "aggregateflex",
        "visualizationParameters": {
          "options": {}
        },
        "query": {
          "pigql": "q = load \"Opportunity_Dataset\";\n
                    q = filter q by 'Region' == \"US\";\n
                    q = group q by all;\n
                    q = foreach q generate count() as 'count',
                        (case when count() < 25000 then \"#EE0A50\"
                              when count() < 50000 then \"#F8CE00\"
                              else \"#0FD178\" end) as 'color';\n
                    q = limit q 2000;",
          "measures": [ [
            "count",
            "*",
            "count" ] ],
          "groups": [ "color" ],
          "measuresMap": {}
        },
  "isFacet": true,
  "useGlobal": true,
  "isGlobal": false,
  "datasets": [{
    "name": "Opportunity_Dataset",
     "url": "/services/data/v38.0/wave/datasets/0Fbx000000000KLCAY",
     "id": "0Fbx000000000KLCAY"
        }]
      },
      "color_2": {
        "type": "aggregateflex",
        "visualizationParameters": {
```

```
    "options": {}
  },
  "query": {
    "pigql": "q = load \"Opportunity_Dataset\";\n
              q = filter q by 'Region' == \"AP\";\n
              q = group q by all;\n
              q = foreach q generate count() as 'count',
                  (case when count() < 25000 then \"#EE0A50\"
                        when count() < 50000 then \"#F8CE00\"
                        else \"#0FD178\" end) as 'color';\n
              q = limit q 2000;",
    "measures": [ [
"count",
"*",
"count"
    ] ],
    "groups": [ "color" ],
    "measuresMap": {}
  },
  "isFacet": true,
  "useGlobal": true,
  "isGlobal": false,
  "datasets": [{
    "name": "Opportunity_Dataset",
    "url": "/services/data/v38.0/wave/datasets/0Fbx000000000KLCAY",
    "id": "0Fbx000000000KLCAY"
  }]
},
"color_3": {
  "type": "aggregateflex",
  "visualizationParameters": {
    "options": {}
  },
  "query": {
    "pigql": "q = load \"Opportunity_Dataset\";\n
              q = filter q by 'Region' == \"EU\";\n
              q = group q by all;\n
              q = foreach q generate count() as 'count',
                  (case when count() < 25000 then \"#EE0A50\"
                        when count() < 50000 then \"#F8CE00\"
                        else \"#0FD178\" end) as 'color';\n
              q = limit q 2000;",
    "measures": [ [
      "count",
      "*",
      "count"
    ] ],
    "groups": [ "color" ],
    "measuresMap": {}
  },
  "isFacet": true,
  "useGlobal": true,
  "isGlobal": false,
  "datasets": [{
```

```
      "name": "Opportunity_Dataset",
      "url": "/services/data/v38.0/wave/datasets/0Fbx000000000KLCAY",
      "id": "0Fbx000000000KLCAY"
    }]
  }
},
"widgetStyle": {...},
"widgets": {
  "number_5": {
    "type": "number",
    "parameters": {
      "step": "color_1",
      "measureField": "count",
      "textAlignment": "right",
      "compact": false,
      "exploreLink": true,
      "titleColor": "#335779",
      "titleSize": 14,
      "numberColor": "{{cell(color_1.result, 0, \"color\").asString()}}",
      "numberSize": 32,
      "title": "Opp Count (United States)"
    }
  },
  "number_6": {
    "type": "number",
    "parameters": {
      "step": "color_2",
      "measureField": "count",
      "textAlignment": "right",
      "compact": false,
      "exploreLink": true,
      "titleColor": "#335779",
      "titleSize": 14,
      "numberColor": "{{cell(color_2.result, 0, \"color\").asString()}}",
      "numberSize": 32,
      "title": "Opp Count (Asia Pacific)"
    }
  },
  "number_7": {
    "type": "number",
    "parameters": {
      "step": "color_3",
      "measureField": "count",
      "textAlignment": "right",
      "compact": false,
      "exploreLink": true,
      "titleColor": "#335779",
      "titleSize": 14,
      "numberColor": "{{cell(color_3.result, 0, \"color\").asString()}}",
      "numberSize": 32,
      "title": "Opp Count (Europe)"
    }
  }
}
```

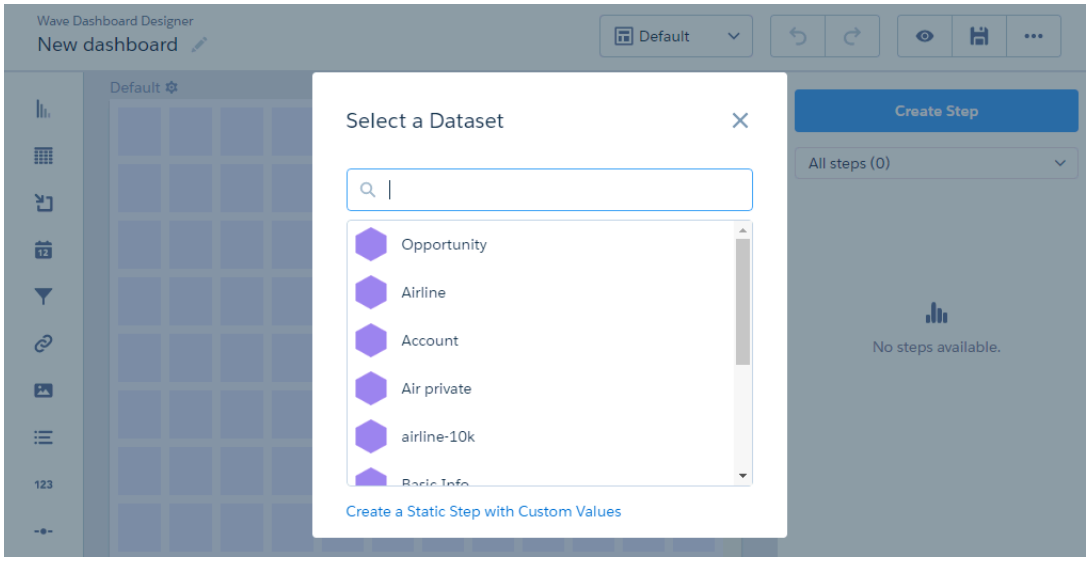
```
  },
  "datasets": [...]
}
```

条件付きフォーマッティングに関する詳細は、*『Wave Analytics Bindings Developer Guide』(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)* を参照してください。

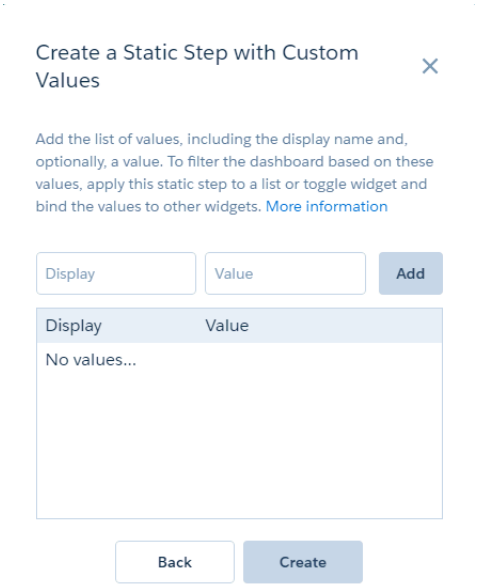
静的ステップの簡単な構築

JSON ではなく、ウィジェットウィザードを使用して、静的ステップを構築します。このウィザードでは、ステップにカスタム値を追加するプロセスを行います。たとえば、ケースの優先度の高、中、低というオプションに基づいてグラフでケースレコードを絞り込む切り替えウィジェットを作成できます。

1. Wave ダッシュボードデザイナのステップパネルで、[ステップを作成] をクリックします。
   ステップパネルが表示されない場合は、ダッシュボードヘッダーをクリックして表示します。



2. [カスタム値を使用して静的ステップを作成] をクリックします。



3. それぞれの表示名と値を含む、値のリストを追加します。

   メモ: 関連付けられたウィジェットに表示名が示されます。値は省略可能ですが、含めた場合は、その値を他のステップとバインドして、ダッシュボードの他のウィジェットの結果を絞り込むことができます。

4. 静的ステップを作成するには、[作成] をクリックします。
   Wave が静的ステップをステップパネルに追加して、ダッシュボード内の他のウィジェットが使用できるようにします。

5. この静的ステップをウィジェットに適用するには、キャンバスの空いている場所にステップをドラッグします。

   デフォルトで、切り替えウィジェットはダッシュボードに追加され、カスタム値を切り替えオプションとして表示します。必要に応じて、ウィジェットのプロパティでグラフの種類を変更できます。

6. 切り替えウィジェットでの選択を有効にして別のウィジェットを絞り込むには、静的ステップのカスタム値を別のウィジェットのステップにバインドします。

   たとえば、ケースの例に戻ると、切り替えウィジェットで優先度の高いケースを選択したとき、そのようなケースのみがグラフに表示される必要があります。この操作を有効にするには、切り替えウィジェットステップをグラフウィジェットステップにバインドします。バインドでは、ケースごとのケース優先度の判断に使用するロジックを指定します。静的ステップのバインドについての詳細は、*『Wave Analytics バインド開発者ガイド』*を参照してください。

操作性の向上によりすばやく作成

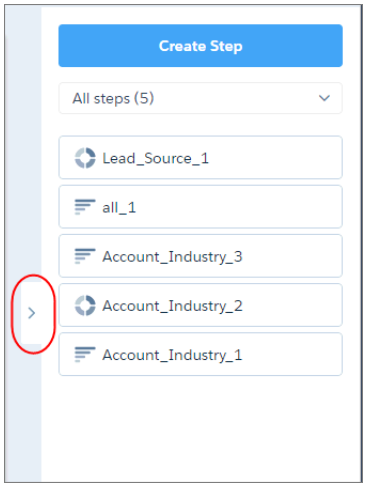
Wave ダッシュボードデザイナでは操作性が大きく向上したため、今まで以上に使いやすいダッシュボードを簡単にすばやく作成できます。たとえば、新しいグラフプロパティを使用してグラフの表示をすべてカスタマイズできます。デザイナグリッドの列数を増やすと、ダッシュボードにウィジェットを配置するときの操作性が向上します。リフローを使用して、新規ウィジェットを追加するスペースを作ります。

Wave ダッシュボードデザイナには、次の操作性が向上しました。

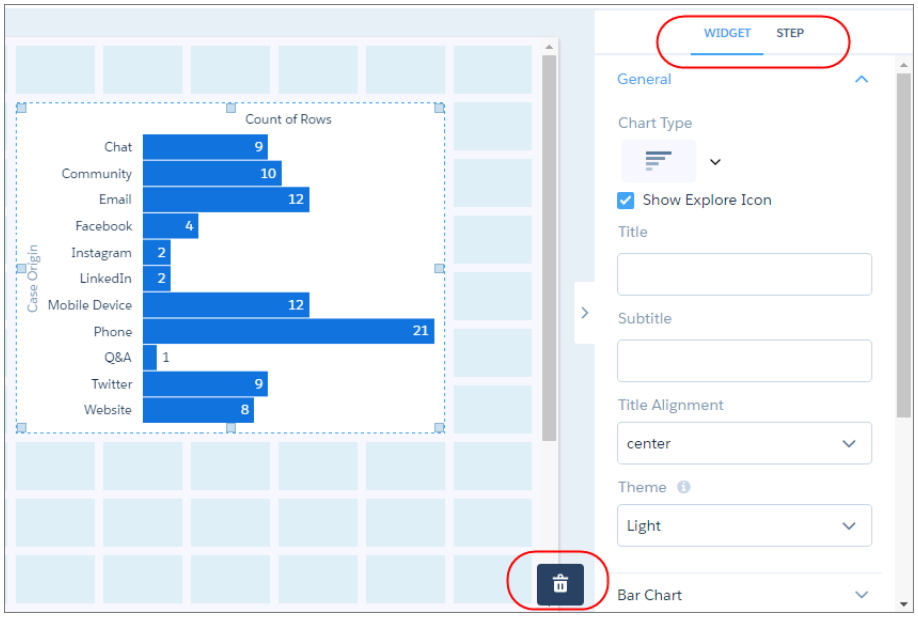
- ダッシュボードに値テーブルまたは比較テーブルを作成するには、新しいテーブルウィジェットを使用します。テーブルウィジェットは HTML として表示されるので、その内容の検索やコピーができます。
- 複数のウィジェットを同時に移動できるようになりました。ダッシュボードで複数のウィジェットを選択するには、Windows の場合は Ctrl キーを押しながらクリック、Mac OS の場合は Cmd キーを押しながらクリックします。すべてのウィジェットを選択するには Ctrl+A キー (Windows の場合) または Cmd+A キー (Mac OS の場合) を押します。
- Shift キーを押しながらウィジェットを追加したり、サイズ変更したり、移動したりすると、他のウィジェットが下に移動して、ダッシュボードに場所を作ります。この機能はリフローと呼ばれます。

  メモ: 複数のウィジェットを同時に移動する場合はリフローを使用できません。リフローで、コンテナウィジェットのサイズ変更を行って、コンテナにウィジェットの場所を作ることはできません。

- ステップ、ウィジェットプロパティ、ステッププロパティ、およびレイアウトプロパティを表示する適切なパネルの表示と非表示を切り替えるには、矢印をクリックします。



- ウィジェットの [編集] と [削除] アイコンは廃止されました。ウィジェットおよびステッププロパティを表示または編集するには、ウィジェットを選択します。ウィジェットを削除するには、キャンバスで選択して をクリックします。または、キーボードで Delete キーを押します。



- 以前作成したステップのリストを使用してステップパネルを表示するには、デザイナキャンバスでダッシュボードヘッダーまたは空いたスペースをクリックします。
- より正確にダッシュボードへウィジェットを配置するには、レイアウトプロパティを使用してデザイナグリッドの列数を増やします。これまでは、グリッドには常に 12 列が設定されていました。
- 以前のリリースでは、ステップに問題があると、ダッシュボード全体が表示されませんでした。本リリースで、ステップに問題のあるウィジェットにはエラーアイコンが表示され、残りのウィジェットは正常に表示されるようになりました。

新しいプロパティでダッシュボードの操作性が向上

Wave ダッシュボードには、新しい機能の設定とグラフの詳細設定のための新しいプロパティが追加されました。操作性を向上させるために、複数のプロパティに新しい表示ラベルと場所が追加になりました。また、新しいプロパティが追加になったことで、いくつかの既存のプロパティが必要ではなくなりました。

新しいプロパティ

レイアウトプロパティ

新しい [レイアウト] パネルには、デザイナグリッドで列数を変更し、レイアウトにそれぞれデバイスプロパティを指定できるプロパティが含まれます。Wave はデバイスプロパティを使用して特定のデバイスにレイアウトを使用できるかどうかを判定します。Salesforce ヘルプの「レイアウトのプロパティ」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、参照不能になる可能性があります)を参照してください。

ウィジェットのプロパティ

Wave ダッシュボードデザイナには、グラフの操作性を改善するプロパティが追加になりました。[ウィジェット] パネルでは、ウィジェットプロパティがセクションごとにグループ化されます。たとえばパネルには、グラフ固有のプロパティ、X 軸プロパティ、Y 軸プロパティ、凡例プロパティ、Trellis プロパティ、およびウィジェットスタイルプロパティそれぞれのセクションが含まれます。*Salesforce* ヘルプの「ウィジェット

のプロパティ」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)を参照してください。

プロパティの変更

プロパティの内容をわかりやすくするために、Wave ではプロパティの表示ラベルがいくつか変更になりました。また、レイアウトを有効にするための、ダッシュボードプロパティの一部が[レイアウト]パネルに移動しました。

ダッシュボードのプロパティ
: さらに柔軟にさまざまなレイアウト定義ができるように、ダッシュボードプロパティのほとんどがレイアウトプロパティに表示されるようになりました。デフォルトのウィジェットプロパティのみがダッシュボードプロパティに表示されます。

ウィジェットのプロパティ
: 次のプロパティ表示ラベルが変更になりました。

古いプロパティ表示ラベル	新しいプロパティ表示ラベル
背景画像 ID	画像 ID
ステップへのリンクを表示	調査アイコンを表示
値を表示	グラフの棒に値を表示
欠損値	欠損値の処理
常にゼロを表示	軸を 0 で開始
背景画像 ID	画像 ID

ステップのプロパティ
: 次のプロパティ表示ラベルが変更になりました。

古いプロパティ表示ラベル	新しいプロパティ表示ラベル
ダッシュボードの選択内容を伝搬	選択した検索条件を適用
グローバル検索条件を適用	グローバル検索条件を適用

無効なプロパティ

次のウィジェットプロパティは Wave で無視されます。

- バーの太さ。グラフの外観を変更するには、新しい軸モードウィジェットプロパティを設定します。
- 対数スケール
- 複数総計値。ステップに複数総計値がある場合、グラフに複数総計値が表示されます。
- 合計の表示。このプロパティは比較テーブルや値テーブルでは使用できなくなりました。回避策としては、比較テーブルの計算項目で合計を計算できます。

Wave デザイナのダッシュボード JSON の変更

ダッシュボード JSON は変更され、JSON を最初から作成するユーザは、この変更から影響を受けます。

グラフの種類

Wave デザイナダッシュボードでは、`flatgauge`、`pyramid`、`polargauge`、`rating`、`stackpyramid` という、新しいグラフの種類がサポートされます。

グラフのプロパティ

Wave デザイナダッシュボードには多くの新しいグラフのプロパティが含まれており、ダッシュボードでの表示方法を設定できます。グラフごとのすべての JSON プロパティのリストおよび説明については、「グラフによるデータの視覚化」を参照してください。

Wave ダッシュボードデザイナでは、比較と未加工データテーブルのために `totals` グラフプロパティが使用されません。回避策としては、比較テーブルの計算項目で合計を計算できます。

グリッドレイアウト

グリッドでのセルの間隔やダッシュボードの背景など、ダッシュボードのプロパティを `gridLayoutStyle` キーの代わりに新しい `style` キーで設定することになりました。

ステップ種別

Wave デザイナダッシュボードでは、次の新しいステップ種別がサポートされます。

- `aggregateflex`: `aggregate` ステップ種別に似ています。新しいバインド構文を利用するには、この新しいステップ種別を使用します。`aggregate` では古いバインド構文がサポートされます。
- `staticflex`: `static` ステップ種別に似ています。

Wave デザイナダッシュボードでは、`aggregate`、`grain`、`static` がまだサポートされます。ただし、Salesforce では、`aggregate` と `static` の代わりに新しい `aggregateflex` と `staticflex` のステップ種別を使用することをお勧めします。ステップを作成するとき、Wave によって新しいステップ種別が適用されます。

`multi` ステップ種別は Wave デザイナダッシュボードのみで非推奨となり、`aggregate` に自動的に変換されます。

> メモ: Wave では、列ごとに個別の SAQL クエリを含む比較テーブルの `multi` ステップを変換できません。このステップを修正するには、比較テーブルを作成しなおします。

バインドに追加される変更について

Winter '17 では、Wave ダッシュボードデザイナにより、ステップに新しいバインド構文が使用されます。Classic デザイナで作成されたダッシュボードを Wave ダッシュボードデザイナに変換すると、Wave によってバインドが新しい構文に変換されます。まれに、この変更により一部のダッシュボードで問題が発生することがあります。

バインドを変換できない場合、ステップは破損します。破損したステップのそれぞれについて、ダッシュボードの影響を受けるウィジェット上にエラーアイコンが表示されます。アイコンにカーソルを置いてエラーを表示します。エラーを修正するには、新しいバインド構文を使用してステップを再作成します。新しいバインド構文およびバインドの例については、*『Wave Analytics バインド開発者ガイド』*を参照してください。

> メモ: 新しいバインド構文が、Wave ダッシュボードデザイナで作成された、既存のダッシュボードに影響することはありません。Wave では、古いバインド構文がサポートされて維持されます。

ダッシュボードユーザサポートとドキュメントの強化でサポートが充実

Wave ダッシュボードデザイナを使用したダッシュボードのバインドに関するドキュメントの完全なセットを追加しました。アプリケーション内ユーザサポートを有効にするために、直感的な UI 表示ラベルを追加し、複雑なプロパティにはわかりやすいツールチップを追加しました。

Wave デザイナダッシュボードのバインドについては、次の新しいドキュメントを確認してください。

- Wave ダッシュボードデザイナを使用したダッシュボードの作成
- 新しい『Wave Analytics バインド開発者ガイド』の Wave デザイナダッシュボードのバインド

Wave: すべてのビジネスプロセスで Wave Analytics が使用可能に

Wave Analytics を、Lightning Experience、Salesforce1 モバイルアプリケーション、モバイル Visualforce ページ、Chatter、メールなどの、作業を行う場所に追加しましょう。通知、アノテーション、その他の機能強化を使用すると、フォロー、コラボレーション、共有がさらに簡単になります。

このセクションの内容:

スマート通知を設定して、最も重要なビジネス総計値を追跡

通知を使用すると、選択した時間と場所で Wave が作動します。ダッシュボードの数値ウィジェットに通知条件を追加して、クエリを実行する時間を選択します。Wave、Lightning Experience、Salesforce1 モバイルアプリケーション、およびメールに通知を表示できます。通知は Wave dashboard designer で作成したダッシュボードで使用できます。

Lightning ページへの Wave の埋め込み

Lightning で Wave を使用すると、任意のデバイスでインサイトへアクセスできます。Wave を Lightning ホームページ、レコードページ、およびアプリケーションホームページに統合します。Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションの分析アプリケーションをわずか数分で作成します。

モバイルページへの Wave の埋め込み

モバイルユーザがアクセスする、コミュニティなどの Salesforce Web サイトの Visualforce ページに Wave ダッシュボードコンポーネントを追加します。埋め込まれた Wave ダッシュボードは任意のデバイス (電話、タブレットなど) に合わせて最適化されたレイアウトを選択できます。

Wave ダッシュボードへのアノテーション付加とコラボレーションがさらに簡単に

フィード投稿からアノテーションが付加されたダッシュボードを直接開きます。アノテーションの作成時、ダッシュボードの現在の状態のスナップショットを追加します。クリック 1 回でアノテーションフィードを更新または閉じます。

Wave ダッシュボードデザイナでダッシュボードウィジェットデータをダウンロード

Microsoft® Excel® (`.xls`) およびカンマ区切り値 (`.csv`) 形式でダッシュボードウィジェットからクエリ結果をダウンロードします。この機能はウィジェットのクエリ (またはステップ) からデータのみをダウンロードします。

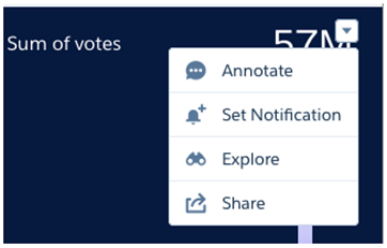
セッションセキュリティ HttpOnly 属性設定の選択

Wave Analytics で、セッションセキュリティ設定 `[HttpOnly 属性が必要]` の有効化がサポートされます。これまでは、この設定が有効になっていると Wave にアクセスできませんでした。Wave で設定の有効化と無効化の両方がサポートされます。

スマート通知を設定して、最も重要なビジネス総計値を追跡

通知を使用すると、選択した時間と場所で Wave が作動します。ダッシュボードの数値ウィジェットに通知条件を追加して、クエリを実行する時間を選択します。Wave、Lightning Experience、Salesforce1 モバイルアプリケーション、およびメールに通知を表示できます。通知は Wave dashboard designer で作成したダッシュボードで使用できます。

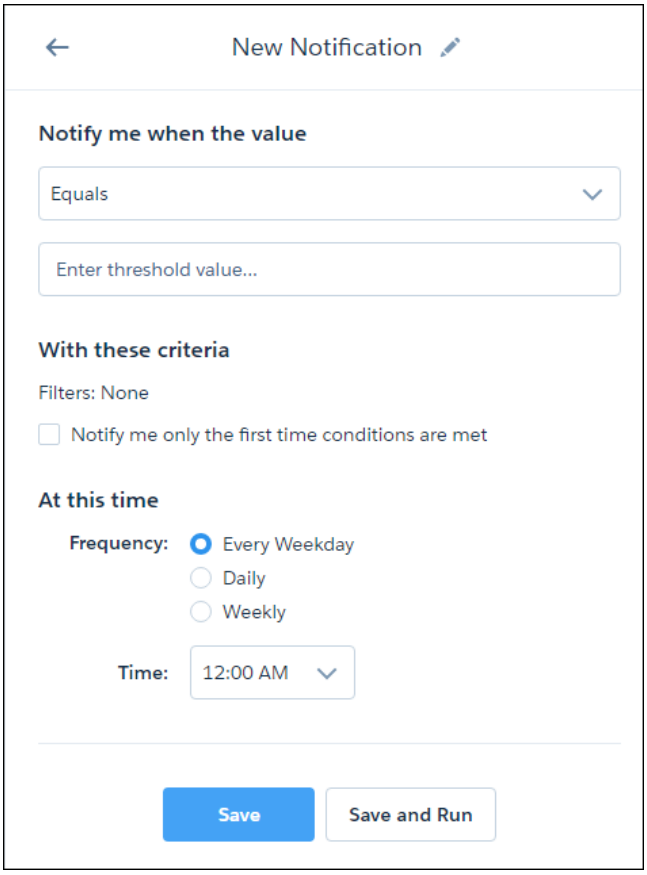
1. ダッシュボード上で、通知を受け取りたい KPI を表示する数値ウィジェットを見つけます。必要に応じて、ダッシュボードの検索条件を使用してデータに対するクエリを絞り込み、パーソナライズした KPI を作成できます。
2. ドロップダウンリストで [通知を設定] を選択します。



3. ウィジェットクエリが値を返したときに、すぐに通知が必要な値を [新規通知] パネルで設定します。

   たとえば、チームが目標の 75% を達成したときに通知が必要とします。その場合は、目標達成率数値ウィジェットで [通知を設定] をクリックします。[新規通知] パネルで、ドロップダウンリストから [次の値以上] を選択し、「75」をしきい値に入力します。

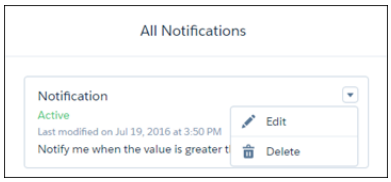
4. クエリを実行する頻度と時間を選択します。



5. [保存して実行]をクリックして通知をすぐにテストするか、[保存]だけを行います。システム管理者の設定は必要ありません。

KPI に設定した条件に一致すると、アプリケーションとメールで通知されます。Wave、Lightning Experience、Salesforce1 では、ベルアイコン ( ) で通知します。

Wave のベルのドロップダウンリストには、Wave 通知を管理するオプションが含まれます。ダッシュボードでも通知を管理できます。プラスが付いたベルアイコン ( ) は通知のリストを開き、通知が追加されたウィジェット上に青色の数字(1)を表示します。[すべての通知]パネルには、通知それぞれに通知の編集と削除を行うためのドロップダウンアクションリストがあります。



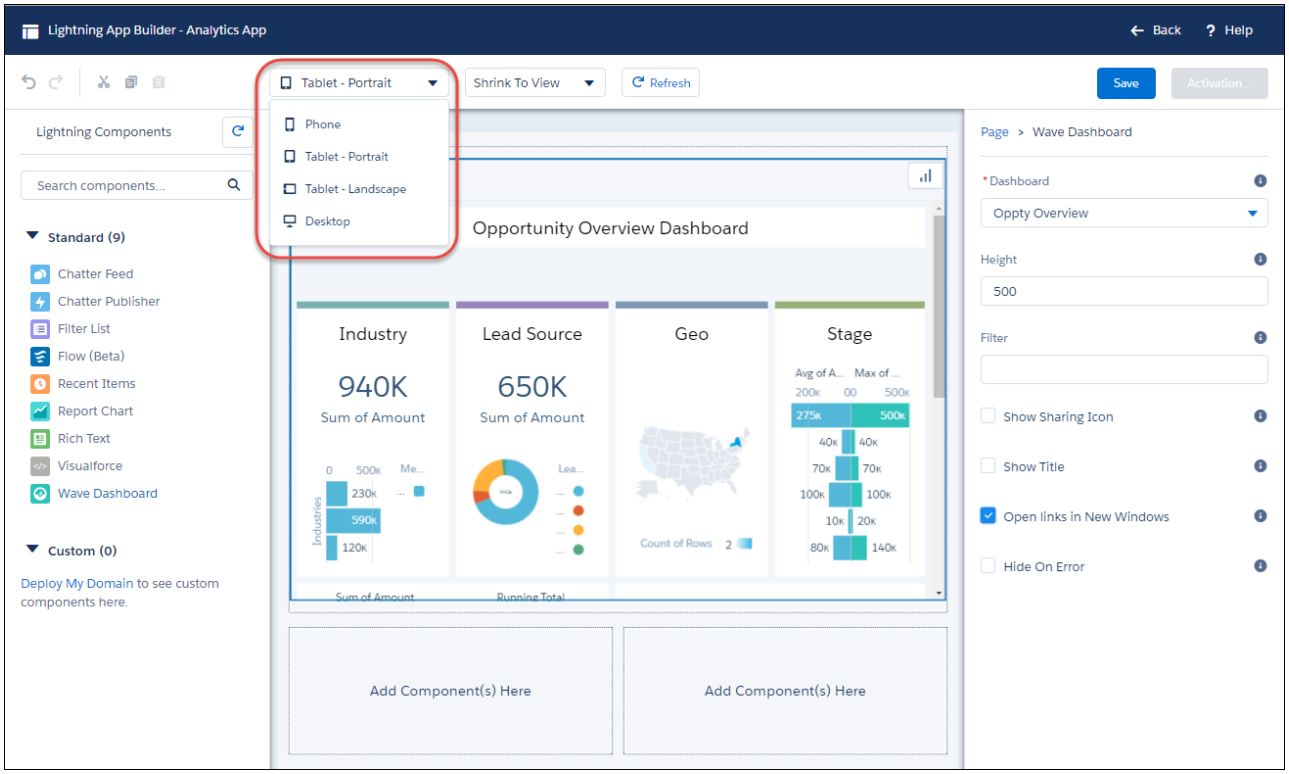
次の Wave 通知の制限事項に注意してください。

- 各ユーザに設定できる通知は最大 5 つまでです。
- Wave ダッシュボードデザイナで設計されたダッシュボードのみで、通知は使用できます。
- 数値ウィジェットのみで、通知は使用できます。

Lightning ページへの Wave の埋め込み

Lightning で Wave を使用すると、任意のデバイスでインサイトへアクセスできます。Wave を Lightning ホームページ、レコードページ、およびアプリケーションホームページに統合します。Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションの分析アプリケーションをわずか数分で作成します。

Lightning アプリケーションビルダーのドラッグアンドドロップ Wave コンポーネントを使用して、デスクトップ、タブレット、および電話用に最適化した Lightning ページを作成できます。



Wave ダッシュボードデザイナのダッシュボードの反応型レイアウトを作成して、プラットホームに対応するサイズに変更します。詳細は、「レイアウト: 各種デバイス用にダッシュボードを最適化」を参照してください。

これで Lightning ページに Wave ダッシュボードを埋め込めるようになったので、Sales Wave や Service Wave の事前作成済みアプリケーションにユーザが簡単にアクセスできます。

メモ: Salesforce1 の場合は、Lightning アプリケーションホームページのみがサポートされます。詳細は、Salesforce ヘルプの「Lightning ページ」を参照してください。

電話とタブレットの画面に対応するダッシュボードを作成するには、Wave ダッシュボードデザイナでデバイス専用のレイアウトを生成します。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

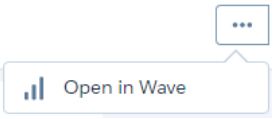
モバイルページへの Wave の埋め込み

モバイルユーザがアクセスする、コミュニティなどの Salesforce Web サイトの Visualforce ページに Wave ダッシュボードコンポーネントを追加します。埋め込まれた Wave ダッシュボードは任意のデバイス (電話、タブレットなど) に合わせて最適化されたレイアウトを選択できます。

Wave ダッシュボードデザイナに組み込まれたダッシュボードは、すべての画面サイズに対応します。Wave デザイナでは、タブレット、電話、時計など、さまざまなデバイス用にダッシュボードレイアウトを生成できます。Wave では、どのようなデバイスを使用してダッシュボードを表示していても、適切なレイアウトが自動的に選択されます。ダッシュボードを Visualforce ページに埋め込むと、どの Salesforce Web サイトでも、デスクトップとモバイルでの表示に最適化された Wave Analytics を組み込むことができます。

Visualforce ページに埋め込まれた Wave ダッシュボードには、次の機能を追加できます。

- デスクトップの Wave か Wave Mobile かに関係なく、ネイティブアプリケーションへのクイックリンク (Wave ユーザは使用できますが、コミュニティユーザは使用できません)



- レコードアクションメニュー
- 他の Wave アセットへのリンク
- 共有およびダウンロードオプション

一方、Visualforce ページに埋め込まれた Wave ダッシュボードには次の制限事項があります。

- Wave での探索オプションは含まれていません。
- グラフにカーソルを置いても情報 (ツールチップ) は表示されません。
- 日付セレクタなどの一部の検索条件は設定が困難です。
- アノテーション、通知、プレゼンテーションなどの Wave 機能は使用できません。

Wave ダッシュボードへのアノテーション付加とコラボレーションがさらに簡単に

フィード投稿からアノテーションが付加されたダッシュボードを直接開きます。アノテーションの作成時、ダッシュボードの現在の状態のスナップショットを追加します。クリック1回でアノテーションフィードを更新または閉じます。

メモ: アノテーションは Wave ダッシュボードデザイナで作成されたダッシュボードでのみサポートされます。

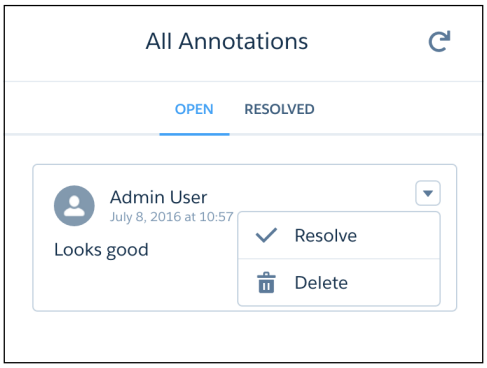
ダッシュボードでのコラボレーションは、次の機能強化を使用すると、さらに直感的になります。

- Chatter でダッシュボードをフォローして、ダッシュボードにすべての投稿を表示します。

- Chatter のダッシュボード画像をクリックして、Wave Analytics のダッシュのアノテーションに直接移動します。
- [新規アノテーション] パネルには Chatter でダッシュボードのスクリーンショットを投稿するオプションが含まれます。

- 開いたアノテーションで、フィードの更新またはアノテーションを閉じることができます。

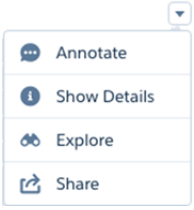
- ダッシュボードパネルの各アノテーションには、アノテーションを解決または削除するためのドロップダウンアクションリストがあります。



Wave ダッシュボードデザイナでダッシュボードウィジェットデータをダウンロード

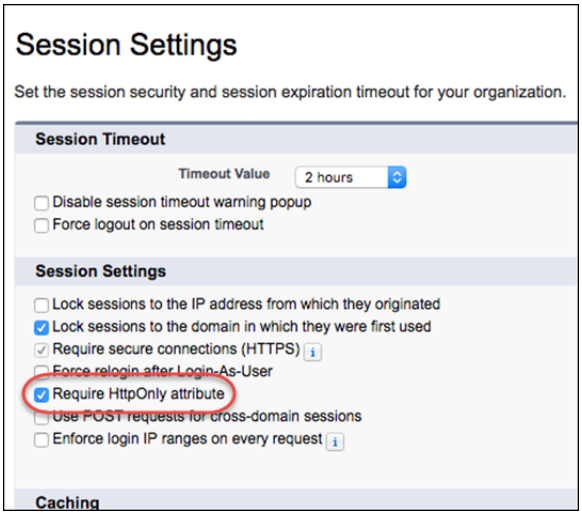
Microsoft® Excel® (`.xls`) およびカンマ区切り値 (`.csv`) 形式でダッシュボードウィジェットからクエリ結果をダウンロードします。この機能はウィジェットのクエリ (またはステップ) からデータのみをダウンロードします。

設定するには、ユーザに「Wave Analytics データをダウンロード」を含む権限セットをユーザに割り当てます。権限のあるユーザには、ウィジェットのドロップダウンリストから [共有] を選択すると、ダウンロードオプションが表示されます。



セッションセキュリティ HttpOnly 属性設定の選択

Wave Analytics で、セッションセキュリティ設定 `[HttpOnly 属性が必要]` の有効化がサポートされます。これまでは、この設定が有効になっていると Wave にアクセスできませんでした。Wave で設定の有効化と無効化の両方がサポートされます。



Wave: Wave モバイルアプリケーションを持って外出

最新バージョンの iOS アプリケーションと新しい Android アプリケーションの Wave を携えて出かけましょう。

このセクションの内容:

最新の Wave for iOS を体験
機能強化された最新のものを取得するには、App Store から Wave Analytics をダウンロードします。

期待の Wave が登場: Wave Analytics for Android
初回リリースは、Google Play™ から Wave Analytics をダウンロードします。

最新の Wave for iOS を体験

機能強化された最新のものを取得するには、App Store から Wave Analytics をダウンロードします。

Wave Analytics は iOS 8 以降が実行されている Apple® デバイスで使用できます。最新の機能には、次のようなものがあります。

- 新しいWaveダッシュボードデザイナで作成された美しいダッシュボードと、携帯電話とタブレットを自動的に最適化する反応型レイアウトを表示します。
- 散布図および棒グラフと折れ線グラフの組み合わせで、視覚化のレパートリーを広げます。
- ホーム画面に遅延読み込みを実装したため、大規模な組織でもストリーミングが速くなりました。
- お好みに合わせてホーム画面を並べ替えます。右上の切り替えで、アルファベット順と最後に使用した順の切り替えができます。

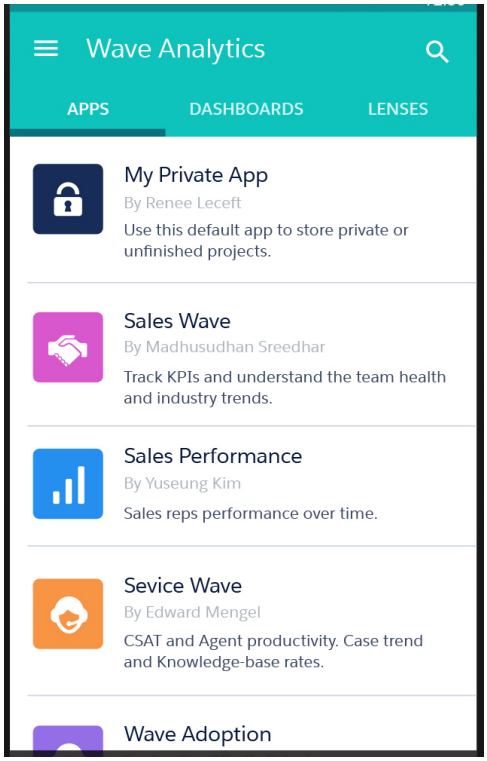
- ダッシュボードとレンズの相対会計日付範囲検索条件で友人をうならせましょう。

期待の Wave が登場: Wave Analytics for Android

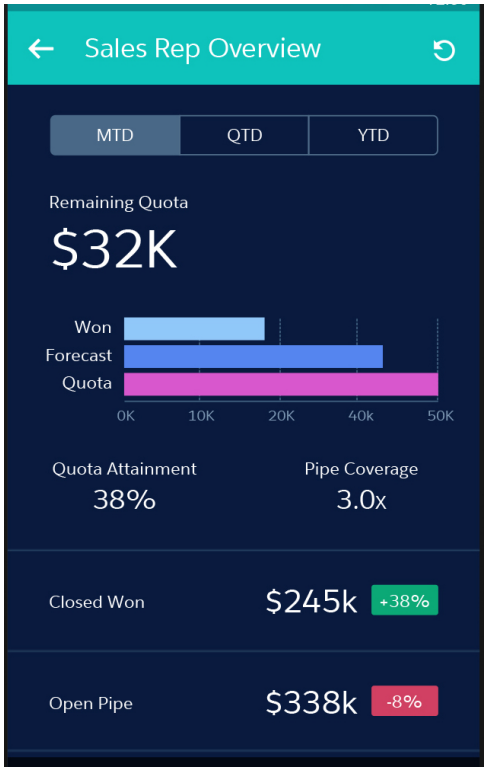
初回リリースは、Google Play™ から Wave Analytics をダウンロードします。

Wave Analytics は Android 5 以降が実行されている Android™ 端末で使用できます。このリリースは始まりにすぎません。Android の Wave は現在、参照のみのダッシュボードビューアです。探索、書き込みアクション、および Wave ダッシュボードデザイナで構築されたダッシュボードは、まだサポートされていません。

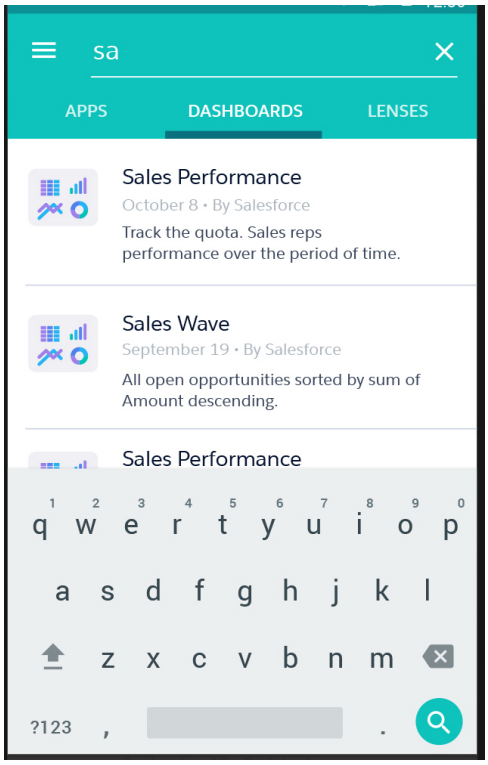
Android の Wave の [アプリケーション]、[ダッシュボード]、および [レンズ] タブで Wave アセットを整理できます。アプリケーションをタップすれば、ダッシュボードとレンズにすばやくアクセスできます。すべてのリストは最後に使用した順序 (MRU) になっています。



Android では、1 本指で画面をスライドすると、タッチしたダッシュボード全体、グラフ、またはテーブルをスクロールできます。2 本指で画面をスライドすると、ダッシュボードのスクロールのみを行います。



をタップしてヘルプ、設定、その他のリソースにアクセスします。 をタップして検索します。



Android デバイスに Wave ダッシュボードとレンズを表示し、データを携えて外出し、ビジネスの質問にその場で回答しましょう。

関連トピック:

Mobile ヘルプ: Wave Analytics for Android

Wave: データの統合

新しいデータマネージャによりすべてのデータの準備ツールが1か所に配置され、複製の設定、データセットの作成、およびデータフローの管理が簡単になりました。

このセクションの内容:

新しいデータマネージャでの準備、複製、監視

データマネージャは、データセットに必要な作業をすべて実行できる新しい一元管理機能です。データの準備のベータ版の使用を選択したか、複製を有効にした場合、データマネージャでデータセットのレシピを作成し、複製設定を表示および編集して、すべてのジョブとデータフローを監視します。すべてが 1 つの場所で実行できます。

複製を使用したデータフローの最適化 (正式リリース)

複製により、データフローから Salesforce データの抽出を切り離し、別のスケジュールで抽出を実行できるようにします。これらの抽出を事前にスケジュールすることで、データフローの負荷が減り、高速に実行できるようになります。これは、週末に大きなスーパーマーケットで買い物をして、平日に必要なものがあるたびに買い物に出かけなくてもよいようにすることと似ています。負荷をさらに軽くするため、複製では Salesforce データの増分が抽出されます。これにより、変更されたデータのみが抽出されます。

データの準備を使用したデータセットの作成 (ベータ)

データの準備は、既存のデータセットを材料にして新規データセットをすばやく作成する、新しい機能です。新しいデータマネージャのわかりやすいユーザインターフェースを使用して、複数のデータセットのデータ結合、項目の削除、項目値を実行できます。JSON は 1 行も必要ありません。

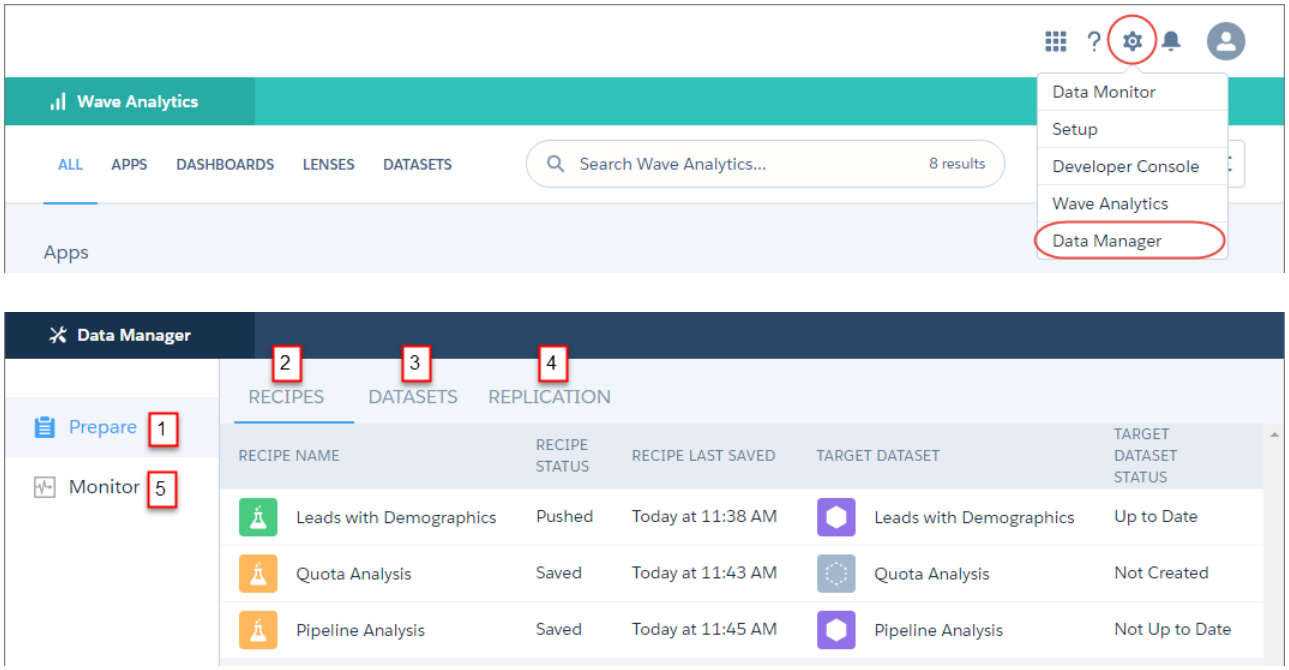
sliceDataset 変換を使用したデータセットからの項目の削除

新しい sliceDataset 変換を使用してデータフローのデータセットから項目のサブセットを選択し、新規データセットまたは他の変換で使用します。この機能により、同じSalesforceオブジェクトから異なる項目のセットを設定して、複数のデータセットを作成できます。各データセットを個別に抽出する必要はありません。複製を使用すると、各 Salesforce オブジェクトからのデータ抽出の実行が一度だけで済むため、便利です。

新しいデータマネージャでの準備、複製、監視

データマネージャは、データセットに必要な作業をすべて実行できる新しい一元管理機能です。データの準備のベータ版の使用を選択したか、複製を有効にした場合、データマネージャでデータセットのレシピを作成し、複製設定を表示および編集して、すべてのジョブとデータフローを監視します。すべてが1つの場所で実行できます。

ギアアイコンから Wave のデータマネージャにアクセスできます。



データソースと既存のデータセットにアクセスするための [準備する] セクション (1) に移動します。データの準備のベータ機能を有効にしている場合は、[レシピ] (2) と [データセット] (3) タブで新規データセットの準備をします。複製を有効にすると、[複製] タブ (4) で複製を有効にした Salesforce オブジェクトの設定の表示と更新ができます。すべてのレシピ、複製、および他のデータフロージョブの状況を確認するために移動する必要はありません。データマネージャのまま、[監視] (5) をクリックして、データモニタを開くだけで完了です!

メモ: データの準備または複製を有効にした場合にのみデータマネージャが表示されることに留意してください。

複製を使用したデータフローの最適化 (正式リリース)

複製により、データフローから Salesforce データの抽出を切り離し、別のスケジュールで抽出を実行できるようにします。これらの抽出を事前にスケジュールすることで、データフローの負荷が減り、高速に実行できるようになります。これは、週末に大きなスーパーマーケットで買い物をして、平日に必要なものがあるたびに買い物に出かけなくてもよいようにすることと似ています。負荷をさらに軽くするため、複製では Salesforce データの増分が抽出されます。これにより、変更されたデータのみが抽出されます。

複製は Winter '16 リリースからパイロット機能になっていましたが、Winter '17 で正式リリースとなりました。複製を有効にすると、Spring '16 リリースで複製パイロットに追加された複数のデータフローも正式リリースとなります。また複製設定の表示と編集およびデータフローの作成がすべて、新しいデータマネージャでできるようになりました。

複製のしくみ

複製を有効にすると、Wave では既存のスケジュール済みユーザデータフローの sfdcDigest ノードが参照され、現在抽出を行っている Salesforce オブジェクトと項目が識別されます。この情報を使用して、Wave でオブジェクトごとに複製が設定され、個別にデータが抽出されます。この複製をスケジュールして、データフローより

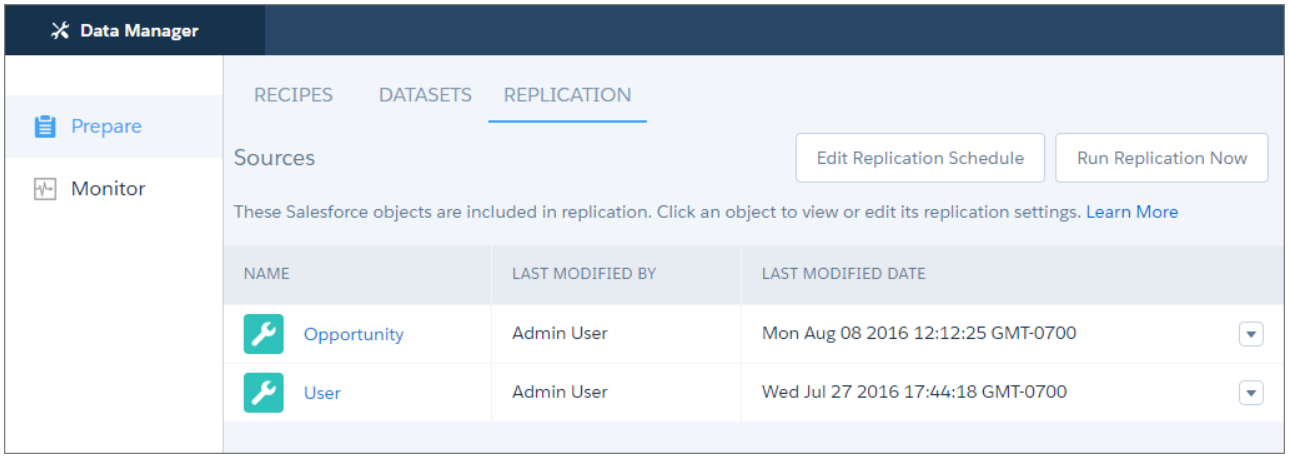
前に実行できます。後でデータフローを更新するか、新規作成する場合、Wave で該当する変更を実行して自動的に複製を更新します。

複製の有効化と複製設定

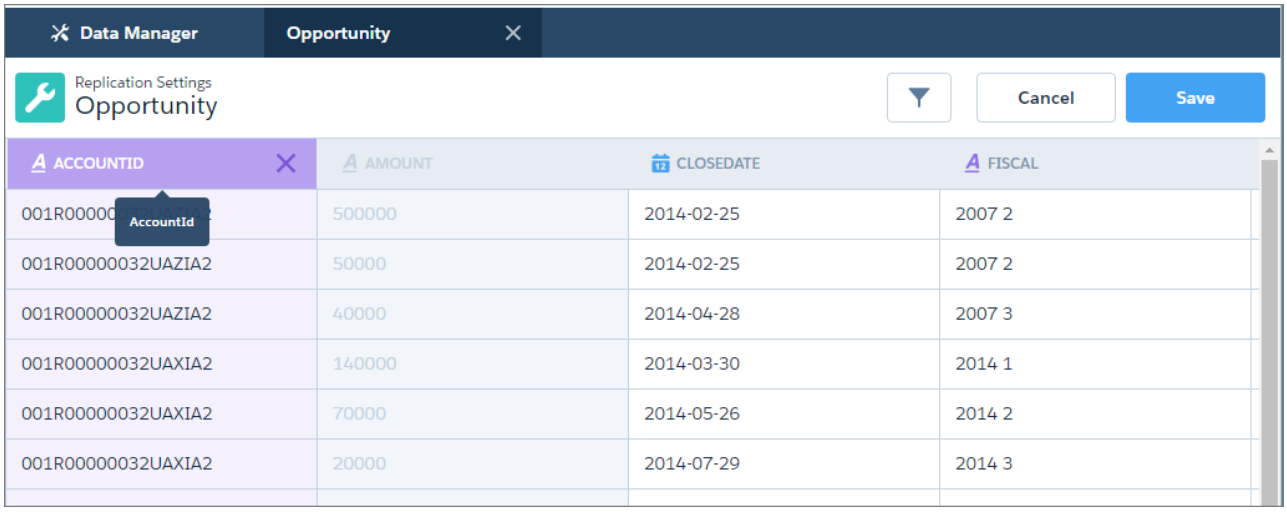
[設定] から、複製を有効にできます。[クイック検索] ボックスに 「Wave Analytics」 と入力して、[設定] をクリックします。[複製を有効化] を選択して、[保存] をクリックします。

重要: 複製を有効にすると多くの処理が実行されますが、注意の必要な処理もあります。このため、有効にする前に「複製を有効にする場合の影響について」を参照することをお勧めします。

有効にすると、データマネージャが複製のすべてを一元管理する新しい場所になります。ここから、有効にした Salesforce オブジェクトの表示、複製スケジュールの設定、および複製の実行ができます。



オブジェクトの複製設定を行うには、リストでオブジェクトをクリックします。ここで、複製から項目を削除し、特定のデータを複製するための検索条件を追加できます。



増分抽出

デフォルトでは、複製は各Salesforceオブジェクトからデータの増分を抽出します。前回実行された複製以降のオブジェクト内の変更に適合するように、レコードが挿入、更新、削除されます。変更分のみが抽出されるため、複製は高速に実行されます。sfdcDigest データフローノードで項目に変更を加えると (項目の追加や削除、項目属性の変更など)、Wave では、次回の複製実行時にオブジェクトからのデータの完全抽出がトリガされます。

複製されたオブジェクトの増分抽出を無効にするには、`incremental` パラメータをユーザデータフロー内のオブジェクトの sfdcDigest ノードに追加し、その値を `false` に設定します。次に例を示します。

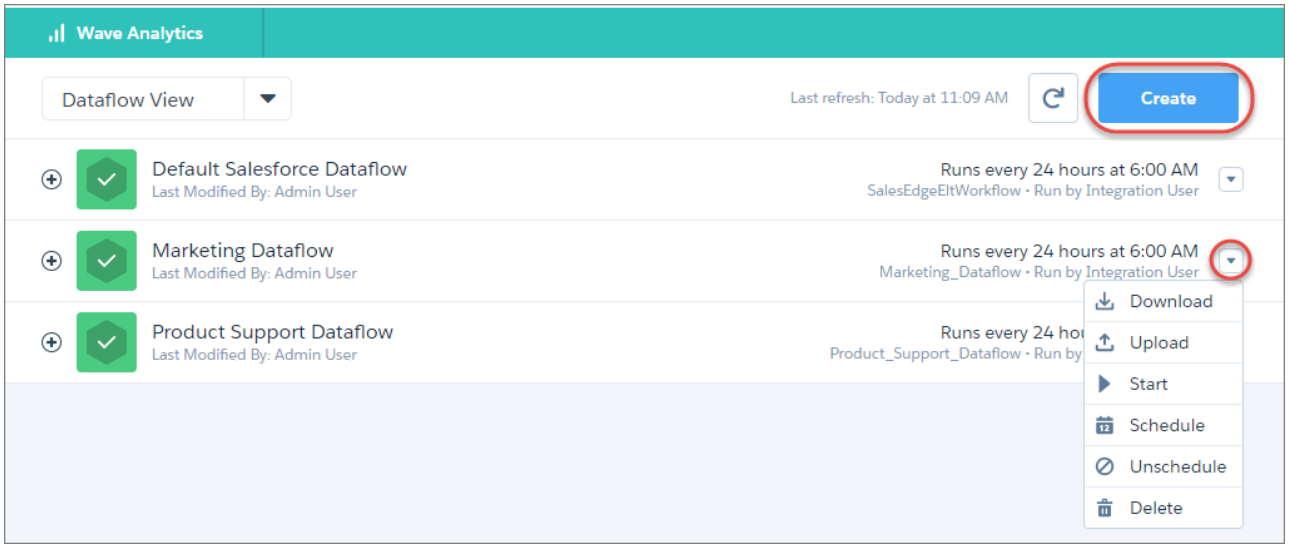
```
{
   "Extract_Opportunities": {
      "action": "sfdcDigest",
      "parameters": {
         "object": "Opportunity",
         "incremental": false,
         "fields": [
            { "name": "Id" },
            { "name": "Name" },
            { "name": "StageName" },
            { "name": "CloseDate" },
            { "name": "AccountId" },
            { "name": "OwnerId" }
         ]
      }
   }
```

メモ: 増分抽出はすべての Salesforce オブジェクトではサポートされていません。このため、複製ではサポートされていないオブジェクトの完全抽出が自動的に実行されます。また増分モードでは、数式項目が複製されたオブジェクトと同期しなくなる場合があります。このため、数式項目を含むオブジェクトの増分抽出は無効にすることをお勧めします。

有効化された複製による複数のデータフローの作成

Wave Analytics Platform ライセンスがあり複製が有効化されている場合、さまざまな用途の複数のデータフローを作成し、独自のスケジュールで実行できるようになりました。これにより、大きいデフォルトのデータフローを独立した小さいデータフローに分割し、より高速なデータセットを作成できます。作成したデータフローを削除したり、データフローのスケジュールを解除したりして、データフローの実行を一時的に回避することができます。デフォルトのデータフローは削除できません。

データ監視または新しいデータマネージャの監視領域にあるデータフロービューで、データフローを作成および管理できます。



メモ: Wave Analytics Platform ライセンスがあれば、組織は最大 10 個のデータフローを持つことができます。これには、デフォルトデータフローと Wave アプリケーションデータフロー (Sales Wave、Service Wave など) が含まれます。各データフロー実行が 1 日あたり 24 回のデータフロー実行の制限にカウントされることに留意してください。

データの準備を使用したデータセットの作成 (ベータ)

データの準備は、既存のデータセットを材料にして新規データセットをすばやく作成する、新しい機能です。新しいデータマネージャのわかりやすいユーザインターフェースを使用して、複数のデータセットのデータ結合、項目の削除、項目値を実行できます。JSON は 1 行も必要ありません。

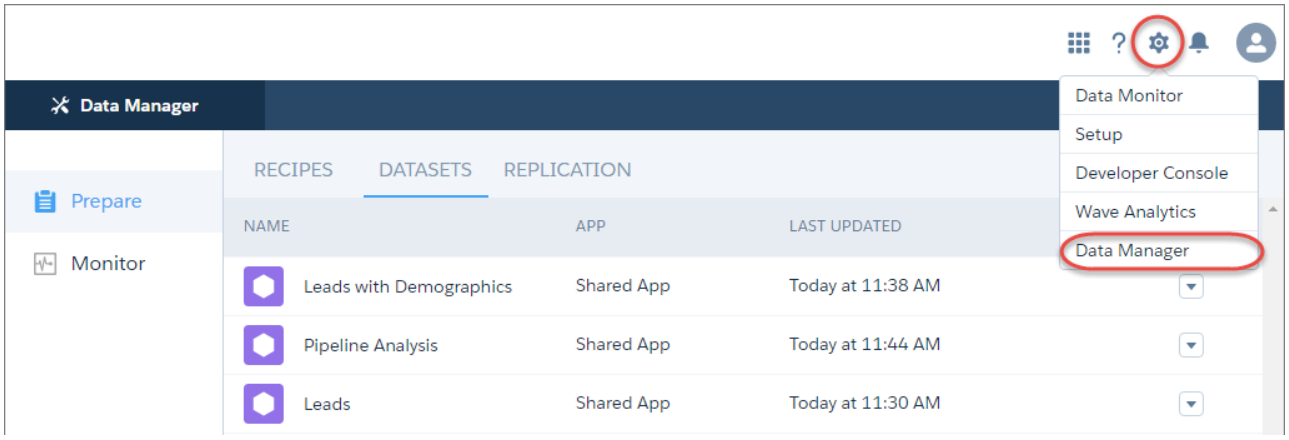
メモ: このリリースには、データの準備のベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。試用する場合は、Salesforce にお問い合わせください。

データの準備の詳細 と仕組み

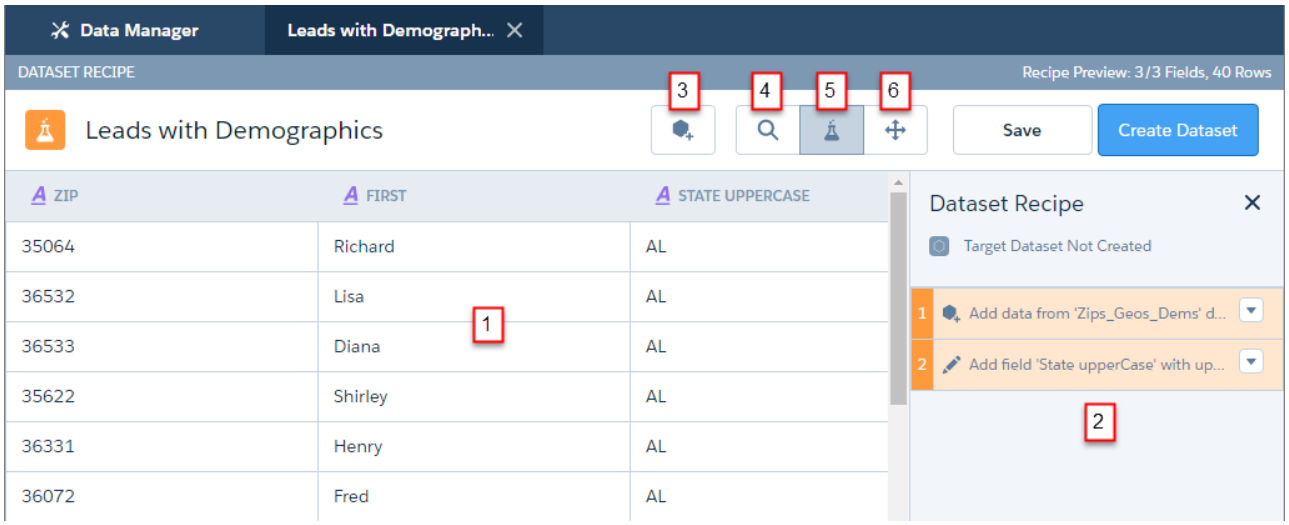
データの準備では、最初にレシピを作成してからデータセットを作成します。料理のレシピのように、データセットのレシピには材料 (既存のデータセット) のリストと手順 (データセットで実行する変換) のセットが含まれます。レシピの準備ができたら、それを使用して対象データセットをすぐに作成するか、定期的にデータセットを更新するようにスケジュールします。Wave にレシピが保存されるため、レシピを更新したり、これらのレシピから新規レシピを作成したりできます。

レシピを使用したデータセットの作成

データの準備でデータセットを作成する場合、まず作成元となる既存のデータセットを使用します。データマネージャを開き、[データセット] タブに移動します。ここに使用可能なデータセットのリストが表示されています。



使用するデータセットをクリックし、レシピ名を入力します。作成する対象データセットにもこの名前を使用するため、注意して選択してください。これで、[データセットのレシピ] ページが表示されます。



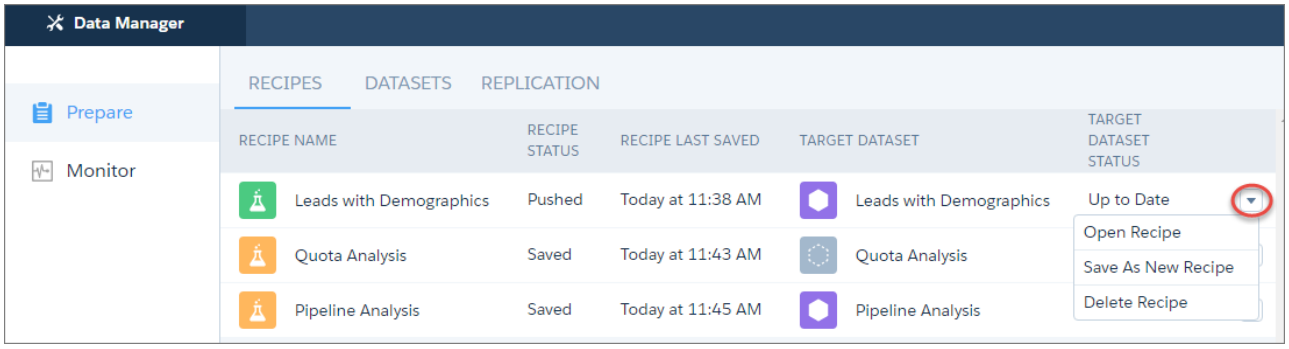
1. 対象となるデータセットに表示されるデータのプレビュー。
2. ここで変換を表示して管理するか、プレビューで項目を移動します。
3. 別のデータセットからデータを追加する場合は、ここをクリックします。
4. 探している項目が見つからない場合は、ここをクリックし、プレビューで項目をリスト形式で表示するか、項目を検索するか、項目を非表示にします。
5. データまたは変換される項目を追加した場合、ここをクリックしてこれらの変換のリストを表示します。変換を削除する必要がある場合は、ここから削除することもできます。
6. 項目値に変更を加える必要がある場合は、ここをクリックして、ケースを変更するか、項目値を分割する (電話番号を市外局番と番号に分割するなど) か、値の検索と置換を実行します。

作業が完了したら、レシピを保存できます。レシピを実行する場合は後でここに戻るか、[データセットを作成] をクリックして先に進みます。

メモ: 複製を有効にした場合は、複製したオブジェクトからレシピを作成することもできます。

データセットレシピの管理

[レシピ]タブですべてのレシピとそれぞれの対象データセットの状況を追跡したり、レシピを削除したりできます。



アイコン	状況	説明
	保存済みレシピ	保存済みだが実行するよう選択されていない新規または更新されたレシピ。
	選択済みレシピ	実行するよう選択された、新規または更新されたレシピ。
	対象データセット未作成	関連するレシピが実行されていないか、対象データセットがキューに追加されている。
	作成済み対象データセット	関連するレシピが実行済みで、対象データセットも作成されている。レシピが後で更新されたものの実行されていない場合は、状況に [最新でない] が表示されます。

sliceDataset 変換を使用したデータセットからの項目の削除

新しい sliceDataset 変換を使用してデータフローのデータセットから項目のサブセットを選択し、新規データセットまたは他の変換で使用します。この機能により、同じ Salesforce オブジェクトから異なる項目のセットを設定して、複数のデータセットを作成できます。各データセットを個別に抽出する必要はありません。複製を使用すると、各 Salesforce オブジェクトからのデータ抽出の実行が一度だけで済むため、便利です。

次に例を示します。データフローに sfdcDigest ノードと `ExtractOpportunities` が含まれており、商談オブジェクトからすべての項目を抽出するとします。ただし、一部のユーザの Opportunities データセットには ID 項目は必要ありません。問題ありません。データフローに sliceDataset ノードを追加し、ソースノードと削除する項目を指定します。

```
{
  "RemoveFieldsFromExtractOpportunities": {
    "action": "sliceDataset",
    "parameters": {
```

```
      "source": "ExtractOpportunities",
      "mode": "drop",
      "fields": [
        {
          "name": "Id"
        },
        {
          "name": "ProductId"
        }
      ]
    }
  }
}
```

この変換が便利なのは、モードパラメータで 2 つのモード (drop と select) から選択できることです。

```
"mode": "drop"
"mode": "select"
```

モードを drop に設定すると、指定した項目を*削除*できます。これは、一部の項目のみ削除する場合に便利です。select に設定すると、指定した項目を*保持*します。select モードを使用すれば、数百項目を削除するのにどれだけ時間が節約できるか、考えてみてください。

やっかいなエラーメッセージが出ないように、いくつかの注意事項があります。mode パラメータは必須のため、省略しないでください。また、少なくとも 1 つの項目を指定する必要があります。

Wave: SAQL および REST API を機能強化したプラットホームでの開発

要望が多かった新しい SAQL 関数の追加と REST API の更新により、Wave プラットホームでの開発が引き続き強化されています。

このセクションの内容:

新しい文字列および集計 SAQL 機能の活用
Wave の SAQL は継続して機能強化が行われており、文字列処理と集計では画期的な新機能が追加されました。

Wave REST API の更新の確認
Wave REST API に新しいエンドポイントと表現が追加されました。

新しい文字列および集計 SAQL 機能の活用

Wave の SAQL は継続して機能強化が行われており、文字列処理と集計では画期的な新機能が追加されました。

文字列関数

キー文字列処理関数を多数追加しました。

- starts_with — 文字列が指定したプレフィックスで始まる場合は *true* を返します。
- ends_with — 文字列が指定したサフィックスで終わる場合は *true* を返します。
- index_of — 指定位置からの、検索文字列が発生した位置のインデックスを返します。デフォルトの位置は 1 です。つまり、関数は最初の文字から検索を開始します。存在する場合、整数は検索対象が何番目に

発生した文字列かを示します。たとえば、2が指定されていて、複数の一致がある場合は、2番目に発生した位置のインデックスを返します。

- `replace` — 指定された置換文字列ですべての検索文字列を置換して返します。

集計関数

重要な新しい集計関数も追加されました。

- `regr_slope` — この単純な線形回帰関数は、グループ化した連動数値式およびグループ化した独立数値式を受け入れます。回帰直線の傾きが返されます。
- `regr_intercept` — この単純な線形回帰関数は、グループ化した連動数値式およびグループ化した独立数値式を受け入れます。回帰直線のY切片が返されます。
- `regr_r2` — この単純な線形回帰関数は、グループ化した連動数値式およびグループ化した独立数値式を受け入れます。決定係数(R二乗または適合度とも呼ばれます)が返されます。

詳細は、*「SAQL の概要」*を参照してください。

Wave REST API の更新の確認

Wave REST API に新しいエンドポイントと表現が追加されました。

Wave のトレンドレポートのスナップショットが `/wave/trendedreports/${trendedReportId}` および `/wave/trendedreports` エンドポイントを使用してサポートされます。

複製されたデータセットは `/wave/replicatedDatasets/${id}`、`/wave/replicatedDatasets`、および `/wave/replicatedDatasets/${id}/fields` エンドポイントを使用してサポートされますが、`orgHasReplicationEnabled`、`ELTEditor`、および `InsightsAdmin` 権限が必要です。

多くの表現に新しいプロパティが追加され、特にダッシュボードで新規機能または変更された機能がサポートされるようになりました。

詳細は、*『Wave REST API 開発者ガイド』*を参照してください。

サービス: CTI の大きな変更、Field Service の機能の追加

CTI(コンピュータテレフォニーインテグレーション)を使用している場合は注意が必要です。Spring '17 でデスクトップ CTI が廃止されるため、次のリリースまでに Open CTI に移行する必要があります(朗報としては、Open CTI が Lightning Experience で機能するようになりました)。多数の新しい Field Service Lightning の機能を使用して、フィールドサービス業務を専門的に管理できます。また、活気的な Twitter と Facebook のソーシャルカスタマーサービスに Instagram が追加されました。

このセクションの内容:

CTI: Open CTI for Lightning の登場とデスクトップ CTI の廃止
新旧交代です。デスクトップ CTI が廃止されることになり、Open CTI が Lightning Experience で機能するようになりました。

フィールドサービス: Field Service Lightning ツールボックスの追加

Winter '17 では、フィールドサービス業務の管理に使用可能な新機能のセットが追加されました。サービス予約で作業を追跡し、サービス人員で作業要員を管理し、作業種別で作業指示を標準化するなど、多くのことができます。

ソーシャルカスタマーサービス: Instagram の正式リリース、パフォーマンスの改善、Lightning Experience

Instagram が正式にサポートされるようになりました。最大 2000 のソーシャル取引先がより高速に同期され、ページあたり 500 の取引先が表示されるようになりました。Lightning がソーシャルで活躍します。ソーシャル投稿とソーシャル人格ページ、および返信以外のケースフィード機能を Lightning Experience で使用できます。

Salesforce ナレッジ: 新しい REST API および Professional Edition サポート

認証済みユーザとゲストユーザの両方は新しいサポート REST API を使用して、ユーザの表示可能なデータカテゴリとその関連記事を取得できます。Professional Edition 組織はナレッジを有効にできます。

Salesforce Console for Service: リストビューのフロート表示とコンソールアクセスの変更

人は制御することを好むものです。コンソールの設定が作成され、リストビューでフロート表示するかどうかを制御できるようになりました。コンソールにアクセスするには、Salesforce Classic で行う必要があります。

オムニチャネル: スーパーバイザの生産性の大幅な向上

Omni-Channel Supervisor を使用したサポートスーパーバイザによるリアルタイムのインサイトの取得 (ベータ) この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Live Agent: チャットのオムニチャネルルーティング (ベータ) と高度なチャットトランスクリプトの使用

Live Agent チャットは、オムニチャネルルーティング (ベータ) を使用して他の作業種別と一緒にキューに追加できます。また、チャットが要求されてから終了するまで Live Chat トランスクリプトを使用できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

ケースフィード: Lightning Experience でエージェントの効率が向上

ケースフィードは、ケースの作成、管理、および表示をより合理的に行う方法をサポートエージェントに提供して、コンテキスト内でケース履歴と顧客とのやりとりを表示できるようにします。Winter '17 には、Lightning Experience のメールクイックアクションへの機能強化と、ケースページに［ケース所有者］項目と取引先責任者項目を表示する機能が含まれます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Chatter アンサー: 顧客への回答をすばやく

Chatter アンサーは、ユーザが質問を投稿して他のユーザやサポートエージェントから回答やコメントを受け取れる、セルフサービスのサポートコミュニティです。Chatter アンサーは、ケース、質問と回答、および Salesforce ナレッジの記事を一元化します。Chatter アンサーは、Winter '18 で廃止されます。

エンタイトルメント管理: 更新ルールの改善と制限の変更

エンタイトルメント管理を使用して、ユーザおよびサポートエージェントは顧客のサポート契約を確認および実行できます。Winter '17 では、エンタイトルメントプロセスの更新ルールが改善され、サービス契約階層の制限が変更されました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

納入商品: 階層の制限の更新

納入商品を使用すると、顧客が購入した商品を追跡できます。Winter '17 では、納入商品階層の制限が変更されました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Snap-Ins: Service Cloud コンポーネントの機能の Web サイトへの組み込み

チャットのような Service Cloud のすばらしい機能を Web サイトまたはモバイルアプリケーションに直接追加できたらよいのに、と思ったことはありませんか? Snap-Ins では、Service Cloud コンポーネントを Web ページに埋め込んで、コンテキストに応じたサポートを提供できます。

Service Cloud Lightning Snap-ins SDK: iOS 版の正式リリース

新機能の Service Cloud Lightning Snap-ins SDK を使用して、Service Cloud の機能をネイティブ iOS アプリケーションにすばやく組み込みます。

CTI: Open CTI for Lightning の登場とデスクトップ CTI の廃止

新旧交代です。デスクトップ CTI が廃止されることになり、Open CTI が Lightning Experience で機能するようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Lightning Experience での Open CTI を使用した通話の発信
デスクトップ CTI がまもなく廃止

Open CTI とそのすばらしい機能が Lightning Experience で使用できるようになりました。Open CTI は、パートナーが Salesforce とコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムを統合するのをサポートします。この重要な新機能はすべて、アダプタプログラムをユーザのマシンにインストールすることなく動作します。Open CTI は、Salesforce Classic だけでなく Lightning Experience でも使用できるようになりました。

デスクトップ CTI がまもなく廃止

デスクトップ CTI (コンピュータテレフォニーインテグレーション) は、CTI Toolkit とも呼ばれますが、Spring '17 リリースをもって有効期限が終了し、稼働しなくなります。あと 1 回のリリースの間に CTI 機能を Open CTI へ移行してください。

Lightning Experience での Open CTI を使用した通話の発信

Open CTI とそのすばらしい機能が Lightning Experience で使用できるようになりました。Open CTI は、パートナーが Salesforce とコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムを統合するのをサポートします。この重要な新機能はすべて、アダプタプログラムをユーザのマシンにインストールすることなく動作します。Open CTI は、Salesforce Classic だけでなく Lightning Experience でも使用できるようになりました。

以前は、Open CTI は Salesforce Classic のみで機能していました。

Lightning Experience で Open CTI が機能する仕組みは?

Lightning Experience の活用が Open CTI API の最新化の契機となり、簡単に使用できる Lightning Experience 専用の新しい Open CTI API が作成されました。API では JSON オブジェクトが個々のパラメータの代わりにパラメータとして使用され、Lightning プラットフォームに対応したわかりやすいエラーメッセージが返されます。

現在は、2 つの別個の Open CTI API が存在します。1 つは Salesforce Classic 用で、もう 1 つは Lightning Experience 用です。以前のバージョンの Open CTI は、Salesforce Classic 用の Open CTI API に含まれています。この 2 つの API には同様のメソッドがありますが、いくつかのメソッドの動作は異なります。

メモ: Lightning Experience 用の Open CTI は Lightning アプリケーションでのみ機能します。Classic アプリケーションでは機能しません。Lightning Experience で Classic アプリケーションを表示できますが、それらのアプリケーションは内部的には Classic アプリケーションのままです。アプリケーションが Lightning アプリケーションであるかどうかを確認するには、[設定]のアプリケーションマネージャを使用します。

Lightning Experience で通話を発信する方法は?

設定と実行を行う手順の概要は次のとおりです。

1. CTI ベンダーと協力して、Lightning Experience で機能する Open CTI の実装を作成します。
2. Lightning 用の Open CTI パッケージをインストールします。

   パッケージ内のコールセンター定義ファイルでは、使用するユーザインターフェース (Salesforce Classic、Lightning Experience、または両方) が識別されるようになりました。コールセンター定義ファイルで両方のユーザインターフェースを指定するだけで、ソフトフォンが両方の UI で機能するようになるわけではありません。

3. Lightning アプリケーションを作成し、Open CTI ソフトフォンオプションを追加します。

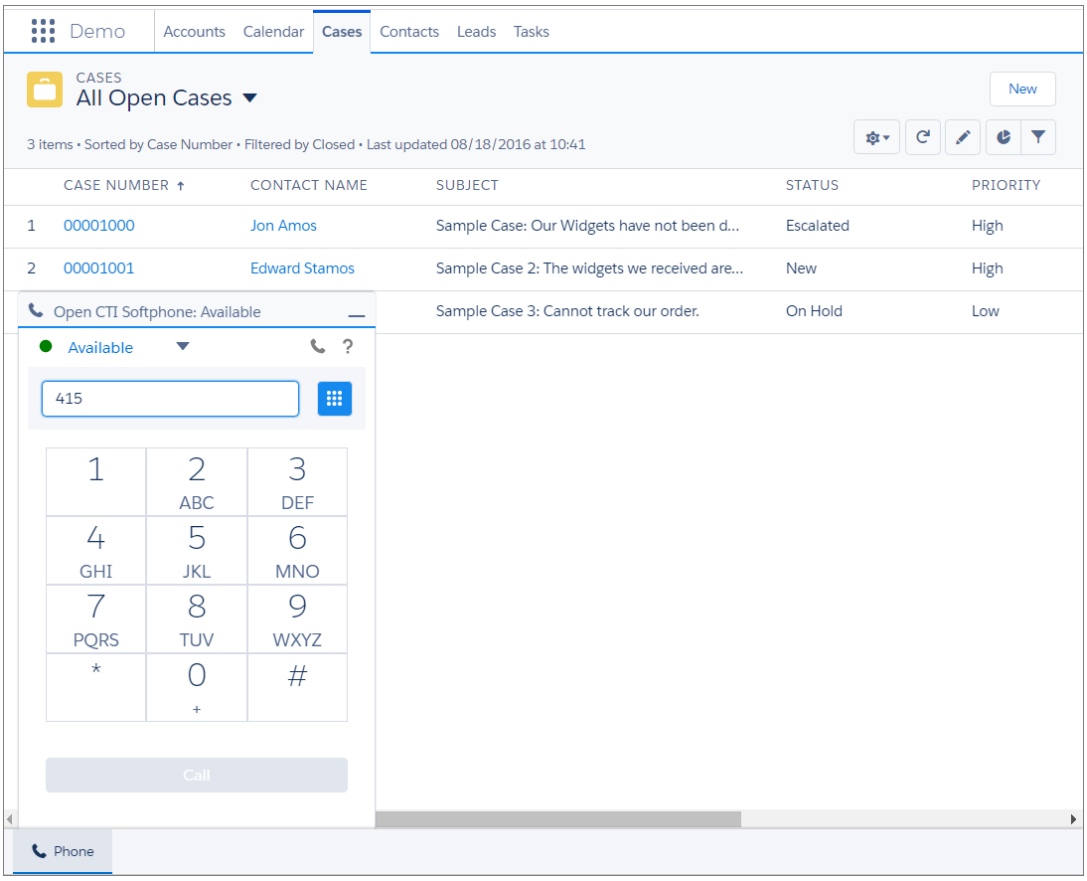
ヒント: 作業を始めるときに役に立つように、Lightning Experience 用の Open CTI デモアダプタが用意されています。ぜひお試しください!

Open CTI の実装が Lightning Experience と Salesforce コンソールで機能するようにするには、Salesforce Classic と Lightning Experience の両方を使用する固有の実装を CTI ベンダーが作成する必要があります。コンソールのデザインは Lightning Experience のように見える場合がありますが、使用できるのは Salesforce Classic でのみです。

Open CTI API 機能の違いを含む Open CTI 実装の作成についての詳細は、『Open CTI 開発者ガイド』を参照してください。

Lightning Experience でのソフトフォンの外観は?

Open CTI 実装が設定されると、Lightning Experience のフッターにあるユーティリティバーにソフトフォンが表示されます。Lightning Experience でのデモアダプタの表示を次に示します。



関連トピック:

- *Open CTI 開発者ガイド*: UI が重要となる理由 — Open CTI for Salesforce Classic と Lightning Experience の比較 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Open CTI 開発者ガイド*: Open CTI for Salesforce Classic と Lightning Experience のメソッドパリティ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Lightning アプリケーションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

デスクトップ CTI がまもなく廃止

デスクトップ CTI (コンピュータテレフォニーインテグレーション) は、CTI Toolkit とも呼ばれますが、Spring '17 リリースをもって有効期限が終了し、稼働しなくなります。あと 1 回のリリースの間に CTI 機能を Open CTI へ移行してください。

デスクトップ CTI 上に構築されたアダプタを使用している場合、そのアダプタは Spring '17 リリースをもって機能しなくなります。パートナーと協力して、Open CTI 実装を作成してください。

関連トピック:

ナレッジ記事: CTI Toolkit の廃止に関する FAQ

Open CTI 開発者ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フィールドサービス: Field Service Lightning ツールボックスの追加

Winter '17 では、フィールドサービス業務の管理に使用可能な新機能のセットが追加されました。サービス予約で作業を追跡し、サービス人員で作業要員を管理し、作業種別で作業指示を標準化するなど、多くのことができます。

Salesforce のフィールドサービス機能にアクセスするには、Field Service Lightning を有効にします。[設定] の [クイック検索] ボックスに「*Field Service 設定*」と入力します。**[Field Service 設定]** をクリックして、**[Field Service Lightning を有効化]** を選択します。Field Service Lightning の設定方法についての詳細は、Field Service Lightning のヘルプ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

メモ: ユーザには、作業指示以外のフィールドサービス機能にアクセスするための「Field Service Lightning」権限セットライセンスが必要です。作業指示には、特別な権限セットライセンスは必要ありません。

エディション

Field Service Lightning 機能を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)。作業指示は **Professional** Edition でも使用できます。

有料オプションで Field Service Lightning 管理パッケージを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)。

このセクションの内容:

サービス人員による従業員の管理

フィールド技術者と派遣担当者のスケジュール、スキル、および対応可能状況をすばやく追跡するには、Salesforce でこれらの担当者をサービス人員として表します。顧客の問題を迅速に解決するため、サービス人員をサービス予約に割り当てることができます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

サービス予約による作業のスケジュール

サービス予約を使用すると、顧客向けに実施するフィールドサービス作業を追跡しやすくなります。サービス予約は、カスタマイズ可能な状況項目、および予定の予約時間と実際の予約時間の差異を追跡する機能により、顧客満足の維持が容易になります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

フィールドサービスフットプリントをサービステリトリーを使用して定義

チームが作業する地域を表すにはサービステリトリーを作成します。各テリトリーの業務時間の設定、サービス人員のテリトリーへの割り当て、およびテリトリー階層の作成ができます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

スキルによる従業員の専門知識の追跡

スキルを使用すると、各フィールド技術者の認定と専門分野を容易に追跡できます。派遣担当者がフィールドサービス作業に割り当てる最適な担当者を見つける場合にも役立ちます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

業務時間による日次スケジュールの管理

サービステリトリー、サービステリトリーメンバー、および取引先の業務時間を定義して、フィールドサービス時間を指定します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Field Service Lightning のレポート

サービス予約の長さやキャンセルのトレンドを分析する必要がありますか?問題ありません。最も作業指示の多い取引先を確認する必要がありますか?それも提供できます。多種多様なカスタムレポートタイプを作成して、組織のフィールドサービスレコードに関する情報を常に把握できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Field Service Lightning での地理コードデータの取得

特定タイプのフィールドサービスレコードに町名・番地を追加すると、Salesforce でその住所の緯度、経度、および位置精度が計算されます。API でのみ表示可能なこのデータを、カスタムのフィールドサービスアプリケーションで参照できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示の機能強化

Winter '17 では、Professional Edition サポート、作業指示テンプレート、アプリケーション内通知、条件に基づく共有など、作業指示への一連の機能強化が行われました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

関連トピック:

Salesforce1 でフィールドサービスの詳細情報にアクセス

サービス人員による従業員の管理

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

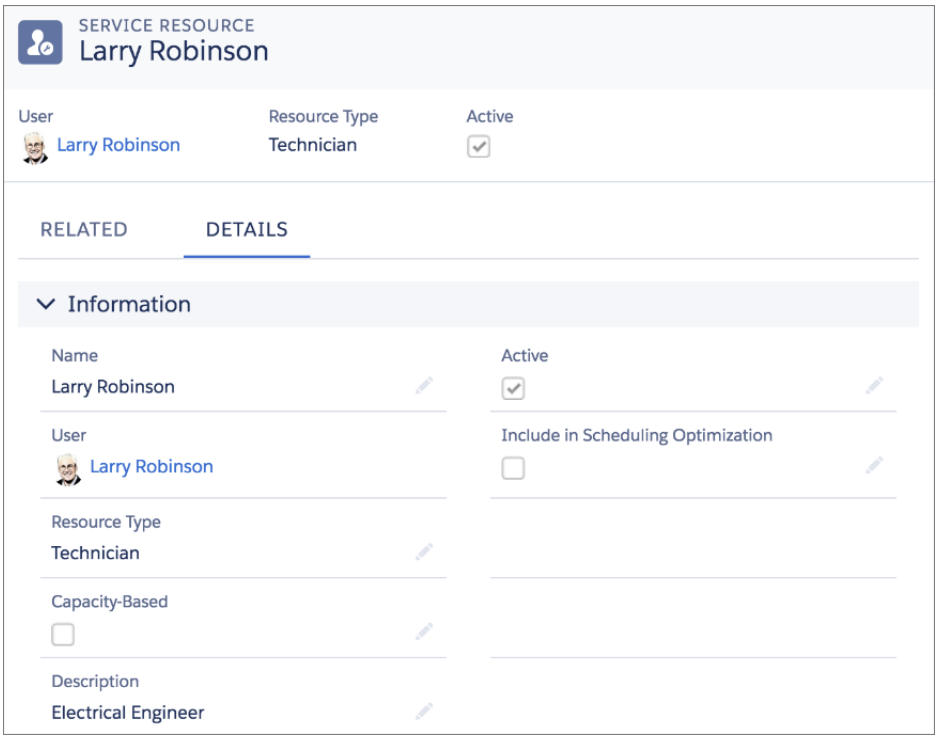
フィールド技術者と派遣担当者のスケジュール、スキル、および対応可能状況をすばやく追跡するには、Salesforce でこれらの担当者をサービス人員として表します。顧客の問題を迅速に解決するため、サービス人員をサービス予約に割り当てることができます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

サービス人員は、Salesforce の [サービス人員] タブから作成します。人員を作成したら、その対応可能状況と専門知識に関する詳細を追加できます。

- [サービステリトリー] 関連リストで、人員が作業可能なテリトリーを追加します。各テリトリーが人員のプライマリ、セカンダリ、再配置のどのテリトリーかを指定します。プライマリテリトリーは通常、人員が最も頻繁に作業するテリトリー(本拠地の周辺など)であり、セカンダリテリトリーは、必要に応じて予約に割り当て可能なテリトリーです。再配置テリトリーは、一時的な異動を表します。サービス人員には、複数のセカンダリテリトリーを割り当てることができますが、プライマリテリトリーは 1 つのみです。
- [スキル] 関連リストで、スキルを割り当てて人員の専門分野を示します。[開始日] および [終了日] 項目を使用して、人員のスキルが有効な期間を指定します。たとえば、スキルが1年間の認定を表す場合、[終了日] はその認定の期限が切れる日付になります。

- [サービス予約] 関連リストで、人員に割り当てられているサービス予約を表示します。
- [不在] 関連リストで、不在を作成して、人員が作業できない期間を表します。
- 人員が契約社員の場合、[業務量] 関連リストにその人員の日間、週間、月間の業務量を定義します。

サンプルサービス人員:



サービス人員設定および除外を設定して、特定の取引先のサービス予約を常に最適な担当者またはチームによって処理することもできます。取引先の作業指示は、人員設定を継承します。使用を開始するには、「Set Up Service Resources」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

サービス予約による作業のスケジュール

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

サービス予約を使用すると、顧客向けに実施するフィールドサービス作業を追跡しやすくなります。サービス予約は、カスタマイズ可能な状況項目、および予定の予約時間と実際の予約時間の差異を追跡する機能により、顧客満足の維持が容易になります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

サービス予約は常に親レコード (作業指示、作業指示品目、商談、取引先、納入商品のいずれか) に関連付けられています。親レコードのタイプによって、サービス予約の特性がわかります。

- *作業指示*と*作業指示品目*のサービス予約は、実施される作業のより詳細なビューを提供します。作業指示と作業指示品目には作業に関する一般情報が含まれますが、サービス予約にはスケジュールと所有権に関する詳細が含まれます。

- *納入商品*のサービス予約は、作業指示に関連付けられていない納入商品に対して実施する作業を表します。
- *取引先*のサービス予約は、作業指示に関連付けられていない取引先に対して実施する作業を表します。
- *商談*のサービス予約は、作業指示に関連付けられていない商談に対して実施する作業を表します。

サービス予約は、Salesforce の [サービス予約] タブか、サポートされるレコードの [サービス予約] 関連リストから作成します。サービス予約で、次の情報を追跡できます。

- 件名と説明
- 予約の長さ
- 到着時間
- 予定予約時間と実際の予約時間との差異
- 期日 (通常は顧客のサービスレベル契約の条件が反映される)
- 予約状況

コミュニティでサービス予約を公開し、顧客が自分の予約を表示および作成できるようにすることも可能です。詳細は、「フィールドサービスデータを追加してコミュニティを拡大」を参照してください。

サービス予約を作成するときには、[割り当て済み人員] 関連リストを使用して 1 人以上のサービス人員に割り当てます。使用を開始するには、「サービス予約の作成」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、参照不能になる可能性があります) を参照してください。

例: 顧客の年 1 回の冷蔵庫メンテナンスを追跡する作業指示を作成するとします。作業指示の [サービス予約] 関連リストで、[年 1 回のメンテナンス] 予約を作成します。

予約時間中に技術者はほとんどのメンテナンスを完了しますが、交換部品の注文と取り付けが必要であると判断します。技術者が予約状況を [完了不可] に変更し、取り付けを追跡する 2 つ目のサービス予約が作業指示上に作成されます。2つ目の予約が終了し、冷蔵庫が完全に修理されたことが確認されたら、2 つ目の予約と作業指示を完了できます。とても簡単でしょう!

フィールドサービスフットプリントをサービステリトリーを使用して定義

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

チームが作業する地域を表すにはサービステリトリーを作成します。各テリトリーの業務時間の設定、サービス人員のテリトリーへの割り当て、およびテリトリー階層の作成ができます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Salesforce でサービステリトリーを使用する場合、作成の必要があるテリトリーを決定します。ビジネスの形態に応じて、都道府県、市区郡、またはその他の要素に基づいたテリトリーを作成します。サービステリトリーの階層を作成する場合は、最初に最上位レベルのテリトリーを作成します。

[サービステリトリー] タブでサービステリトリーを作成します。テリトリーの作成後、[サービステリトリーメンバー] 関連リストからメンバーを追加できます。サービステリトリーメンバーはテリトリー内で作業するサービス人員です。メンバーをテリトリーと関連付けると、メンバーはホームベースに近い予定に割り当てられます。使用を開始するには、「Set Up Service Territories」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

例: テリトリーの階層を作成して、カリフォルニア内のチームが作業するエリアを表すことができます。*カリフォルニア*という名前の最上位のテリトリー、*カリフォルニア北部*、*カリフォルニア中部*、*カリフォル*

ニア*南部*という名前の 3 つの子テリトリー、およびカリフォルニアの郡に対応する一連の第 3 階層のテリトリーを追加します。次にサービス人員を各郡テリトリーに割り当て、その郡でだれが作業可能かを示します。

スキルによる従業員の専門知識の追跡

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

スキルを使用すると、各フィールド技術者の認定と専門分野を容易に追跡できます。派遣担当者がフィールドサービス作業に割り当てる最適な担当者を見つける場合にも役立ちます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

スキルを組織のすべてのサービス人員に割り当て、その人員の認定と専門分野を示すことができます。必要に応じて、各人員のスキルレベルを 0 ～ 99.99 で指定できます。たとえば、Maria に*溶接*スキルのレベル 50 を割り当てることができます。

さらに、必須スキルを作業種別、作業指示、および作業指示品目に追加できます。これにより、派遣担当者は、その特定の種別の作業を完了するのに必要なスキルを把握できます。必須スキルは、レコードの [スキル要件] 関連リストで定義します。

スキル機能を使用する場合、追跡するスキルと、スキルレベルの判定方法を決定します。たとえば、スキルレベルに、経験年数、認定レベル、またはライセンスクラスを反映させることができます。決め方は自由です。

使用を開始するには、[設定] の [Field Service] にある [スキル] ページからスキルを作成します。次に、スキルをサービス人員に割り当て、作業指示、作業指示品目、および作業種別のスキル要件を定義します。詳細は、「Set Up Skills for Field Service」 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

メモ: フィールドサービスのスキル機能は、エージェントの専門分野を追跡するために Live Agent でも使用されます。Live Agent と Field Service Lightning の両方を使用している場合は、ビジネスのフィールドサービスの側面に合わせて個別のスキルを作成することをお勧めします。

業務時間による日次スケジュールの管理

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

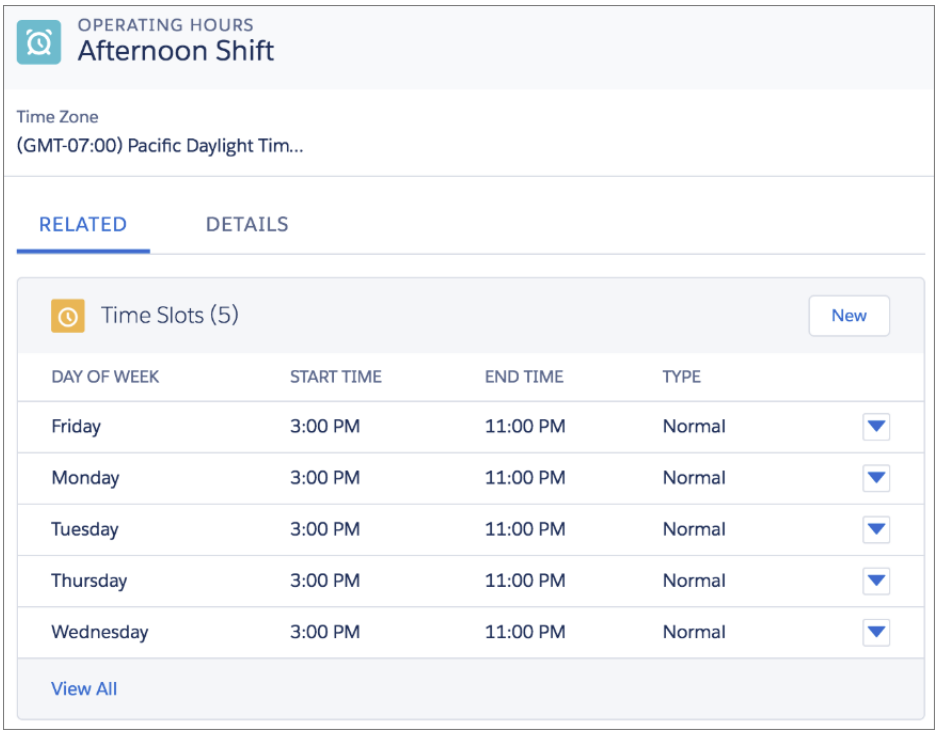
サービステリトリー、サービステリトリーメンバー、および取引先の業務時間を定義して、フィールドサービス時間を指定します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

サービステリトリーの業務時間により、派遣担当者は、そのテリトリーでいつサービス予約を実施する必要があるかを判断できます。サービス人員は、自分が属するサービステリトリーの業務時間を自動的に使用します。サービス人員が、自分のテリトリーとは異なる業務時間を必要とする場合、関連するサービステリトリーメンバーレコード上に別の時間を作成できます。さらに、取引先が特定の時間内にのみフィールドサービス予約を許可している場合、業務時間により、その設定を追跡できます。

メモ: 業務時間の表示、作成、および割り当てができるのはシステム管理者のみです。

業務時間はルールというよりも推奨事項として機能します。派遣担当者は、人員を業務時間外の予約に割り当てることもできます。

サンプル業務時間:



業務時間を作成して割り当てる手順は、次のとおりです。

1. [稼働時間] タブをクリックし、[新規] をクリックします。
2. 名前、説明、およびタイムゾーンを入力します。
3. [保存] をクリックします。
4. 業務時間の [時間枠] 関連リストで、各日の時間枠を作成します。たとえば、業務時間が月曜日～金曜日の午前 8 時～午後 5 時の場合、1 日あたり 1 個、全体で 5 個の時間枠を作成します。昼休みなどの休憩を反映するには、1 日に複数の時間枠を作成します。たとえば、*月曜日午前 8 時～ 午後 12 時と月曜日午後 1 時～ 午後 4 時*などです。
5. [業務時間] 参照項目を使用して業務時間をサービステリトリー、サービステリトリーメンバー、または取引先に割り当てます。

メモ: 業務時間は営業時間とは異なります。フィールドサービスの目的では業務時間を使用します。

Field Service Lightning のレポート

サービス予約の長さやキャンセルのトレンドを分析する必要がありますか? 問題ありません。最も作業指示の多い取引先を確認する必要がありますか? それも提供できます。多種多様なカスタムレポートタイプを作成して、組織のフィールドサービスレコードに関する情報を常に把握できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

カスタムレポートタイプを使用すると、進行状況を追跡し、フィールドサービス活動を俯瞰できます。次のオブジェクトリレーションを使用できます。

主オブジェクト	説明	使用可能な第 2 オブジェクト
業務時間	サービステリトリーとそのメンバーの営業時間を表示します。	サービステリトリー 時間枠
サービス予約	予定予約時間と実際の予約時間の差異を比較し、予約での人員割り当てのトレンドを分析します。	割り当て済み人員
サービス人員	サービス人員の業務量、不在、およびスキルを比較し、属するテリトリーと、割り当てられているサービス予約を表示します。さらに、人員を優先としてリストしている取引先と作業指示を確認できます。	割り当て済み人員 人員不在 人員業務量 人員設定 サービス人員スキル サービステリトリーメンバー
サービステリトリー	サービステリトリー全体にわたってサービス予約、作業指示、および作業指示品目の数と種類を比較し、各テリトリーに属するサービス人員を表示します。	サービス予約 サービステリトリーメンバー 作業指示 品目
作業指示	予約数、作業指示あたりの品目数、作業指示のサービステリトリーなどの情報を比較します。さらに、人員設定とスキル要件が作業指示によってどう変わるかを分析します。	人員設定 サービス予約 スキル要件 作業指示品目
作業指示品目	作業指示品目の所有者、所要時間、件名などの情報を比較し、作業指示品目に関連付けられているサービス予約とスキル要件を表示します。	サービス予約 スキル要件
作業種別	作業種別の所要時間やスキル要件などの情報を比較します。	スキル要件
取引先	取引先の人員設定と作業指示を比較します。	人員設定 作業指示
納入商品	納入商品に関連付けられている作業指示の数と特性を比較します。	作業指示

主オブジェクト	説明	使用可能な第 2 オブジェクト
ケース	ケースに関連付けられている作業指示の数と特性を比較します。	作業指示
取引先責任者	取引先責任者に関連付けられているサービス予約と作業指示を分析します。	サービス予約 作業指示
エンタイトルメント	エンタイトルメントに関連付けられている作業指示の数と特性を比較します。	作業指示
サービス契約	サービス契約に関連付けられている作業指示の数と特性を比較します。	作業指示

レポートは、[カスタマーサポートレポート] または [その他のレポート] に保存することをお勧めします。独自のフィールドサービスレポートフォルダを作成することもできます。

Field Service Lightning での地理コードデータの取得

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

特定タイプのフィールドサービスレコードに町名・番地を追加すると、Salesforce でその住所の緯度、経度、および位置精度が計算されます。API でのみ表示可能なこのデータを、カスタムのフィールドサービスアプリケーションで参照できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

「地理コード」と呼ばれるこの位置データ機能は、Field Service Lightning を有効化すると、サポートされるすべてのフィールドサービスオブジェクトで有効化されます。API では、次のオブジェクトに下記の 3 つの項目の値があります。

- Work Orders
- Work Order Line Items
- Service Appointments
- Service Territories
- Service Territory Members
- Resource Absences

項目名	説明
`Latitude`	町名・番地の緯度
`Longitude`	町名・番地の経度
`GeocodeAccuracy`	緯度および経度の位置精度

Salesforce では、定期的にこの 3 つの地理コード項目を更新して精度を確保しています。地理コード項目は更新されるまで少し時間がかかります。処理時間は、一度に更新されるレコード数によって異なります。地理コードについての詳細は、「Location Tracking in Field Service Lightning」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

メモ: Winter '17 より前に作業指示を有効化した場合、Field Service Lightning を有効化すると、組織の既存の作業指示すべてで地理コードが自動有効化され、場所項目に入力されます。Field Service Lightning を有効化しない場合、作業指示で地理コード機能は使用できません。

作業指示の機能強化

Winter '17 では、Professional Edition サポート、作業指示テンプレート、アプリケーション内通知、条件に基づく共有など、作業指示への一連の機能強化が行われました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

メモ: Winter '17 での作業指示に対する機能強化は、Field Service Lightning が組織で有効になっている場合にのみ利用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

このセクションの内容:

作業種別で作業指示を標準化

ビジネスにおいて同じ ToDo を複数の顧客に実行している場合があります。作業種別とは作業指示テンプレートのことで、これを使用すれば効率化やフィールドサービス作業の標準化が容易になります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Professional Edition での作業指示のサポート

Service Cloud が付属する Professional Edition 組織で作業指示がサポートされるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示への所要時間と必須スキルの追加

作業指示と作業指示品目の新しい設定では、作業にかかる時間と作業担当者に必要な条件を指定できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示に推奨記事を表示

以前は、コンソールサイドバーの作業指示にある Knowledge One ウィジェットで添付記事の管理と知識ベースの検索を実行できました。今回のリリースで、作業指示のタイトルと説明に基づいて、記事の推奨も表示するようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示の有効化の変更

Winter '17 では、作業指示を有効にする方法が変更されました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示に対する条件ベースの共有ルールの作成 (ベータ)

最大 50 個の条件ベースの共有ルールを作成して、作業指示の表示や更新ができるユーザを制御できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示の更新に関する通知の受信

Salesforce1 および Lightning Experience のユーザは、所有またはフォローしている作業指示や作業指示品目が更新されたときにアプリケーション内通知を受信できるようになりました。この機能は、Lightning Experience の [設定] でのみ使用できます。

作業指示階層に対する制限の更新

作業指示階層に最大 10,000 レコードを設定できるようになり、階層の深度や幅に対する制限がなくなりました。以前は、作業指示に最大2,000の子作業指示を、作業指示の階層に最大50レベルを設定できました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示の新しい状況オプション

作業指示とその品目に 3 つの新しい状況値が追加され、作業指示の状況オプションから［スケジュール済み］および［割り当て済み］値が削除されました。また、新しい状況関連の項目により、顧客に対して行っている作業を簡単に把握できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

合理化された作業指示の価格設定

作業指示品目と価格表の連動方法がいくつか変更されました。

作業種別で作業指示を標準化

ビジネスにおいて同じ ToDo を複数の顧客に実行している場合があります。作業種別とは作業指示テンプレートのことで、これを使用すれば効率化やフィールドサービス作業の標準化が容易になります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業種別は特定のタスクにかかる時間とそのタスクを完了するために必要なスキルを示します。[作業種別] タブで作業種別を作成します。名前、説明、推定所要時間、および所要時間種別を追加するだけです。必要に応じて、この作業種別を使用する作業指示または作業指示品目に対するサービス予定の自動作成をするオプションを選択します。次に [スキル要件] 関連リストに必要なスキルを追加します。

作業種別を作業指示または作業指示品目に適用するには、レコードの［作業種別］参照項目で作業種別を選択します。作業種別を追加すると、作業指示または作業指示品目で作業種別の所要時間値と必要なスキルが継承されます。

メモ: 必要に応じて、作業種別から継承後に、作業指示または作業指示品目の所要時間値と必要なスキルを更新できます。

サンプル作業種別:

使用を開始するには、「Create Work Types」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

例: あなたは窓の取り付けを頻繁に行う窓会社のオーナーであるとします。窓の取り付けには通常 90 分かかります。作業種別は次の設定で作成できます。

- 名前: *窓の取り付け*
- 説明: *1 枚または 2 枚枠の窓の標準取り付け*
- 推定所要時間: *90*
- 所要時間種別: *分*
- スキル要件:
  - スキルレベル *50* の *窓の取り付け*
  - スキルレベル *10* の *窓ふき*
- [サービス予約を自動作成] の選択

顧客が窓の取り付けを必要としている場合は、作業指示を作成し、[作業種別] 参照項目で[窓の取り付け] 作業種別を選択します。これにより、作業指示の所要時間とスキル値が自動入力され、作業指示のサービス予定が作成されます。効率化万歳ですね。

Professional Edition での作業指示のサポート

Service Cloud が付属する Professional Edition 組織で作業指示がサポートされるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Professional Edition 組織で作業指示を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Field Service 設定*」と入力し、**[Field Service 設定]** を選択します。**[Field Service Lightning を有効化]** をクリックします。

Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、または Developer Edition 組織を使用している場合は、Field Service Lightning が有効化されているかどうかに関係なく、作業指示が自動的に有効化されます。詳細は、「作業指示の有効化の変更」を参照してください。

作業指示への所要時間と必須スキルの追加

作業指示と作業指示品目の新しい設定では、作業にかかる時間と作業担当者に必要な条件を指定できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

所要時間の見積もり

新しい［所要時間］および［所要時間種別］項目では、作業指示または作業指示品目を完了するまでにかかる時間を指定します。所要時間の種別（［分］または［時間］）と所要時間を入力します。たとえば、作業指示に 4 時間がかかると予想される場合、［所要時間］項目に「4」と入力し、［所要時間種別］項目で［時間］を選択します。

子サービス予約は、所要時間の値を継承しますが、更新できます。作業指示または作業指示品目に作業種別が含まれる場合、所要時間の値はその作業種別から継承されます。

必須スキルの追加

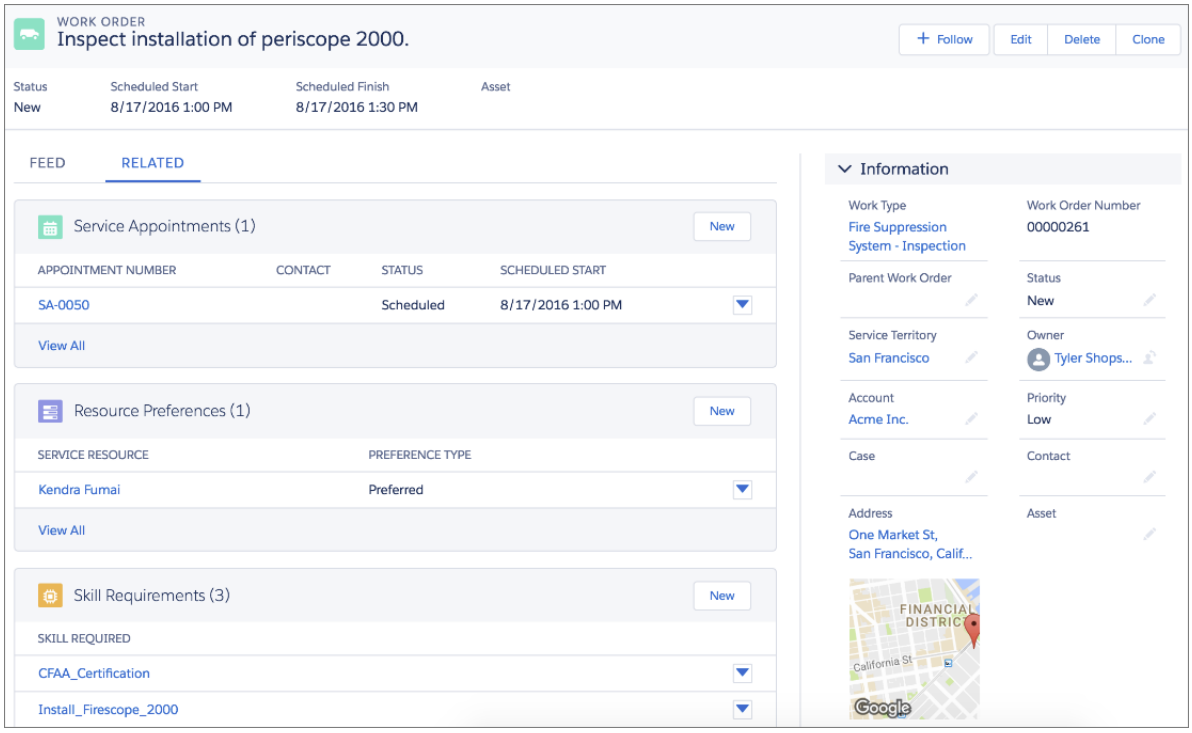
作業指示または作業指示品目を完了できるのが特定のスキルセットを持つサービス人員のみである場合、[スキル要件] 関連リストに必要なスキルを指定します。

1. 必須スキルが必要なレコードに移動します。
2. [スキル要件] 関連リストで、[新規] をクリックします。
3. スキルを選択します。スキルは、要件として追加する前に、[設定] で作成しておく必要があります。
4. ビジネスでのスキルレベルの測定方法に基づいて、0 ～ 99.99 のスキルレベルを入力します。
5. [保存] をクリックします。スキルがレコードの [スキル要件] 関連リストに表示されます。

必須スキルによって、派遣担当者は作業を適切な専門知識を持つサービス人員に割り当てやすくなります。

メモ: 必須スキルは、ルールというよりも推奨事項として機能します。作業指示、作業指示品目、および関連サービス予約を、[スキル要件] 関連リストにリストされたスキルを持たないサービス人員に割り当てることもできます。

スキル要件、人員設定、およびサービス予約のあるサンプル作業指示



作業指示に推奨記事を表示

以前は、コンソールサイドバーの作業指示にある Knowledge One ウィジェットで添付記事の管理と知識ベースの検索を実行できました。今回のリリースで、作業指示のタイトルと説明に基づいて、記事の推奨も表示するようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示の有効化の変更

Winter '17 では、作業指示を有効にする方法が変更されました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示は、Field Service Lightning の標準機能の 1 つですが、Field Service Lightning が有効になっているかどうかに関係なく、サポートされるすべてのエディションの組織でデフォルトで使用できる唯一の機能です。Field Service Lightning の他の機能にアクセスしたり、Winter '17 の作業指示の機能強化を取得したりするには、Field Service Lightning を有効にします。有効にするには、Field Service Lightning 権限セットライセンスが必要です。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Field Service 設定`」と入力し、**[Field Service 設定]** をクリックします。
2. **[Field Service Lightning を有効化]** を選択します。

   Field Service Lightning 権限セットライセンスがない場合、デフォルトでオンになっている [作業指示を有効化] オプションのみが表示されます。
3. **[保存]** をクリックします。

メモ:

- [設定] の [作業指示の設定] ページは [Field Service 設定] ページに置き換わっています。

- Service Cloud が付属する Professional Edition 組織を使用している場合、使用できる Field Service Lightning 機能は作業指示のみになります。作業指示はデフォルトで有効になりますが、[Field Service 設定] ページで無効にできます。

作業指示に対する条件ベースの共有ルールの作成 (ベータ)

最大 50 個の条件ベースの共有ルールを作成して、作業指示の表示や更新ができるユーザを制御できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示に対して条件ベースの共有を使用する場合は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。詳細は、「条件に基づく共有ルール」を参照してください。

作業指示の更新に関する通知の受信

Salesforce1 および Lightning Experience のユーザは、所有またはフォローしている作業指示や作業指示品目が更新されたときにアプリケーション内通知を受信できるようになりました。この機能は、Lightning Experience の [設定] でのみ使用できます。

ユーザが所有またはフォローしている作業指示や作業指示品目に対して次のいずれかのアクションが発生すると、そのユーザに通知されます。

- テキストまたはファイル投稿が追加された
- 追跡項目が更新された
- レコード所有者が変更された
- 関連するサービス予約の人員割り当てが変更された

メモ: 作業指示のフィード追跡設定ですべての関連オブジェクトを追跡するオプションが選択されている場合、作業指示の子レコード (サービス予約など) が作成または削除されたときにもユーザに通知されます。

作業指示通知を有効化するには、[設定] の [Field Service 設定] で通知オプションを有効化します。

作業指示階層に対する制限の更新

作業指示階層に最大 10,000 レコードを設定できるようになり、階層の深度や幅に対する制限がなくなりました。以前は、作業指示に最大 2,000 の子作業指示を、作業指示の階層に最大 50 レベルを設定できました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

同様に、作業指示品目階層に最大 10,000 レコードまで設定できるようになりました。

作業指示の新しい状況オプション

作業指示とその品目に 3 つの新しい状況値が追加され、作業指示の状況オプションから [スケジュール済み] および [割り当て済み] 値が削除されました。また、新しい状況関連の項目により、顧客に対して行っている作業を簡単に把握できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

作業指示と作業指示品目の両方の [状況] 選択リスト項目に次の値が追加されました。

- 新規 - レコードは作成されましたが、まだ活動がありません。
- 進行中 - 作業が開始されました。

- 保留中 - 作業が中断しています。
- 完了 - 作業が完了しました。
- 完了不可 - 作業を完了できませんでした。
- クローズ済み - すべての作業と関連する活動が完了しました。
- キャンセル - 作業がキャンセルされました。通常は作業開始前にキャンセルされます。

作業指示の状況を変更しても、その品目の状況には影響しません (その逆も同様)。Winter '17 より前に組織で有効化された作業指示の場合、項目またはその値を変更するまで作業指示と作業指示品目に以前の［状況］値が引き続き表示されます。

また、作業指示品目の新しい[完了]チェックボックスにより、品目が完了したかどうかがわかります。品目の状況を［クローズ済み］に変更すると、このチェックボックスがオンにります。これにより、完了した品目と現在の品目を対比したレポートの作成が簡単になります。

作業指示および作業指示品目に新しい選択リスト項目［状況のカテゴリ］が追加されました。この項目には［状況］項目と同じ 7 つの値と［なし］値が含まれます。［状況］項目にカスタム値を作成するときに、属する状況カテゴリを選択するように要求されるようになりました。たとえば、*「Waiting for Response」* (入力を待機中) という値を作成する場合、それが *［保留中］* カテゴリに属するということを指定できます。

［状況のカテゴリ］項目は、カスタムアプリケーション、トリガ、および入力規則を参照する場合に便利です。状況カテゴリでは、追跡、レポート、ビジネスプロセス管理の一貫した作業分類を維持しながら、作業のライフサイクルを拡張およびカスタマイズできます。項目を使用する場合は、その項目を作業指示および作業指示品目のページレイアウトに追加します。

重要: Winter '17 以降に作成された組織の場合、作業指示と作業指示品目の両方のデフォルト状況値が、対応する状況カテゴリに自動的に割り当てられます。たとえば、［新規］状況は［新規］の状況カテゴリに割り当てられます。ただし、Winter '17 より前に組織で有効化された作業指示の場合は、既存の状況値が更新不可能な［なし］の状況カテゴリに割り当てられます。既存の状況値の状況カテゴリを［なし］から変更する場合、[設定]で若干のハウスキーピング処理が必要になります。次の手順は、作業指示と作業指示品目の両方の状況値に適用されます。

ステップ	例
ステップ 1. 状況値ごとに、変更された名前と適切な状況カテゴリを使用して新しい「ダミー」の状況値を作成します。	状況値が［完了］の場合、次の設定で追加の状況値を作成します。 • 名前: *完了_1* • 状況カテゴリ: ［完了］
ステップ 2. ダミー値のベースとなった元の状況値の状況カテゴリを編集します。	状況カテゴリが［完了］となるように［完了］状況値を編集します。
ステップ 3. 整理しておくために、ダミー値を削除します。	作成した `Completed_1` 値を削除します。

合理化された作業指示の価格設定

作業指示品目と価格表の連動方法がいくつか変更されました。

作業指示で価格表機能を使用している場合、価格表を各作業指示に、価格表エントリ(商品)を作業指示の各品目に関連付けることができます。たとえば、「標準価格表」を特定の作業指示に関連付け、その作業指示に3つの品目を作成して、価格表にリストされているProduct A、Product B、Product Cにそれぞれを対応させることができます。

これまで、作業指示品目の `PricebookEntryId` および `Product2Id` 項目が同期されないことがありました。これは、ユーザが価格表エントリを選択し、その価格エントリに対応しない商品を選択した場合に発生する可能性があります。

Winter '17 (API バージョン 38.0) では、PricebookEntryId 項目に入力すると、対応する参照のみの Product2Id 項目にデータが自動的に入力され、データの整合性が維持されます。作業指示品目の価格関連項目も次のように変更されました。

- `PricebookEntryId` 項目が編集可能になり、ユーザインターフェースの表示ラベルが明確化のために［価格表エントリ］から［商品］に変更されました。
- `Product2Id` 項目は参照のみになり、ページレイアウトに追加することも、APIを介して更新することもできません。
- 作業指示品目で商品を選択するとき、その商品は親作業指示の価格表に含まれている必要があります。作業指示に価格表がリストされない場合、商品をその品目に追加することはできません。

Winter '17 より前に作業指示で［商品］を含む価格設定項目を使用していなかった場合、これらの変更による影響はありません。

Winter '17 より前に作業指示で価格設定項目を使用していた場合、次の手順を実行することをお勧めします。

- API バージョン 38.0 に更新してデータの同期を維持します。
- 作業指示品目の `Product2Id` 項目を参照するカスタムコードまたはアプリケーションを作成していた場合、代わりに `PricebookEntryId` 項目を参照するようにコードを更新します。
- 作業指示品目の `Product2Id` 項目を編集可能にする必要がある場合は、API バージョン 37.0 に基づいてカスタム Visualforce ページを作成することを検討します。
- 作業指示品目ページレイアウトに［商品］項目 (API 参照名が `PricebookEntryId`) が含まれていることを確認します。含まれていれば引き続き作業指示品目を商品に関連付けることができます。

次の表では、API バージョン 38.0 (Winter '17) へのアップグレードによる既存の作業指示品目への影響について説明します。場合によっては、［商品］項目を手動で更新する必要があります。

Winter '17 より前の品目データ	Winter '17 で品目を更新した後
品目には商品と対応する価格表エントリが正しくリストされる。	［商品］項目には元の商品がリストされる。
品目には商品がリストされるが、価格表エントリはリストされない。	［商品］項目は空白になる。
品目には商品と価格表エントリがリストされるが、価格エントリは別の商品に対応している。	［商品］項目には元の価格表エントリに対応する商品がリストされる。

Winter '17 より前の品目データ	Winter '17 で品目を更新した後
品目の価格表エントリは親作業指示にリストされたものとは別の価格表に属する。	ユーザは、親作業指示の価格表に含まれている商品を選択するように要求される。

ソーシャルカスタマーサービス: Instagram の正式リリース、パフォーマンスの改善、Lightning Experience

Instagram が正式にサポートされるようになりました。最大 2000 のソーシャル取引先がより高速に同期され、ページあたり 500 の取引先が表示されるようになりました。Lightning がソーシャルで活躍します。ソーシャル投稿とソーシャル人格ページ、および返信以外のケースフィード機能を Lightning Experience で使用できます。

このセクションの内容:

Instagram の正式リリース

人気のソーシャルチャネルのサービスが提供されます。Instagram のサポートが正式にリリースされました。Instagram アカウントを Service Cloud に直接接続し、ケースを追跡し、顧客に直接対応します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

ソーシャル取引先の同期の高速化

最大 2000 のソーシャル取引先がより高速に同期され、ページあたり 500 の取引先が表示されるようになりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Lightning Experience で利用可能なソーシャル投稿と人格ホームページ

Lightning Experience から移動することなくソーシャル投稿および人格タブにアクセスできます。

Lightning Experience で利用可能なケースフィードソーシャルアクション

Lightning Experience 内でケースフィードのソーシャルメディアに対していいね!、いいね!の取り消し、ソースの表示、削除を行うことができます。ただし、投稿への返信は Salesforce Classic で行う必要があります。

「お気に入り」から「いいね!」への変更

ソーシャルパブリッシャーは、Twitter の投稿への「お気に入り」から「いいね!」への変更を反映するように更新されました。Twitter の現在のインターフェースを反映して、Twitter のソーシャル投稿を「お気に入り」にする代わりに「いいね!」ができるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

元の投稿をインポートせずに Facebook で返信

エージェントは、元の投稿を Salesforce にインポートするという面倒な作業をせずに、Facebook のコメントに直接返信して時間を節約できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

LinkedIn パイロットの終了

LinkedIn のポリシーが変更されたため、LinkedIn パイロットプログラムはサポートされなくなりました。LinkedIn パイロットプログラムに参加している場合は、同期した LinkedIn アカウント、ソーシャル投稿、ソーシャル人格を LinkedIn から削除してください。

Instagram の正式リリース

人気のソーシャルチャネルのサービスが提供されます。Instagram のサポートが正式にリリースされました。Instagram アカウントを Service Cloud に直接接続し、ケースを追跡し、顧客に直接対応します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Instagram の #ハッシュタグのリスンを有効化するには、ソーシャルハブアカウントで、ブランドの #ハッシュタグがメンションされたときに投稿を受信するルールを作成します。Instagram の #ハッシュタグをソーシャルカスタマーサービスに同期し、ブランドの #ハッシュタグが Instagram でメンションされたときにソーシャル投稿を受信します。

ソーシャル取引先の同期の高速化

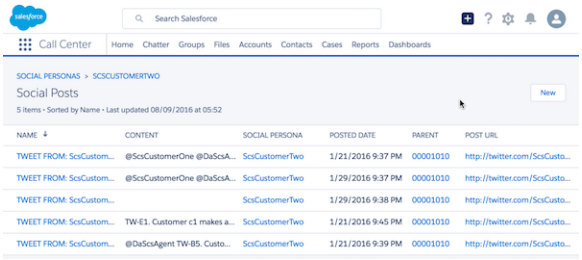
最大 2000 のソーシャル取引先がより高速に同期され、ページあたり 500 の取引先が表示されるようになりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Summer '16 では、管理ソーシャル取引先の制限が 500 から 2,000 に緩和されました。取引先がより高速に同期され、ページあたり 500 の取引先が表示されるようになりました。エージェントは、ケースフィードで、ソーシャルパブリッシャーのすべての同期済み取引先から応答できます。

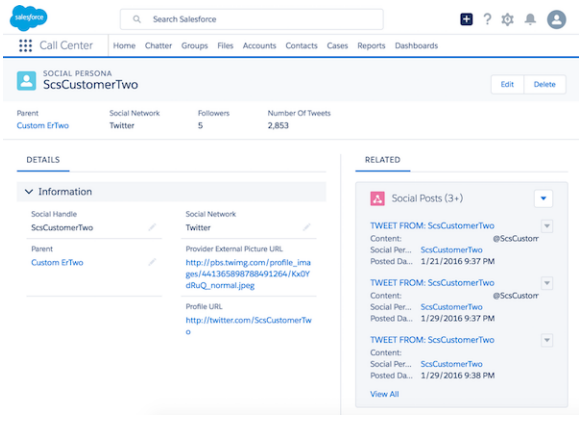
Lightning Experience で利用可能なソーシャル投稿と人格ホームページ

Lightning Experience から移動することなくソーシャル投稿および人格タブにアクセスできます。

Lightning Experience のソーシャル投稿



Lightning Experience のソーシャル人格

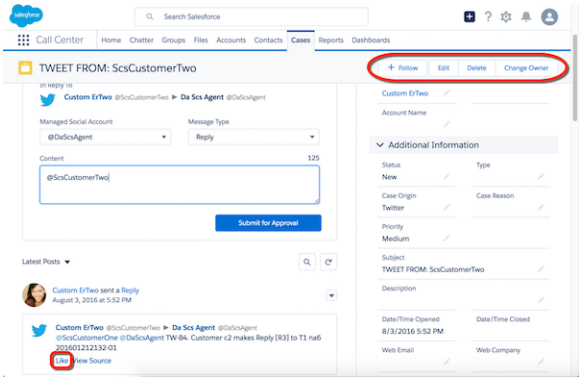


メモ: ソーシャルカスタマーサービス設定とモデレーションおよび認証ページは、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Lightning Experience で利用可能なケースフィードソーシャルアクション

Lightning Experience 内でケースフィードのソーシャルメディアに対していいね!、いいね! の取り消し、ソースの表示、削除を行うことができます。ただし、投稿への返信は Salesforce Classic で行う必要があります。

Lightning Experience のソーシャルパブリッシャー



「お気に入り」から「いいね! 」への変更

ソーシャルパブリッシャーは、Twitter の投稿への「お気に入り」から「いいね! 」への変更を反映するように更新されました。Twitter の現在のインターフェースを反映して、Twitter のソーシャル投稿を「お気に入り」にする代わりに「いいね!」ができるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

元の投稿をインポートせずに Facebook で返信

エージェントは、元の投稿を Salesforce にインポートするという面倒な作業をせずに、Facebook のコメントに直接返信して時間を節約できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

LinkedIn パイロットの終了

LinkedIn のポリシーが変更されたため、LinkedIn パイロットプログラムはサポートされなくなりました。LinkedIn パイロットプログラムに参加している場合は、同期した LinkedIn アカウント、ソーシャル投稿、ソーシャル人格を LinkedIn から削除してください。

Salesforce ナレッジ: 新しい REST API および Professional Edition サポート

認証済みユーザとゲストユーザの両方は新しいサポート REST API を使用して、ユーザの表示可能なデータカテゴリとその関連記事を取得できます。Professional Edition 組織はナレッジを有効にできます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Salesforce ナレッジを使用可能なエディション: **Performance** Edition、**Developer** Edition、および **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Salesforce ナレッジを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

REST API によるデータカテゴリと記事へのアクセス
新しいナレッジサポート REST API を使用して、承認済みユーザとゲストユーザの両方が自身の表示可能なデータカテゴリとその関連記事を取得できます。

Professional Edition でのナレッジの使用を開始
すべての Salesforce ナレッジ機能が、Professional Edition で使用できるようになりました。Salesforce の Professional Edition がある場合は、Salesforce 担当者に連絡し、ナレッジを有効にして強力な知識ベースを構築するように依頼してください。

REST API によるデータカテゴリと記事へのアクセス

新しいナレッジサポート REST API を使用して、承認済みユーザとゲストユーザの両方が自身の表示可能なデータカテゴリとその関連記事を取得できます。

REST API では次のリソースが使用できます。

メモ: リンクは、リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります。

- データカテゴリグループ
- データカテゴリの詳細
- Article List
- Article Detail

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.api_rest.meta/api_rest/intro_what_is_rest_api.html

Professional Edition でのナレッジの使用を開始

すべての Salesforce ナレッジ機能が、Professional Edition で使用できるようになりました。Salesforce の Professional Edition がある場合は、Salesforce 担当者に連絡し、ナレッジを有効にして強力な知識ベースを構築するように依頼してください。

ナレッジの構築についての詳細は、新しい「ナレッジの基本」Trailhead モジュールを参照してください。

Salesforce Console for Service: リストビューのフロート表示とコンソールアクセスの変更

人は制御することを好むものです。コンソールの設定が作成され、リストビューでフロート表示するかどうかを制御できるようになりました。コンソールにアクセスするには、Salesforce Classic で行う必要があります。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

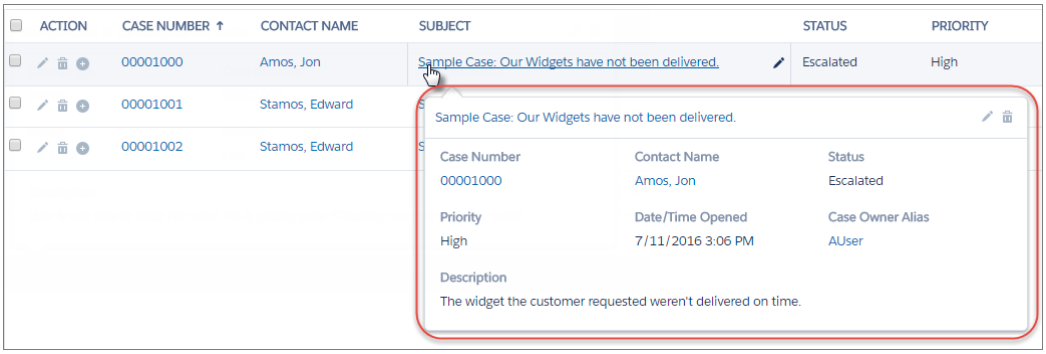
このセクションの内容:

コンソールでのリストビューのフロート表示の制御

皆さまの声に耳を傾けて、リストビューのフロート表示をコンソールで行うかどうかを制御できるようにしました。これまで、リストビューのフロート表示は、コンソールの反応型リストに常に表示されていました。反応型リストは保持できますが、リストビューのフロート表示はオフに切り替えられるようになりました。さらにフロート表示は、ユーザがレコード名、またはケースの場合は件名項目にマウスを置いたときに限って表示されます。以前は、行全体がフロート表示の対象でした。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

コンソールでのリストビューのフロート表示の制御

皆さまの声に耳を傾けて、リストビューのフロート表示をコンソールで行うかどうかを制御できるようにしました。これまで、リストビューのフロート表示は、コンソールの反応型リストに常に表示されていました。反応型リストは保持できますが、リストビューのフロート表示はオフに切り替えられるようになりました。さらにフロート表示は、ユーザがレコード名、またはケースの場合は件名項目にマウスを置いたときに限って表示されます。以前は、行全体がフロート表示の対象でした。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。



[リストビューのフロート表示を有効化]設定を表示するには、組織に「コンソールのリストビューのフロート表示」権限が必要です。デフォルトでは、以前に Salesforce に問い合わせてこの権限を無効にしていない限り、すべての組織でこの権限が有効になっています。

これまでに「コンソールのリストビューのフロート表示」権限を無効にした場合は、リストビューのフロート表示をもう一度試してみてください。リストビューのフロート表示の対象が小さくなりました (レコード名または件名項目のみ)。新しいリストビューのフロート表示では煩わしさが軽減され、作業の効率化に役立つよ

うになりました。リストビューのフロート表示をもう一度試すには、Salesforceに問い合わせて、この権限を有効にしてください。

デフォルトでは、リストビューのフロート表示はすべてのコンソールで有効になっています。無効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定]から、［クイック検索］ボックスに「アプリケーション」と入力し、[アプリケーション]を選択します。
2. 変更するコンソールの名前を探して [編集] をクリックします。
3. [リストビューのフロート表示を有効化] をオフにします。
4. [保存] をクリックします。

これで完了です。フロート表示は行われなくなります。リストビューのフロート表示は、今後いつでも有効に戻すことができます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 反応型リストを使用した Salesforce コンソールリストビューの最適化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Idea Exchange: 反応型リストのフロート表示の有効化をユーザに許可

オムニチャネル: スーパーバイザの生産性の大幅な向上

Omni-Channel Supervisorを使用したサポートスーパーバイザによるリアルタイムのインサイトの取得 (ベータ) この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

オムニチャネルを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Omni-Channel Supervisor: スーパーバイザにリアルタイムのインサイトを提供 (ベータ)

Omni-Channel Supervisor では、リアルタイムのオペレーショナルインテリジェンスすべてを Salesforce コンソールの便利なタブで確認できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Omni-Channel Supervisor: スーパーバイザにリアルタイムのインサイトを提供 (ベータ)

Omni-Channel Supervisor では、リアルタイムのオペレーショナルインテリジェンスすべてを Salesforce コンソールの便利なタブで確認できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

メモ: このリリースには、Omni-Channel Supervisor のベータバージョンが含まれています。ベータバージョンは機能の品質は高いですが、既知の制限があります。この機能は、Omni-Channel Supervisor がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースが発表されない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

エディション

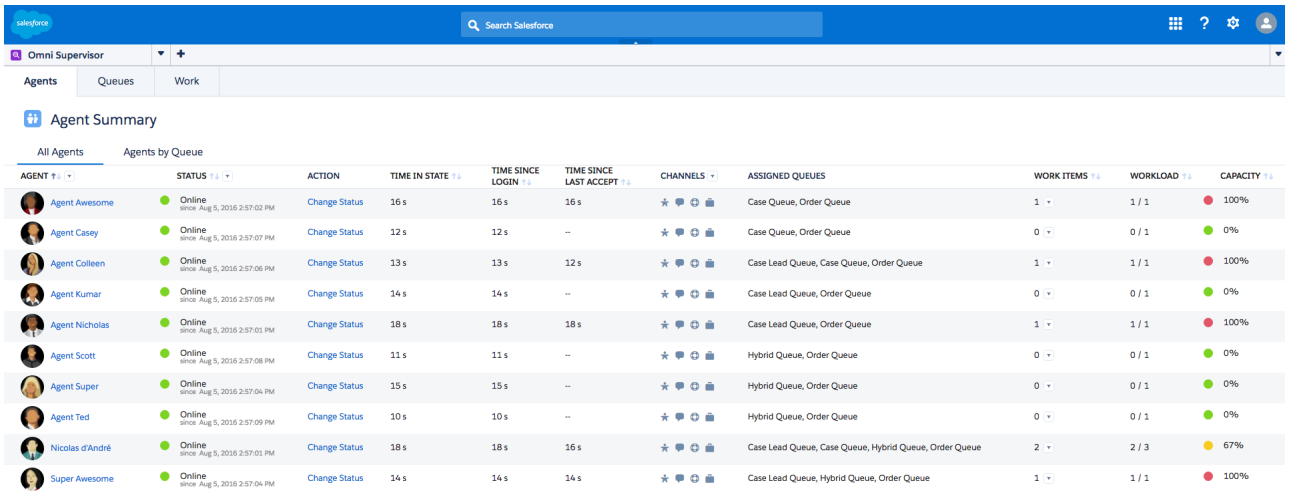
使用可能なエディション: Salesforce Classic

オムニチャネルを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

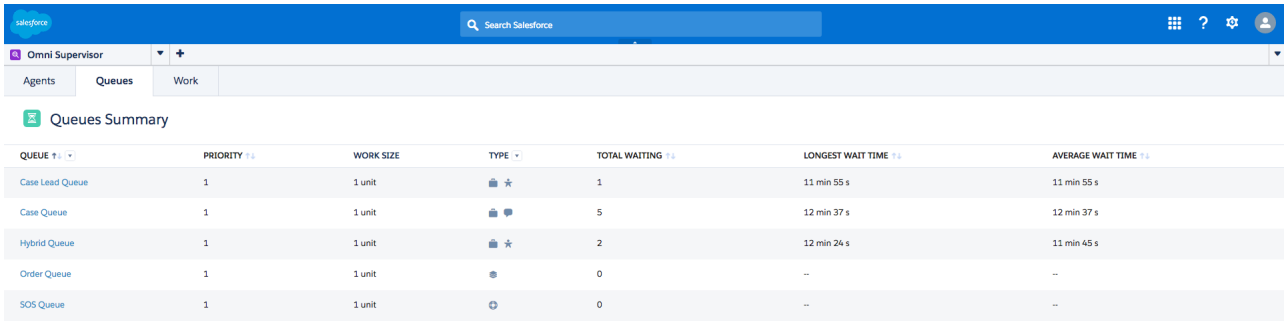
Omni-Channel Supervisor では、オムニチャネルのエージェント、キュー、および作業に関するリアルタイムの情報がパネルにライブでストリーミングされます。そうです。「ライブ」です。待ち時間、進行中の作業などがリアルタイムで表示されます。Omni-Channel Supervisor は継続的に更新されて最新データが反映されるため、常にサポートセンターの状況を把握できます。

スーパーバイザは [エージェント]、[キュー]、および [作業] タブを使用して、リアルタイムでコールセンターの健全性を確認できます。さらに、状況を調査し、何が進行中で有効か、誰に何が割り当てられているか、および業務量の空きや顧客の平均待機時間などの他の詳細を確認できます。

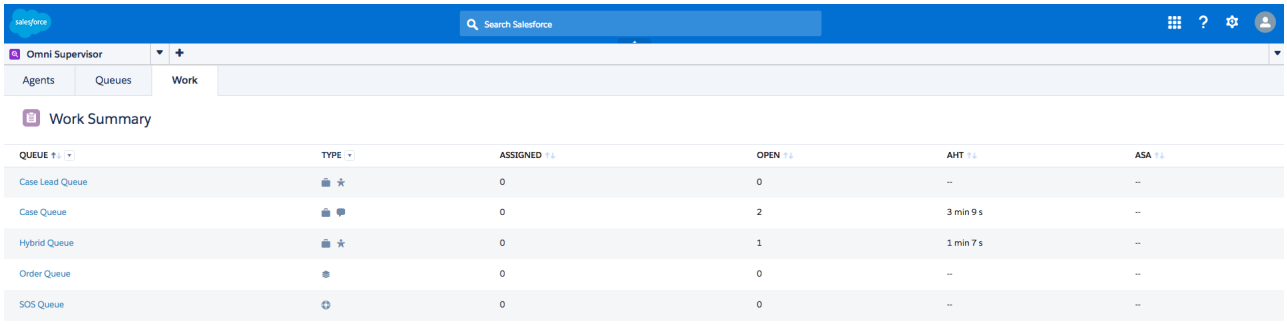
[エージェント] タブ



[キュー] タブ



[作業] タブ



このセクションの内容:

エージェント、作業、およびキューの詳細へのドリルダウン

スーパーバイザはエージェント、キュー、または作業項目を選択して、状況の変更、割り当て、その他の詳細情報を表示できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エージェントの作業スケジュールの表示

直観的なカレンダービューには、いつどのようにエージェントの状況が変更され、項目の作業が行われているかが表示されます。スーパーバイザは日付と期間を設定し、エージェントの状況を最適に表示できます。作業の上にマウスポインタを置くと、いくつかの詳細が表示されます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

並び替えと絞り込みで必要な情報を確認

連動して機能する並び替えと絞り込みによって、スーパーバイザは必要な情報を簡単に検索できます。Omni-Channel Supervisor では、クリックを数回するだけでエージェントの作業状況を確認できます。レポートとは異なり、データがリアルタイムで更新されます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エージェント、作業、およびキューの詳細へのドリルダウン

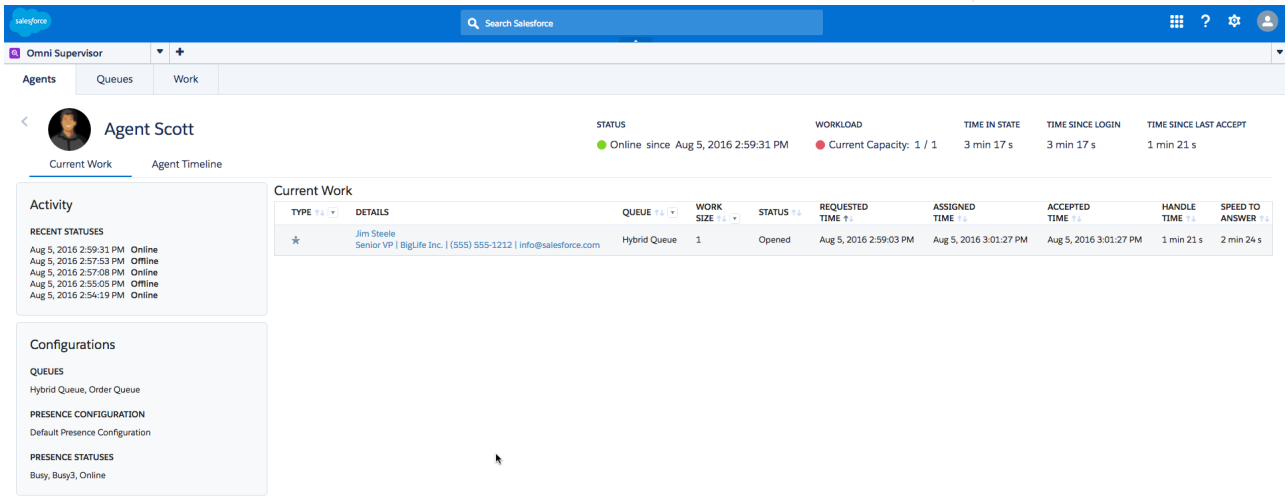
スーパーバイザはエージェント、キュー、または作業項目を選択して、状況の変更、割り当て、その他の詳細情報を表示できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

各タブで、スーパーバイザは項目を選択してその詳細を表示できます。たとえば、エージェントに割り当てられたキューと設定、最近の状況、および現在の作業をエージェントの詳細ビューで確認できます。

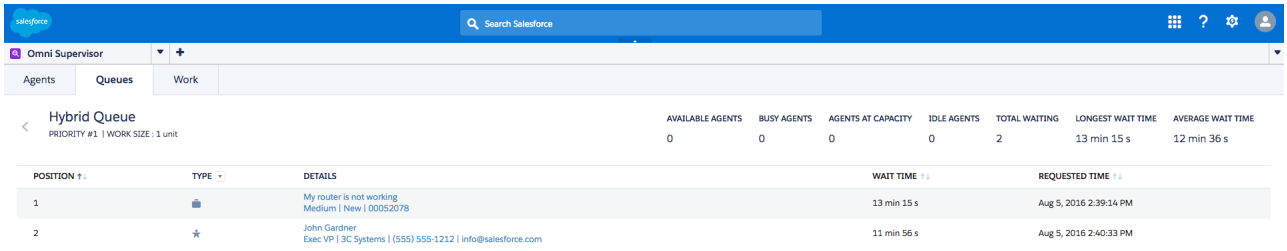
エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

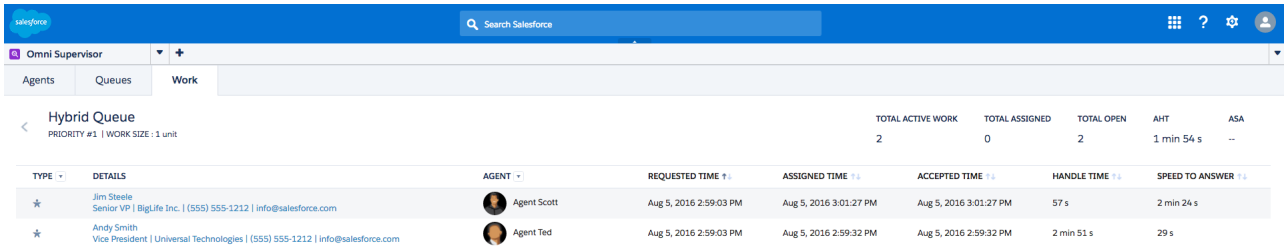
オムニチャネルを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



キューの詳細には、キューの対応可能なエージェント、平均および最長待ち時間、現在の作業項目に関する情報が表示されます。



作業の詳細には、作業種別、タイムスタンプ、および有効な処理時間 (AHT) などのリアルタイムデータが表示されます。AHTは、割り当てられたエージェントが作業項目を開いてコンソールにフォーカスを置いている時間を追跡します。



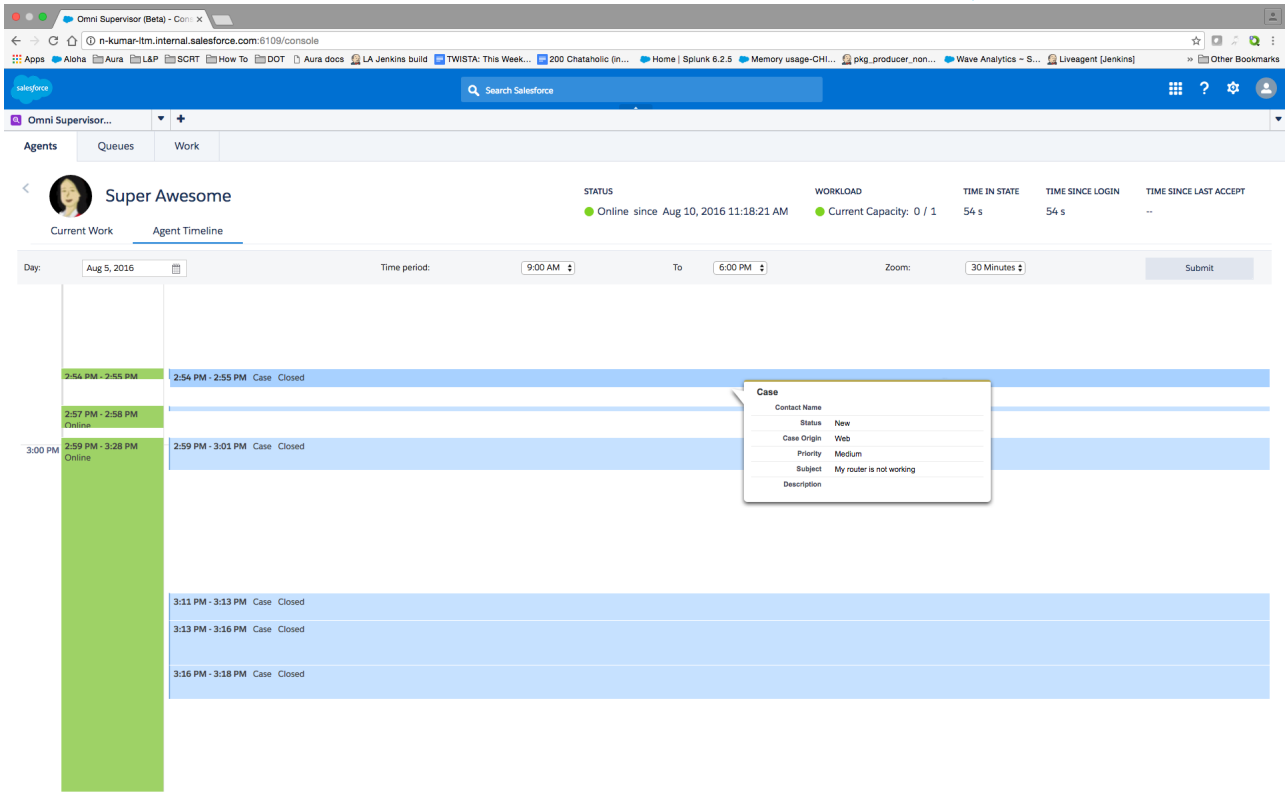
エージェントの作業スケジュールの表示

直観的なカレンダービューには、いつどのようにエージェントの状況が変更され、項目の作業が行われているかが表示されます。スーパーバイザは日付と期間を設定し、エージェントの状況を最適に表示できます。作業の上にマウスポインタを置くと、いくつかの詳細が表示されます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

オムニチャネルを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



並び替えと絞り込みで必要な情報を確認

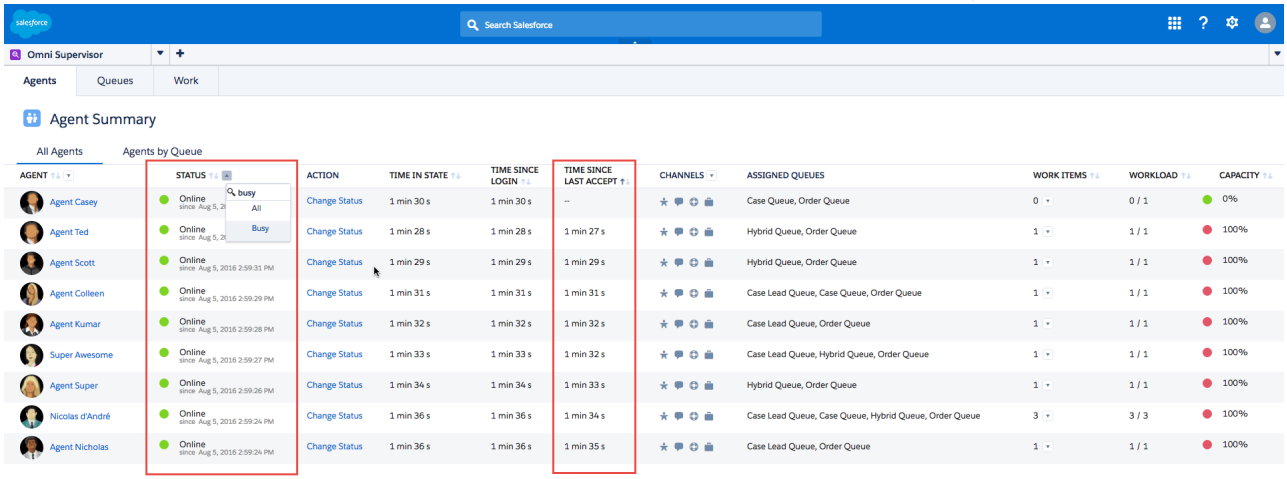
連動して機能する並び替えと絞り込みによって、スーパーバイザは必要な情報を簡単に検索できます。Omni-Channel Supervisor では、クリックを数回するだけでエージェントの作業状況を確認できます。レポートとは異なり、データがリアルタイムで更新されます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

パネルに表示される内容を絞り込み、並び替えて結果を整理します。たとえば、最後に作業を受け入れたオンラインエージェントを確認するには、[エージェント] タブの [状況] 列を [オンライン] のみが表示されるように絞り込み、[最後の承諾以降の経過時間] 列を使用して結果を並び替えます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

オムニチャネルを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



Live Agent: チャットのオムニチャネルルーティング (ベータ) と高度なチャットトランスクリプトの使用

Live Agent チャットは、オムニチャネルルーティング (ベータ) を使用して他の作業種別と一緒にキューに追加できます。また、チャットが要求されてから終了するまで Live Chat トランスクリプトを使用できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Live Agent チャットのオムニチャネルルーティング: オムニチャネルキューを使用したチャットとその他の作業の転送 (ベータ)
その他の作業と一緒にチャットに優先順位を付け、オムニチャネルの強力なルーティングシステムを利用するためにオムニチャネルを使用して Live Agent チャットを転送します。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Live Chat トランスクリプト: トランスクリプトのメジャーアップグレード
オムニチャネルで転送されるチャットの場合、Live Chat トランスクリプトで、チャット要求から始まるチャットライフサイクル全体をカバーできます。オムニチャネルで転送される [待機中]、[有効]、[終了済み] のチャットの Live Chat トランスクリプトページレイアウトをカスタマイズできます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

チャットタイムアウトのカスタマイズと応答のない顧客についてのエージェントへのアラート通知
通常、弊社はお客様の重要な設定には触れませんが、エージェントとタイムアウトになった顧客との接続が突如切断されることがないようにしたいと考えています。チャットタイムアウトについてのエージェントアラートを追加する時間を確保するために、チャットのタイムアウトのデフォルト設定を増やしました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Live Agent チャットのオムニチャネルルーティング: オムニチャネルキューを使用したチャットとその他の作業の転送 (ベータ)

その他の作業と一緒にチャットに優先順位を付け、オムニチャネルの強力なルーティングシステムを利用するためにオムニチャネルを使用して Live Agent チャットを転送します。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

メモ: このリリースには、Live Agent チャットのオムニチャネルルーティングのベータバージョンが含まれています。ベータバージョンは機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Live Agent チャットのオムニチャネルルーティングは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

スキルを使用して最適なエージェントにチャットを転送する代わりに、ボタンのルーティング種別として [オムニ] を選択し、オムニチャネルキューを使用します。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

その他のオムニチャネル作業と一緒にチャットの優先順位付け

オムニチャネルルーティングを使用すると、チャットがその他のチャットやチャネルと相対的に優先順位付けされます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

オムニチャネルでのエージェント通知の統合

チャットエージェントは、オムニチャネルエージェントとまったく異なるシステムを使用する必要はありません。オムニチャネルで転送されたチャットを受信するエージェントにオムニチャネルの通知を設定します。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Omni-Channel Supervisor を使用してオムニチャネルで転送されたチャットのリアルタイムデータをスーパーバイザに提供 (ベータ)

なぜチャットデータがその他のすべてから分離されているのですか?オムニチャネルでチャットが実行されている場合、スーパーバイザは Omni-Channel Supervisor (ベータ) を使用して他のすべてのオムニチャネル活動と共にチャット活動をリアルタイムに監視できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

オムニチャネル設定に移動した多くのチャット設定

Live Agent とオムニチャネルを併用する場合、一部のチャット設定はオムニチャネル設定で行われます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

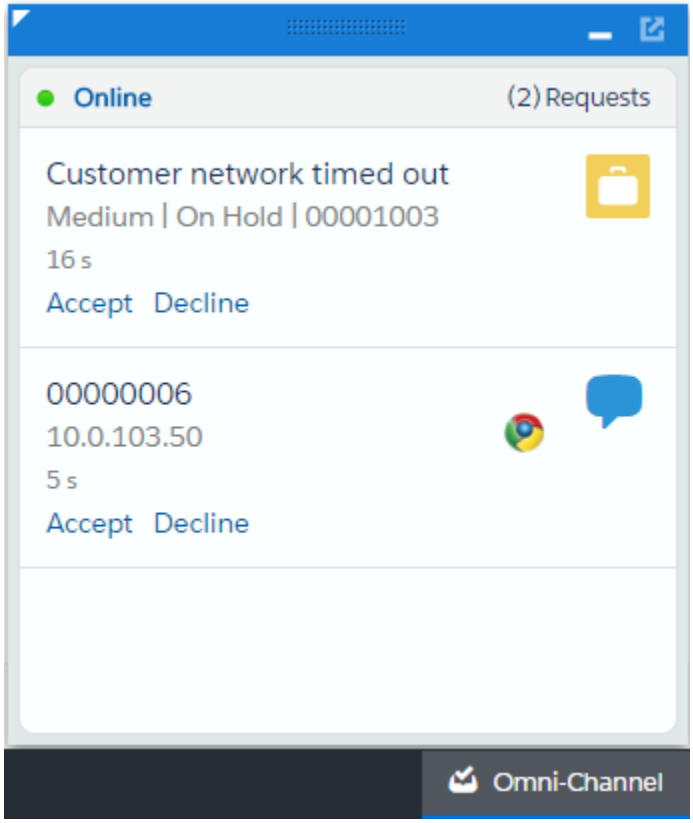
Live Agent チャットのオムニチャネルルーティングの制限

Live Agent チャットのオムニチャネルルーティングにはいくつかの制限があります。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

その他のオムニチャネル作業と一緒にチャットの優先順位付け

オムニチャネルルーティングを使用すると、チャットがその他のチャットやチャネルと相対的に優先順位付けされます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

オムニチャネルで転送されたチャットは、その他のすべてのチャットと同じようにキューに並びます。キュー内の位置は、オムニチャネルルーティング設定とチャット要求の経過時間によって決まります。



エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

オムニチャネルでのエージェント通知の統合

チャットエージェントは、オムニチャネルエージェントとまったく異なるシステムを使用する必要はありません。オムニチャネルで転送されたチャットを受信するエージェントにオムニチャネルの通知を設定します。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

オムニチャネルで転送されたチャットを受信するチャットエージェントは、チャット通知にオムニチャネルウィジェットを使用します。また、デスクトップ通知およびオーディオ設定もオムニチャネルの[プレゼンス設定]で行います。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

Omni-Channel Supervisor を使用してオムニチャネルで転送されたチャットのリアルタイムデータをスーパーバイザに提供 (ベータ)

なぜチャットデータがその他のすべてから分離されているのですか?オムニチャネルでチャットが実行されている場合、スーパーバイザは Omni-Channel Supervisor (ベータ) を使用して他のすべてのオムニチャネル活動と共にチャット活動をリアルタイムに監視できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

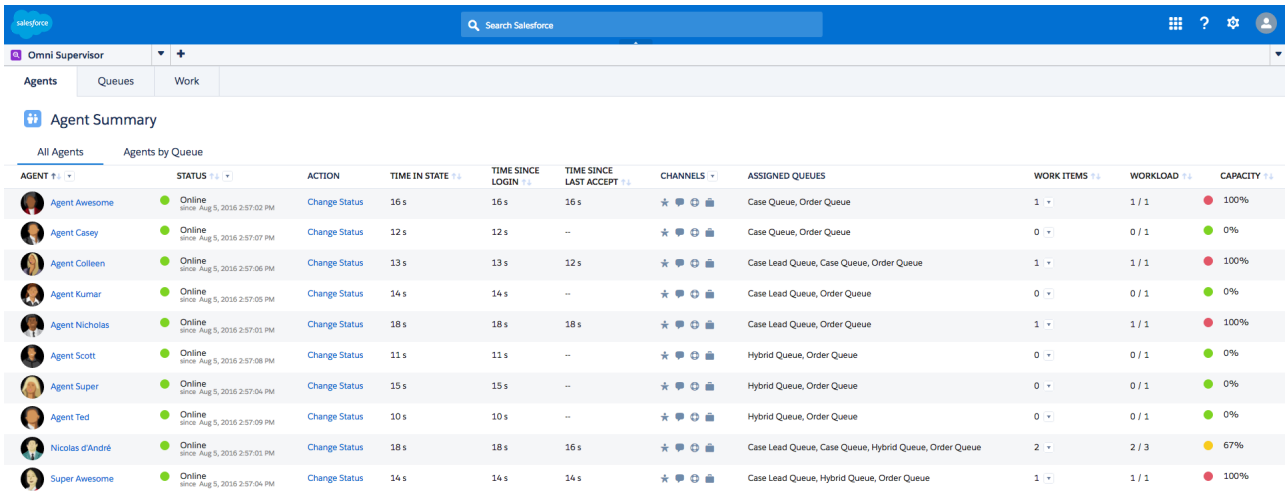
エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition



関連トピック:

- Omni-Channel Supervisor: スーパーバイザにリアルタイムのインサイトを提供 (ベータ)

オムニチャネル設定に移動した多くのチャット設定

Live Agent とオムニチャネルを併用する場合、一部のチャット設定はオムニチャネル設定で行われます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

- 受け入れと拒否は、[プレゼンス設定] で設定されます。
- 転送タイムアウトは、[ルーティング設定] で設定されます。
- エージェント業務量は、オムニチャネルで設定および消費されます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

Live Agent チャットのオムニチャネルルーティングの制限

Live Agent チャットのオムニチャネルルーティングにはいくつかの制限があります。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

- Live Agent ルーティングを使用するボタンからオムニチャネルルーティングを使用するボタンにチャットを転送することはできません。
- オムニチャネルで転送されるチャットでエージェントへの直接転送は使用できません。
- オムニチャネルで転送されるチャットでチャット会議は使用できません。
- 複数のオブジェクト種別があるキューでチャットのオムニチャネルルーティングを使用すると、問題が発生する可能性があります。複数のオブジェクト種別を処理するようにキューを設定する代わりに、チャット、ケース、リードなどのオブジェクト種別ごとにキューを作成することをお勧めします。
- オムニチャネルで転送されるチャットでは、Omni-Channel Supervisor を使用したスーパーバイザ示唆メッセージや支援フラグを使用することはできません。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

Live Chat トランスクリプト: トランスクリプトのメジャーアップグレード

オムニチャネルで転送されるチャットの場合、Live Chat トランスクリプトで、チャット要求から始まるチャットライフサイクル全体をカバーできます。オムニチャネルで転送される [待機中]、[有効]、[終了済み] のチャットの Live Chat トランスクリプトページレイアウトをカスタマイズできます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Live Chat トランスクリプトの新しいページレイアウト
ペーパークリップが不要にサイドバーのルックアップコンポーネントを使用したチャットトランスクリプトへのレコードの添付

Live Chat トランスクリプトの新しいページレイアウト

オムニチャネルで転送されるチャットの場合、チャットの状態 ([待機中]、[有効]、[終了済み]) に基づいて Live Chat トランスクリプトのページレイアウトとミニページレイアウトを作成します。チャットの状態ごとにカスタムページレイアウトを作成することで、サポートスタッフはチャットの各フェーズで必要な情報を取得できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

ペーパークリップが不要にサイドバーのルックアップコンポーネントを使用したチャットトランスクリプトへのレコードの添付

オムニチャネル経由で転送されるチャットの場合、ペーパークリップを使用する代わりに、チャットトランスクリプトにレコードを添付できます。装飾的なサイドバーのルックアップコンポーネントを追加すれば、エージェントはさらに簡単にチャットトランスクリプトにレコードを添付できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

オムニチャネルで転送されるチャットのより多くのデータへのアクセス

オムニチャネル経由で転送されるチャットで、レポートにオムニチャネルデータを使用できるようになりました。オムニチャネルを使用してチャットを転送する場合、より多くのデータ (Omni-Channel Supervisor によって取得されるリアルタイムデータなど) のエージェント作業をレポートに使用できるようになりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Live Chat トランスクリプトの新しいページレイアウト

オムニチャネルで転送されるチャットの場合、チャットの状態 ([待機中]、[有効]、[終了済み]) に基づいて Live Chat トランスクリプトのページレイアウトとミニページレイアウトを作成します。チャットの状態ごとにカスタムページレイアウトを作成することで、サポートスタッフはチャットの各フェーズで必要な情報を取得できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

[待機中]のチャットは、エージェントが受け入れるのを待機しているチャット要求です。[有効] のチャットは、エージェントと進行中のチャットです。[終了済み] のチャットは、終了したチャットです。

Live Chat Transcript Page Layouts

Action	Page Layout Name
Edit | Del	Live Chat Transcript Layout

Live Chat Transcript (In Progress) Page Layouts

Action	Page Layout Name
Edit | Del	Live Chat Transcript (In Progress) Layout

Live Chat Transcript (Waiting) Page Layouts

Action	Page Layout Name
Edit | Del	Live Chat Transcript (Waiting) Layout

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

ページレイアウトに加えて、新しい各 Live Chat トランスクリプトページレイアウトのミニページレイアウトもカスタマイズできます。これにより、ページレイアウトのどのチャットの詳細を小さいフロート表示で表示するのかを制御できます。

ペーパークリップが不要に サイドバーのルックアップコンポーネントを使用したチャットトランスクリプトへのレコードの添付

オムニチャネル経由で転送されるチャットの場合、ペーパークリップを使用する代わりに、チャットトランスクリプトにレコードを添付できます。装飾的なサイドバーのルックアップコンポーネントを追加すれば、エージェントはさらに簡単にチャットトランスクリプトにレコードを添付できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

チャットの要求時にトランスクリプトを使用できるようになったため、エージェントはチャット中にレコードを直接トランスクリプトに添付できます。エージェントはトランスクリプト自体を使用できます。または、コンソールサイドバーのルックアップコンポーネントを追加して、数回のクリックで保存することもできます。このコンポーネントにより、エージェントはトランスクリプトやチャットを見失うことなく、レコードをルックアップまたは作成してチャットに添付できます。エージェントにチャットトランスクリプトの編集権限があることを確認してください。この権限がないと1つもレコードを添付できません。

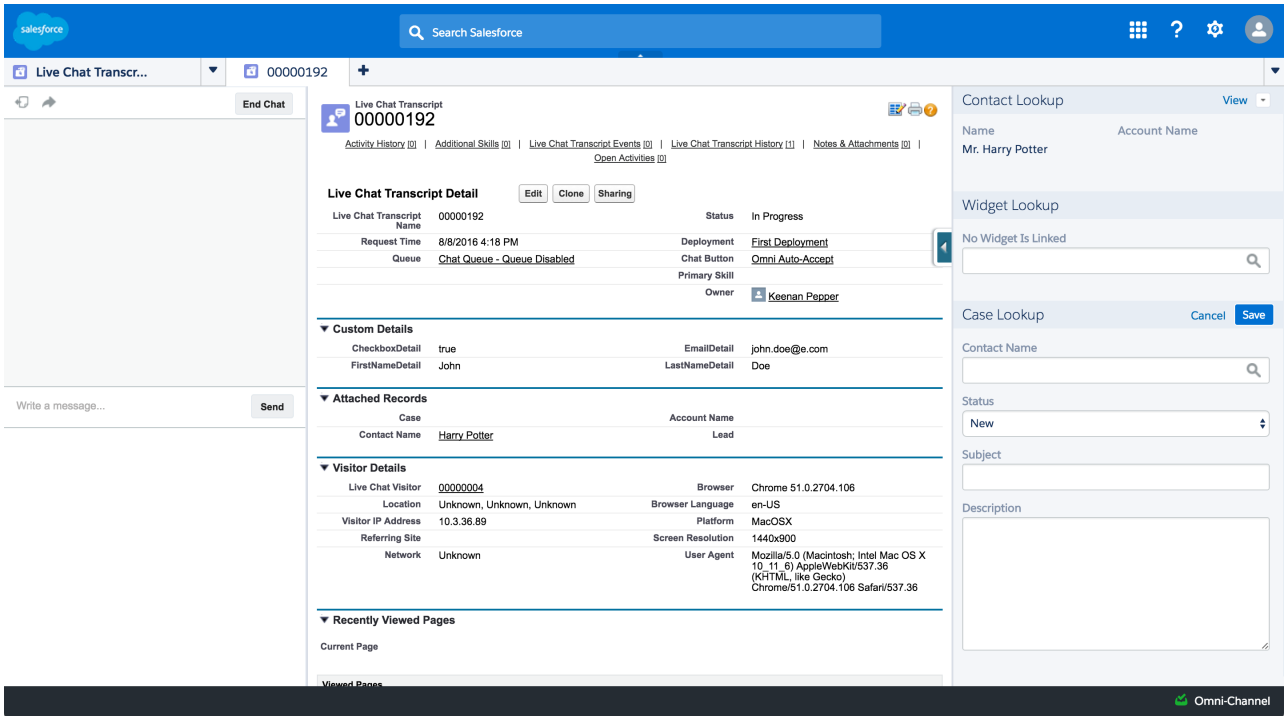
エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

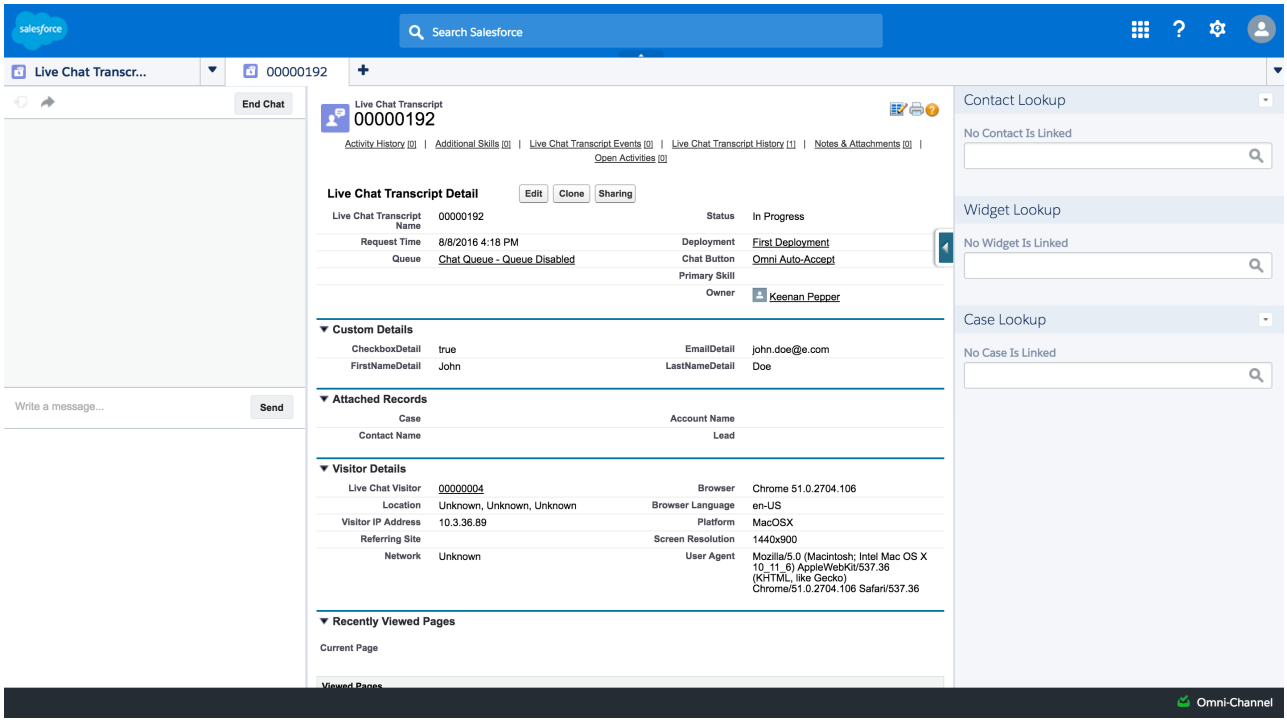
Live Agent を**使用可能な組織**: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を**使用可能なエディション**: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を**使用可能なエディション**: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition



間違ったレコードを添付しても問題ありません。エージェントは添付したレコードのリンクをサイドバーコンポーネントから直接解除できます。



オムニチャネルで転送されるチャットのより多くのデータへのアクセス

オムニチャネル経由で転送されるチャットで、レポートにオムニチャネルデータを使用できるようになりました。オムニチャネルを使用してチャットを転送する場合、より多くのデータ (Omni-Channel Supervisor によって取得されるリアルタイムデータなど) のエージェント作業をレポートに使用できるようになりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

チャットタイムアウトのカスタマイズと応答のない顧客についてのエージェントへのアラート通知

通常、弊社はお客様の重要な設定には触れませんが、エージェントとタイムアウトになった顧客との接続が突如切断されることがないようにしたいと考えています。チャットタイムアウトについてのエージェントアラートを追加する時間を確保するために、チャットのタイムアウトのデフォルト設定を増やしました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

顧客の応答遅延 (または応答なし) や顧客の接続の切断でチャットがまもなくタイムアウトするタイミングをエージェントが把握できるように、チャットタイムアウトについてのエージェントアラートが追加されました。このアラートにより、エージェントのチャットが突然終了することを回避でき、エージェントはチャットウィンドウに戻る方法を見つけるための丁寧なリマインダーを顧客に送信できます。

現在タイムアウトを使用している場合、エージェントに警告が表示されるまでのデフォルト値が 40 秒、チャットが終了するまでのデフォルト値が 110 秒になります。以前は、チャットが終了するまでのデフォルト設定が 40 秒でした。これらの新しいデフォルト値は少ないように思えますが、タイムアウトはすぐに開始されず、最大 40 秒の違いがあることに注意してください。これらの数値がチームに合っていない場合、リリース設定に移動して、最適な数値に変更してください。

エディション

使用可能なエディション: Salesforce Classic

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Performance** Edition および **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

転送方法 (Live Agent またはオムニチャネル) に関係なく、タイムアウトはすべてのチャットに適用されます。

ケースフィード: Lightning Experience でエージェントの効率が向上

ケースフィードは、ケースの作成、管理、および表示をより合理的に行う方法をサポートエージェントに提供して、コンテキスト内でケース履歴と顧客とのやりとりを表示できるようにします。Winter '17 には、Lightning Experience のメールクイックアクションへの機能強化と、ケースページに［ケース所有者］項目と取引先責任者項目を表示する機能が含まれます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

クイックアクションまたはマクロを使用したケース所有者の変更

Lightning Experience と Salesforce1 でケース所有者項目を公開したため、ケース所有者の変更が簡単になりました。これまで、エージェントはケースの詳細ページに移動して項目を変更する必要がありました。［ケース所有者］項目は、Salesforce Classic、 Lightning Experience、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンのクイックアクションで使用できるようになりました。

ケースページにすべての取引先責任者項目を表示

Lightning Experience および Salesforce1 ユーザは、取引先責任者項目がケースページレイアウトに含まれていれば、ケースページでケース取引先責任者情報を表示できます。Lightning Experience と Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで［取引先責任者 電話］、［取引先責任者 メール］、［取引先責任者 Fax］、および［取引先責任者 携帯］項目が使用できるようになりました。

ケースフィード: Lightning Experience メールへのアップグレード

ケースの［メールを送信］アクションが改善され、エージェントが Lightning Experience でメールを使用してより効率的に作業できるようになりました。

クイックアクションまたはマクロを使用したケース所有者の変更

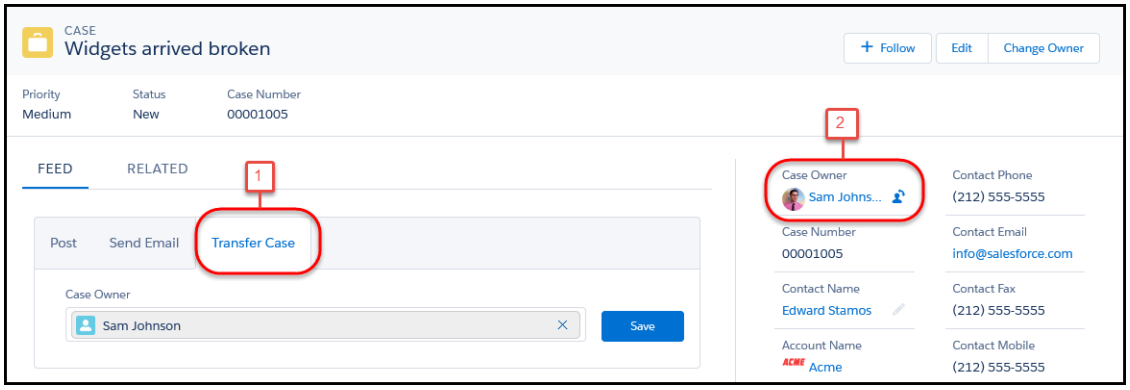
エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Lightning Experience と Salesforce1 でケース所有者項目を公開したため、ケース所有者の変更が簡単になりました。これまで、エージェントはケースの詳細ページに移動して項目を変更する必要がありました。［ケース所有者］項目は、Salesforce Classic、 Lightning Experience、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンのクイックアクションで使用できるようになりました。

たとえば、［ケース所有者］項目を更新クイックアクションに追加するか、更新クイックアクションを作成して、サポートエージェントがケースページですばやく変更できるようにします。ユーザおよびそのエージェントはマクロを作成して Salesforce Classic でケース所有者を他のユーザやキューに変更することもできます。

メモ: マクロは、Lightning Experience や Salesforce1 では使用できません。



ケース所有者を変更する方法には次の 2 つがあります。

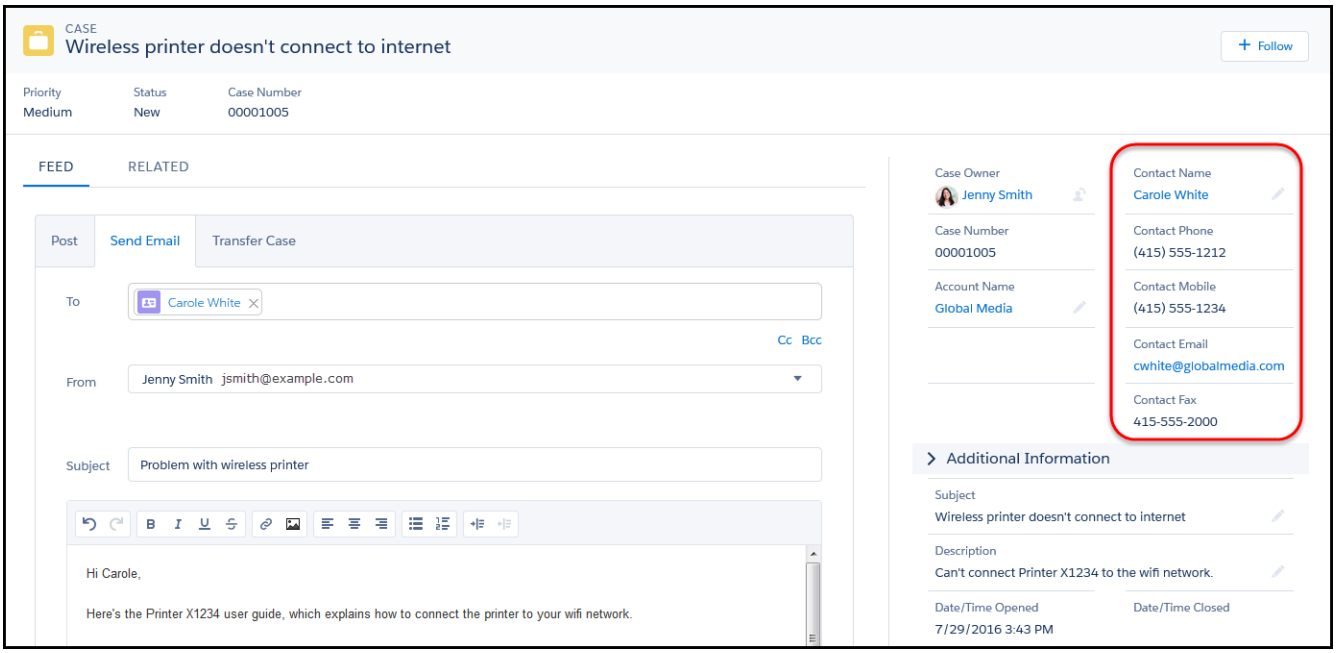
1. クイックアクションをアクションバーに追加して、エージェントがすばやく項目を変更し、ケースを転送できるようにします。
2. 項目をサイドバールックアップコンポーネントとしてコンソールに追加します。エージェントは、項目内をクリックするか、青いアイコンをクリックして、ケース所有者を変更できます。

ケースページにすべての取引先責任者項目を表示

Lightning Experience および Salesforce1 ユーザは、取引先責任者項目がケースページレイアウトに含まれていれば、ケースページでケース取引先責任者情報を表示できます。Lightning Experience と Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで［取引先責任者 電話］、［取引先責任者 メール］、［取引先責任者 Fax］、および［取引先責任者 携帯］項目が使用できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



エージェントが Lightning Experience でケース取引先責任者を変更すると、取引先責任者項目が自動的に更新され、新規取引先責任者に関連付けられた情報が表示されます。たとえば、エージェントが取引先責任者を「Carole White」から「Edward Stamos」に変更した場合、［取引先責任者 電話］項目は更新され、Edward Stamos の電話番号を表示します。

ケースフィード: Lightning Experience メールへのアップグレード

ケースの[メールを送信]アクションが改善され、エージェントがLightning Experienceでメールを使用してより効率的に作業できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Lightning Experience と Salesforce1 でのデフォルトメールテンプレートを使用した一貫性の確保
エージェントはお客様に送信するメールを一貫したデザインにして、会社のブランド力を含める必要があると感じていますか?ケースの[メールを送信]アクションを設定すると、エージェントがこのアクションを選択したときに、デフォルトメールテンプレートがすぐに読み込まれるようになります。これまで、Lightning Experience と Salesforce1 モバイルアプリケーションではデフォルトメールテンプレートがサポートされていませんでした。

Lightning Experience でケースメールの折りたたみ可能な [CC] 項目と [BCC] 項目を使用した画面の整理
[メールを送信] アクションの [CC アドレス] 項目と [BCC アドレス] 項目が空の場合、貴重な画面スペースを節約するため、デフォルトではこれらの項目が自動的に折りたたまれ、リンクとして表示されます。これらの項目に情報が入力されている場合は項目が展開され、エージェントが受信者を確認できるようになります。これらの項目は、必要に応じて常に展開されます。

エージェントがケースから送信するメールの送信元アドレスの標準化
[メールを送信]アクションで新しい[送信者]項目選択リストを使用して、一貫性を保ちます。エージェントは、選択リストにより、組織全体のメールアドレス、メール-to-ケースのメールアドレス、およびエージェント自身のメールアドレスからアドレスを選択できます。その他のメールアドレスを選択リストに追加することはできません。Winter '17 以降に作成した組織では、[送信者] 選択リストが [メールを送信] アクションにデフォルトで追加されます。組織または [メールを送信] アクションを Winter '17 以前に作成した場合は、[送信者] 選択リストを [メールを送信] アクションに手動で追加できます。

Lightning Experience でケースからメールの添付ファイルを送信
エージェントは、Lightning Experience のケースフィードでファイルをメールに添付できます。ペーパークリップアイコンをクリックして、ファイルを選択し、ファイルブラウザから添付するか、コンピュータからアップロードします。これまで、添付ファイルの送信は Lightning Experience ではサポートされていませんでした。

Lightning Experience のメールフィード項目でメールの添付ファイルを表示
エージェントは Lightning Experience のケースフィードで添付ファイルが表示できるようになりました。メールの添付ファイルはメールフィード項目にサムネイルとして表示されます。5個を超える添付ファイルがある場合は、[すべての添付ファイルを表示] リンクが表示されます。エージェントはリンクをクリックして [メールメッセージの添付ファイル] 関連リストを開き、メールに添付されたファイルをすべて表示できます。これまで、添付ファイルは Lightning Experience でサポートされていませんでした。

関連トピック:

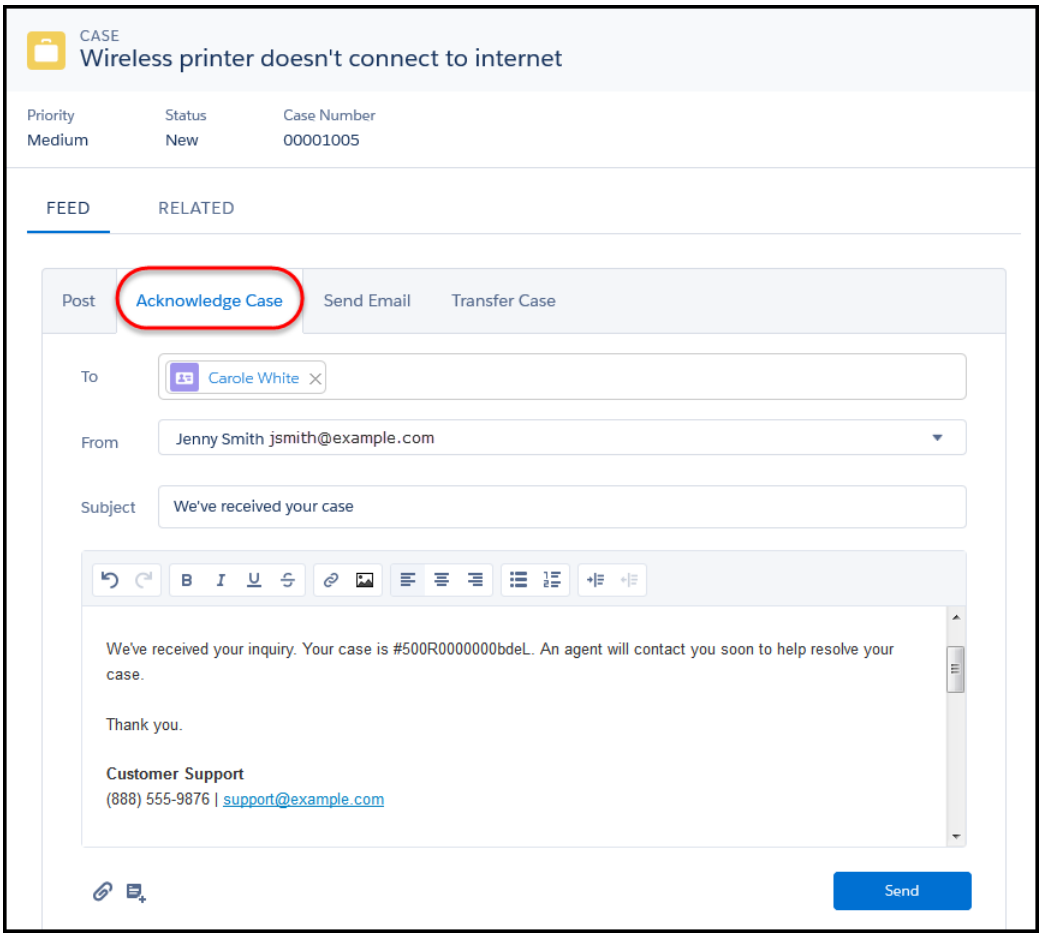
Salesforce1 のケースメールの機能強化

Lightning Experience と Salesforce1 でのデフォルトメールテンプレートを使用した一貫性の確保

エージェントはお客様に送信するメールを一貫したデザインにして、会社のブランド力を含める必要があると感じていますか? ケースの [メールを送信] アクションを設定すると、エージェントがこのアクションを選択したときに、デフォルトメールテンプレートがすぐに読み込まれるようになります。これまで、Lightning Experience と Salesforce1 モバイルアプリケーションではデフォルトメールテンプレートがサポートされていませんでした。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



たとえば、このスクリーンショットには「Acknowledge Case」(ケースの承認) というクイックアクションが表示されています。これは HTML テンプレートをメール本文に読み込む [メールを送信] アクションです。

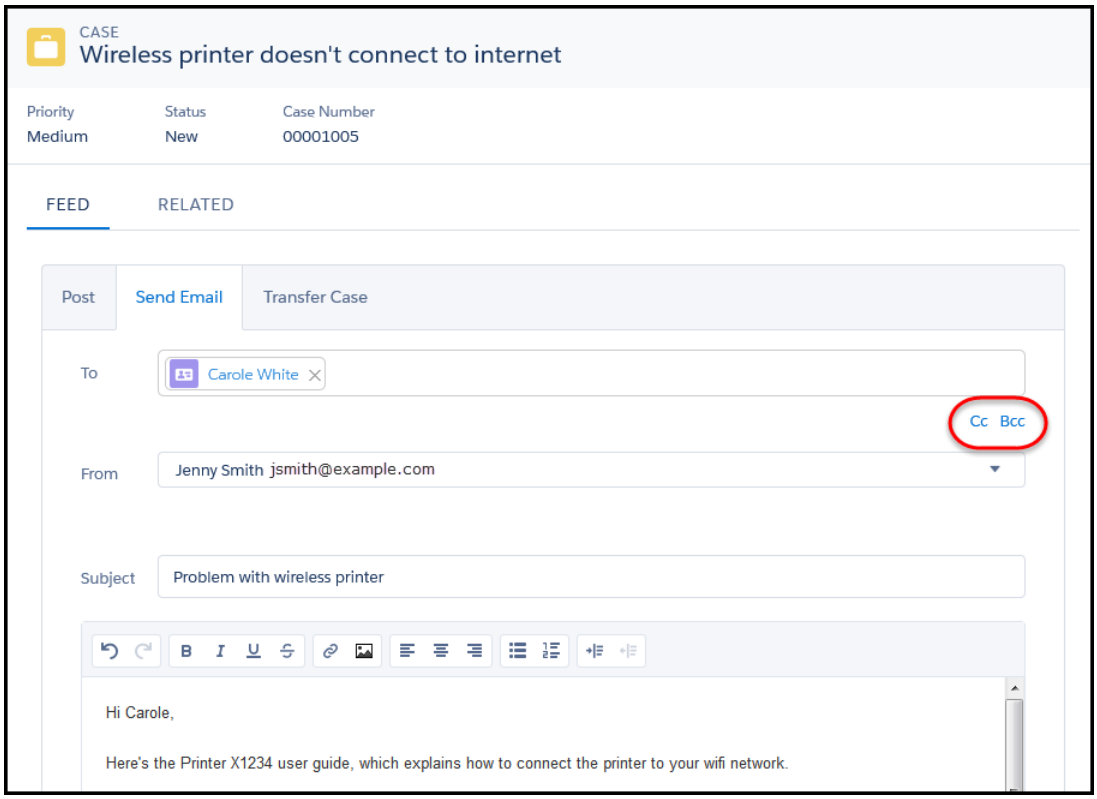
[メールを送信] アクションを作成する前に、デフォルトメールテンプレートが設定されていることを確認してください。[メールを送信] アクションに含めることができるのは、カスタムテンプレートのみです。

Lightning Experience でケースメールの折りたたみ可能な [CC] 項目と [BCC] 項目を使用した画面の整理

[メールを送信] アクションの [CC アドレス] 項目と [BCC アドレス] 項目が空の場合、貴重な画面スペースを節約するため、デフォルトではこれらの項目が自動的に折りたたまれ、リンクとして表示されます。これらの項目に情報が入力されている場合は項目が展開され、エージェントが受信者を確認できるようになります。これらの項目は、必要に応じて常に展開されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



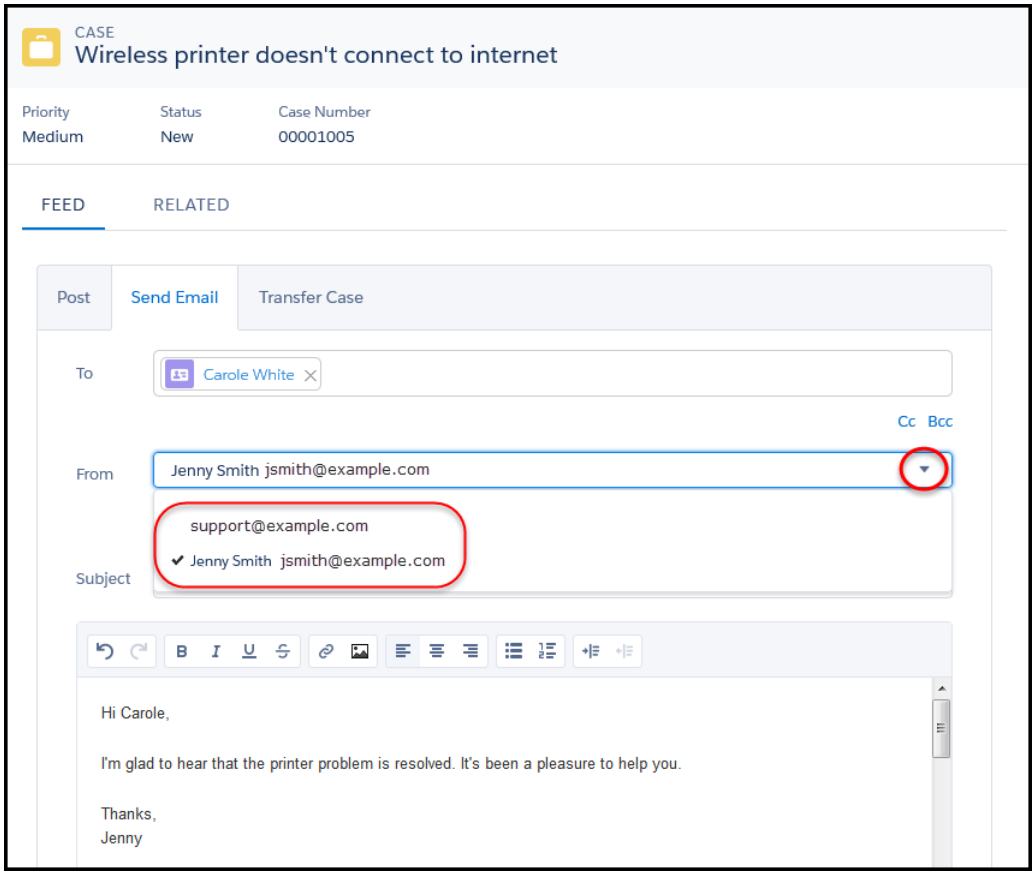
[CC] 項目と [BCC] 項目が折りたたまれるのは、[メールを送信] アクションレイアウトに［宛先アドレス］項目が含まれている場合のみです。エージェントが [CC] リンクまたは [BCC] リンクをクリックして項目を開くと、その項目は展開されたままになります。

エージェントがケースから送信するメールの送信元アドレスの標準化

[メールを送信]アクションで新しい[送信者]項目選択リストを使用して、一貫性を保ちます。エージェントは、選択リストにより、組織全体のメールアドレス、メール-to-ケースのメールアドレス、およびエージェント自身のメールアドレスからアドレスを選択できます。その他のメールアドレスを選択リストに追加することはできません。Winter'17以降に作成した組織では、[送信者]選択リストが[メールを送信]アクションにデフォルトで追加されます。組織または[メールを送信]アクションをWinter'17以前に作成した場合は、[送信者]選択リストを[メールを送信]アクションに手動で追加できます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

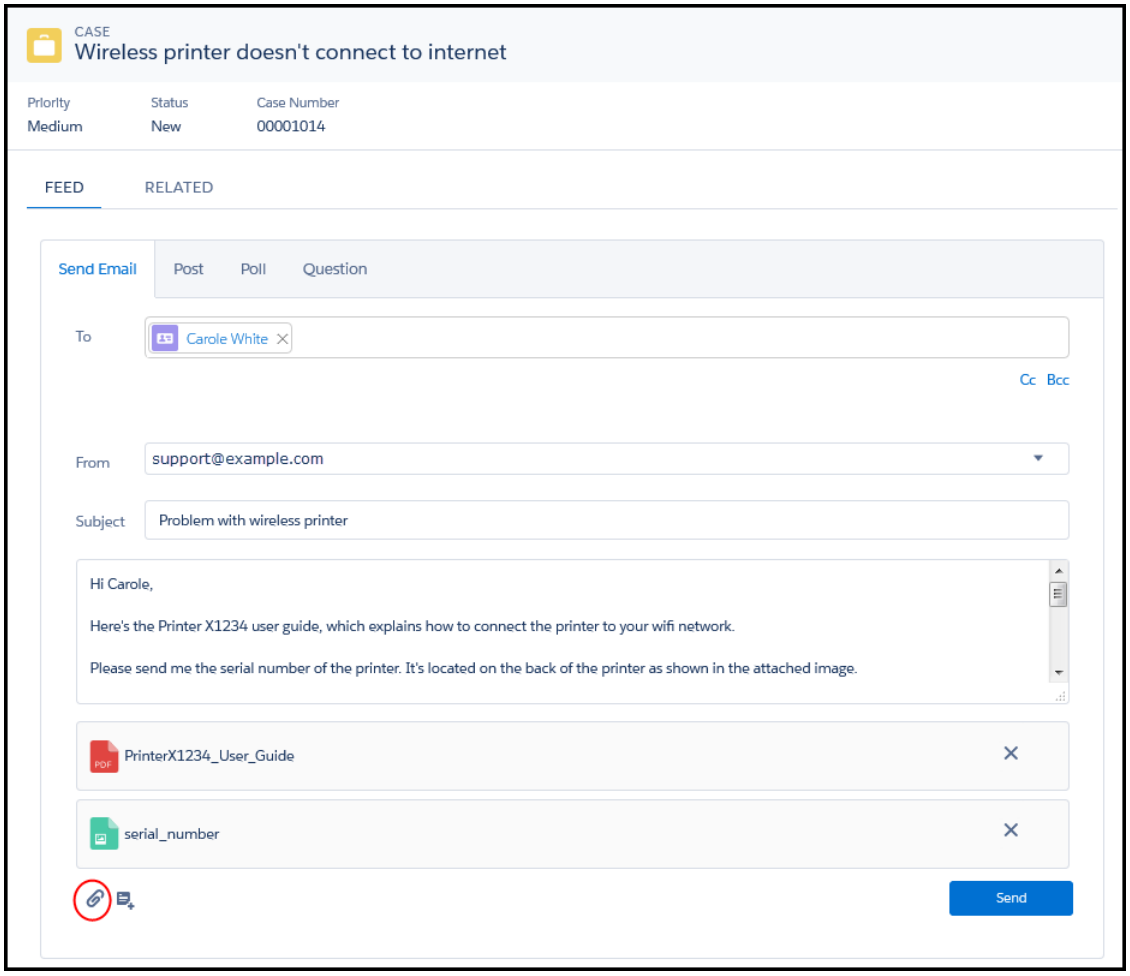


Lightning Experience でケースからメールの添付ファイルを送信

エージェントは、Lightning Experience のケースフィードでファイルをメールに添付できます。ペーパークリップアイコンをクリックして、ファイルを選択し、ファイルブラウザから添付するか、コンピュータからアップロードします。これまで、添付ファイルの送信は Lightning Experience ではサポートされていませんでした。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



関連トピック:

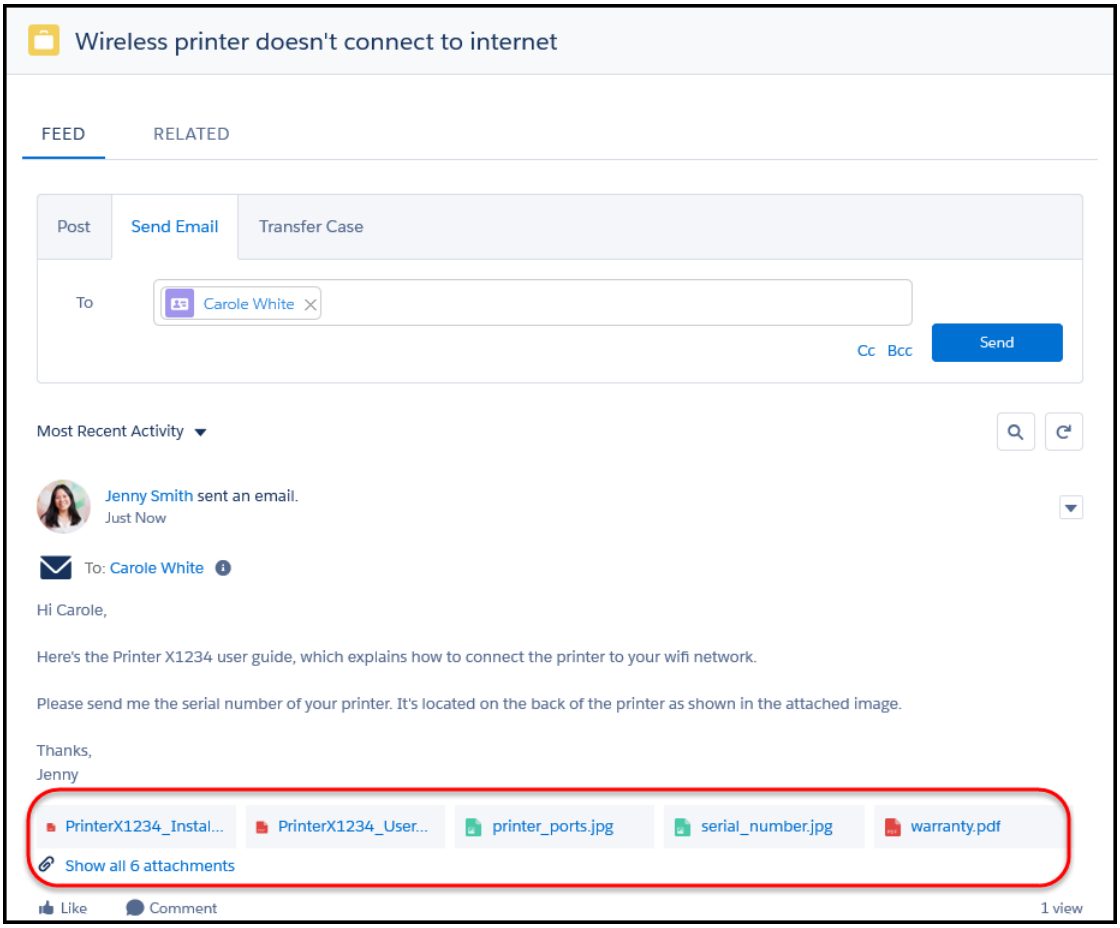
- Lightning Experience のメールフィード項目でメールの添付ファイルを表示
- Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能

Lightning Experience のメールフィード項目でメールの添付ファイルを表示

エージェントは Lightning Experience のケースフィードで添付ファイルが表示できるようになりました。メールの添付ファイルはメールフィード項目にサムネイルとして表示されます。5 個を超える添付ファイルがある場合は、[すべての添付ファイルを表示]リンクが表示されます。エージェントはリンクをクリックして [メールメッセージの添付ファイル] 関連リストを開き、メールに添付されたファイルをすべて表示できます。これまで、添付ファイルは Lightning Experience でサポートされていませんでした。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



関連トピック:

- Salesforce1 のケースメールの機能強化
- Lightning Experience でケースからメールの添付ファイルを送信

Chatter アンサー: 顧客への回答をすばやく

Chatter アンサーは、ユーザが質問を投稿して他のユーザやサポートエージェントから回答やコメントを受け取れる、セルフサービスのサポートコミュニティです。Chatter アンサーは、ケース、質問と回答、および Salesforce ナレッジの記事を一元化します。Chatter アンサーは、Winter '18 で廃止されます。

旧 Chatter アンサーは、Chatter とは関係ありません。Chatter は現在のコラボレーションソリューションであり、フィード、プロファイル、グループなどの機能が含まれています。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic

Chatter アンサーを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Developer** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Chatter アンサーは Winter '18 で廃止
Chatter アンサーの引退がいよいよ近づいてきました。差し迫った質問への回答を検索するお手伝いを長年誠実に行ってきたサービスですが、Chatter アンサーは Winter '18 をもって廃止になります。Salesforce で、Chatter アンサーはサポートされなくなり、Chatter アンサーで既存の Chatter アンサーデータについての投稿、回答、コメント、および表示はできなくなります。セルフサービスのマントを担う、準備が整った熱意ある新しいサービス、Chatter の質問へ Chatter アンサーはトーチを渡します。

Chatter アンサーは Winter '18 で廃止

Chatter アンサーの引退がいよいよ近づいてきました。差し迫った質問への回答を検索するお手伝いを長年誠実に行ってきたサービスですが、Chatter アンサーは Winter '18 をもって廃止になります。Salesforce で、Chatter アンサーはサポートされなくなり、Chatter アンサーで既存の Chatter アンサーデータについての投稿、回答、コメント、および表示はできなくなります。セルフサービスのマントを担う、準備が整った熱意ある新しいサービス、Chatter の質問へ Chatter アンサーはトーチを渡します。

詳細は、「Chatter Answers to Retire in Winter '18」を参照してください。

関連トピック:

ナレッジ記事: Chatter アンサーの廃止に関する FAQ

エンタイトルメント管理: 更新ルールの改善と制限の変更

エンタイトルメント管理を使用して、ユーザおよびサポートエージェントは顧客のサポート契約を確認および実行できます。Winter '17 では、エンタイトルメントプロセスの更新ルールが改善され、サービス契約階層の制限が変更されました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

このセクションの内容:

エンタイトルメントプロセスの更新ルールの更新
エンタイトルメントプロセスの更新ルールに追加された新しい状況により、レコードの更新が失敗したかどうかを把握できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。
サービス契約階層の制限の更新
サービス契約階層に最大 10,000 レコードを設定できるようになり、階層の深度や幅に対する制限がなくなりました。これまで、サービス契約には最大 2,000 の子サービス契約、サービス契約の階層には最大 50 レベルを設定できました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

エンタイトルメントプロセスの更新ルールの更新

エンタイトルメントプロセスの更新ルールに追加された新しい状況により、レコードの更新が失敗したかどうかを把握できます。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

新しいバージョンのエンタイトルメントプロセスを作成するとき、*更新ルール*を設定して、エンタイトルメントプロセスを使用していたすべてのエンタイトルメントプロセス、作業指示、およびケースを新しいバージョンに切り替えることができます。更新ルールは、エンタイトルメントプロセスの詳細ページで設定されます。

これまで、この更新プロセス中にエラーが発生したレコードがあると、更新ルールはキャンセルされ、どのレコードも更新されませんでした。Winter'17以降、エラーのないレコードはすべて更新されます。更新ルールを実行し、エラーのため更新できないレコードが1件以上ある場合、更新ルールが［完了しましたが、例外があります］状況を表示するようになりました。更新されなかったレコードとその理由を調べるには、Salesforceサポートにお問い合わせください。［完了］状況はこれまでと同様、すべてのレコードが正常に更新されたことを意味します。

メモ: 更新エラーは、複数の問題によって発生する可能性があります。

サービス契約階層の制限の更新

サービス契約階層に最大10,000レコードを設定できるようになり、階層の深度や幅に対する制限がなくなりました。これまで、サービス契約には最大2,000の子サービス契約、サービス契約の階層には最大50レベルを設定できました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

同様に、契約品目階層に最大10,000レコードを設定できるようになりました。

納入商品: 階層の制限の更新

納入商品を使用すると、顧客が購入した商品を追跡できます。Winter '17では、納入商品階層の制限が変更されました。この機能は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicの両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

納入商品階層の制限の更新
納入商品階層に最大10,000レコードを設定でき、階層の深さと幅に制限がなくなりました。これまで、納入商品には最大2,000の子納入商品、納入商品の階層には最大50レベルを設定できました。この機能は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicの両方で使用できます。

納入商品階層の制限の更新

納入商品階層に最大10,000レコードを設定でき、階層の深さと幅に制限がなくなりました。これまで、納入商品には最大2,000の子納入商品、納入商品の階層には最大50レベルを設定できました。この機能は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicの両方で使用できます。

Snap-Ins: Service Cloud コンポーネントの機能の Web サイトへの組み込み

チャットのような Service Cloud のすばらしい機能を Web サイトまたはモバイルアプリケーションに直接追加できたらよいのに、と思ったことはありませんか? Snap-Ins では、Service Cloud コンポーネントを Web ページに埋め込んで、コンテキストに応じたサポートを提供できます。

エディション

スナップイン設定ノードを使用可能なエディション: Lightning Experience

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

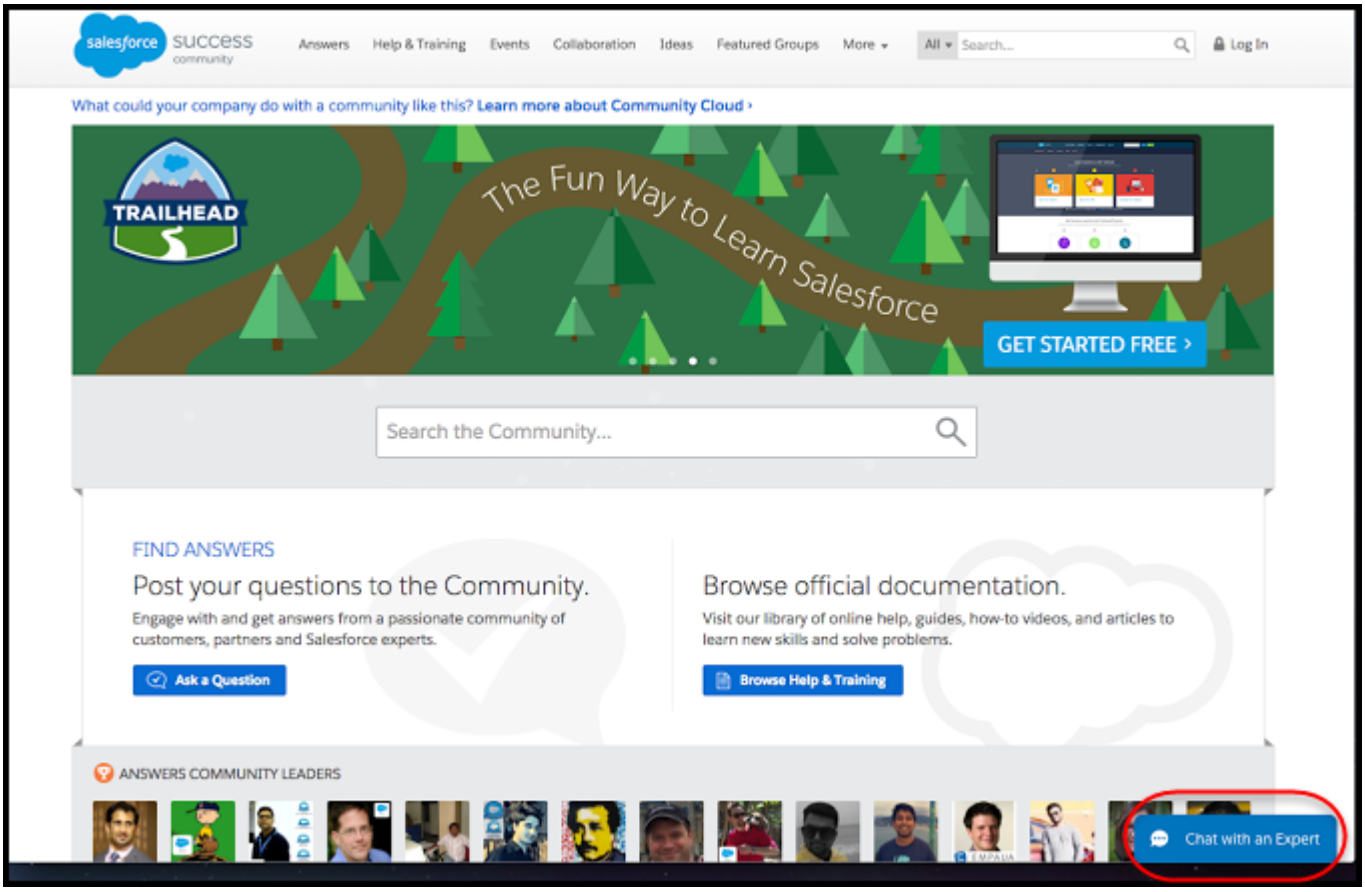
このセクションの内容:

スナップインチャットを使用した Web サイトからのお客様へのサポート (ベータ)
スナップインチャットウィジェットを Web サイトに追加すると、サイトの閲覧中にエージェントとのチャットによって疑問をすばやく解決できます。スナップインチャットでは Live Agent が使用されますが、設定は簡単です。スナップインチャットの設定ノードは Lightning Experience のみで使用できます。

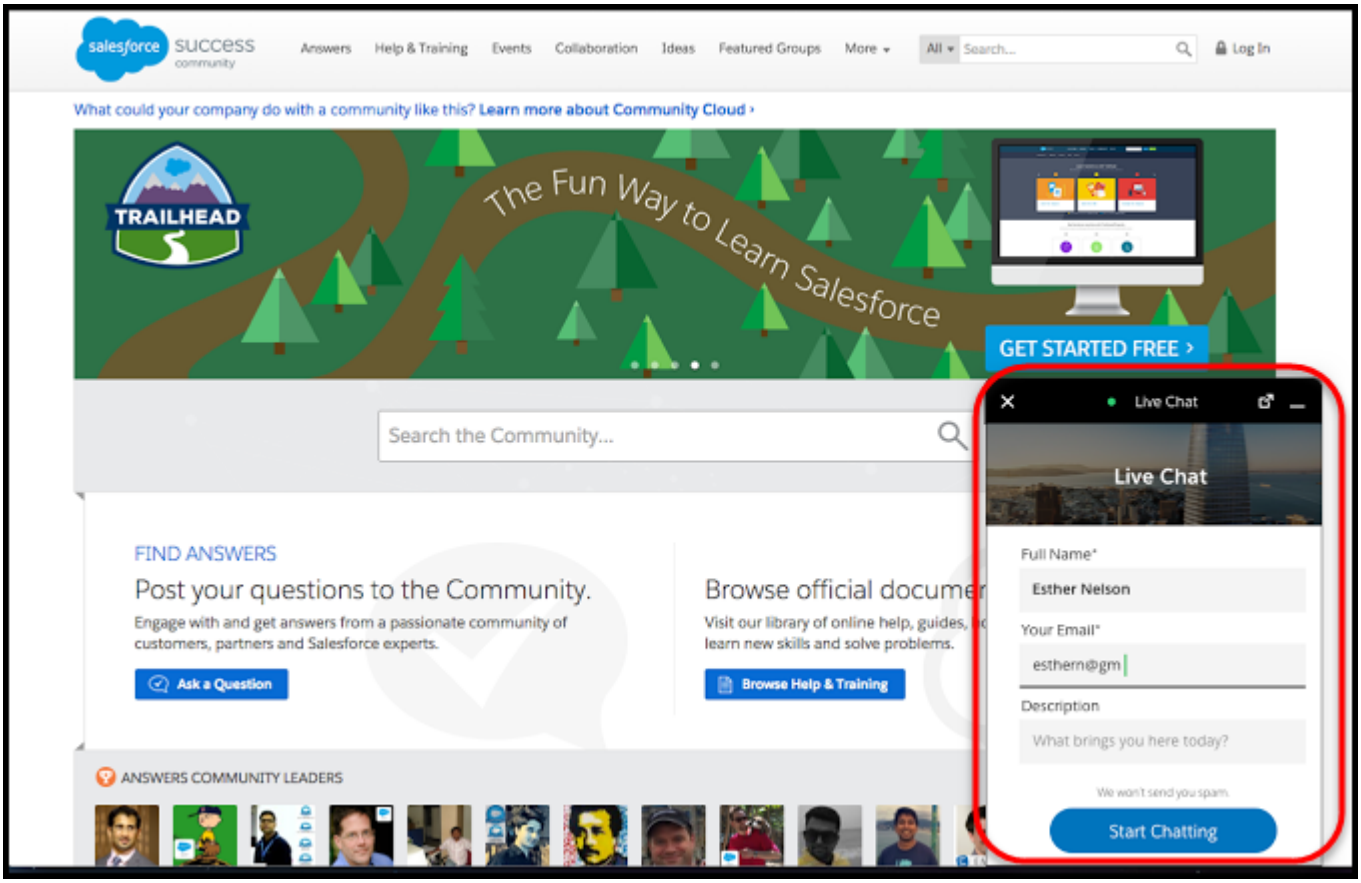
スナップインチャットを使用した Web サイトからのお客様へのサポート (ベータ)

スナップインチャットウィジェットを Web サイトに追加すると、サイトの閲覧中にエージェントとのチャットによって疑問をすばやく解決できます。スナップインチャットでは Live Agent が使用されますが、設定は簡単です。スナップインチャットの設定ノードは Lightning Experience のみで使用できます。

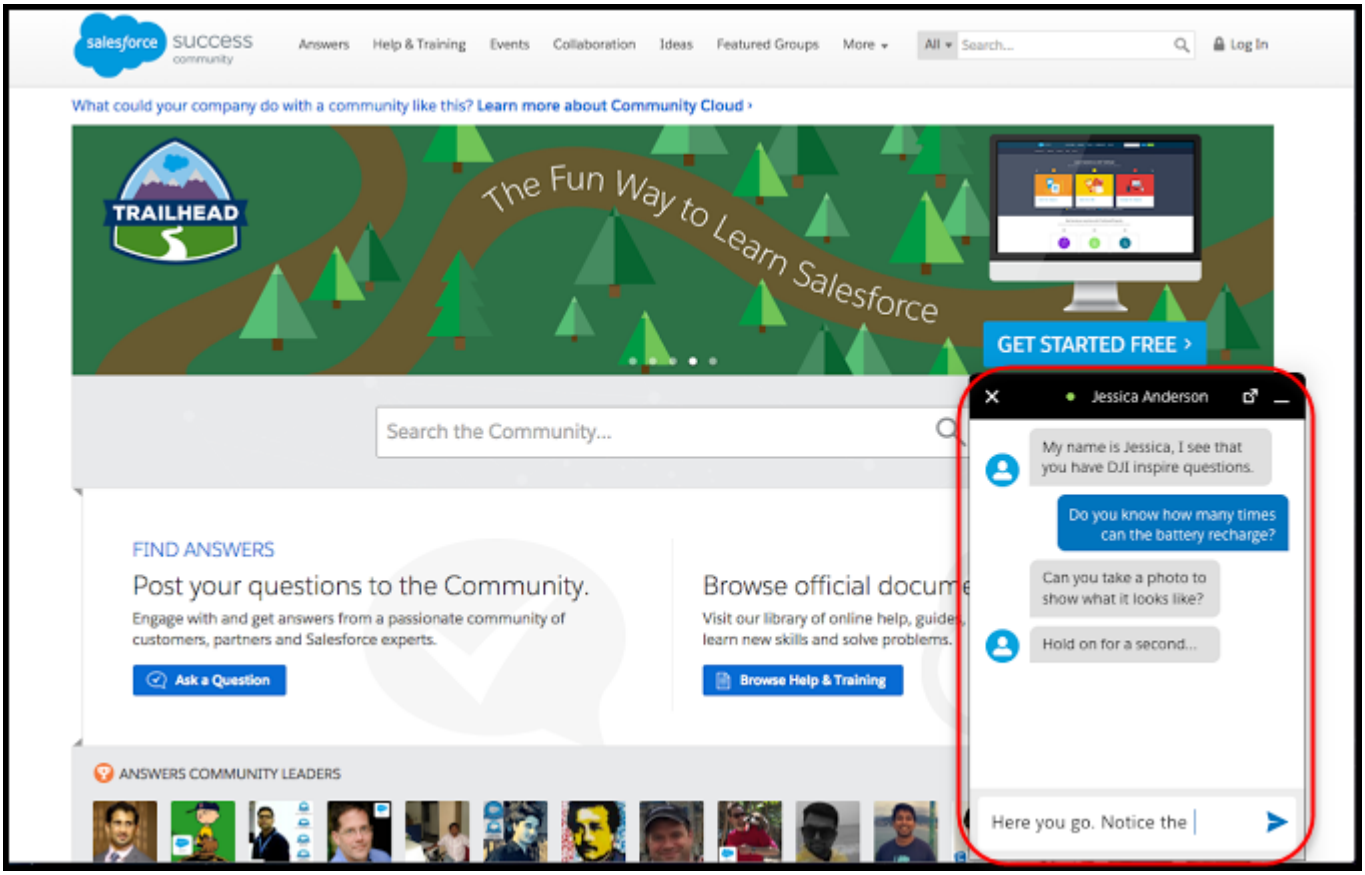
チャットウィジェットボタンは、Web ページの邪魔にならない場所にあります。ボタンをクリックするだけでチャットが起動されます。



お客様はチャット前フォームに必要事項を記入します。これによってエージェントは、お客様の連絡先情報やニーズなどの基本情報を収集します。



お客様は Web ページを表示しながらチャットを行い、閲覧中はチャットウィンドウを最小化できるため、邪魔になることはありません。チャットウィジェットは Web ページ全体で保持されるため、お客様はエージェントとのチャットを続けながら、サイトの別のページを引き続き閲覧できます。



スナップインチャットでは、すばやく設定できる軽量の Live Agent リリースが使用されます。チャットウィジェットを使用する Web ページにチャットコードを追加します。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの Snap-ins が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Snap-ins は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Snap-ins に関するフィードバックや提案は、Snap-ins の Success コミュニティグループに投稿してください。

Service Cloud Lightning Snap-ins SDK: iOS 版の正式リリース

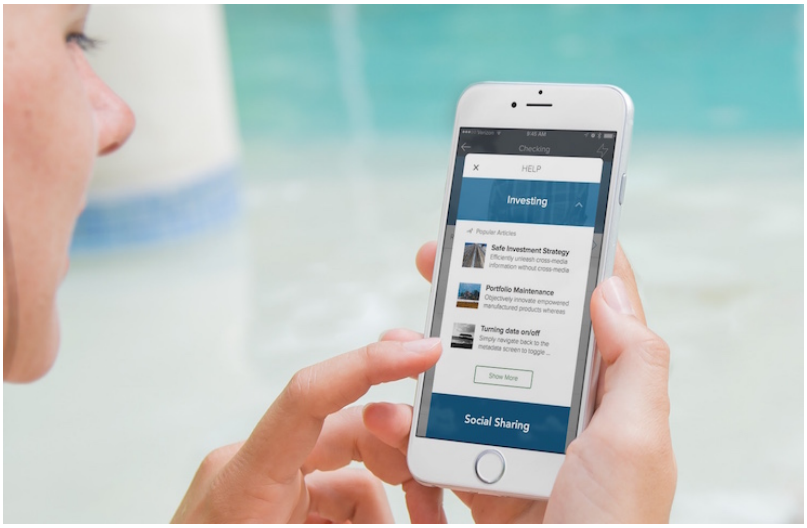
新機能の Service Cloud Lightning Snap-ins SDK を使用して、Service Cloud の機能をネイティブ iOS アプリケーションにすばやく組み込みます。

Service Cloud Lightning Snap-ins for iOS の最新リリースでは、ナレッジ、ケース管理、Live Agent チャット、SOS などの機能をネイティブモバイルアプリケーションに組み込むことができます。アプリケーションユーザに、知識ベースのようなセルフサービスツールを提供します。これにより、アプリケーションユーザがケースの作成と管理を行えるようになります。また、Live Agent チャットを使用して、エージェントとリアルタイムでチャットできるようになります。SOS を使用し

エディション

有料オプションで SOS を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

て、エージェントと画面を共有したり双方向ビデオ通信を行ったりすることもできます。このSDKを使用すれば、数週間ではなく数時間で稼働できます。



ダウンロードの方法とドキュメントは、Service SDK のページを参照してください。

コミュニティ: コミュニティの Field Service、Lightning Bolt、コメントのモデレーションなど

コミュニティの操作性がアップグレードされ、従来よりも堅牢、柔軟、拡張可能になりました。コミュニティのフィールドサービスでは、顧客がコミュニティ内から簡単に予定をスケジュールできます。Lightning Bolt を使用すると、コンサルティングパートナーとISVはすばやくカスタムテンプレートおよびページをエクスポートし、顧客に配信できます。コメントのモデレーションでは、コミュニティマネージャがフィード全体を制御できます。その他多くの時間を節約できる機能があります。詳しく見てみましょう。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

メモ: Lightning Experience ではグローバルヘッダーがサポートされないため、組織の内部ユーザは Lightning Experience から Salesforce 組織とコミュニティを切り替えることができません。

このセクションの内容:

アクセス権チェック違反のコミュニティへの適用

コミュニティで使用されるカスタムコンポーネントなどの Lightning リソースに対するアクセス権チェックの適用は 2016 年の 10 月 15 日から 19 日の期間中に実行されます。アクセス権チェックの適用は、Summer '16 の重要な更新でした。Lightning リソースのアクセス権チェックの適用改善により、コンポーネント作成者は、コンポーネントの使用方法をより詳細に制御できます。

コミュニティの LockerService の重要な更新は延期

LockerService は、Lightning コンポーネントの新しい強力なセキュリティアーキテクチャで、Summer '16 のコミュニティの重要な更新でした。この重要な更新は、Winter '17 で自動的に有効化される予定でしたが、この自動有効化日付が Spring '17 まで延期されました。

コミュニティビルダー: すべてが柔軟でカスタマイズおよび再利用可能

コンサルティングパートナーと ISV は、このリリースでカスタムテーマレイアウトおよびパッケージ化できるテンプレートとページを使用できるようになりました。また、コミュニティビルダーが改善され、作業範囲がさらに拡大された柔軟なワークスペースも使用できます。それだけではありません。コミュニティから直接 AppExchange のカスタム Lightning コンポーネントにアクセスできるようになりました。

コミュニティテンプレート: 新規コンポーネント、新規トピック機能など

このリリースでは多数の変更が加えられ、テンプレート主導のコミュニティの操作性がさらに向上しました。カスタマーサービス (Napili) テンプレートコミュニティにフィールドサービスオブジェクトが追加されました。コミュニティの作成には、新しい改善されたコミュニティ作成ウィザードを使用します。トピックメール通知により、常に最新のトピック活動を把握できます。他にもさまざまな機能が追加および改善されています。

コミュニティテンプレートの Chatter およびファイル: コメントと回答の表現性およびモバイルの操作性が向上

リッチコンテンツエディタでコメントと回答の書式を設定し、インライン画像を追加します。モバイルの操作性の向上により、外出先でより多くの操作を実行できます。さらに、トピックフィードおよびファイルリストコンポーネントにより、効率的に作業できます。

コミュニティ管理: モデレーションがすべて

前回のリリースで、コミュニティ管理の楽しさを思い起こさせるツールが追加されました。今回のリリースでは、コミュニティ活動の迅速な対応と追跡がより簡単になりました。コメントの事前モデレーションにより、コミュニティマネージャはコミュニティでの悪意のあるコメントを防ぐことができます。新しいコミュニティモデレーションの概要ページでは、待機中の項目とメンバー活動を一目で追跡できます。また、モデレーションの機能強化により、スパム投稿と不適切な投稿のフラグ設定を区別できます。それだけではありません。その他の機能についても説明します。

検索ダッシュボードによるコミュニティの検索品質の向上

カスタマーコミュニティにアクセスし、特定のトピックを探したのに見つからず、質問からの回答を得るためにサポートにケースを登録しなければならなかったという経験は誰にでもあるでしょう。これは非常にストレスが溜まりますね。今回のリリースでは、コミュニティの検索品質を向上させることによって、お客様がこのストレスの溜まる作業を回避できるようになりました。検索ダッシュボードを使用すると、コミュニティで実行される検索に基づいて特定の総計値を設定できます。ユーザの種別によって、結果を絞り込むこともできます。検索を実行していたユーザがログインメンバーか、それとも単にコミュニティを閲覧しているゲストユーザかなどです。あるいは、メンバーが用語を検索するためにオートコンプリートをどの程度の頻度で使用したかによって絞り込むこともできます。

コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

アクセス権チェック違反のコミュニティへの適用

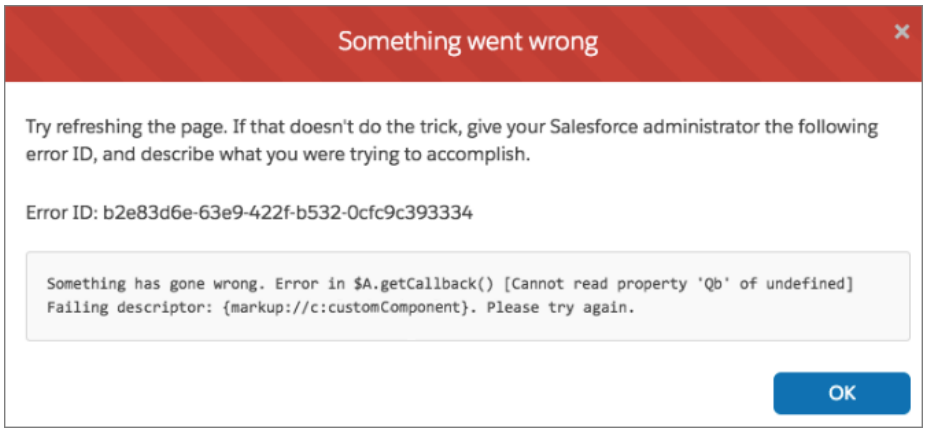
コミュニティで使用されるカスタムコンポーネントなどのLightningリソースに対するアクセス権チェックの適用は2016年の10月15日から19日の期間中に実行されます。アクセス権チェックの適用は、Summer '16の重要な更新でした。Lightningリソースのアクセス権チェックの適用改善により、コンポーネント作成者は、コンポーネントの使用方法をより詳細に制御できます。

重要:

- コミュニティページのテスト前にデバッグモードを有効にします。
- 適用日前にコミュニティをテストするには、[Lightningコンポーネントのアクセス権チェックを適用]の重要な更新を有効にします。

コミュニティビルダーに表示されるエラー

アクセス権チェックエラーがあるカスタムLightningコンポーネントが含まれるページをコミュニティビルダーで開くと、エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは、コンポーネントおよびエラーのトリガ場所(JavaScript関数内のアクションのコールバックなど)によって異なります。



公開コミュニティに表示されるエラー

アクセス権チェックエラーがあるカスタムLightningコンポーネントが含まれる公開ページを表示すると、次の内容が表示されます。

- コンポーネントが正しく表示されない、または機能しない場合があります。
- ブラウザの開発者ツールが開いている場合は、コンソールにコンポーネントのアクセス権チェックエラーが出力されます。

アクセス権チェックエラーの修正方法

アクセス権チェック違反についての詳細、およびその原因であるエラーの修正方法は、「アクセス権チェック違反の適用」を参照してください。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: アクセスの制御

Lightning コンポーネント開発者ガイド: Lightning コンポーネントのデバッグモードの有効化

コミュニティの LockerService の重要な更新は延期

LockerService は、Lightning コンポーネントの新しい強力なセキュリティアーキテクチャで、Summer '16 のコミュニティの重要な更新でした。この重要な更新は、Winter '17 で自動的に有効化される予定でしたが、この自動有効化日付が Spring '17 まで延期されました。

関連トピック:

Summer '16 リリースノート: コミュニティの LockerService を使用したセキュリティの強化 (重要な更新)

重要な更新: LockerService の変更、Visualforce ページへのクリックジャック保護の追加

コミュニティビルダー: すべてが柔軟でカスタマイズおよび再利用可能

コンサルティングパートナーと ISV は、このリリースでカスタムテーマレイアウトおよびパッケージ化できるテンプレートとページを使用できるようになりました。また、コミュニティビルダーが改善され、作業範囲がさらに拡大された柔軟なワークスペースも使用できます。それだけではありません。コミュニティから直接 AppExchange のカスタム Lightning コンポーネントにアクセスできるようになりました。

このセクションの内容:

Lightning Bolt ソリューション: 作成は一度だけ、配布と利用は何度でも

Lightning Bolt により、簡単に業界固有のソリューションを作成してエクスポートし、それらを使用して新しいコミュニティを活性化したり、他のユーザが使用できるようにパッケージ化および配布したりできます。一度作成すれば何度も利用できるため、時間を節約できます。独自の組織用であるか、コンサルティングパートナーや ISV として作成するかに関わらず、コミュニティの作成に必要な時間が短縮され、開発コストが削減されます。コストが下がれば全員が幸せです。

カスタムテーマレイアウトを使用した迅速なブランド変更

カスタムテーマレイアウトを作成すると、コミュニティ全体のデザインをすぐに更新できます。会社のスタイルに合わせてヘッダーとフッターをカスタマイズし、カスタム検索バーとユーザプロファイルメニューを作成します。これで、カスタムテーマレイアウト、検索、およびユーザプロファイルメニュー間を簡単に切り替えたり、それらをパッケージ化して他の組織と共有したりできます。コンサルティングパートナーであるか ISV であるか、または単に独自のコミュニティを改良するかに関わらず、カスタムテーマレイアウトで簡単にブランドを変更できます。

コミュニティビルダーの合理化によりワークスペースの領域が拡大

コミュニティビルダーのツールバーが再設計されて 1 つの統合バーが作成され、プロパティエディタでのページの作業領域が拡大されました。領域の拡大によって、2 列のレイアウトが適切に表示されます。

コミュニティビルダーで AppExchange から Lightning コンポーネントを追加

統合された AppExchange 環境では、コミュニティビルダーから直接 AppExchange でカスタム Lightning コンポーネントを簡単に検索し、組織に追加できます。

Google Analytics を使用した追跡、学習、および調整

コミュニティビルダーに Google Analytics トラッキング ID を追加し、ページのトラッキングを有効にします。結果のデータを使用して、顧客がどこにいるか、何を検索しているか、何をクリックしたか、どこでコミュニティから抜けたかを把握できます。その後、より正確に顧客にリーチするようにコミュニティのページを調整します。

コミュニティ内の各ページの公開アクセスの制御

コミュニティページに対するページ固有のアクセス権を設定します。これにより、必要に応じてアクセスを制限または解放できます。

SEO の機能強化による検索エンジンランキングの改善

コミュニティの SEO ランキングを改善するため、非正規 URL が 301 リダイレクトを使用して正規 URL にリダイレクトされるようになりました。正規 URL では、コンテンツはすべて同じだが URL が若干異なる Web サイトについて、同一の Web サイトであるとして検索エンジンに認識させます。301 リダイレクトは URL が恒久的に移動されたことを示し、SEO 対策になります。

ページレイアウトがコンテンツレイアウトに名前変更

カスタムテーマレイアウトの導入に伴い、より分かりやすくするため、「ページレイアウト」は「コンテンツレイアウト」という名前に変更されました。コンテンツレイアウトでは、比率 2:1 の 2 列レイアウトなど、ページのコンテンツ領域を定義します。

グローバル Lightning コンポーネント、インターフェース、およびイベントの開発とカスタマイズ

コミュニティビルダーで作成したコミュニティを、開発者が簡単に拡張およびカスタマイズできるように、グローバル Lightning インターフェース、コンポーネント、およびイベントがいくつか新しく追加されました。カスタム検索、ナビゲーション、およびユーザプロファイルメニューを作成したり、Google Analytics でイベントを追跡したりできます。

Lightning Bolt ソリューション: 作成は一度だけ、配布と利用は何度でも

Lightning Bolt により、簡単に業界固有のソリューションを作成してエクスポートし、それらを使用して新しいコミュニティを活性化したり、他のユーザが使用できるようにパッケージ化および配布したりできます。一度作成すれば何度も利用できるため、時間を節約できます。独自の組織用であるか、コンサルティングパートナーや ISV として作成するかに関わらず、コミュニティの作成に必要な時間が短縮され、開発コストが削減されます。コストが下がれば全員が幸せです。

メモ: この機能は、Winter '16 以降のバージョンのカスタマーサービス (Napili) テンプレートを使用するコミュニティで使用できます。

例: たとえば、製造業界またはテクノロジー業界のパートナーリレーションの管理 (PRM) コミュニティの作成を専門としているとします。Lightning Bolt では、PRM に焦点を絞ったソリューションを作成してエクスポートし、簡単に顧客に配布できます。テンプレートが顧客の組織にインストールされたら、固有のニーズに合わせてさらにカスタマイズできます。独自の組織でソリューションの大部分を作成して顧客の組織に配布することで、コミュニティをあっと言う間に立ち上げることができます。

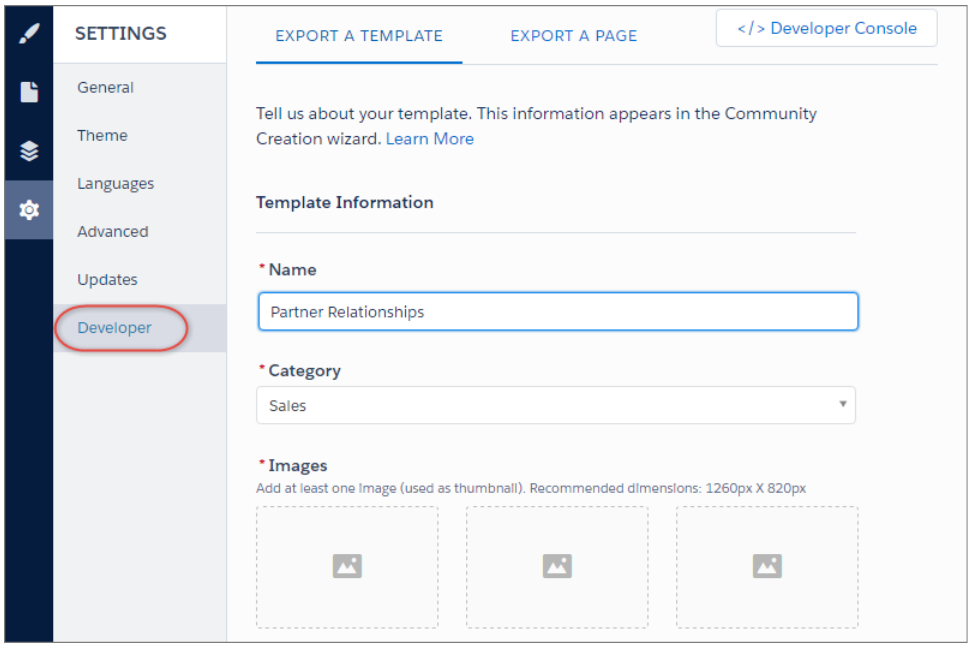
例: たとえば、ISV としてコミュニティビルダーで使用する E コマース機能を作成するため、いくつかのカスタム Lightning コンポーネントとカスタムページを作成するとします。ページとそのコンポーネントを 1 つのパッケージにすばやくバンドルし、顧客に配布できます。

Bolt ソリューションとは?

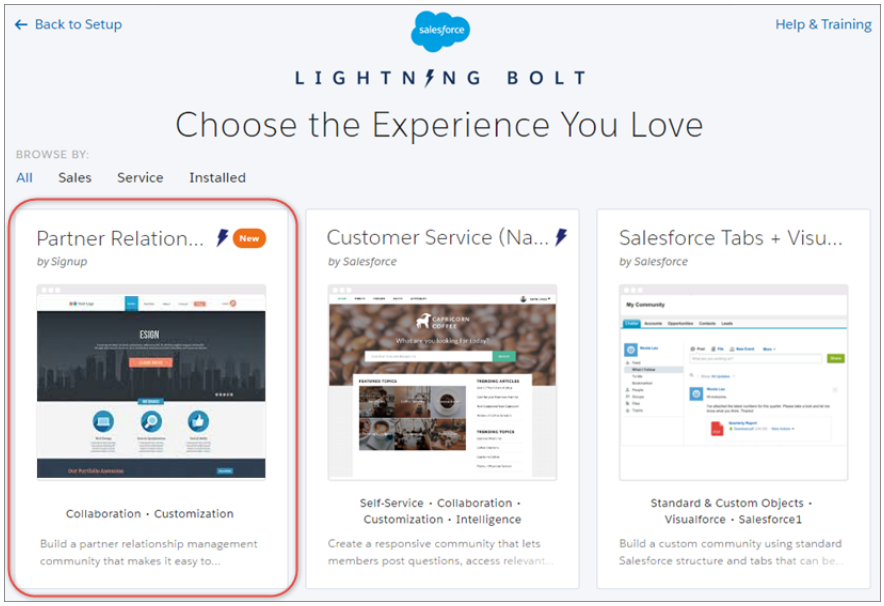
最もシンプルな状態の Lightning Bolt ソリューションは、ページ、コンテンツレイアウト、Lightning コンポーネントに加えて、テーマレイアウトと CSS で構成されるテンプレートから成ります。Bolt ソリューションは Salesforce とシームレスと統合し、ビジネスロジック、カスタムオブジェクト、業界のベストプラクティスなどを組み込まれます。

カスタマーサービス (Napili) テンプレートをベースとして使用して、標準ページとコンポーネントが含まれるカスタムテンプレートを作成するか、独自のカスタムページ、レイアウト、およびコンポーネントを作成します。テンプレートをエクスポートする準備ができたら、[設定] 領域の新しい [開発者] セクションに移動します。

少なくとも 1 つのサムネイル画像といくつかの主要なテンプレート機能と共に、テンプレートの名前とカテゴリを追加します。この情報はコミュニティ作成ウィザードに表示され、ユーザがテンプレートの目的と利点を理解するために役立ちます。



テンプレートをエクスポートすると組織のコミュニティ作成ウィザードに表示され、そこで新しいコミュニティの作成のベースとして使用できます。



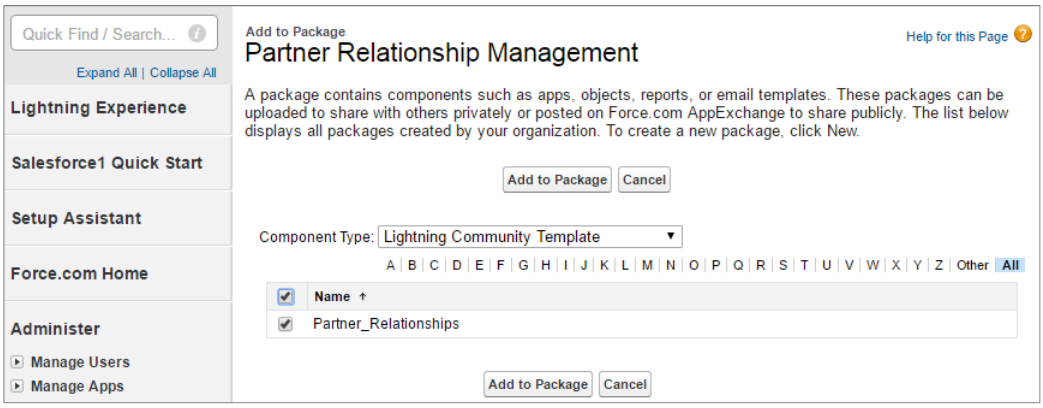
同様に、ページのコンテンツレイアウトとコンポーネントがある単一ページをエクスポートできます。ページをエクスポートすると、組織内のすべてのコミュニティの[新規ページ]ダイアログボックスに表示されます。

メモ: コミュニティビルダーのツールバーの再設計の一部として、[開発者コンソール] ボタンは [開発者] セクションに移動されました。

パッケージ化と配布について

エクスポートしたテンプレートとページを独自の組織で使用するほか、ソリューションをパッケージ化して顧客の組織に配布することもできます。管理パッケージを使用して、顧客の組織または独自の組織の他のパッケージと名前が競合しないようにすることをお勧めします。

[設定] の [パッケージ] で、コンポーネントの種類として [Lightning コミュニティテンプレート] または [Lightning ページ] を選択します。次に、パッケージをアップロードし、クライアント、顧客、またはパートナーと非公開のリンクを共有します。



別の組織にテンプレートがインストールされると、その組織のコミュニティ作成ウィザードに表示されます。インストールされたページは [新規ページ] ダイアログボックスに表示されます。

インポートおよびエクスポートしたテンプレートを管理するには、[設定] の [Lightning コミュニティテンプレート] に移動します。インポートおよびエクスポートしたページを管理するには、[Lightning コミュニティページ] に移動します。

カスタムテーマレイアウトを使用した迅速なブランド変更

カスタムテーマレイアウトを作成すると、コミュニティ全体のデザインをすぐに更新できます。会社のスタイルに合わせてヘッダーとフッターをカスタマイズし、カスタム検索バーとユーザプロファイルメニューを作成します。これで、カスタムテーマレイアウト、検索、およびユーザプロファイルメニュー間を簡単に切り替えたり、それらをパッケージ化して他の組織と共有したりできます。コンサルティングパートナーであるか ISV であるか、または単に独自のコミュニティを改良するかに関わらず、カスタムテーマレイアウトで簡単にブランドを変更できます。

メモ: この機能は、Winter '16 以降のバージョンのカスタマーサービス (Napili) テンプレートを使用するコミュニティで使用できます。

テーマレイアウトとは?

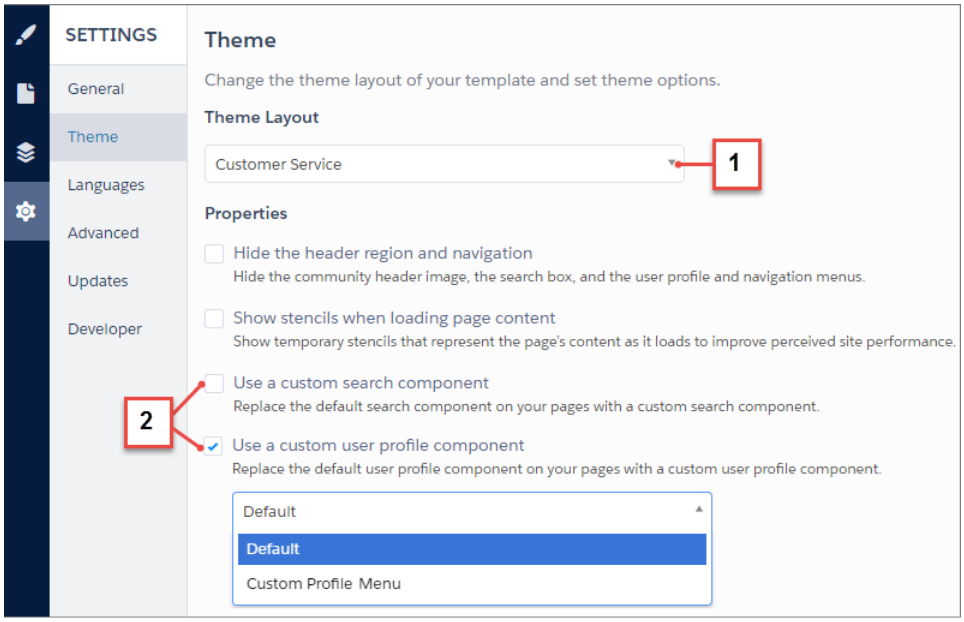
テーマレイアウトは、コミュニティのテンプレートページの最上位のテンプレート (1) です。共通のヘッダーとフッター (2) が含まれ、多くの場合、ナビゲーション、検索、およびユーザプロファイルメニューが含まれます。テーマレイアウトは、ログインページを除く、コミュニティのすべてのページに適用されます。

一方、名前が変更されたコンテンツレイアウト (3) では、2 列レイアウトなど、ページのコンテンツ領域を定義します。

テーマレイアウトのしくみ

以前は、カスタマーサービス (Napili) テンプレートの [テンプレートのヘッダー] 領域では、コンポーネントのプロパティは編集できましたが、それ以外は変更できませんでした。

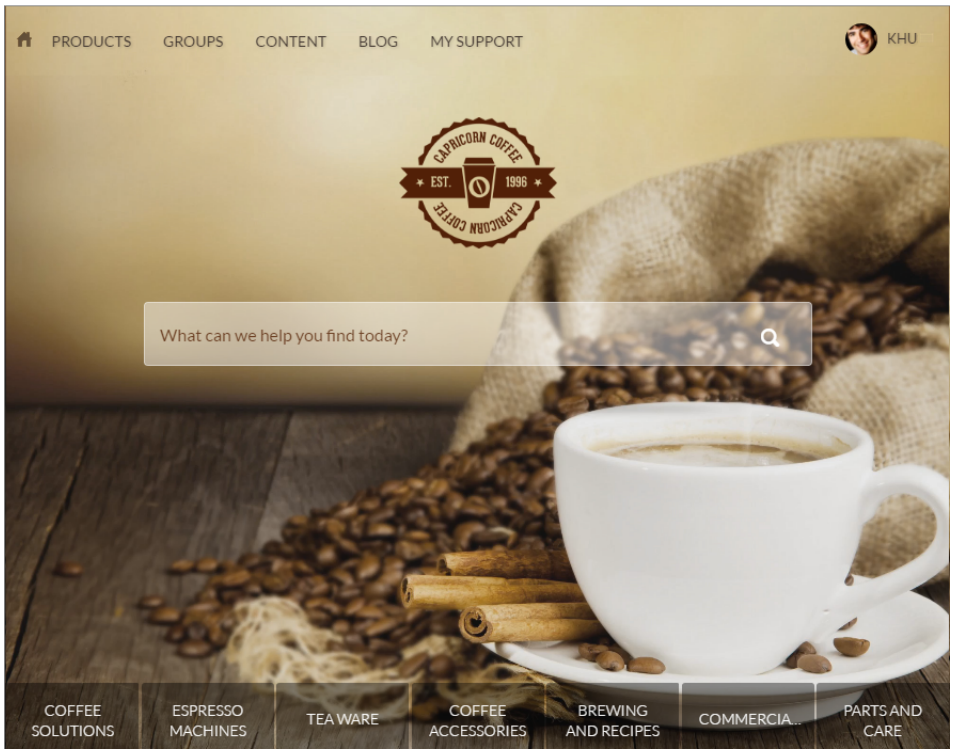
`forceCommunity:themeLayout` インターフェースを実装する開発者コンソールで、開発者はカスタムテーマレイアウトコンポーネントを作成できるようになりました。コンポーネントの準備ができたら、[設定] > [テーマ] で新しいテーマレイアウト (1) を選択するだけです。コミュニティのすべてのページがすぐに変換されます。



開発者が新しい `forceCommunity:searchInterface` を使用してカスタム検索コンポーネントを作成している場合、または新しい `forceCommunity:profileMenuInterface` を使用してカスタムユーザプロファイル

コンポーネントを作成している場合、それらを切り替えることもできます。[カスタム検索コンポーネントを使用] または [カスタムユーザプロファイルコンポーネントを使用] (2) を選択し、必要なカスタムコンポーネントを選択します。

例:



テーマレイアウトは Lightning コンポーネントであるため、標準 Salesforce コンポーネントと同じ方法で、同じツールを使用してパッケージ化できます。パッケージコンポーネントの種類として [Lightning コンポーネントバンドル] を選択し、テーマレイアウトコンポーネントとカスタム検索またはユーザプロファイルコンポーネントを追加すれば、準備完了です。

メモ: [テーマ] 領域の更新の一部として、[ページの読み込み時に読み込みインジケータを表示] オプションは、その目的を適切に反映するように [ページコンテンツの読み込み時にプレースホルダコンテンツを表示] に名前変更されました。これらの設定は、カスタマーサービス (Napili) テンプレートにのみ適用されます。

関連トピック:

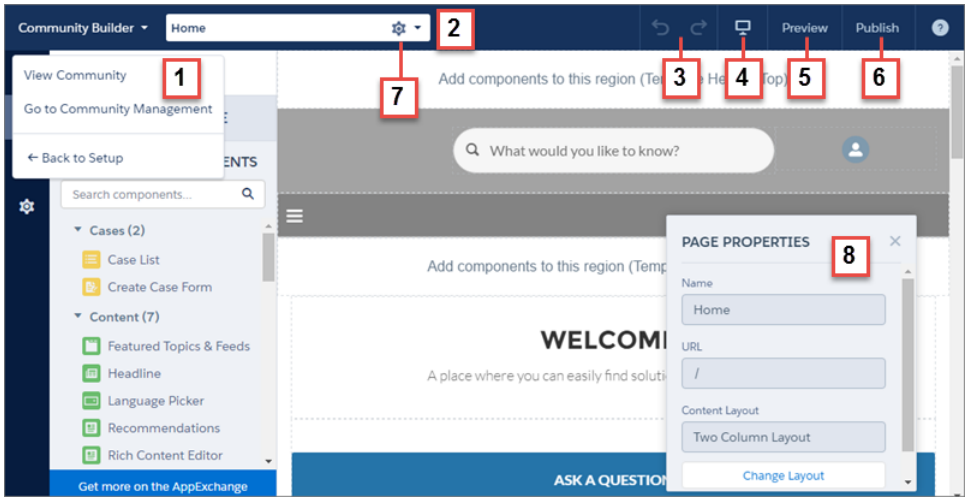
新規追加または変更された Lightning コンポーネント

Lightning コンポーネント開発者ガイド: コミュニティのカスタムテーマレイアウトコンポーネントの作成

コミュニティビルダーの合理化によりワークスペースの領域が拡大

コミュニティビルダーのツールバーが再設計されて 1 つの統合バーが作成され、プロパティエディタでのページの作業領域が拡大されました。領域の拡大によって、2 列のレイアウトが適切に表示されます。

- [コミュニティビルダー] メニュー (1) から Site.com Studio へのリンクが削除されました。この理由は、マルチ言語コミュニティを作成する場合を除き、コミュニティの設定時に Site.com Studio は不要になったためです。コミュニティに言語を追加する場合、Site.com Studio へのリンクは引き続き [設定] > [言語] で使用できるため心配いりません。
- [ページ] メニュー (2)、[元に戻す] と [やり直し] (3)、[ビューモード] (4)、[プレビュー] (5)、および [公開] (6) ボタンは、ページ上部の細いツールバーに置かれるようになりました。
- ページエディタで、[ページ] メニューの (7) をクリックすると、ページのプロパティエディタが開きます。
- 状況に応じて表示されるプロパティエディタ (8) は、編集するコンポーネントを選択した場合にのみ表示されます。プロパティエディタは、任意の場所に再配置することもできます。
- スペースを節約してコミュニティビルダーの作業に集中するため、[ユーザプロファイル] プロファイルメニューは削除されました。[開発者コンソール] リンクは、新しい [開発者] 領域にあります。[私のプロファイル] または [私の設定] にアクセスするには、[コミュニティビルダー] メニューの [設定に戻る] をクリックします。

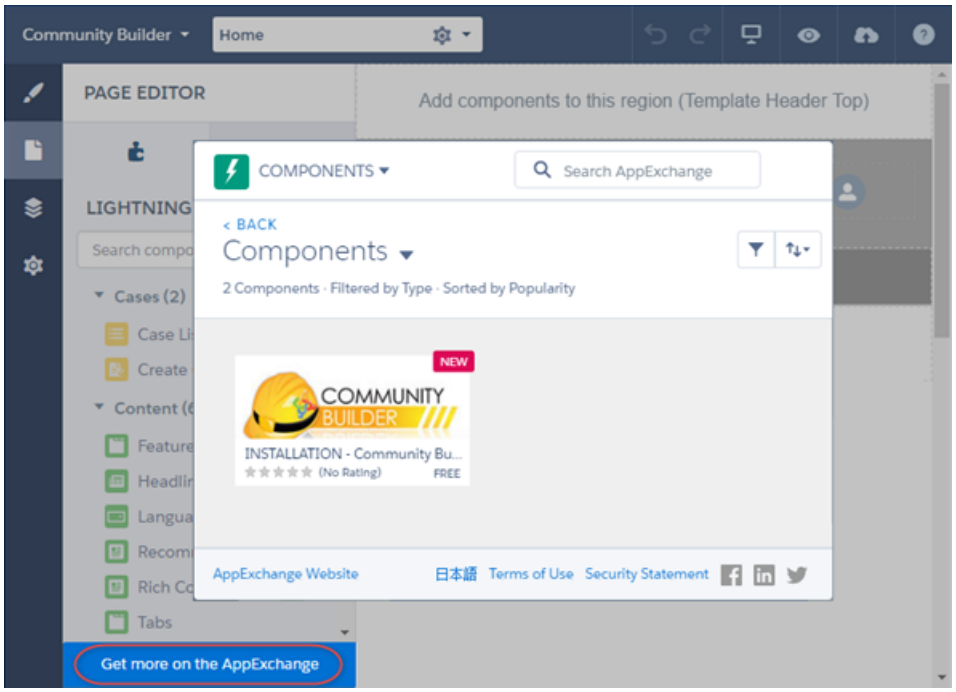


スペースが足りなくなるとツールバーはアイコンのみに切り替わるため、ウィンドウを狭くしても制御できなくなることはありません。

コミュニティビルダーで AppExchange から Lightning コンポーネントを追加

統合された AppExchange 環境では、コミュニティビルダーから直接 AppExchange でカスタム Lightning コンポーネントを簡単に検索し、組織に追加できます。

コミュニティの Lightning ページに追加できるコンポーネント一覧を参照するには、ページエディタで [AppExchange で追加コンポーネントを取得] をクリックします。コンポーネントを追加すると、組織内のそのテンプレートベースのコミュニティすべての [Lightning コンポーネント] ペインに表示されます。



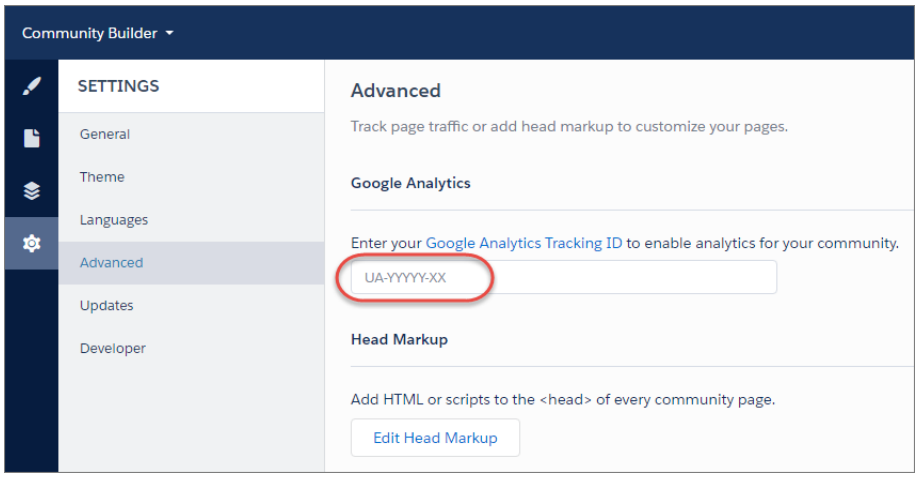
関連トピック:

AppExchange と Salesforce 組織がついに統合

Google Analytics を使用した追跡、学習、および調整

コミュニティビルダーに Google Analytics トラッキング ID を追加し、ページのトラッキングを有効にします。結果のデータを使用して、顧客がどこにいるか、何を検索しているか、何をクリックしたか、どこでコミュニティから抜けたかを把握できます。その後、より正確に顧客にリーチするようにコミュニティのページを調整します。

[設定] > [詳細] で Google Analytics ID を入力したら、コミュニティを公開してサービスを有効にします。コミュニティの分析データは Google Analytics サービスに直接ストリーミングされ、そこで確認および解釈できます。

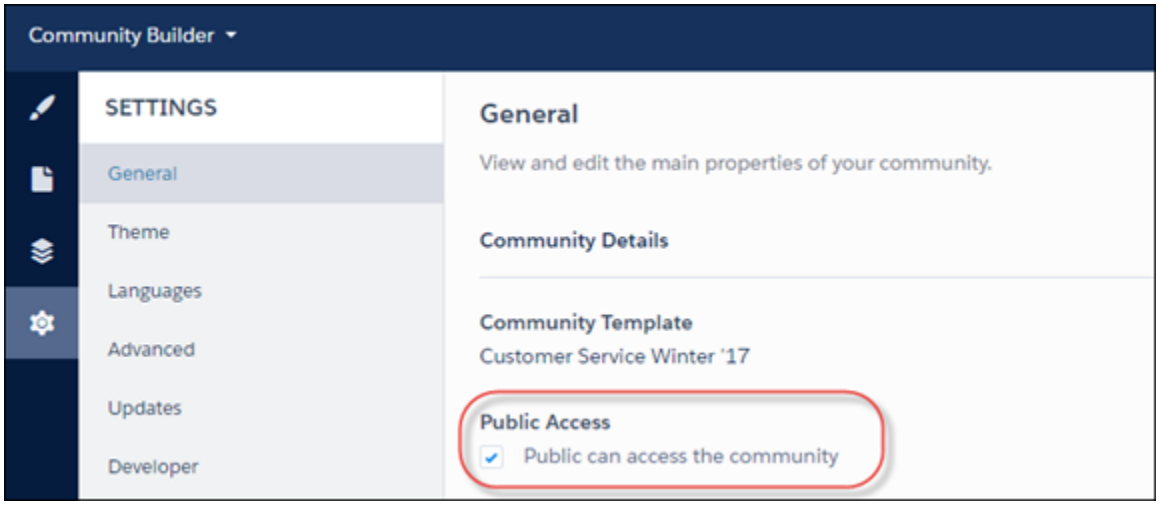


コミュニティのカスタム Lightning コンポーネントの開発者向けに、新しいグローバル `forceCommunity:analyticsInteraction` イベントが用意されています。このイベントを使用して、カスタムコンポーネントによってトリガされるイベントを追跡します。たとえば、カスタムボタンを作成し、ボタンのコントローラに `forceCommunity:analyticsInteraction` イベントを含めることができます。ユーザがボタンをクリックするたびに、イベントデータが Google Analytics に送信されます。

コミュニティ内の各ページの公開アクセスの制御

コミュニティページに対するページ固有のアクセス権を設定します。これにより、必要に応じてアクセスを制限または解放できます。

ログインしていないユーザにコミュニティへのアクセスを許可するには、コミュニティビルダーの[一般設定]で、新しい[公開ユーザがコミュニティにアクセスできます]オプションを選択します。ユーザがログインなしでコミュニティにアクセスできるようにする場合は、このボックスをオンにします。

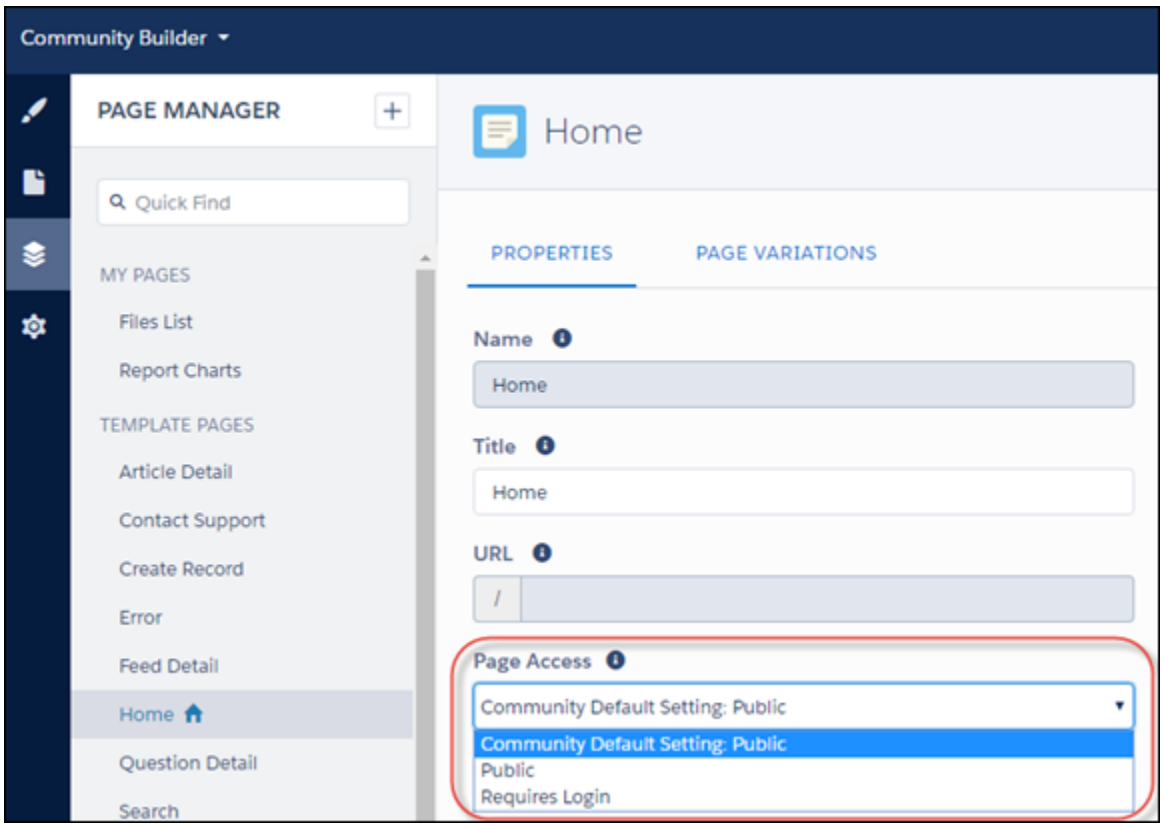


ページレベルのアクセス権を設定するにはページマネージャを使用します。

コミュニティのデフォルト設定 — 公開アクセスを許可すると、コミュニティページはライセンスのないユーザも含めた一般ユーザからアクセス可能になります。公開アクセスを許可しない場合、メンバーがコミュニティにアクセスするにはログインする必要があります。

公開 — この設定では、コミュニティのデフォルト設定に関わらずページが公開されます。

ログインが必要 — この設定では、コミュニティのデフォルト設定に関わらず、ページが非公開になり、メンバーはログインが必要になります。



ここで、Summer '16 で導入されたプロファイルベースのページ表示とはどのように連携するのかと疑問に思われているでしょう。手順は、次のとおりです。

メンバーがページにアクセスしようとすると、まずコミュニティのデフォルト設定で、公開されているか、ユーザがログインする必要があるかが確認されます。最初の確認の後に、ページのアクセス権が確認されます。最後に [ページのバリエーション] で設定したプロファイルベースの表示が確認されます。

メモ: 一部のページは常に公開され、他のページは常に非公開になります。公開ページには、ログイン関連ページ(ログイン、登録、パスワードをリセット、ログインエラー、パスワードを確認)が含まれます。ダイレクトメッセージページは常に非公開です。

SEO の機能強化による検索エンジンランキングの改善

コミュニティの SEO ランキングを改善するため、非正規 URL が 301 リダイレクトを使用して正規 URL にリダイレクトされるようになりました。正規 URL では、コンテンツはすべて同じだが URL が若干異なる Web サイトについて、同一の Web サイトであるとして検索エンジンに認識させます。301 リダイレクトは URL が恒久的に移動されたことを示し、SEO 対策になります。

たとえば、取引先オブジェクト用のオブジェクトページを追加するとします。この場合、詳細ページにはオブジェクト固有の取引先詳細ページと汎用のレコード詳細ページがあります。コミュニティメンバーが汎用のレコード詳細ページ (`/s/detail/recordId`) にアクセスすると、代わりにオブジェクト固有の取引先詳細ページ (`/s/account/recordId`) の正規 URL に恒久的にリダイレクトされるようになりました。同様に、リストページと関連リストページの 301 リダイレクトも追加されました。

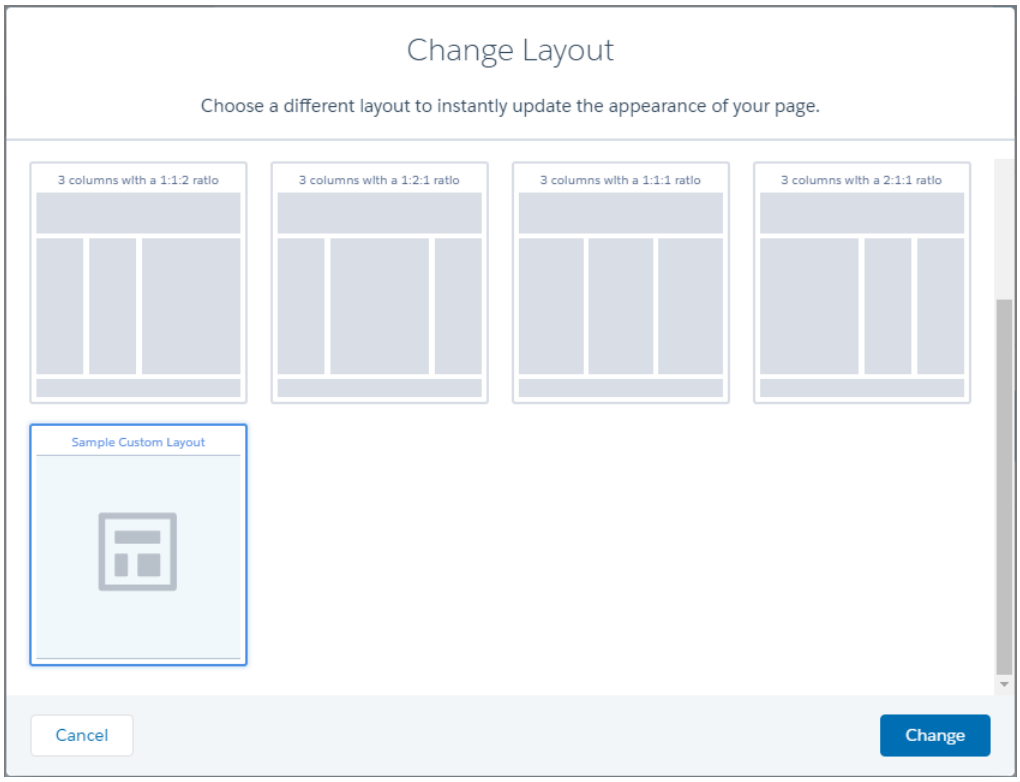
さらに、トピックの詳細ページと質問の詳細ページの URL は、SEO 対策をした URL にリダイレクトされます。ユーザが読み取り可能な URL を作成するため、トピックの詳細ページのトピック名と質問の詳細ページの質問タイトルが追加されます。たとえば、`https://mycommunity.com/s/question/0D5B0000007qtP7KAI` は `https://mycommunity.com/s/question/0D5B0000007qtP7KAI/need-help-picking-a-grinder` にリダイレクトされるようになりました。

メモ: URL リダイレクトは、URL がブラウザの URL バーから直接アクセスされた場合、またはコミュニティ外部のリンクからアクセスされた場合にのみ行われます。

ページレイアウトがコンテンツレイアウトに名前変更

カスタムテーマレイアウトの導入に伴い、より分かりやすくするため、「ページレイアウト」は「コンテンツレイアウト」という名前に変更されました。コンテンツレイアウトでは、比率 2:1 の 2 列レイアウトなど、ページのコンテンツ領域を定義します。

また、[新規ページ] および [レイアウトを変更] ダイアログボックスから [カスタム] タブが削除されました。開発者コンソールでカスタムコンテンツレイアウトコンポーネントを作成すると、これらのダイアログボックスに標準コンテンツレイアウトとカスタムコンテンツレイアウトの両方が表示されるようになりました。



グローバル Lightning コンポーネント、インターフェース、およびイベントの開発とカスタマイズ

コミュニティビルダーで作成したコミュニティを、開発者が簡単に拡張およびカスタマイズできるように、グローバル Lightning インターフェース、コンポーネント、およびイベントがいくつか新しく追加されました。カスタム検索、ナビゲーション、およびユーザプロファイルメニューを作成したり、Google Analytics でイベントを追跡したりできます。

関連トピック:

- 新規追加または変更された Lightning コンポーネント
- 新しい Lightning イベント

コミュニティテンプレート: 新規コンポーネント、新規トピック機能など

このリリースでは多数の変更が加えられ、テンプレート主導のコミュニティの操作性がさらに向上しました。カスタマーサービス (Napili) テンプレートコミュニティにフィールドサービスオブジェクトが追加されました。コミュニティの作成には、新しい改善されたコミュニティ作成ウィザードを使用します。トピックメール通知により、常に最新のトピック活動を把握できます。他にもさまざまな機能が追加および改善されています。

このセクションの内容:

Napili がカスタマーサービス (Napili) に名前変更

他の名前が付けられたテンプレートは以前と同様に機能します。人気のある Napili テンプレートの名前をカスタマーサービス (Napili) に変更しました。ハワイの地名がついていようとなかろうと、その素晴らしさは変わりません。

刷新されたウィザードによるコミュニティの作成

ウィザード (魔術師) があるからといって、ホグワーツ魔法魔術学校にすぐ向かう訳ではありませんが、コミュニティ作成ウィザードのデザインは更新されました。ウィザードのフローが合理化され、カスタムテンプレート (組織にインストールしている場合) を使用してコミュニティを作成できるようになり、重要な機能に関するより詳しい情報が表示されます。

カスタマーサービス (Napili) テンプレートでサポートされるオブジェクトの追加

売上レポートやダッシュボードをパートナーと共有したいですか?問題ありません。コミュニティコンテキストでメールを使用したいという要望が常にありましたか?それも可能になりました。さまざまな新しいオブジェクトのサポートが追加されました。

コミュニティでの項目レベルヘルプの表示

コミュニティユーザは Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できる同じ項目レベルのヘルプがコミュニティで表示できるようになりました。この機能は任意のテンプレートで作成されたコミュニティで使用できます。

テンプレート主導のコミュニティで外部データソースからコンテンツを公開

すべてのデータおよびコンテンツが、どこに保存されていようと、楽しく活用できるような状況を想像してみてください。カスタマーサービス (Napili) テンプレートコミュニティから Salesforce 組織外に保存されている外部データおよびコンテンツにアクセスできるようになりました。

コミュニティページへのレポートとダッシュボードの追加

パートナーコミュニティに、パートナーの売上ランキングを備えたダッシュボードを表示したいとお考えですか? グループ内の最も活動的なメンバーを強調表示するレポートグラフはどうですか? Salesforce 組織の公開フォルダにあるレポートやダッシュボードをコミュニティのページに含めることができます。レポートグラフコンポーネントおよびダッシュボードコンポーネントを使用すると、Salesforce 組織の公開フォルダで設定したレポートやダッシュボードをコミュニティページに簡単にドラッグアンドドロップできます。

ケース、リード、その他のレコードから直接リッチテキストメールを送信

パートナーコミュニティメンバーは、リードや見込み客と簡単に連絡をとりあう方法を必要としているでしょうか? (聞くまでもない質問ですね。当然、そうですよね)。パートナーコミュニティメンバーは、取引先、取引先責任者、リード、商談、キャンペーンから直接メールを送信できます。Salesforce でメールテンプレートを設定して、一貫性のあるブランディングをした統一感のある、承認済みメッセージをリードと見込み客に送信することもできます。リッチテキストがサポートされていますので、写真やリンクを追加して、コンテンツを魅力的にできます。

セールスパスを使用したパートナーによる会社のセールスプロセス適用の支援

パートナーコミュニティを設定すると、大量のリードが生成されます。セールスパスコンポーネントを使用して、パートナーが会社のセールスプロセスを採用し、適用することを支援できるようになりました。セールスパスはカスタマーサービス (Napili) テンプレートを使用して作成されたコミュニティの商談とリードに使用できます。

トピック: メール通知の取得、重要なトピックの検索など

トピックのメール通知でコミュニティメンバーに情報を提供し、重要なトピックを簡単に検索し、トピックをすべての翻訳記事に追加したりできます。

フィールドサービスデータを追加してコミュニティを拡大

コミュニティを使用して、フィールドサービス業務について顧客およびフィールドサービス技術者に常に最新状況を提供できるとしたら、どうでしょうか?間違いなく、すばらしいことですよね。今回のリリースでは、従来から使用できる [納入商品]、[取引先]、および [取引先責任者] などのオブジェクトに加えて、コミュニティで [サービス予約]、[商品]、[作業指示]、[作業指示品目] オブジェクトを使用できるようになりました。顧客は簡単に予約を入れることができ、技術者はコミュニティから直接作業指示を確認できます。

関連記事の参照カウントの表示

コミュニティメンバーが記事を表示すると、目的の記事を検索しやすくするために関連記事が表示されます。メンバーは、最も役に立つ記事を発見するために、記事が参照された回数を確認できます。

関連質問のインタラクションカウントの表示

コミュニティメンバーが質問を表示すると、目的の質問を検索しやすくするために関連質問が表示されます。メンバーは、最も役に立つ質問を発見するために、記事が参照されたり、いいね!と言われたり、コメントされたりした回数を確認できます。

強化されたリッチコンテンツエディタでインライン編集と動画をさらに簡単に

名前が変更された [リッチコンテキストエディタ] コンポーネント (以前は [リッチテキスト]) を使用して、コンテンツをインラインで追加および編集し、コンテンツがページにどう表示されるかをすぐに確認できます。また、新しい動画ツールを使用すると、コミュニティを従来よりも簡単に活性化できます。埋め込みコードを追加する代わりに、YouTube または Vimeo へのリンクを追加して即座にプレビューできます。

リストビューへの行レベルのアクションの追加

1か所だけで作業できると非常に便利です。リストビューの行レベルのアクションによって、これを行うことができます。ページを離れることなくレコードをより効率的に管理できるように、リストビューの行に [編集] アクションと [削除] アクションが追加されました。

一目で確認できるリスト

場合によっては、情報を独自の意味のある方法で整理する必要があります。そのため、アクセス権を持つオブジェクトのリストビューを、コミュニティユーザが作成できる機能が追加されました。Salesforce タブ + Visualforce でのみ使用できます。

新しいリストビューレイアウトの誕生

3つのビューについて説明します。以前は、コミュニティのビューオプションは2つでした。1つは「フル」と呼ばれる幅広いページで、レコードの詳細が表示され、無限にスクロール可能です。もう 1 つは「コンパクト」と呼ばれ、列幅が狭く、主にレコードのタイトルが表示され、システム管理者が一度に表示できるレコード数を選択します。すべて問題ありませんでしたが、そこで満足せずに、さらに改善できるのではないかと考えました。そこで「標準」が導入されました。このビューでは「フル」の幅広いページレイアウトに「コンパクト」の制限されたレコード表示が加えられ、場所を取る行レベルのアクションとリストビューアクションが取り除かれています。このビューは多数のコンポーネントが含まれるページに最適です。

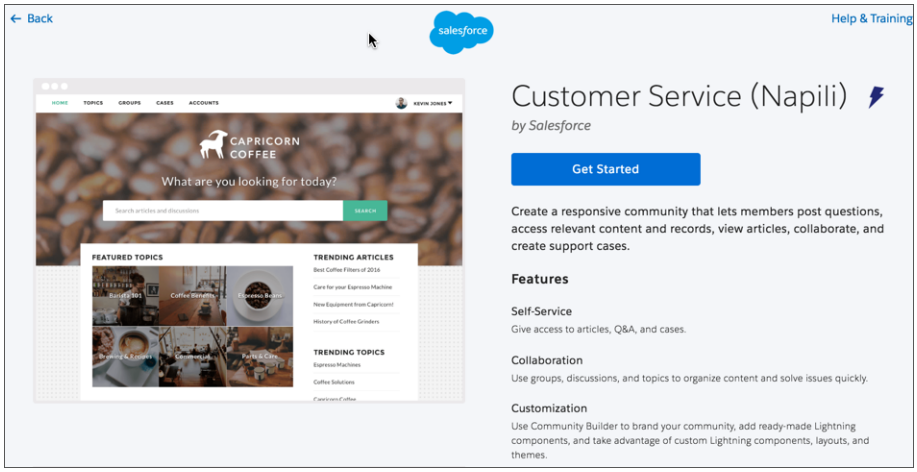
Koa、Kokua、およびカスタマーサービス (Napili) でのテンプレートの変更のサポートが終了

Winter '17 以降、テンプレートの変更機能は Salesforce タブ + Visualforce テンプレートを使用するコミュニティでのみサポートされます。Koa、Kokua、およびカスタマーサービス (Napili) テンプレートを使用するコミュニティでのこの機能のサポートは終了しますが、UI ではこの機能がそのまま使用できます。

Napili がカスタマーサービス (Napili) に名前変更

他の名前が付けられたテンプレートは以前と同様に機能します。人気のある Napili テンプレートの名前をカスタマーサービス (Napili) に変更しました。ハワイの地名がついていようとなかろうと、その素晴らしさは変わりません。

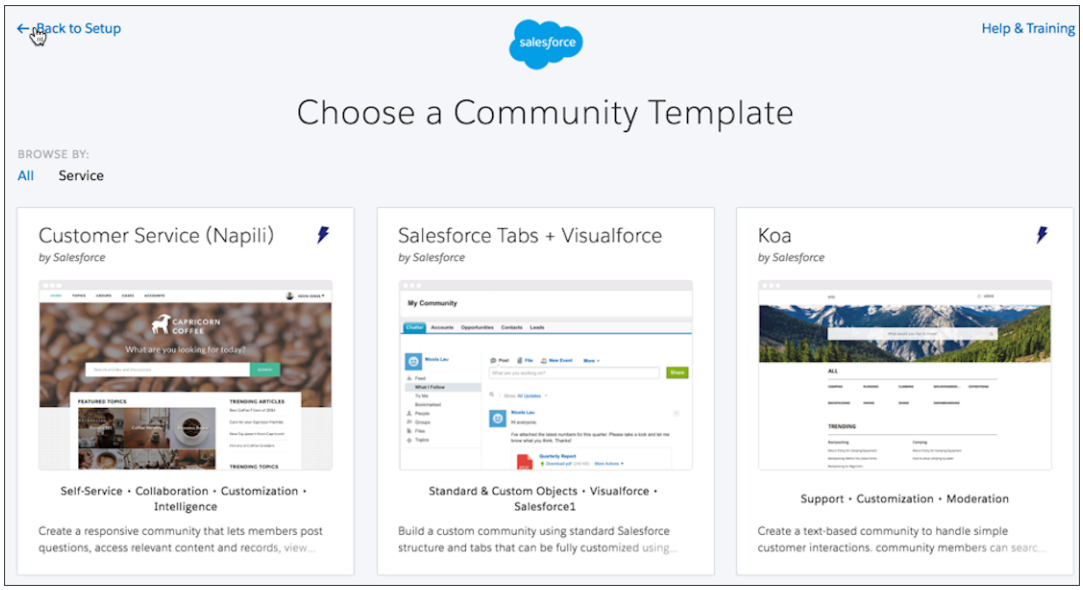
すべての表示ラベルとドキュメントはカスタマーサービス (Napili) を使用するように更新されました。Napili の表示ラベルと連動するカスタムコードがある場合には、必ず確認し、更新してください。



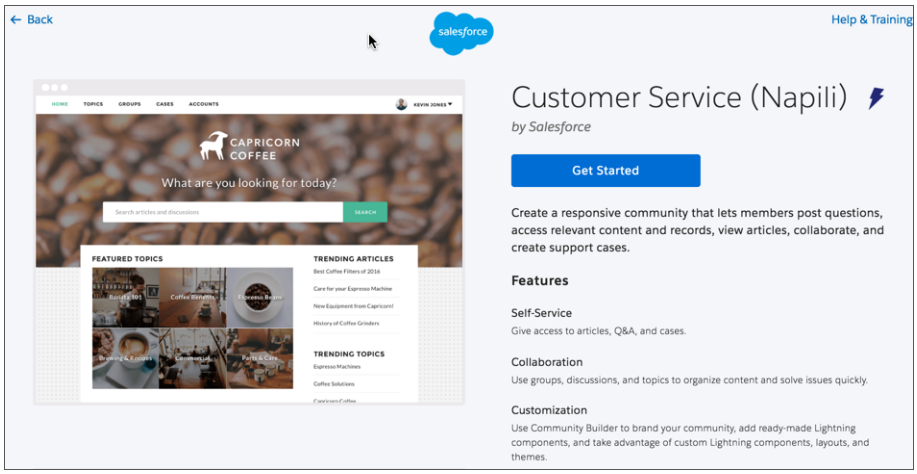
刷新されたウィザードによるコミュニティの作成

ウィザード (魔術師) があるからといって、ホグワーツ魔法魔術学校にすぐ向かう訳ではありませんが、コミュニティ作成ウィザードのデザインは更新されました。ウィザードのフローが合理化され、カスタムテンプレート (組織にインストールしている場合) を使用してコミュニティを作成できるようになり、重要な機能に関するより詳しい情報が表示されます。

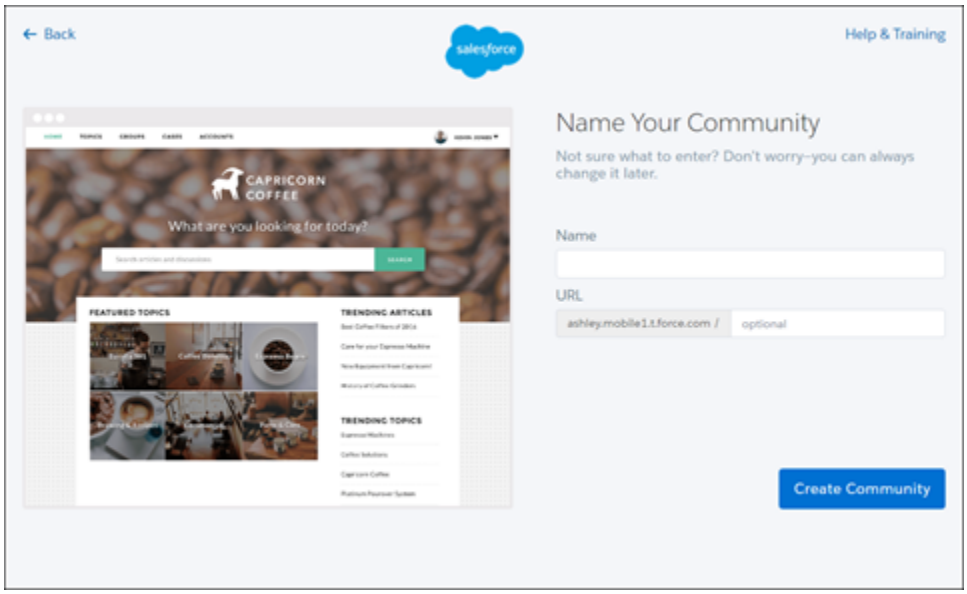
まず、コミュニティの作成に使用するテンプレートを選択します。使用できるすべてのテンプレートを参照するか、セールス、マーケティング、サービスなどのコミュニティの用途に基づいてドリルダウンすることができます。組織にインストールされているカスタムテンプレートを参照することもできます。



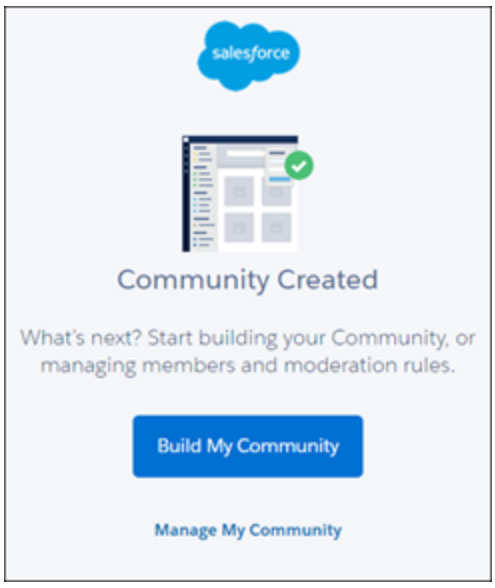
テンプレートを選択すると、説明とその主要機能が表示されます。



次に、コミュニティに名前を付けて、必要に応じてURLを指定します。「史上最高のコミュニティ」という名前を付けたとしても、心配はいりません。後で気が変わった場合は、いつでも変更できます。



完了です。コミュニティが作成されました。



ここから実際の作業が始まります。[私のコミュニティを作成]をクリックしてコミュニティビルダーに移動すると、Lightningコンポーネント、ブランド設定、およびカスタムページを使用してコミュニティをカスタマイズできます。

[私のコミュニティを管理]をクリックして[コミュニティ管理]に移動すると、モデレーションルール、コミュニティダッシュボード、およびトピックを設定できます。

メモ: Salesforce タブ + Visualforce を使用してコミュニティを作成する場合、[私のコミュニティを管理]オプションのみが表示されます。これらのコミュニティは、コミュニティビルダーではなく Visualforce でカスタマイズします。

カスタマーサービス (Napili) テンプレートでサポートされるオブジェクトの追加

売上レポートやダッシュボードをパートナーと共有したいですか? 問題ありません。コミュニティコンテキストでメールを使用したいという要望が常にありましたか?それも可能になりました。さまざまな新しいオブジェクトのサポートが追加されました。

- 活動履歴
- ダッシュボード
- メールメッセージ
- 外部オブジェクト
- Product
- レポート
- サービス予約
- Shared Contacts
- 作業指示
- 作業指示品目

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Objects Supported in the Customer Service Template (カスタマーサービステンプレートでサポートされるオブジェクト)

コミュニティでの項目レベルヘルプの表示

コミュニティユーザは Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できる同じ項目レベルのヘルプがコミュニティで表示できるようになりました。この機能は任意のテンプレートで作成されたコミュニティで使用できます。

[設定] を使用して組織の標準項目とカスタム項目のカスタムヘルプを定義できます (まだの場合)。Salesforce ヘルプの「項目レベルのヘルプの定義」を参照してください。

これまで、ヘルプは Salesforce タブ + Visualforce テンプレートで作成したコミュニティでのみ表示されていました。

テンプレート主導のコミュニティで外部データソースからコンテンツを公開

すべてのデータおよびコンテンツが、どこに保存されていようと、楽しく活用できるような状況を想像してみてください。カスタマーサービス (Napili) テンプレートコミュニティから Salesforce 組織外に保存されている外部データおよびコンテンツにアクセスできるようになりました。

たとえば、コミュニティユーザに次へのアクセスを許可できます。

- 別の Salesforce 組織、SAP® NetWeaver Gateway、または Salesforce Connect を使用して組織からアクセスできる IBM WebSphere® に保存されているデータ
- Google ドライブ、または Files Connect を使用して組織からアクセスできる SharePoint に保存されているコンテンツ

メモ:

- 大量データの外部データソースはサポートされていません。
- 外部データソースの [ID 種別] が [ユーザごと] に設定されている場合、カスタマーサービス (Napili) テンプレートコミュニティユーザは外部システムの独自の認証設定を指定できません。ただし、Lightning Experience または Salesforce Classic から、外部システムの各ユーザの認証設定を指定および管理できます。

外部データおよびコンテンツを活用する場合のコミュニティの設定は?

たとえば、販売用パートナーコミュニティがあり、商品の注文情報をバックオフィスの ERP システムに保存しているとします。営業パートナーにこの情報を公開することで、関連データがどこに保存されているかに関わらず、パートナーがすべてのデータのコンテキスト内で注文を参照および更新できるようになりました。すごいですよね?

または、契約や他の合意のテンプレートを Salesforce 以外の環境に保存しているとします。営業パートナーは、必要に応じてその最新かつ最適なコンテンツにアクセスできるようになりました。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce Connect
Salesforce ヘルプ: 外部データソースの ID 種別

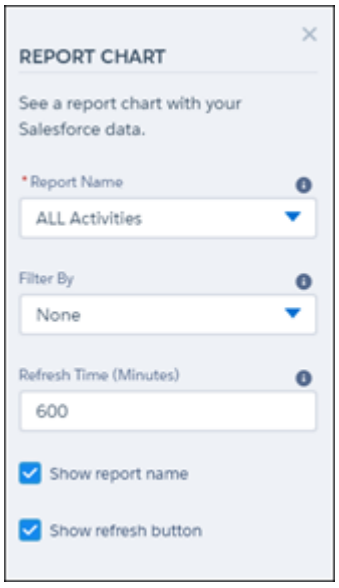
コミュニティページへのレポートとダッシュボードの追加

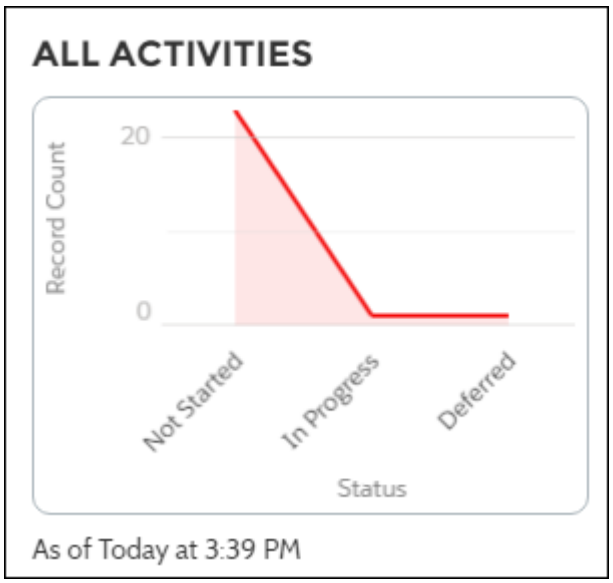
パートナーコミュニティに、パートナーの売上ランキングを備えたダッシュボードを表示したいとお考えですか? グループ内の最も活動的なメンバーを強調表示するレポートグラフはどうですか? Salesforce 組織の公開フォルダにあるレポートやダッシュボードをコミュニティのページに含めることができます。レポートグラフコンポーネントおよびダッシュボードコンポーネントを使用すると、Salesforce 組織の公開フォルダで設定したレポートやダッシュボードをコミュニティページに簡単にドラッグアンドドロップできます。

レポートをクリックすると、レポートの詳細ページが表示され、そこにレポート集計コンポーネントが含まれています。レポート集計には、Salesforce のソースレポートからの詳細が含まれています。

メモ: カスタマーサービス (Napili) ベースのコミュニティでは、レポートリストビューのサポートはまだ完全ではありません。カスタマーサービス (Napili) ベースのコミュニティのレポートリストビューに移動すると、エラーメッセージを受信します。

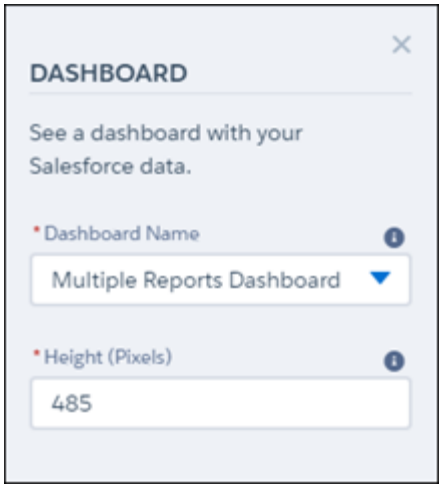
例: [レポートグラフ] の例 (プロパティエディタとコンポーネント)

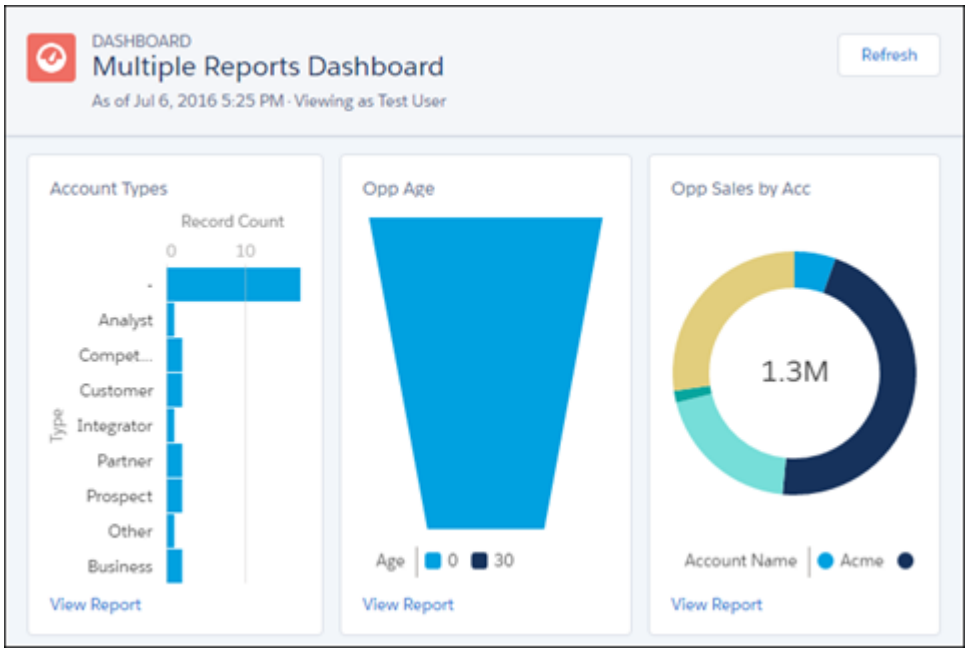




メモ: グラフのあるレポートのみがレポートのプロパティのドロップダウンリストに表示されます。

例: ダッシュボードの例 (プロパティエディタとコンポーネント)





メモ: メンバーは、コミュニティ内のダッシュボードの実行ユーザを変更できません。このビューは参照のみです。

ケース、リード、その他のレコードから直接リッチテキストメールを送信

パートナーコミュニティメンバーは、リードや見込み客と簡単に連絡をとりあう方法を必要としているでしょうか?(聞くまでもない質問ですね。当然、そうですよね)。パートナーコミュニティメンバーは、取引先、取引先責任者、リード、商談、キャンペーンから直接メールを送信できます。Salesforce でメールテンプレートを設定して、一貫性のあるブランディングをした統一感のある、承認済みメッセージをリードと見込み客に送信することもできます。リッチテキストがサポートされていますので、写真やリンクを追加して、コンテンツを魅力的にできます。

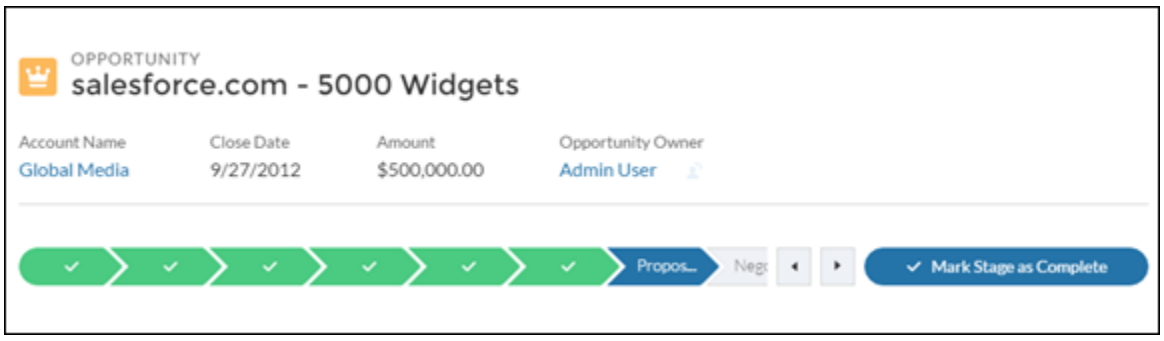
レコード詳細ページの関連タブにメールコンポーザがあります。ページの [活動履歴] セクションで [メールを送信] をクリックするだけです。

メールを送信すると、レコードの [活動履歴] に表示され、レコードに対して実行されたすべてのアクションの履歴が残ります。

セールスパスを使用したパートナーによる会社のセールスプロセス適用の支援

パートナーコミュニティを設定すると、大量のリードが生成されます。セールスパスコンポーネントを使用して、パートナーが会社のセールスプロセスを採用し、適用することを支援できるようになりました。セールスパスはカスタマーサービス (Napili) テンプレートを使用して作成されたコミュニティの商談とリードに使用できます。

営業マネージャと共に、リードと商談に表示するフェーズを決定してカスタマイズします。会社にとって重要な項目を追加し、成功へのガイダンスを含めます。ガイダンスには、会社のポリシーに関する詳細、良好なセリングリレーションを確立するためのヒント、および関連するフィードへのリンクを含めます。



セールスパスが、設定したフェーズと共に表示されます。パートナーは、次のフェーズに進む準備ができたらフェーズを完了とマークします。この利点は、パートナーが営業マネージャにとって最も重要な項目のみに集中できるため、リードの評価や商談の成立を迅速に達成できることです。

コミュニティでセールスパスコンポーネントを使用するときには、幅の広い列のレイアウトが最適であることに留意してください。全体の幅の列が最適ですが、少なくとも 50% の幅の列に追加するようにしてください。

メモ: モバイルデバイスでセールスパスを表示するには、Salesforce 組織でカスタムセールスパスを設定します。

トピック: メール通知の取得、重要なトピックの検索など

トピックのメール通知でコミュニティメンバーに情報を提供し、重要なトピックを簡単に検索し、トピックをすべての翻訳記事に追加したりできます。

このセクションの内容:

トピックメール通知を送信して、MVP に情報提供
コミュニティマネージャ、モデレータ、および MVP に新しい投稿がトピックに追加されたときの通知が必要ですか? フォローしているトピックについてのメール通知を受信できるようになりました。

注目するトピックの検索が簡単
コミュニティ管理で主要トピックとして人気のあるトピックを強調表示したくないですか?トピック検索用の検索ボックスを追加しました。検索ボックスにトピック名を入力し、主要トピックとして追加するだけです。トピックを見つけるためにドロップダウンリストをスクロールする必要はもうありません。最高ですね!

ブレッドクラムがあれば迷わない、ヘンゼルとグレーテルのように
トピック詳細ページの新しいブレッドクラムコンポーネントを使用すると、コミュニティでトピック階層の現在の場所を識別できます。使用するには、コミュニティビルダーでトピック、記事、またはフィードの詳細ページにブレッドクラムコンポーネントをドラッグアンドドロップします。ブレッドクラムコンポーネントを配置後は、コミュニティページがトピック階層のどこにあるのかがコミュニティメンバーにわかります。

すべての翻訳言語にトピックをすばやく追加
[コミュニティ管理]の[記事の管理]で記事にトピックを追加すると、翻訳されたトピックが翻訳された記事に追加されます。翻訳された記事および翻訳されたトピックがシステムにアップロードされている必要があります。翻訳された記事があるけれども、翻訳されたトピックがない場合はどうなるでしょうか?その場合、翻訳された記事に英語のトピックがタグ付けられます。

トピックのさらなる改善
コミュニティのトピックがさらに改善されました。

トピックメール通知を送信して、MVP に情報提供

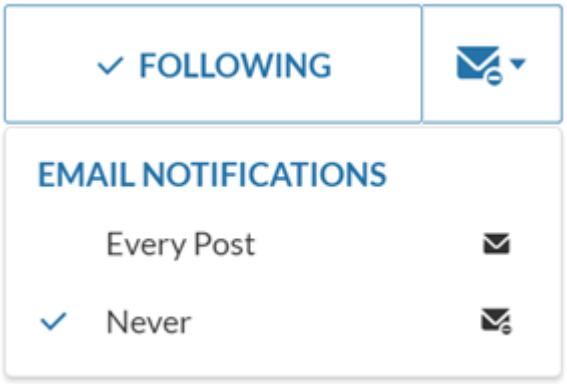
コミュニティマネージャ、モデレータ、および MVP に新しい投稿がトピックに追加されたときの通知が必要ですか? フォローしているトピックについてのメール通知を受信できるようになりました。

コミュニティメンバーがトピックをフォローする場合、メール通知に登録するオプションが表示されます。すべての新規投稿について、メール通知を受信するか、まったくしないかを選択できます。トピックをフォローすると、通知はデフォルトで [受信しない] になります。

登録した後に解除する場合は、コミュニティにログインして、トピック詳細ページの[メール通知]ドロップダウンリストで [受信しない] を選択します。

Chatter REST API では、トピックメール通知がサポートされています。

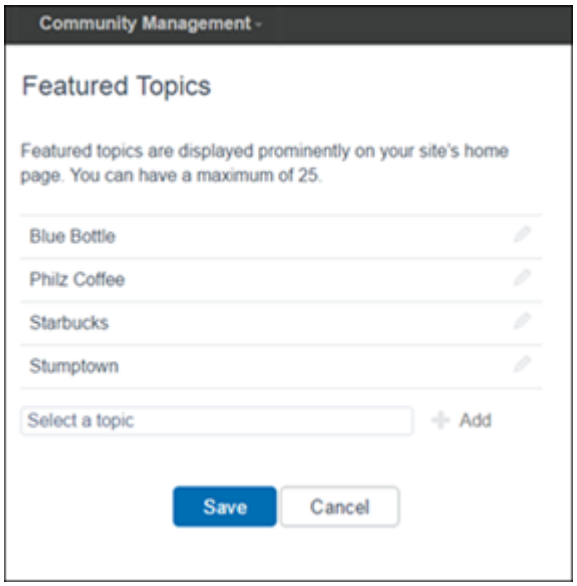
例:



注目するトピックの検索が簡単

コミュニティ管理で主要トピックとして人気のあるトピックを強調表示したくないですか? トピック検索用の検索ボックスを追加しました。検索ボックスにトピック名を入力し、主要トピックとして追加するだけです。トピックを見つけるためにドロップダウンリストをスクロールする必要はもうありません。最高ですね!

例:



ブレッドクラムがあれば迷わない、ヘンゼルとグレーテルのように

トピック詳細ページの新しいブレッドクラムコンポーネントを使用すると、コミュニティでトピック階層の現在の場所を識別できます。使用するには、コミュニティビルダーでトピック、記事、またはフィードの詳細ページにブレッドクラムコンポーネントをドラッグアンドドロップします。ブレッドクラムコンポーネントを配置後は、コミュニティページがトピック階層のどこにあるのかがコミュニティメンバーにわかります。

親または親の親トピックに戻る場合にブレッドクラムを使用します。

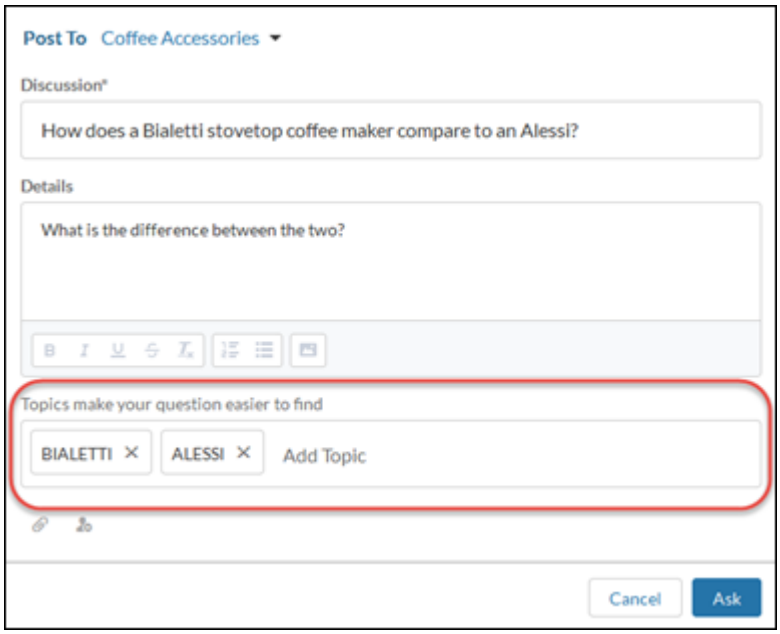
すべての翻訳言語にトピックをすばやく追加

[コミュニティ管理] の [記事の管理] で記事にトピックを追加すると、翻訳されたトピックが翻訳された記事に追加されます。翻訳された記事および翻訳されたトピックがシステムにアップロードされている必要があります。翻訳された記事があるけれども、翻訳されたトピックがない場合はどうなるでしょうか? その場合、翻訳された記事に英語のトピックがタグ付けられます。

トピックのさらなる改善

コミュニティのトピックがさらに改善されました。

- トピックの詳細ページでは、ディスカッションでコンパクトフィードが使用され、行われている会話がさらに見やすく合理的に表示されます。
- 投稿パブリッシャーでは、コミュニティページにトピックを直接追加できます。



フィールドサービスデータを追加してコミュニティを拡大

コミュニティを使用して、フィールドサービス業務について顧客およびフィールドサービス技術者に常に最新状況を提供できるとしたら、どうでしょうか? 間違いなく、すばらしいことですよね。今回のリリースでは、従来から使用できる [納入商品]、[取引先]、および [取引先責任者] などのオブジェクトに加えて、コミュニティで [サービス予約]、[商品]、[作業指示]、[作業指示品目] オブジェクトを使用できるようになりました。顧客は簡単に予約を入れることができ、技術者はコミュニティから直接作業指示を確認できます。

サービス予約と作業指示をコミュニティに追加すると、顧客とパートナーにフィールドサービスの進捗状況を表示します。たとえば、顧客は予約の状況をすばやく確認して、技術者がいつ到着するのかを知ることができます。さらに、パートナーが作業指示を表示し更新できれば、次に行う作業に関する情報を取得できます。

フィールドサービスオブジェクトを設定するには、コミュニティビルダーのページマネージャでオブジェクトページを新規作成します。プロンプトが表示されたら、Salesforce フィールドサービスオブジェクト ([サービス

予約]、[作業指示]、または[作業指示品目])を選択します。ページマネージャによって、新規オブジェクトページに3種類の関連ページ(レコード詳細ページ、レコードリストページ、関連リストページ)が作成されます。コミュニティのナビゲーションバーにオブジェクトを追加すれば、設定はすべて完了です。

ヒント: これらのオブジェクトの項目レベルセキュリティを確認して、顧客とパートナーが必要な項目のみを表示できるようにします。たとえば、サービス予定に到着時間帯[開始]と[終了]項目は表示して、スケジュール済み[開始]と[終了]項目は内部に制限できます。

メモ: サービス予定、商品、作業指示、作業指示品目のみをカスタマーサービス(Napili)テンプレートを使用して作成したコミュニティで使用できます。Salesforceタブ+Visualforceを使用して作成したコミュニティでは、すべての標準Field Service Lightningオブジェクトをサポートしています。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: カスタマーサービス(Napili)テンプレートでサポートされるオブジェクト

関連記事の参照カウントの表示

コミュニティメンバーが記事を表示すると、目的の記事を検索しやすくするために関連記事が表示されます。メンバーは、最も役に立つ記事を発見するために、記事が参照された回数を確認できます。

[関連記事リスト]コンポーネントは、デフォルトで[記事の詳細]ページに表示されます。コンポーネントタイトル、リスト内の記事数、および参照カウントを表示するかどうかをカスタマイズできます。参照カウントはデフォルトで表示されます。

例: [関連記事リスト]の例(プロパティエディタとコンポーネント)

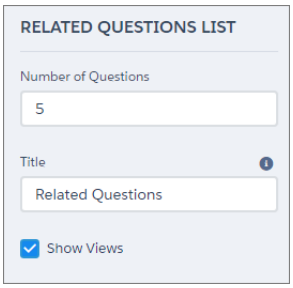
関連質問のインタラクションカウントの表示

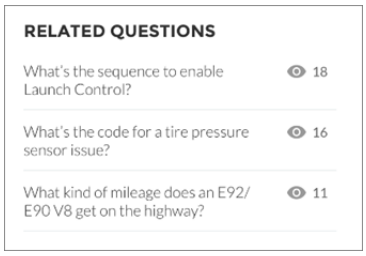
コミュニティメンバーが質問を表示すると、目的の質問を検索しやすくするために関連質問が表示されます。メンバーは、最も役に立つ質問を発見するために、記事が参照されたり、いいね! と言われたり、コメントされたりした回数を確認できます。

関連質問を表示するには、コミュニティに少なくとも1つの質問に対する最良の回答がある必要があります。

[関連質問リスト]コンポーネントは、デフォルトで[質問の詳細]ページに表示されます。コンポーネントタイトル、リスト内の質問数、およびインタラクションカウントを表示するかどうかをカスタマイズできます。インタラクションカウントはデフォルトで表示されます。

例: [関連質問リスト] の例 (プロパティエディタとコンポーネント)

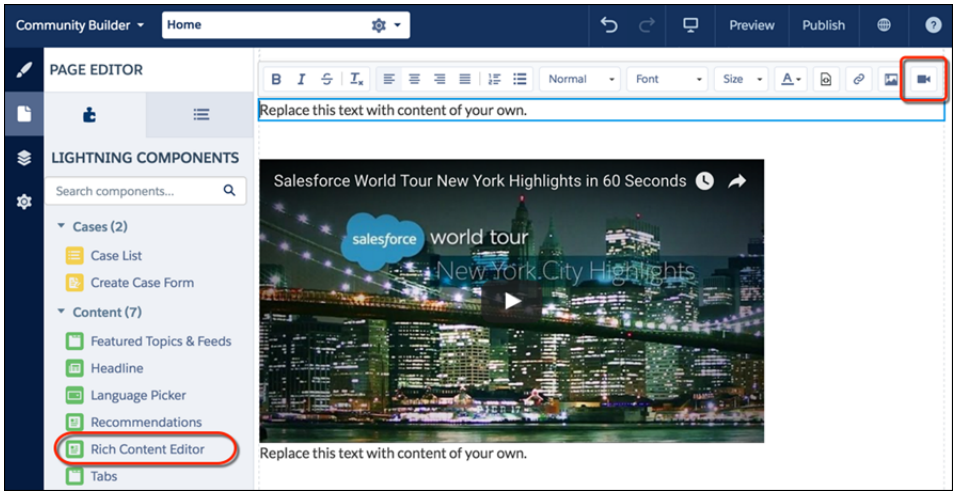


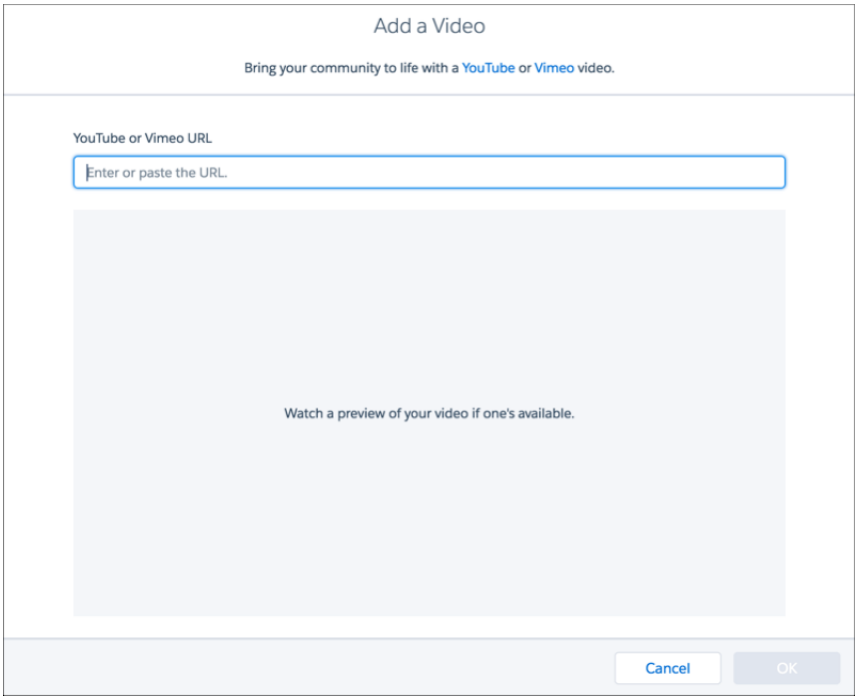


強化されたリッチコンテンツエディタでインライン編集と動画をさらに簡単に

名前が変更された [リッチコンテキストエディタ] コンポーネント (以前は [リッチテキスト]) を使用して、コンテンツをインラインで追加および編集し、コンテンツがページにどう表示されるかをすぐに確認できます。また、新しい動画ツールを使用すると、コミュニティを従来よりも簡単に活性化できます。埋め込みコードを追加する代わりに、YouTube または Vimeo へのリンクを追加して即座にプレビューできます。

以前は、小さい編集領域でのコンテンツの追加は困難でしたが、新しいインラインエディタでは必要な空間すべてを使用できます。





画像、動画、および CSS のソースコードを直接編集したい場合も心配いりません。[ソース] ボタンを引き続き使用できます。

リストビューへの行レベルのアクションの追加

1 か所だけで作業できると非常に便利です。リストビューの行レベルのアクションによって、これを行うことができます。ページを離れることなくレコードをより効率的に管理できるように、リストビューの行に [編集] アクションと [削除] アクションが追加されました。

一目で確認できるリスト

場合によっては、情報を独自の意味のある方法で整理する必要があります。そのため、アクセス権を持つオブジェクトのリストビューを、コミュニティユーザが作成できる機能が追加されました。Salesforce タブ + Visualforce でのみ使用できます。

新しいリストビューレイアウトの誕生

3 つのビューについて説明します。以前は、コミュニティのビューオプションは 2 つでした。1 つは「フル」と呼ばれる幅広いページで、レコードの詳細が表示され、無限にスクロール可能です。もう 1 つは「コンパクト」と呼ばれ、列幅が狭く、主にレコードのタイトルが表示され、システム管理者が一度に表示できるレコード数を選択します。すべて問題ありませんでしたが、そこで満足せずに、さらに改善できるのではないかと考えました。そこで「標準」が導入されました。このビューでは「フル」の幅広いページレイアウトに「コンパクト」の制限されたレコード表示が加えられ、場所を取る行レベルのアクションとリストビューアクションが取り除かれています。このビューは多数のコンポーネントが含まれるページに最適です。

Koa、Kokua、およびカスタマーサービス (Napili) でのテンプレートの変更のサポートが終了

Winter '17 以降、テンプレートの変更機能は Salesforce タブ + Visualforce テンプレートを使用するコミュニティでのみサポートされます。Koa、Kokua、およびカスタマーサービス (Napili) テンプレートを使用するコミュニティでのこの機能のサポートは終了しますが、UI ではこの機能がそのまま使用できます。

テンプレートを Koa、Kokua、またはカスタマーサービス (Napili) から別のテンプレートの種類に変更して問題が発生した場合、Salesforce カスタマーサポートでは対応できません。その場合は、目的のテンプレートで新しいコミュニティを作成することをお勧めします。

コミュニティテンプレートの Chatter およびファイル: コメントと回答の表現性およびモバイルの操作性が向上

リッチコンテンツエディタでコメントと回答の書式を設定し、インライン画像を追加します。モバイルの操作性の向上により、外出先でより多くの操作を実行できます。さらに、トピックフィードおよびファイルリストコンポーネントにより、効率的に作業できます。

このセクションの内容:

コミュニティで質問ができる Chatter フィードの増加

ユーザは、より多くの場所で質問ができるようになりました。質問パブリッシャーが取引先、グループ、ユーザ、およびケースフィードに追加されました。

コメントと回答へのリッチコンテンツとコードスニペットの導入

これまで、コミュニティ開発者がコードスニペットを追加できるのは投稿または質問のみで、コメントや回答へは追加できませんでしたが、朗報です。コメントと回答にリッチコンテンツエディタが使用できるようになりました。便利になりましたね。したがって、ユーザが書式設定を追加したり、開発者が独自の素晴らしいコードを使用して返答したりしたい場合に、それをコメントに追加できるようになりました。

インライン画像でコメントと回答を強調

パブリッシャーのコメントと回答で、インライン画像がサポートされるようになりました。

フィード項目をミュートする方法の追加

コミュニティフィードで、詳細ビューからフィード項目をミュートするオプションが追加されました。

コミュニティのモバイルビューでのパブリッシャーの最適化

モバイルブラウザを介してコミュニティにアクセスすると、パブリッシャーの外観が改善されたことに気づくでしょう。

よくある質問によるトピックフィードの並び替え

コミュニティでは、メンバーはすでにトピックフィードを最新の投稿または最近の活動によって並び替えることができました。今回のリリースで、さらに最も関連性のある質問によって並び替えることができるようになりました。新しい並び替えオプション [よくある質問] を使用すると、インタラクション数や回答数が多く、回答の優良度が高い質問ほど、トピックフィードの上位に表示されます。

自分のコメントまたは回答にいいね! と言ったユーザの確認

前回のリリースでフィード投稿と質問に導入されたいいね!カードが、コメントと回答にも使用できるようになりました。この機能は、Lightning Experienceと、カスタマーサービス(Napili)テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

フィードでの動画の直接再生

カスタマーサービス(Napili)テンプレートに基づくコミュニティではフィードで動画をインライン再生できるようになりました。動画を投稿またはコメントに添付すると、誰でも投稿された場所で直接再生できます。

ケース参照リンクの新しい場所

顧客の質問がケースにエスカレーションされる場合、ケースへのリンクは質問の上の情報に追加されます。これまで、ケースへのリンクは質問の下の回答に表示されていました。新しい場所では[ケースの参照]リンクを見つけてケースに移動するのが簡単になりました。この機能は、カスタマーサービス(Napili)テンプレートをベースにしたコミュニティでのみ使用できます。

ファイルリストコンポーネントがモバイルで使用可能に

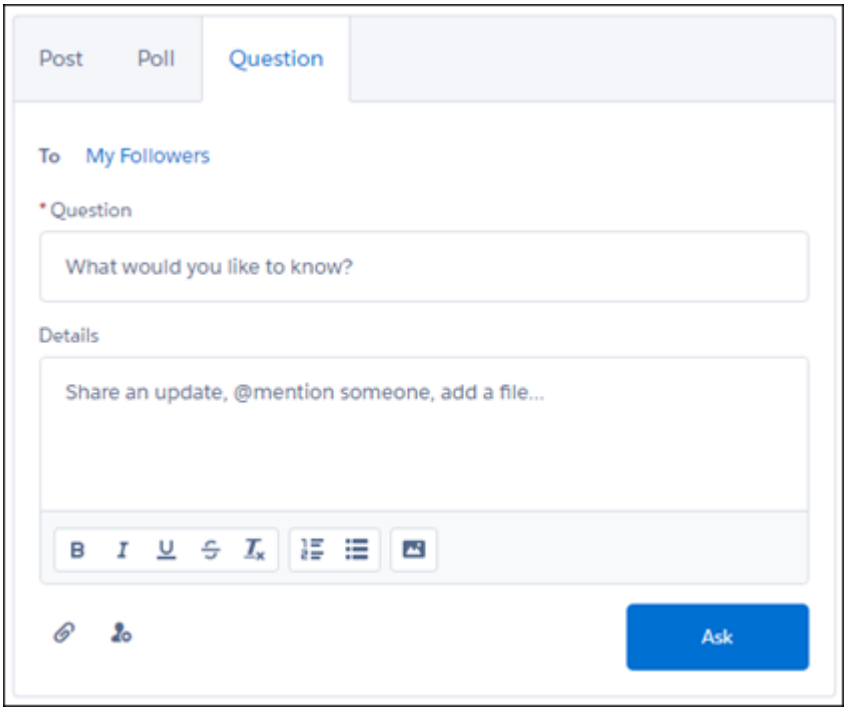
ページに[ファイルリスト]コンポーネントを追加すると、デスクトップだけでなくモバイルデバイスでも機能します。コミュニティメンバーは、カフェでの行列待ちの間やエレベータ内でも作業できるようになりました。

[ファイルリスト]コンポーネントへのコンテンツライブラリの追加

カスタマーサービス(Napili)テンプレートの[ファイルリスト]コンポーネントに、コンテンツライブラリのファイルが含まれるようになりました。

コミュニティで質問ができるChatterフィードの増加

ユーザは、より多くの場所で質問ができるようになりました。質問パブリッシャーが取引先、グループ、ユーザ、およびケースフィードに追加されました。



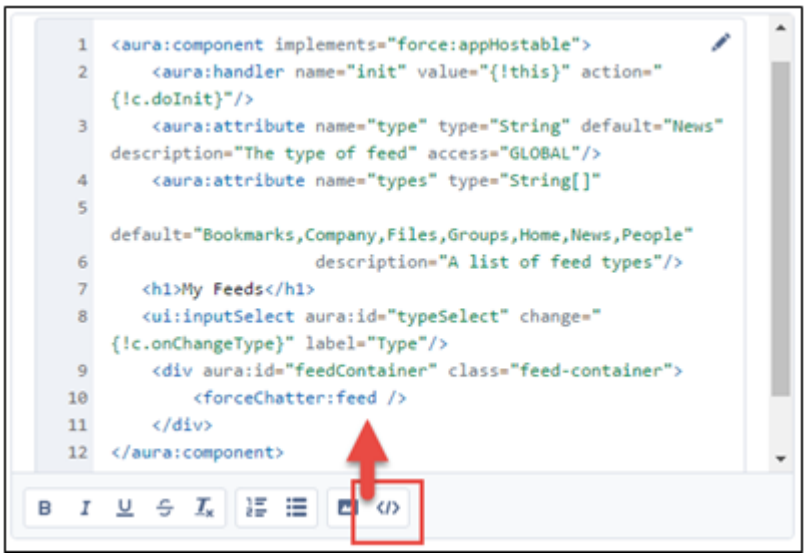
関連トピック:

質問パブリッシャーの使用可能な場所の増加

コメントと回答へのリッチコンテンツとコードスニペットの導入

これまで、コミュニティ開発者がコードスニペットを追加できるのは投稿または質問のみで、コメントや回答へは追加できませんでしたが、朗報です。コメントと回答にリッチコンテンツエディタが使用できるようになりました。便利になりましたね。したがって、ユーザが書式設定を追加したり、開発者が独自の素晴らしいコードを使用して返答したりしたい場合に、それをコメントに追加できるようになりました。

メモ: コードスニペットを有効にするには、ユーザプロファイルまたは権限セットを編集して、[UIからのコードスニペットの挿入を許可] を選択します。



Chatter REST API および Apex の Chatter では、コメントのリッチコンテンツがサポートされています。

関連トピック:

リッチコンテンツとインライン画像の使用可能な場所の増加

インライン画像でコメントと回答を強調

パブリッシャーのコメントと回答で、インライン画像がサポートされるようになりました。

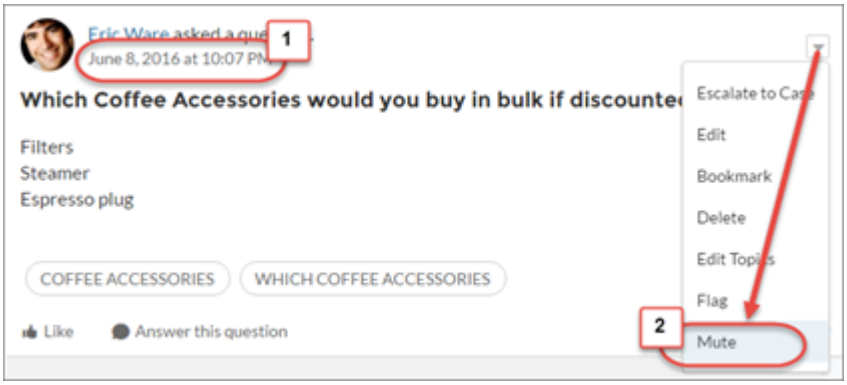
コミュニティの質問に最良の回答をした場合、メンバーはその回答を読むでしょうか。画像を含めれば、読まれる可能性は非常に高くなります。それが可能になりました。質問によっては、画像があって初めて最良の回答となることもあります。また、視覚的な資料がないと意味をなさない回答もあります。回答またはコメントにインライン画像を追加するには、新しいリッチコンテンツエディタの画像ツールを使用します。

Chatter REST API および Apex の Chatter では、コメントのインライン画像がサポートされています。

フィード項目をミュートする方法の追加

コミュニティフィードで、詳細ビューからフィード項目をミュートするオプションが追加されました。

詳細ビューを表示する 1 つの方法は、投稿の日付 (1) をクリックすることです。投稿をミュートするには、アクションメニューから [ミュート] (2) を選択します。



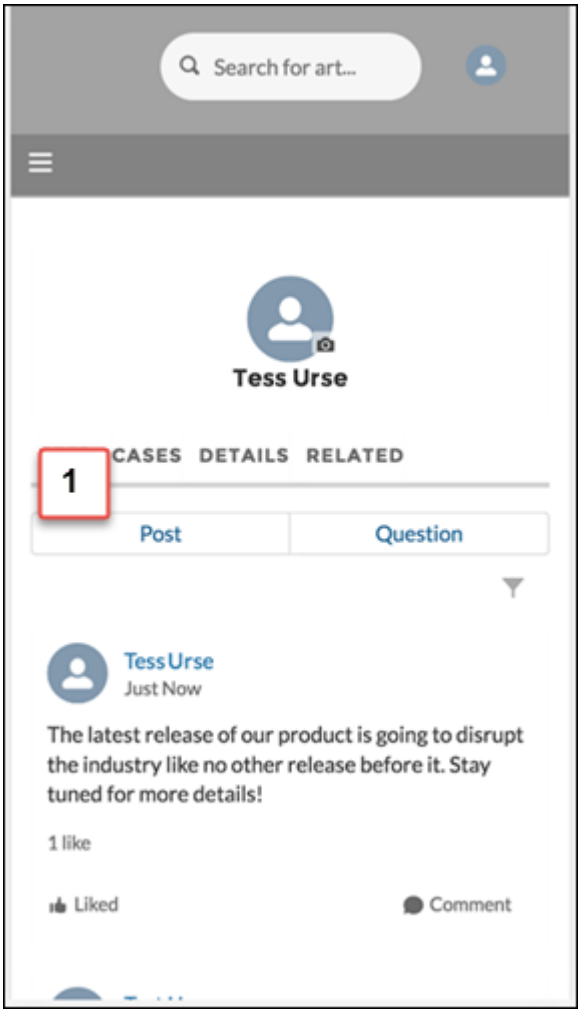
関連トピック:

詳細ビューからのフィード項目のミュート

コミュニティのモバイルビューでのパブリッシャーの最適化

モバイルブラウザを介してコミュニティにアクセスすると、パブリッシャーの外観が改善されたことに気づくでしょう。

パブリッシャーを開くタブ化されたボタン、およびメッセージや質問を投稿するタブ化されたボタンを追加することで、スペースを有効に活用しました (1)。



よくある質問によるトピックフィードの並び替え

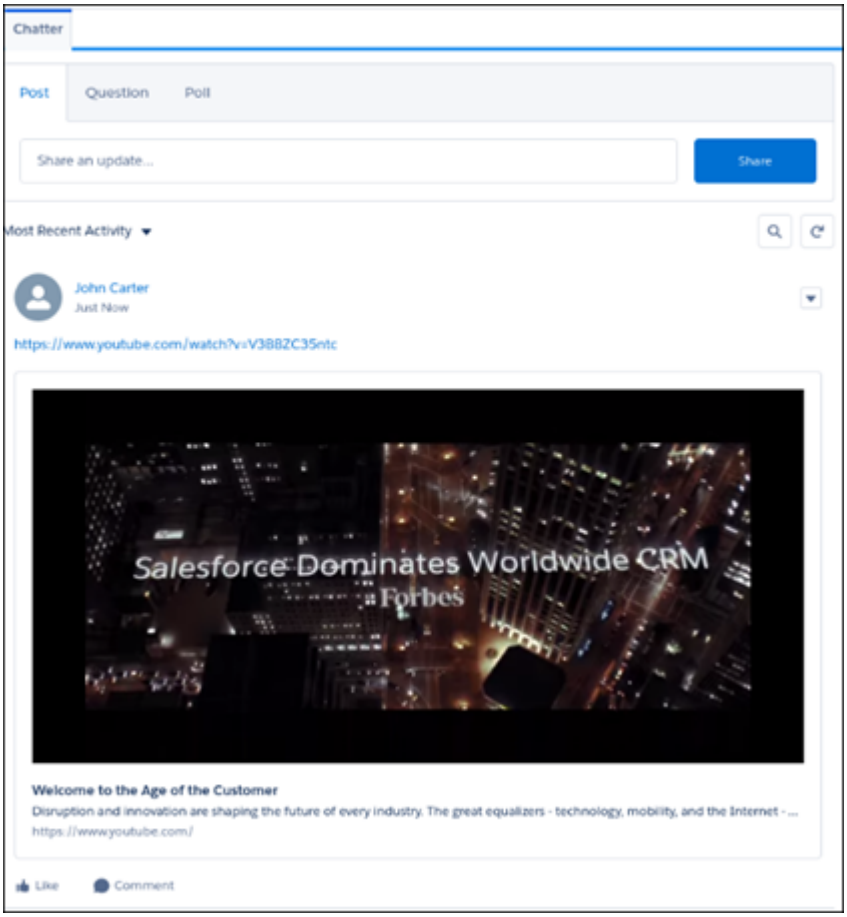
コミュニティでは、メンバーはすでにトピックフィードを最新の投稿または最近の活動によって並び替えることができました。今回のリリースで、さらに最も関連性のある質問によって並び替えることができるようになりました。新しい並び替えオプション[よくある質問]を使用すると、インタラクション数や回答数が多く、回答の優良度が高い質問ほど、トピックフィードの上位に表示されます。

自分のコメントまたは回答にいいね! と言ったユーザの確認

前回のリリースでフィード投稿と質問に導入されたいいね! カードが、コメントと回答にも使用できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

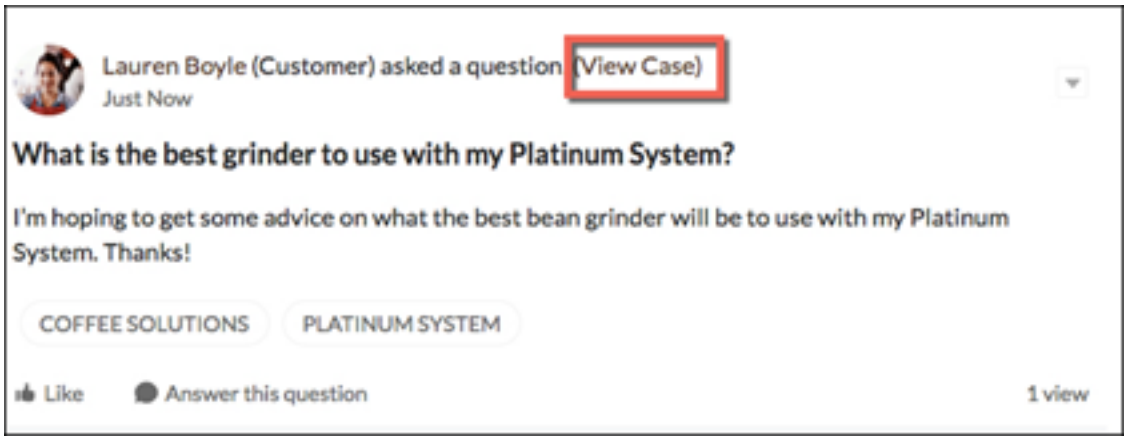
フィードでの動画の直接再生

カスタマーサービス(Napili)テンプレートに基づくコミュニティではフィードで動画をインライン再生できるようになりました。動画を投稿またはコメントに添付すると、誰でも投稿された場所で直接再生できます。



ケース参照リンクの新しい場所

顧客の質問がケースにエスカレーションされる場合、ケースへのリンクは質問の上の情報に追加されます。これまで、ケースへのリンクは質問の下の回答に表示されていました。新しい場所では[ケースの参照]リンクを見つけてケースに移動するのが簡単になりました。この機能は、カスタマーサービス (Napili) テンプレートをベースにしたコミュニティでのみ使用できます。



ファイルリストコンポーネントがモバイルで使用可能に

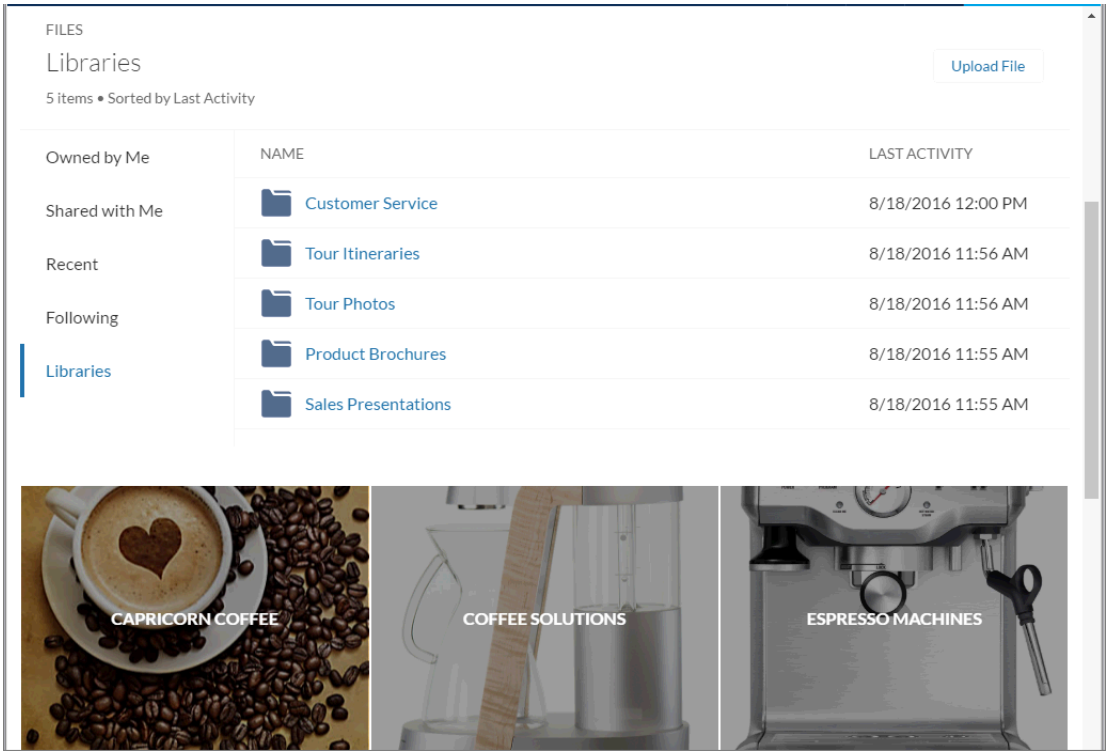
ページに[ファイルリスト]コンポーネントを追加すると、デスクトップだけでなくモバイルデバイスでも機能します。コミュニティメンバーは、カフェでの行列待ちの間やエレベータ内でも作業できるようになりました。

外出中にファイルの参照と管理を実行できる便利なツールをコミュニティメンバーに提供しましょう。ページに[ファイルリスト]をドラッグします。これで、メンバーはモバイルデバイスからすべてのファイルにアクセスできます。

[ファイルリスト] コンポーネントへのコンテンツライブラリの追加

カスタマーサービス (Napili) テンプレートの[ファイルリスト]コンポーネントに、コンテンツライブラリのファイルが含まれるようになりました。

コンテンツライブラリのファイルにアクセスできるコミュニティメンバーは、コミュニティページの[ファイルリスト]コンポーネントからそれらのファイルに移動できるようになりました。コンテンツライブラリの追加により、コミュニティメンバーが 1 か所で簡単にすべてのファイルを表示して操作できます。



コミュニティ管理: モデレーションがすべて

前回のリリースで、コミュニティ管理の楽しさを思い起こさせるツールが追加されました。今回のリリースでは、コミュニティ活動の迅速な対応と追跡がより簡単になりました。コメントの事前モデレーションにより、コミュニティマネージャはコミュニティでの悪意のあるコメントを防ぐことができます。新しいコミュニティモデレーションの概要ページでは、待機中の項目とメンバー活動を一目で追跡できます。また、モデレーションの機能強化により、スパム投稿と不適切な投稿のフラグ設定を区別できます。それだけではありません。その他の機能についても説明します。

このセクションの内容:

モデレーションのデザインの刷新
外部ユーザによるコミュニティコンテンツのモデレートを許可

モデレーションのデザインの刷新

これ以上ないほど簡単と思われたモデレーションがさらに改善されました。[コミュニティ管理] の [モデレーションの概要] ページで、コミュニティのモデレーション活動の全体像を一目で確認できます。

外部ユーザによるコミュニティコンテンツのモデレートを許可

優秀なモデレータを抱える外部機関を利用し、内部組織のライセンスを付与せずにコミュニティの保護を依頼したいと思ったことはないでしょうか。新しい「コミュニティ管理にアクセス」権限でこれが可能になりました。「コミュニティ管理にアクセス」権限では、外部ユーザが [コミュニティ管理] コンソールにアクセスできます。コミュニティの設定やモデレーションルールへのアクセスを許可する必要はありません。コミュニティのメンバーで、モデレーション権限と「レポート実行」権限を持つユーザは、内部組織のライセンスなしで [コミュニティ管理] からコミュニティをモデレートできます。

事前モデレーション: コミュニティメンバーからの投稿とコメントの確認 (正式リリース)

コミュニティマネージャとモデレータには、スパム送信者や悪意のあるメンバーに対する別の防御レベルが備わっています。コミュニティメンバーが作成した投稿とコメントを確認および承認するモデレーションルールを設定します。コンテンツを確認するルールがあることで、ルールに違反するコンテンツや不適切なコンテンツがコミュニティ内のすべてのユーザに表示される前に確認されます。事前モデレーションは、カスタマーサービス (Napili) テンプレートおよび Salesforce タブ + Visualforce を使用するコミュニティの投稿とコメントで完全にサポートされています。

コメントの事前モデレーション — スパムをここで阻止

以前のリリースで、コミュニティウォールに不快な投稿を残すスパム送信者は、事前モデレーションルールでブロックされるようになりました。今回のリリースで、スパム送信者はさらに窮地に追い込まれます。ルールに違反する投稿や不適切な投稿を阻止するためにコミュニティで使用されるモデレーションルールが、コメントにも適用されるようになりました。モデレータは、フィード投稿とコメントの状況値を確認待機中から公開済みに変更したり、再び戻したりすることもできます。コミュニティメンバーが作成したコンテンツを確認および承認する、モデレーションルールを設定してリラックスしましょう。これでスパムを見逃すことはなくなります。

Salesforce タブ + Visualforce コミュニティでの事前モデレーションの使用

カスタマーサービス (Napili) テンプレートだけでなく、Salesforce タブ + Visualforce コミュニティの投稿とコメントでも事前モデレーションを使用できるようになりました。事前モデレーションルールを設定して、フィードパブリッシャーアクションで実行することもできます。

レコードフィードのモデレーション

モデレーションは、メインコミュニティフィードにバインドされなくなりました。モデレーションルールはレコードフィードにも適用されるようになりました。コミュニティメンバーは、フィードのあるレコードタイプにコメントできます。コミュニティモデレータは、ディスカッションがコミュニティのガイドラインに従っているかどうかを確認できます。

スパムとマークしてメモを残す

マネージャは、投稿が削除された理由を尋ねるメールを受信してその回答を探し求めることにうんざりしているのではないでしょうか。「申し訳ありませんが、投稿はコミュニティのメンバーによって不適切とフラグ付けされました」というメッセージの横にその理由があれば、この問題は解決されます。コミュニティメンバーは、投稿を不適切またはスパムとマークするときにその理由を指定できるようになりました。

フラグ付きコメントインサイトレポート

アクション可能なインサイトは、コミュニティマネージャにとっては夢が実現したようなものであることを理解しています。そのため、このリリースで新しいインサイトを追加しました。フラグ付きコメントインサイトレポートを使用して、フラグ付きコメントを削除できます。[モデレーション種別] 列には、項目にスパムと不適切のどちらのフラグが付けられているかが示されます。これらのアクションは、コミュニティを使用するすべての組織で使用できます。アクションを取得するためにパッケージをインストールする必要はありません。必要なのは、アクションを使用するレポートのみです。

投稿またはコメントが確認待機中の場合に通知を受信

項目が確認待ちのときに通知されるようになったため、簡単に確認待機中を追跡できます。そうです!カスタマーサービス (Napili) テンプレートまたは Salesforce タブ + Visualforce コミュニティを使用するコミュニティモデレータとマネージャは、投稿またはコメントが確認待機中になったときにメール通知を受信することを選択できます。

独自のコミュニティダッシュボードの作成と任意のラベルの使用

ダッシュボードは非常に便利です。本当に必要な情報が含まれていれば、その情報の概要が表示されます。この便利なダッシュボードにいくつかの機能が追加されました。カスタムダッシュボードタブでは、ダッシュボードをカスタマイズできます。さらに、必要に応じて既存のダッシュボードのタブ名と表示ラベルを編集できます。

おすすめをクリックした人の判別

カスタムのおすすめ URL にコンテキスト変数を追加して、だれがおすすめをクリックし、それがどのコンテキストかの情報を取得できます。おすすめをだれがクリックしたかを知ることは、最新すぎず、古すぎない、適切なおすすめの作成に役立ちます。

大きく丸くなったユーザプロファイル写真

プロファイルページをモダンな外観に更新しています。それに伴い、今までよりも大きい、丸くトリミングされたユーザプロファイル写真が追加されました。トリミングが不適切な場合、写真を再度アップロードするか、新しい写真をアップロードできます。問題を事前に防ぐために、Winter '17 の稼働開始前に Sandbox 環境でユーザのプロファイル写真を確認することをお勧めします。丸い写真がコミュニティに適していないと判断した場合には、無効にして長方形の写真を保持できます。

カスタムコミュニティロールと会社名によるメンバーの識別

コミュニティでは多くの場合、ユーザは会社名または「顧客」や「パートナー」のロールラベルで識別されます。Winter '17 で、この「コミュニティロール」機能が更新されました。まず、ユーザに他のユーザの会社名ロールが表示されないようにできます。さらに、3番目のロールの「従業員」が追加されました。最後に、ロールラベルをカスタマイズしたりオフにしたりできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

グループメンバーをスマートに追加

検索インテリジェンスを使用すると、グループに追加するメンバーが推奨されます。検索時に、やりとりしたことのあるメンバー、およびグループに参加する可能性が高いメンバーが推奨されます。

[グループエンゲージメント] タブのカスタマイズ

前回のリリースで、Lightning Experience に、分かりやすいデータを備えたグループエンゲージメントが導入されました。そのグループエンゲージメントがコミュニティテンプレートで使用できるように拡張されたため、グラフとレポートによってメンバーとグループのやりとりを確認できます。さらに、個々のエンゲージメントコンポーネントを分離し、どのコンポーネントをどこで使用するかを選択できるようになりました。

グループの作成ウィザード

グループ作成のプロセスが合理化され、簡単に使用できるようになりました。グループをあっという間に設定できます。

お知らせに関するメール (正式リリース)

お知らせに関するメールのベータは終了し、メンバーのメール設定に関わらず、すべてのメンバーに一度にお知らせメールを送信できるようになりました。

カスタマイズ可能なグループ (ベータ)

必要な外観、デザイン、機能を持つ、カスタマイズ可能なグループを作成できます。

カスタムグループレポートグラフ

独自のグループのレポートグラフを作成し、必要なデータを、整然とした視覚的にも分かりやすい形で取得できます。

単独の [メンバーの追加] コンポーネントが使用可能に

従来よりも簡単にグループのメンバーを入力できるように、グループページ用の永続的な[メンバーの追加]コンポーネントが作成されました。別のダイアログを開くことなく、新規メンバーをすぐに追加できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

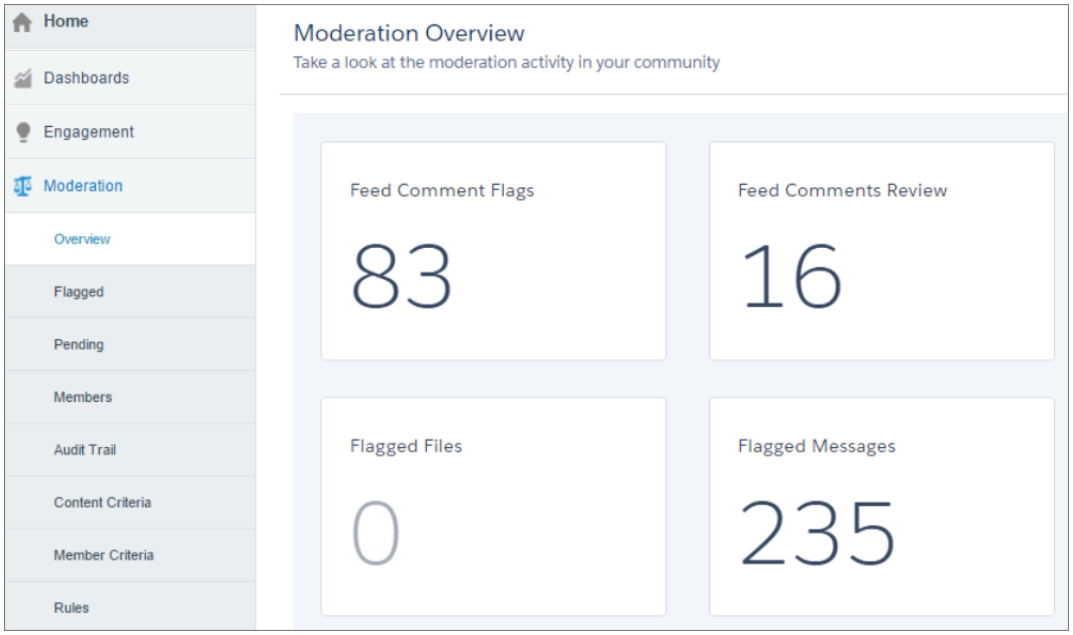
モデレーションのデザインの刷新

これ以上ないほど簡単と思われたモデレーションがさらに改善されました。[コミュニティ管理] の [モデレーションの概要] ページで、コミュニティのモデレーション活動の全体像を一目で確認できます。

朝のコーヒーを飲みながら先週のすべてのフラグ付きコメントに対応しますか?[フィードコメントフラグ] をクリックします。最も時間がかかるモデレーション活動を特定して、時間の配分に優先順位を付けることもできます。各タイルに、関連付けられた ToDo の数が目立つように表示されます。チームに複数のモデレータがいる場合、ToDo を分割して対応することもできます。モデレーションインサイトはクリック可能なタイルで構成されるようになったため、簡単に活動を追跡してその日の予定を組むことができます。

すべてのフィードコメントフラグを表示するには、[フィードコメントフラグ]をクリックし、フィードコメントフラグインサイトレポートに直接移動します。インサイトレポートから直接フラグ付きコメントを承認したり、削除したりできます。

例: [モデレーションの概要] の [フィードコメントフラグ]。



ヒント: Winter '17 のリリース直後に AppExchange から入手可能になる Salesforce Communities Management パッケージをインストールまたはアップグレードします。このパッケージでは、プリセットアクションを使用する事前設定されたインサイトレポートを利用できます。

外部ユーザによるコミュニティコンテンツのモデレートを許可

優秀なモデレータを抱える外部機関を利用し、内部組織のライセンスを付与せずにコミュニティの保護を依頼したいと思ったことはないでしょうか。新しい「コミュニティ管理にアクセス」権限でこれが可能になりました。「コミュニティ管理にアクセス」権限では、外部ユーザが[コミュニティ管理]コンソールにアクセスできます。コミュニティの設定やモデレーションルールへのアクセスを許可する必要はありません。コミュニティのメンバーで、モデレーション権限と「レポート実行」権限を持つユーザは、内部組織のライセンスなしで[コミュニティ管理] からコミュニティをモデレートできます。

コミュニティで作成されたコンテンツを、コミュニティモデレータが確認および承認できるようにするには、次のユーザ権限を割り当てる必要があります。

権限	ユーザに許可される操作
コミュニティフィードのモデレート	フラグ付きの投稿およびコメントを確認し、フラグの削除や投稿またはコメントの削除などの対応策を実行します。フィードコンテンツのモデレータオプションは、コミュニティフィードおよび[コミュニティ管理] で使用できます。
コミュニティファイルのモデレート	アクセス権のあるフラグ付きファイルを確認し、フラグの削除やファイルの削除などの対応策を実行します。ファイルのモデレータオプションは、ファイルの詳細ページおよび [コミュニティ管理] から使用できます。
コミュニティ Chatter メッセージのモデレート	フラグが設定されたメッセージを確認し、フラグの削除やメッセージの削除などのアクションを実行します。ユーザは、この権限により、メンバーであるコミュニティでフラグが設定されているメッセージにのみアクセスできます。
フィード投稿とコメントの承認	確認待機中の投稿とコメントの承認または削除を行います。
コミュニティユーザのモデレート	コミュニティのメンバーである外部ユーザを凍結します。モデレータは、メンバーのユーザプロファイルページまたはメンバーレポートでメンバーを凍結できます。
コミュニティ管理にアクセス	[コミュニティ管理] で使用できるページにアクセスします。

メモ:「コミュニティ管理にアクセス」権限と「レポート実行」権限には、カスタマーコミュニティプラスまたはパートナーコミュニティライセンスが必要です。

事前モデレーション:コミュニティメンバーからの投稿とコメントの確認(正式リリース)

コミュニティマネージャとモデレータには、スパム送信者や悪意のあるメンバーに対する別の防御レベルが備わっています。コミュニティメンバーが作成した投稿とコメントを確認および承認するモデレーションルールを設定します。コンテンツを確認するルールがあることで、ルールに違反するコンテンツや不適切なコンテンツがコミュニティ内のすべてのユーザに表示される前に確認されます。事前モデレーションは、カスタマーサービス (Napili) テンプレートおよび Salesforce タブ + Visualforce を使用するコミュニティの投稿とコメントで完全にサポートされています。

投稿とコメントを確認するモデレーションルールはどのように設定しますか?

コンテンツを確認するルールは、[コミュニティ管理] の [モデレーション] > [ルール] で作成および管理できます。コンテンツルールを作成し、モデレーションアクションに [確認] を使用します。メタデータ API または Tooling API を使用して、投稿を確認および承認するルールを設定することもできます。

モデレータに必要な権限は?

コミュニティモデレータとマネージャが投稿とコメントを確認および承認できるようにするには、次のユーザ権限を割り当てる必要があります。

タスク	必要なユーザ権限
コミュニティフィードで確認待機中の投稿またはコメントを承認、編集、削除する	「フィード投稿とコメントの承認」
[コミュニティ管理] で確認待機中の投稿またはコメントを承認、編集、削除する	「フィード投稿とコメントの承認」 および 「コミュニティ管理にアクセス」または「コミュニティの管理」または「コミュニティの作成および設定」 および アクセスしようとする [コミュニティ管理] ページのコミュニティメンバーである AppExchange から Salesforce Communities Management パッケージ (Winter '17 リリースの直後に入手可能) をダウンロードして、投稿の確認を管理できる定義済みのインサイトレポートを取得します。

コミュニティマネージャは、新しい [モデレーションの概要] ページから簡単にインサイトレポートにアクセスしてコメントを一括で承認または削除できます。

モデレーションルールの設定と投稿の確認についての詳細は、「コミュニティをモデレートするコンテンツルールの作成」および「コミュニティでの投稿の確認と承認 (ベータ)」を参照してください。

コメントの事前モデレーション — スパムをここで阻止

以前のリリースで、コミュニティウォールに不快な投稿を残すスパム送信者は、事前モデレーションルールでブロックされるようになりました。今回のリリースで、スパム送信者はさらに窮地に追い込まれます。ルールに違反する投稿や不適切な投稿を阻止するためにコミュニティで使用されるモデレーションルールが、コメントにも適用されるようになりました。モデレータは、フィード投稿とコメントの状況値を確認待機中から公開済みに変更したり、再び戻したりすることもできます。コミュニティメンバーが作成したコンテンツを確認および承認する、モデレーションルールを設定してリラックスしましょう。これでスパムを見逃すことはなくなります。

コンテンツを確認するルールは、[コミュニティ管理] の [モデレーション] > [ルール] で作成および管理できます。コンテンツルールを作成し、モデレーションアクションに [確認] を使用します。メタデータ API または Tooling API を使用して、フィードの投稿とコメントを確認および承認するルールを設定することもできます。

Chatter REST API および Apex の Chatter では、投稿とコメントの状況値を確認待機中から公開済みに変更したり再び戻したりすることができます。

Salesforce タブ + Visualforce コミュニティでの事前モデレーションの使用

カスタマーサービス (Napili) テンプレートだけでなく、Salesforce タブ + Visualforce コミュニティの投稿とコメントでも事前モデレーションを使用できるようになりました。事前モデレーションルールを設定して、フィードパブリッシャーアクションで実行することもできます。

コンテンツを確認するルールは、[コミュニティ管理] の [モデレーション] > [ルール] で作成および管理できます。コンテンツルールを作成し、モデレーションアクションに [確認] を使用します。メタデータ API または Tooling API を使用して、コミュニティで作成されたコンテンツを確認および承認するルールを設定することもできます。

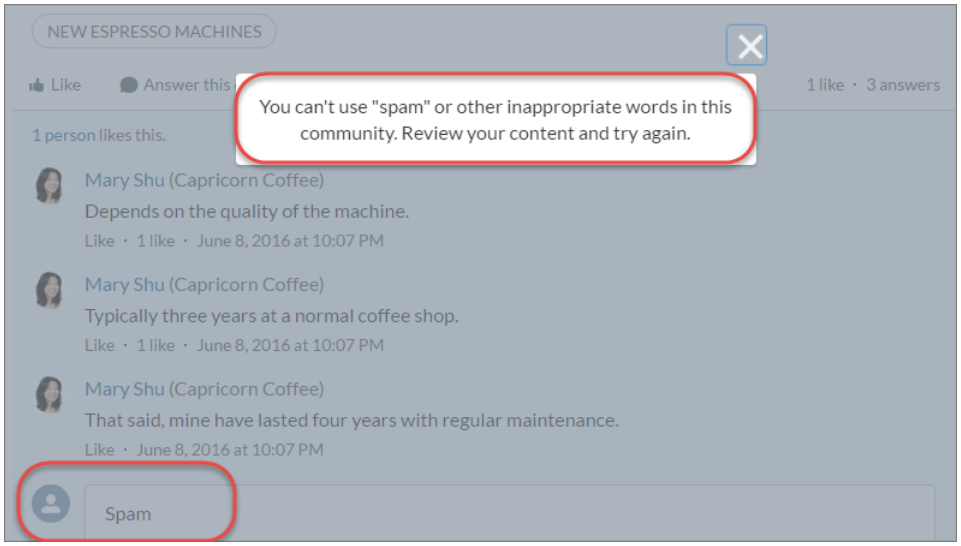
レコードフィードのモデレーション

モデレーションは、メインコミュニティフィードにバインドされなくなりました。モデレーションルールはレコードフィードにも適用されるようになりました。コミュニティメンバーは、フィードのあるレコードタイプにコメントできます。コミュニティモデレータは、ディスカッションがコミュニティのガイドラインに従っているかどうかを確認できます。

たとえば、コミュニティが特定の商品のフィードバックを推進しているとします。顧客が商品ページに移動し、そこでディスカッションを行うことができます。投稿またはコメントがモデレーションルール条件を満たしていない場合、コミュニティに設定されたモデレーションルールで規制されます。レコードフィードのフラグは、フラグが付けられたコミュニティ内のみに表示されます。

さらに、内部ユーザのフィード活動がフラグ付けされないように、内部ユーザのモデレーションルールをオフにできます。サポートチームが同じレコードタイプにコメントを追加すれば、モデレーションルールでフラグ付けされたリブロックされることなく顧客をサポートできます。

例: 商品へのコメントでスパムとしてフラグ付けされたもののエラーメッセージ



スパムとマークしてメモを残す

マネージャは、投稿が削除された理由を尋ねるメールを受信してその回答を探し求めることにうんざりしているのではないでしょうか。「申し訳ありませんが、投稿はコミュニティのメンバーによって不適切とフラグ付けされました」というメッセージの横にその理由があれば、この問題は解決されます。コミュニティメンバーは、投稿を不適切またはスパムとマークするときにその理由を指定できるようになりました。

メンバーが投稿やコメントにフラグ付けするには、システム管理者がコミュニティモデレーションを有効にする必要があります。

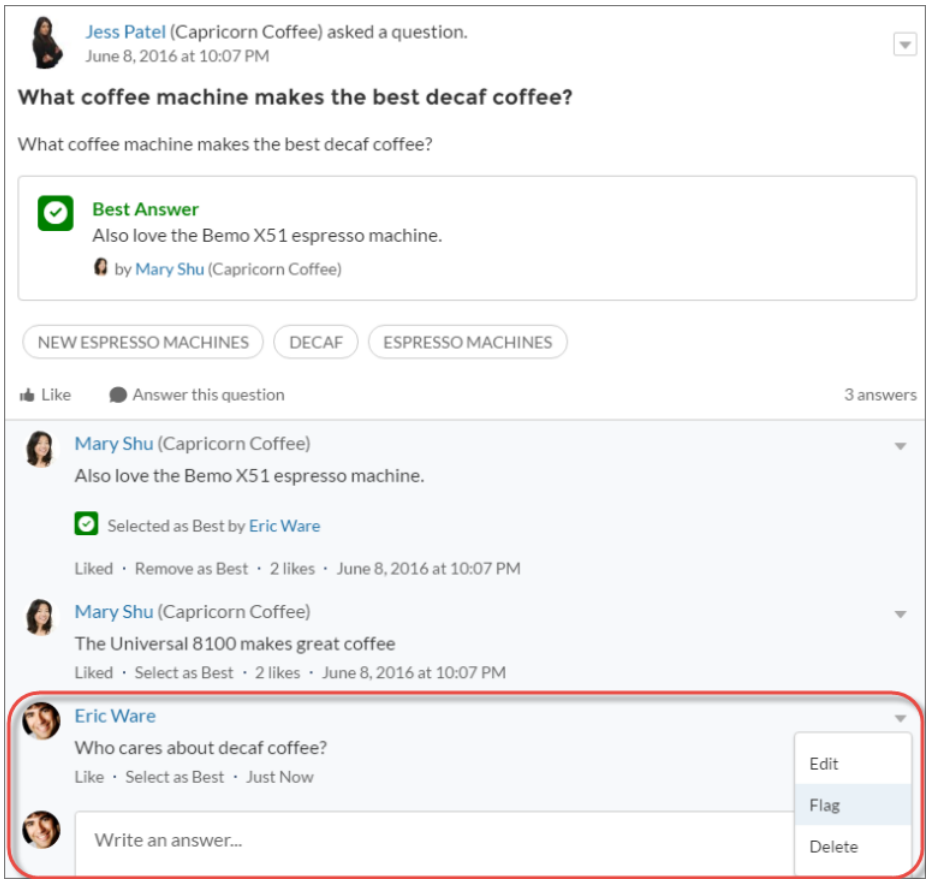
投稿にマークするには、[フラグ] を選択します。次に、投稿を不適切またはスパムと指定します。コミュニティモデレータへのメッセージを残すこともできます。フラグ付き投稿インサイトレポートに、モデレーション種別とメッセージが表示されます。

Site.com を使用している場合、これらの機能は使用できません。

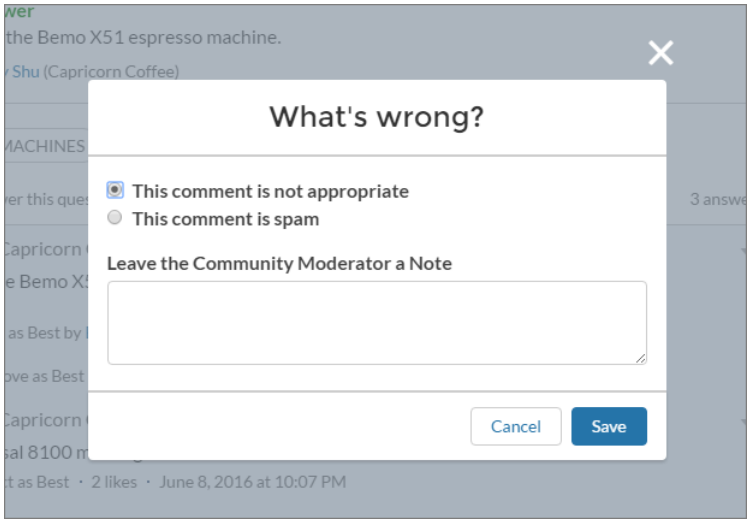
ヒント: フラグ付き投稿インサイトレポートや他のモデレーションインサイトには、[コミュニティ管理] の [モデレーションの概要] ページからアクセスします。

Chatter REST API および Apex の Chatter では、投稿やコメントを不適切またはスパムとマークし、メモを残すことができます。

例: コミュニティディスカッションの不適切なコメント



例: スパムまたは不適切とマークしてメモを残すオプション



フラグ付きコメントインサイトレポート

アクション可能なインサイトは、コミュニティマネージャにとっては夢が実現したようなものであることを理解しています。そのため、このリリースで新しいインサイトを追加しました。フラグ付きコメントインサイトレポートを使用して、フラグ付きコメントを削除できます。[モデレーション種別]列には、項目にスパムと不適切のどちらのフラグが付けられているかが示されます。これらのアクションは、コミュニティを使用するすべての組織で使用できます。アクションを取得するためにパッケージをインストールする必要はありません。必要なのは、アクションを使用するレポートのみです。

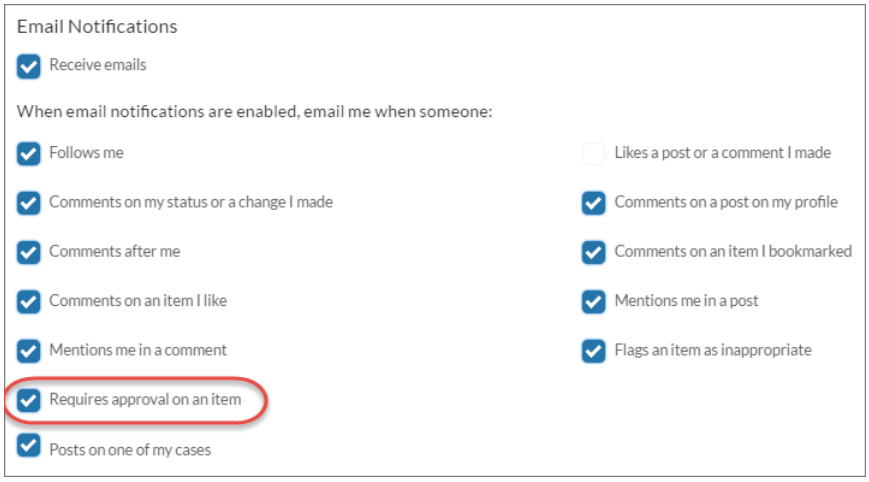
ヒント: Winter '17 のリリース直後に AppExchange から入手可能になる Salesforce Communities Management パッケージをインストールします。このパッケージでは、プリセットアクションを使用する事前設定されたインサイトレポートを利用できます。

投稿またはコメントが確認待機中の場合に通知を受信

項目が確認待ちのときに通知されるようになったため、簡単に確認待機中を追跡できます。そうです! カスタマーサービス (Napili) テンプレートまたは Salesforce タブ + Visualforce コミュニティを使用するコミュニティモデレータとマネージャは、投稿またはコメントが確認待機中になったときにメール通知を受信することを選択できます。

コミュニティモデレータとマネージャが投稿とコメントを承認して確認するには、「投稿とコメントの承認」権限が割り当てられている必要があります。モデレータが通知メールを受信するには、ユーザプロファイルの [メール設定] で [項目の承認が必要] を選択します。カスタマーサービス (Napili) テンプレートを使用するモデレータとコミュニティマネージャは、投稿またはコメントがフラグ付けされたときに通知メールを受信することも選択できます。

例: 項目の承認が必要なときにメール通知を受信するためのメール設定

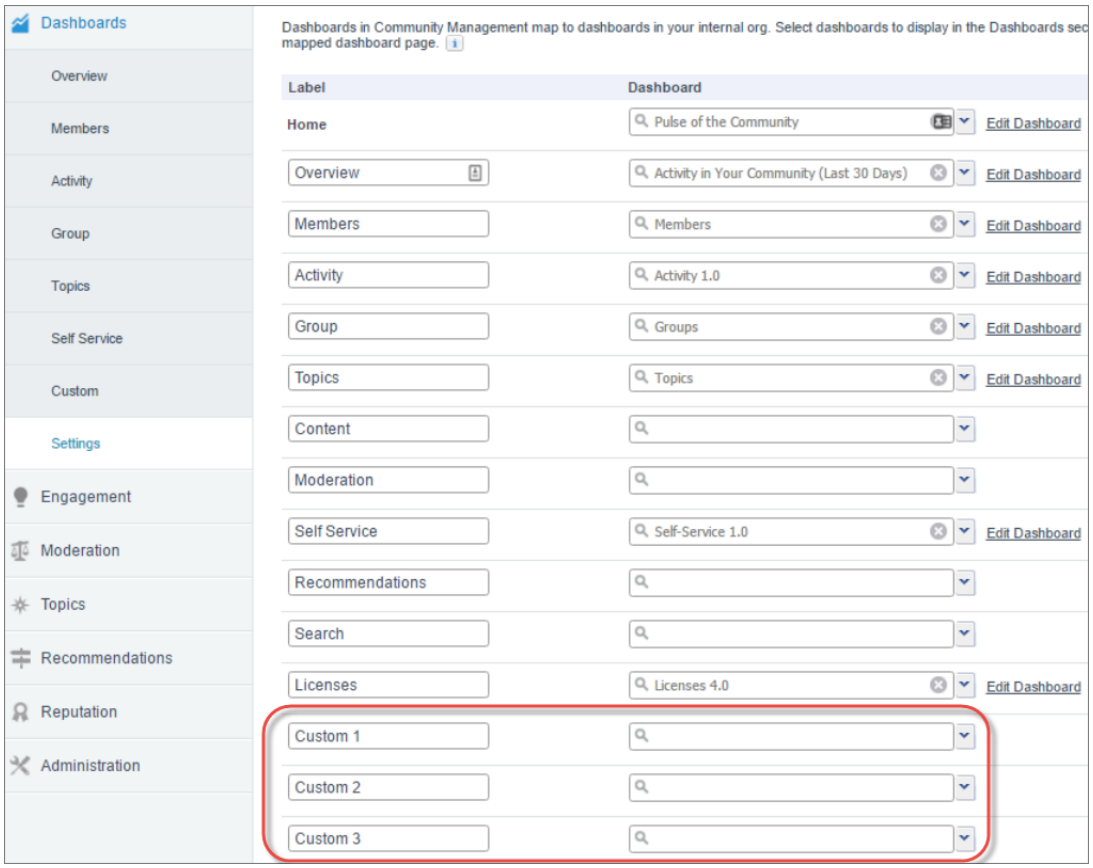


独自のコミュニティダッシュボードの作成と任意のラベルの使用

ダッシュボードは非常に便利です。本当に必要な情報が含まれていれば、その情報の概要が表示されます。この便利なダッシュボードにいくつかの機能が追加されました。カスタムダッシュボードタブでは、ダッシュボードをカスタマイズできます。さらに、必要に応じて既存のダッシュボードのタブ名と表示ラベルを編集できます。

[コミュニティ管理] で [ダッシュボード] > [設定] に移動し、表示ラベルをカスタマイズしてダッシュボードを目的のページに対応付けます。

例: ダッシュボードの設定ページ



おすすめをクリックした人の判別

カスタムのおすすめURLにコンテキスト変数を追加して、だれがおすすめをクリックし、それがどのコンテキストかの情報を取得できます。おすすめをだれがクリックしたかを知ることは、最新すぎず、古すぎない、適切なおすすめの作成に役立ちます。

[コミュニティ管理] で、[おすすめ] を選択します。`https://` 項目では、コンテキスト変数がサポートされています。たとえば、URL、`https://www.example.com/doSurvey?userId={!userId}` に `{!userId}` コンテキスト変数を追加します。おすすめ内のボタンをユーザがクリックすると、Salesforceにより、そのユーザのIDがHTTP要求をしたサーバに送信されます。

おすすめでは、次のコンテキスト変数がサポートされます。

コンテキスト変数	説明
`{!actionLinkId}`	ユーザがクリックしたおすすめリンクの ID。
`{!actionLinkGroupId}`	ユーザがクリックしたおすすめを含むおすすめリンクグループの ID。
`{!communityId}`	ユーザがおすすめをクリックしたコミュニティの ID。内部の Salesforce 組織の値は空のキー `"000000000000000000"` です。
`{!orgId}`	ユーザがおすすめをクリックした組織の ID。
`{!userId}`	おすすめをクリックしたユーザの ID。

大きく丸くなったユーザプロファイル写真

プロファイルページをモダンな外観に更新しています。それに伴い、今までよりも大きい、丸くトリミングされたユーザプロファイル写真が追加されました。トリミングが不適切な場合、写真を再度アップロードするか、新しい写真をアップロードできます。問題を事前に防ぐために、Winter '17 の稼働開始前に Sandbox 環境でユーザのプロファイル写真を確認することをお勧めします。丸い写真がコミュニティに適していないと判断した場合には、無効にして長方形の写真を保持できます。

カスタムコミュニティロールと会社名によるメンバーの識別

コミュニティでは多くの場合、ユーザは会社名または「顧客」や「パートナー」のロールラベルで識別されます。Winter '17 で、この「コミュニティロール」機能が更新されました。まず、ユーザに他のユーザの会社名ロールが表示されないようにできます。さらに、3 番目のロールの「従業員」が追加されました。最後に、ロールラベルをカスタマイズしたりオフにしたりできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

ロールラベルを変更するには、テキストを置き換えます。使用しないロールがいくつかある場合は、その項目を空白のままにします。

グループメンバーをスマートに追加

検索インテリジェンスを使用すると、グループに追加するメンバーが推奨されます。検索時に、やりとりしたことのあるメンバー、およびグループに参加する可能性が高いメンバーが推奨されます。

関連トピック:

スマートな方法でグループメンバーを追加

[グループエンゲージメント] タブのカスタマイズ

前回のリリースで、Lightning Experience に、分かりやすいデータを備えたグループエンゲージメントが導入されました。そのグループエンゲージメントがコミュニティテンプレートで使用できるように拡張されたため、グラフとレポートによってメンバーとグループのやりとりを確認できます。さらに、個々のエンゲージメントコンポーネントを分離し、どのコンポーネントをどこで使用するかを選択できるようになりました。

グループの作成ウィザード

グループ作成のプロセスが合理化され、簡単に使用できるようになりました。グループをあっという間に設定できます。

関連トピック:

グループの魔法使い (ウィザード) の表示

お知らせに関するメール (正式リリース)

お知らせに関するメールのベータは終了し、メンバーのメール設定に関わらず、すべてのメンバーに一度にお知らせメールを送信できるようになりました。

関連トピック:

お知らせに関するメールが正式リリースに

カスタマイズ可能なグループ (ベータ)

必要な外観、デザイン、機能を持つ、カスタマイズ可能なグループを作成できます。

メモ: このリリースには、ベータバージョンのカスタマイズ可能なグループが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。カスタマイズ可能なグループは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。機能に関するフィードバックや提案は、Success コミュニティの IdeaExchange に投稿してください。

関連トピック:

カスタマイズ可能なグループを使用したグループの自在な作成 (ベータ)

カスタムグループレポートグラフ

独自のグループのレポートグラフを作成し、必要なデータを、整然とした視覚的にも分かりやすい形で取得できます。

関連トピック:

DIY カスタムレポートグラフによるカスタマイズ

単独の [メンバーの追加] コンポーネントが使用可能に

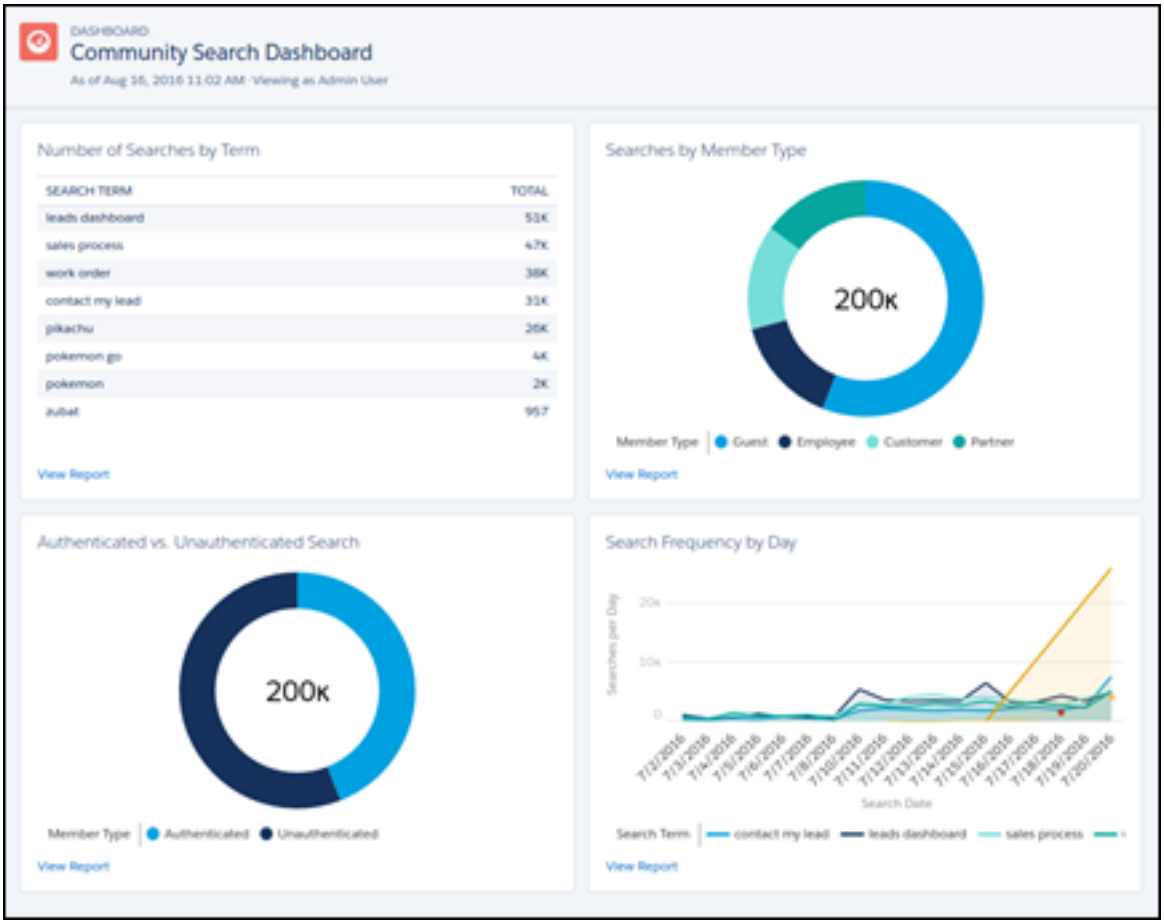
従来よりも簡単にグループのメンバーを入力できるように、グループページ用の永続的な[メンバーの追加]コンポーネントが作成されました。別のダイアログを開くことなく、新規メンバーをすぐに追加できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

検索ダッシュボードによるコミュニティの検索品質の向上

カスタマーコミュニティにアクセスし、特定のトピックを探したのに見つからず、質問からの回答を得るためにサポートにケースを登録しなければならなかったという経験は誰にでもあるでしょう。これは非常にストレスが溜まりますね。今回のリリースでは、コミュニティの検索品質を向上させることによって、お客様がこのストレスの溜まる作業を回避できるようになりました。検索ダッシュボードを使用すると、コミュニティで実行される検索に基づいて特定の総計値を設定できます。ユーザの種別によって、結果を絞り込むこともできます。検索を実行していたユーザがログインメンバーか、それとも単にコミュニティを閲覧しているゲストユーザかなどです。あるいは、メンバーが用語を検索するためにオートコンプリートをどの程度の頻度で使用したかによって絞り込むこともできます。

最もよく検索されている用語に対して、不足している記事を追加します。最もよく検索されている用語に基づいて記事にトピックを割り当てます。コミュニティメンバーに役立つようにコンテンツを選定します。検索を思いのままに活用しましょう。

ヒント: Winter '17 バージョンの Salesforce Communities Management パッケージはリリース直後に AppExchange で入手できます。



コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

デフォルトのグループアイコンを改善

デフォルトのグループアイコンが更新され、新規グループの外観がこれまでよりもモダンになりました。

Salesforce1 の Visualforce ページ間のリンク

Salesforce1 で Visualforce ページから他の Visualforce ページに簡単にリンクするには、コミュニティ設定で [コミュニティの **Salesforce1** 設定] の下のオプションをオンにします。この設定をオンにすると、すべてのコミュニティ URL の Apex プレフィックスが保持されます。

デフォルトページのバリエーションが不要に

以前は、コミュニティにはデフォルトページが必要でした。もう必要ありません。この制限が取り除かれました。これにより、たとえばマーケティングチームのランディングページはそのページにアクセスする必要があるメンバーのみに表示し、残りのコミュニティメンバーには表示されないようにすることができます。

ナビゲーションメニューへの未公開のページの追加不可

コミュニティナビゲーションメニューを編集する場合、公開済みのページのみを追加できます。ページが公開される前に追加した場合の問題を避けるため、未公開のページはページリストに表示されません。

ページ表示設定の自動公開の廃止

以前は、コミュニティでの作業時に選択したページ表示設定がすぐに公開され、懸念や混乱を招くことがありました。このリリースで、コミュニティを公開するまでページ表示設定の変更は公開されずに作業を続けられるようになり、必要なすべての変更を加えて準備ができたらリリースできるようになりました。

デフォルトのグループアイコンを改善

デフォルトのグループアイコンが更新され、新規グループの外観がこれまでよりもモダンになりました。

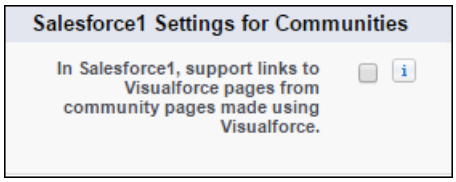
関連トピック:

グループアイコンのデザインの変更

Salesforce1 の Visualforce ページ間のリンク

Salesforce1 で Visualforce ページから他の Visualforce ページに簡単にリンクするには、コミュニティ設定で [コミュニティの **Salesforce1** 設定] の下のオプションをオンにします。この設定をオンにすると、すべてのコミュニティ URL の Apex プレフィックスが保持されます。

例:



メモ: Salesforce タブ + Visualforce テンプレートを使用したコミュニティのみが Salesforce1 アプリケーションのすべてでサポートされます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Access to Communities Using Salesforce1 (Salesforce1 を使用したコミュニティへのアクセス)

デフォルトページのバリエーションが不要に

以前は、コミュニティにはデフォルトページが必要でした。もう必要ありません。この制限が取り除かれました。これにより、たとえばマーケティングチームのランディングページはそのページにアクセスする必要があるメンバーのみに表示し、残りのコミュニティメンバーには表示されないようにすることができます。

ナビゲーションメニューへの未公開のページの追加不可

コミュニティナビゲーションメニューを編集する場合、公開済みのページのみを追加できます。ページが公開される前に追加した場合の問題を避けるため、未公開のページはページリストに表示されません。

ページ表示設定の自動公開の廃止

以前は、コミュニティでの作業時に選択したページ表示設定がすぐに公開され、懸念や混乱を招くことがありました。このリリースで、コミュニティを公開するまでページ表示設定の変更は公開されずに作業を続けられるようになり、必要なすべての変更を加えて準備ができたらリリースできるようになりました。

Chatter: 新しいグループウィザード、カスタムグループレポート、動画が使用可能に

フィードのグループフィード自動更新リッチコンテンツで、インライン画像とコードマークアップがサポートされ、コンテキスト内で動画が再生されるようになりました。また、カスタムグループレポートがサポートされ、操作性が向上したことにより、Chatter がさらに使いやすくなりました。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

グループ: 新しいウィザード、カスタムレポートグラフ、リアルタイム Chatter フィード
簡単なウィザードを使用したグループ作成、スマート提案を使用したメンバーの追加、カスタムレポートグラフの作成などを実行できます。

Chatter フィード: リアルタイムコメント、追加されたミュートオプション、動画の再生
もっと多くのフィードで質問したり、リアルタイムでコメントを表示したりできるようになりました。さらに、フィードで直接動画を再生するなど多くの機能が追加されています。

グループ: 新しいウィザード、カスタムレポートグラフ、リアルタイム Chatter フィード

簡単なウィザードを使用したグループ作成、スマート提案を使用したメンバーの追加、カスタムレポートグラフの作成などを実行できます。

このセクションの内容:

グループの魔法使い (ウィザード) の表示
グループ作成のプロセスを合理化し、簡単に新しいグループを設定できる一連の手順を考え出しました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

スマートな方法でグループメンバーを追加

グループへのメンバーの追加がさらに簡単になりました。的確な新しい [メンバーの追加] コンポーネントと、どのメンバーが適任かについてのインテリジェントな提案によって、初めからグループに適した人材を追加できます。スマート検索ボックスでは、他のメンバーやグループとのやりとりに基づいて、グループの一員となることを望む可能性が高いメンバーが提案されます。新しい検索には、入力中の名前候補の表示などの便利な機能も含まれています。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

DIY カスタムレポートグラフによるカスタマイズ

標準レポートは時間を節約できる一方で、求めているニュアンスを正確に捉えられないことがあります。そんなときは、グループのカスタムレポートグラフが便利です。リードや取引先などのグループに関連付けられたレコードに基づいてレポートを作成でき、新しいインサイトがグループに追加されます。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

グループフィードのライブ表示

Lightning Experience でグループフィードがリアルタイムに表示されます。ページを更新しなくても、ユーザの意見を発言と同時に確認できます。新規の投稿は、注意を引くために一時的に強調表示されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

お知らせに関するメールが正式リリースに

お知らせに関するメールがベータではなくなり、正式リリースとなりました。お知らせを投稿すると、グループマネージャはメールと通知をメールの設定に関わらずすべてのグループメンバーに送信でき、全員が情報を見たことを確認できます。一度に大量のユーザにスパムを送信できるため、この機能には権限による制限があります。グループ所有者がこの強力な機能を使用するには、システム管理者が「お知らせメールを送信」権限を有効にする必要があります。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

カスタマイズ可能なグループを使用したグループの自在な作成 (ベータ)

さまざまなグループレイアウト用に作成したすべてのページのバリエーションをレコードタイプに割り当てることができます。ユーザはグループを作成するときに最初にレコードタイプを選択し、それによりバリエーションが入力されます。あっという間に、カスタマイズされたグループレイアウトの準備ができます。やってみますか? この機能を有効にするには、Salesforce サポートにお問い合わせください。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できます。

グループアイコンのデザインの変更

見た目がきれいになったことはお話ししましたか?洗練された新しい外観に合わせて、デフォルトグループアイコンを更新しました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

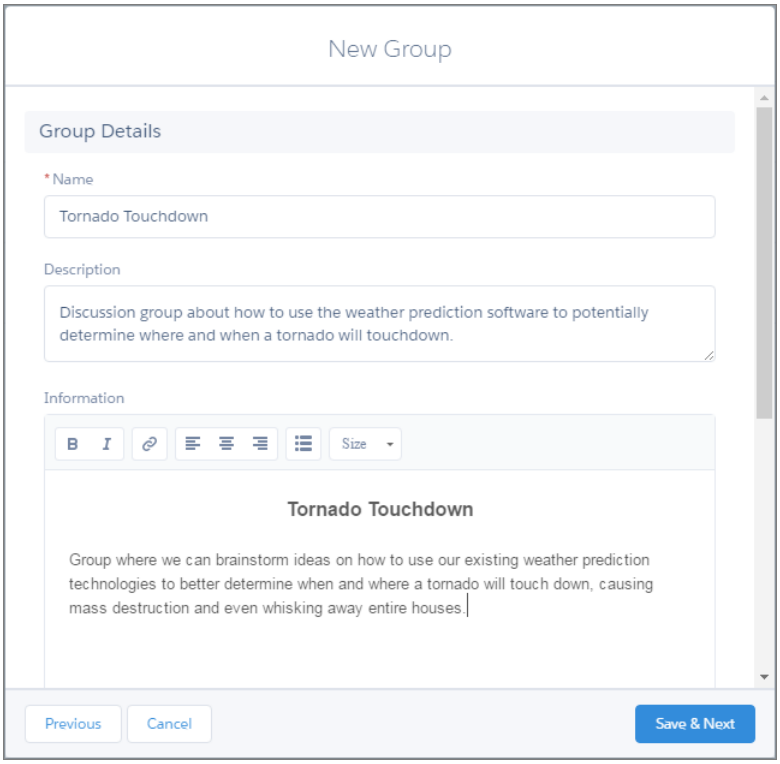
グループの魔法使い (ウィザード) の表示

グループ作成のプロセスを合理化し、簡単に新しいグループを設定できる一連の手順を考え出しました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

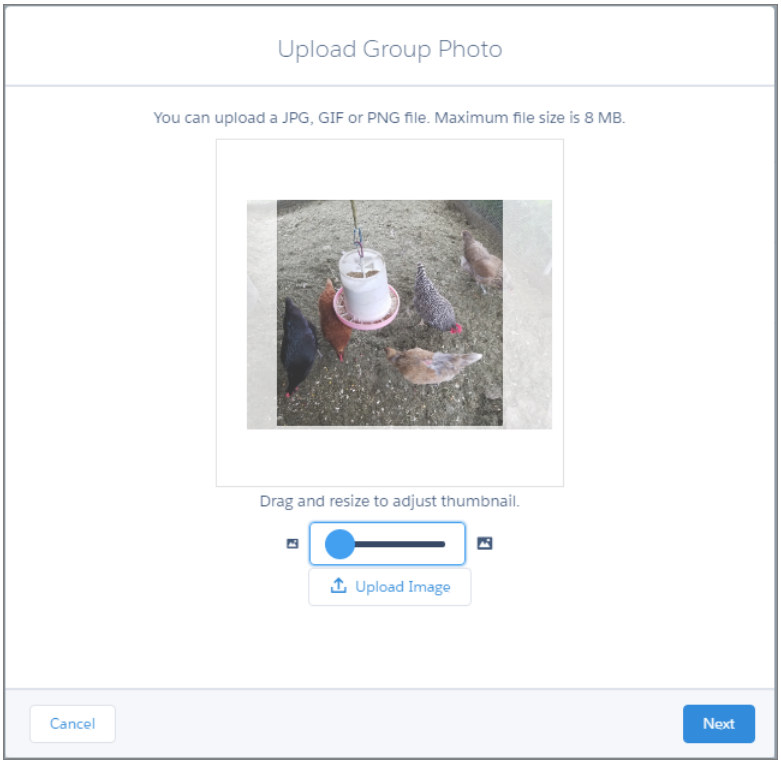
その動作を見たいですか? ドロシーの場合を見てみましょう。彼女の会社では、顧客や従業員とのやりとりにグループを使用しています。ドロシーはいくつかのグループのメンバーになっていますが、コメントで繰り返されるテーマがあることに気づきました。顧客と従業員の両方から、ドロシーの会社の天気図作成ソフトウェアを使用して竜巻が特定のエリアに着地する可能性を予測する方法について多くの質問やアイデアが寄せられていました。ドロシーはこの議論を一か所にまとめるためのグループを作成することにしました。

最初に、グループリストページに移動します。[新規]ボタンをクリックして作業を開始します。グループ名は「Tornado Touchdown」(トルネード タッチダウン)としました(ドロシーはスポーツファンなのです)。[説明]ボックスに、グループに関する 2 ～ 3 行の説明文を入力します。この情報は公開され、検索ソフトウェアによってインデックス化されるため、他のユーザが見つけやすいようにいくつかのキーワードを含めます。

[情報] ボックスに、さらに情報を追加します。この情報はリッチテキスト形式で [グループ] ページに表示されます。そこで、ドロシーはフォントサイズ、文字の太さなどを工夫します。彼女はここに他のグループやサイトへのリンクを追加することも検討しましたが、今はやめておくことにしました。



[保存&次へ]をクリックして、グループが作成されました。このステップでウィザードを終了することも、続行することもできます。ドロシーは、写真をアップロードすることにしました。自分のおばさんの農場で撮った写真を一時的に使用します。つまり、トルネードのよい写真を見つけるまで、ということです。



[次へ]をクリックして、メンバーの追加に進みます。1 文字入力すると名前がその文字で始まるメンバーの短いリストが表示されます。

[完了]をクリックすると、プロセス全体が完了し、新しいグループに移動します。ドロシーは、「グループへようこそ」という投稿を作成し、議論を開始する準備を整えます。その前に、子犬用のビスケットを取りに行きますが。

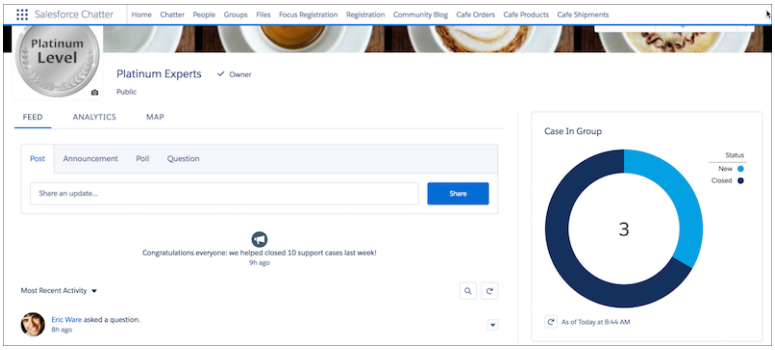
スマートな方法でグループメンバーを追加

グループへのメンバーの追加がさらに簡単になりました。的確な新しい[メンバーの追加]コンポーネントと、どのメンバーが適任かについてのインテリジェントな提案によって、初めからグループに適した人材を追加できます。スマート検索ボックスでは、他のメンバーやグループとのやりとりに基づいて、グループの一員となることを望む可能性が高いメンバーが提案されます。新しい検索には、入力中の名前候補の表示などの便利な機能も含まれています。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

DIY カスタムレポートグラフによるカスタマイズ

標準レポートは時間を節約できる一方で、求めているニュアンスを正確に捉えられないことがあります。そんなときは、グループのカスタムレポートグラフが便利です。リードや取引先などのグループに関連付けられたレコードに基づいてレポートを作成でき、新しいインサイトがグループに追加されます。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

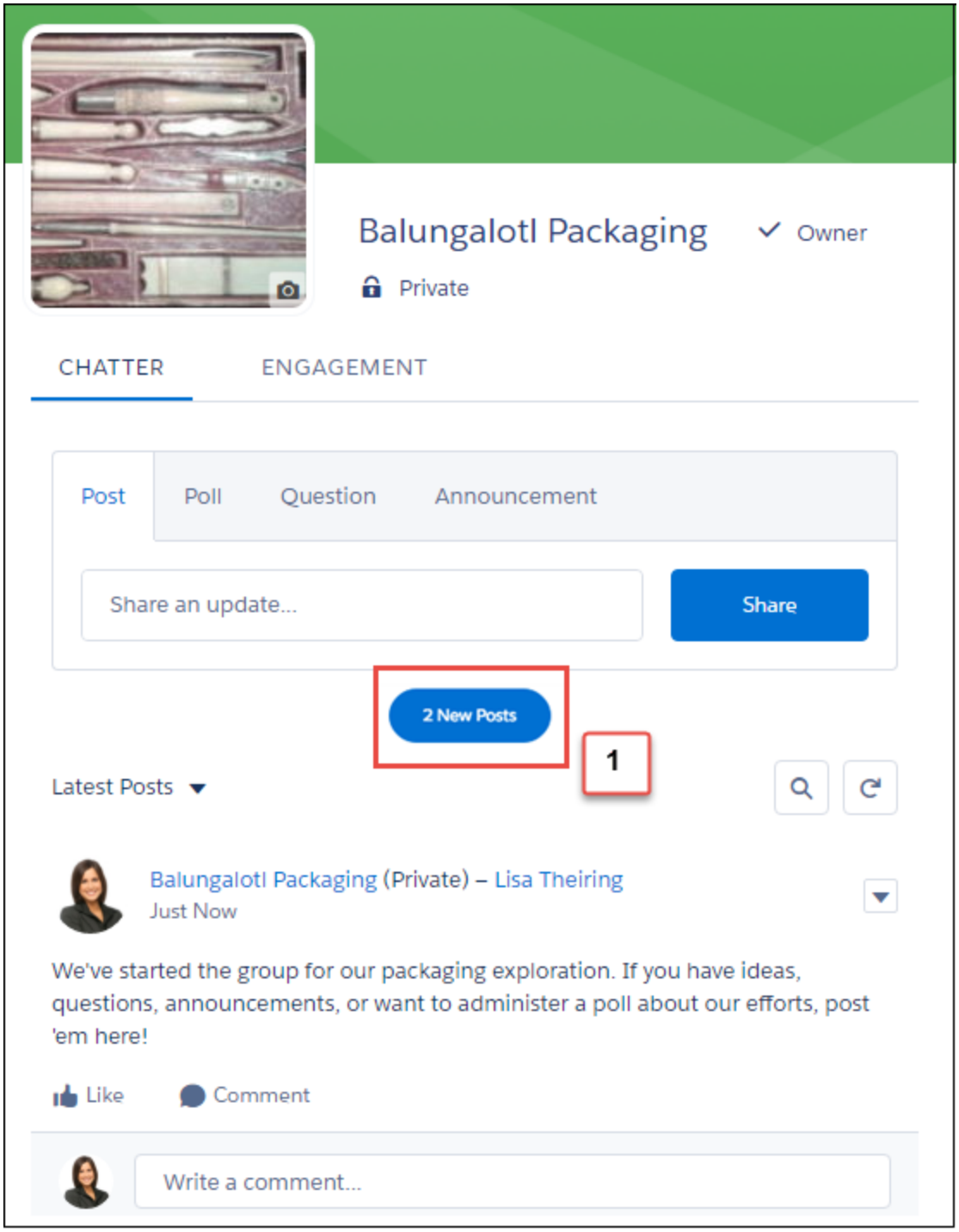
レポートグラフをグループに追加し、レポートがSalesforceの標準オブジェクト上にある場合、そのグループに関連するレコードにのみグラフの範囲を設定できます。たとえば、グループに関連する商談の完了値を表示する場合です。



グループフィードのライブ表示

Lightning Experience でグループフィードがリアルタイムに表示されます。ページを更新しなくても、ユーザの意見を発言と同時に確認できます。新規の投稿は、注意を引くために一時的に強調表示されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

新規投稿がライブフィードに追加されると、フィード上部にメッセージが一時的に表示されます (1)。



新規コメントがライブフィードに追加されると、コメントが一時的に黄色く点滅します。

しばらく席を外すか、ライブフィードから離れた場合は、ページを更新するとライブ状態に戻ります。

ライブグループフィードは新機能で、機能強化には多くの可能性があり、またいくつかの既知の問題もあります。

- グループに投稿されたコンテンツはライブですが、メンションはライブではありません。グループ A に投稿する場合、投稿はライブです。別のフィードでグループ A をメンションした場合、そのメンションを表示するにはページを更新する必要があります。
- グループに新規投稿が行われた場合は、Lightning Experience でのみ通知を受信します。
- 開いているフィード投稿に新規コメントが書き込まれた場合、コメントを入力中かコメントボックス内をクリック済みのときにのみ Lightning Experience で通知を受信します。
- ライブフィードでサポートされる参加者数は、組織の登録制限によって異なります。ライブグループフィードやライブコメントが使用できない場合は、ページを更新するか、コメント項目をクリックします。それでもフィードがライブにならない場合は、組織の制限に達したということになります。ページを更新すれば、従来の方法でコメントを更新できます。
- グループフィードを開いているのにライブになりそうもない場合、それは今後解消される既知の問題です。

お知らせに関するメールが正式リリースに

お知らせに関するメールがベータではなくなり、正式リリースとなりました。お知らせを投稿すると、グループマネージャはメールと通知をメールの設定に関わらずすべてのグループメンバーに送信でき、全員が情報を見たことを確認できます。一度に大量のユーザにスパムを送信できるため、この機能には権限による制限があります。グループ所有者がこの強力な機能を使用するには、システム管理者が「お知らせメールを送信」権限を有効にする必要があります。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

カスタマイズ可能なグループを使用したグループの自在な作成 (ベータ)

さまざまなグループレイアウト用に作成したすべてのページのバリエーションをレコードタイプに割り当てることができます。ユーザはグループを作成するときに最初にレコードタイプを選択し、それによりバリエーションが入力されます。あっという間に、カスタマイズされたグループレイアウトの準備ができます。やってみますか? この機能を有効にするには、Salesforce サポートにお問い合わせください。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できます。

メモ: カスタマイズ可能なグループを有効にすると、Lightning Experience と Salesforce1 の Chatter グループがレイアウト主導になります。

カスタマイズ可能なグループを有効にすると、ユーザはグループレコードタイプに基づいて、使用するグループの種別の選択を求められるようになります。作成するカスタマイズされたグループごとに、少なくとも 1 つのレコードタイプが必要です。何を選択すればいいかユーザが理解しやすくなるように、少し時間をかけて説明を作成してください。必要に応じて、レコードタイプを新規グループレイアウトと関連付けたり、クイックアクション、パブリッシャーアクション、関連リストをカスタマイズしたりできます。

次に、コミュニティビルダーで [ページマネージャ] に移動し、[グループ] で [詳細] を選択します。ここで、営業グループや上級ユーザなど、さまざまなユースケースのページバリエーションを作成できます。レコードタイプと関連付けるには、各バリエーションの表示設定を管理します。

これで完了です。

メモ: このリリースには、ベータバージョンのカスタマイズ可能なグループが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。カスタマイズ可能なグループは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声

明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。機能に関するフィードバックや提案は、Success コミュニティの IdeaExchange に投稿してください。

グループアイコンのデザインの変更

見た目がきれいになったことはお話ししましたか? 洗練された新しい外観に合わせて、デフォルトグループアイコンを更新しました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Chatter フィード: リアルタイムコメント、追加されたミュートオプション、動画の再生

もっと多くのフィードで質問したり、リアルタイムでコメントを表示したりできるようになりました。さらに、フィードで直接動画を再生するなど多くの機能が追加されています。

このセクションの内容:

「フィード」から「Chatter」への表示ラベル変更
質問パブリッシャーの使用可能な場所の増加
コメントのライブ表示
詳細ビューからのフィード項目のミュート

「フィード」から「Chatter」への表示ラベル変更

Lightning Experience でフィードを探すときには、代わりに「Chatter」を探してください。多くの場所で、フィードとコラボレーションという表示ラベルは Chatter に変更されています。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

質問パブリッシャーの使用可能な場所の増加

投稿とアンケートに続いて、Lightning およびコミュニティフィードに新しい公開オプションである質問が追加されました。質問パブリッシャーを使用して、質問をグループやコミュニティに投稿し、回答を広く募ることができます。質問を認知されやすくして、最適なソリューションを集めます。コミュニティでは、質問パブリッシャーは取引先、グループ、プロファイル、およびケースフィードで使用できます。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

コメントのライブ表示

Lightning Experience でコメントがリアルタイムに表示されます。ページの更新をしなくても、投稿についてのコメントが行われた瞬間にその内容を見ることができるようになりました。新規のコメントは、注意を引くために一時的に強調表示されます。登録後、コメントは更新されて常にライブ表示されます。登録は簡単で、コメント項目をクリックするだけです。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

詳細ビューからのフィード項目のミュート

Lightning Experience とコミュニティフィードで、詳細ビューからフィード投稿をミュートするオプションを使用できるようになりました。通知から詳細ビューに移動したときに、その場で直接、投稿をミュートできます。フィードで投稿の日付をクリックすると、詳細ビューに移動できます。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

フィードでの動画の直接再生

動画をフィードでインライン再生する機能が、Lightning Experience で使用できるようになりました。動画を投稿またはコメントに添付すると、誰でも投稿された場所で直接再生できます。この機能は、Salesforce Classic、Lightning Experience、およびカスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

コメントにいいね! と言うユーザの確認

Lightning Experience のコメントに、投稿にいいね! と言った人の完全なリストが表示されるようになりました。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

フィード投稿とコメントの編集場所の追加、参照カウントの取得

お待たせしていた機能がついに実現しました。Lightning Experience でフィード投稿とコメントを編集できます。システム管理者によるわずかな設定で、フィード投稿とコメントの両方のアクションメニューに[編集]オプションが表示されます。ぜひご利用ください。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

リッチコンテンツとインライン画像の使用可能な場所の増加

大文字表記だけでは十分ではない場合、太字、*斜体*、<u>アンダースコア</u>を使用できます。もっと視覚効果が必要ですか?投稿やコメントにインライン画像を追加しましょう。リッチコンテンツをほぼどこにでも使用できるようになったため、可能性は無限です。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

投稿とコメントのデザインの更新

投稿とコメントのモバイル表示に対する互換性が向上しました。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

名前にカーソルを置いてミニプロファイルを表示

名前にカーソルを置くと、個人のプロファイルの短いバージョンが表示されます。名前をクリックすると、詳細なプロファイルページが表示されます。フロート表示情報(コンパクトユーザプロファイルレイアウトから取得)も個人のプロファイル写真の横に表示されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

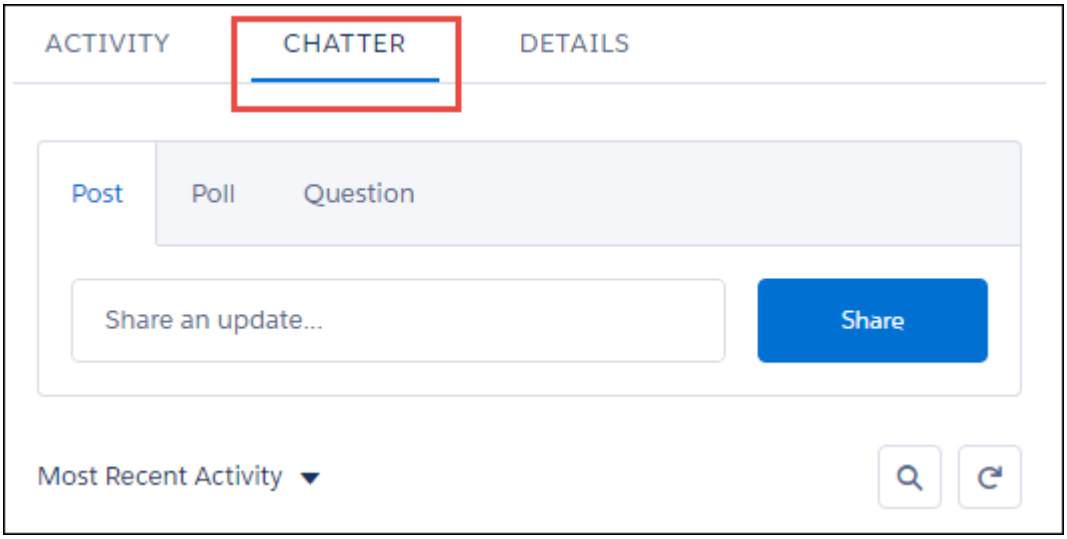
Chatter でニュースを共有

組織でニュースを有効にすると、営業担当は Chatter でニュース記事を共有できます。同僚との情報共有がさらに簡単になりました。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

「フィード」から「Chatter」への表示ラベル変更

Lightning Experience でフィードを探すときには、代わりに「Chatter」を探してください。多くの場所で、フィードとコラボレーションという表示ラベルは Chatter に変更されています。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

変更した理由は、Chatter があらゆるところで使用されており、それを知っていただくためです。



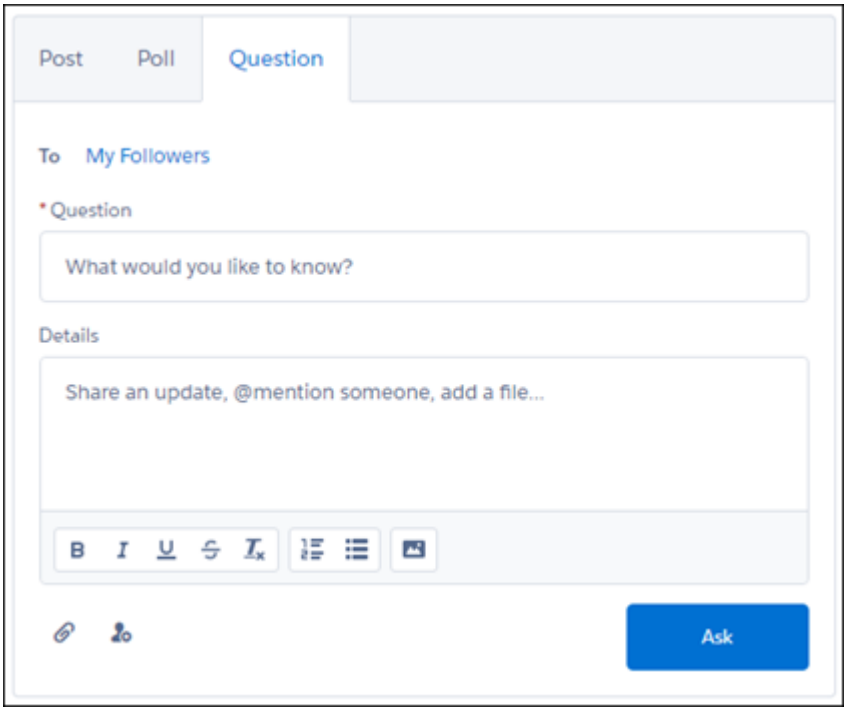
この変更は、ナビゲーション項目とレコードフィード (取引先、商談、グループ、ユーザプロファイル、ケース) に表示されます。

関連トピック:

Salesforce1 ナビゲーションメニューのフィード項目が Chatter に名称変更

質問パブリッシャーの使用可能な場所の増加

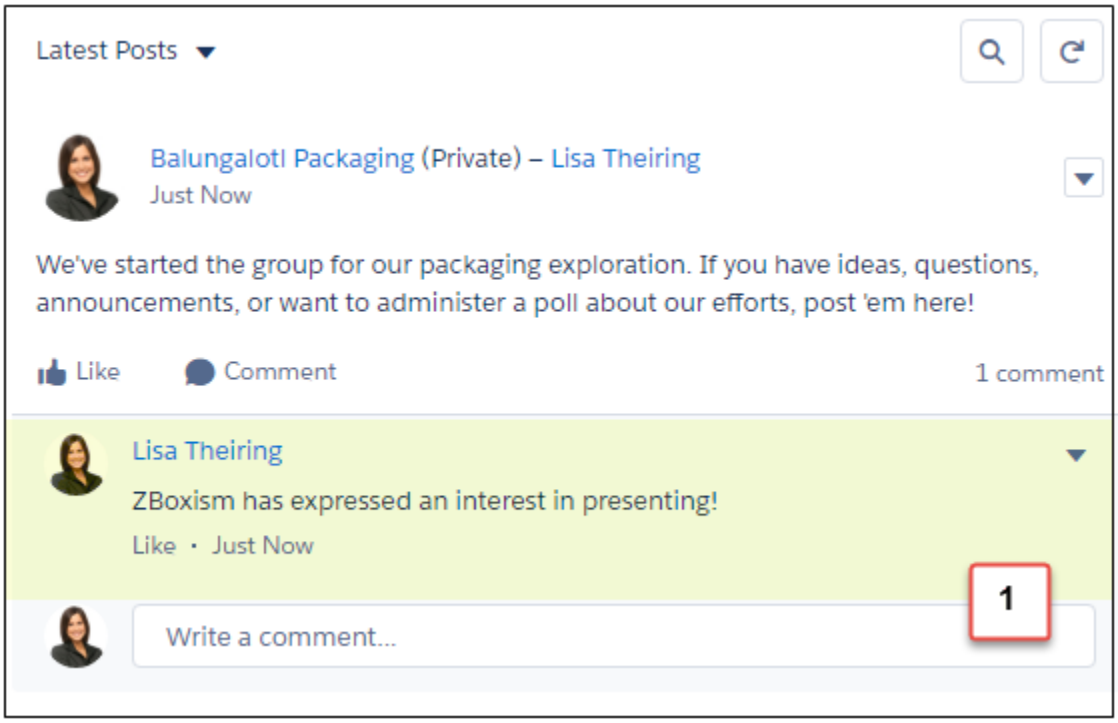
投稿とアンケートに続いて、Lightningおよびコミュニティフィードに新しい公開オプションである質問が追加されました。質問パブリッシャーを使用して、質問をグループやコミュニティに投稿し、回答を広く募ることができます。質問を認知されやすくして、最適なソリューションを集めます。コミュニティでは、質問パブリッシャーは取引先、グループ、プロファイル、およびケースフィードで使用できます。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。



コメントのライブ表示

Lightning Experience でコメントがリアルタイムに表示されます。ページの更新をしなくても、投稿についてのコメントが行われた瞬間にその内容を見ることができるようになりました。新規のコメントは、注意を引くために一時的に強調表示されます。登録後、コメントは更新されて常にライブ表示されます。登録は簡単で、コメント項目をクリックするだけです。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

ライブコメントが投稿されると、一時的に黄色く点滅します。



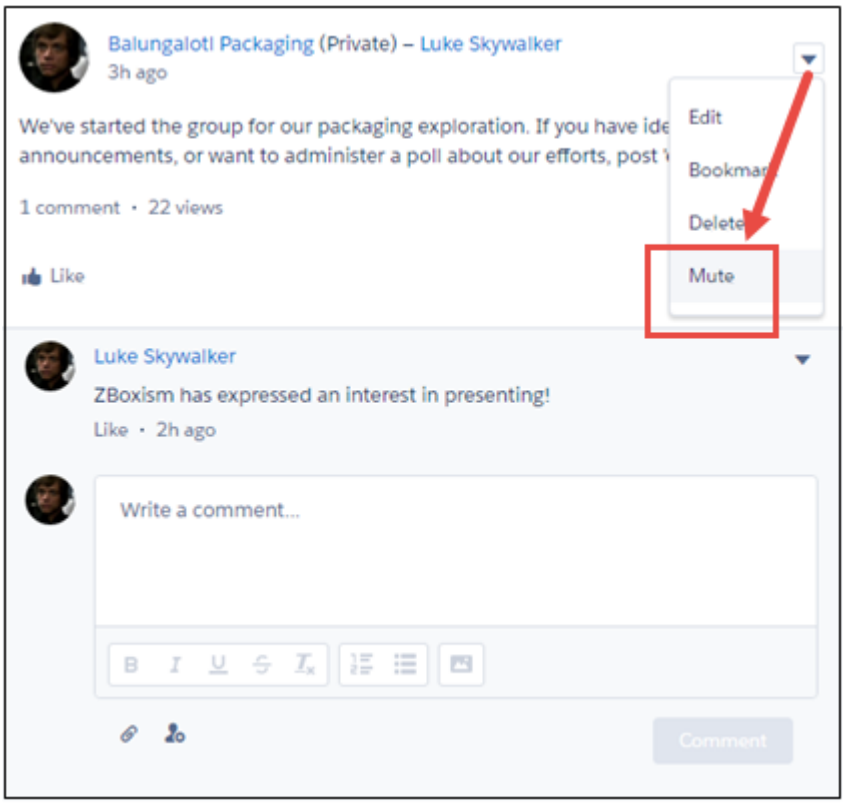
しばらく席を外すか、フィードから離れた場合は、コメント項目 (1) をクリックして再登録します。

ライブコメントは新機能で、機能強化には多くの可能性があり、またいくつかの既知の問題もあります。

- 開いているフィード投稿に新規コメントが書き込まれた場合は、Lightning Experience でのみ通知を受信します。コメントの入力中またはコメントボックス内をクリックしたときに、通知が表示されます。
- ライブコメントでサポートされる参加者数は、組織の登録制限によって異なります。ライブコメントが使用できない場合は、コメント項目をクリックします。それでもコメントがライブにならない場合は、組織の制限に達したということになります。ページを更新すれば、従来の方法でコメントを更新できます。

詳細ビューからのフィード項目のミュート

Lightning Experience とコミュニティフィードで、詳細ビューからフィード投稿をミュートするオプションを使用できるようになりました。通知から詳細ビューに移動したときに、その場で直接、投稿をミュートできます。フィードで投稿の日付をクリックすると、詳細ビューに移動できます。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

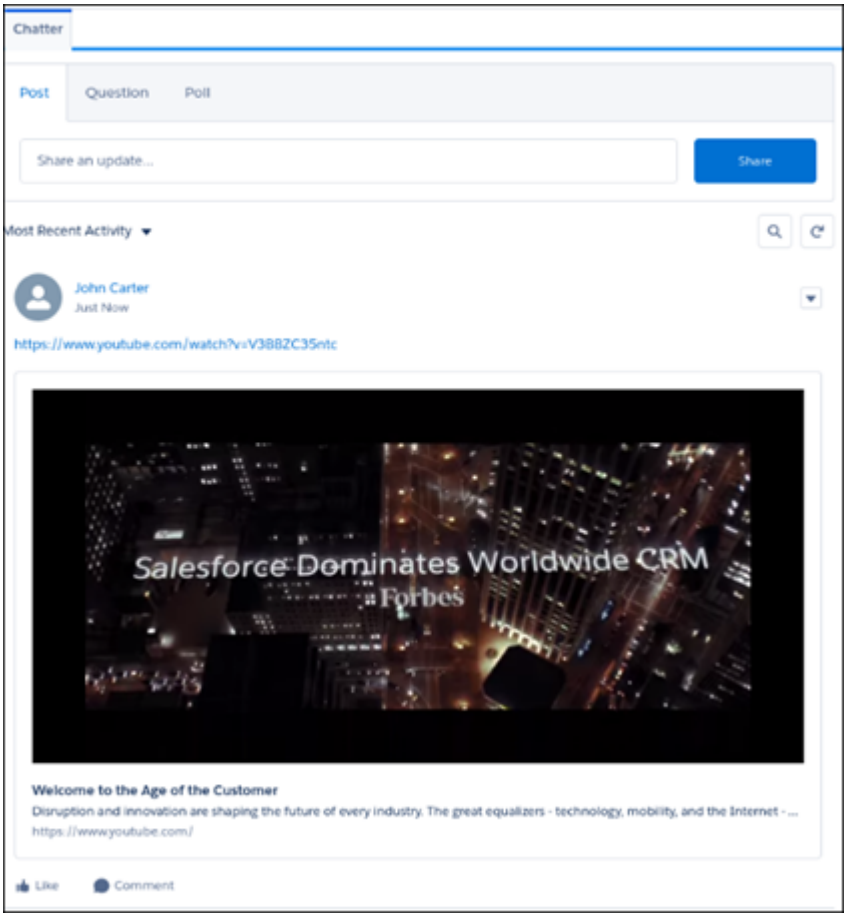


投稿をミュートすると、投稿がミュートされたことを確認する通知がポップアップ表示されます。まだフィードに投稿が表示されていますが、その投稿での活動に関する通知は、メンションされない限り受信しなくなります。メンションすると、投稿のミュートが解除されます。

通知を再開する場合は、投稿のアクションメニューから、[ミュート解除] を選択します。

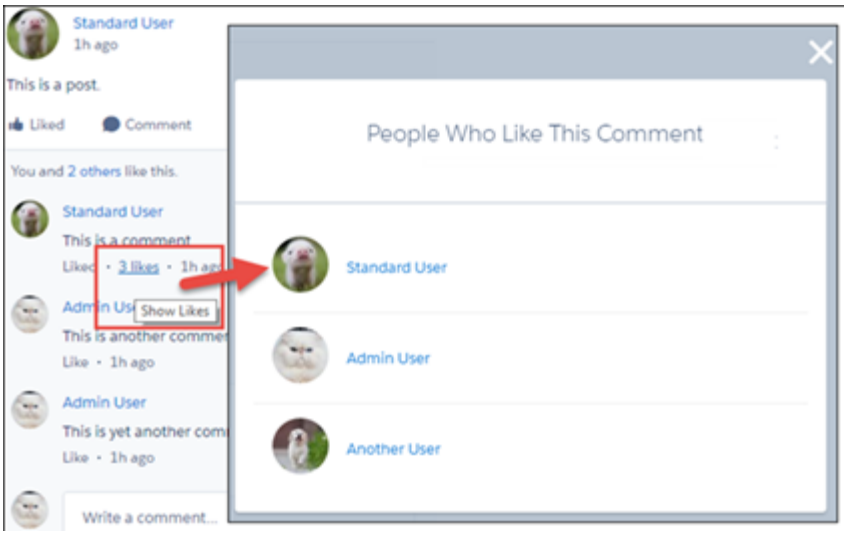
フィードでの動画の直接再生

動画をフィードでインライン再生する機能が、Lightning Experience で使用できるようになりました。動画を投稿またはコメントに添付すると、誰でも投稿された場所で直接再生できます。この機能は、Salesforce Classic、Lightning Experience、およびカスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。



コメントにいいね! と言うユーザの確認

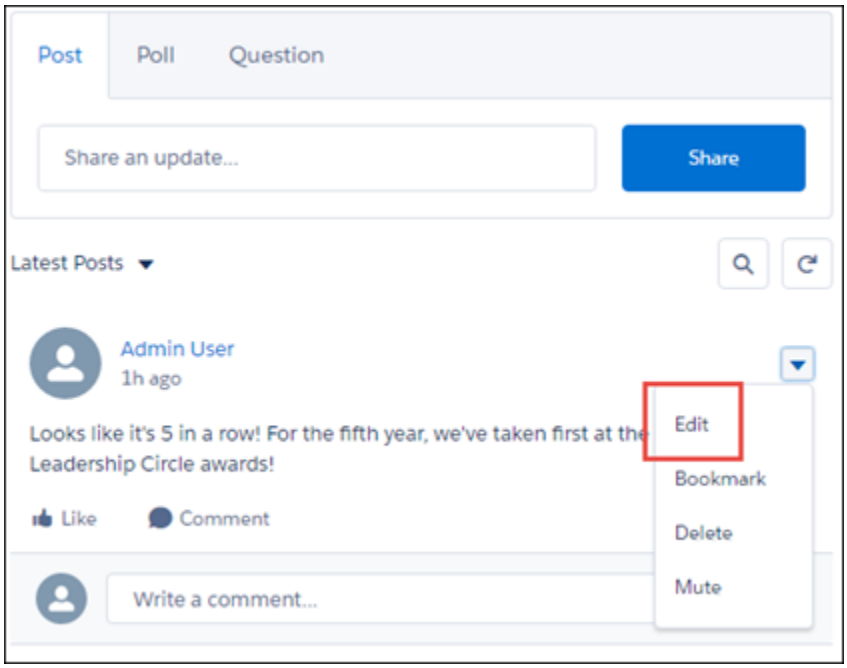
Lightning Experience のコメントに、投稿にいいね! と言った人の完全なリストが表示されるようになりました。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。



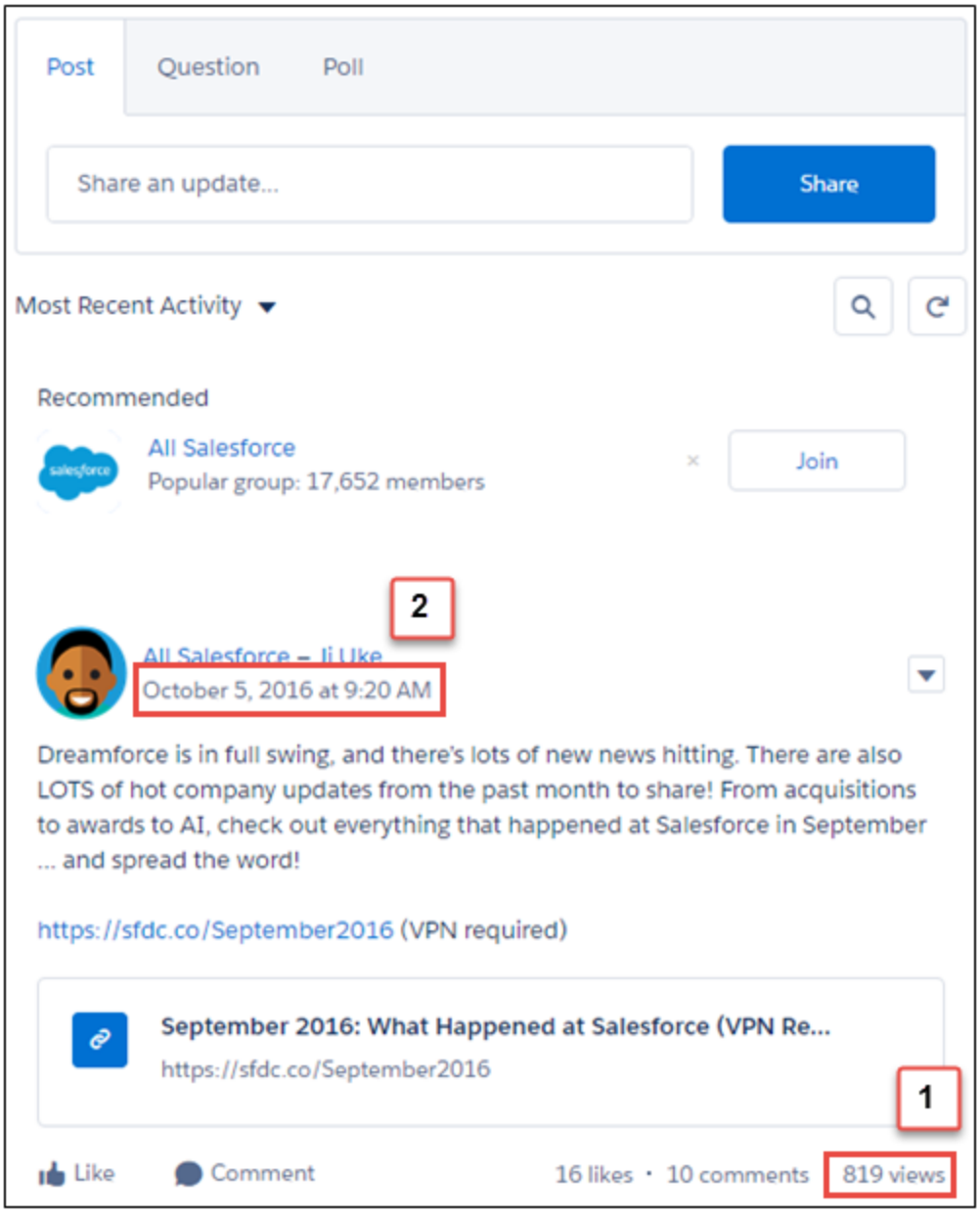
フィード投稿とコメントの編集場所の追加、参照カウントの取得

お待たせしていた機能がついに実現しました。Lightning Experience でフィード投稿とコメントを編集できます。システム管理者によるわずかな設定で、フィード投稿とコメントの両方のアクションメニューに [編集] オプションが表示されます。ぜひご利用ください。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

投稿とコメントを編集できるようにするには、ユーザプロファイルの[自分の投稿を編集]を有効にするようにシステム管理者に依頼してください。



ところが、それだけではありません。Lightning Experience では投稿の参照カウントも表示されるようになりました (1)。



参照カウントにより、投稿へのユーザの関心度や、その配置の効果を簡単に測定できます。カウント集計は、投稿にコメントやいいね! が追加されたとき、または投稿の詳細ページが表示されたときに増加します。

メモ: 投稿の詳細ビューを表示するには、その日時情報をクリックします (2)。

関連トピック:

Lightning Experience での投稿編集時のファイルの追加および削除

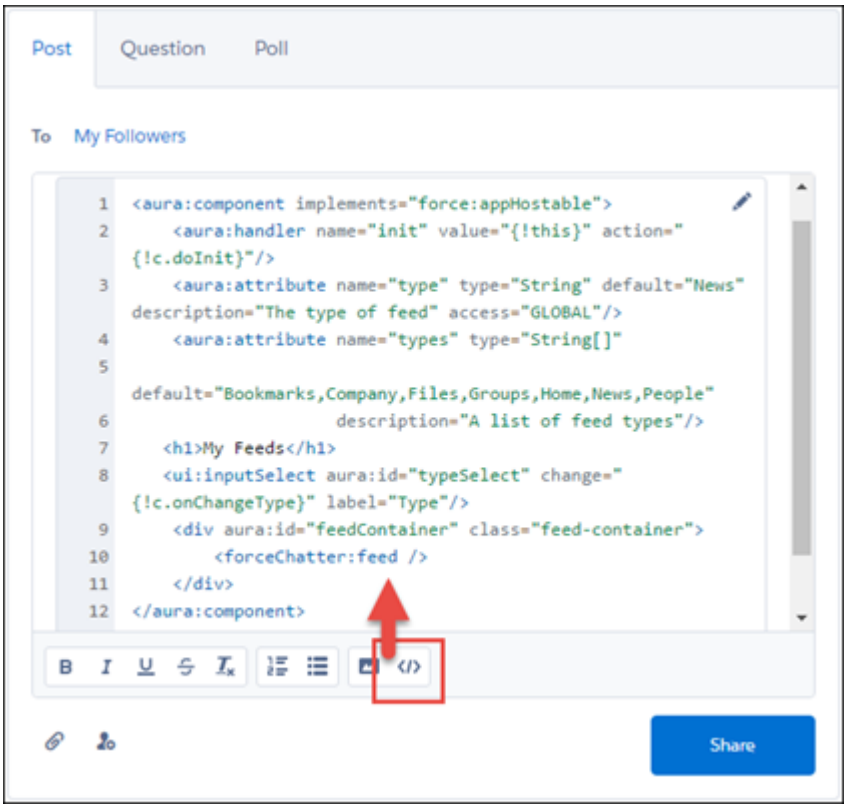
リッチコンテンツとインライン画像の使用可能な場所の増加

大文字表記だけでは十分ではない場合、太字、*斜体*、アンダースコアを使用できます。もっと視覚効果が必要ですか? 投稿やコメントにインライン画像を追加しましょう。リッチコンテンツをほぼどこにでも使用できるようになったため、可能性は無限です。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

リッチコンテンツはどのように役立つのでしょうか。テキストの強調表示、インライン画像の投稿、およびコードスニペットの追加が、簡単な設定で可能になります。投稿とコメントを編集して、入力ミスの修正、表現の変更、または情報の追加も実行できます。

画像をメッセージに埋め込むことができます。(「When you finish the project, would you fix me an ?」など)。

コードについてのディスカッションやトラブルシューティングができます。

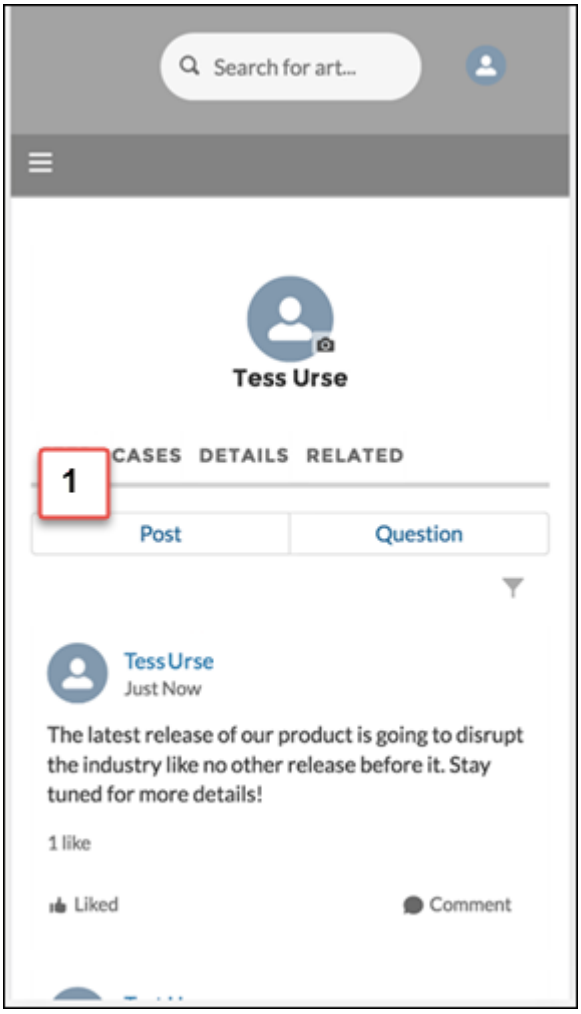


メモ: コードスニペットを有効にするには、ユーザプロファイルまたは権限セットを編集して、[UI からのコードスニペットの挿入を許可] を選択します。

投稿とコメントのデザインの更新

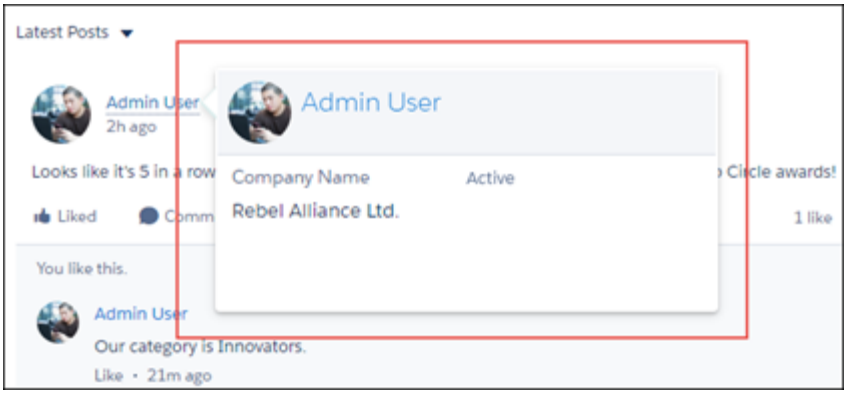
投稿とコメントのモバイル表示に対する互換性が向上しました。この機能は、Lightning Experience と、カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティで使用できます。

パブリッシャーを開くタブ化されたボタン、およびメッセージや質問を投稿するタブ化されたボタンを追加することで、スペースを有効に活用しました (1)。



名前にカーソルを置いてミニプロファイルを表示

名前にカーソルを置くと、個人のプロファイルの短いバージョンが表示されます。名前をクリックすると、詳細なプロファイルページが表示されます。フロート表示情報 (コンパクトユーザプロファイルレイアウトから取得) も個人のプロファイル写真の横に表示されます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。



システム管理者は、コンパクトレイアウトを変更してフロート表示から未使用の項目を削除することで、ユーザに適切なエクスペリエンスを提供できます。たとえば、[設定のホーム] > [オブジェクトおよび項目] > [オブジェクトマネージャ] > [ユーザ] に移動して、[コンパクトレイアウト] までスクロールダウンします。有効なレイアウトを変更して、[名前] 項目と [役職] 項目を追加し、[会社名] 項目と [有効] 項目を削除します。

Chatter でニュースを共有

組織でニュースを有効にすると、営業担当は Chatter でニュース記事を共有できます。同僚との情報共有がさらに簡単になりました。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

関連トピック:

- Chatter のニュースを拡散開始
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

ファイル: 複数ファイルの投稿への添付、Files Connect のさらにスマートな利用、カスタムアプリケーションのアセットファイルのアップロード

Lightning Experience では最大 10 個のファイルを Chatter フィード投稿に添付できます。Files Connect の設定が簡単になり、コンテンツの関連性が向上したことで、作業が容易になりました。カスタム Lightning アプリケーションをパッケージ化するときは、Salesforce Files をアイコンとして使用します。

エディション

クラウドベースの外部データソース用のファイルおよび Files Connect を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

社内の外部データソース用 Files Connect は、同じエディションの有料オプションで使用できます。

このセクションの内容:

Lightning Experience での 10 個のファイルを添付したフィード投稿のアップロード

少ないことが必ずしも十分なわけではありません。1 個ではなく、最大 10 個のファイルをフィード投稿に添付します。これは、Lightning Experience の新機能で、コミュニティでも使用できます。

Lightning Experience での投稿編集時のファイルの追加および削除

Lightning Experience で Chatter 投稿の編集がサポートされ、編集時にファイルの追加と削除も実行できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

カスタム Lightning アプリケーションでの Salesforce Files のアイコンとしての使用

Lightning Experience でカスタムアプリケーションをパッケージ化する場合、アプリケーションアイコンが Salesforce Files として保存されるようになりました。Salesforce Files としてカスタムアプリケーションアイコンを保存すると、バージョン、プレビュー、共有ルールなど、Files のすべてのプラットフォーム機能が活用できます。このように Salesforce Files を使用することを、*アセットファイル*と呼びます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Azure を使用した Files Connect for Office 365 の設定の簡素化

Azure 管理コンソールを使用した新しい設定プロセスで、Files Connect for SharePoint Online または OneDrive for Business の設定がさらに簡単になりました。2 つの別の場所にログインしてオプションを設定するのではなく、Windows Azure 管理コンソールを使用して、1 ステップでアプリケーションを登録できます。ポイント & クリック操作ですべて設定できるので、XML のスニペットをコピーして貼り付ける必要はありません。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Files Connect から除外された SharePoint システムフォルダ

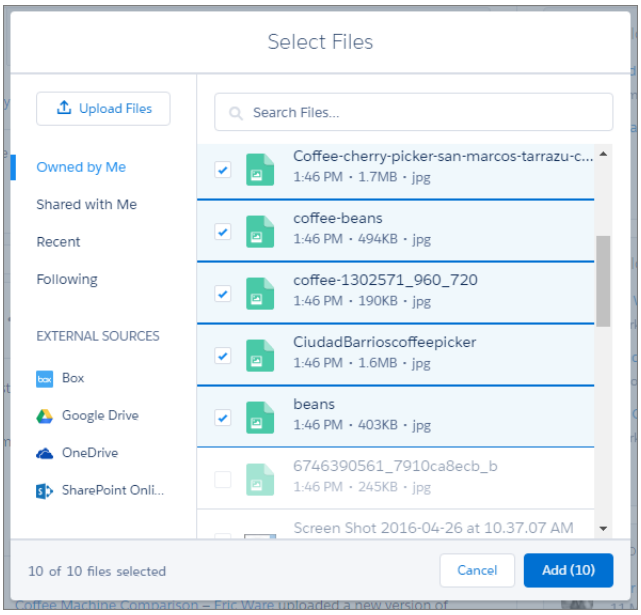
大掃除の季節が早くやってきました。SharePoint システムフォルダの Style Library、Customized Reports、および Form Templates が Files Connect で表示されなくなったため、必要な外部ファイルを以前よりも簡単に見つけることができます。この更新はデフォルトで有効になり、Salesforce Classic、Lightning Experience、すべての API、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンに適用されます。

Lightning Experience での 10 個のファイルを添付したフィード投稿のアップロード

少ないことが必ずしも十分なわけではありません。1個ではなく、最大10個のファイルをフィード投稿に添付します。これは、Lightning Experience の新機能で、コミュニティでも使用できます。

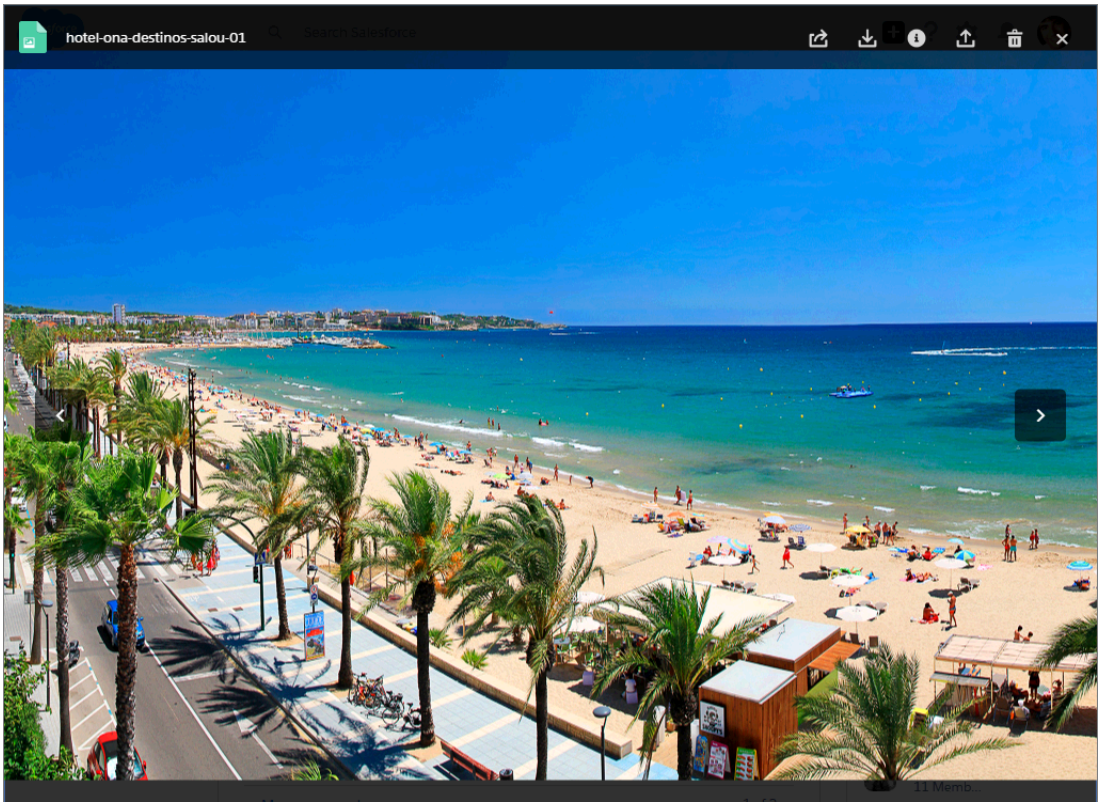
Chatter で共有する写真やその他のファイルがたくさんありますか? 投稿コメントに 1 つずつ投稿するのはうんざりではありませんか? Lightning Experience のフィード投稿に、1 個や 2 個でなくファイルを最大 10 個添付できるようになりました。Salesforce に保存済みのファイルを任意の組み合わせで選択するか、新しいファイルをアップロードします。フィードにサムネイルが整列し、それをファイルプレビューアで順番にクリックできるので、気に入っていただけるはずです。

ファイルセレクタには、選択したファイル数 (最大 10 個) が表示されます。



投稿を共有すると、画像やその他のファイルがサムネイルとして、オーバーフロー形式で表示されます。

サムネイルをタップしてファイルプレビューアを開きます。このプレビューアで、すべての添付ファイルをスクロールできます。



関連トピック:

- リッチコンテンツとインライン画像の使用可能な場所の増加
- Lightning Experience での投稿編集時のファイルの追加および削除
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience での投稿編集時のファイルの追加および削除

Lightning Experience で Chatter 投稿の編集がサポートされ、編集時にファイルの追加と削除も実行できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

投稿を共有する前にファイルの添付を忘れましたか? それとも、添付するファイルを間違えたとか? 問題ありません。投稿の編集時に、クリップをクリックして、添付ファイルを追加します。または、削除するファイルの [X] をクリックします。エディタではファイルの合計数が追跡されており、最大 10 個まで添付できます。

関連トピック:

- Lightning Experience での 10 個のファイルを添付したフィード投稿のアップロード
- フィード投稿とコメントの編集場所の追加、参照カウントの取得
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

カスタム Lightning アプリケーションでの Salesforce Files のアイコンとしての使用

Lightning Experience でカスタムアプリケーションをパッケージ化する場合、アプリケーションアイコンが Salesforce Files として保存されるようになりました。Salesforce Files としてカスタムアプリケーションアイコンを保存すると、バージョン、プレビュー、共有ルールなど、Files のすべてのプラットフォーム機能が活用できます。このように Salesforce Files を使用することを、*アセットファイル*と呼びます。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

アプリケーションをパッケージ化する場合、最大 5 MB の `.png`、`.jpg`、`.bmp`、または静的 `.gif` ファイルをアップロードできます。アセットファイルの管理のアクセス権があれば、[ファイル] ホームに表示できます。

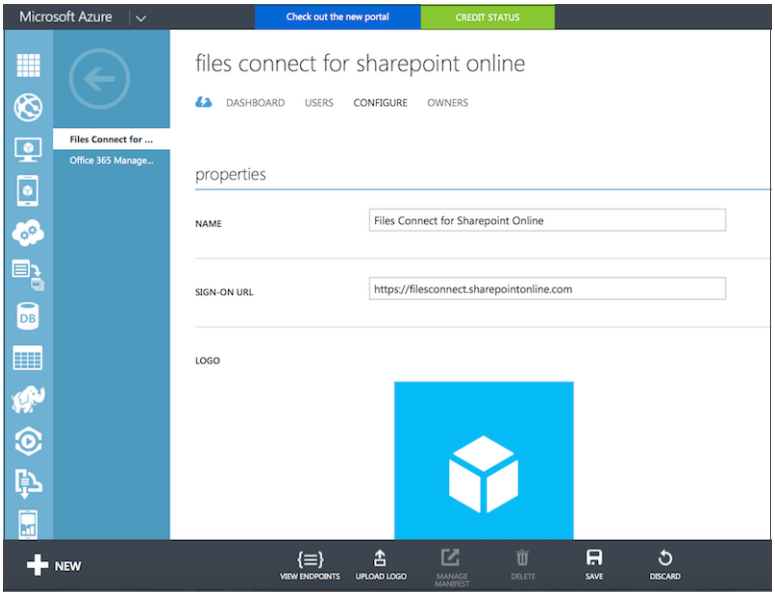
Chatter REST API では、アセットファイルのアップロードがサポートされています。

関連トピック:

- Lightning Experience でのカスタムアプリケーションの作成とより効率的なナビゲーション
- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Azure を使用した Files Connect for Office 365 の設定の簡素化

Azure 管理コンソールを使用した新しい設定プロセスで、Files Connect for SharePoint Online または OneDrive for Business の設定がさらに簡単になりました。2 つの別の場所にログインしてオプションを設定するのではなく、Windows Azure 管理コンソールを使用して、1 ステップでアプリケーションを登録できます。ポイント & クリック操作ですべて設定できるので、XML のスニペットをコピーして貼り付ける必要はありません。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Azure (優先方法) を使用した SharePoint Online 用認証プロバイダの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Files Connect から除外された SharePoint システムフォルダ

大掃除の季節が早くやってきました。SharePoint システムフォルダの Style Library、Customized Reports、および Form Templates が Files Connect で表示されなくなったため、必要な外部ファイルを以前よりも簡単に見つけることができます。この更新はデフォルトで有効になり、Salesforce Classic、Lightning Experience、すべての API、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンに適用されます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

モバイルを使用すると、どこにいても接続した状態なので、どこからでも仕事を行うことができます。そのため、オフィスの外で生産性を高める新しい方法が追加されました。同僚と情報を共有するためのインテリジェンス、アクション、オプションが追加され、Salesforce1 モバイルアプリケーションが強化されています。Salesforce Authenticator により、自動化された活動に関する通知と、接続済みのアカウントをバックアップ (復元) する新しいオプションで簡単にデータの安全とセキュリティを維持できます。

このセクションの内容:

Salesforce1: 機能と共有の強化
Salesforce1 モバイルアプリケーションにより、営業担当はあらゆる場所で、特に重要なレコード、活動、Chatter の会話、ダッシュボードの最新情報を把握できます。次はその例です。取引先責任者およびリードレコードから直接テキストメッセージを送信します。商品、見積、キャンペーンの機能が強化され、商談が迅速に進行するようになっています。Chatter で重要なニュースやダッシュボードグラフを共有することで、全員でチームを最新の状態に保つことができます。

Salesforce Authenticator: アカウントのバックアップ作成と復元、自動化された活動の通知、円が太くなったタイマー
アプリケーションで接続済みのアカウントをバックアップし、別の電話端末にそのアプリケーションをインストールする場合は、アカウントを復元できます。自動化された活動の通知も追加され、確認コードのコピーとタイマーの参照が従来よりも簡単になりました。Salesforce Authenticator は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで機能します。

関連トピック:

Wave: Wave モバイルアプリケーションを持って外出
Service Cloud Lightning Snap-ins SDK: iOS 版の正式リリース

Salesforce1: 機能と共有の強化

Salesforce1 モバイルアプリケーションにより、営業担当はあらゆる場所で、特に重要なレコード、活動、Chatter の会話、ダッシュボードの最新情報を把握できます。次はその例です。取引先責任者およびリードレコードから直接テキストメッセージを送信します。商品、見積、キャンペーンの機能が強化され、商談が迅速に進行するようになっています。Chatter で重要なニュースやダッシュボードグラフを共有することで、全員でチームを最新の状態に保つことができます。

エディション

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

このセクションの内容:

Salesforce1 モバイルアプリケーションへのアクセス
プラットフォームの最小要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce1 にアクセスする方法は複数あります。

このリリースでの Salesforce1 の機能強化
Salesforce1 の一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能
Salesforce1 モバイルアプリケーションでは、組織で Lightning Experience と Salesforce Classic のいずれを使用している場合でも、Salesforce フルサイトの一部の機能が含まれません。ここでは、Salesforce1 では使用できない、フルサイトで使用する場合と機能上の差異ある、またはモバイルアプリケーションでの動作が異なる Winter '17 Salesforce の拡張機能について説明します。

Salesforce1 モバイルアプリケーションへのアクセス

プラットフォームの最小要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce1 にアクセスする方法は複数あります。

- Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを Android ™ および Apple® モバイルデバイスにインストールします。ユーザは Google Play™ または App Store からアプリケーションをダウンロードできます。
- Android デバイス、Apple デバイスまたは選択した Windows の携帯電話でサポートされているモバイルブラウザから Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションにアクセスします。この方法では、何もインストールする必要はありません。

このリリースでの Salesforce1 の機能強化

Salesforce1 の一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce1 モバイルアプリケーションは、Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各 Salesforce1 ユーザが使用できる Salesforce データおよび機能が決定されます。

Salesforce1 の機能強化と変更	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
デバイスおよびブラウザのサポート				
Salesforce1 の要件の更新	✔	✔	✔	
BlackBerry デバイスでの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのサポート終了			✔	
Spring '17 で Salesforce1 に iOS 10 が必要になることに関する事前のお知らせ		✔		
ナビゲーションおよびアクション				
Salesforce1 からのテキストメッセージの送信	✔	✔	✔	
Salesforce1 でのレコードタイプの変更	✔	✔	✔	
アクションで Lightning コンポーネントを起動	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 と Lightning Experience の関連リストのリスト項目アクションの一致	✔	✔	✔	
検索				
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に			✔	
個人取引先検索の強化機能で適切なレコードを検索	✔	✔	✔	
カスタムオブジェクトでスペル修正	✔	✔	✔	
Salesforce1 のルックアップ検索でのインスタント結果の関連性向上	✔	✔	✔	✔

Salesforce1 の機能強化と変更	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
セールス機能				
取引先インサイトは、「ニュース」に名称変更され、Salesforce1 のより多くの場所で使用可能に	✔	✔	✔	
Salesforce1 の Chatter でのニュース項目の共有	✔	✔	✔	
Salesforce1 でより簡単に提供できるようになったニュース項目のフィードバック	✔	✔	✔	
取引先に会社ロゴの表示 (正式リリース)	✔	✔	✔	
取引先責任者を複数の取引先に関連付ければ、さらにうまくいく	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 での商談の [確度] 項目の編集	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 での商談への商品の追加	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 でスケジュールを設定した商品を追加	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 での商談への見積の追加	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 での商談への影響のある複数のキャンペーンの追加 (正式リリース)	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 で契約に機能強化	✔	✔	✔	
生産性機能				
ダウンロード可能アプリケーションでの ToDo リストの概要と詳細の表示 (タブレットのみ)	✔ (バージョン 10.0 以降)	✔ (バージョン 10.0 以降)	✔ (Spring '15 以降)	
ToDo リストのアクションバーからリスト項目アクションへの置き換え (タブレットのみ)	✔	✔	✔	
カスタマーサービス機能				
Salesforce1 でのケースの取引先責任者項目の表示	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 のケースメールの機能強化	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 でのデフォルトメールテンプレートを使用した一貫性の確保	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 でのクイックアクションを使用した [ケース所有者] 項目の変更	✔	✔	✔	✔

Salesforce1 の機能強化と変更	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
Salesforce1 でフィールドサービスの詳細情報にアクセス			✔	✔
作業指示の更新に関する通知の受信	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 でのソーシャル人格と投稿の把握	✔	✔	✔	✔
レポートとダッシュボード				
段階的廃止の一環として Salesforce1 の従来のグラフを拡張グラフに置き換え (Summer '17 で全面廃止)	✔	✔	✔	
Salesforce1 での散布図 (および改善された表形式グラフとゲージグラフ) の表示	✔	✔	✔	
Salesforce1 でのさらに多くのダッシュボード総計値の同時読み込み	✔	✔	✔	
Chatter への拡張グラフのスナップショットの投稿			✔	✔
Lightning アプリケーションホームページへの Wave ダッシュボードの埋め込み	✔	✔	✔	✔
Files				
Files Connect から除外された SharePoint システムフォルダ	✔	✔	✔	
Chatter				
Salesforce1 ナビゲーションメニューのフィード項目が Chatter に名称変更	✔	✔	✔	
Salesforce1 の Chatter 項目の不要な情報の削減			✔	
カスタマイズ可能なグループ (ベータ)	✔	✔	✔	✔
Salesforce1 でのグループメンバーシップの拡大	✔	✔	✔	
Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを使用したグループ写真の追加	✔	✔	✔ (Spring '15 以降)	
Salesforce1 でのプロファイルおよびグループバナーの表示	✔		✔	
デフォルトのグループアイコンを改善	✔	✔	✔	
Salesforce Communities				
Salesforce1 の Visualforce ページ間のリンク	✔	✔	✔	✔

Salesforce1 の機能強化と変更	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
ビジネスロジックおよびプロセスの自動化				
Salesforce1 のアプリケーションホーム Lightning ページからのフローの実行 (ベータ)	✔	✔	✔	✔
設定				
Lightning アプリケーションビルダーの新しいアプリケーションページテンプレートを使用した新しいスタイルのアプリケーションページの作成	✔	✔	✔	✔
レポートグラフコンポーネントの動的サイズ変更	✔	✔	✔	✔
その他の機能強化				
Salesforce1 の項目レベルヘルプを表示	✔	✔	✔	✔
レコードの、より明確で実効性のあるポップアップメッセージ	✔	✔	✔	✔

Salesforce1 の要件の更新

Salesforce1 は、ダウンロード可能アプリケーションやモバイル Web アプリケーションとして多くの一般的なモバイルプラットフォームで使用できます。Salesforce は、Salesforce1 を使用するための要件を Winter '17 で改訂しています。アプリケーションを使用するためのモバイルプラットフォーム要件と、Salesforce1 環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。また、Salesforce1 の更新方針についても確認します。

モバイルプラットフォーム要件

ユーザは、次のモバイルプラットフォーム要件を満たす携帯電話やタブレットで Salesforce1 を実行できます。

オペレーティングシステムおよびバージョン要件	モバイルブラウザ要件*
Android 4.4 以降	Android の Google Chrome Android で動作するブラウザ
iOS 9.2 以降	iOS の Apple Safari iOS で動作するブラウザ
Windows 10 (モバイルブラウザアプリケーションのみ)	Windows 10 の Microsoft Edge

オペレーティングシステムおよびバージョン要件	モバイルブラウザ要件*
Windows 8.1 *(モバイルブラウザアプリケーションのみ)*	Windows 8.1 の Internet Explorer 11 *(2017 年 12 月 17 日でサポートを終了)*

*モバイルブラウザの最新バージョンが必要です。モバイルブラウザ要件は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションにのみ適用されます。

急速に進化し続けるモバイル市場で迅速なイノベーションを行い、Salesforce1 を最新の状態に保つために、プラットフォームの最小要件は事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce1 テストに使用されるモバイルデバイス

Salesforce は、選択した一連のモバイルデバイスで Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションおよびモバイルブラウザアプリケーションの自動テストや手動テストを実行します。次に、Winter '17 リリースの Salesforce1 テストに使用されるデバイスのリストを示します。

プラットフォーム	携帯電話	タブレット
Android	• Google Nexus 5X • Google Nexus 6P • Samsung Galaxy S7 • Samsung Galaxy S6 • Samsung Galaxy S5 • Samsung Galaxy Note 4	• Samsung Galaxy Note 10.1 • Samsung Tab A 9.7
iOS	• iPhone 6S/6S Plus • iPhone 6/6 Plus • iPhone 5S • iPhone SE	• iPad Pro • iPad Air 2 • iPad Mini 4
Windows *(モバイルブラウザアプリケーションのみ)*	• Nokia 1020 (Windows 8.1 搭載) • Lumia 950 (Windows 10 搭載)	• N/A

お客様は、現在のプラットフォーム要件を満たしていればテスト対象外デバイスでも Salesforce1 を使用できます。

急速に進化し続けるモバイル市場で迅速なイノベーションを行い、Salesforce1 を最新の状態に保つために、Salesforce1 テスト対象デバイスのリストは事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce1 の更新

お客様のデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしていれば、Salesforce1 機能の更新および修正を利用できます。

弊社の目標は、Salesforce の各メジャーリリースに合わせて Salesforce1 機能の更新をリリースすることです。この情報は、お客様のリリース計画を支援するために提供されていますが、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

モバイルブラウザアプリケーション
: 拡張機能は、Salesforce の各メジャーリリースで自動的に使用できるようになります。

ダウンロード可能アプリケーション
: 拡張機能は、メジャーバージョンの更新で提供されます。すべての本番インスタンスに対する Salesforce の各メジャーリリースが完了してからダウンロード可能アプリケーションの新しいメジャーバージョンがリリースされる予定です。新しいメジャーバージョンがリリースされる期間は変動し、Apple や Google の新しい要件または iOS や Android のオペレーティングシステムの変更など、Salesforce が制御できない要素の影響を受ける可能性があります。

  お客様のモバイルデバイスが Salesforce の現在のモバイルオペレーティングシステムの最小要件を満たしていれば、App Store や Google Play からダウンロード可能アプリケーションの新しいメジャーバージョンとバグ修正バージョンをインストールできます。デバイスで古いオペレーティングシステムが実行されている場合、Salesforce1 の更新バージョンは App Store に表示されません。

Salesforce1 のカスタマーサポートサービス

Salesforce カスタマーサポートは、次の場合に Salesforce1 の問題のトラブルシューティングを行うよう商業上合理的な努力を行うものとします。

- ユーザのデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしている
- ダウンロード可能アプリケーションユーザが Salesforce1 の最新バージョンをインストールしている

お客様が Salesforce テスト対象デバイスで Salesforce1 を実行している場合、モバイルアプリケーションの問題をより効率的にトラブルシューティングできます。お客様がテスト対象外デバイスを使用している場合、プラットフォームの最小要件を満たしていても、デバイスメーカー固有のカスタマイズのために一部の問題を再現できない可能性があります。

古いデバイスや計算およびメモリ機能が低いデバイスで Salesforce1 を実行すると、Salesforce テスト対象デバイスと比較して、アプリケーションのパフォーマンスが低くなることがあります。

BlackBerry デバイスでの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのサポート終了

Winter '16 リリースノートで最初にお知らせしたとおり、Winter '17 で BlackBerry 10 デバイスでの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのサポートが終了します。円滑に移行するために、BlackBerry ユーザを BlackBerry World からダウンロードできる Connect to Salesforce アプリケーションに切り替えることをお勧めします。

ユーザが BlackBerry Z10 または Z30 端末で Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを実行してもブロックされません。ただし、BlackBerry デバイスで作業しているときに発生する問題に対して、Salesforce からテクニカルサポート、バグ修正、機能強化といった形でサポートが提供されることはなくなります。

Spring '17 で Salesforce1 に iOS 10 が必要になることに関する事前のお知らせ

Spring '17 では、iOS デバイスのモバイルオペレーティングシステム最小要件が iOS 10 以降に変更されます。移行を円滑に進めるために、iPhone および iPad ユーザは Spring '17 リリース前に iOS 10 に更新しておくことをお勧めします。OS のバージョンが古いデバイスから App Store にアクセスすると、Spring '17 バージョンのアプリケーションが表示されないため、Salesforce1 for iOS ダウンロード可能アプリケーションユーザは特にアップグレードが重要です。

ユーザは、iPhone や iPad デバイスで最新バージョンの iOS を無料で簡単にインストールできます。iOS のアップグレードについてのヘルプは、Apple サポートサイトの「iPhone、iPad、または iPod touch の iOS ソフトウェアをアップデートする」を参照してください。

Salesforce1 からのテキストメッセージの送信

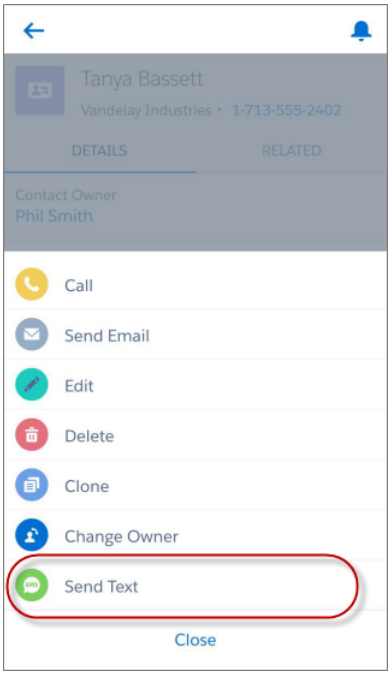
Salesforce1 とテキストメッセージなどの一部の組み合わせは、ピーナッツバターとジェリー、ワインとチーズのように自然と適合します。営業担当は、アプリケーションを移動することなく普通に作業して SMS テキストメッセージを顧客や同僚に送信できます。すべての詳細があるレコードから直接リードの質問にすばやく回答したり、取引先との予約を確認したりできれば大幅に時間を節約できます。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

新しい [テキストを送信] アクションにはいくつかの要件があります。

- ユーザの携帯電話またはタブレットで SMS メッセージを有効にする必要があります。このアクションでは、iOS デバイスの iMessage ではなく SMS メッセージのみが使用されます。
- レコードには有効な電話番号が含まれている必要があります。レコードに電話番号項目 ([電話] 項目など) がない場合や、すべての電話番号項目が空の場合、レコードのアクションバーまたはアクションメニューにアクションが表示されません。

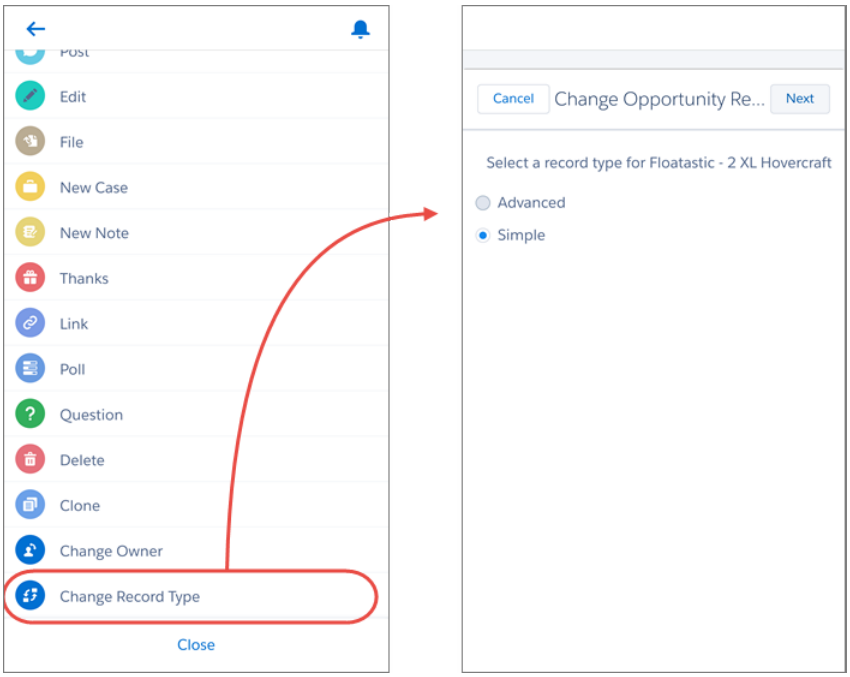
[テキストを送信] アクションを実行すると、ユーザのデバイスのメッセージアプリケーションに切り替わり、レコードの電話番号宛ての新しいメッセージが開きます。

[テキストを送信] アクションは、取引先、取引先責任者、リード、個人取引先で使用できます。デフォルトでは、アクションはオブジェクトのページレイアウトの [Salesforce1 および Lightning Experience アクション] セクションの最後にあります。この編成の場合、ユーザはアクションバーのアクションメニュー ( ) を開いてテキストメッセージを送信する必要があります。アクションバーに直接表示されるようにアクションを移動して営業担当のアクセスを合理化できます。Salesforce ヘルプの「Salesforce1 アクションバー」および「高度なページレイアウトエディタを使用したアクションのカスタマイズ」を参照してください。



Salesforce1 でのレコードタイプの変更

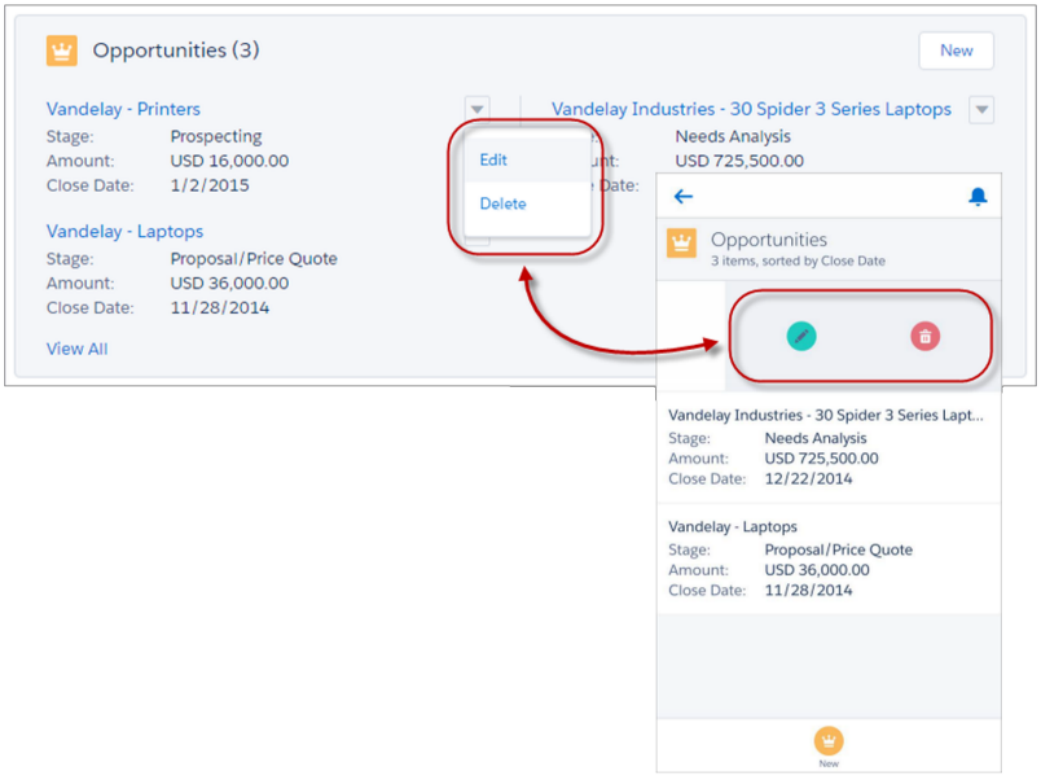
Salesforce1 ユーザは、外出中でも既存のレコードのレコードタイプを更新してビジネスを継続できるようになりました。新しい[レコードタイプを変更]アクションは、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションのアクションバーから使用できます。



Salesforce1 と Lightning Experience の関連リストのリスト項目アクションの一致

Salesforce1 と Lightning Experience の両方で作業するユーザに継続性を提供するために、両方のインターフェースの関連リストの項目に同じ一連のリスト項目アクションが表示されるようになりました。この変更は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションに適用されます。

たとえば、Lightning Experience の [商談] 関連リスト項目のプルダウンメニューで使用できるアクションは、Salesforce1 の関連リストの同じレコードで左にスワイプしたときにユーザに表示される一連のアクションと同じです。



メモ: 組織で Lightning Experience を有効にしていなくても、Salesforce1 に表示される関連リストのアクションは、Lightning Experience (有効になっている場合) の関連リスト項目に表示されるアクションと一致します。

Salesforce1 のルックアップ検索でのインスタント結果の関連性向上

関連ルックアップ検索条件が項目に追加されると、その検索条件が Salesforce1 のインスタント結果に適用されるようになりました。インスタント結果は、最近使ったデータまたはユーザが入力した内容に基づくレコードの候補です。以前のモバイルアプリケーションでは、関連ルックアップ検索条件がフルルックアップ検索結果にのみ適用されていました。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

関連ルックアップ検索条件は、システム管理者が設定する検索条件で、拡張ルックアップ検索の参照項目の有効な値と検索結果を制限します。たとえば、同じレコードの有効なユーザのみを表示する[取引先所有者]参照項目を設定できます。

メモ: 連動ルックアップ検索条件はサポートされません。連動ルックアップ検索条件は、システム管理者が設定する検索条件で、拡張ルックアップ検索の現在のオブジェクトレコード(ソース)の項目を参照します。たとえば、同じレコードのケースの [取引先名] 項目で選択した取引先に関連付けられている取引先責任者のみが表示されるように、ケースの [取引先責任者] 項目を設定できます。

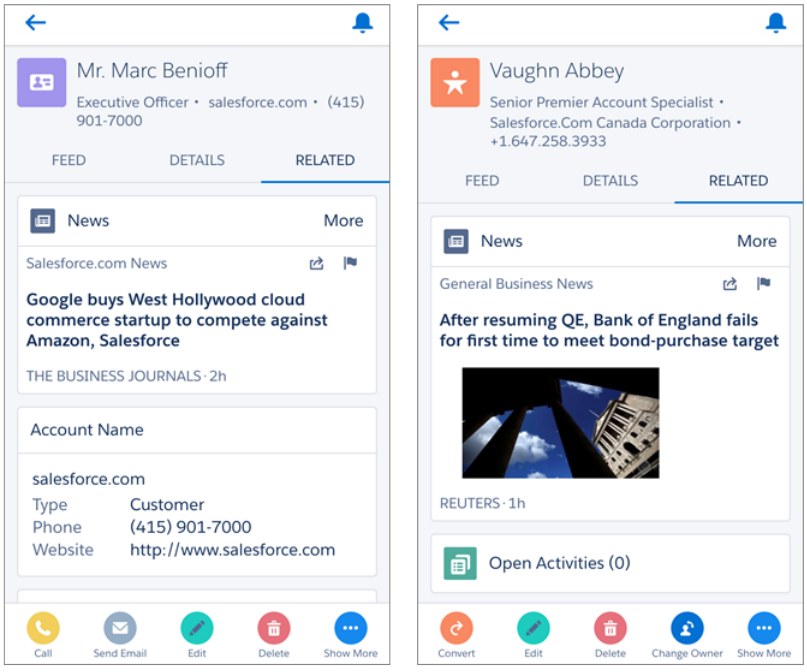
取引先インサイトは、「ニュース」に名称変更され、Salesforce1のより多くの場所で使用可能に

エディション

ニュースを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

最初は取引先ニュースで、次が取引先インサイト、今はニュースです。ただし、単に、機能に新しい名前をつけた、という訳ではありません。今回は、すべての組織で自動的に有効になります。この機能はSalesforce1の取引先責任者およびリードでも使用できるようになりました。この機能は、すべてのバージョンのSalesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

このニュースコンポーネント (旧取引先インサイト) でも、営業担当は、関連ニュース記事をタイムリーに受け取って取引先や商談について最新の状況を把握できますが、さらに取引先責任者やリードレコードに関するニュースコンポーネントも受け取ることができるようになりました。取引先責任者およびリードのニュースは、その他のオブジェクトとほぼ同じように動作します。ニュース項目は、取引先責任者またはリード関連の取引先、そのエグゼクティブ、業界に基づいて選択され、米国がソースです。



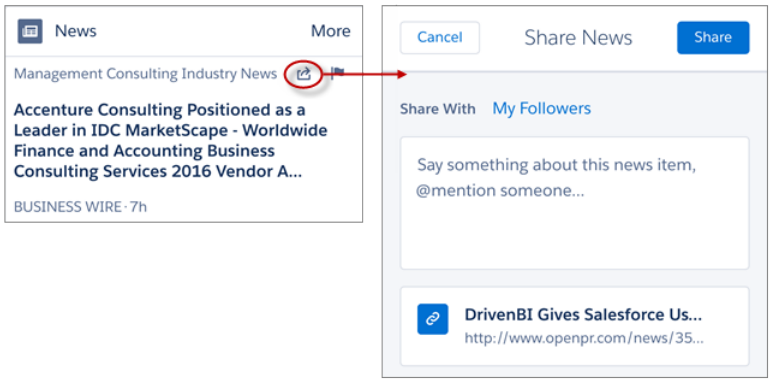
新規および既存の組織のほとんどでニュースは自動的に有効になりますが、一部に例外があります。詳細は、「取引先に自動アップグレードを追加」を参照してください。

取引先責任者またはリードの [関連] タブにニュースコンポーネントが表示されない場合は、フル Salesforce サイトで [取引先設定] ページに移動し、ニュースを有効にします。取引先責任者とリードのページレイアウトにニュースコンポーネントが追加されていることを確認します。

Salesforce1 の Chatter でのニュース項目の共有

外出先の営業担当は Chatter で記事を共有して、組織の全員に最新ニュースを発信できます。ニュースコンポーネントには米国発のタイムリーで関連性のあるニュースが含まれており、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションの取引先、取引先責任者、リード、商談で使用できます。

ニュース記事を共有するには、共有アイコン ( ) をタップします。



エディション

ニュースを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

営業担当がニュースコンポーネントでニュース記事を共有すると、記事がそのレコードのフィードに投稿されます。ニュースアプリケーションでニュース記事を共有すると、記事が営業担当自身の Chatter プロファイルに投稿されるため、すべてのフォロワーに表示されます。記事を共有するときに個々のユーザまたはグループにメンションすることもできます。

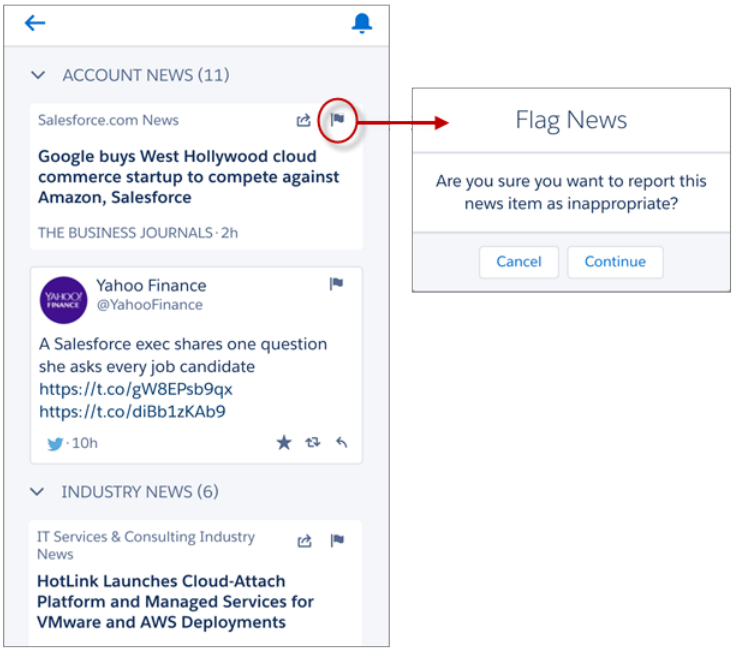
Salesforce1 でより簡単に提供できるようになったニュース項目のフィードバック

ニュースコンポーネントのフィードバックオプションが簡略化され、何か問題が発生した場合のフィードバックが簡単になりました。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

ニュース項目が対象のレコードと関係性がないことを営業担当が報告する場合は、 をタップするだけで済みます。Salesforce はその項目を調査し、必要があれば修正を行います。

エディション

ニュースを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition



[類似のニュースの表示件数を増やす] および [類似のニュースの表示件数を減らす] オプションは使用できなくなりました。

Salesforce1 の取引先での会社ロゴの表示 (正式リリース)

ロゴが取引先レコードに自動的に追加されるようになったため、営業担当は新しい切り口でのビジネスの視覚化が行えます。また、ロゴに不適切な箇所があればフィードバックを提供できます。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

会社のロゴが使用できる場合、米国を拠点とする取引先に自動的に表示されます。組織で [ソーシャル取引先] を使用している場合は、営業担当がソーシャルネットワークから手動で追加したロゴが最新のロゴに置換されることがあります。

取引先レコードにロゴが表示される機能をご満足いただけると確信していますが、そうでない場合はご意見をいただければ、対応いたします。次に、フィードバックオプションを示します。

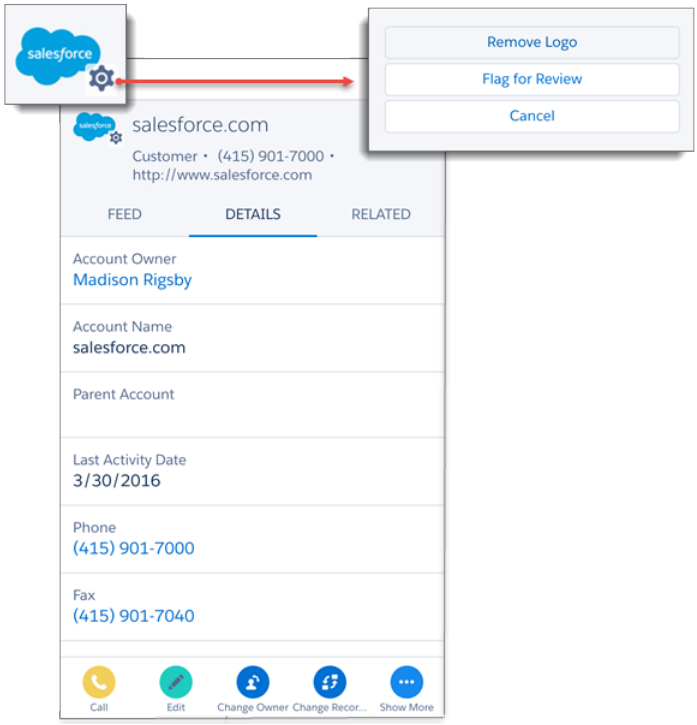
エディション

取引先のロゴを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

画像の削除
: ロゴが商標権を侵害する場合に、このオプションを使用します。システム管理者のみがロゴを削除できます。システム管理者がロゴを削除すると、そのロゴは組織のすべてのユーザから削除されます。このアクションは元に戻すことができないため、削除は慎重に行ってください。ただし、誰にでも間違えることはあるため、誤って削除した場合は Salesforce サポートに連絡してください。[画像の削除] オプションは、リリース後 24 時間以内に使用可能になります。

確認フラグ
: ロゴが誤っているか画質が低い場合に、このオプションを使用します。システム管理者とエンドユーザの両方がロゴにフラグを設定できます。ユーザがロゴにフラグを設定すると、そのロゴはユーザのビューから削除されます。同じ組織の別のユーザがこのロゴにフラグを設定すると、そのロゴは組織のすべてのユー

ザのビューから削除されます。5つの別の組織のユーザもこのロゴにフラグを設定すると、そのロゴはすべての組織のビューから削除され、完全に消去されます。



取引先ロゴは、新規および既存の組織のほとんどで自動的に有効になりますが、一部例外があります。詳細は、「取引先に自動アップグレードを追加」を参照してください。

Salesforce1 での商談の [確度] 項目の編集

商談所有者は、Salesforce Classic に切り替えることなく、手動で［確度］項目を編集できるようになりました。この機能強化は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

エディション

商談を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Salesforce1 での商談への商品の追加

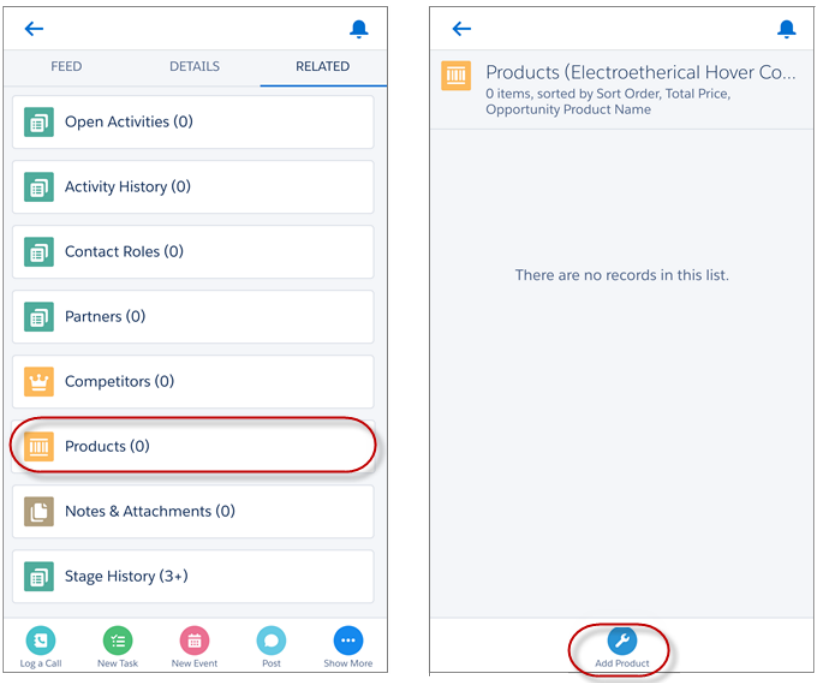
営業担当は、Salesforce1 から商品を追加できるようになり、どこにいてもさらに多くの方法で商談の準備ができるようになりました。新しい [商品を追加] アクションは、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

Salesforce1 で商品を商談に追加するカスタムアクションを組織で以前に作成しましたか? Winter '17 が使用可能になったら削除することをお勧めします。新しい [商品を追加] アクションは、商談の [商品] 関連リストで自動的に使用可能になり、営業担当は進化した機能を使用できます。

価格表が商談に関連付けられておらず、複数の価格表が存在する場合、ユーザはいずれかを選択するように求められます。使用可能な価格表が 1 つしかない場合は、自動的に追加されます。

エディション

商品を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



関連トピック:

- Salesforce1 でスケジュールを設定した商品を追加
- Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能

Salesforce1 でスケジュールを設定した商品を追加

営業担当は、外出先で柔軟に商品を商談に追加できます。すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで、達成済みの収益または数量スケジュールがある商品を追加できるようになりました。

営業担当が Salesforce1 を使用して、スケジュール通りに販売した商品を商談に追加すると、達成済みスケジュールが商談品目に追加されます。

商品スケジュールを有効にしたり、商品のスケジュールを追加、表示、編集したりするには、ユーザは Salesforce Classic にアクセスする必要があります。

エディション

商品スケジュールを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関連トピック:

- Salesforce1 での商談への商品の追加
- Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能

Salesforce1 での商談への見積の追加

営業担当は、既存の見積を操作する以外の作業も外出中にできるようになりました。項目から直接顧客の見積や見積品目名を作成したり、見積の承認を得たりできるようになりました。これらの機能強化は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

[新規見積] アクションが商談の [見積] 関連リストで使用できるようになりました。また、[商品名の追加]アクションは、見積の[見積品目名]関連リストにあります。

[承認申請]アクションが見積レコードを表示するときに使用できるようになりました。

エディション

見積を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、Sales Cloud が付属する **Unlimited** Edition、**Performance** Edition および **Developer** Edition

見積を管理するその他の機能 (見積と商談の同期や見積 PDF ファイルの作成およびメール送信など) が Salesforce Classic で使用できるようになりました。詳細は、Salesforce ヘルプの「セールス機能: Salesforce1 で使用できない機能」を参照してください。

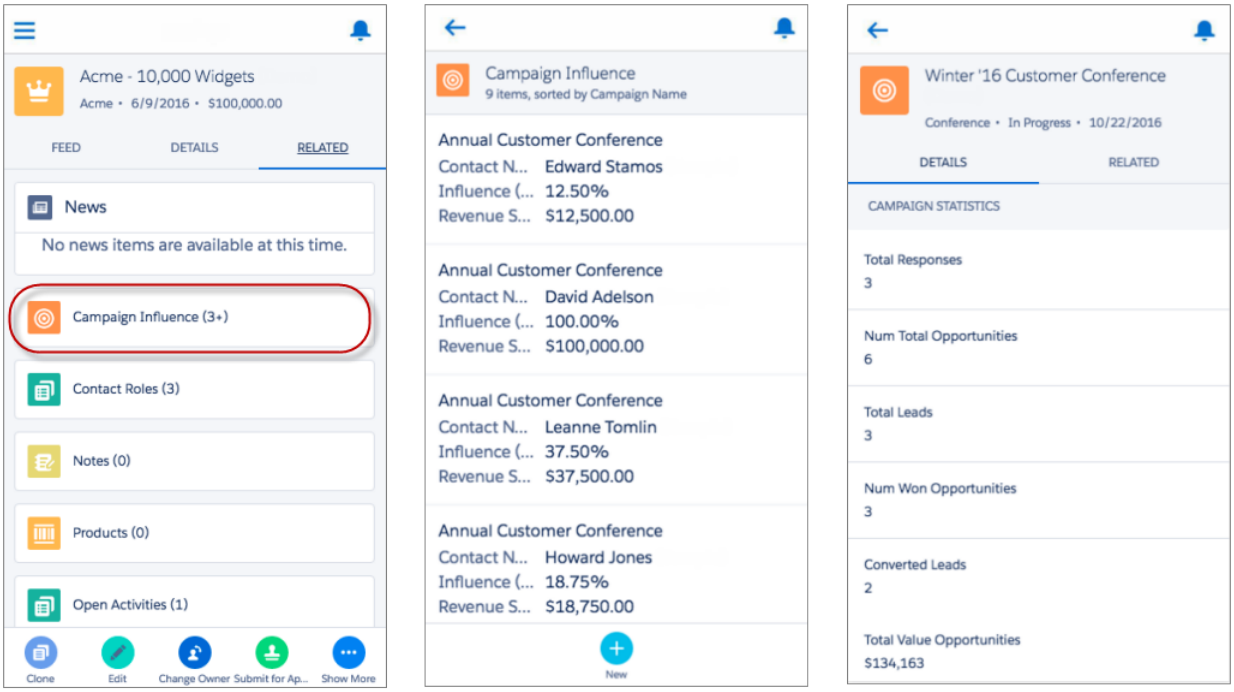
Salesforce1 での商談への影響のある複数のキャンペーンの追加 (正式リリース)

Salesforce1 のカスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを使用すると、マーケティング担当者と営業担当は、マーケティング行動や外出先から直接商談成立に貢献する各キャンペーンにクレジットを柔軟に割り当てることができます。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスでは、複数の方法を設定して、キャンペーンが商談に及ぼす影響を追跡できます。使用する方法ごとに、別個のキャンペーンインフルエンス属性モデルを作成します。キャンペーンによって発生した商談のクレジットをキャンペーンに割り当てるには、マーケティングユーザおよび営業ユーザが手動でキャンペーンを商談に関連付けます。自分または自分のパートナーがトリガとワークフローを作成し、レコードを自動的に追加することもできます。ユーザは、キャンペーンで生成した商談、および合計収益をキャンペーン詳細ページで確認できます。

エディション

カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition



詳細は、「カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスを使用した商談のクレジットの複数キャンペーンへの割り当て (正式リリース)」を参照してください。

Salesforce1 で契約に機能強化

Salesforce1 での契約管理がさらに簡単になりました。モバイル営業担当は、契約の有効化、契約の承認申請、契約の所有者の変更、契約のコピーを実行できます。これらの新しいアクションは、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

関連トピック:

Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能

エディション

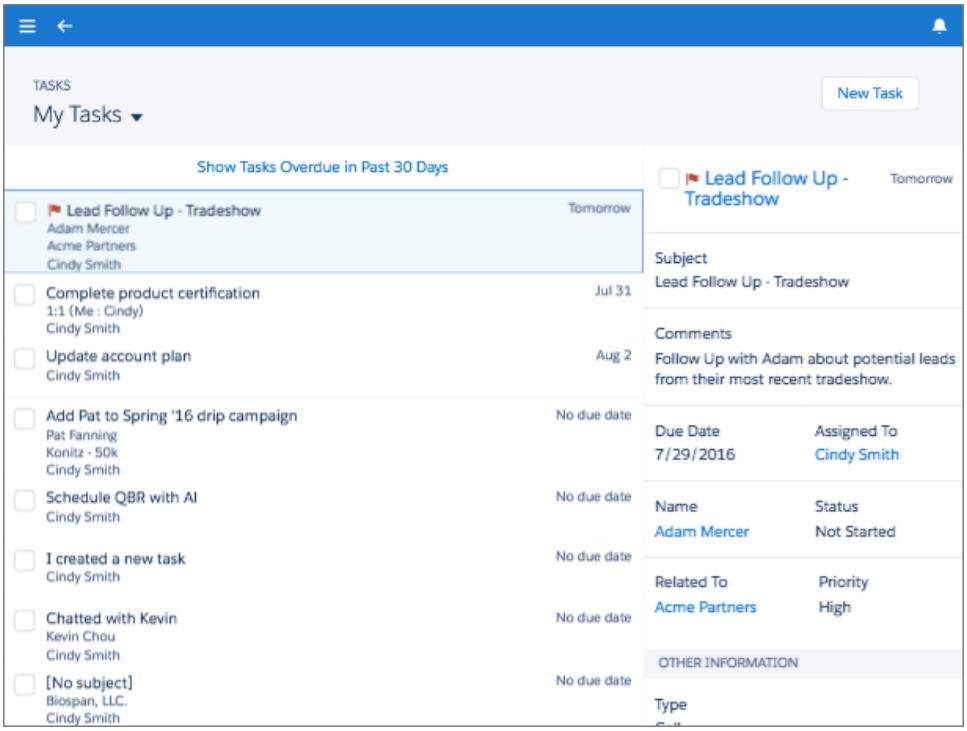
契約を使用可能なエディション: **Performance** Edition および **Developer** Edition と、Sales Cloud が付属する **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、および **Unlimited** Edition

ダウンロード可能アプリケーションでの ToDo リストの概要と詳細の表示 (タブレットのみ)

タブレットで作業する Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションユーザが ToDo リストと ToDo の詳細を切り替える必要がなくなりました。ユーザが ToDo リストと選択した ToDo の詳細を同じページに表示できるようになりました。左側のリストの ToDo をタップして、右側の ToDo 情報を確認するだけです。この機能は、以前は Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できましたが、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 10.0 以降でも使用できるようになりました。

エディション

ToDo を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



関連トピック:

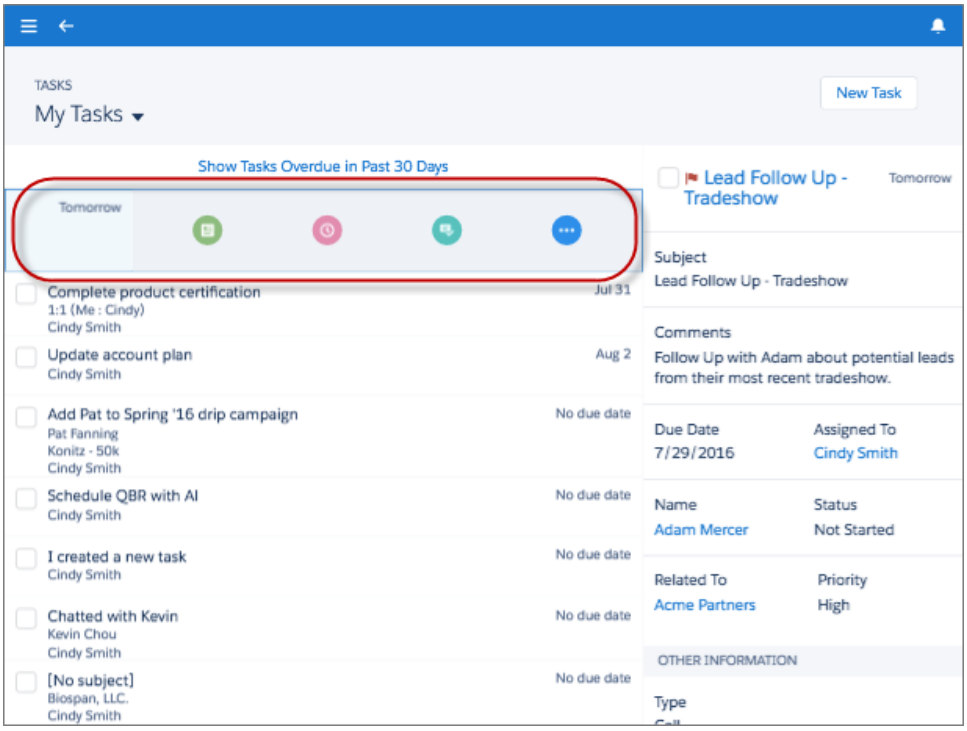
ToDo リストのアクションバーからリスト項目アクションへの置き換え (タブレットのみ)

ToDo リストのアクションバーからリスト項目アクションへの置き換え (タブレットのみ)

モバイル営業担当の ToDo の作業スペースを広くするために、タブレットで Salesforce1 にアクセスするときの ToDo リストのアクションバーが削除されました。心配はいりません。ユーザは引き続き以前に Salesforce1 に追加された便利なリスト項目アクションを使用して特定の ToDo に対してアクションを実行できます。ToDo リストで左にスワイプするだけで、使用可能なアクションが表示されます。この変更は Summer '16 で導入され、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションに適用されます (タブレットのみ)。

エディション

ToDo を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



Salesforce1 でのケースの取引先責任者項目の表示

Salesforce1 ユーザは、取引先責任者項目がケースページレイアウトに含まれていれば、ケースの詳細にケース取引先責任者情報を表示できるようになりました。[取引先責任者 電話]、[取引先責任者 メール]、[取引先責任者 Fax]、[取引先責任者 携帯] 項目は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できるようになりました。

エディション

ケースを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Salesforce1 のケースメールの機能強化

サービス担当者は、Salesforce1 のケースメールによる効率の向上に感謝するでしょう。エージェントは、モバイルデバイスで以前よりも少ない入力でメールを作成できます。送信済みメールに関する詳細情報を直接ケースフィードで利用できます。これらの機能強化は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

ケースの [メールを送信] アクションでは、エージェントが Salesforce1 で作業するときに必要な入力数を削減するいくつかの改善が行われています。

- 新しい [差出人] 項目には、すばやくタップしてメールアドレスを追加するための選択リストが含まれます。詳細は、「エージェントがケースから送信するメールの送信元アドレスの標準化」を参照してください。

エディション

ケースでメールを送信できるエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

- デフォルトのテンプレートが [メールを送信] アクションに割り当てられている場合、[メールを送信] パブリッシャーで自動的にメールテンプレートのコンテンツが読み込まれます。このオプションの設定方法についての詳細は、「Lightning Experience と Salesforce1 でのデフォルトメールテンプレートを使用した一貫性の確保」を参照してください。

エージェントは、送信済みメールを確認するときに、[メール] 関連リストに切り替えて特定のメールにドリルインすることなく、メールフィード項目から直接メール添付ファイルを参照できます。フィード項目で [すべての添付ファイルを表示] をタップするだけで済みます。

ケースの [メールを送信] アクションは、組織でメール-to-ケースが有効になっている場合に使用できます。[メールを送信] アクションがケースページレイアウトの [Salesforce1 および Lightning のアクション] セクションに含まれていることを確認してください。

関連トピック:

Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能

Salesforce1 でフィールドサービスの詳細情報にアクセス

外出中のサービス技術者は順調に仕事をしているでしょう?なぜなら、サービス予約、サービス人員、サービステリトリー、業務時間、作業種別が作業指示に統合され、技術者は作業をどこからでもあらゆる角度から見ることができるからです。新しい標準 Field Service Lightning オブジェクトは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。これらのオブジェクトが Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのナビゲーションメニューに表示されていても、まだ完全には機能しません。

これらのフィールドサービス項目は Salesforce1 ナビゲーションメニューの [最近] セクションで使用できます。

- サービス予約
- サービス人員
- サービステリトリー
- 業務時間
- 作業種別

これらの項目が表示されない場合、[さらに表示] をタップして [最近] セクションを展開します。フィールドサービス項目は、ナビゲーションメニューにスマート検索項目要素の一部として自動的に表示されます。Salesforce ヘルプの「Salesforce1 モバイルアプリケーションのナビゲーションメニュー」を確認し、ナビゲーションメニューがどのように表示されるかを参照してください。

新機能の詳細は、「フィールドサービス: Field Service Lightning ツールボックスの追加」を参照してください。

エディション

Field Service Lightning 機能を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)。作業指示は **Professional** Edition でも使用できます。

メモ: Field Service Lightning が組織で有効になっている必要があります。Field Service Lightning 権限セットライセンスを持ったユーザのみが Field Service Lightning 機能にアクセスできます。ただし、作業指示には特別な権限セットライセンスは必要ありません。

関連トピック:

フィールドサービス: Field Service Lightning ツールボックスの追加

作業指示の機能強化

Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能

Salesforce1 でのソーシャル人格と投稿の把握

サービスエージェントは、どこからでも顧客の感情を監視できます。ソーシャル人格と投稿が Salesforce1 で使用できるようになりました。また、ケースフィードのいくつかの基本的なソーシャルアクションも使用できるようになりました。これらの機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

ケースフィードのソーシャル投稿に対して [いいね!]、[いいね! を取り消す]、[削除] アクションを実行できます。Salesforce1 でこれらのアクションを実行すると、エージェントが実際に投稿のいいね!、いいね! の取り消し、削除を行うことができるソーシャル投稿に切り替わります。Salesforce1 のケースフィードでは [ソースを表示] アクションも使用できるため、エージェントはソーシャルメディアアプリケーションから直接投稿を開いて詳細なコンテキストを取得できます。

エージェントは、Salesforce1 ナビゲーションメニューからすべてのソーシャル人格と投稿にアクセスできます。[ソーシャル人格] 項目と [ソーシャル投稿] 項目は、メニューの [最近] セクションに含まれます。

投稿に返信するには、エージェントは Salesforce Classic を使用する必要があります。Salesforce1 では、モデレーションページや認証ページは使用できません。

段階的廃止の一環として Salesforce1 の従来のグラフを拡張グラフに置き換え (Summer '17 で全面廃止)

エディション

拡張グラフを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

従来のグラフは長い間 Salesforce1 エクスペリエンスの一部でしたが、廃止されました。Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで、従来のグラフは拡張グラフ (Lightning Experience グラフのモバイルバージョン) に置き換わります。新しいグラフ環境を備えた営業担当の携帯端末とタブレットの画面に [拡張グラフを有効化] が表示されるようになりました。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

従来のグラフは Summer '17 をもって廃止されます。従来のグラフが組織で廃止されたことにより、次が変更になります。

- Summer '17 では、Salesforce1 には拡張グラフのみが含まれ、無効にすることはできません。
- Summer '16 リリース以降で作成した組織の Salesforce1 ではすでに拡張グラフになっており、拡張グラフ以外は使用できません。これらの組織では、拡張グラフを無効にするオプションは [設定] に表示されません。
- フル Salesforce サイトでは従来のグラフが廃止になってもグラフに影響はありません (Salesforce Classic と Lightning Experience)。

詳細は、「Legacy Charts Retirement」のお知らせを参照してください。

メモ: 従来のグラフは段階的廃止の一環として廃止されるため、全面廃止の日付は今後のリリースにずれ込む可能性があります。リリースノートと従来のグラフの廃止のお知らせは、利用できるようになった情報で常に更新されます。

Salesforce1 での散布図 (および改善された表形式グラフとゲージグラフ) の表示

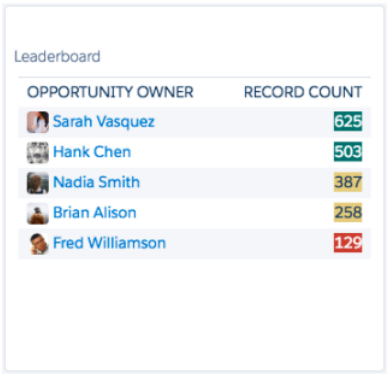
写真に 1,000 の言葉と同じ価値があるとしたら、1 枚のグラフは 1,000 個のインサイトと同じ価値があるでしょうか? その考え方で、Salesforce1 の拡張グラフを改善し続けています。表形式とゲージグラフに導入された改善にユーザが気づけば、1,000回の拍手がおきるはずです。ダッシュボードコンポーネントからレポートにドリルダウンすると、散布図でレポートデータが視覚化されるようになったため、ユーザはさらに 1,000 回拍手をするでしょう。これらの機能強化は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

エディション

拡張グラフを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

表形式グラフ: 条件付き強調表示、Chatter 写真、および並び替えの表示

ダッシュボードの表形式グラフは以前から Salesforce1 で使用できていましたが、今まではユーザが Salesforce Classic でこれらのコンポーネントに行った改良がモバイルアプリケーションに反映されていませんでした。Salesforce1 に条件付き強調表示、Chatter 写真 (商談所有者など)、および列によるデータの並び替えが表示されるようになりました。



ゲージグラフ: パーセンテージの表示

ゲージグラフも Salesforce1 の新機能ではありませんが、Salesforce Classic でパーセンテージが表示されるようにコンポーネントが設定されていれば、モバイルアプリケーションでパーセンテージが表示されるようになりました。

散布図: 集計値でグループ化されたレポートデータの視覚化

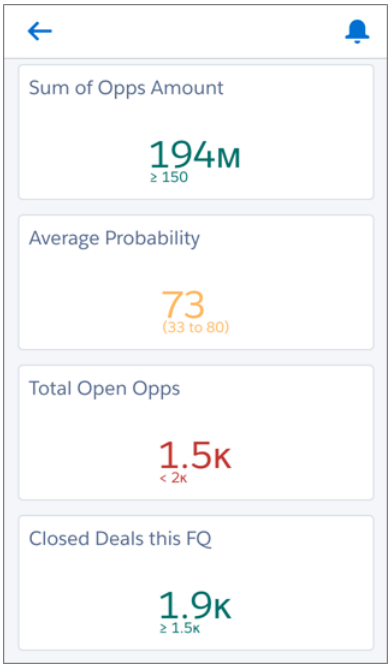
散布図が Salesforce1 で使用できるようになりました。散布図では、1 つ以上の集計項目のあるレポートが必要です。ユーザは、ダッシュボードコンポーネントから元のレポートにドリルダウンします。

Salesforce1 でのさらに多くのダッシュボード総計値の同時読み込み

Salesforce1 のダッシュボードの総計値を再設計し、営業担当が巨大なデバイスを持たなくてもいいように、モバイルデバイスに一度に表示できる情報を増やしました。デバイスの画面サイズに応じて、Salesforce1 には一度に 1 ～ 2 個の総計値が表示されていました。今回、スクロールなしで 4 個～5 個の総計値を表示でき、データの比較が簡単になりました。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

エディション

拡張グラフを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



Chatter への拡張グラフのスナップショットの投稿

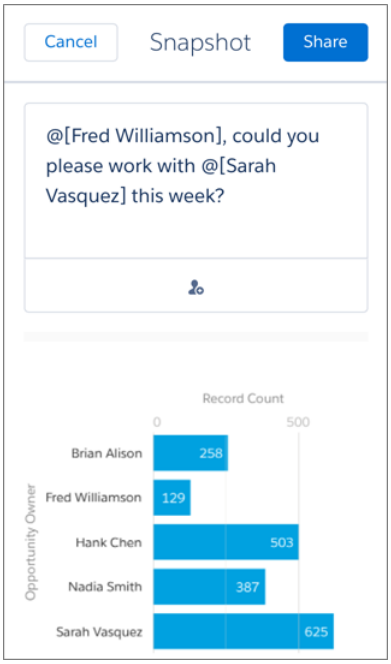
エディション

拡張グラフを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Salesforce1 の新しいグラフ共有機能により、ユーザは相互に最新の情報を保つことができます。ユーザは空き時間 (バスや飛行機を待っている時間など) を利用して、グラフのスナップショットを Chatter フィードに投稿し、フィードバックやアクションをチームに求めることができます。外出中の同僚でも最新情報を共有できます。モバイルユーザは、Salesforce1 で投稿を表示してスナップショットをデバイスに保存したり、実際のダッシュボードに直接リンクしたりできます。グラフスナップショットの共有は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。拡張グラフが組織で有効になっている必要があります。

この機能を有効にするには、[設定] の [レポートおよびダッシュボードの設定] ページから [ダッシュボードコンポーネントスナップショットを有効化] を選択します。

Chatterにグラフスナップショットを投稿するには、最初にダッシュボードコンポーネントからドリルダウンします。次に、アクションバーの [共有] をタップします。投稿で個々のユーザまたはグループにメンションして特定の同僚と直接スナップショットを共有します。

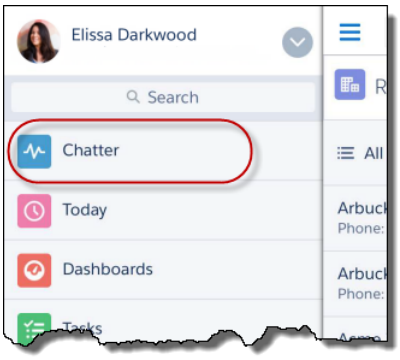


Salesforce1 ナビゲーションメニューのフィード項目が Chatter に名称変更

Lightning Experience での変更に合わせて、Salesforce1 ナビゲーションメニューのフィード項目も Chatter と呼ばれるようになりました。この変更は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションに適用されます。

新しい Chatter 表示ラベルは、次の場所に表示されます。

- [設定] の Salesforce1 ナビゲーションページ。Chatter 項目を使用して、メインの Chatter フィードをナビゲーションメニューに追加するようになりました。
- Salesforce1 ナビゲーションメニュー。Chatter を選択すると、ユーザのメインの Chatter フィードが開きます。ユーザは引き続きナビゲーションメニューの個別の項目から [グループ] および [人] にアクセスします。

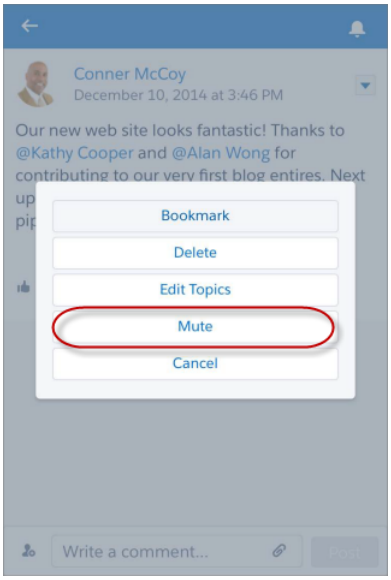


Salesforce1 でレポートを表示する場合、レコードのフィードのタブは依然として [フィード] と表示されます。

Salesforce1 の Chatter 項目の不要な情報の削減

お祝いの言葉や誕生日を祝う言葉を投稿することは素敵なことですが、特に現場にいるときは不必要に気が散ってしまう可能性があります。Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションユーザは、無関係または不要なフィード投稿をミュートして、重要な情報に集中できるようになりました。この機能は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

投稿をミュートするには、任意のフィードから投稿をタップし、▼をタップして[ミュート]を選択します。投稿は [自分がフォローするもの] フィードから削除されますが、[すべての会社] フィードには引き続き表示されます。投稿への変更の通知は、メンションされるまで停止されます。メンションされると、通知が再開します。

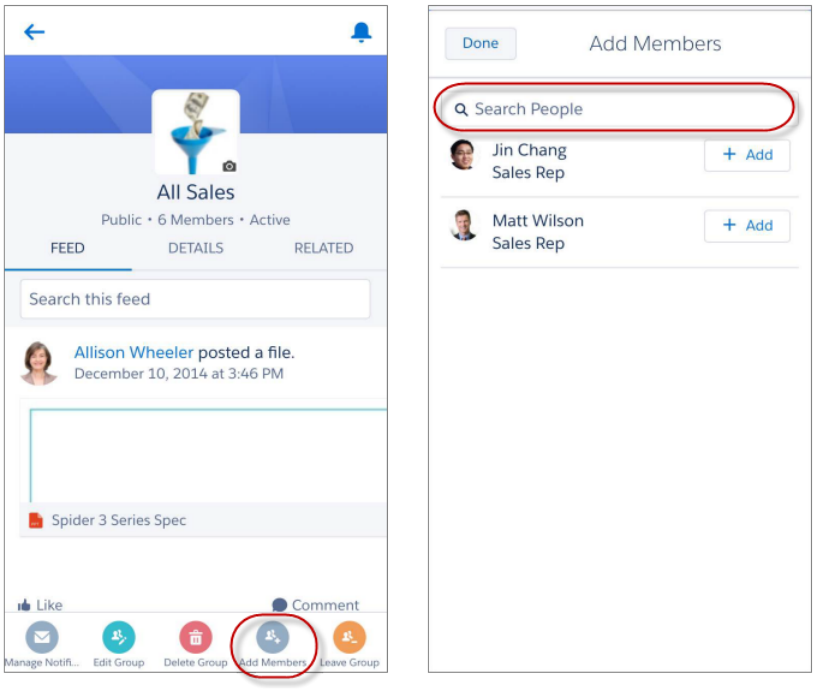


ミュートするには、[すべての会社] フィードの投稿に移動して ▼ をタップし、[ミュート解除] を選択します。

Salesforce1 でのグループメンバーシップの拡大

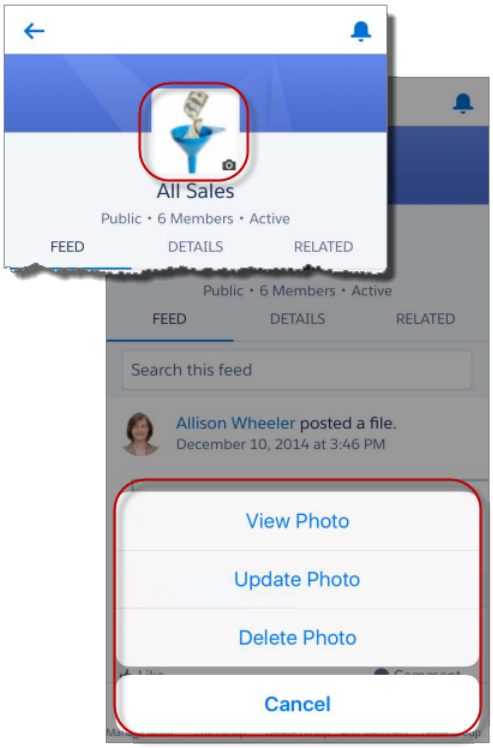
空のグループは寂しい場所です。外出先からグループメンバーシップを簡単に管理できるようにするために、グループ所有者およびマネージャはすべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションからメンバーをグループに追加できるようになりました。

[メンバーの追加]アクションはすべてのグループのアクションバーで使用できます。ユーザは、グループに属する全員を 1 回ですばやく追加できます。[メンバーの追加] ダイアログには、ユーザがやりとりしている同僚やグループに含めるべき同僚のリストが表示されます。また、ユーザはダイアログで検索して組織の任意のユーザを見つけることができます。時間を短縮するために、検索ボックスでは、検索ボックスに入力した文字に一致するメンバーが提案されます。



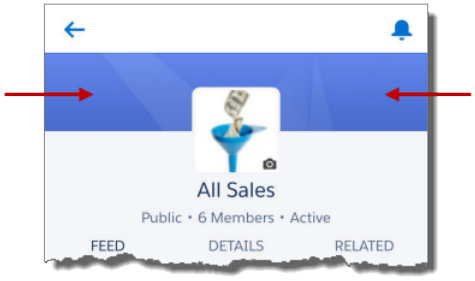
Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを使用したグループ写真の追加

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを使用しているグループ所有者およびマネージャは、モバイルデバイスから直接写真を追加してグループを活性化できます。チーム作りの行事では、メンバー全員の写真を撮って、チームのグループにすぐにアップロードしましょう。すぐにグループがもっと魅力的になるにちがいありません。以前は、Salesforce フルサイトと Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでしかグループ写真を追加できませんでした。



Salesforce1 でのプロファイルおよびグループバナーの表示

Lightning Experience のグループおよびユーザプロファイルに表示される洗練されたバナーはご存知ですよね? 組織で使用しているバナー画像(デフォルトのバナー画像またはカスタムバナー画像)に関係なく、Salesforce1 ユーザにもバナー画像が表示されるようになりました。バナーは、組織で Lightning Experience を使用している場合にのみ使用できます。グループバナーは、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションに表示されます。ユーザプロファイルバナーは、Salesforce1 for Android ダウンロード可能アプリケーションおよび Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションにのみ表示されます。



カスタムバナーの追加または変更は、Lightning Experience でのみ行うことができます。

Salesforce1 のアプリケーションホーム Lightning ページからのフローの実行 (ベータ)

ユーザは、アプリケーションホーム Lightning ページに Lightning スタイルのフローを追加して、Salesforce1 からそのフローを実行できます。この操作は、ポイント&クリックツールの Lightning アプリケーションビルダーを使用すれば簡単に実行できます。アプリケーションホーム Lightning ページは、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションでサポートされます。

エディション

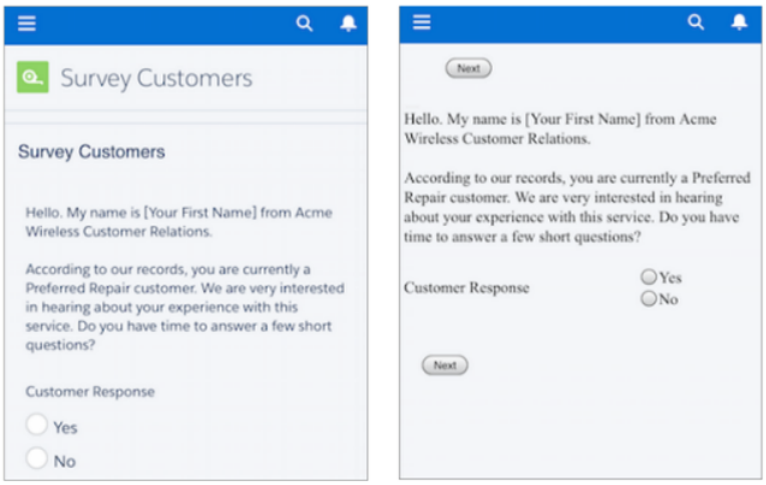
フローを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

メモ: 今回のリリースには、Lightning ページのベータバージョンのフローコンポーネントが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。フローコンポーネントは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Lightning ページのフローコンポーネントに関するフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

以前は、Visualforce タブにフローを埋め込んで、Salesforce1 ナビゲーションメニューに追加できました。ただし、ページのスタイルが Salesforce Classic インターフェースのようになっていました。Lightning アプリケーションビルダーでフローをアプリケーションホームページに追加すれば、無料で Lightning スタイルを取得できます。

例:

アプリケーションホームページのフローと **Visualforce** タブのフロー

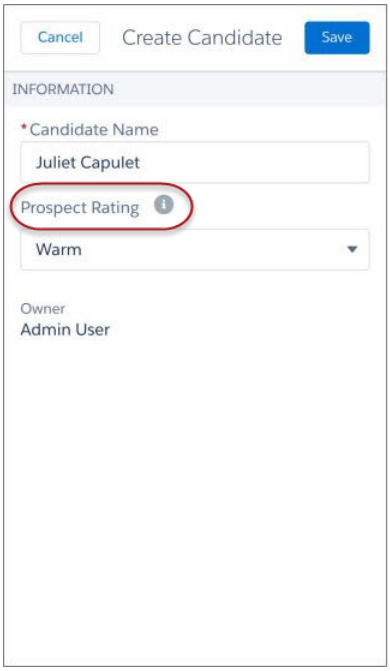


アプリケーションホームページの準備が整ったら、必ず有効化してください。この手順により、Salesforce1 ナビゲーションメニューに新しいページを追加できるようになり、ユーザがフローにアクセスできます。

Salesforce1 の項目レベルヘルプを表示

モバイルユーザは、Salesforce Classic と Lightning Experience で使用できる項目レベルヘルプを Salesforce1 で表示できるようになりました。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できます。

Salesforce1 を使用するときに項目のヘルプを表示するには、 アイコンをタップします。



[設定] を使用して組織の標準項目とカスタム項目のカスタムヘルプを定義できます (まだの場合)。Salesforce ヘルプの「項目レベルのヘルプの定義」を参照してください。

Salesforce1 の異なるまたは使用できない Winter '17 の機能

Salesforce1 モバイルアプリケーションでは、組織で Lightning Experience と Salesforce Classic のいずれを使用している場合でも、Salesforce フルサイトの一部の機能が含まれません。ここでは、Salesforce1 では使用できない、フルサイトで使用する場合と機能上の差異ある、またはモバイルアプリケーションでの動作が異なる Winter '17 Salesforce の拡張機能について説明します。

メモ: Salesforce1 とフルサイトの相違点の完全なリストは、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 モバイルアプリケーションで使用できない機能」を参照してください。

データのアクセスおよび表示

リストビュー

- Salesforce1 では、リストビューのレコードを複数選択できません。また、同時に複数のレコードにアクションを適用することもできません。
- リストビューのレコードの項目は編集できません。代わりに、ユーザはレコードを開いて [編集] アクションをタップできます。

レコードビューとレコードの [特長]

- Lightning アプリケーションビルダーを使用して行われたレコードの [特長] のカスタマイズ (項目やアクションを非表示にしたり、[特長] 領域が横方向ではなく縦方向に表示されるようにしたりするカスタマイズ) は、Salesforce1 には適用されません。
- レコード詳細ページのセクションを折りたたむことはできません。

セールス機能

取引先責任者-to-複数取引先

- [関連取引先責任者] 関連リストから個人取引先に移動すると、個人取引先レイアウトではなく取引先責任者ページレイアウトが表示されます。そのため、すべての項目、関連リスト、アクションが期待どおりに表示されないことがあります。

契約

- 契約での取引先責任者の役割は作成できません。

商談

- ユーザは価格表を価格表のない商談に関連付けることはできますが、フルサイトに戻って関連付けを変更する必要があります。
- ユーザは数量または収益スケジュールを設定した商品を商談に追加できますが、商品スケジュールの編集は Salesforce Classic でのみできます。

見積

- 見積 PDF は関連リストに表示されますが、参照できません。
- 複数の見積品目を同時に編集することはできません。
- 見積を検索することはできません。
- 次のアクションは実行できません。
  - 見積のメール送信
  - PDF の作成
  - 同期開始
  - 同期中止

カスタマーサービス機能

ケースの [メールを送信] アクション

- [メールを送信] パブリッシャーの CC および BCC 項目を折りたたむことはできません。
- Salesforce1 では、ケースの [メールを送信] アクションで HTML を使用できません。[メールを送信] アクションに ［HTML 内容］ 項目が含まれていても、HTML マークアップタグは [メールを送信] パブリッシャーや、アクションで作成されたメールに表示されません。
- Salesforce1 でケースの [メールを送信] アクションを使用している場合、メール添付ファイルを含めることはできません。
- デフォルトメールテンプレートがケースの [メールを送信] アクションに割り当てられている場合、テンプレートに含まれている添付ファイルは Salesforce1 で無視されます。添付ファイルは、[メールを送信] パブリッシャーに表示されず、アクションで作成されたメールに含まれません。

フィールドサービス Lightning

- フィールドサービス関連リストからレコードを作成する場合、レコードを保存するまで、親レコードを表示する項目に入力が行われません。たとえば、作業指示の [サービス予約] 関連リストでサービス予約を作成した場合、ユーザが [保存] をタップするまで ［親レコード］ 項目は空白です。レコードが作成されると、親レコード項目に親作業指示が表示されます。

ソーシャルカスタマーサービス

- ソーシャル投稿に返信するには、エージェントは Salesforce Classic を使用する必要があります。
- Salesforce1 では、モデレーションページや認証ページは使用できません。

レポートとダッシュボード

レポート

- ユーザは詳細を非表示にできません。
- Salesforce1 では、総計、小計、集計項目、レコード件数などの概要情報を使用できません。

Chatter

フィード

- ライブフィード更新やライブコメント更新はユーザに表示されません。ページをプルダウンしてフィードを更新します。
- ユーザはインライン画像をフィード投稿やフィードコメントに追加できません。

  フィード項目にインライン画像が含まれていても、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのメインフィードには表示されません。ダウンロード可能アプリケーションユーザには代わりに画像の名前のあるプレースホルダが表示されます。

- ユーザがフィード項目に追加できる添付ファイルは 1 つのみです。

  フィード項目に複数の添付ファイルが含まれていても、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのメインフィードには最初の添付ファイルのみが表示されます。

グループ

- グループメンバーのエンゲージメントデータは使用できません。
- グループ作成ウィザードは使用できません。
- ユーザは、ユーザプロファイルの写真にマウスポインタを置いてすばやくユーザ情報を確認できません。

ナビゲーションおよびアクション

- アプリケーションランチャーは使用できません。Salesforce1 では、ユーザは標準アプリケーションとカスタムアプリケーションを切り替えません。代わりに、ナビゲーションメニューを使用して、モバイルアプリケーションで使用できるすべてのオブジェクトおよびアプリケーションにアクセスできます。
- Salesforce1 では、Lightning Experience ユーティリティバーは使用できません。
- Salesforce1 では、[保存 & 新規] ボタンは使用できません。

検索

- Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでは、複数のオブジェクトではなく、選択したオブジェクトのみのインスタント結果が表示されます。

データの入力

- Salesforce1 の関連リストからレコードを作成した後に表示される成功メッセージには、Lightning Experience のように新しいレコードへのリンクが含まれません。

通知

転送通知

- Salesforce1 アプリケーションを閉じる (強制的に実行を停止する) と、ユーザがアプリケーションを再度起動するまで Salesforce1 の転送通知がユーザのデバイスに送信されません。

アクション可能な通知

- ユーザが Salesforce1 でユーザスイッチャを使用して複数のアカウントにサインインしている場合、現在の有効なユーザにのみアプリケーションからアクション可能な通知が配信されます。
- Salesforce1 でパスコードが求められ、パスコード画面が表示されている間にアクション可能な通知を受信しても、通知は表示されません。

Salesforce Authenticator: アカウントのバックアップ作成と復元、自動化された活動の通知、円が太くなったタイマー

アプリケーションで接続済みのアカウントをバックアップし、別の電話端末にそのアプリケーションをインストールする場合は、アカウントを復元できます。自動化された活動の通知も追加され、確認コードのコピーとタイマーの参照が従来よりも簡単になりました。Salesforce Authenticator は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで機能します。

このセクションの内容:

Salesforce Authenticator で自動化された活動に関する通知を受信
Salesforce Authenticator の自動化された活動が好評です。ロケーションベースの認証などの自動化された活動が発生した場合、タスクを実行した時間を通知します。自動認証の活動を追跡するもう一つの方法です。Salesforce Authenticator は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで機能します。

Salesforce Authenticator で接続済みのアカウントのバックアップ作成と復元
新しい電話端末はすばらしいですが、すべてのアプリケーションを再インストールするのは、ほとんどの場合楽しみというよりただの作業です。Salesforce Authenticator はこのようなプロセスを簡単にバックアップおよび復元できるようにします。アプリケーションで接続済みのアカウントをバックアップし、新品の電話端末にそのアプリケーションをインストールする場合は、アカウントを復元します。Salesforce Authenticator は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで機能します。

Salesforce Authenticator でコードのコピーとタイマーを簡単に参照
UI がスマートに改善されたことより、Salesforce Authenticator モバイルアプリケーションでの認証コードのコピーとタイマーの参照が簡単になりました。Salesforce Authenticator は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで機能します。

Salesforce Authenticator と Lightning Login でパスワードが不要に

パスワードが不要になりました。パスワードを覚えて、メンテナンスして入力する代わりに、Lightning Login で Salesforce Authenticator を使用できるようにしました。ユーザ名の横に稲妻が表示されているときに、ユーザ名をクリックします。携帯端末の通知をタップし、フィンガープリントまたは PIN で ID を確認します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Salesforce Authenticator でのアカウントの並び替え

特に接続アカウントの場合は、お気に入りを使った方がよいものです。認証で他のアカウントよりもよく使用するアカウントがある場合は、そのアカウントをリストの一番上にドラッグします。アカウントの並び替えは簡単です。アカウントをタップしたままで、上または下にドラッグします。

Salesforce Authenticator で自動化された活動に関する通知を受信

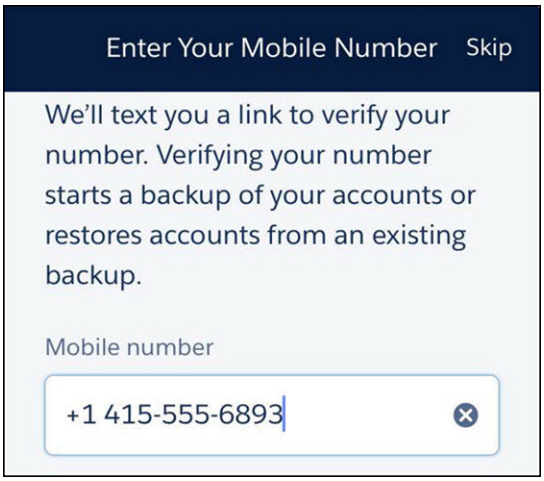
Salesforce Authenticator の自動化された活動が好評です。ロケーションベースの認証などの自動化された活動が発生した場合、タスクを実行した時間を通知します。自動認証の活動を追跡するもう一つの方法です。Salesforce Authenticator は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで機能します。

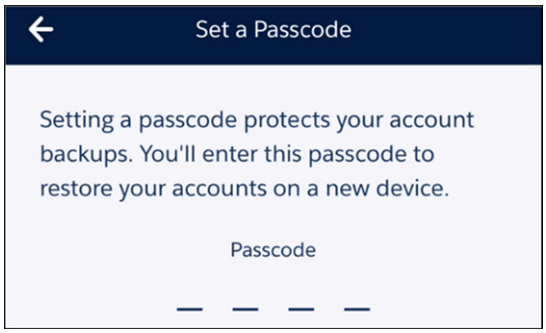
Salesforce Authenticator で接続済みのアカウントのバックアップ作成と復元

新しい電話端末はすばらしいですが、すべてのアプリケーションを再インストールするのは、ほとんどの場合楽しみというよりただの作業です。Salesforce Authenticator はこのようなプロセスを簡単にバックアップおよび復元できるようにします。アプリケーションで接続済みのアカウントをバックアップし、新品の電話端末にそのアプリケーションをインストールする場合は、アカウントを復元します。Salesforce Authenticator は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで機能します。

バックアップは、アプリケーションをインストール済み、またははじめてインストールするかに関わらず、簡単に有効にできます。通知を受信する場合は、[通知] メニューでバックアップを有効にできます。または、後で [設定] メニュー ( ) から有効にできます。

バックアップを有効にするには、Salesforce で携帯番号を確認し、極秘の 4 桁パスコードを選択します。これで、新しいデバイスで接続済みのアカウントを復元する設定がすべて完了しました。通常は、2 要素認証を使用するので、携帯番号 (携帯しているもの) とパスコード (知っているもの) 両方を使用してユーザを検証します。





新しいデバイスを所有している場合、Salesforce Authenticatorアプリケーションをインストールして、携帯番号を確認し、パスコードを入力します。これですべて完了です。新しい電話端末にすべての接続済みアカウントが表示されます。2分かからずに設定が完了します。

Salesforce Authenticator でコードのコピーとタイマーを簡単に参照

UIがスマートに改善されたことより、Salesforce Authenticatorモバイルアプリケーションでの認証コードのコピーとタイマーの参照が簡単になりました。Salesforce Authenticator は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで機能します。

各認証コードの横にあるタイマーの円が太くなりました。残り時間が少なくなると、色が緑から赤に変わります。

コードの手入力は不要です。コードをタップすると、画面上部に見やすいメッセージが表示され、コードをコピーしたことを確認します。コピーするために指で押さえたままにしたり、確認メッセージを見るために指の周辺をのぞきこんだりする必要はありません。

Salesforce Authenticator と Lightning Login でパスワードが不要に

パスワードが不要になりました。パスワードを覚えて、メンテナンスして入力する代わりに、Lightning Login で Salesforce Authenticator を使用できるようにしました。ユーザ名の横に稲妻が表示されているときに、ユーザ名をクリックします。携帯端末の通知をタップし、フィンガープリントまたはPINでIDを確認します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Lightning Login を使用するには、まずシステム管理者が組織を登録する必要があります。Lightning Login では、Android バージョン 5.0 (Lollipop) 以降または iOS 8 以降が必要です。

その後、合理化されたログインアクションを使用できます。iPhoneを使用している場合、フィンガープリントまたは PIN による識別を有効にします。Android 端末でフィンガープリントを使用するには、まずPIN、パターン、またはパスワードを設定します。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関連トピック:

Lightning Login を使用してパスワードなしでログイン

Salesforce Authenticator でのアカウントの並び替え

特に接続アカウントの場合は、お気に入りを使った方がよいものです。認証で他のアカウントよりもよく使用するアカウントがある場合は、そのアカウントをリストの一番上にドラッグします。アカウントの並び替えは簡単です。アカウントをタップしたままで、上または下にドラッグします。

Financial Services Cloud: Lightning ページとカスタマイズ

稲妻 (Lightning) に打たれるのは一度だけと言ったのはだれですか? Financial Services Cloud **が、クライアントと世帯をカスタマイズできる新しい** Lightning **ページを搭載して再登場です。一新された** Advisor Wave **が、** Financial Services Cloud **に埋め込まれた** Wave **ダッシュボードで大きな波を起こします。サーフボードをお忘れなく。**

メモ: **これらの新機能および機能強化を最大限活用する方法についての詳細は、** 『Financial Services Cloud Implementation Guide』 **を参照してください。**

エディション

Lightning Experience **で有料オプションで使用可能なエディション:** **Professional** Editions、**Enterprise** Editions、**Unlimited** Edition

このセクションの内容:

[クライアント] および [世帯] レコードページのカスタマイズ
すべての金融事業は独自にビジネスを経営しています。 Lightning **を有効にしたプロファイルを使用して、ドラッグアンドドロップ設定でクライアントと世帯のビューをカスタマイズできるようになりました。**

カスタム個人および世帯レコードタイプの作成
それぞれのビジネスには固有の個人クライアントおよび世帯があるため、 Financial Services Cloud **では、独自のカスタム個人および世帯レコードタイプを柔軟に作成できるようになりました。**

Financial Services Cloud の Wave
Wave **アプリケーションで、アドバイザリチームにインサイトから顧客リストを分析する機能を提供します。** Financial Services Cloud **に直接埋め込まれた** Wave **ダッシュボードで生産性を高め、運用資産を増やすために必要なコアアクションをすぐに判別できます。**

[クライアント] および [世帯] レコードページのカスタマイズ

すべての金融事業は独自にビジネスを経営しています。 Lightning **を有効にしたプロファイルを使用して、ドラッグアンドドロップ設定でクライアントと世帯のビューをカスタマイズできるようになりました。**

クライアント用と世帯用の新しい Lightning **ページで、[クライアント] と [世帯] のレコードページのカスタマイズが簡単かつ柔軟にできるようになりました。システム管理者は、** Lightning **アプリケーションビルダーを使用して** Lightning **コンポーネントを追加、削除、再編成できます。** Lightning **コンポーネントでは、他のコンポーネントにキャンバスを提供し、** Financial Services Cloud **から取得するデータ (資産、負債、金融口座および保険証券など) を表示できます。**

Financial Services Cloud **では、[クライアント] と [世帯] レコードページ両方の標準の** Salesforce **取引先ページが活用されます。この機能強化により、** Financial Services Cloud **ではタップして** Salesforce App Cloud **を活用できるようになりました。また、アドバイザーは追加のセグメント化 (絞り込み) オプションを使用できるようになり、標準** Salesforce **取引先ページへの新規更新も利用できるようになりました。**

関連トピック:

Lightning Experience: **最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス**

カスタム個人および世帯レコードタイプの作成

それぞれのビジネスには固有の個人クライアントおよび世帯があるため、Financial Services Cloud では、独自のカスタム個人および世帯レコードタイプを柔軟に作成できるようになりました。

カスタム個人レコードタイプを作成する場合、[個人レコードタイプの対応付け]を使用して、取引先レコードタイプと取引先責任者レコードタイプを新しいカスタム個人レコードタイプに関連付けます。カスタム世帯レコードタイプを作成する場合、[グループレコードタイプの対応付け]を使用して、取引先レコードタイプを新しいカスタム世帯レコードタイプに関連付けます。

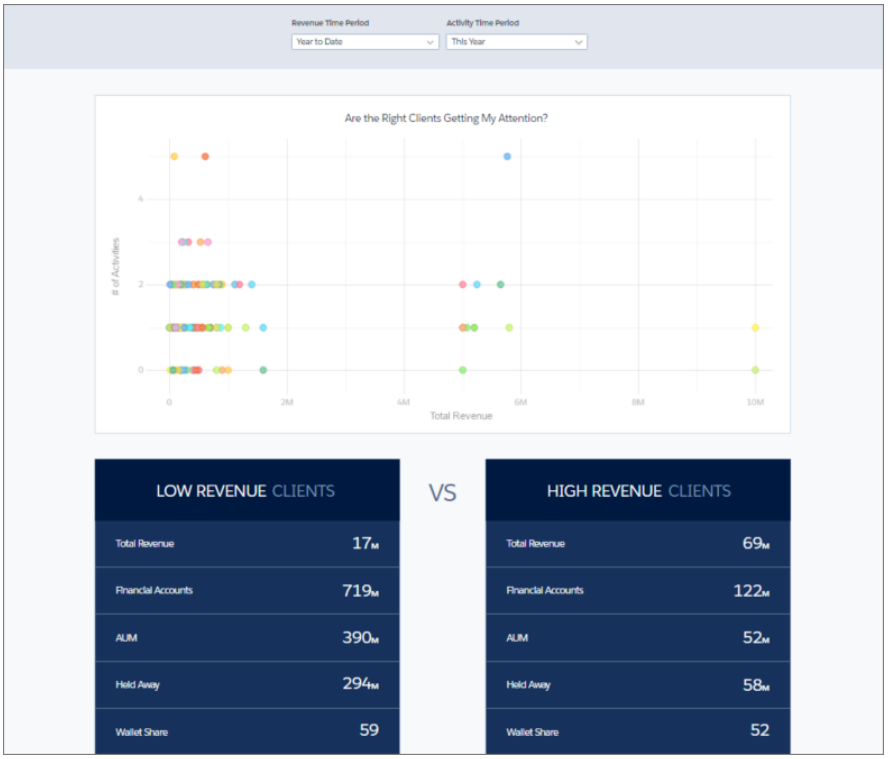
たとえば、会社に採用するアドバイザーのカスタム個人レコードタイプを作成できます。

Financial Services Cloud の Wave

Wave アプリケーションで、アドバイザリチームにインサイトから顧客リストを分析する機能を提供します。Financial Services Cloud に直接埋め込まれた Wave ダッシュボードで生産性を高め、運用資産を増やすために必要なコアアクションをすぐに判別できます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition



メモ: Financial Services Cloud の一部として、Wave for Financial Services Cloud も使用できるようになりました。このアプリケーションを使用すると、サブスクリプションの一部として自分用に事前設定されたデータセットにのみアクセスできます。ユーザがこのアプリケーションを使用して、他のデータのアップロードやアクセスを行うことがないようにしてください。Salesforce では、そのような使用を監視することがあります。Wave for Financial Services Cloud は英語でのみ使用できます。

Financial Services Cloud のコア機能が、管理パッケージとして提供される Financial Services Cloud - Wave によって拡張されました。ビジネスインテリジェンスのエキスパートでなくても、ファイナンシャルアドバイザーはクライ

アントデータから必要な情報を取得できます。業界のベストプラクティスに基づいてデータフローとダッシュボードが事前設定されるため、アドバイザーはよりスマートかつ迅速に意思決定を下すことができます。データのスライスアンドダイスにより、アドバイザリチームはFinancial Services Cloudを一切離れることなく、顧客リストで新しい商談を見つけることができます。必要なのは、簡単な数ステップでFinancial Services Cloud - Waveをインストールすることだけです。インストールしたら、チーム全体がすぐに使用できます。

埋め込まれたダッシュボード:

- Client List(クライアントリスト):堅牢な検索機能で注目するクライアントのリストを取得し、アドバイザーの価格リスト全体で財務データポイントと取引先の詳細を明らかにします。
- 80/20:アドバイザリ活動とクライアントの収益を比較して時間を最大活用し、可能性の高いクライアントに適用する主要なアクションを識別します。
- 活動:異なる活動種別のコンテキストでインタラクションを分析し、クライアントリレーションにどう影響するかを確認します。将来のエンゲージメントを改善するためのギャップと機会を識別します。
- 金融口座:タイムリーに市場の状況に対応するために、アドバイザーの顧客リストを構成する金融口座と証券の種類を明らかにします。
- Client Goals(クライアントの目標):アドバイザーの顧客リスト全体でクライアントの目標を測定し、主要なトレンドを特定して、クライアントデータのコンテキストでToDoまたは商談を作成して、アドバイザーがクライアントを管理しやすくします。

メモ: Financial Services Cloudの注文書にWave for Financial Services Cloud管理パッケージへのリンクが含まれていない場合、[ヘルプ & トレーニング]でサポートにケースを登録し、そのリンクを取得してください。

Health Cloud: ケアプランテンプレートなど

Salesforceは、ケアコーディネータがより多くの仕事ができ、患者への関わりが増えるように、開発を進めています。

エディション

Health Cloudを使用可能なエディション: Salesforce Classic

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

ケアプランテンプレートで患者の受け入れを簡略化
患者の取引先レコードへのアクセスがさらに簡単に

ケアプランテンプレートで患者の受け入れを簡略化

ケアプランテンプレートを使用すれば、クリックを数回するだけでカスタマイズされた患者ケアプランを作成できます。ケアコーディネータのワークフローから「ワーク(作業)」をなくしましょう。コーディネータは問題、目標、およびToDoを一括して患者のケアプランに追加できます。会社のケアプランテンプレートをHealth Cloudに読み込めます。定義済みテンプレート読み込めば、ケアプランテンプレートを作成する時間を短縮でき、ケアの標準を適用してヘルスケアの成果を高めることができます。

患者の取引先レコードへのアクセスがさらに簡単に

患者の取引先レコードが[詳細]タブで公開され、ケアコーディネータがより容易にアクセスできるようになりました。[患者の詳細]タブのページレイアウトの改良により、取引先レコードに関連付けられた患者レコードが表示されるようになりました。

個人またはグループのカスタムレコードタイプの設定

Health Cloud では、個人および世帯(グループ)のカスタムレコードタイプを柔軟に設定できます。たとえば、医師を個人レコードタイプとして、病院をグループレコードタイプとして追加できます。Health Cloud によって提供されるデフォルトの個人レコードタイプまたはグループレコードタイプに基づいて、カスタムレコードタイプを簡単に設定できます。

Health Cloud の新しいカスタムオブジェクト

次のカスタムオブジェクトが新規追加されました。

ケアプランテンプレートで患者の受け入れを簡略化

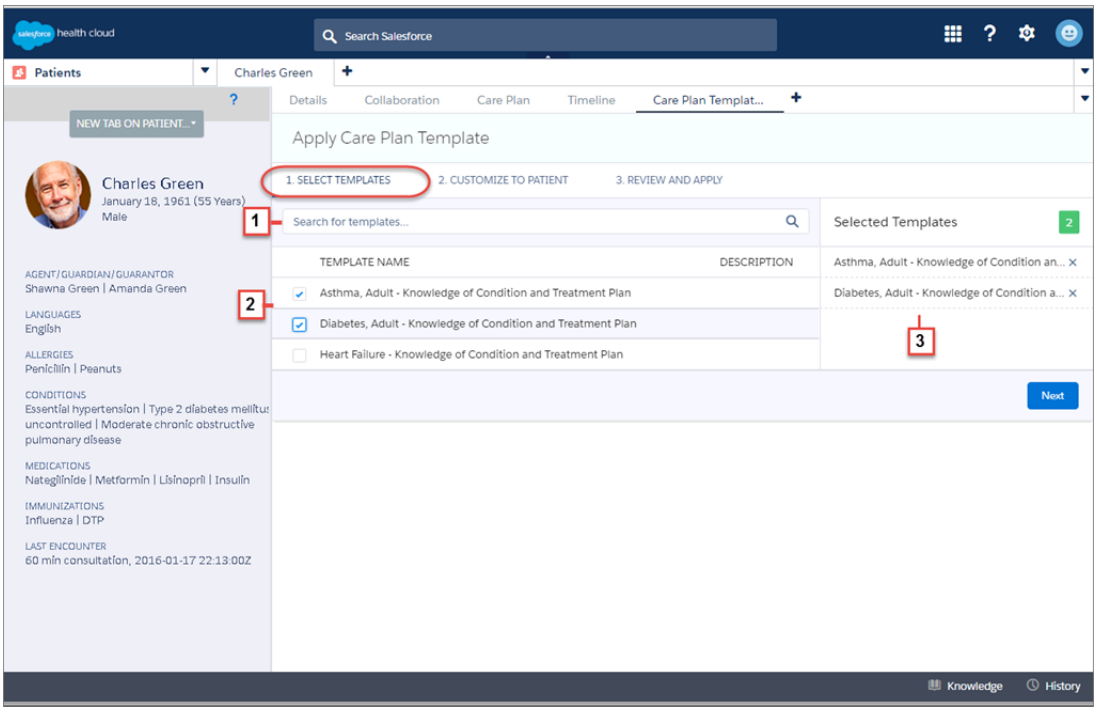
ケアプランテンプレートを使用すれば、クリックを数回するだけでカスタマイズされた患者ケアプランを作成できます。ケアコーディネータのワークフローから「ワーク(作業)」をなくしましょう。コーディネータは問題、目標、および ToDo を一括して患者のケアプランに追加できます。会社のケアプランテンプレートを Health Cloud に読み込めます。定義済みテンプレート読み込めば、ケアプランテンプレートを作成する時間を短縮でき、ケアの標準を適用してヘルスケアの成果を高めることができます。

エディション

Health Cloud は Salesforce Classic で使用できます。

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

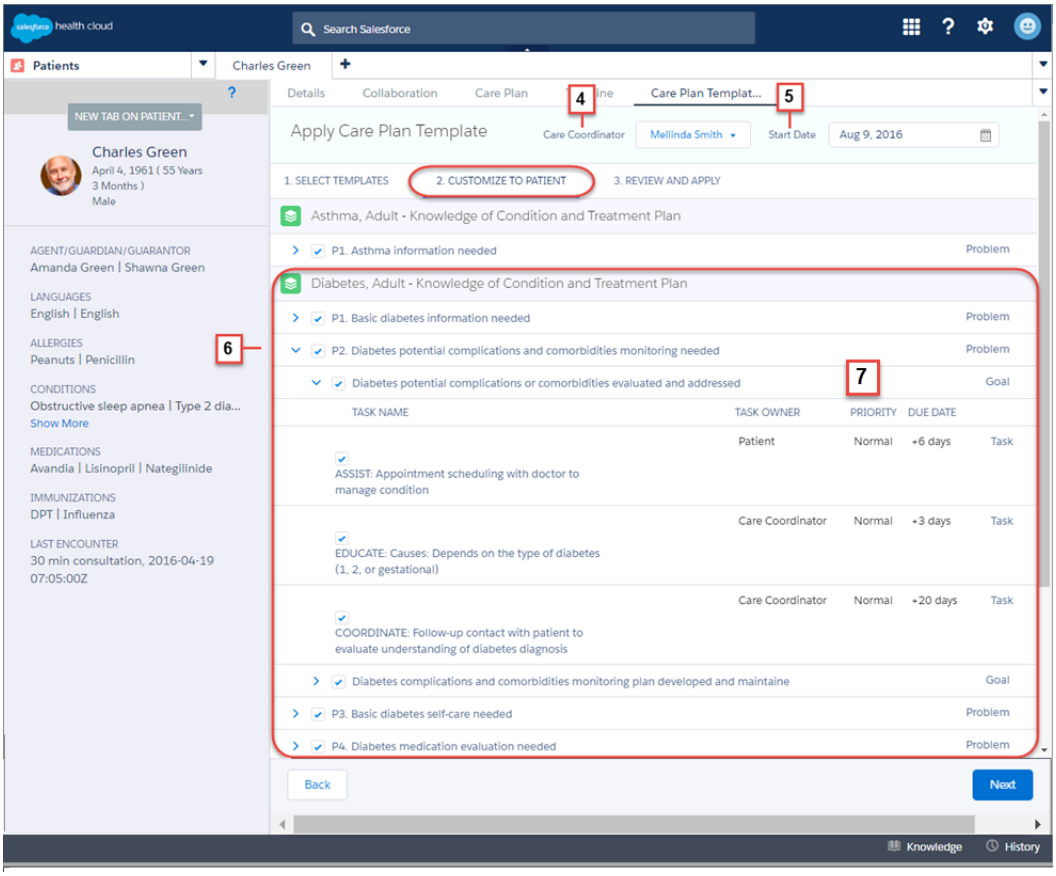
Salesforce 内で独自のテンプレートを作成するか、大手コンテンツプロバイダからテンプレートを購入し、データローダを使用してインポートします。コーディネータは、Health Cloud コンソールから患者の疾患に合ったテンプレートを選択します。必要な問題、目標、ToDo を選択し、患者に適用します。これで、問題、目標、ToDo が患者のケアプランに表示されるので、ケアコーディネータはケアの進展にそって患者を導くのが容易になります。



[テンプレートの選択] タブを使用して、テンプレートを選択し、患者に適用します。

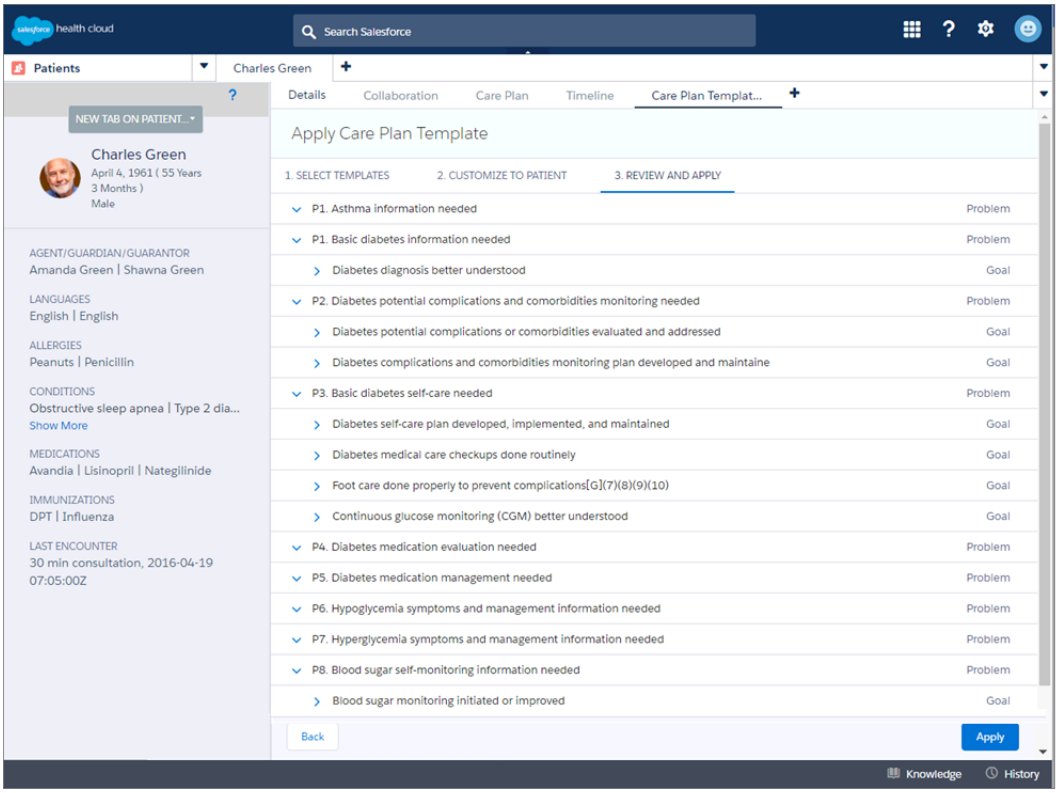
- 検索テキストボックスに名前を入力してテンプレートを検索 (1) します。

- テンプレート (2) を選択して患者に適用します。患者あたり 5 つのテンプレートまで追加できます。
- [選択済みのテンプレート] セクション (3) にテンプレートが表示されます。リストからテンプレートを削除する場合は、テンプレート名の横の [X] をクリックします。



[患者用にカスタマイズ] タブでケアプランを調整して患者固有のヘルスケアニーズに合わせます。

- ケアの連携のための ToDo (予定のスケジュール作成、フォローアップの電話など) を担当するケアコーディネータの名前 (4) を選択します。患者がコミュニティのメンバーではなく、ToDo に割り当てできない場合は、ケアコーディネータがこれらの ToDo に割り当てられます。内部 Salesforce ユーザでケアチームのメンバーであるケアコーディネータのみがリストに表示されます。
- 患者のケアプランを開始した日付 (5) を選択します。この日付は、ケアプランに関連付けられた問題、目標、ToDo のアンカー日付です。オフセット日付がある ToDo ではこの日付が開始点となり、割り当てオフセットが開始日付に追加されます。たとえば、テンプレートの開始日が 12 月 9 日で、ToDo のオフセットが *+7 日*の場合は、ToDo の期日は 12 月 16 日になります。
- 各ケアプランテンプレート (6) には、デフォルトで選択された関連する問題が表示されます。デフォルトの問題や目標が患者に合ったものではない場合は、問題または目標とその子項目をケアプランから削除できます。たとえば、患者にはすでに血糖コントロールが供給されていれば、供給を行う ToDo は削除できます。問題を削除すると、それに関連付けられた目標と ToDo が削除されます。
- 問題に関連付けられた目標と ToDo (7) を表示するには、三角形をクリックして個々のセクションを展開します。ToDo のリストを展開すると、所有者、優先度、およびオフセット日付の数値が表示できます。



患者に適用する前にケアプランを確認します。[適用] をクリックすると、問題、目標および ToDo を含むケアプランが患者の [ケアプラン] タブに追加されます。

患者の取引先レコードへのアクセスがさらに簡単に

患者の取引先レコードが [詳細] タブで公開され、ケアコーディネータがより容易にアクセスできるようになりました。[患者の詳細] タブのページレイアウトの改良により、取引先レコードに関連付けられた患者レコードが表示されるようになりました。

取引先責任者レコードをタブに表示する場合は、カスタムメタデータ型に属する Health Cloud 設定の HcFeatureDriver 設定を変更します。デフォルト設定を変更するとき、またはカスタムページのレイアウトを使用する場合は、関連付けられているページレイアウトも変更する必要があります。

たとえば、取引先レイアウトを変更するには、次の手順を実行します。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*取引先*」と入力し、[取引先] を選択します。
2. [患者レイアウト] の横にある [編集] を選択します。
3. ページ上部にある [カスタムコンソールコンポーネント] リンクを選択します。
4. [主タブコンポーネント] セクションで [左サイドバー] セクションに次の情報を追加します。

項目	値
スタイル	積み上げ
幅 px	350

項目	値
コンポーネントの自動サイズ調整	選択済み
種別	Visualforce ページ
コンポーネント	PatientProfile_Page
高さ %	100

個人またはグループのカスタムレコードタイプの設定

Health Cloud では、個人および世帯(グループ)のカスタムレコードタイプを柔軟に設定できます。たとえば、医師を個人レコードタイプとして、病院をグループレコードタイプとして追加できます。Health Cloud によって提供されるデフォルトの個人レコードタイプまたはグループレコードタイプに基づいて、カスタムレコードタイプを簡単に設定できます。

カスタム個人レコードタイプを設定するには、まず取引先(個人)レイアウトを使用してカスタム取引先レコードタイプを作成し、取引先責任者(個人)レイアウトを使用してカスタム取引先責任者レコードタイプを作成します。カスタム世帯レコードタイプまたはカスタムグループレコードタイプを設定するには、まず取引先(世帯)レイアウトを使用してカスタム取引先レコードタイプを作成します。

Health Cloud の新しいカスタムオブジェクト

次のカスタムオブジェクトが新規追加されました。

CarePlanTemplate__c
ケアプランを作成するために使用されるテンプレートを表します。ケアプランにはケアコーディネータが疾患を管理および軽減するために使用する問題、目標、ToDo が含まれます。

CarePlanTemplateGoal__c
ケアプランテンプレートに含まれる目標を表します。

CarePlanTemplateProblem__c
ケアプランテンプレートに含まれる問題を表します。

CarePlanTemplateTask__c
ケアプランテンプレートに含まれる ToDo を表します。

エディション

Health Cloud を使用可能なエディション: Salesforce Classic

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

カスタマイズ: 改善された Lightning Experience の [設定]、柔軟性が向上した Lightning ページ、外部オブジェクトのレポート

このリリースは、ポイント & クリック操作を行うシステム管理者にとって多くの利点があります。Lightning Experience の [設定] でグローバル検索を使用して情報を探すことができます。Lightning ページや選択リスト値を詳細に制御できます。会社で外部オブジェクトを使用している場合、保存場所に関係なくすべてのデータについてレポートを実行できます。

カスタマイズ機能は、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観の更新、ビジネスプロセスの追加、Webサイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張するのに役立ちます。しかもすべてポイント & クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

このセクションの内容:

Lightning Experience の [設定]: 設定レコードの迅速な検索と Lightning アプリケーションの管理

Salesforce ではお客様の時間の節約に全力を費やしています。このリリースで、[設定] に移動しなくても [設定] の情報を検索できるようになりました。グローバル検索を使用するだけです。もちろん、Lightning アプリケーションのあらゆるニーズに対応する Lightning Experience アプリケーションマネージャも確認してください。これらの機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Lightning アプリケーションビルダー: アプリケーションへのレコードページの割り当て、アプリケーションページテンプレートの増加、コンポーネントリストの更新

Lightning アプリケーションビルダーの担当チームは、新しい優れた各種拡張機能の作成に精力的に取り組んできました。カスタムレコードページをさまざまなLightningアプリケーションに割り当てたり、1つのレコードページをすべてのLightningアプリケーションのデフォルトページにしたりできるようになりました。アプリケーションページの新しいテンプレートや管理対象 Lightning ページの参照のみのビューが作成されました。それだけではありません。アプリケーションビルダー全体を更新せずに、コンポーネントリストを更新できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Salesforce Connect: 外部オブジェクトレポート、拡張されたコミュニティサポート、フィードベースのレイアウト、検索の改善

Salesforce Connect 外部オブジェクトのレポートを実行したり、カスタマーサービス (Napili) テンプレートで構築されたコミュニティに外部データを公開したりできるようになりました。また、フィードベースのページレイアウトを作成して検索結果を増やすこともできます。

プロセスビルダー: プロセスの呼び出しとより多くの項目へのアクセス

プロセスビルダーは常に改善されていきます。別のプロセスからプロセスを呼び出すことができるようになりました。また、所有者項目や暗号化項目にアクセスすることもできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

選択リスト管理: 容易な値の管理、強化された API、Lightning Experience でのグローバル選択リスト

選択リストの機能がさらに拡張されました。選択リスト値を必要に応じて細かくまたは大まかに管理できる方法が追加されました。改善されたユーザインターフェースフローで[設定]から選択リスト値を管理し、あらゆる種類の選択リストで値を追加、置換、または削除するオプションが追加されました。または、拡張されたメタデータ API 構造を使用して、[設定] 以外で選択リストを定義できます。グローバル選択リストによるデータ管理の合理化を Lightning Experience の [設定] で使用できるようになりました。

データのインポート: キャンペーンメンバーとデータローダの新バージョン

Force.com プラットフォームでは、データインポートウィザードのキャンペーンメンバーのインポートが改善されて、データを簡単に管理できるようになりました。たとえば、1つのファイルから取引先責任者、個人取引先、リードをキャンペーンメンバーとしてインポートできます。また、データローダの新バージョンでは、サポートされるオペレーティングシステムが増加しています。

共有: 再適用の精度と効率の向上

オブジェクト固有の共有ロックを使用すると、オブジェクト単位で共有ルールを再適用できます。非同期並列再適用を使用すると、組織の共有設定をより効率的に再適用できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

全般的な管理: Lightning コンポーネントアクション

このリリースの最大の特徴は、Lightning コンポーネントアクション (Apex と JavaScript をサポートする Lightning Experience のアクション) です。また、権限セットライセンスの管理方法が簡略化され、ページレイアウトエディタ、ユーザ詳細ページ、および Cloud Flow Designer の一部の要素がクリーンアップされました。

Lightning Experience の [設定]: 設定レコードの迅速な検索と Lightning アプリケーションの管理

Salesforce ではお客様の時間の節約に全力を費やしています。このリリースで、[設定] に移動しなくても [設定] の情報を検索できるようになりました。グローバル検索を使用するだけです。もちろん、Lightning アプリケーションのあらゆるニーズに対応する Lightning Experience アプリケーションマネージャも確認してください。これらの機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

グローバル検索で Lightning Experience 設定を検索

クィック検索の代わりにグローバル検索を使用して、リードソース選択リストや営業担当プロファイルなどの特定の設定レコードを検索できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

アプリケーションマネージャを使用したアプリケーションの一元管理

Lightning Experience アプリケーションマネージャによって Lightning Experience の [設定] が強化されました。アプリケーションの作成と管理をすべて 1 か所でできるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

Lightning Experience の [設定] でのグローバル選択リストの管理

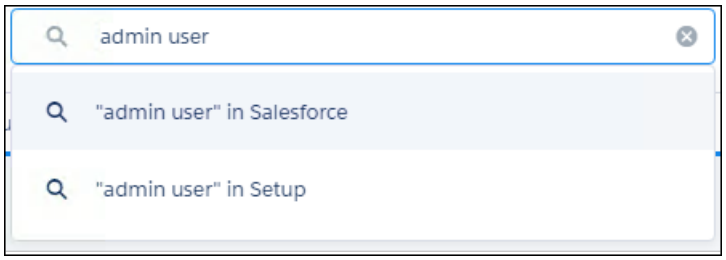
どちらのユーザインターフェースからでもグローバル選択リスト値セットを作成して管理できるようになりました。[設定] ですべての選択リストを管理するために、何度も切り替える必要はもうありません。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

グローバル検索で Lightning Experience 設定を検索

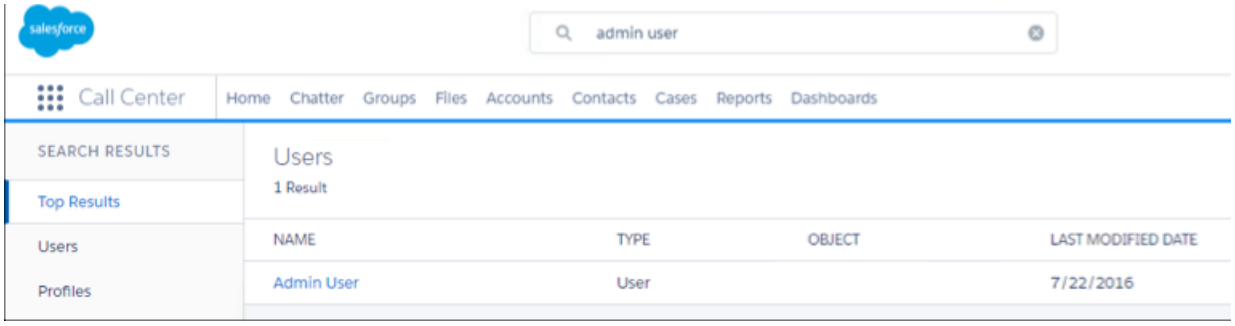
クィック検索の代わりにグローバル検索を使用して、リードソース選択リストや営業担当プロファイルなどの特定の設定レコードを検索できるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

[設定] で、設定レコードの名前をグローバル検索に入力します。たとえば、[ユーザ] を参照しないですばやく管理ユーザを検索し、パスワードをリセットできます。検索結果ページで、グローバル検索の下の検索範囲バーを使用して、特定の設定オブジェクトへの結果のみを表示します。

例: グローバル検索は [設定] および Salesforce 全体で検索する場合のオプションです。



例: [上位の結果] には最も頻繁に使用する [設定] オブジェクトの結果が含まれるので、ここから始めることをお勧めします。



設定検索には制限事項がいくつかあります。

- グローバル検索の設定検索結果の表示は、[設定] で行う必要があります。
- 一部の [設定] オブジェクトは検索できません。
- 設定レコードの名前でのみ検索できます。
- グローバル検索の下にある検索範囲バーに表示される設定レコードはカスタマイズできません。
- 検索レイアウトはカスタマイズできません。
- 結果の並び替えや絞り込みはできません。

アプリケーションマネージャを使用したアプリケーションの一元管理

Lightning Experience アプリケーションマネージャによって Lightning Experience の [設定] が強化されました。アプリケーションの作成と管理をすべて 1 か所でできるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

アプリケーションマネージャを見つけるには、[設定] から、［クイック検索］ボックスに「アプリケーションマネージャ」と入力し、[アプリケーションマネージャ] を選択します。

関連トピック:

Lightning Experience でのカスタムアプリケーションの作成とより効率的なナビゲーション

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience の [設定] でのグローバル選択リストの管理

どちらのユーザインターフェースからでもグローバル選択リスト値セットを作成して管理できるようになりました。[設定] ですべての選択リストを管理するために、何度も切り替える必要はもうありません。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

関連トピック:

- Lightning Experience でのグローバル選択リストの作成と管理

Lightning アプリケーションビルダー: アプリケーションへのレコードページの割り当て、アプリケーションページテンプレートの増加、コンポーネントリストの更新

Lightning アプリケーションビルダーの担当チームは、新しい優れた各種拡張機能の作成に精力的に取り組んできました。カスタムレコードページをさまざまな Lightning アプリケーションに割り当てたり、1 つのレコードページをすべての Lightning アプリケーションのデフォルトページにしたりできるようになりました。アプリケーションページの新しいテンプレートや管理対象 Lightning ページの参照のみのビューが作成されました。それだけではありません。アプリケーションビルダー全体を更新せずに、コンポーネントリストを更新できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

カスタムレコードページを Lightning アプリケーションに割り当てるか、すべてのデフォルトとして設定

Lightning アプリケーションビルダーでカスタムレコードページを有効化するとき、2 つのオプションのいずれかを選択できるようになりました。レコードページをすべてのユーザのデフォルトにできます。または、レコードページを 1 つ以上の Lightning アプリケーションに割り当て、作業中のアプリケーション向けにカスタマイズされたページにユーザがアクセスできるようにします。

Lightning アプリケーションビルダーで新しくインストールされたコンポーネントをコンポーネントリストの更新で表示

Lightning アプリケーションビルダー内のあるページで作業をしているとします。開発者のひとりが、ある新しい Lightning コンポーネントが、あなたが使用するために組織にリリースされたと言ったとします。この新コンポーネントにアクセスするために、アプリケーションビルダー全体を更新する必要はなくなりました。ボタンをクリックして、このコンポーネントリストのみを更新できます。新たに追加されたコンポーネントはリスト内で強調表示されます。

Lightning アプリケーションビルダーの新しいアプリケーションページテンプレートを使用した新しいスタイルのアプリケーションページの作成

Lightning アプリケーションビルダーの新しい [ヘッダーと 2 列] テンプレートでは、異なる方法でアプリケーションページのレイアウトをカスタマイズできます。このテンプレートで作成されたアプリケーションページは、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

フィードコンポーネントの名称変更と 2 つの新規 Chatter コンポーネントの導入

Lightning アプリケーションビルダーで、フィードコンポーネントという名前が Chatter に変更されました。これは、パブリッシャーとフィードで構成されます。新しい Chatter パブリッシャーと Chatter フィードを使用してフィードを各部分に分解する 2 つの新規コンポーネントも作成されました。パブリッシャーとフィードをページ上の任意の場所に別個に配置できるようになりました。

フローコンポーネントによる Lightning ページの強化 (ベータ)

Lightning アプリケーションビルダーに新しいコンポーネントが追加されました。フローコンポーネントを使用して、有効なフローを Lightning ページに埋め込みます。

Lightning アプリケーションビルダーで管理パッケージから参照のみの Lightning ページを表示および有効化

これまで、Lightning アプリケーションビルダーでは管理ページを開けませんでした。今後、参照のみのエディタで管理パッケージから Lightning ページを開き、確認、有効化、または無効化できます。

レポートグラフコンポーネントの動的サイズ変更

レポートグラフコンポーネントが、表示されているページのサイズに対してより動的に反応するようになりました。横方向は自動的にサイズ変更され、最大幅 800 ピクセルまでの大きな表示領域いっぱいに表示されるようになりました。高さは 300 ピクセルに制限されています。この機能強化は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンに適用されます。

Lightning アプリケーションビルダー で AppExchange からコンポーネントを追加

統合 AppExchange エクスペリエンスを Lightning アプリケーションビルダーで使用できるようになりました。サードパーティコンポーネントをユーザインターフェースから直接参照してインストールできるため、かつてなく簡単に事前作成済みソリューションをプロジェクトに追加できます。

レコードの強調表示パネルの合理化による表示データの増加

Lightning アプリケーションビルダーの新しい属性を使用すると、強調表示パネルを少ないスペースで表示したり、表示されるボタンを削減したり、横方向から縦方向に方向を変更したりできます。これらのカスタマイズにより、ページのスクロールやヘッダーの切り捨てが削減されて、ユーザは一目で重要な情報を簡単に確認できます。強調表示パネルは、Lightning Experience でのみ使用できます。

カスタムレコードページを Lightning アプリケーションに割り当てるか、すべてのデフォルトとして設定

Lightning アプリケーションビルダーでカスタムレコードページを有効化するとき、2 つのオプションのいずれかを選択できるようになりました。レコードページをすべてのユーザのデフォルトにできます。または、レコードページを 1 つ以上の Lightning アプリケーションに割り当て、作業中のアプリケーション向けにカスタマイズされたページにユーザがアクセスできるようにします。

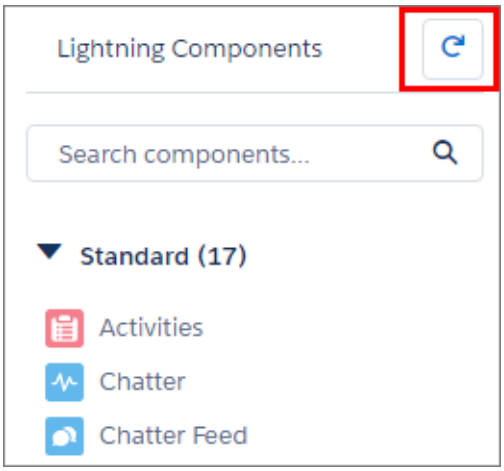
オブジェクトマネージャの [Lightning レコードページ] 関連リストの [アプリケーション別割り当て] 列を使用して、各レコードページの割り当て先の Lightning アプリケーションを確認します。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

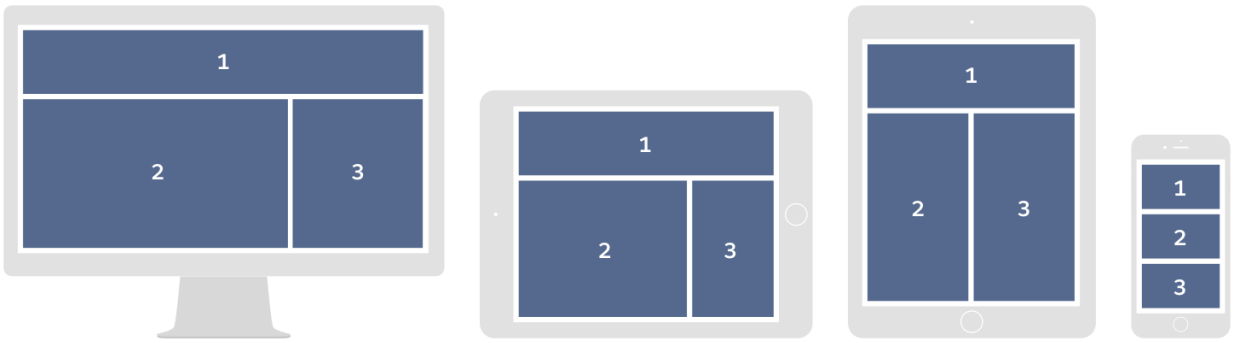
Lightning アプリケーションビルダーで新しくインストールされたコンポーネントをコンポーネントリストの更新で表示

Lightning アプリケーションビルダー内のあるページで作業をしているとします。開発者のひとりが、ある新しい Lightning コンポーネントが、あなたが使用するために組織にリリースされたと言ったとします。この新コンポーネントにアクセスするために、アプリケーションビルダー全体を更新する必要はなくなりました。ボタンをクリックして、このコンポーネントリストのみを更新できます。新たに追加されたコンポーネントはリスト内で強調表示されます。



Lightning アプリケーションビルダーの新しいアプリケーションページテンプレートを使用した新しいスタイルのアプリケーションページの作成

Lightning アプリケーションビルダーの新しい [ヘッダーと 2 列] テンプレートでは、異なる方法でアプリケーションページのレイアウトをカスタマイズできます。このテンプレートで作成されたアプリケーションページは、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

フィードコンポーネントの名称変更と 2 つの新規 Chatter コンポーネントの導入

Lightning アプリケーションビルダーで、フィードコンポーネントという名前が Chatter に変更されました。これは、パブリッシャーとフィードで構成されます。新しい Chatter パブリッシャーと Chatter フィードを使用してフィードを各部分に分解する 2 つの新規コンポーネントも作成されました。パブリッシャーとフィードをページ上の任意の場所に別個に配置できるようになりました。

同じページ上のパブリッシャーとフィードのペアリングは、追加のコーディングなしで自動的に行われます。

フローコンポーネントによる Lightning ページの強化 (ベータ)

Lightning アプリケーションビルダーに新しいコンポーネントが追加されました。フローコンポーネントを使用して、有効なフローを Lightning ページに埋め込みます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

メモ: 今回のリリースには、Lightning ページのベータバージョンのフローコンポーネントが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。フローコンポーネントは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Lightning ページのフローコンポーネントに関するフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

詳細は、Visual Workflow セクションの「Lightning Experience および Salesforce1 へのフローの追加 (パイロット)」を参照してください。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning アプリケーションビルダーで管理パッケージから参照のみの Lightning ページを表示および有効化

これまで、Lightning アプリケーションビルダーでは管理ページを開けませんでした。今後、参照のみのエディタで管理パッケージから Lightning ページを開き、確認、有効化、または無効化できます。

レポートグラフコンポーネントの動的サイズ変更

レポートグラフコンポーネントが、表示されているページのサイズに対してより動的に反応するようになりました。横方向は自動的にサイズ変更され、最大幅 800 ピクセルまでの大きな表示領域いっぱいに表示されるようになりました。高さは 300 ピクセルに制限されています。この機能強化は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンに適用されます。

Lightning アプリケーションビルダー で AppExchange からコンポーネントを追加

統合AppExchangeエクスペリエンスをLightningアプリケーションビルダーで使用できるようになりました。サードパーティコンポーネントをユーザインターフェースから直接参照してインストールできるため、かつてなく簡単に事前作成済みソリューションをプロジェクトに追加できます。

統合 AppExchange エクスペリエンスの動作を確認するには、Lightning アプリケーションビルダーでページを開きます。次に、**[AppExchange で追加コンポーネントを取得]** をクリックして、カスタム Lightning ページにプラグイン可能な一連のコンポーネントを参照します。

関連トピック:

AppExchange と Salesforce 組織がついに統合

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

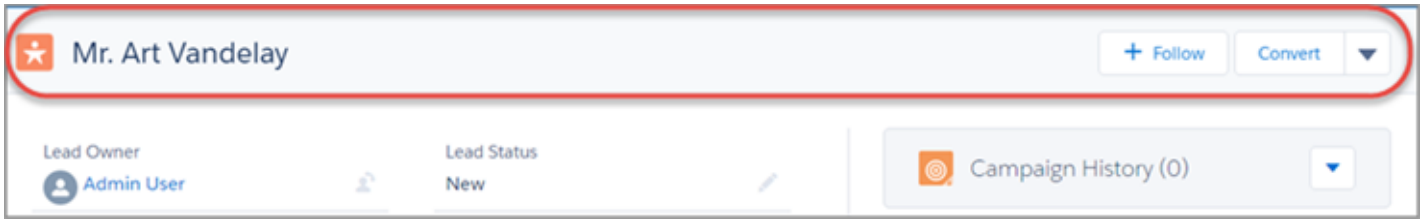
レコードの強調表示パネルの合理化による表示データの増加

Lightningアプリケーションビルダーの新しい属性を使用すると、強調表示パネルを少ないスペースで表示したり、表示されるボタンを削減したり、横方向から縦方向に方向を変更したりできます。これらのカスタマイズにより、ページのスクロールやヘッダーの切り捨てが削減されて、ユーザは一目で重要な情報を簡単に確認できます。強調表示パネルは、Lightning Experience でのみ使用できます。

新しい属性にアクセスするには、Lightningアプリケーションビルダーのキャンバスで強調表示パネルをクリックします。[折りたたみ済] および [表示アクションの数] 属性は、プロパティペインにあります。

たとえば、[表示アクションの数] を使用して、ボタンの数を 1 に制限します。ただし、[フォローする] ボタンは常に表示されます。

次に、[折りたたみ済] 属性が有効になっていて、[表示アクションの数] が 1 に設定されているリードレコードレイアウトの例を示します。



強調表示パネルを横方向または縦方向に表示するには、横方向または縦方向の目的のサイズの領域に [強調表示パネル] コンポーネントをドラッグします。強調表示パネルは領域のスペースに合わせて調整されます。たとえば、狭い列にドラッグすると、強調表示パネルは縦方向に表示されます。全画面幅の列にドラッグすると、強調表示パネルは横方向に表示されます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Salesforce Connect: 外部オブジェクトレポート、拡張されたコミュニティサポート、フィードベースのレイアウト、検索の改善

Salesforce Connect 外部オブジェクトのレポートを実行したり、カスタマーサービス (Napili) テンプレートで構築されたコミュニティに外部データを公開したりできるようになりました。また、フィードベースのページレイアウトを作成して検索結果を増やすこともできます。

エディション

使用可能なエディション: **Developer** Edition

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

外部オブジェクトレポート — システムの境界を越えたデータのシームレスな表示
カスタマーサービス (Napili) テンプレートで構築されたコミュニティでの外部オブジェクトデータの公開
外部オブジェクトのフィードベースのページレイアウトの作成
外部オブジェクトの検索結果の増加

外部オブジェクトレポート — システムの境界を越えたデータのシームレスな表示

お待たせしました! 外部オブジェクトをレポートに含めることができるようになりました。留意すべき制限事項と考慮事項がまだいくつか残っていますが、保存場所に関係なくすべてのデータのレポートを実行できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

カスタマーサービス (Napili) テンプレートで構築されたコミュニティでの外部オブジェクトデータの公開

コミュニティメンバーが Salesforce 組織外に保存したデータを必要とする場合があります。Salesforce Connect でそのデータにアクセスするように組織を設定し、外部オブジェクトデータをコミュニティに公開します。以前は、Salesforce タブ + Visualforce テンプレートで構築されたコミュニティのみが外部オブジェクトにアクセスできました。カスタマーサービス (Napili) テンプレートで構築されたコミュニティでも外部オブジェクトを使用できるようになりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

外部オブジェクトのフィードベースのページレイアウトの作成

レコードのフィード用と詳細および関連リスト用に 1 つずつ、別個のビューが含まれているため、ユーザは外部オブジェクトレコードを処理しやすくなります。ユーザは、フィードビューと詳細ビューを切り替えて、いつでも必要な情報に注力できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

外部オブジェクトの検索結果の増加

外部オブジェクトの検索結果が 25 行に制限されなくなりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

外部オブジェクトレポート — システムの境界を越えたデータのシームレスな表示

お待たせしました!外部オブジェクトをレポートに含めることができるようになりました。留意すべき制限事項と考慮事項がまだいくつか残っていますが、保存場所に関係なくすべてのデータのレポートを実行できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

外部オブジェクトのレポートを設定する手順の概要は、次のとおりです。

1. 外部オブジェクトで [レポートを許可] を選択します。
   レポートを有効にすると、[その他のレポート] レポートタイプカテゴリに次のレポートタイプが作成されます。
   - 外部オブジェクトのレポートタイプ
   - 両方のオブジェクトでレポートを許可する各参照関係のレポートタイプ

     外部参照関係または間接参照関係のレポートタイプは作成されませんが、これらのリレーションのカスタムレポートタイプを作成することはできます。
2. 必要に応じて、カスタムレポートタイプを作成します。
   *レポートタイプ*では、主オブジェクトとその関連オブジェクトとの関係に基づいて、レポートで使用するレコードと項目のセットが定義されます。レポートには、レポートタイプで定義された条件を満たすレコードのみが表示されます。
3. エンドユーザとしてレポートを作成およびテストします。
4. 該当するユーザにカテゴリフォルダとカスタムレポートタイプの名前を通知して、外部オブジェクトのレポートを作成および実行できるようにします。

ユーザ権限

外部オブジェクトを作成または編集する
- 「アプリケーションのカスタマイズ」

カスタムレポートタイプを作成または更新する
- 「カスタムレポートタイプの管理」

レポートを作成または編集する
- 「レポートの作成とカスタマイズ」

  および

  「レポートビルダー」

レポートを実行する
- 「レポート実行」

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Report Considerations for Salesforce Connect—All Adapters (Salesforce Connect — すべてのアダプタのレポートに関する考慮事項) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 外部オブジェクトリレーション

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

カスタマーサービス (Napili) テンプレートで構築されたコミュニティでの外部オブジェクトデータの公開

コミュニティメンバーが Salesforce 組織外に保存したデータを必要とする場合があります。Salesforce Connect でそのデータにアクセスするように組織を設定し、外部オブジェクトデータをコミュニティに公開します。以前は、Salesforce タブ + Visualforce テンプレートで構築されたコミュニティのみが外部オブジェクトにアクセスできました。カスタマーサービス (Napili) テンプレートで構築されたコミュニティでも外部オブジェクトを使用できるようになりました。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

カスタマーサービス(Napili)テンプレートで構築されたコミュニティに外部オブジェクトを公開するには、関連付けられた外部データソースを設定します。次の設定要件に注意してください。

- [高データボリューム]をオフにします。
- [ID 種別]を[指定ユーザ]または[匿名]に設定します。

  [ID 種別]を[ユーザ]に設定することもできますが、コミュニティメンバーは独自のログイン情報を設定できません。ただし、外部システムの各ユーザの認証設定は、Lightning Experience または Salesforce Classic から設定および管理できます。

例: 販売用のパートナーコミュニティがあり、商品の注文情報をバックオフィスの統合業務ソフトシステムに保存しているとします。その情報を販売パートナーに公開すると、販売パートナーは保存場所に関係なくすべての関連データのコンテキスト内で注文を表示および更新できるようになります。

関連トピック:

テンプレート主導のコミュニティで外部データソースからコンテンツを公開
Salesforce ヘルプ: 外部データソースの定義
Salesforce ヘルプ: 外部データソースの ID 種別
Salesforce ヘルプ: 外部システムの認証設定の保存

外部オブジェクトのフィードベースのページレイアウトの作成

レコードのフィード用と詳細および関連リスト用に 1 つずつ、別個のビューが含まれているため、ユーザは外部オブジェクトレコードを処理しやすくなります。ユーザは、フィードビューと詳細ビューを切り替えて、いつでも必要な情報に注力できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

外部オブジェクトのフィードベースのページレイアウトを設定する手順の概要は、次のとおりです。

1. 外部オブジェクトのフィード追跡を有効にします。
2. 外部オブジェクトのレイアウトを作成します。そのためには、[フィードベースのレイアウト]を選択します。
3. ページレイアウトをユーザプロファイルに割り当てます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フィードベースのページレイアウトの作成
Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

ユーザ権限

項目追跡設定ページを参照する
- 「設定・定義を参照する」

ページレイアウトを作成、編集、および削除する
- 「アプリケーションのカスタマイズ」

ページレイアウトを割り当てる
- 「プロファイルと権限セットの管理」

外部オブジェクトの検索結果の増加

外部オブジェクトの検索結果が 25 行に制限されなくなりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

プロセスビルダー: プロセスの呼び出しとより多くの項目へのアクセス

プロセスビルダーは常に改善されていきます。別のプロセスからプロセスを呼び出すことができるようになりました。また、所有者項目や暗号化項目にアクセスすることもできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

再利用可能なプロセスの作成

別のプロセスから呼び出せるプロセスを作成できるようになりました。呼び出し可能なプロセスでは、プロセスのセクションを再利用できます。1 つの呼び出し可能なプロセスを作成し、複数のプロセスまたは同じプロセスの複数のアクショングループからコールします。この再利用の機能により、貴重な時間を節約できます。気に入らない人はいませんよね?

1 か所でのプロセス種別の表示

[私のプロセス]でプロセスのリストを表示するときは、追加された新しい列[プロセス種別]を確認してください。この列では、特定のプロセスが呼び出し可能かどうかを確認できます。空白のセルは、呼び出し不可能なプロセスであることを示します。

プロセスビルダーからの所有者項目へのアクセス

プロセスビルダーで所有者の項目にアクセスして、ケースの所有者のメールや名前を参照したりできるようになりました。以前は、`OwnerId` は参照できましたが、所有者の項目は参照できませんでした。他の複数のオブジェクトで所有される可能性のあるオブジェクト (User や Queue など) を操作している場合、参照するオブジェクトの項目を選択できます。

プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (パイロット)

プロセスビルダーで暗号化項目がサポートされるようになりました ([レコードを更新] アクションなどの検索条件の場合を除く)。プラットフォームの暗号化は、Salesforce Classic で使用できます。プロセスビルダーは、Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

1 か所でのプロセスのバージョン履歴の表示

以前のリリースでは、プロセスバージョンを管理する方法が2つありました。今は1つだけです。バージョン履歴が、プロセスのプロパティに表示されなくなっています。

再利用可能なプロセスの作成

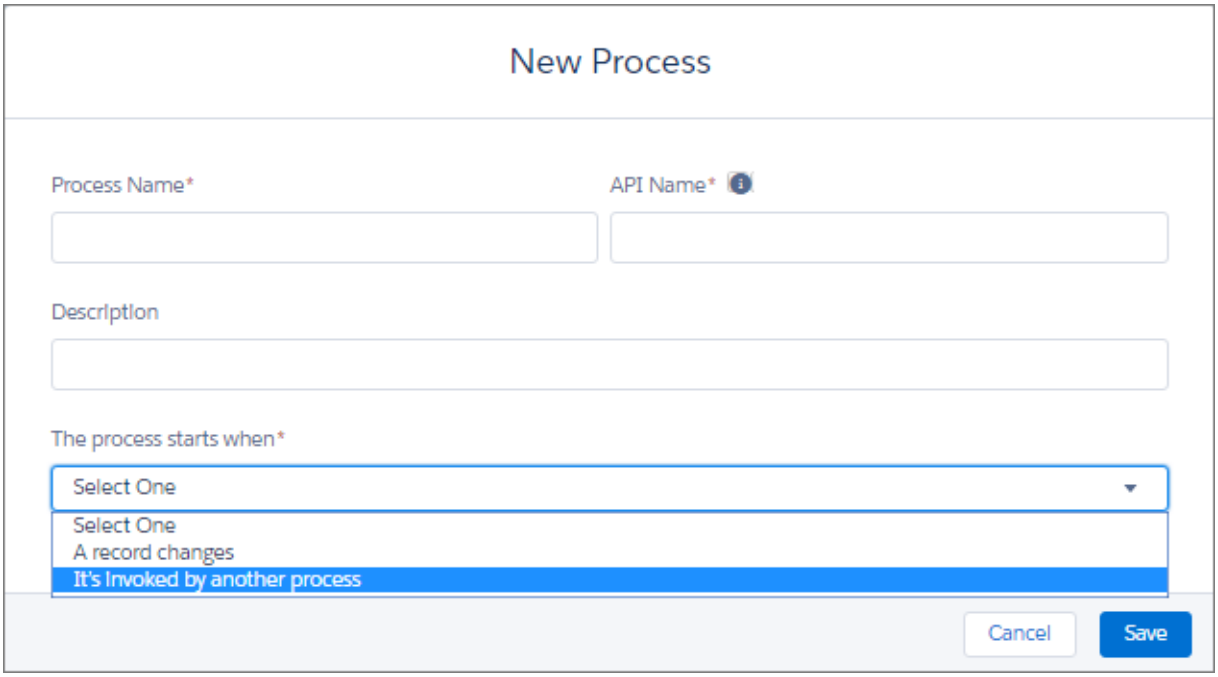
別のプロセスから呼び出せるプロセスを作成できるようになりました。呼び出し可能なプロセスでは、プロセスのセクションを再利用できます。1 つの呼び出し可能なプロセスを作成し、複数のプロセスまたは同じプロセスの複数のアクショングループからコールします。この再利用の機能により、貴重な時間を節約できます。気に入らない人はいませんよね?

1 つ以上の一意の ID を共有するオブジェクトでプロセスを呼び出すことができます。たとえば、取引先オブジェクトとケースオブジェクトでは、`AccountId` 項目が取引先に固有で、ケースでも使用されています。ケースレコードを更新する呼び出し可能なプロセスを作成できます。その後、次のプロセスから呼び出すことができます。

- 取引先レコードの所有者を更新するプロセス
- 取引先の納入先住所を追加または更新するプロセス

別のプロセスを呼び出すプロセスを作成する場合、各プロセスはプロセスの制限および他の該当する制限に対してカウントされます。プロセスを呼び出すプロセスの DML 制限は、1 つのトランザクションとしてカウントされます。

プロセスを作成するとき、別のプロセスが[別のプロセスから呼び出されたとき]を選択して呼び出すとそのプロセスが開始するようにします。



オブジェクトを追加するときは、選択するオブジェクトに注意してください。選択内容によって、作成中のプロセスをどのプロセスから呼び出せるかが決まります。1 つ以上の一意の項目 ID を共有するオブジェクトに基づくプロセスのみがプロセスを呼び出したり、別のプロセスから呼び出されたりできます。

作成しているプロセスで別のプロセスを呼び出す場合も簡単です。プロセスアクションを定義または編集するときに [プロセス] を選択します。使用できるのは、有効かつ呼び出し可能なプロセスのみです。

関連トピック:

Idea Exchange: プロセスビルダー内からの別のプロセスの起動

Idea Exchange: True の場合のディシジョンツリー

Idea Exchange: プロセスビルダーへの判定ボックスの導入

Idea Exchange: プロセスに入るための初期検索条件の用意

Idea Exchange: ネストされた基準 (If ステートメント)

Idea Exchange: プロセスビルダーの階層の作成

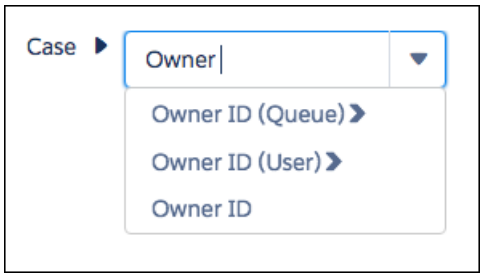
1 か所でのプロセス種別の表示

[私のプロセス] でプロセスのリストを表示するときは、追加された新しい列 [プロセス種別] を確認してください。この列では、特定のプロセスが呼び出し可能かどうかを確認できます。空白のセルは、呼び出し不可能なプロセスであることを示します。

プロセスビルダーからの所有者項目へのアクセス

プロセスビルダーで所有者の項目にアクセスして、ケースの所有者のメールや名前を参照したりできるようになりました。以前は、`OwnerId` は参照できましたが、所有者の項目は参照できませんでした。他の複数のオブジェクトで所有される可能性のあるオブジェクト (User や Queue など) を操作している場合、参照するオブジェクトの項目を選択できます。

例: 組織でケースのキューを使用しているとします。ケースの所有者はユーザまたはキューになるため、User と Queue の両方の項目にアクセスできます。



関連トピック:

Idea Exchange: 所有者項目へのアクセス

プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (パイロット)

プロセスビルダーで暗号化項目がサポートされるようになりました ([レコードを更新] アクションなどの検索条件の場合を除く)。プラットフォームの暗号化は、Salesforce Classic で使用できます。プロセスビルダーは、Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

メモ: 数式項目、フロー、プロセスビルダーの暗号化のサポートは、Developer Edition や、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition の Sandbox で利用できるパイロットプログラムです。このパイロットへの参加についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

例: [取引先名] を暗号化している場合、その項目の値は更新できますが、その項目に基づいて絞り込むことはできません。

関連トピック:

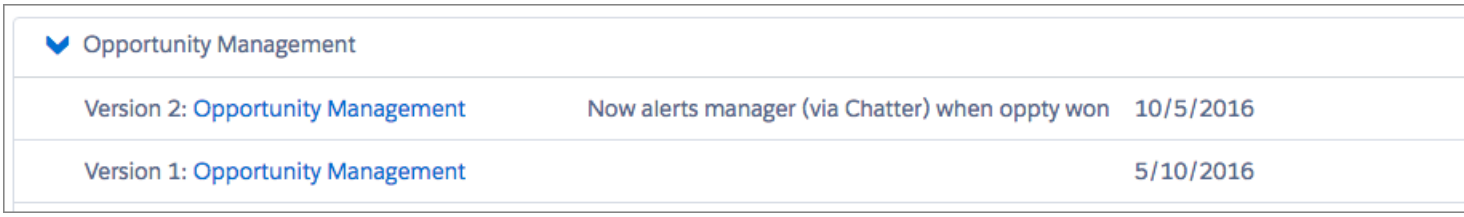
カスタム数式項目、フロー、プロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (パイロット)

1 か所でのプロセスのバージョン履歴の表示

以前のリリースでは、プロセスバージョンを管理する方法が 2 つありました。今は 1 つだけです。バージョン履歴が、プロセスのプロパティに表示されなくなっています。

プロセスのバージョン履歴を表示する手順は、次のとおりです。

1. プロセス管理ページに移動します。
2. プロセス名の横のキャレットをクリックします。



選択リスト管理: 容易な値の管理、強化された API、Lightning Experience でのグローバル選択リスト

選択リストの機能がさらに拡張されました。選択リスト値を必要に応じて細かくまたは大まかに管理できる方法が追加されました。改善されたユーザインターフェースフローで [設定] から選択リスト値を管理し、あらゆる種類の選択リストで値を追加、置換、または削除するオプションが追加されました。または、拡張されたメタデータ API 構造を使用して、[設定] 以外で選択リストを定義できます。グローバル選択リストによるデータ管理の合理化を Lightning Experience の [設定] で使用できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

このセクションの内容:

グローバル選択リストによる選択リストのメンテナンスの合理化 (正式リリース)

カスタム選択リスト項目およびオブジェクトで効率よく値を共有するには、グローバル選択リストから*グローバル値セット*を使用する選択リスト項目を作成します。グローバル選択リストは常に制限付きであり、ユーザは誤った値や重複する値をAPIを介して追加できないため、選択リストデータがクリーンに保たれます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Lightning Experience でのグローバル選択リストの作成と管理

[設定] ですべての選択リストを管理するために、何度も切り替える必要はもうありません。どちらのユーザインターフェースからでもグローバル選択リスト値セットを作成して管理できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

選択リストの連動関係でのグローバル値セットの使用

選択リストの連動関係をより効率的に管理できます。グローバル値セットを使用するローカルのカスタム選択リストと連動するローカルのカスタム選択リストを作成できるようになりました。グローバル値セットは、1か所で定義して共有できます。その値セットを必要に応じた数のローカルのカスタム選択リストとその連動選択リストに使用できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

グローバル選択リストの値の置換

既存のレコードの選択リスト項目値をより柔軟に最新の状態に保つことができるようになりました。グローバル値セットを使用するカスタム選択リストの値を簡単に置き換えることができます。これまで、共有選択リストでは、この種の項目レベルの置換ができませんでした。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

ユーザインターフェースからの共有選択リストのデータ型の変換

選択リスト値は、十分だったり、不十分だったりすることがあります。グローバル値セットを使用するカスタム選択リストを、複数選択から単一選択 (またはその逆) に、直接ユーザインターフェースから切り替えることができるようになりました。データの微調整を柔軟に行うことができます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

無制限カスタム選択リストの無効な値の管理

無制限選択リスト値を容易に無効化または再有効化して、変化するビジネスニーズに合わせることができます。準備ができる前に値をすべて削除する必要がなくなります。値を無効化しても、その選択リスト値を使用する既存のレコードに影響はありません。今後もその値がレコードに必要なくなったときに削除できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

既存のカスタム選択リストの必須化

カスタム選択リスト項目を必須にして、空白の選択リスト項目やデータの歪曲を減らすことができます。カスタム選択リスト項目の作成時、または既存のカスタム選択リスト項目の変更時に、項目を必須に設定できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

選択リストのユーザインターフェース表示ラベルの更新

選択リスト設定の新しいユーザインターフェース表示ラベルでは、グローバル値セットやカスタム選択リスト項目の追跡が容易になります。新しい名称により、グローバル選択リスト値セット、ローカルのカスタム選択リスト、選択リスト値が明確に区別されます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

選択リストのメタデータ API の合理化

選択リストのメタデータ API が刷新され、API コールを散らかす無駄な要素がなくなり、簡潔かつ効率的になりました。新しい構造では、グローバル選択リスト値セット、ローカルのカスタム選択リスト、標準選択リストが明確に区別され、項目と値を非常に簡単に追跡できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

標準選択リストの制限の引き上げ

エントリあたりの文字数制限が 255 文字になり、標準の複数選択リストをより詳細に設定できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

グローバル選択リストによる選択リストのメンテナンスの合理化 (正式リリース)

カスタム選択リスト項目およびオブジェクトで効率よく値を共有するには、グローバル選択リストから *グローバル値セット* を使用する選択リスト項目を作成します。グローバル選択リストは常に制限付きであり、ユーザは誤った値や重複する値を API を介して追加できないため、選択リストデータがクリーンに保たれます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

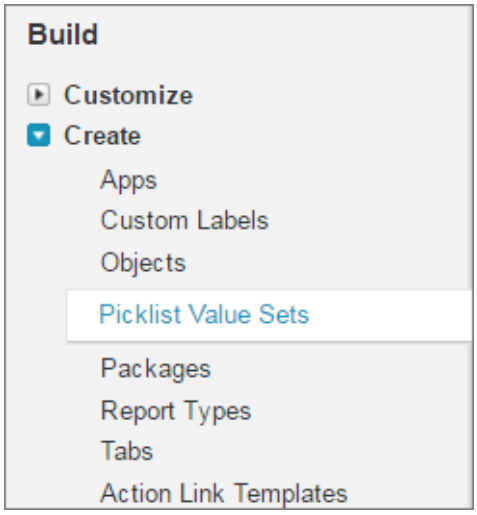
メモ: グローバル選択リストに関するフィードバックやご意見を送信するには、Salesforce Success コミュニティの Global, Restricted Custom Picklists グループ にアクセスしてください。

グローバル選択リストは、本質的に「制限付き」選択リストです。グローバル選択リストを作成すると、指定した値のリストは保護されています。システム管理者のみが値を追加または編集できます。

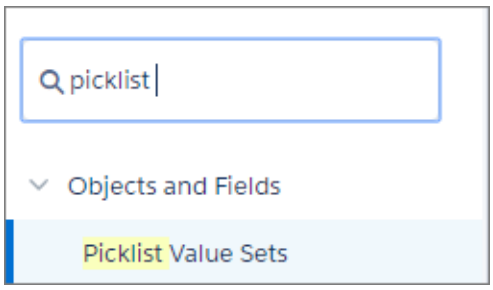
グローバル選択リストに基づいてカスタム選択リスト項目を作成した場合、値のリストがグローバル選択リストから継承されます。それらの値は選択リスト値セットとして定義されているため、ユーザは値を変更できません。値セットや、それを使用する選択リスト項目に、API を利用して値を追加することもできません。

[設定]からグローバル選択リストを簡単に作成できます。次に、通常と同じ方法で、カスタム選択リスト項目を作成します。ただし、ここではグローバル値セットを任意の数のカスタム選択リストに使用することもできます。

[設定] の [選択リスト値セット] ノード (Salesforce Classic)

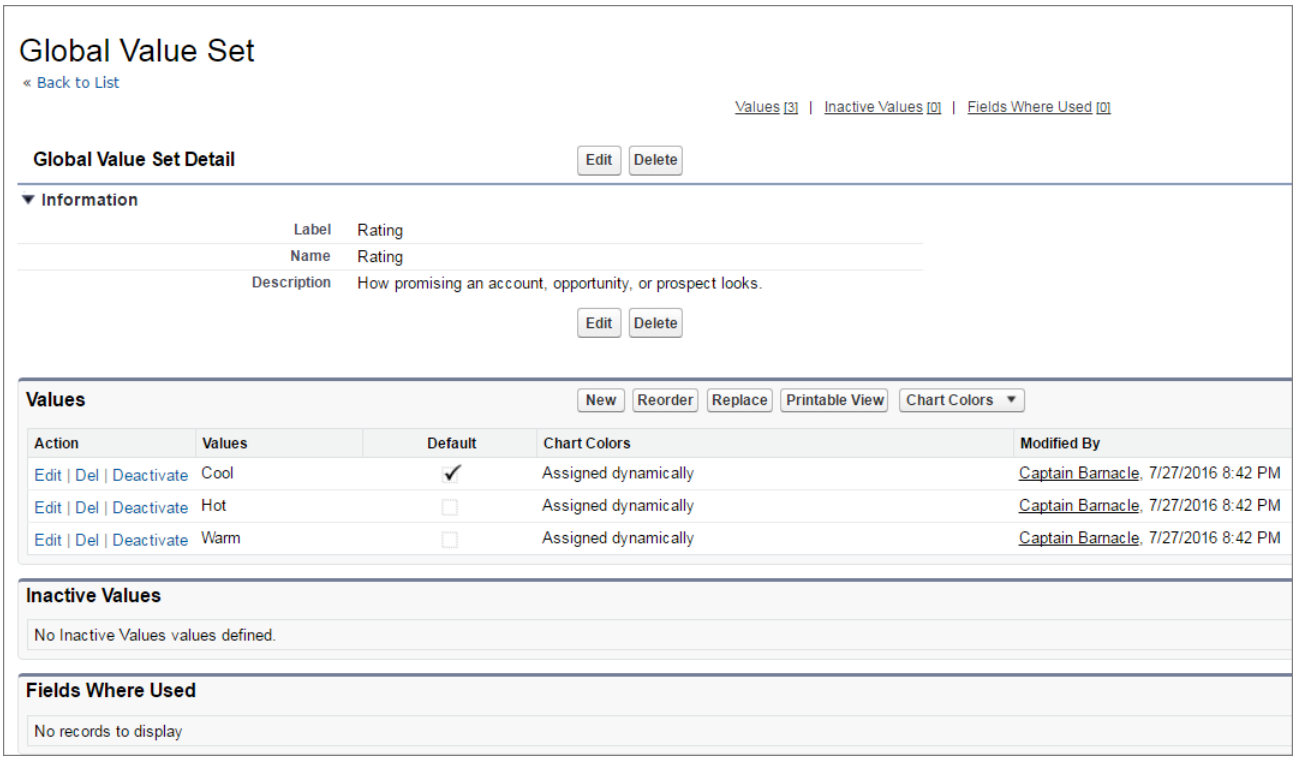


[設定] の [選択リスト値セット] (Lightning Experience)

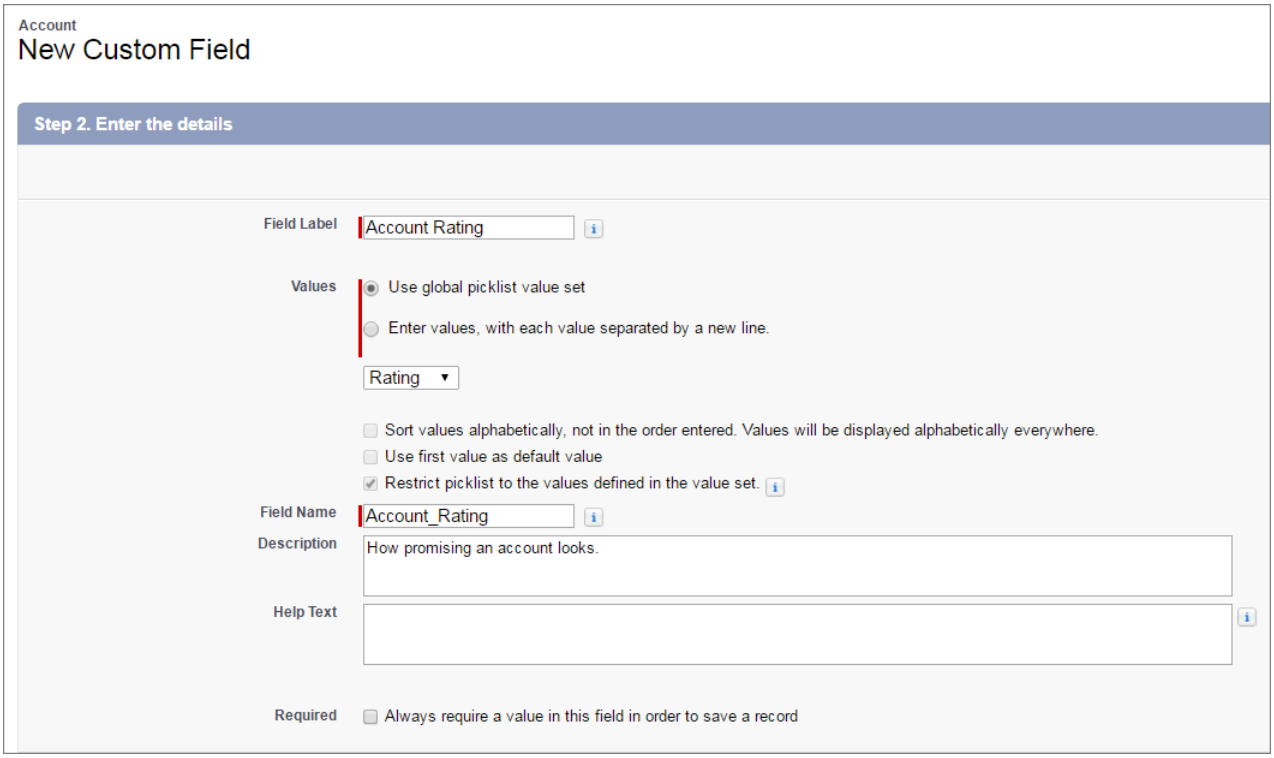


グローバル選択リストを作成するときに、選択リスト値セットを指定します。グローバル選択リスト定義を編集すると、その選択リスト値セットを使用するすべての選択リスト項目も更新されます。

取引先と商談に「Rating」(評価) という選択リスト項目を追加し、値を「Hot」(見込みあり)、「Warm」(将来見込みあり)、「Cool」(見込み薄) とするとします。これらの選択リスト値を 2 つの異なるオブジェクト上で個別に保持する代わりに、この値セットを使用するグローバル選択リストを 1 つ作成します。



次に、各オブジェクト上で選択リスト項目を作成し、それらの選択リストがグローバル選択リスト値セットを継承するように設定します。各選択リストの値は自動的に Hot、Warm、Cool になります。



Lightning Experience でのグローバル選択リストの作成と管理

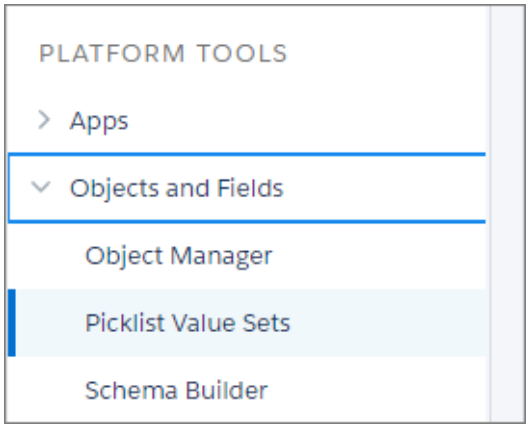
[設定]ですべての選択リストを管理するために、何度も切り替える必要はもうありません。どちらのユーザインターフェースからでもグローバル選択リスト値セットを作成して管理できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

グローバル選択リスト値セットを見つけるには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*選択リスト*」と入力し、[選択リスト値セット] を選択します。

Lightning Experience のオブジェクトマネージャを使用して、グローバル値セットを使用するカスタム選択リストを管理します。オブジェクトの選択リストとその他のカスタム項目を更新するには、オブジェクトの詳細ページに移動します。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



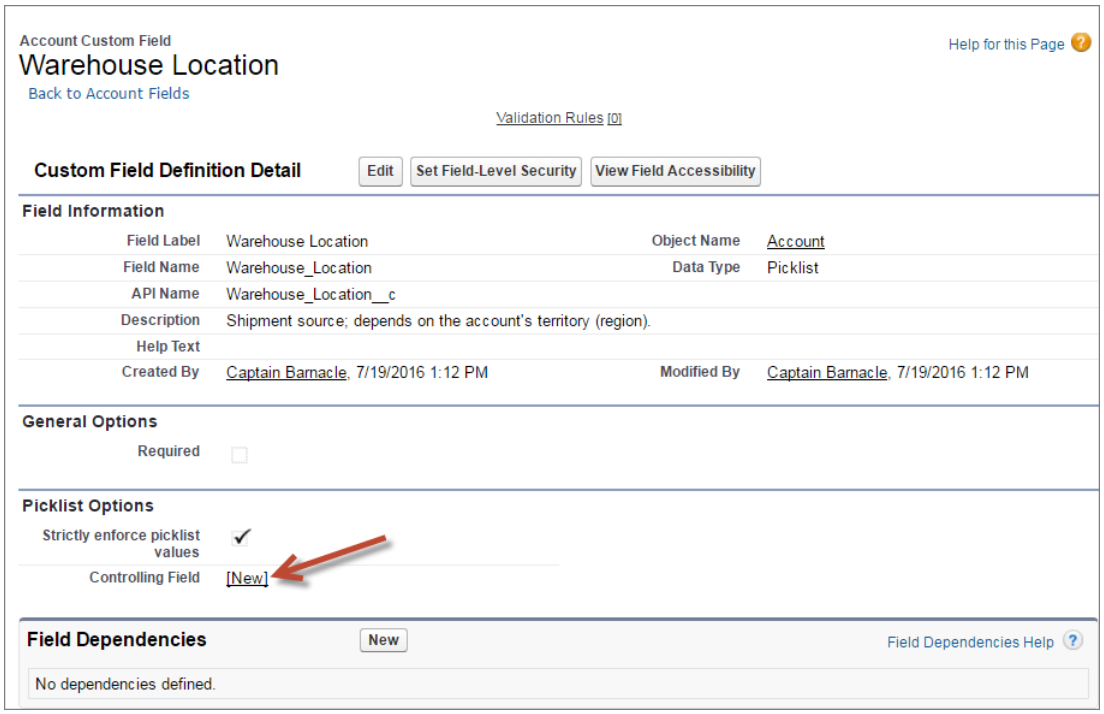
関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

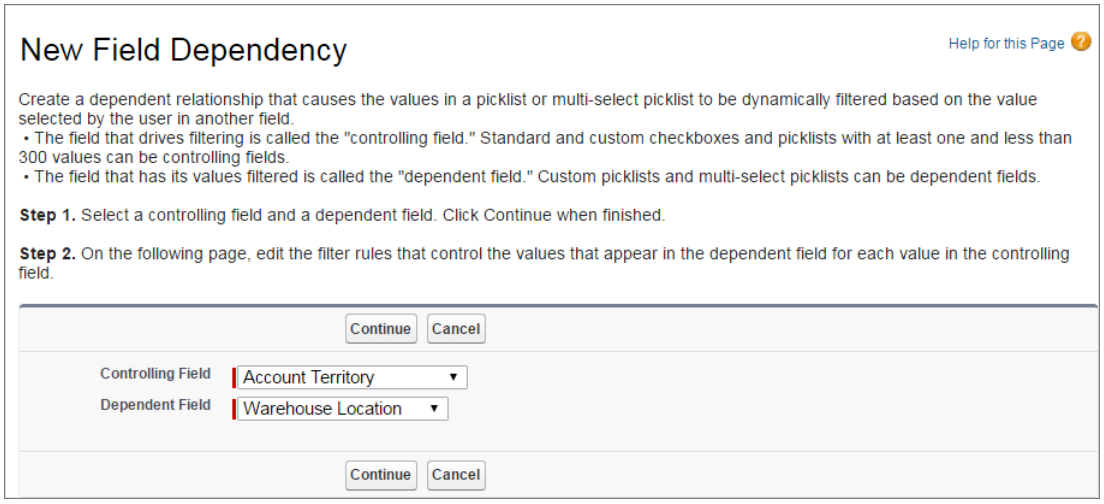
選択リストの連動関係でのグローバル値セットの使用

選択リストの連動関係をより効率的に管理できます。グローバル値セットを使用するローカルのカスタム選択リストと連動するローカルのカスタム選択リストを作成できるようになりました。グローバル値セットは、1 か所で定義して共有できます。その値セットを必要に応じた数のローカルのカスタム選択リストとその連動選択リストに使用できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

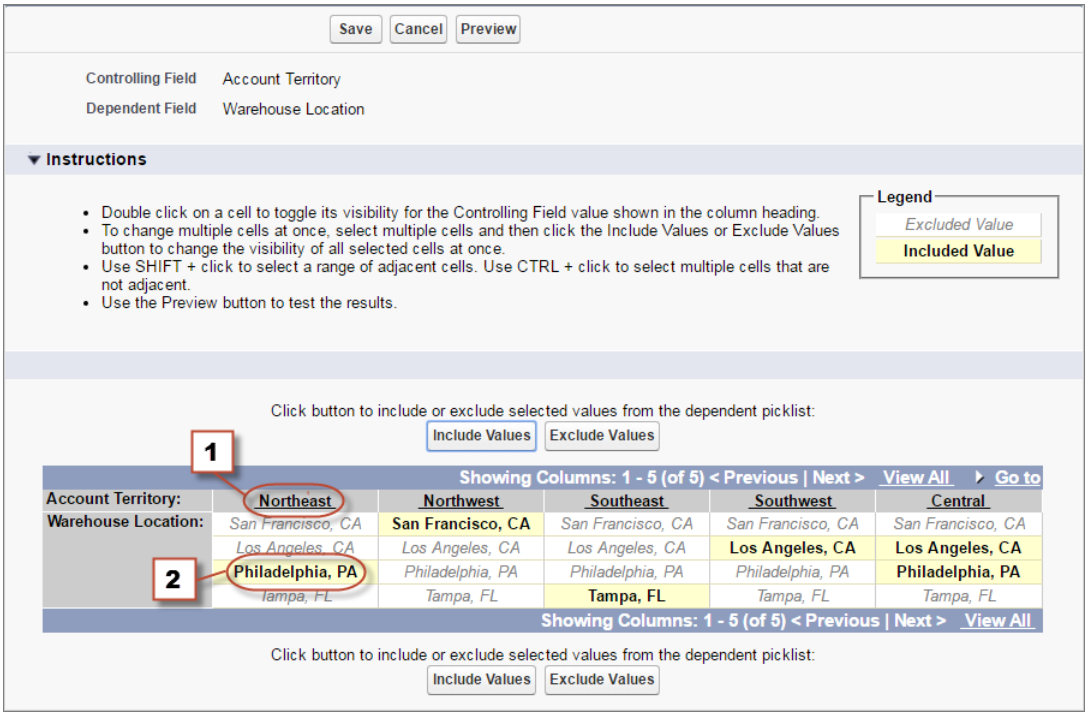
たとえば、あなたのビジネスでは4つの大きな倉庫があり、全米に注文品を出荷しているとします。顧客の地域に基づいて、顧客取引先に使用する倉庫を選択する必要があります。そこで、[取引先テリトリー]項目を取引先の [Warehouse の場所] 項目の制御項目にします。



ただし、[取引先テリトリー] 選択リストは [テリトリー] という名前のグローバル値セットからその値を継承します。では、これは制御項目として使用できないのでしょうか? 問題ありません。この選択リスト制限も撤廃されました。[取引先テリトリー] を、[Warehouse の場所] のような、カスタム選択リストの制御項目にできます。



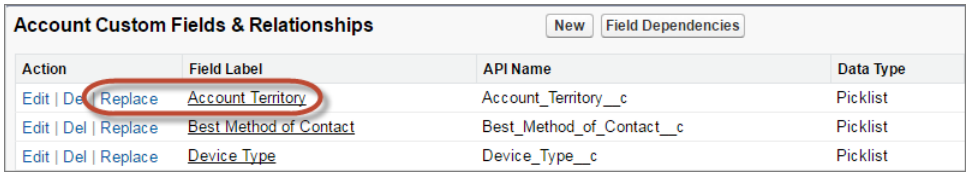
[取引先テリトリー] (地域) ごとに表示する選択リスト値を選択します。たとえば、営業担当が [取引先テリトリー] として「北東部」(1) を選択した場合、有効な [Warehouse の場所] として表示されるのは「フィラデルフィア (PA)」(2) のみです。保存したら完了です。



グローバル選択リストの値の置換

既存のレコードの選択リスト項目値をより柔軟に最新の状態に保つことができるようになりました。グローバル値セットを使用するカスタム選択リストの値を簡単に置き換えることができます。これまで、共有選択リストでは、この種の項目レベルの置換ができませんでした。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

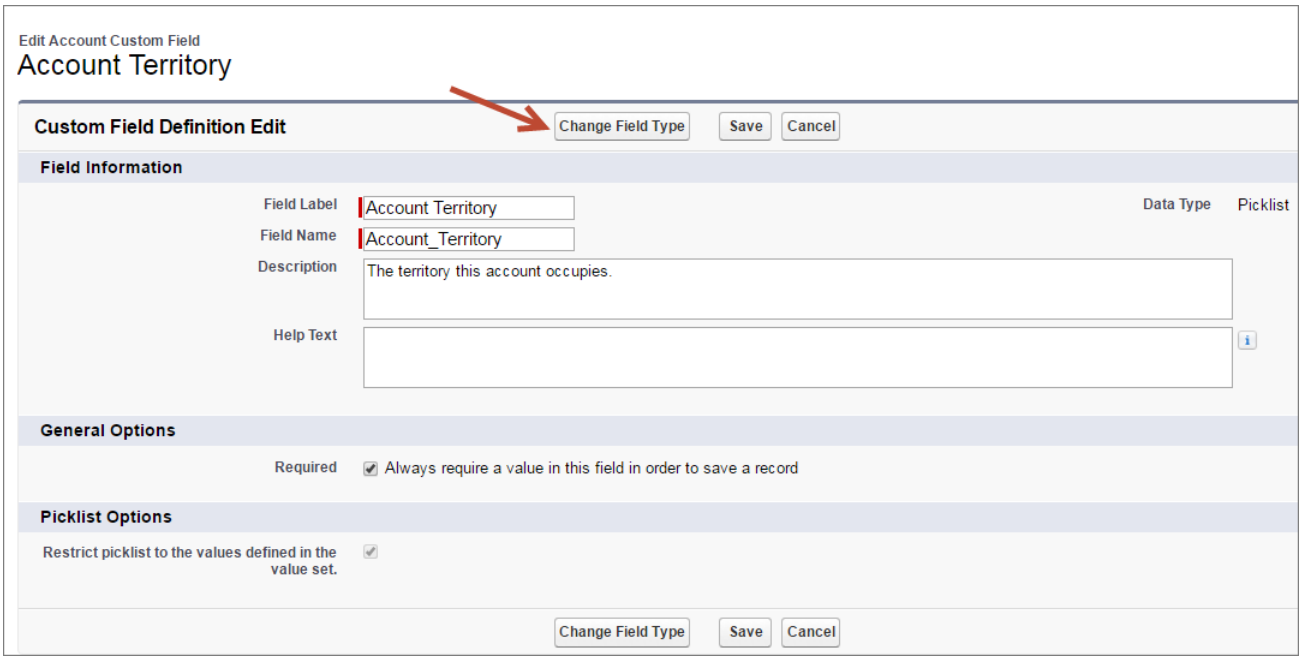
オブジェクトの選択リスト項目を更新するには、オブジェクトの詳細ページに移動し、[置換]をクリックします。



ユーザインターフェースからの共有選択リストのデータ型の変換

選択リスト値は、十分だったり、不十分だったりすることがあります。グローバル値セットを使用するカスタム選択リストを、複数選択から単一選択(またはその逆)に、直接ユーザインターフェースから切り替えることができるようになりました。データの微調整を柔軟に行うことができます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

たとえば、取引先で複数のテリトリーが使用される可能性があることがわかるとします。グローバル値セット [テリトリー] を継承する [取引先テリトリー] 選択リスト項目を複数選択リストにすることができます。



グローバル選択リスト値セットを見つけるには、[設定]から、[クイック検索]ボックスに「*選択リスト*」と入力し、[選択リスト値セット]を選択します。

グローバル値セットを使用するカスタム選択リストを管理するには、選択リストのあるオブジェクトの[項目]ページに移動します。

無制限カスタム選択リストの無効な値の管理

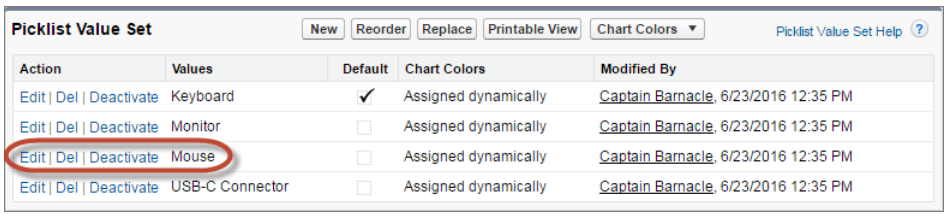
無制限選択リスト値を容易に無効化または再有効化して、変化するビジネスニーズに合わせることができます。準備ができる前に値をすべて削除する必要がなくなります。値を無効化しても、その選択リスト値を使用する既存のレコードに影響はありません。今後もその値がレコードに必要なくなったときに削除できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

値を無効化すると、その値はユーザがレコードを作成または編集するときに選択リストに表示されなくなります。

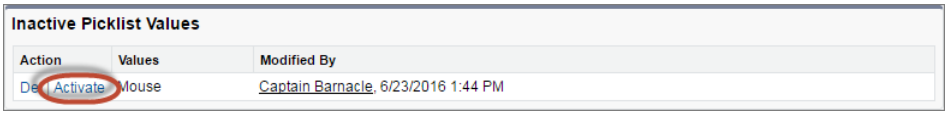
ある選択リスト値を非表示にするとします。最初に、選択リスト定義に移動します。

- オブジェクト上の選択リストの場合は、オブジェクトの項目エリアに移動します。たとえば、取引先の選択リストの場合、[設定]から［クイック検索］ボックスに「*取引先*」と入力し、[取引先]で[項目]を選択します。
- グローバル選択リストの場合、[設定]から、［クイック検索］ボックスに「*選択リスト*」と入力し、[選択リスト]を選択します。

次に、選択リストの詳細ページに移動します。値名の横の[無効化]をクリックして、今後その値を使用できなくします。



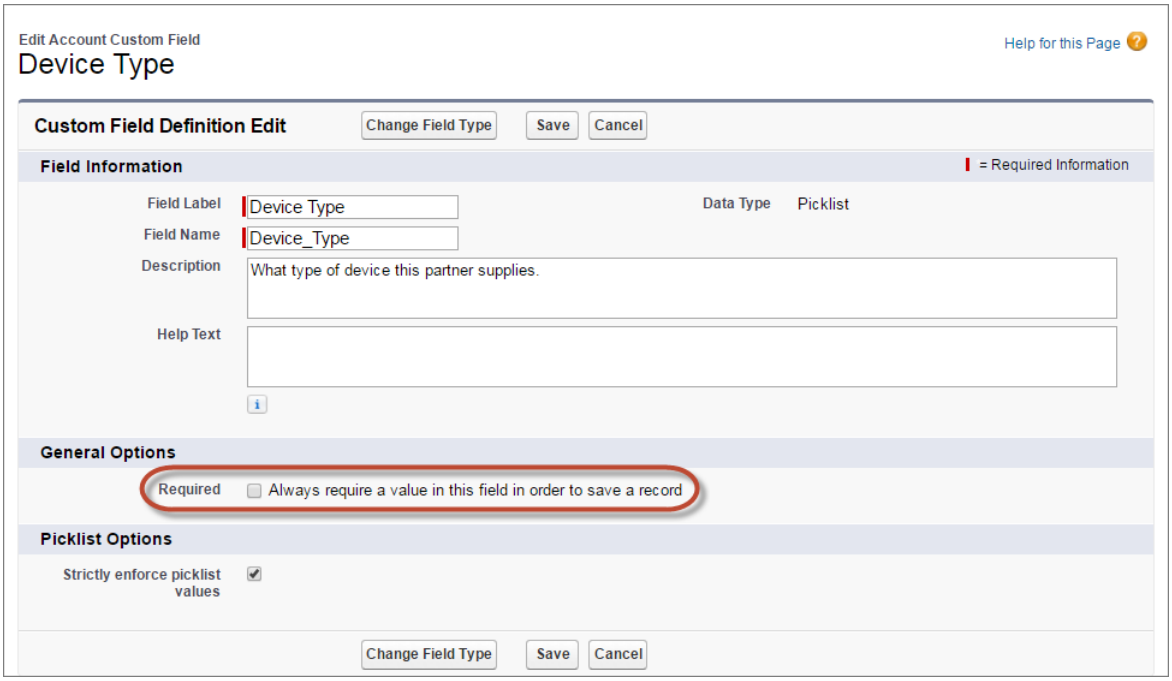
[無効な選択リスト値]セクションに値が移動します。後でその値が必要になった場合は、値の名前の横にある[有効化]をクリックします。



選択リスト値を変更すると、そのアクションは設定変更履歴に記録されます。無効化アクションのログエントリには、値が無効化されたことが表示されます。これまでは、アクションに削除コマンドが含まれていたため、グローバルおよびカスタムの無制限選択リストの無効化された値と削除された値の区別が困難でした。

既存のカスタム選択リストの必須化

カスタム選択リスト項目を必須にして、空白の選択リスト項目やデータの歪曲を減らすことができます。カスタム選択リスト項目の作成時、または既存のカスタム選択リスト項目の変更時に、項目を必須に設定できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。



カスタム選択リストを作成または変更する手順は、次のとおりです。

- オブジェクト上の選択リスト — オブジェクトの項目エリアを使用します。
- グローバル選択リスト — [設定] から、［クイック検索］ボックスに「*選択リスト*」と入力し、[選択リスト] を選択します。

選択リストのユーザインターフェース表示ラベルの更新

選択リスト設定の新しいユーザインターフェース表示ラベルでは、グローバル値セットやカスタム選択リスト項目の追跡が容易になります。新しい名称により、グローバル選択リスト値セット、ローカルのカスタム選択リスト、選択リスト値が明確に区別されます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

選択リストの作成および編集に関連するユーザインターフェース表示ラベルは次のように変更されました。

表示ラベルの場所	Summer '16 の表示ラベル	Winter '17 の表示ラベル
[設定] ノード	グローバル選択リスト	選択リスト値セット
グローバル値セットの詳細ページのタイトル	グローバル選択リストの詳細	グローバル値セットの詳細
グローバル値セットの詳細ページ	グローバル選択リスト値	値
カスタム選択リスト項目の詳細ページ	選択リスト値	値セット
新しいカスタム選択リスト定義	選択リスト値を厳格に適用する	値セットで定義された値に選択リストを制限します

選択リストのメタデータ API の合理化

選択リストのメタデータ API が刷新され、API コールを散らかす無駄な要素がなくなり、簡潔かつ効率的になりました。新しい構造では、グローバル選択リスト値セット、ローカルのカスタム選択リスト、標準選択リストが明確に区別され、項目と値を非常に簡単に追跡できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

API v37.0 を使用している場合は、引き続き既存の要素を使用して選択リストとその値を定義できます。API v38.0 を使用している場合は、すべてのタイプの選択リストを定義する方法が理に適うため、悩む必要はありません。次に、簡単な比較を示します。

API バージョン 37.0 のメタデータ型	API バージョン 38.0 のメタデータ型
Picklist	StandardValueSet、ValueSet
GlobalPicklist	GlobalValueSet
GlobalPicklistValue、PicklistValue	CustomValue
GlobalPicklistTranslation	StandardValueSetTranslation、GlobalValueSetTranslation

タイプや項目の説明およびサンプル定義については、『メタデータ API 開発者ガイド』を参照してください。

関連トピック:

メタデータ API

標準選択リストの制限の引き上げ

エントリあたりの文字数制限が 255 文字になり、標準の複数選択リストをより詳細に設定できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

データのインポート:キャンペーンメンバーとデータローダの新バージョン

Force.comプラットフォームでは、データインポートウィザードのキャンペーンメンバーのインポートが改善されて、データを簡単に管理できるようになりました。たとえば、1つのファイルから取引先責任者、個人取引先、リードをキャンペーンメンバーとしてインポートできます。また、データローダの新バージョンでは、サポートされるオペレーティングシステムが増加しています。

このセクションの内容:

データインポートウィザードを使用したキャンペーンメンバーの追加および更新
すべてのキャンペーンで、簡単に取引先責任者、個人取引先、リードを新規キャンペーンメンバーとして追加したり、1つのソースファイルから既存のキャンペーンメンバーをSalesforce IDですべて更新したりできるようになりました。Salesforce IDは、キャンペーンメンバーID、取引先責任者ID、またはリードIDです。この機能は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicの両方で使用できます。

最新のオペレーティングシステムのサポートが含まれるデータローダの新バージョン
データローダの新バージョンがリリースされました。TLS 1.0が無効になっていてTLS 1.1または1.2を使用する必要のある組織では、Microsoft® Windows® 7以降とMac® OS X El Capitanがサポートされます。Mac OS Xの以前のバージョンでは、TLS 1.2は完全にはサポートされません。この機能は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicの両方で使用できます。

文字区切りによる、インポートファイルでのデータの区切り
インポートファイルで個々のデータレコードを示すために、カンマやタブ文字だけを使う必要がなくなりました。たとえば、データレコードに埋め込みカンマが含まれているため、|(パイプ)文字を使用してデータレコードを区切る場合、データローダで区切り文字としてパイプを指定できます。この機能は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicの両方で使用できます。

新しい組織での従来のデータインポートツールの廃止
取引先、取引先責任者、リード、個人取引先、ソリューション、およびカスタムオブジェクト用の個々のインポートウィザードを引き続き使用している場合は、代わりにデータインポートウィザードの使用を開始してください。新しい組織がある場合は、これらの従来のインポートツールは使用できません。既存の組織がある場合、これらのインポートツールはSpring '17リリース以降は利用できなくなります。この機能は、Salesforce Classicでのみ使用できます。

データインポートウィザードを使用したキャンペーンメンバーの追加および更新

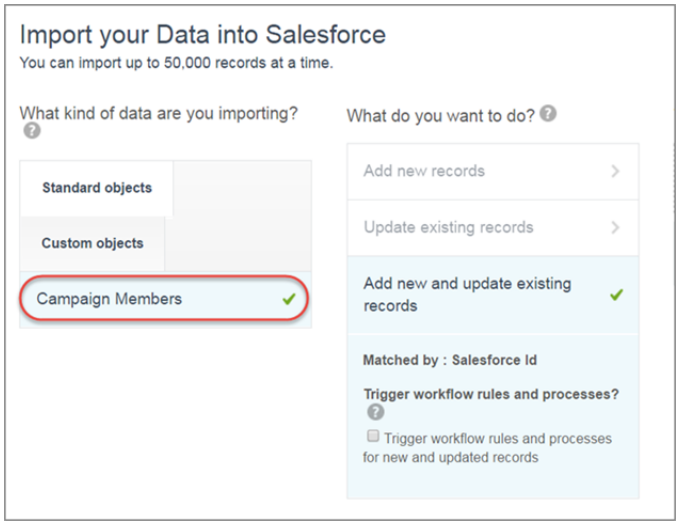
すべてのキャンペーンで、簡単に取引先責任者、個人取引先、リードを新規キャンペーンメンバーとして追加したり、1 つのソースファイルから既存のキャンペーンメンバーを Salesforce ID ですべて更新したりできるようになりました。Salesforce ID は、キャンペーンメンバー ID、取引先責任者 ID、またはリード ID です。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

個人取引先の場合、個人取引先に関連付けられた取引先責任者 ID を Salesforce ID として使用します。キャンペーン以外のページでレコードをインポートするには、キャンペーン ID が必要です。

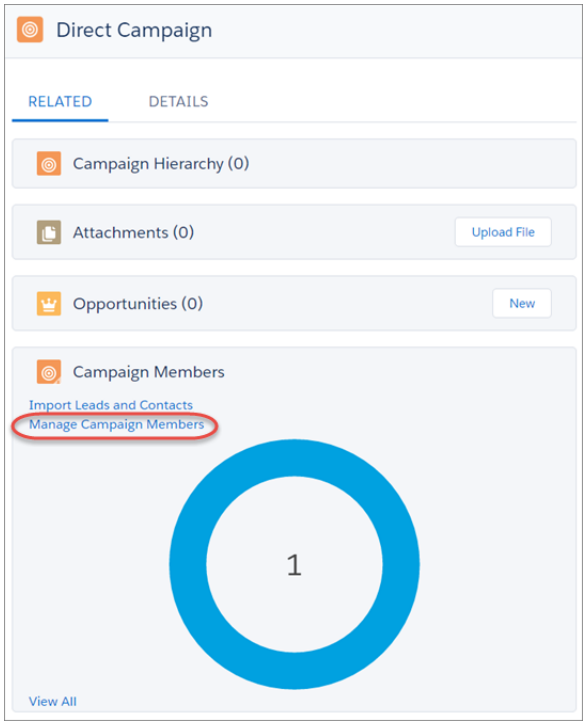
エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

使用しているエディションによって、インポートできるオブジェクトの種別が異なります。



[キャンペーン] ページのリンクからデータインポートウィザードに簡単に移動できます。



最新のオペレーティングシステムのサポートが含まれるデータローダの新バージョン

データローダの新バージョンがリリースされました。TLS 1.0が無効になっていてTLS 1.1 または 1.2 を使用する必要のある組織では、Microsoft® Windows® 7 以降と Mac® OS X El Capitan がサポートされます。Mac OS X の以前のバージョンでは、TLS 1.2 は完全にはサポートされません。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Database.com** Edition を除くすべてのエディション

使用しているエディションによって、インポートできるオブジェクトの種別が異なります。

メモ: Salesforce では、Java が Windows インストーラ用のデータローダとバンドルされなくなりました。Java を Windows コンピュータにダウンロードしてインストールしてください。

`JAVA_HOME` 環境変数を、Java ランタイム環境 (JRE) がインストールされているディレクトリに設定することをお勧めします。この設定により、コマンドラインからデータローダをバッチモードで実行できます。

Windows のシステム要件

Windows 用のデータローダを使用するためのシステム要件は、次のとおりです。

- Microsoft Windows 7 以降
- 120 MB のハードディスクの空き容量
- 256 MB の空きメモリ
- Java JRE 1.8 (32 ビット)

Mac OS のシステム要件

Mac 用のデータローダを使用するためのシステム要件は、次のとおりです。

- Mac OS X
- 120 MB のハードディスクの空き容量
- 256 MB の空きメモリ
- Java JRE 1.8
- コンピュータのシステム管理者権限

重要: Salesforce とのすべての接続では、TLS 1.1 または 1.2 暗号化プロトコルを使用する必要があります。この変更は、データローダなど、Salesforce でダウンロード用に提供する API ベースのソフトウェアに影響を及ぼします。以前のリリースで、データローダが TLS 1.2 をサポートするよう拡張されました。

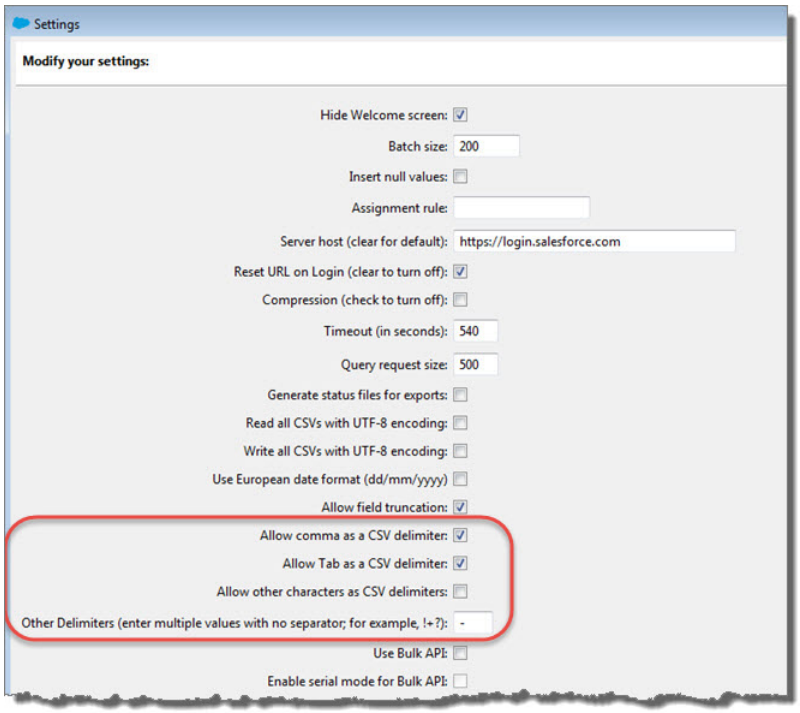
文字区切りによる、インポートファイルでのデータの区切り

インポートファイルで個々のデータレコードを示すために、カンマやタブ文字だけを使う必要がなくなりました。たとえば、データレコードに埋め込みカンマが含まれているため、|(パイプ)文字を使用してデータレコードを区切る場合、データローダで区切り文字としてパイプを指定できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

サポートする複数の区切り文字を選択することもできます。ただし、各CSVファイルに含まれる区切り文字は 1 つのみであることを確認してください。複数ある場合は、インポート中に予期しないデータ分割が行われる可能性があります。データローダで区切り文字を設定するには、[設定] を選択します。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: データローダの設定

Idea Exchange: データローダには CSV 区切り文字用の設定が必要

新しい組織での従来のデータインポートツールの廃止

取引先、取引先責任者、リード、個人取引先、ソリューション、およびカスタムオブジェクト用の個々のインポートウィザードを引き続き使用している場合は、代わりにデータインポートウィザードの使用を開始してください。新しい組織がある場合は、これらの従来のインポートツールは使用できません。既存の組織がある場合、これらのインポートツールは Spring '17 リリース以降は利用できなくなります。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

データインポートウィザードは従来のデータインポートツールとは動作が異なり、異なるユーザ権限が必要です。ユーザに必要な権限があることを確認し、ユーザを指導してください。

従来のデータインポートツールで機能する CSV ファイルが、データインポートウィザードで機能するとは限りません。データインポートウィザードでは、Salesforce 組織のレコードの完全性を確保するために、インポートファイルにより多くの項目が必要になる場合があります。従来のデータインポートツールとは異なり、データインポートウィザードは、同じインポートファイル内の取引先責任者、リード、および個人取引先をインポートできません。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

使用しているエディションによって、インポートできるオブジェクトの種別が異なります。

共有: 再適用の精度と効率の向上

オブジェクト固有の共有ロックを使用すると、オブジェクト単位で共有ルールを再適用できます。非同期並列再適用を使用すると、組織の共有設定をより効率的に再適用できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

オブジェクト固有の共有ロックを使用した共有ルールの更新 (正式リリース)
オブジェクト固有の共有ロックでは、共有ルールの影響を受けるオブジェクト、共有ルールタイプ、および影響を受けるユーザの共有先グループまたはロールに応じて、複数のオブジェクトの共有ルールを同時に変更できます。

オブジェクト固有の共有ロックを使用した共有ルールの更新 (正式リリース)

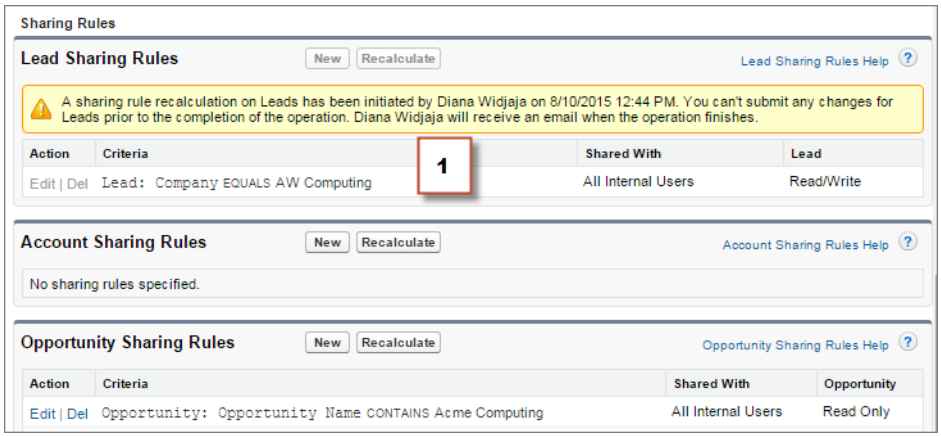
オブジェクト固有の共有ロックでは、共有ルールの影響を受けるオブジェクト、共有ルールタイプ、および影響を受けるユーザの共有先グループまたはロールに応じて、複数のオブジェクトの共有ルールを同時に変更できます。

メモ: この機能は、以前はパイロットプログラムを通じて一部のお客様が使用することができました。Winter'17では、この機能が新規組織と既存の組織の両方で有効になります。システム管理者または「共有の管理」権限を持つユーザは、共有ルールの操作時にこの機能を使用できます。

条件に基づく共有ルールと所有権に基づく共有ルール

再適用は、共有ルールが変更された場合、または[共有設定]ページで[再適用]ボタンをクリックしたときに実行されます。このボタンをクリックすると、そのオブジェクトの共有ルールはロックされますが(1)、別のオブジェクトの共有ルールは引き続き変更できます。

メモ: [共有ルール]関連リストの[再適用]ボタンは、共有ルールの更新が失敗したり、予定どおりに動作しない場合に限り使用します。



所有権に基づく共有ルールの再適用が進行中の場合は、同じユーザグループを対象とするオブジェクトの所有権に基づく共有ルールを作成、編集、または削除することはできません。たとえば、[すべての内部ユーザ]グループを対象とする、所有権に基づくリード共有ルールを作成しているとします。再適用がまだ進行中であっても、[すべての内部ユーザ]グループを除く他の公開グループを対象とする所有権に基づく別のリード共有ルールは作成できます。再適用の終了後にのみ、すべての内部ユーザを対象とする所有権に基づくリード共有ルールを作成、更新、または削除できます。再適用が完了すると、メールで通知されます。

条件に基づく共有ルールの再適用が進行中の場合は、そのルールを編集または削除することはできません。ただし、対象とするユーザグループに関係なく、そのオブジェクトのその他の条件に基づく共有ルールまたは所有権に基づく共有ルールの作成、編集、削除を行うことはできます。

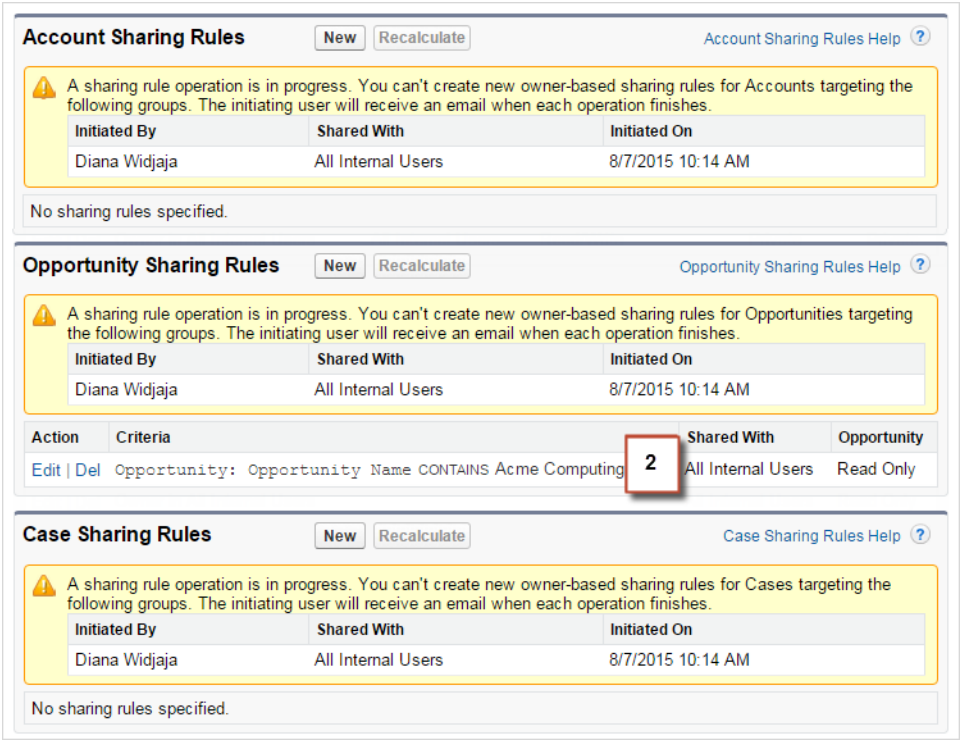
メモ: オブジェクトの共有ルールの再適用が進行中の場合は、組織の共有設定を変更できません。同様に、組織の共有設定の更新の再適用が進行中の場合は、共有ルールを変更できません。

取引先、ケース、取引先責任者、および商談

共有ルールは取引先および関連付けられた取引先の子(ケース、取引先責任者、商談)に影響する可能性があるため、再適用が正常に実行されるようにそれらはまとめてロックされます。たとえば、取引先共有ルールの作成または編集中は、ケース、取引先責任者、および商談共有ルールを作成または編集することができません。同様に、商談共有ルールの作成または編集中は、再適用が完了するまでケース、取引先責任者、または取引先共有ルールを作成または編集することはできません。取引先および関連付けられた取引先の子の場合を除き、ロックはオブジェクト間で共有されません。

メモ: これらの 4 つのオブジェクトのいずれかの共有ルールの [再適用] ボタンをクリックすると、再適用が完了するまで、これらのオブジェクトのどの共有ルールも変更できなくなります。

次の例では、所有権に基づく取引先共有ルールが削除され、再適用が進行中です。これらのいずれかのオブジェクトの所有権に基づく別の共有ルールを作成、編集、削除することはできませんが、これらのオブジェクトの条件に基づく共有ルール (2) を変更することはできます。



全般的な管理: Lightning コンポーネントアクション

このリリースの最大の特徴は、Lightning コンポーネントアクション (Apex と JavaScript をサポートする Lightning Experience のアクション) です。また、権限セットライセンスの管理方法が簡略化され、ページレイアウトエディタ、ユーザ詳細ページ、および Cloud Flow Designer の一部の要素がクリーンアップされました。

このセクションの内容:

アクションからの Lightning コンポーネントの起動

Lightning コンポーネントアクションは、Lightning コンポーネントを呼び出すカスタムアクションです。Apex と JavaScript がサポートされるため、Lightning コンポーネントアクションを使用するとセキュアな方法でクライアント側のカスタム機能を開発できます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

数式で作成されるオブジェクトあたりのリレーションの拡大の増加

多くのリレーションが必要になる場合があります。オブジェクトあたりの一意のリレーション数が 10 から 15 に増加しました。この増加は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

権限セットと権限セットライセンスの容易な関連付け

簡単なのは嫌という人がいるでしょうか。権限セットを作成するときにすぐに使用可能な権限セットライセンスに関連付け、その両方を同時にユーザに関連付けることができるようになりました。これらの権限セット内で権限を有効にすると、権限セットライセンスで使用できる権限のみが表示され、作業負担が軽減されます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

権限セットリストビューでのライセンスの種類の確認

どのライセンスの種類が既存の権限セットに対応するか確認したいですか?問題ありません。権限セットリストビューを作成または更新するときに、[ライセンス]の列を追加できるようになりました。[ライセンス]列には、権限セットの作成に使用されたライセンスの種類、Salesforce ユーザライセンスかどうか、または特定の権限セットライセンスがリストされます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

ページレイアウトエディタの [Salesforce1 アクション] カテゴリの名称変更

Lightning コンポーネントアクションが導入されたため、高度なページレイアウトエディタの[Salesforce1 アクション] というカテゴリ名は、使用できるすべてのアクションを表していません。このカテゴリ内のアクションは、Salesforce1 と Lightning Experience の両方で使用できます。このため、[Salesforce1 および Lightning アクション] という名前に変更されました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Salesforce ニュースレターオプションの削除

新規ユーザをサインアップまたは既存のユーザを編集する場合に、Salesforce ニュースレターを受信するオプションが使用できなくなりました。ユーザの詳細ページには、[ニュースレター]および[管理者向けニュースレター] オプションはもう含まれていません。

プロファイルの [項目レベルセキュリティ] で UI 表示が改善

元のプロファイルユーザインターフェースを使用する場合、2つの列の表示を更新しました。[参照可能]および [参照のみ] が [参照アクセス権] および [編集アクセス権] になっています。

Cloud Flow Designer でのフィードバックの合理化

Cloud Flow Designer のボタンバーからフィードバックリンクが削除されました。これにより、システム管理者が Visual Workflow でフィードバックを提供する方法が IdeaExchange のみになりました。さらに、他のシステム管理者が同じフィードバックを提供しているかどうかを確認したり、他のシステム管理者のフィードバックに対するコメントや投票を閲覧したりできるようになりました。

関数の改善

新しい関数 ISCLONE では、ある項目が別の項目のコピーであるかどうかが確認されます。DATEVALUE 関数と ROUND 関数のドキュメントを改善しました。

アクションからの Lightning コンポーネントの起動

Lightning コンポーネントアクションは、Lightning コンポーネントを呼び出すカスタムアクションです。Apex と JavaScript がサポートされるため、Lightning コンポーネントアクションを使用するとセキュアな方法でクライアント側のカスタム機能を開発できます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition

Lightning コンポーネントアクションを作成するには、グローバルアクションまたはオブジェクト固有のアクションを作成するときに[アクション種別]ドロップダウンリストから[Lightning コンポーネント]を選択します。

Lightning コンポーネントアクションは、単に組織の Lightning コンポーネントをコールすることはできません。コンポーネントが Lightning コンポーネントアクションとして機能するには、その目的に特化して設定し、`force:LightningQuickAction` または `force:LightningQuickActionWithoutHeader` インターフェースを実装する必要があります。カスタムコンポーネントの設定に関する詳細は、『Lightning コンポーネント開発者ガイド』を参照してください。

ページレイアウトエディタを使用して Lightning コンポーネントアクションをオブジェクトのページレイアウトに追加できます。組織に Lightning コンポーネントアクションがある場合は、ページレイアウトエディタのパレットの [Salesforce1 および Lightning アクション] カテゴリで見つけることができます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス
カスタムアクション用に Lightning コンポーネントを有効化
Lightning コンポーネント開発者ガイド: カスタムアクションのコンポーネントの設定

数式で作成されるオブジェクトあたりのリレーションの拡大の増加

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

多くのリレーションが必要になる場合があります。オブジェクトあたりの一意のリレーション数が 10 から 15 に増加しました。この増加は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

オブジェクトは、リレーション項目を使用して相互に関連付けることができます。別のオブジェクトの項目を参照する数式を作成できます。これは、リレーションの拡大と呼ばれます。数式項目、項目自動更新、または入力規則で数式を作成する場合、その制限を超えるとエラーが表示される可能性があります。次のような場合に制限に達します。

- 15 個の数式項目があり、各数式で一意のオブジェクトを参照している。
- 10 個の数式項目があり、各数式で一意のオブジェクトを参照している。その後、5 個の異なるオブジェクトを参照するワークフロー項目自動更新を作成する。
- 4 個の一意のオブジェクトを参照する入力規則、他の 7 個のオブジェクトを参照する項目自動更新、他の 4 個のオブジェクトを参照する数式項目がある。

たとえば、`Object1__c` と `Object2__c` という 2 つのカスタムオブジェクトがあるとします。

`Object1__c` には、`Object2__c` との参照関係があります。`Object1__c` で数式項目を作成すると、`Object2__c` にある項目を参照できます。これは、1 つのリレーションの拡大またはオブジェクト参照としてカウントされます。

権限セットと権限セットライセンスの容易な関連付け

簡単なのは嫌という人がいるでしょうか。権限セットを作成するときにすぐに使用可能な権限セットライセンスに関連付け、その両方を同時にユーザに関連付けることができるようになりました。これらの権限セット内で権限を有効にすると、権限セットライセンスで使用できる権限のみが表示され、作業負担が軽減されます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

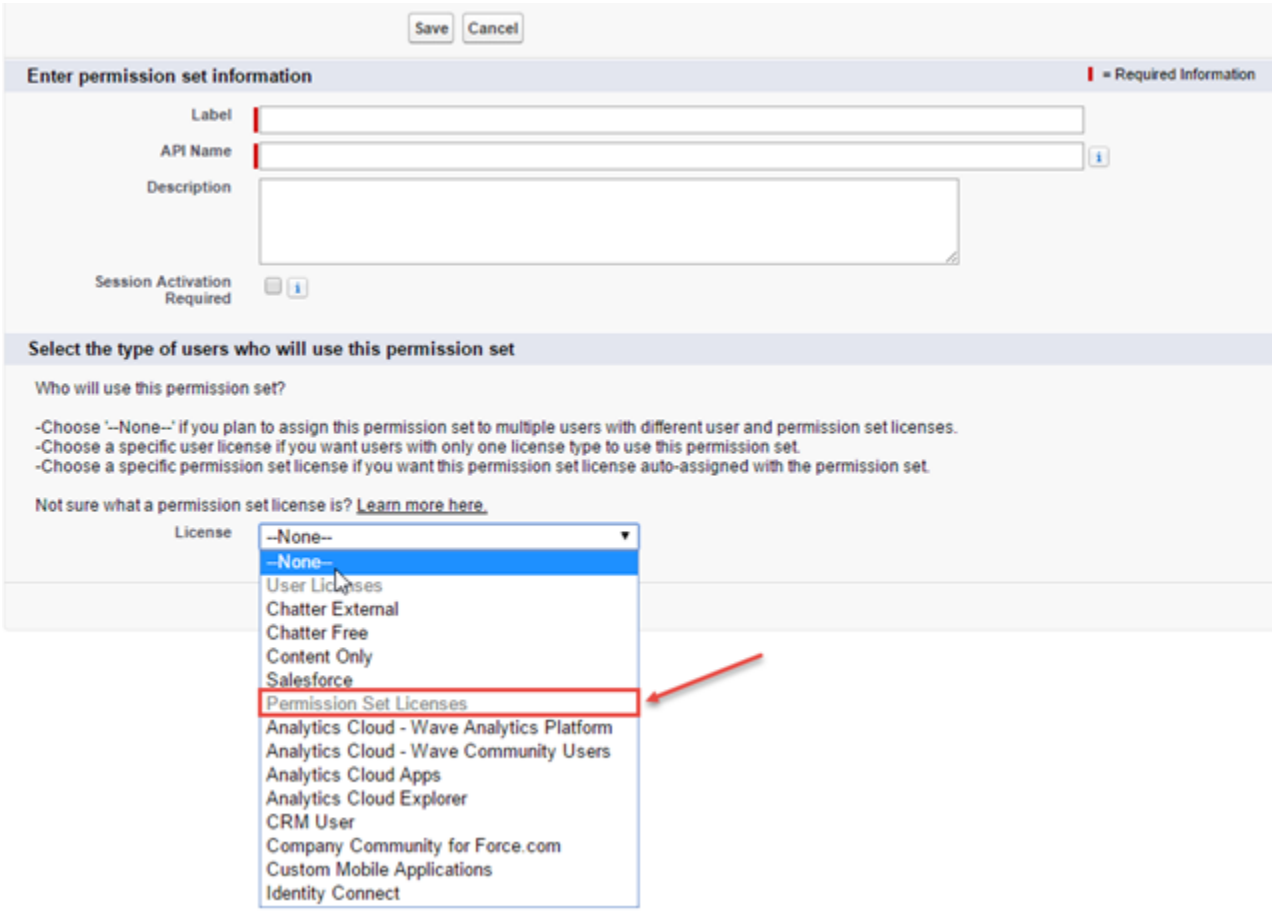
権限セットライセンスを使用したことがなく、どういうものかわからない場合は、Salesforceヘルプの「権限セットライセンスとは?」を参照してください。きっとわかるはずです!

エディション

権限セットを使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Professional** Edition、**Group** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition

使用できる各権限セットライセンスは、権限セットおよび関連機能のエディション要件によって異なります。

更新された権限セット作成ページ



権限セットリストビューでのライセンスの種類の確認

どのライセンスの種類が既存の権限セットに対応するか確認したいですか?問題ありません。権限セットリストビューを作成または更新するときに、[ライセンス] の列を追加できるようになりました。[ライセンス] 列には、権限セットの作成に使用されたライセンスの種類、Salesforce ユーザライセンスかどうか、または特定の権限セットライセンスがリストされます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

権限セットを使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Professional** Edition、**Group** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition

ページレイアウトエディタの [Salesforce1 アクション] カテゴリの名称変更

Lightning コンポーネントアクションが導入されたため、高度なページレイアウトエディタの [Salesforce1 アクション] というカテゴリ名は、使用できるすべてのアクションを表していません。このカテゴリ内のアクションは、Salesforce1 と Lightning Experience の両方で使用できます。このため、[Salesforce1 および Lightning アクション] という名前に変更されました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition

Salesforce ニュースレターオプションの削除

新規ユーザをサインアップまたは既存のユーザを編集する場合に、Salesforce ニュースレターを受信するオプションが使用できなくなりました。ユーザの詳細ページには、[ニュースレター] および [管理者向けニュースレター] オプションはもう含まれていません。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

プロファイルの [項目レベルセキュリティ] で UI 表示が改善

元のプロファイルユーザインターフェースを使用する場合、2つの列の表示を更新しました。[参照可能] および [参照のみ] が [参照アクセス権] および [編集アクセス権] になっています。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Cloud Flow Designer でのフィードバックの合理化

Cloud Flow Designerのボタンバーからフィードバックリンクが削除されました。これにより、システム管理者が Visual Workflow でフィードバックを提供する方法が IdeaExchangeのみになりました。さらに、他のシステム管理者が同じフィードバックを提供しているかどうかを確認したり、他のシステム管理者のフィードバックに対するコメントや投票を閲覧したりできるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関数の改善

新しい関数ISCLONEでは、ある項目が別の項目のコピーであるかどうかが確認されます。DATEVALUE 関数と ROUND 関数のドキュメントを改善しました。

- ISCLONE 関数は 2 つの項目を比較し、一方の項目が他方のクローンである場合に TRUE を返します。
- DATEVALUE関数は協定世界時を使用してリストビュー、レポート、関連リストの日時を計算するということを明確にしました。他のすべての計算はユーザのタイムゾーンに基づいて行われます。
- 間違った値を使用していた ROUND 関数例の一部を修正しました。

セキュリティと ID: より迅速なログイン、ポリシーベースの応答、独自の暗号化鍵の使用

さらに安全で便利になったログイン環境、2 要素認証用の U2F セキュリティキー、およびセキュリティ強化されたログイン処理を使用して、組織とユーザを保護します。Lightning Experience で、1 つのアプリケーションランチャービューからSalesforceアプリケーション、カスタムアプリケーション、接続アプリケーションにアクセスします。トランザクションセキュリティポリシーを使用して、指定されたセキュリティ状況にすばやく対応できます。独自の暗号化鍵を生成でき、さらに大量の OAuth トークンとパスワード項目を保存できます。

このセクションの内容:

認証と ID: 迅速なログイン、接続アプリケーションの機能強化、認証オプションの増加
Lightning Login や U2F セキュリティキーなどの 2 要素認証オプションによるパスワードを使用しないログインが導入され、OAuth 機能が拡張されました。アプリケーションランチャーが再設計されて、アプリケーションランチャーのタイルに接続アプリケーションの説明が表示されるようになりました。External Identity ユーザのアプリケーションランチャーのデザインも新しくなりました。

Salesforce Shield: 独自の暗号化鍵の使用、リソース測定
強力なセキュリティ機能の特別なプレミアムパッケージである Salesforce Shield で、独自の暗号化鍵の詳細な制御、検索インデックスの暗号化、トランザクションセキュリティポリシーの管理に役立つ測定を行うことができるようになりました。

その他のセキュリティの変更: HTTPS ログイン、リスクの修正、権限の変更
ログインセキュリティと状態チェックツールの改善など、セキュリティに影響を及ぼすその他の変更が加えられました。

認証と ID: 迅速なログイン、接続アプリケーションの機能強化、認証オプションの増加

Lightning Login や U2F セキュリティキーなどの 2 要素認証オプションによるパスワードを使用しないログインが導入され、OAuth 機能が拡張されました。アプリケーションランチャーが再設計されて、アプリケーションランチャーのタイルに接続アプリケーションの説明が表示されるようになりました。External Identity ユーザのアプリケーションランチャーのデザインも新しくなりました。

このセクションの内容:

Lightning Login を使用してパスワードなしでログイン
パスワードが機能すれば、Salesforce 組織の保護に役立ちます。しかし、脆弱なパスワード、パスワードの紛失、アカウントロックアウトが問題になり得ることは、よく知られています。ログインがクリック、タップ、タッチなどと同じくらい簡単になりました。たとえば、ユーザ名をクリック、モバイルデバイスでタップして通知を承認、指紋か PIN で認証します。高速で利便性の高い、強化されたセキュリティが Lightning Login で実現すれば、パスワードで保護されたログインは無用なものになります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

既存の接続アプリケーションの説明の更新
アプリケーションランチャーが改良されて、アプリケーションランチャーのタイルにアプリケーションの名前と説明が表示されるようになり、ユーザが接続アプリケーションを簡単に見つけられるようになりました。説明は、アプリケーションの作成時に説明項目に入力したテキストから取得されます。Winter '17 より前に作成した接続アプリケーションの場合も、これらの説明がアプリケーションランチャーに表示されます。そのため、既存のアプリケーションの名前と説明にミスがなく、一般利用者に適した内容であることを確認してください。説明に使用できる文字数は 256 文字です。適切にご活用ください。

アプリケーションランチャーをランディングページに設定
再設計されたアプリケーションランチャーを Salesforce にログインしたときのデフォルトのランディングページとして表示することで、Salesforce Identity ユーザは必要なアプリケーションに簡単にアクセスできます。

External Identity のアプリケーションランチャーの新しいデザイン

顧客またはパートナー (External Identity と呼ばれる) に Salesforce Identity を設定する場合、Aloha コミュニティテンプレートとアプリケーションランチャーを併用していることがあります。Winter '17 リリースでは、アプリケーションランチャーのデザインが、再設計されたアプリケーションランチャーの新しいデザインになります。

U2F セキュリティキーで ID を検証

ユーザが 2 要素認証やデバイスの有効化などで ID の検証を求められたときに、U2F セキュリティキーを使用できるようになりました。Salesforce Authenticator、またはメールや SMS で送信されたワンタイムパスワードを使用する代わりに、U2F セキュリティキーを USB ポートに挿して検証を完了します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Salesforce Authenticator を使用してロケーションベースの自動検証の制限

さらに詳細に制御するため、Salesforce Authenticator のモバイルアプリケーションでユーザが認証を行う場合に、ロケーションベースの自動検証の使用を制限する新しいオプションが追加されました。以前は、すべての場所で自動検証を許可しており、現在もデフォルトではこの設定になっています。信頼できる IP アドレスのみでの使用に制限するか、完全に無効化するかを選択できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

複数の認証アプリケーションの接続をユーザに許可

ユーザは Salesforce Authenticator の接続に加えて、2 つ目のワンタイムパスワードジェネレータアプリケーションを Salesforce アカウントに接続できるようになりました。一部のユーザは、モバイルデバイスで Salesforce Authenticator またはサードパーティアプリケーション (Google Authenticator など) を使用できる柔軟性を求めています。2 要素認証と ID 検証用に時間ベースのワンタイムパスワードを生成する 2 つ目のアプリケーションを使用できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

接続アプリケーションの認証用に ID トークンオプションを追加

Salesforce での認証に OAuth を使用する接続アプリケーションの場合、OAuth 要求での ID トークンを設定できるようになりました。更新トークンが返されるときに ID トークンを含めることができます。また、アクセスおよび更新トークン応答の両方で ID トークンに標準要求、カスタム属性、カスタム権限を含めるかどうかを制御できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

接続アプリケーションのプロビジョニング時にユーザを再認証

接続アプリケーションに Salesforce プロビジョニングを使用している顧客の、承認取り消し後に再認証したユーザの処理方法が改善されました。以前は、ユーザを再認証すると、作成イベントがトリガされていましたが、ユーザがすでに存在しているためにエラーになることがありました。Salesforce によって既存のユーザが再有効化されるようになりました。

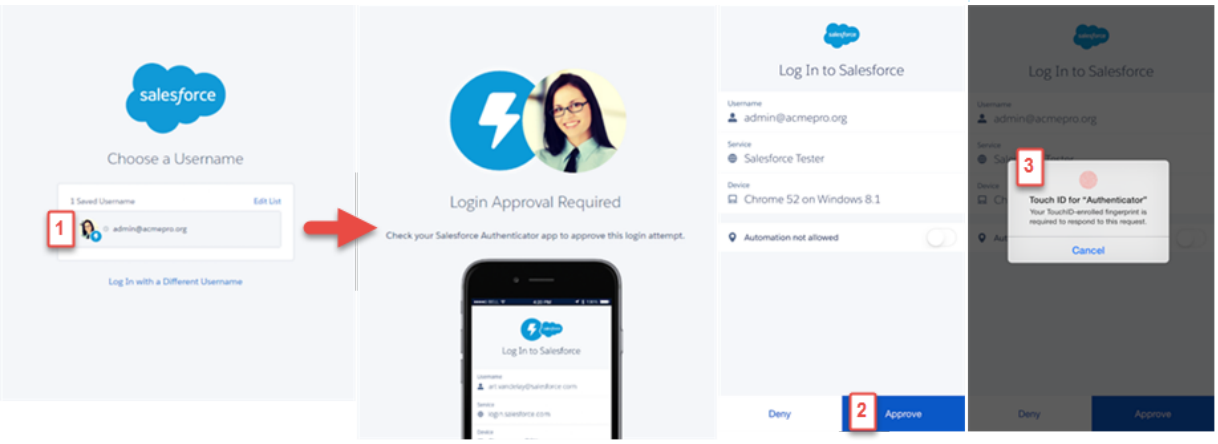
Lightning Login を使用してパスワードなしでログイン

パスワードが機能すれば、Salesforce 組織の保護に役立ちます。しかし、脆弱なパスワード、パスワードの紛失、アカウントロックアウトが問題になり得ることは、よく知られています。ログインがクリック、タップ、タッチなどと同じくらい簡単になりました。たとえば、ユーザ名をクリック、モバイルデバイスでタップして通知を承認、指紋か PIN で認証します。高速で利便性の高い、強化されたセキュリティが Lightning Login で実現すれば、パスワードで保護されたログインは無用なものになります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

ユーザの Lightning Login 操作は極めて簡単です。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



1. クリック — Lightning Login が有効なユーザ名の横にある稲妻を探し、ユーザ名をクリックします。
2. タップ — モバイルデバイスで Salesforce Authenticator アプリケーションからの通知をタップします。
3. タッチ — フィンガープリントまたは PIN で ID を確認します。これでログインできます。

パスワードを使用しないログインは、2 要素認証モバイルアプリケーションである Salesforce Authenticator (バージョン 2 以降) に依存します。このアプリケーションは iOS および Android デバイスで無料でダウンロードできます。ログインがさらに便利になるだけでなく、Lightning Login ごとに 2 つの認証要素が要求されることでセキュリティが強化されます。最初の要素はユーザが持っているものであり、Salesforce Authenticator がインストールされていてユーザの Salesforce アカウントで接続したモバイルデバイスが該当します。2 番目の要素はユーザ自身 (フィンガープリントなど) や、ユーザが知っている内容 (PIN など) が該当します。第 2 レベルの認証により、モバイルデバイスへのアクセスとユーザの指紋または PIN を要求することでセキュリティが強化されます。

ユーザの設定と指導も簡単です。

- プロファイル (コピーしたプロファイルまたはカスタムプロファイルのみ) または権限セットを使用して、ユーザに「Lightning Login ユーザ」権限を割り当てることで、ユーザが Lightning Login を使用できるようにします。Lightning Login は、外部ユーザではサポートされません。
- Lightning Login は、Lightning Experience を使用している組織に制限されません。Salesforce Classic でも動作します。

- 必須権限がある各ユーザは、Lightning Login に個別に登録します。

  ユーザの [高度なユーザの詳細] ページで [登録] をクリックすると、ユーザのモバイルデバイスで通知を受けるように要求されます。タップして承認し、フィンガープリントか PIN で認証すると、登録は完了です。まだ Salesforce Authenticator を使用していないユーザの場合、登録にはいくつかの追加ステップがあります。ユーザは、Salesforce Authenticator をダウンロードしてインストールし、Salesforce アカウントに接続して、2 番目の要素 (指紋または PIN) を設定するように指示されます。
- 登録済みのユーザは、ユーザ名だけを入力してパスワード項目はスキップし、[ログイン] をクリックしてログインすることもできます。
- 登録すると、ユーザはモバイルデバイスを使用しなくても、パスワードを使用してログインできます。ユーザが Salesforce Authenticator を Salesforce アカウントから切断すると、Salesforce Authenticator に接続し直すまで Lightning Login は許可されません。
- ユーザは、自分の登録をいつでもキャンセルできます。システム管理者は、どの個人ユーザの登録でもキャンセルできますが、ユーザの代わりに登録することはできません。
- ユーザの Lightning Login の使用状況を監視するには、Salesforce のログイン履歴または ID 検証履歴ツールを使用してロールアウトを調整します。

組織の [セッションの設定] の `[Lightning Login を許可]` 設定で Lightning Login を使用可能にできますが、「Lightning Login ユーザ」ユーザ権限を割り当てない限り誰も登録できません。いつでも `[Lightning Login を許可]` を無効にし、すべてのユーザをユーザ名とパスワードのログインに戻すことができます。

Lightning Login には、[標準] セキュリティレベルがデフォルトで割り当てられています。Lightning Login では [標準] セキュリティレベルでユーザのセッションを確立します。これは通常 Lightning Login で置き換えられるユーザ名とパスワード方式のデフォルトのセキュリティレベルです。必要に応じて、セキュリティレベルを [高保証] に変更できます。

Lightning Login のロールアウトを計画するときは、次の点に留意してください。

- Lightning Login の正式リリースは、2016 年 10 月 15 日です。それ以前は、Sandbox では使用できません。
- Salesforce Authenticator (バージョン 2 以降) モバイルアプリケーションが必要です。組織でまだ使用していない場合は、アプリケーションの要件、サポート、考慮事項を確認してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Login の有効化によるパスワードを使用しないログイン

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

既存の接続アプリケーションの説明の更新

エディション

接続アプリケーションを作成可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

アプリケーションランチャーが改良されて、アプリケーションランチャーのタイルにアプリケーションの名前と説明が表示されるようになり、ユーザが接続アプリケーションを簡単に見つけられるようになりました。説明は、アプリケーションの作成時に説明項目に入力したテキストから取得されます。Winter '17 より前に作成した接続アプリケーションの場合も、これらの説明がアプリケーションランチャーに表示されます。そのため、既存のアプリケーションの名前と説明にミスがなく、一般利用者に適した内容であることを確認してください。説明に使用できる文字数は 256 文字です。適切にご活用ください。

この機会に、アプリケーションをロゴでブランド設定しましょう。ロゴを指定しない場合、アプリケーションランチャーによってアプリケーションのイニシャルでロゴが作成されます。説明を追加しない場合、名前のみが表示されます。以前にロゴを指定している場合は、そのロゴが適切に表示されていることを確認してください。アプリケーションランチャーの再設計により、画像サイズは 128 x 128 ピクセルに変更されます。

接続アプリケーションの作成方法も変更されました。接続アプリケーションは、新しい Lightning Experience アプリケーションマネージャから作成します。テキストを編集する場合もこのアプリケーションを開きます。

接続アプリケーションを作成および編集するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーションマネージャ」と入力し、[アプリケーションマネージャ] を選択します (**1**)。その後で、[新規接続アプリケーション] を選択します。(**2**)

既存の接続アプリケーションは、引き続き以前と同じ方法で管理します。[設定]から、[クイック検索] ボックスに「*接続アプリケーション*」と入力し、[接続アプリケーションを管理する] を選択します。(**3**)

ヒント: Winter '17 がリリースされたときにすぐに使用できるように、既存の接続アプリケーションの名前、説明、ロゴを今すぐ更新してください。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Salesforce ヘルプ: 接続アプリケーション

アプリケーションランチャーをランディングページに設定

エディション

Salesforce Identity を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

再設計されたアプリケーションランチャーを Salesforce にログインしたときのデフォルトのランディングページとして表示することで、Salesforce Identity ユーザは必要なアプリケーションに簡単にアクセスできます。

[アプリケーションランチャー] タブは [すべての項目] の下にあります。

アプリケーションランチャーをランディングページにするには、まずアプリケーションマネージャで Lightning アプリケーションを作成します。ウィザードで、[アプリケーションランチャー] タブを選択し、必要なプロファイルを選択します。プロファイルのカスタムアプリケーション設定を編集すると、アプリケーションランチャーをデフォルトのホームページにできます。

関連トピック:

- Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス
- *Salesforce* ヘルプ: プロファイルでの割り当てられたアプリケーションの表示と編集
- Salesforce ヘルプ: Salesforce アプリケーションとは?

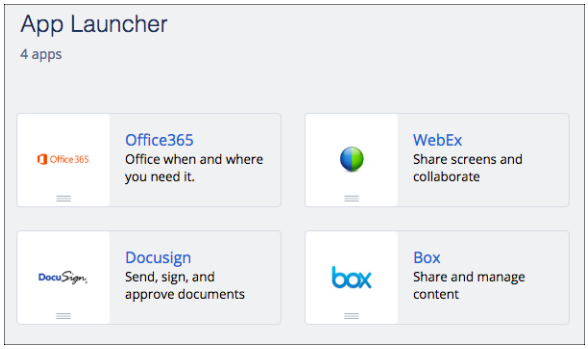
External Identity のアプリケーションランチャーの新しいデザイン

顧客またはパートナー (External Identity と呼ばれる) に Salesforce Identity を設定する場合、Aloha コミュニティテンプレートとアプリケーションランチャーを併用していることがあります。Winter '17 リリースでは、アプリケーションランチャーのデザインが、再設計されたアプリケーションランチャーの新しいデザインになります。

Lightning Experience アプリケーションランチャーと同様に、外部 ID コミュニティのアプリケーションランチャーには接続アプリケーションがアプリケーション名、ロゴ、および説明を含むタイルとして表示されます。

エディション

Salesforce Identity を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



接続アプリケーションが目立って表示されるようになったため、名前と説明が適切であることを確認してください。この機会に、アプリケーションをロゴでブランド設定することもできます。以前にロゴを指定している場合は、そのロゴが適切に表示されていることを確認してください。画像サイズは 128x128 ピクセルに変更されます。

メモ: リリースする前に時間を取って接続アプリケーション名と説明がユーザにとって適切であることの確認をお勧めします。

外部 ID と Aloha テンプレートについて詳細を知る必要がありますか? その場合は Trailhead モジュール、「顧客の Salesforce ID」を参照します。このモジュールでは、外部 ID コミュニティを設定して、顧客およびパートナーとつながる方法を学びます。「安全な ID とアクセスの管理」トレイルで最新のバッジを取得しましょう。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Salesforce ヘルプ: Salesforce Identity の Aloha コミュニティテンプレートの使用開始

U2F セキュリティキーで ID を検証

ユーザが 2 要素認証やデバイスの有効化などで ID の検証を求められたときに、U2F セキュリティキーを使用できるようになりました。Salesforce Authenticator、またはメールや SMS で送信されたワンタイムパスワードを使用する代わりに、U2F セキュリティキーを USB ポートに挿して検証を完了します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Universal Second Factor (U2F) 認証標準は FIDO Alliance の一部であり、フィッシング攻撃への耐性が強い公開鍵暗号化のセキュリティを特徴としています。一般に USB ポートに差し込む U2F セキュリティキーは簡単に配備でき、ID 検証にモバイルデバイスを使用できない環境で非常に役立ちます。複数のサービスプロバイダと複数の Salesforce 組織およびアカウントで同じセキュリティキーを使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

セキュリティキーの動作方法については重要なため、ここでいくつか説明します。

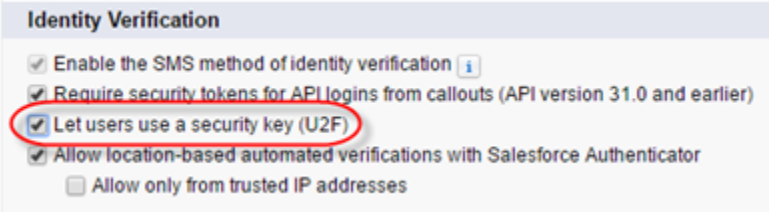
- ユーザは独自のセキュリティキーを自分でプロビジョニングできます。これらのデバイスは、IT 部門やシステム管理者による事前登録は必要ありません。
- セキュリティキーはその他の USB 認証デバイスに似ており、ユーザはキーホルダーに付けて持ち運ぶことができます。デバイスが U2F プロトコルと互換性があることを示す FIDO U2F ロゴを探してください。不明な場合は、セキュリティハードウェアベンダーに問い合わせてそのキーが U2F 準拠であることを確認してください。
- セキュリティキーは生体認証デバイスではありませんが、一部にはボタンが付いており、ユーザがそのボタンに触れてデバイスを有効にする必要があります。

U2F セキュリティキーを登録したユーザは、ID 検証プロセスを簡単に実行できます。

1. ユーザ名とパスワードを入力します。
2. セキュリティキーをコンピュータの USB ポートに差し込みます。ボタンがある場合は、そのボタンに触れます。
3. セキュリティキーによって必要なログイン情報が生成され、ブラウザがそれを Salesforce に渡して検証が完了します。

メモ: Winter '17 の時点では、この ID 検証方法は Google Chrome バージョン 41 以降のみでサポートされます。この Google Chrome のみが、U2F をネイティブでサポートしています。

この安全で便利な ID 検証方法を実装する準備はできましたか? 最初に、セキュリティキー (U2F) の方法を組織の [セッションの設定] で有効にしてください。



次に、セキュリティキーを個別に登録するようにユーザに促します。ユーザの [高度なユーザの詳細] ページで [登録] をクリックすると、ユーザは、ログインして U2F セキュリティキーをコンピュータの USB ポートに差し込むように要求されます。セキュリティキーにボタンが付いている場合は、そのボタンをタップすると、登録が完了します。

組織で [私のドメイン] をリリース済みの場合、U2F セキュリティキーを有効にする設定にアクセスできます。組織で [私のドメイン] をリリースしていない場合、Salesforce に問い合わせて、アクセス権の付与を依頼してください。U2F を有効にした後に [私のドメイン] を有効にすると、セキュリティキーを元の Salesforce ドメインで登録したユーザについては、既存の登録が無効になります。影響を受けるユーザの登録を削除し、カスタムドメイン名で再度登録を行う必要があります。

登録後、ユーザはセキュリティキーを使用しなくても、Salesforce Authenticator、以前に登録済みの確認コードを生成する任意の検証方法、またはシステム管理者によって生成された仮の確認コードを引き続き使用できます。ユーザは、自分の登録をいつでもキャンセルできます。システム管理者は、どの個人ユーザの登録でもキャンセルできますが、ユーザの代わりに登録することはできません。

その他の ID 検証方法と同じように、Salesforce の標準的なツールを使用して、ユーザのセキュリティキーの使用状況を追跡できます。

- ユーザのセキュリティキーアクティビティは [ID 検証履歴] ページに表示されます。
- [ID 検証履歴] ページのリンクから ID 検証方法レポートを使用して、セキュリティキーの採用を監視します。
- ユーザリストビューを作成して `[U2F セキュリティキーがある]` 項目を組み込み、この方法を登録したユーザを確認します。

ユーザの一括メール送信ツールを使用すると、対象を絞ったお知らせをこの方法を登録しているユーザに送信できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ID 検証のための U2F セキュリティキーの有効化

FIDO Alliance について

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

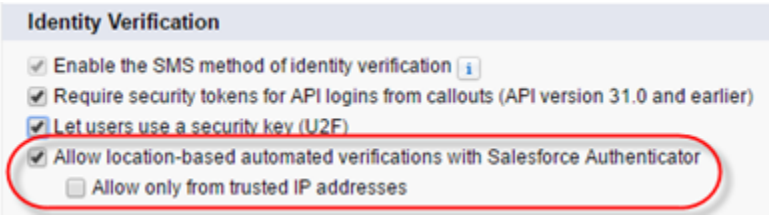
Salesforce Authenticator を使用してロケーションベースの自動検証の制限

さらに詳細に制御するため、Salesforce Authenticator のモバイルアプリケーションでユーザが認証を行う場合に、ロケーションベースの自動検証の使用を制限する新しいオプションが追加されました。以前は、すべての場所で自動検証を許可しており、現在もデフォルトではこの設定になっています。信頼できる IP アドレスのみでの使用に制限するか、完全に無効化するかを選択できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

[セッションの設定] のデフォルト設定では、Salesforce Authenticator ユーザは、自宅やオフィスなどの信頼できる場所から自動的に認証できます。

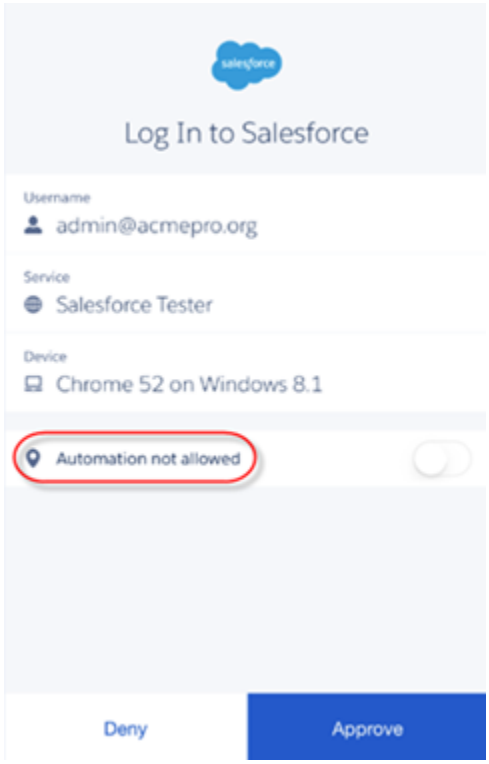
エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



- 信頼できる IP アドレス (社内ネットワークなど) のみに自動検証を制限するには、[信頼済み IP アドレスからのみ許可] を選択します。
- 自動検証を無効にするには、[Salesforce Authenticator でロケーションベースの自動検証を許可] を選択解除します。

ロケーションベースの制限によってユーザの自動認証が防止されると、Salesforce Authenticator アプリケーションにより、自動認証が許可されていないことが示されます。



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

複数の認証アプリケーションの接続をユーザに許可

ユーザは Salesforce Authenticator の接続に加えて、2 つ目のワンタイムパスワードジェネレータアプリケーションを Salesforce アカウントに接続できるようになりました。一部のユーザは、モバイルデバイスで Salesforce Authenticator またはサードパーティアプリケーション (Google Authenticator など) を使用できる柔軟性を求めています。2 要素認証と ID 検証用に時間ベースのワンタイムパスワードを生成する2つ目のアプリケーションを使用できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

ユーザの[高度なユーザの詳細]ページで、[アプリケーション登録: `Salesforce Authenticator`] 設定を使用して Salesforce Authenticator を接続します。[アプリケーション登録: ワンタイムパスワードジェネレータ] 設定を使用して、2つ目のアプリケーションを接続します。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ID 検証のためのワンタイムパスワードジェネレータアプリケーションまたはデバイスの関連付け

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

接続アプリケーションの認証用に ID トークンオプションを追加

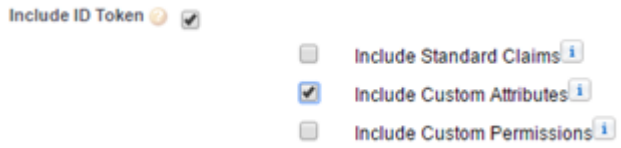
Salesforce での認証に OAuth を使用する接続アプリケーションの場合、OAuth 要求での ID トークンを設定できるようになりました。更新トークンが返されるときに ID トークンを含めることができます。また、アクセスおよび更新トークン応答の両方で ID トークンに標準要求、カスタム属性、カスタム権限を含めるかどうかを制御できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

接続アプリケーションを作成可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

接続アプリケーションを作成または編集するときは、新しい［ID トークンを含める］設定を探します。

1. [設定] から、［クイック検索］ボックスに「アプリケーション」と入力し、[アプリケーション] を選択します。
2. [接続アプリケーション] セクションで、[新規] をクリックして新しい接続アプリケーションを作成するか、既存の接続アプリケーションの横にある [編集] をクリックします。
3. [API (OAuth 設定の有効化)] セクションで、［OAuth 設定の有効化］を選択して使用可能なオプションを展開します。



更新トークン応答で ID トークンを含めるには、［ID トークンを含める］を選択します (常にアクセストークン応答に含まれます)。

このプライマリ設定を有効にした状態で、セカンダリ設定を構成し、アクセストークン応答と更新トークン応答の両方で ID トークンコンテンツを制御できます。少なくとも 1 つのセカンダリ設定を選択します。

標準要求を含める
ユーザの名前、プロファイル、電話番号、住所など、ユーザに関する情報を含む標準要求を含めます。「OpenID Connect の仕様」では、ID トークンで返される、一連の標準要求が定義されます。

カスタム属性を含める
接続アプリケーションでカスタム属性を指定した場合は、そのカスタム属性を ID トークンに含めます。

カスタム権限を含める
接続アプリケーションでカスタム権限を指定した場合は、そのカスタム権限を ID トークンに含めます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

接続アプリケーションのプロビジョニング時にユーザを再認証

接続アプリケーションに Salesforce プロビジョニングを使用している顧客の、承認取り消し後に再認証したユーザの処理方法が改善されました。以前は、ユーザを再認証すると、作成イベントがトリガされていましたが、ユーザがすでに存在しているためにエラーになることがありました。Salesforce によって既存のユーザが再有効化されるようになりました。

エディション

接続アプリケーションを作成可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス
Salesforce ヘルプ: 接続アプリケーションのユーザプロビジョニング

Salesforce Shield: 独自の暗号化鍵の使用、リソース測定

強力なセキュリティ機能の特別なプレミアムパッケージである Salesforce Shield で、独自の暗号化鍵の詳細な制御、検索インデックスの暗号化、トランザクションセキュリティポリシーの管理に役立つ測定を行うことができるようになりました。

このセクションの内容:

プラットフォームの暗号化: Bringing your own encryption key、政府クラウドのサポート、一括暗号化の高速化
Bringing your own encryption key (BYOK) により、データセキュリティをさらに詳細に制御できます。また、FedRAMP の準拠規格の適合、検索インデックスの暗号化、Lightning for Outlook と Lightning Sync の同期などを実行できます。

トランザクションセキュリティ: リソース測定、イベントのログ記録、Apex の例
トランザクションセキュリティに、リソース測定、ログインポリシーを処理する改良された方法、イベントのログ記録、改善された Apex の例が組み込まれました。これらの変更により、ポリシーを追跡し、さらに効率的に運用できるようになります。

プラットフォームの暗号化: Bringing your own encryption key、政府クラウドのサポート、一括暗号化の高速化

Bringing your own encryption key (BYOK) により、データセキュリティをさらに詳細に制御できます。また、FedRAMP の準拠規格の適合、検索インデックスの暗号化、Lightning for Outlook と Lightning Sync の同期などを実行できます。

このセクションの内容:

Bring Your Own Key サービスの導入 (正式リリース)
Shield Platform Encryption Bring Your Own Key (BYOK) サービスでは制御と柔軟性が強化され、Salesforce の外部で独自のテナントの秘密を生成して管理できます。

検索インデックスの暗号化 (正式リリース)

これまで、検索インデックスは暗号化されていなかったため、検索結果に表示される暗号化されたデータがプレーンテキストになる場合がありました。この動作が変更されました。有効にすると、Shield Platform Encryption を使用している場合、HSM ベースの鍵派生アーキテクチャ、メタデータ、および設定を利用して、検索インデックスの暗号化が自動的に実行されます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Trailhead の Shield Platform Encryption

そのとおりです。新しい「Shield Platform Encryption」モジュールが追加されました。このモジュールでは、暗号化によってデータの保護を強化する方法について学習します。組織で Shield Platform Encryption を有効にしてハンズオン練習を実施し、スマートな方法で暗号化をリリースするベストプラクティスのいくつかを確認します。

一括暗号化プロセスの改善

項目またはファイルの暗号化を有効にすると、データはその時点から暗号化されますが、その項目またはファイルの既存のデータは Salesforce が要求に応じて実行する一括暗号化プロセスで最新日付にする必要があります。この一括暗号化プロセスがより高速になりました。

Shield Platform Encryption が FedRAMP 承認済みに

Government Cloud に朗報です。Shield Platform Encryption が FedRAMP 準拠になりました。政府機関は、機密データを処理するときにセキュリティの強化として Shield Platform Encryption を使用し、暗号化鍵のライフサイクルを制御できるようになりました。

PCI-DSS 準拠の暗号化されたファイルおよび添付ファイル

Shield Platform Encryption で保護されたファイルおよび添付ファイルは PCI-DSS (Payment Card Industry Data Security Standard: ペイメントカード業界データセキュリティ基準) 準拠になりました。

Shield Platform Encryption での Pardot Connect ツールのサポート

Pardot 組織でメールアドレスが同じ複数のプロスペクトが許可されている場合、Pardot Connect は暗号化された取引先責任者メールアドレスを処理できます。

Shield Platform Encryption での同期のサポート

Lightning for Outlook および Lightning Sync ツールで作業を続けながら、機密性の高い、規制された非公開 (暗号化) データを操作できます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方でこの操作を実行できます。

暗号化項目で Shared Activities 参照を使用可能

Shield Platform Encryption で Shared Activities 参照項目がサポートされるようになりました。これにより、[取引先責任者名] 項目に暗号化を埋め込み、Shared Activities を使用して複数の取引先責任者を特定の行動または ToDo に関連付けることができます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

カスタム数式項目、フロー、プロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (パイロット)

Shield Platform Encryption サービスは、カスタム数式項目、フロー、プロセスビルダーまで拡張されるようになりました。このパイロットプログラムでは、より多くの方法で暗号化データの操作をカスタマイズできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Bring Your Own Key サービスの導入 (正式リリース)

Shield Platform Encryption Bring Your Own Key (BYOK) サービスでは制御と柔軟性が強化され、Salesforce の外部で独自のテナントの秘密を生成して管理できます。

BYOK サービスでは、2 つの方法で暗号化鍵のライフサイクルを管理できます。組み込みの Salesforce 鍵管理インフラストラクチャを使用するか、独自の暗号化リソースを使用して生成したテナントの秘密を個別に Salesforce と共有します。

独自の鍵を使用すると、Shield Platform Encryption サービスでのセキュリティの利点を得られるだけでなく、必要な制御はテナントの秘密の管理のみになります。独自の暗号ライブラリ、ハードウェアセキュリティモジュール (HSM)、または鍵仲介サービスを使用して、Salesforce の外部でテナントの秘密を生成して保存できます。

Salesforce は大手のサードパーティ鍵仲介会社と提携し、複雑性、管理、およびガバナンスの労力を軽減するその他の方法も提供しています。これらの鍵仲介サービスの使用は任意です。

BYOK は、セキュリティと柔軟性を念頭に置いて構築されています。自己署名証明書または認証機関 (CA) 証明書の公開鍵を使用して、テナントの秘密を暗号化できます。秘密を Salesforce にアップロードすると、Shield Platform Encryption 鍵管理マシンにテナントの秘密へのアクセス権が付与されます。その後、テナントの秘密はデータベースに安全に保存され、鍵派生で使用できるようになります。いつでもテナントの秘密へのアクセス権を取り消し、独自のスケジュールでテナントの秘密を更新できます。

検索インデックスの暗号化 (正式リリース)

これまで、検索インデックスは暗号化されていなかったため、検索結果に表示される暗号化されたデータがプレーンテキストになる場合がありました。この動作が変更されました。有効にすると、Shield Platform Encryption を使用している場合、HSM ベースの鍵派生アーキテクチャ、メタデータ、および設定を利用して、検索インデックスの暗号化が自動的に実行されます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

お客様の組織固有の検索インデックス `.fdt`、`.tim`、および `.tip` ファイルには、組織固有の AES-256-bit 暗号化鍵を使用して強力な暗号化を適用します。

検索インデックスの暗号化はシームレスに保護を強化します。組織の暗号化ポリシーによってこの機能へのアクセス権が決定されるため、組織の設定を変更する必要はありません。

メモ: 検索インデックスの暗号化は、Government Cloud ではまだ使用できません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 検索の暗号化

Trailhead の Shield Platform Encryption

そのとおりです。新しい「Shield Platform Encryption」モジュールが追加されました。このモジュールでは、暗号化によってデータの保護を強化する方法について学習します。組織で Shield Platform Encryption を有効にしてハンズオン練習を実施し、スマートな方法で暗号化をリリースするベストプラクティスのいくつかを確認します。

このモジュールは、Salesforce Shield 専用の新しい「Salesforce Shield を使用したアプリケーションの保護」トレイルの一部です。イベント監視、トランザクションセキュリティ、および Shield Platform Encryption を使用して、組織でガバナンスの確立とコンプライアンスポリシーの適用を行う方法が説明されています。

一括暗号化プロセスの改善

項目またはファイルの暗号化を有効にすると、データはその時点から暗号化されますが、その項目またはファイルの既存のデータは Salesforce が要求に応じて実行する一括暗号化プロセスで最新日付にする必要があります。この一括暗号化プロセスがより高速になりました。

Salesforce サポートは、いつでも組織固有の派生データ暗号化鍵を使用した既存のデータ、項目、またはファイルの一括暗号化の依頼に応じます。このプロセスは、タイムスタンプの変更や Apex トリガの無効化を行わず、より高速に実行できるようになりました。

Shield Platform Encryption が FedRAMP 承認済みに

Government Cloud に朗報です。Shield Platform Encryption が FedRAMP 準拠になりました。政府機関は、機密データを処理するときにセキュリティの強化として Shield Platform Encryption を使用し、暗号化鍵のライフサイクルを制御できるようになりました。

関連トピック:

- FedRAMP と Salesforce

PCI-DSS 準拠の暗号化されたファイルおよび添付ファイル

Shield Platform Encryption で保護されたファイルおよび添付ファイルは PCI-DSS (Payment Card Industry Data Security Standard: ペイメントカード業界データセキュリティ基準) 準拠になりました。

組織の状況が PCI Merchant Level 1 の場合、クレジットカード関連のデータを含め、暗号化されたファイルに含まれるデータは、PCI-DSS 規格に従って処理、保存、送信されるようになりました。

暗号化された項目に含まれるデータはすでに PCI 準拠になっています。

関連トピック:

- コンプライアンスの Salesforce PCI 認証

Shield Platform Encryption での Pardot Connect ツールのサポート

Pardot 組織でメールアドレスが同じ複数のプロスペクトが許可されている場合、Pardot Connect は暗号化された取引先責任者メールアドレスを処理できます。

メールアドレスが同じ複数のプロスペクトは、Pardot 組織が 2016 年 6 月 14 日以降にプロビジョニングされた場合に許可されます。この日付以降にプロビジョニングされた Pardot 組織のお客様のみが、Shield を Pardot と併用してメールアドレスを暗号化できます。

2016 年 6 月 14 日より前にプロビジョニングされた Pardot 組織では、プロスペクトのメールアドレスが暗号化されている場合は同期プロセスが機能しません。ただし、メールアドレス以外の暗号化可能な項目には Shield Platform Encryption を適用できます。

Pardot は、Pardot 環境内に保存されたデータを暗号化しません。Salesforce Shield は、Salesforce データベース内にあるデータを暗号化します。そのデータが Pardot と共有されます。

重要: Pardot の Salesforce コネクタのコネクタユーザは、「参照」アクセス権に加えて Salesforce の「暗号化されたデータの参照」権限が必要です。コネクタユーザにこの権限がない場合、すべてのデータはアスタリスクとして同期され、Pardot データが完全に上書きされます。

関連トピック:

SalesforcePardot ヘルプ:同じメールアドレスで複数のプロスペクトを作成できるアカウントかどうかを判別する方法

Pardot: より簡単かつ強力に

Shield Platform Encryption での同期のサポート

Lightning for Outlook および Lightning Sync ツールで作業を続けながら、機密性の高い、規制された非公開 (暗号化) データを操作できます。Lightning Experience と Salesforce Classic の両方でこの操作を実行できます。

Lightning for Outlook

「暗号化されたデータの参照」権限を持つユーザは、Lightning for Outlook と Shield Platform Encryption を連動させることができるようになりました。「暗号化されたデータの参照」権限が有効になっていないユーザは、Lightning for Outlook のメールとイベントに関連付けられている暗号化項目を含むレコードを参照できない場合があります。

Lightning Sync

「暗号化されたデータの参照」権限のあるユーザの場合、Lightning Sync と Shield Platform Encryption の互換性が確保されるようになりました。これまで、プラットフォームの暗号化を使用している組織は Lightning Sync を実行できませんでした。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning for Outlook

Salesforce ヘルプ: Lightning Exchange

暗号化項目で Shared Activities 参照を使用可能

Shield Platform Encryption で Shared Activities 参照項目がサポートされるようになりました。これにより、[取引先責任者名] 項目に暗号化を埋め込み、Shared Activities を使用して複数の取引先責任者を特定の行動または ToDo に関連付けることができます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 活動

取引先責任者を複数の取引先に関連付ければ、さらにうまくいく

カスタム数式項目、フロー、プロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (パイロット)

Shield Platform Encryption サービスは、カスタム数式項目、フロー、プロセスビルダーまで拡張されるようになりました。このパイロットプログラムでは、より多くの方法で暗号化データの操作をカスタマイズできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

カスタム数式項目では、次のメソッドを使用して暗号化項目を参照し、結果をテキスト、日付、または日付/時間で取得できます。

- `&` (連結)
- `isBlank`
- `isNull`
- リレーションの拡大

レコードの絞り込みまたは並び替えを行う場合を除き、フローおよびプロセスビルダーのほとんどの要素から暗号化データにアクセスすることもできます。暗号化項目の値を更新したりロジックで暗号化項目を参照したりできますが、暗号化項目の特定の値に基づいてレコードを検索することはできません。

メモ: 数式項目、フロー、プロセスビルダーの暗号化のサポートは、Developer Edition や、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition の Sandbox で利用できるパイロットプログラムです。このパイロットへの参加についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (パイロット)

Salesforce ヘルプ: Lightning プロセスビルダー

クイックリファレンス: 数式項目

トランザクションセキュリティ: リソース測定、イベントのログ記録、Apex の例

トランザクションセキュリティに、リソース測定、ログインポリシーを処理する改良された方法、イベントのログ記録、改善された Apex の例が組み込まれました。これらの変更により、ポリシーを追跡し、さらに効率的に運用できるようになります。

このセクションの内容:

すべてのポリシーで向上したリソースの利用状況
リソース測定により、ポリシー評価で使用するリソースが多すぎて組織に影響を及ぼすことを防ぐことで、共有のマルチテナントプラットフォームリソースを悪意で独占したり、偶然に独占してしまったりすることを防止できます。

効率性が向上したログインポリシー
ログインポリシーではコンピュータリソースがさらに適切に使用されて時間が節約され、すべてのログインに適切なポリシーが適用されるようになりました。ユーザのログイン要求が不必要にブロックされる回数が減ります。

「トランザクションセキュリティ」ログイベントを使用して利用状況を監視
イベントログファイルの新しい「トランザクションセキュリティ」イベント種別により、ポリシーのボリュームと利用状況を簡単に確認できます。Salesforce の分析ツールを使用して、トランザクションセキュリティイベントを分析することもできます。

完成度を増した Apex の例
『*Apex 開発者ガイド*』のすべての Apex 例でトランザクションセキュリティ機能の使用方法が改善されました。

すべてのポリシーで向上したリソースの利用状況

リソース測定により、ポリシー評価で使用するリソースが多すぎて組織に影響を及ぼすことを防ぐことで、共有のマルチテナントプラットフォームリソースを悪意で独占したり、偶然に独占してしまったりすることを防止できます。

ポリシーはリソースの均一な使用で測定されます。ユーザのポリシー要求を十分に速く処理できない場合、フェイルクローズ動作が発生し、アクセスがブロックされます。その結果、ユーザはリソースまたはエンティティにアクセスできなくなります。

次に、ログインポリシーの測定の動作方法について例を挙げて説明します。組織には通知アクションを設定したログインポリシーがあります。1人のユーザが4つのログイン要求を同時に行います。いくつかの理由によって、4つのログインポリシーすべてを十分な時間で実行できません。トランザクションセキュリティによってポリシーの処理が停止され、フェイルクローズ状態になり、4つすべてのログイン要求がブロックされます。ポリシー評価が完了しないため、通知は送信されません。

メモ: 測定では、ポリシーのために Apex コードで静的ローカル変数を使用できません。

効率性が向上したログインポリシー

ログインポリシーではコンピュータリソースがさらに適切に使用されて時間が節約され、すべてのログインに適切なポリシーが適用されるようになりました。ユーザのログイン要求が不必要にブロックされる回数が減ります。

「トランザクションセキュリティ」ログイベントを使用して利用状況を監視

イベントログファイルの新しい「トランザクションセキュリティ」イベント種別により、ポリシーのボリュームと利用状況を簡単に確認できます。Salesforceの分析ツールを使用して、トランザクションセキュリティイベントを分析することもできます。

次は、「トランザクションセキュリティ」イベントの例です。

```
"TransactionSecurity","20160728000023.195","","","","00DD00000008JzR",
"005D0000001c54j","23","12","","","","","0NID00000004CVe","2016-07-28T00:00:22.916Z",
"TRIGGERED","6","2016-07-28T00:00:23.195Z","005D0000001c54jIAA","","0NID00000004CVeOAM"
```

組織のID値、イベントの原因となったユーザ、および呼び出されたポリシーが含まれています。タイムスタンプ、実行時間、およびポリシーがトリガされたかどうかも含まれています。

関連トピック:

SOAP API 開発者ガイド: EventLogFile

完成度を増したApexの例

『*Apex開発者ガイド*』のすべてのApex例でトランザクションセキュリティ機能の使用方法が改善されました。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: トランザクションセキュリティ通知の Apex ポリシー

Apex 開発者ガイド: TxnSecurity 名前空間

その他のセキュリティの変更: HTTPS ログイン、リスクの修正、権限の変更

ログインセキュリティと状態チェックツールの改善など、セキュリティに影響を及ぼすその他の変更が加えられました。

Salesforce サーバインスタンスへのログインに HTTPS を必須化

エディション

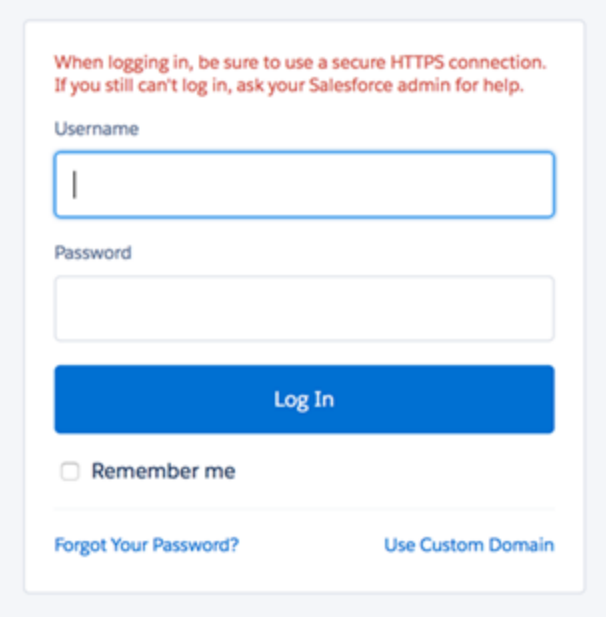
使用可能なエディション: すべてのエディション

`na1.salesforce.com` などのSalesforceサーバインスタンスへのログインに、HTTPSのセキュアな接続の使用が必須になりました。これまでは、`login.salesforce.com` とカスタムドメインURL経由のログインにHTTPSが必要でした。現在はHTTPSがすべてのSalesforceログインで必須となっています。*`yourInstance`*`.salesforce.com` をコールすると、必ずHTTPがHTTPSに置換されます。この機能は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicの両方で使用できます。

`http://`*`yourInstance`*`.salesforce.com` とブラウザに入力すると、`https://`*`yourInstance`*`.salesforce.com` にリダイレクトされます。ただし、クエリ文字列にユーザ名とパスワードを含むURLを使用してHTTP経由でログインしようとすると、エラーが発生します。

たとえば、`http://yourInstance.salesforce.com?un=myusername&pw=mypassword` という URL は機能しません。

HTML を `http://yourInstance.salesforce.com` に貼り付けてユーザ名とパスワードを渡す場合も、エラーが発生します。



関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

リモートサイトの設定には「設定・定義を参照する」権限が必要

セキュリティ上の理由により、「設定・定義を参照する」ユーザ権限を持つユーザのみが [設定] および API でリモートサイトの設定を表示できます。「設定・定義を参照する」と「アプリケーションのカスタマイズ」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザは、リモートサイトの設定を編集できます。以前は、ユーザがリモートサイトの設定を表示および編集するには、「すべてのデータの編集」ユーザ権限のみが必要でした。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

[設定] および API での操作	システム管理者に必要なユーザ権限
リモートサイトの設定の表示	「設定・定義を参照する」
リモートサイトの設定の編集	「設定・定義を参照する」と「アプリケーションのカスタマイズ」または「設定・定義を参照する」と「すべてのデータの編集」

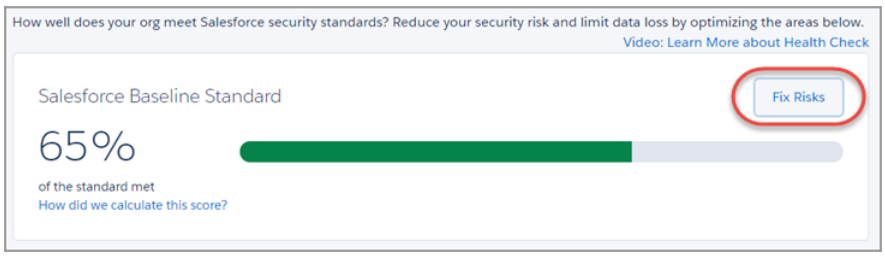
状態チェックを使用してセキュリティリスクをすぐに修正

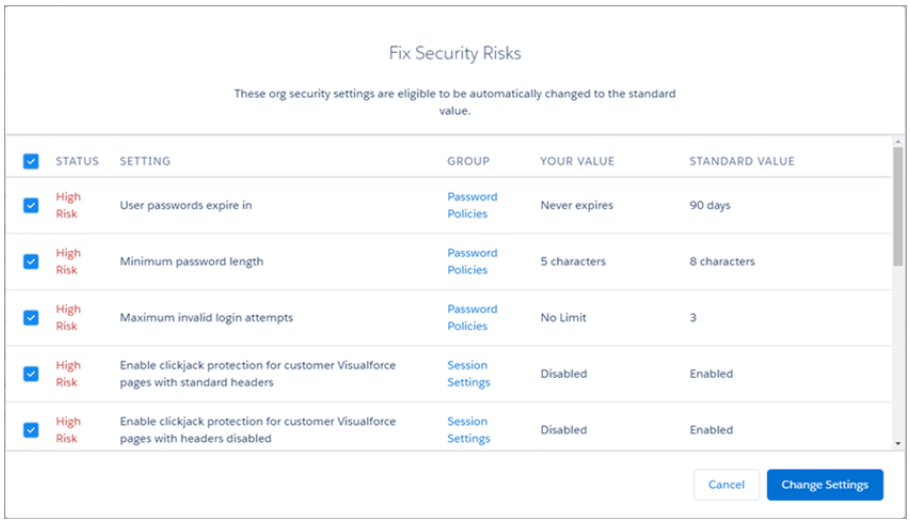
組織のセキュリティ設定を改善するために、さまざまな設定ページに移動する必要があることにうんざりしていませんか?リスクの修正機能を使用して、ワンクリックで状態チェックの設定を修正できるようになりました。[状態チェック] ページを離れることなく、リスクの修正を使用して[ログインアクセスポリシー]、[パスワードポリシー]、[セッションの設定] で組織のセキュリティ脆弱性に対応できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

[リスクを修正]をクリックし、Salesforce の推奨値に変更する設定を選択して、[状態チェック] のスコアが高くなるのを眺めましょう。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition





これまでどおり [設定]ページに移動して設定を編集したい場合も心配いりません。引き続きこの方法も使用できます。[状態チェック] で、各設定の横にある [編集] をクリックします。

状態チェックでの証明書と鍵の管理設定の監査

[設定]の[状態チェック]ページから、さらに多くのセキュリティの欠陥を直接特定して修正できるようになりました。ログインアクセスポリシー、パスワードポリシー、リモートサイトの設定、セッションの設定、ネットワークアクセスの設定に加えて、証明書と鍵のセキュリティリスクを特定し、修正できるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

[設定]から、[クイック検索]ボックスに「*状態チェック*」と入力し、[状態チェック]を選択します。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

ユーザ権限によって制限されるセキュリティヘルスチェックへのアクセス

セキュリティ上の理由により、特定の権限を持つユーザのみが [設定] および API で [状態チェック] ページの情報を表示および編集できます。以前は、「設定・定義を参照する」と「すべてのデータの編集」のユーザ権限を持つユーザが[状態チェック] 設定を表示および編集できました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

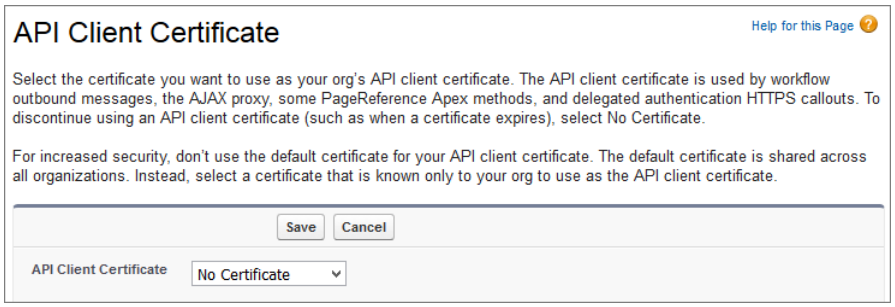
[状態チェック] での操作	システム管理者に必要なユーザ権限
表示	「設定・定義を参照する」
リスクの修正	「ログインアクセスポリシーの管理」および「パスワードポリシーの管理」
Tooling API での SecurityHealthCheck へのアクセス	「設定・定義を参照する」
Tooling API での SecurityHealthCheckRisks へのアクセス	「設定・定義を参照する」

[状態チェック] にアクセスするには、[設定] から、[クイック検索]ボックスに「*状態チェック*」と入力し、[状態チェック] を選択します。

デフォルトの証明書は新しい組織では使用不可

Winter '17 以降の新しい組織では API クライアント証明書および SAML 証明書署名要求の選択リストに [デフォルトの証明書] オプションはありません。代わりに、自己管理の証明書を使用する必要があります。自己管理の証明書とは、自己署名証明書または認証機関 (CA) 署名証明書です。

- API クライアント証明書を選択するには、[設定] から [クイック検索]ボックスに「*API*」と入力して、**[API]** を選択します。API WSDL ページで、**[API クライアント証明書を管理]** をクリックします。証明書と鍵の管理ページの [API クライアント証明書] セクションで、**[編集]** をクリックして、API クライアント証明書ページを開きます。



- SAML 証明書署名要求を選択するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*シングル*」と入力し、[シングルサインオン設定] を選択します。クリックして設定を編集するか、[新規] をクリックします。

デフォルトの証明を使用する機能は、次のとおりです。

- AJAX プロキシ
- 代理認証
- `PageReference.getContent()` Apex コール
- `PageReference.getContentAsPDF()` Apex コール
- シングルサインオン (SSO) 用のデフォルトの証明書付き SAML
- ワークフローの自動メッセージ

リリース: クイックリリースの柔軟性が向上、リリース可能な項目の追加

変更を組織に新しい方法でリリースできるようになりました。クイックリリースの時間枠拡張の活用、選択リスト値を追加したセットの変更、Apex テストスイートのリリースを実行できます。

このセクションの内容:

新しい変更セットコンポーネント

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。次のコンポーネントが変更セットに使用できるようになりました。

クイックリリースのスケジュール日数の増加

検証をクイックリリースできる時間枠が 4 日から 10 日に延長されました。時間枠が長くなったことで、より柔軟にクイックリリースをスケジュールでき、組織への影響を最小限に抑えることができます。

Apex テストスイートの他の組織へのリリース

ApexTestSuite 型を使用して、メタデータ API から Apex テストスイートにアクセスできるようになりました。各テスト組織にテストスイートを再作成する必要がなくなりました。代わりに、Apex テストスイートを一度作成して、テストスイートとそのテストクラスを各テスト環境にリリースします。これにより、新しいテストメソッド、 `whatTheHeckIsWrongHere()` または `pleasePleasePleaseReturnTrue()` のどちらをコールするかなど、重要な事項に集中できるようになりました。

関連トピック:

メタデータ API

新しい変更セットコンポーネント

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Database.com** Edition

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。次のコンポーネントが変更セットに使用できるようになりました。

グローバル値セット
: グローバル選択リスト値セットは、カスタム選択リスト項目で使用できる共有値のセットです。グローバル値セットは項目ではありません。

クイックリリースのスケジュール日数の増加

エディション

変更セットを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Database.com** Edition

メタデータ API を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

検証をクイックリリースできる時間枠が 4 日から 10 日に延長されました。時間枠が長くなったことで、より柔軟にクイックリリースをスケジュールでき、組織への影響を最小限に抑えることができます。

たとえば、週末のオフピーク時間にメタデータコンポーネントを正常に検証した場合、次の週末まで待って検証をクイックリリースするようにスケジュールできます。この変更は、変更セット、メタデータ API、およびメタデータ API ベースのツール (Force.com 移行ツールなど) に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: クイックリリース

メタデータ API 開発者ガイド: `deployRecentValidation()`

Force.com 移行ツールガイド: `<sf:deployRecentValidation>` タスク

Apex テストスイートの他の組織へのリリース

ApexTestSuite 型を使用して、メタデータ API から Apex テストスイートにアクセスできるようになりました。各テスト組織にテストスイートを再作成する必要がなくなりました。代わりに、Apexテストスイートを一度作成して、テストスイートとそのテストクラスを各テスト環境にリリースします。これにより、新しいテストメソッド、 `whatTheHeckIsWrongHere()` または `pleasePleasePleaseReturnTrue()` のどちらをコールするかなど、重要な事項に集中できるようになりました。

関連トピック:

- *メタデータ API 開発者ガイド*: ApexTestSuite
- *SOAP API 開発者ガイド*: ApexTestSuite
- *SOAP API 開発者ガイド*: TestSuiteMembership

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Force.com は、組織のための、または別の組織に再販するための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

デバッグ: 無関係なイベントログの削減

デバッグ環境が改善されたため、Salesforce組織でより簡単に問題を解決できるようになりました。一般ユーザのアクティビティにより、手に負えないほど大きなデバッグログは生成されなくなりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

開発者コンソール

開発者コンソールの新機能を使用して、組織でコードをより簡単に管理します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

AppExchange: 統合エクスペリエンスの導入

統合 AppExchange エクスペリエンスを Salesforce 組織で使用できるようになりました。統合エクスペリエンスによって、数千ものアプリケーション、Lightning コンポーネント、およびコンサルティングサービスリストの参照や検索を組織から直接実行できます。世界をリードするビジネスアプリケーションマーケットプレイスから安全な事前作成済みソリューションへの接続がかつてなく簡単になりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

カスタムメタデータ型: リレーション項目の更新、ローダの機能強化、削除したメタデータの管理

カスタムメタデータ型を使用することで、データだけでなくメタデータ型に基づいてアプリケーションを作成することができるため、以前よりも優れたアプリケーションを構築できます。リレーション項目のある関連レコードのビューのズーム、レコードの更新の促進、リレーション項目の簡単な削除や復元、参照されるカスタムオブジェクトに関するすべての情報の取得を実行できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

Apex コード

スタブ API により、上級開発者が独自のモックフレームワークを作成できます。プラットフォームキャッシュの診断メソッドと指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトの差し込み項目で特殊文字をエスケープする機能も追加されました。[Apexテスト履歴]ページには、開始日時とテスト実行で失敗したメソッドとキューに追加されたメソッドの数が表示されるようになりました。

Lightning コンポーネント: アクション、イベント、スタイル、セキュリティ

Lightning コンポーネントフレームワークによって、Lightning Experience と Salesforce1 が強化されます。このフレームワークを使用すると、Lightning Experience、Salesforce1、Salesforce Classic、およびコミュニティで、モバイルアプリケーションやページを構築できます。このリリースの機能強化は、カスタムアクションによる Lightning Experience および Salesforce1 のカスタマイズ、洗練されたイベントバブルモデル、Lightning Design System へのアクセスの改善に重点を置いています。これには、すでにお知らせしたセキュリティの変更 (LockerService の機能強化の遅延など) も含まれます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Visualforce: Lightning Experience の機能強化

Visualforce を使用して、組織をカスタマイズするアプリケーションを開発します。Visualforce の言語および機能の改善により、アプリケーション開発がさらに容易になりました。このリリースの変更では、Lightning Experience とのインテグレーションの改善に焦点を絞っています。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Lightning Design System

Lightning Design System は、Lightning Experience と一貫性のあるデザインを提供する CSS フレームワークです。コンポーネントクラスを使用すれば、標準のスタイルをリバースエンジニアリングしなくても Salesforce と一貫性のある UI を持つカスタムアプリケーションを構築できます。

API

API バージョン 38.0 では、より多くのメタデータ型とデータオブジェクトにアクセスできます。

ISVforce: API を使用したパッケージのアップロードおよびアップグレードの自動化

ISVforce ツールを使用して、アプリケーションと Lightning コンポーネントを容易に作成、パッケージ化、および配布できます。このリリースでは、Tooling API と標準オブジェクトをそれぞれ使用してパッケージのアップロードおよびアップグレードを自動化することで、パッケージ管理からこの作業を取り除くことができます。また、自動メール通知を使用して迅速に登録者の問題に対応することもできます。

デバッグ: 無関係なイベントログの削減

デバッグ環境が改善されたため、Salesforce 組織でより簡単に問題を解決できるようになりました。一般ユーザのアクティビティにより、手に負えないほど大きなデバッグログは生成されなくなりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

このセクションの内容:

ブラウザの Cookie を設定し、ゲストユーザのデバッグログを有効化
一般ユーザは大量のイベントを生成するため、すぐにデバッグログがいっぱいになります。このため、一般ユーザのブラウザに特別な Cookie が含まれている場合に限り、ゲストユーザライセンスを使用するサイト訪問者に関してログが収集されます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

ブラウザの Cookie を設定し、ゲストユーザのデバッグログを有効化

一般ユーザは大量のイベントを生成するため、すぐにデバッグログがいっぱいになります。このため、一般ユーザのブラウザに特別な Cookie が含まれている場合に限り、ゲストユーザライセンスを使用するサイト訪問者に関してログが収集されます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

ユーザ権限

デバッグログを参照、保持、および削除する
- 「ユーザの管理」

ゲストユーザに対してログを有効にする手順は、次のとおりです。

1. ユーザに、`.force.com` のドメイン値と `debug_logs` の名前値を使用してブラウザ Cookie を設定するように要求します。Cookie の追加の詳細については、ユーザのブラウザのドキュメントを参照してください。Cookie を追加できるようにするには、ブラウザのプラグインまたは拡張機能が必要になる場合があります。
2. サイトのゲストユーザの名前を見つけます。
   a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。
   b. [サイトの表示ラベル] 列からサイトを選択します。
   c. [公開アクセス設定] > [ユーザの参照] を選択します。
3. ユーザベースの追跡フラグをゲストユーザに設定します。
   a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「デバッグログ」と入力し、[デバッグログ] をクリックします。
   b. [新規] をクリックします。
   c. [追跡対象エンティティ種別] を [ユーザ] に設定します。
   d. [追跡対象エンティティ名のルックアップ] 項目を開き、ゲストユーザを見つけて選択します。
   e. デバッグレベルを追跡フラグに割り当てます。
   f. [保存] をクリックします。

開発者コンソール

開発者コンソールの新機能を使用して、組織でコードをより簡単に管理します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

このセクションの内容:

テストスイートの名前変更と編集の簡素化
テストスイートマネージャの新しい [スイートの名称変更] ボタンを使用して、テストスイートの名前変更を開発者コンソール内で実行できるようになりました。テストスイート名をダブルクリックして編集することもできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

テストスイートの名前変更と編集の簡素化

テストスイートマネージャの新しい [スイートの名称変更] ボタンを使用して、テストスイートの名前変更を開発者コンソール内で実行できるようになりました。テストスイート名をダブルクリックして編集することもできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

AppExchange: 統合エクスペリエンスの導入

統合 AppExchange エクスペリエンスを Salesforce 組織で使用できるようになりました。統合エクスペリエンスによって、数千ものアプリケーション、Lightning コンポーネント、およびコンサルティングサービスリストの参照や検索を組織から直接実行できます。世界をリードするビジネスアプリケーションマーケットプレイスから安全な事前作成済みソリューションへの接続がかつてなく簡単になりました。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

このセクションの内容:

AppExchange と Salesforce 組織がついに統合
Trailhead と言えば Astro 社、Dreamforce と言えば基調講演会場での自撮りなど、お馴染みの組み合わせがあります。さらにぴったりの組み合わせが導入されました。AppExchange と Salesforce です。組織を離れることなく、アプリケーション、コンポーネント、その他の AppExchange サービスをインストールできるようになりました。

AppExchange と Salesforce 組織がついに統合

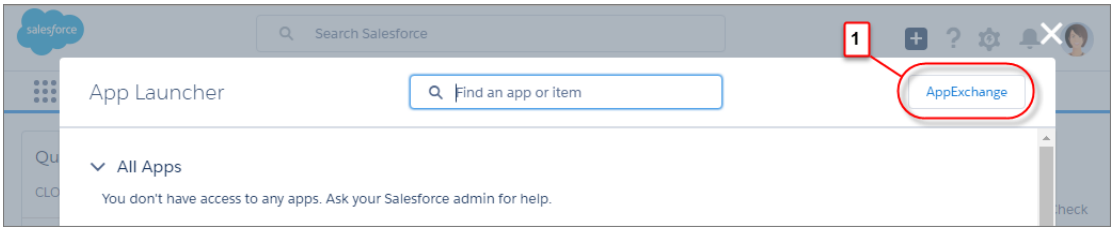
Trailhead と言えば Astro 社、Dreamforce と言えば基調講演会場での自撮りなど、お馴染みの組み合わせがあります。さらにぴったりの組み合わせが導入されました。AppExchange と Salesforce です。組織を離れることなく、アプリケーション、コンポーネント、その他の AppExchange サービスをインストールできるようになりました。

統合 AppExchange エクスペリエンスを開くには、アプリケーションランチャーに移動し、**[AppExchange]** をクリックします (1)。

メモ: アプリケーションランチャーから統合エクスペリエンスにアクセスするには、「AppExchange パッケージのダウンロード」権限が必要です。

エディション

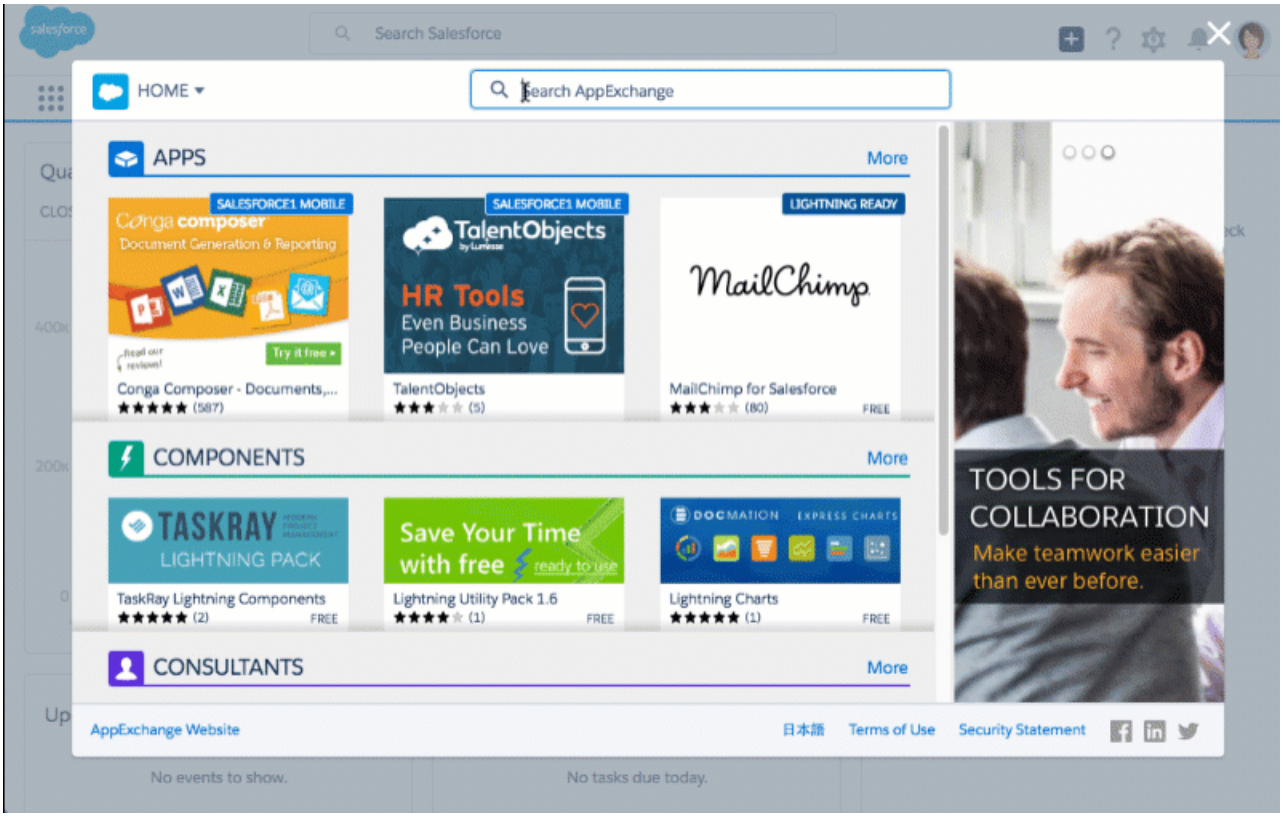
使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



ここから、次の操作が可能です。

- 数千ものアプリケーション、コンポーネント、およびコンサルティングサービスリストの参照
- 並び替えと絞り込みを使用してビジネス要件に合うアプリケーションのみを表示
- 製品のスクリーンショットとドキュメント、さらに Salesforce コミュニティメンバーによる評価とレビューを表示
- トライアルまたは登録の一部として組織にパッケージをインストール

次の例では、検索と絞り込みを使用して Lightning 互換の導入アプリケーションをすばやく見つけます。



Lightningアプリケーションビルダーまたはコミュニティビルダーでカスタムソリューションを作成する場合、統合 AppExchange エクスペリエンスによって、次回のプロジェクトで使用するコンポーネントを簡単に見つけることができます。Lightning アプリケーションビルダーで統合エクスペリエンスを開くには、[Lightning コンポーネント] ペインに移動します。コミュニティビルダーでは、ページエディタに移動します。次に、**[AppExchange で追加コンポーネントを取得]** をクリックして、作成中のプロジェクトにプラグインできる一連のコンポーネントを参照できます。

レビューの作成やデモの視聴など、一部のAppExchange機能は、まだ統合エクスペリエンスで利用できません。これらの機能を今後のリリースで追加できるように鋭意努力中ですが、現時点では、AppExchange Web サイトが表示されます。

関連トピック:

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

カスタムメタデータ型: リレーション項目の更新、ローダの機能強化、削除したメタデータの管理

カスタムメタデータ型を使用することで、データだけでなくメタデータ型に基づいてアプリケーションを作成することができるため、以前よりも優れたアプリケーションを構築できます。リレーション項目のある関連レコードのビューのズーム、レコードの更新の促進、リレーション項目の簡単な削除や復元、参照されるカスタムオブジェクトに関するすべての情報の取得を実行できます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

Professional Edition 組織では、カスタムメタデータレコードのみをインストール済みパッケージの型から作成、編集、および削除できます。

このセクションの内容:

メタデータリレーション項目の完全サポート (正式リリース)
リストビューの結果にリンクとして表示される EntityDefinition へのメタデータリレーション項目
Custom Metadata Loader の機能強化
参照オブジェクトを削除するときのカスタムメタデータレコードの簡単な管理
メタデータリレーション項目のビューの検索条件の変更

メタデータリレーション項目の完全サポート (正式リリース)

カスタムメタデータ型のリレーション項目が本番環境で完全にサポートされます。メタデータリレーション項目を使用して、他のカスタムメタデータ型のレコードを検索します。これらは、アプリケーション設定データを含む別のカスタムオブジェクトのレコードを検索できる、カスタムオブジェクトの設定レコードのように機能します。ただし、これらはカスタムメタデータ型であるため、単なるビジネスデータではなく実際のアプリケーション設定データのように動作します。また、EntityDefinition (標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに関するメタデータへの行ベースのアクセスを提供するオブジェクト)を検索することもできます。

リストビューの結果にリンクとして表示される EntityDefinition へのメタデータリレーション項目

リレーション項目のあるリストビューを作成して、関連するカスタムメタデータレコード間を簡単に移動できるようになりました。このリストビューのあるカスタムメタデータレコードをクエリすると、参照オブジェクトまたはレコードの管理ページに移動するリンクとしてリレーション項目値が表示されます。以前は、リレーション項目で EntityDefinition を参照している場合、[設定] ツリーを移動して参照オブジェクトを見つける必要がありました。

Custom Metadata Loader の機能強化

Custom Metadata Loader を使用してカスタムメタデータ型の既存のレコードを更新できるようになりました。これまでは、新規レコードの一括読み込みしかできませんでした。

参照オブジェクトを削除するときのカスタムメタデータレコードの簡単な管理

カスタムメタデータレコードのリレーション項目で参照されるカスタムオブジェクトを削除しようとすると、[設定] でエラーが適切に返されます。また、参照しているカスタムメタデータレコードへのリンクも [設定]に表示されるようになりました。以前は、[設定]でレコードのテキストリストのみが表示され、手動で [設定] ツリーを移動して削除または更新する必要がありました。

メタデータリレーション項目のビューの検索条件の変更

カスタムメタデータレコードを検索するビューを作成するときに、メタデータリレーション項目の検索条件を定義できます。ただし、2つのケースについて、検索条件値を指定する方法がパイロットリリースから変更されました。

完全削除の前に — 削除したメタデータリレーション項目の復元

削除したカスタムメタデータ型のリレーション項目は、組織がそれらを完全に削除するまで、または削除後 15 日が経過するまで保存されるようになりました。それまでは、その項目を復元できます。参照オブジェクトが存在していればリレーション項目のデータも復元されます。この動作は、通常のカスタム項目と似ています。

SOQL でカスタムメタデータ型をクエリする場合の制限事項

このリリースには、カスタムメタデータ型への画期的な更新が含まれていますが、SOQL を使用してリレーション項目をクエリする場合はいくつかの制限もあります。

メタデータリレーション項目の完全サポート (正式リリース)

カスタムメタデータ型のリレーション項目が本番環境で完全にサポートされます。メタデータリレーション項目を使用して、他のカスタムメタデータ型のレコードを検索します。これらは、アプリケーション設定データを含む別のカスタムオブジェクトのレコードを検索できる、カスタムオブジェクトの設定レコードのように機能します。ただし、これらはカスタムメタデータ型であるため、単なるビジネスデータではなく実際のアプリケーション設定データのように動作します。また、EntityDefinition (標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに関するメタデータへの行ベースのアクセスを提供するオブジェクト) を検索することもできます。

リストビューの結果にリンクとして表示される EntityDefinition へのメタデータリレーション項目

リレーション項目のあるリストビューを作成して、関連するカスタムメタデータレコード間を簡単に移動できるようになりました。このリストビューのあるカスタムメタデータレコードをクエリすると、参照オブジェクトまたはレコードの管理ページに移動するリンクとしてリレーション項目値が表示されます。以前は、リレーション項目で EntityDefinition を参照している場合、[設定] ツリーを移動して参照オブジェクトを見つける必要がありました。

Custom Metadata Loader の機能強化

Custom Metadata Loader を使用してカスタムメタデータ型の既存のレコードを更新できるようになりました。これまでは、新規レコードの一括読み込みしかできませんでした。

ローダには、GitHub の新しいホームもあります。

参照オブジェクトを削除するときのカスタムメタデータレコードの簡単な管理

カスタムメタデータレコードのリレーション項目で参照されるカスタムオブジェクトを削除しようとすると、[設定] でエラーが適切に返されます。また、参照しているカスタムメタデータレコードへのリンクも [設定] に表示されるようになりました。以前は、[設定] でレコードのテキストリストのみが表示され、手動で [設定] ツリーを移動して削除または更新する必要がありました。

メタデータリレーション項目のビューの検索条件の変更

カスタムメタデータレコードを検索するビューを作成するときに、メタデータリレーション項目の検索条件を定義できます。ただし、2つのケースについて、検索条件値を指定する方法がパイロットリリースから変更されました。

パイロットリリースでは、[ルックアップ]アイコンをクリックして使用可能なオブジェクトを選択できましたが、使用可能なオブジェクトのリストが長いとルックアップウィンドウが使いづらくなるという欠点がありました。一貫性の確保と簡易化のために、検索条件値を手動で指定できるようになりました。

EntityDefinition リレーション項目で絞り込んで、特定のオブジェクトを参照するレコードを検索する

1. 子のメタデータリレーション項目を選択します。
2. 演算子を選択します。
3. 検索条件値に、参照オブジェクトのオブジェクト名を入力します。カスタムオブジェクトのオブジェクト名を検索するには、その [設定] 管理ページに移動します。標準オブジェクトの場合は、その API 参照名を使用します。

リレーション項目で絞り込んで、別のカスタムメタデータ型のレコードを参照するレコードを検索する

1. 子のメタデータリレーション項目を選択します。
2. 演算子を選択します。
3. 検索条件値に、親のレコードのカスタムメタデータ型の名前を入力します。カスタムメタデータレコードの名前を検索するには、その詳細ページに移動します。

完全削除の前に — 削除したメタデータリレーション項目の復元

削除したカスタムメタデータ型のリレーション項目は、組織がそれらを完全に削除するまで、または削除後15日が経過するまで保存されるようになりました。それまでは、その項目を復元できます。参照オブジェクトが存在していればリレーション項目のデータも復元されます。この動作は、通常のカスタム項目と似ています。

たとえば、カスタムメタデータレコード MyRecord を参照するリレーション項目 `MyRelField` のあるカスタムメタデータレコードがあるとします。`MyRelField` を削除してから MyRecord を削除します。`MyRelField` を復元すると、今削除した MyRecord を参照していたレコードの項目値は NULL になります。この動作は、EntityDefinition 種別のリレーション項目にも当てはまります。

SOQL でカスタムメタデータ型をクエリする場合の制限事項

このリリースには、カスタムメタデータ型への画期的な更新が含まれていますが、SOQLを使用してリレーション項目をクエリする場合はいくつかの制限もあります。

カスタムメタデータ型のリレーション項目では **ORDER BY** 句は使用できません。

SOQL と [設定] (または メタデータ API) のクエリの動作が異なる場合があります。

SOQL を使用してカスタムメタデータ型をクエリすると、アクセス権のあるオブジェクトを参照するレコードのみが結果に表示されます。ただし、[設定] 内の同じようなクエリやメタデータ API を使用すると、アクセスできないオブジェクトを参照するレコードを含む、すべての関連レコードが表示されます。

SOQL の制限は、カスタムメタデータ型をクエリする場合に適用されます。

EntityDefinition オブジェクトに対して結合クエリを実行する場合、クエリは Apex トランザクションの SOQL クエリの制限に対してカウントされます。ただし、別のカスタムメタデータ型に結合する場合、クエリは制限に対してカウントされません。

Apex コード

スタブ API により、上級開発者が独自のモックフレームワークを作成できます。プラットフォームキャッシュの診断メソッドと指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトの差し込み項目で特殊文字をエスケープする機能も追加されました。[Apex テスト履歴] ページには、開始日時とテスト実行で失敗したメソッドとキューに追加されたメソッドの数が表示されるようになりました。

これらの機能強化についての詳細は、*『Apex 開発者ガイド』* を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

このセクションの内容:

- Apex スタブ API を使用してモックフレームワークを作成 (パイロット)
- 診断メソッドを使用してプラットフォームキャッシュを監視
- 指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトの差し込み項目での特殊文字のエスケープ
- Apex テスト実行に関する詳細情報の表示
- 新規および変更された Apex クラス、例外、およびインターフェース
- ConnectApi (Chatter in Apex)

Apex スタブ API を使用してモックフレームワークを作成 (パイロット)

Apex では、スタブ API を使用して、独自のモックフレームワークが実装できるようになりました。実行時に Apex クラスの匿名サブクラスとして作成されるスタブオブジェクトの動作を定義できます。スタブ API は `System.StubProvider` インターフェースと `System.Test.createStub()` メソッドから構成されます。

診断メソッドを使用してプラットフォームキャッシュを監視

プラットフォームキャッシュで、キャッシュの使用状況を監視する新しいメソッドが使用できるようになりました。

指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトの差し込み項目での特殊文字のエスケープ

コードでは、差し込み項目を使用して、指定ログイン情報で定義されたエンドポイントへの Apex コールアウトの本文を作成できます。これらの差し込み項目では、`HTMLENCODE` 関数がサポートされるため、コールアウトの本文で差し込み項目のアンダースコア (_) やアンパサンド (&) などの特殊文字をエスケープできます。

Apex テスト実行に関する詳細情報の表示

[Apex テスト履歴] ページにテストの実行の開始日時が表示されるようになりました。また、状況列が更新されて、テスト実行で失敗したメソッドとキューに追加されたメソッドの数が表示されるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

新規および変更された Apex クラス、例外、およびインターフェース

次のクラス、例外、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

ConnectApi (Chatter in Apex)

Chatter in Apex を使用して、Salesforce のカスタムエクスペリエンスを創出します。このリリースで、投稿とコメントを不適切またはスパムとしてフラグ設定したり、コメントにリッチテキストやインライン画像を追加したりできるようになりました。また、記事やおすすめファイルをゲストユーザに提供するなどの機能も追加されています。

Apex スタブ API を使用してモックフレームワークを作成 (パイロット)

Apex では、スタブ API を使用して、独自のモックフレームワークが実装できるようになりました。実行時に Apex クラスの匿名サブクラスとして作成されるスタブオブジェクトの動作を定義できます。スタブ API は `System.StubProvider` インターフェースと `System.Test.createStub()` メソッドから構成されます。

メモ: Apex スタブ API は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。Apex スタブ API は変更される可能性があり、Salesforce が、ドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

モックフレームワークには多くの利点があります。テストを合理化し、改善できるため、より迅速で信頼性の高いテストを作成するのに役立ちます。クラスを分離してテストするために使用できます。これは単体テストを行う場合に重要です。スタブ API を使用してモックフレームワークを作成すると、スタブオブジェクトが実行時に生成されるという利点もあります。これらのオブジェクトは動的に生成されるため、テストクラスをパッケージ化してリリースする必要がありません。

Apex クラスのスタブバージョンを使用する手順は、次のとおりです。

- `System.StubProvider` インターフェースを実装してスタブクラスの動作を定義します。
- `System.Test.createStub()` メソッドを使用してスタブオブジェクトをインスタンス化します。
- テストクラス内からスタブオブジェクトの該当するメソッドを呼び出します。

メモ: この機能は、上級 Apex 開発者向けです。使用するには、単体テストとモックフレームワークを完全に理解している必要があります。モックフレームワークは手に負えないと考えている場合は、先へと読み進む前にすこし準備が必要な場合があります。

診断メソッドを使用してプラットフォームキャッシュを監視

プラットフォームキャッシュで、キャッシュの使用状況を監視する新しいメソッドが使用できるようになりました。

新しい Apex メソッドにより、組織キャッシュ、セッションキャッシュ、およびパーティションの次の値を監視できます。

- 平均取得時間
- 平均項目サイズ
- 最大取得時間
- 最大項目サイズ
- キーのミス率
- キーの合計数

指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトの差し込み項目での特殊文字のエスケープ

コードでは、差し込み項目を使用して、指定ログイン情報で定義されたエンドポイントへの Apex コールアウトの本文を作成できます。これらの差し込み項目では、HTMLENCODE 関数がサポートされるため、コールアウトの本文で差し込み項目のアンダースコア (_) やアンパサンド (&) などの特殊文字をエスケープできます。

HTMLENCODE は、既存の数式関数です。他の数式関数はサポートされておらず、HTTP ヘッダー内の差し込み項目では HTMLENCODE を使用できません。

例: 次の例では、ログイン情報内の特殊文字をエスケープしています。

```
req.setBody('UserName:{!HTMLENCODE($Credential.Username)}')
req.setBody('Password:{!HTMLENCODE($Credential.Password)}')
```

関連トピック:

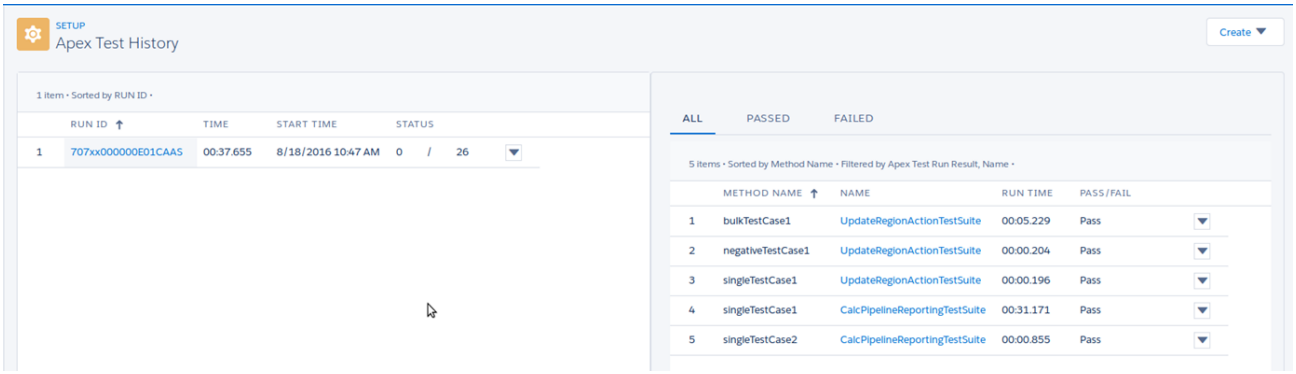
Salesforce ヘルプ: 指定ログイン情報

Apex 開発者ガイド: 指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトの差し込み項目

Apex テスト実行に関する詳細情報の表示

[Apex テスト履歴] ページにテストの実行の開始日時が表示されるようになりました。また、状況列が更新されて、テスト実行で失敗したメソッドとキューに追加されたメソッドの数が表示されるようになりました。この機能は、Lightning Experience でのみ使用できます。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに *Apex* と入力し、**[Apex テスト履歴]** を選択して組織のすべてのテスト実行結果を表示します。テスト結果は、クリアされない限り実行終了後 30 日間残ります。



新規および変更された Apex クラス、例外、およびインターフェース

次のクラス、例外、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

このセクションの内容:

新規 Apex クラス

今回のリリースでこれらのクラスが導入されました。

変更された Apex クラス

次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

新規 Apex 例外

この例外は今回のリリースで導入されました。

新しい Apex インターフェース

このインターフェースは今回のリリースで導入されました。

新規 Apex クラス

今回のリリースでこれらのクラスが導入されました。

Auth 名前空間のクラス

JWS クラス

新しい `Auth.JWS` クラスには、デジタル署名を JSON Web 署名 (JWS) データ構造を使用して、JSON Web トークン (JWT) に適用するメソッドが含まれます。このクラスでは、署名済み JWT ベアラートークンが作成され、このトークンは OAuth 2.0 JWT ベアラートークンフローで OAuth アクセストークンの要求に使用できます。

clone()
JWS オブジェクトの重複コピーを作成します。

getCompactSerialization()
ピリオド (「.」) 文字で区切った、エンコード済みの JWS ヘッダー、JWS ペイロード、JWS 署名文字列を含む連結文字列で、JWS のコンパクトな逐次化表現を返します。

JWT クラス

新しい `Auth.JWT` クラスには、JSON Web トークン (JWT) に JSON 要求セットを生成するメソッドが含まれます。結果の Base64 エンコード済みペイロードを引数として渡して `Auth.JWS` クラスのインスタンスを作成できます。

clone()
JWT オブジェクトの重複コピーを作成します。

getAdditionalClaims()
キー文字列には要求の名前が、値には要求の値が含まれている JWT の追加要求の対応付けを返します。

getAud()
JWT の対象受信者を特定する利用者要求を返します。

getIss()
JWT の発行者を特定する発行者要求を返します。

getNbfClockSkew()
クロックスキューに余裕を与える、JWT の処理を受け入れ不可にするまでの時間を特定する猶予時間要求を返します。

getSub()
JWT の現在のユーザを特定する対象ユーザ要求を返します。

getValidityLength()
JWT の有効期間を返します。この期間は有効期限要求に影響を与えます。

setAdditionalClaims(additionalClaims)
JWT の追加要求を設定します。getAdditionalClaims() メソッドから返されます。

setAud(aud)
JWT の利用者要求を設定します。getAud() メソッドから返されます。

setIss(iss)
JWT の発行者要求を設定します。getIss() メソッドから返されます。

setNbfClockSkew(nbfClockSkew)
JWT の猶予時間要求を設定します。getNbfClockSkew() メソッドから返されます。

setSub(sub)
JWT の対象ユーザ要求を設定します。getSub() メソッドから返されます。

setValidityLength(validityLength)
JWTの有効期間を設定します。この期間は有効期限要求に影響を与えます。getValidityLength() メソッドから返されます。

toJSONString()
エンコード済み JWT ペイロードとして要求セットの JSON オブジェクト表現を生成します。

JWTBearerTokenExchange クラス
新しい Auth.JWTBearerTokenExchange クラスには、署名済み JWT ベアラートークンをトークンエンドポイントに POST して、OAuth 2.0 JWT ベアラートークンフローでアクセストークンを要求するメソッドが含まれます。

clone()
JWTBearerTokenExchange オブジェクトの重複コピーを作成します。

getAccessToken()
JWT ベアラートークン要求へのトークン応答で access_token を返します。

getGrantType()
JWT ベアラートークン要求で指定された許可種別を返します。許可種別の値は、デフォルトの urn:ietf:params:oauth:grant-type:jwt-bearer に設定されます。

getHttpResponse()
JWT ベアラートークン要求への完全 System.HttpResponse トークン応答を返します。

getJWS()
JWT ベアラートークン要求で指定された JWS を返します。

getTokenEndpoint()
JWT ベアラートークン要求が POST されるトークンエンドポイントを返します。

setGrantType(grantType)
JWT ベアラートークン要求の許可種別を設定します。getGrantType() メソッドから返されます。

setJWS(jws)
JWT ベアラートークン要求の JWS を設定します。getJWS() メソッドから返されます。

setTokenEndpoint(tokenEndpoint)
JWTベアラートークン要求がPOSTされるトークンエンドポイントを設定します。getTokenEndpoint() メソッドから返されます。

変更された Apex クラス

次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

Cache.Org クラス

新しいメソッド

getAvgGetTime()
組織キャッシュからのキーの取得に要した平均時間 (ナノ秒) を返します。

getAvgValueSize()
組織キャッシュのキーの平均項目サイズ (バイト) を返します。

getMaxGetTime()
組織キャッシュからのキーの取得に要した最大時間 (ナノ秒) を返します。

getMaxValueSize()
組織キャッシュのキーの最大項目サイズ (バイト) を返します。

getMissRate()
組織キャッシュのミス率を返します。

getNumKeys()
組織キャッシュのキーの合計数を返します。

Cache.Partition クラス

新しいメソッド

getAvgGetTime()
パーティションからのキーの取得に要した平均時間 (ナノ秒) を返します。

getAvgValueSize()
パーティションのキーの平均項目サイズ (バイト) を返します。

getMaxGetTime()
パーティションからのキーの取得に要した最大時間 (ナノ秒) を返します。

getMaxValueSize()
パーティションのキーの最大項目サイズ (バイト) を返します。

getMissRate()
パーティションのミス率を返します。

getNumKeys()
パーティションのキーの合計数を返します。

Cache.Session クラス

新しいメソッド

getAvgGetTime()
セッションキャッシュからのキーの取得に要した平均時間 (ナノ秒) を返します。

getAvgValueSize()
セッションキャッシュのキーの平均項目サイズ (バイト) を返します。

getMaxGetTime()
セッションキャッシュからのキーの取得に要した最大時間 (ナノ秒) を返します。

getMaxValueSize()
セッションキャッシュのキーの最大項目サイズ (バイト) を返します。

getMissRate()
セッションキャッシュのミス率を返します。

getNumKeys()
セッションキャッシュのキーの合計数を返します。

QuickAction.DescribeLayoutSection クラス

新しいメソッド

getLayoutSectionId()
レイアウトのレコード詳細セクションの ID を返します。

isCollapsed()
レコード詳細セクションが折りたたまれているか (`true`)、展開されているか (`false`) を示します。独自のアプリケーションを作成する場合は、このメソッドを使用して現在のユーザがセクションを折りたたんだかどうかを確認し、その設定を独自の UI で考慮できます。

新しいプロパティ

collapsed
レコード詳細セクションの現在のビュー:折りたたまれているか (`true`)、展開されているか (`false`)。

layoutsectionid
レイアウトのレコード詳細セクションの一意の ID。

QuickAction.DescribeQuickActionResult クラス

新しいメソッド

getLightningComponentBundleId()
カスタムアクションが Lightning コンポーネントを呼び出す場合、そのコンポーネントが属する Lightning コンポーネントバンドルの ID を返します。

getLightningComponentBundleName()
カスタムアクションが Lightning コンポーネントを呼び出す場合、そのコンポーネントが属する Lightning コンポーネントバンドルの名前を返します。

getLightningComponentQualifiedName()
カスタムアクションが Lightning コンポーネントを呼び出す場合、そのカスタムアクションが呼び出す Lightning コンポーネントの完全修飾名を返します。

getShowQuickActionLcHeader()
Lightning コンポーネントのクイックアクションヘッダーとフッターが表示されるかどうかを返します。

新しいプロパティ

lightningcomponentbundleid
カスタムアクションが Lightning コンポーネントを呼び出す場合、そのコンポーネントが属する Lightning コンポーネントバンドルの ID。

lightningcomponentbundlename
カスタムアクションが Lightning コンポーネントを呼び出す場合、そのコンポーネントが属する Lightning コンポーネントバンドルの名前。

lightningcomponentqualifiedname
カスタムアクションが呼び出す Lightning コンポーネントの完全修飾名。

showquickactionlcheader
Lightning コンポーネントのクイックアクションヘッダーとフッターが表示されるかどうかを示します。`false` の場合は、クイックアクションのタイトルが含まれるヘッダーと、[保存] および [キャンセル] ボタンが含まれるフッターの両方が非表示になります。

Schema.DescribeSobjectResult クラス

新しいメソッド

getHasSubtypes()
オブジェクトにサブタイプがあるかどうかを示します。`true` を返すのは、サブタイプ PersonAccount がある取引先オブジェクトのみです。

新しいプロパティ

hassubtypes
オブジェクトにサブタイプがあるかどうかを示します。`true` を返すのは、サブタイプ PersonAccount がある取引先オブジェクトのみです。

System.System クラス

新しいメソッド

movePassword(targetUserId,sourceUserId)
指定したユーザのパスワードを他のユーザに移動します。このメソッドにアクセスする必要がある場合は、Salesforce に問い合わせます。

System.Test クラス

新しいメソッド

createStub(parentType, stubProvider) (パイロット)
テストに使用できる Apex クラスのスタブバージョンを作成します。このメソッドは Apex スタブ API に含まれます。`System.StubProvider` インターフェースで使用してモックフレームワークを作成できます。

新規 Apex 例外

この例外は今回のリリースで導入されました。

Auth 名前空間

Auth.JWTBearerTokenExchange.JWTBearerTokenExchangeException
JWTBearerTokenExchange クラスのトークンエンドポイントからの応答で発生した問題を示します。OAuth 2.0 JWT ベアラートークンフロー中に HTTP 応答が次の状況になった場合に、この例外が発生します。

- アクセストークンを返すことに失敗した。
- JSON 形式ではない。
- 「OK」成功コード 200 以外の応答コードを返した。

新しい Apex インターフェース

このインターフェースは今回のリリースで導入されました。

StubProvider インターフェース (パイロット)

`StubProvider` はコールバックインターフェースで、Apex スタブ API の一部として使用し、モックフレームワークを実装できます。`Test.createStub()` メソッドでこのインターフェースを使用し、テスト用にスタブ Apex オブジェクトを作成します。

`handleMethodCall(stubbedObject, stubbedMethodName, returnType, listOfParamTypes, listOfParamNames, listOfArgs)`

このメソッドを使用してスタブクラスの各メソッドの動作を定義します。

ConnectApi (Chatter in Apex)

Chatter in Apex を使用して、Salesforce のカスタムエクスペリエンスを創出します。このリリースで、投稿とコメントを不適切またはスパムとしてフラグ設定したり、コメントにリッチテキストやインライン画像を追加したりできるようになりました。また、記事やおすすめファイルをゲストユーザに提供するなどの機能も追加されています。

`ConnectApi` 名前空間の Apex クラスでは多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の `ConnectApi` クラスが使用されます。`ConnectApi` 名前空間は、*Chatter in Apex* と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、`ConnectApi` クラスでは Chatter データがより単純な方法で公開されます。データは、表示用にローカライズされ、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、多くのコールではなく 1 回のコールで行うことができます。

メモ: モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Chatter やコミュニティに統合するには、Chatter REST API を使用します。

このセクションの内容:

新規および変更された Chatter in Apex クラス
新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス
新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス
新規および変更された Chatter in Apex Enum

新規および変更された Chatter in Apex クラス

コミュニティモデレーション

これらのメソッドは、`ConnectApi.CommunityModeration` クラスに含まれます。

投稿に不適切またはスパムとしてフラグ付けし、メモを追加する

- `addFlagToFeedElement(communityId, feedElementId, type)` — 指定されたタイプのモデレーションフラグをフィード要素に追加します。

- `addFlagToFeedElement(communityId, feedElementId, note)` — モデレーションフラグとメモをフィード要素に追加します。
- `addFlagToFeedElement(communityId, feedElementId, type, note)` — 指定されたタイプのモデレーションフラグとメモをフィード要素に追加します。
- `addFlagToFeedElement(communityId, feedElementId, type, visibility)` — 指定されたタイプおよび表示設定のモデレーションフラグをフィード要素に追加します。
- `addFlagToFeedElement(communityId, feedElementId, visibility, note)` — 指定された表示設定のモデレーションフラグとメモをフィード要素に追加します。
- `addFlagToFeedElement(communityId, feedElementId, type, visibility, note)` — 指定されたタイプおよび表示設定のモデレーションフラグとメモをフィード要素に追加します。

コメントに不適切またはスパムとしてフラグ付けし、メモを追加する

- `addFlagToComment(communityId, commentId, type)` — 指定されたタイプのモデレーションフラグをコメントに追加します。
- `addFlagToComment(communityId, commentId, note)` — モデレーションフラグとメモをコメントに追加します。
- `addFlagToComment(communityId, commentId, type, note)` — 指定されたタイプのモデレーションフラグとメモをコメントに追加します。
- `addFlagToComment(communityId, commentId, type, visibility)` — 指定されたタイプおよび表示設定のモデレーションフラグをコメントに追加します。
- `addFlagToComment(communityId, commentId, visibility, note)` — 指定された表示設定のモデレーションフラグとメモをコメントに追加します。
- `addFlagToComment(communityId, commentId, type, visibility, note)` — 指定されたタイプおよび表示設定のモデレーションフラグとメモをコメントに追加します。

Chatter フィード

これらのメソッドは、`ConnectApi.ChatterFeeds` クラスに含まれます。

コメントにリッチテキストを追加する

既存の `ConnectApi.MarkupBeginSegmentInput` および `ConnectApi.MarkupEndSegmentInput` クラスを指定して、既存の `postCommentToFeedElement(communityId, feedElementId, comment, feedElementFileUpload)` メソッドを使用します。

バージョン 35.0 以降では、リッチテキストとインライン画像がコメント本文でサポートされます。

コメントにインライン画像を追加する

既存の `ConnectApi.InlineImageSegmentInput` クラスを指定して、既存の `postCommentToFeedElement(communityId, feedElementId, comment, feedElementFileUpload)` メソッドを使用します。

バージョン 35.0 以降では、リッチテキストとインライン画像がコメント本文でサポートされます。

ID ではなくユーザ名でユーザにメンションする

更新された `ConnectApi.MentionSegmentInput` クラスを指定して、既存の `postFeedElement(communityId, feedElement)` メソッドを使用します。

コメントの承認または状況を確認待機中に設定する
既存の `ConnectApi.StatusCapabilityInput` クラスを指定して、新しい `setFeedCommentStatus(communityId, commentId, status)` メソッドを使用します。

フィード投稿またはコメントの状況を設定できるのは、「フィード投稿とコメントの承認」権限のあるユーザのみです。

フィード投稿の状況を確認待機中に設定する
既存の `ConnectApi.StatusCapabilityInput` クラスを指定して、既存の `setFeedEntityStatus(communityId, feedElementId, status)` メソッドを使用します。

フィード投稿またはコメントの状況を設定できるのは、「フィード投稿とコメントの承認」権限のあるユーザのみです。

管理トピック

このメソッドは、`ConnectApi.ManagedTopics` クラスにあります。

トピックのリストに関連付けられた管理トピックを取得する
新しい `getManagedTopics(communityId, managedTopicType, recordIds, depth)` メソッドを使用します。`recordIds` は最大 10 個のトピック ID から成るリストです。

重要: バージョン 38.0 以降では、`getManagedTopics(communityId, managedTopicType, recordId, depth)` はサポートされません。代わりに新しいメソッドを使用してください。

おすすめ

これらのメソッドは、`ConnectApi.Recommendations` クラスに含まれます。

記事とファイルのおすすめをゲストユーザが使用できるようにする
コミュニティでログインなしのアクセスが許可されている場合、次のメソッドはゲストユーザ向けの記事とファイルのおすすめのみを返します。

- `getRecommendationsForUser(communityId, userId, contextAction, contextObjectId, channel, maxResults)`
- `getRecommendationsForUser(communityId, userId, action, contextAction, contextObjectId, channel, maxResults)`
- `getRecommendationsForUser(communityId, userId, action, objectCategory, contextAction, contextObjectId, channel, maxResults)`

新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス

Chatter フィード

`ConnectApi.FeedElementCapabilitiesInput`
この新しい `topics` プロパティは、フィード要素に割り当てるトピックのリストです。

`ConnectApi.MentionSegmentInput`
この新しい `username` プロパティは、メンションするユーザのユーザ名です。

ConnectApi.TopicsCapabilityInput
この新しい入力クラスは、ConnectApi.FeedElementCapabilityInput のサブクラスです。次のプロパティがあります。

- contextTopicName — フィード要素が属する、コミュニティの親トピックの名前。
- topics — フィード要素に割り当てるトピックのリスト。

トピック

ConnectApi.TopicsCapabilityInput
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- contextTopicName — フィード要素が属する、コミュニティの親トピックの名前。
- topics — フィード要素に割り当てるトピックのリスト。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

Chatter フィード

ConnectApi.CommentCapabilities
この新しい status プロパティは、コメントに表示を決定する状況が設定されているかどうかを示します。

ConnectApi.CommentPage
total プロパティは公開されたコメントの合計数です。

ConnectApi.RelatedQuestion
この新しい interactions プロパティは、関連質問が表示、いいね!、またはコメントされた回数です。

ConnectApi.SocialAccount
この新しい externalSocialAccountId プロパティは、外部ソーシャルアカウントの ID です (使用可能な場合)。

ConnectApi.SocialPostCapability
このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- deletedBy — ソーシャル投稿を削除したユーザ。
- messageType — ソーシャル投稿のメッセージ種別。値は次のとおりです。
  - Comment
  - ダイレクト
  - Post
  - PrivateMessage
  - Reply
  - リツイート
  - ツイート
- recipientId — ソーシャル投稿の受信者の ID。

ナレッジ

ConnectApi.ArticleSummary
この新しい `viewCount` プロパティは、ナレッジ記事が表示された回数です。

メッセージ

ConnectApi.EmailMessageCapability
この新しい `totalAttachments` プロパティは、メールメッセージの添付ファイルの総数です。

新規および変更された Chatter in Apex Enum

これらの Enum についての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

ConnectApi.CommunityFlagType
この新しい Enum は、モデレーションフラグのタイプを指定します。

- `FlagAsInappropriate` — 不適切なコンテンツのフラグ。
- `FlagAsSpam` — スパムのフラグ。

ConnectApi.FeedSortOrder
新しい `Relevance` 値は、最も関連性の高いコンテンツで並び替えられたフィードを指定します。この並び替え順は、カスタマーサービス (Napili) テンプレートを使用したコミュニティのナビゲーション階層内にある、トピックが指定された質問にのみ使用できます。

ConnectApi.SocialPostMessageType
この新しい Enum は、ソーシャル投稿のメッセージ種別を指定します。

- `Comment`
- `Direct`
- `Post`
- `PrivateMessage`
- `Reply`
- `Retweet`
- `Tweet`

Lightning コンポーネント: アクション、イベント、スタイル、セキュリティ

Lightning コンポーネントフレームワークによって、Lightning Experience と Salesforce1 が強化されます。このフレームワークを使用すると、Lightning Experience、Salesforce1、Salesforce Classic、およびコミュニティで、モバイルアプリケーションやページを構築できます。このリリースの機能強化は、カスタムアクションによる Lightning Experience および Salesforce1 のカスタマイズ、洗練されたイベントバブルモデル、Lightning Design System へのアクセスの改善に重点を置いています。これには、すでにお知らせしたセキュリティの変更 (LockerService の機能強化の遅延など) も含まれます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

すぐに使えるコンポーネントを使用するか、JavaScript、HTML、CSS、Apex、その他の Web 対応コードを使用して独自のコンポーネントを構築します。

AppExchange for Components では、Salesforce パートナーが作成したコンポーネントをインストールしたり、独自のコンポーネントを公開したりすることができます。

詳細は、*『Lightning コンポーネント開発者ガイド』*を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

UI を使用して Lightning コンポーネントを作成するエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、または Sandbox。

このセクションの内容:

Lightning 基本コンポーネントの概要
Lightning 基本コンポーネントは、最新の Lightning Experience、Salesforce1、および Lightning Communities ユーザインターフェースを構成するビルディングブロックです。

Lightning Data Service の概要 (開発者プレビュー)
Lightning Data Service を使用すると、Apex コードを必要とせずに、コンポーネントでレコードの読み込み、作成、編集、削除ができます。Lightning Data Service は、共有ルールと項目レベルセキュリティを処理します。Apex を必要としないだけでなく、Lightning Data Service はパフォーマンスとユーザインターフェースの一貫性を改善します。

カスタムアクション用に Lightning コンポーネントを有効化
`force:lightningQuickAction` または `force:lightningQuickActionWithoutHeader` インターフェースを Lightning コンポーネントに追加し、Lightning Experience または Salesforce1 でカスタムアクションとして使用できるようにします。これらのインターフェースのいずれかを実装するコンポーネントを Lightning Experience と Salesforce1 の両方でオブジェクト固有のアクションとして使用できます。Salesforce1 でのみこれらのコンポーネントをグローバルアクションとして使用できます。

アクセス権チェック違反の適用
アクセス権チェックの適用は Summer '16 の重要な更新でした。この更新は 2016 年 10 月 15 ～ 19 日のどこかですべての組織に適用されます。Lightning リソースのアクセス権チェックの適用改善により、コンポーネント作成者は、コンポーネントの使用方法をより詳細に制御できます。

LockerService の重要な更新は延期

LockerService は、Lightning コンポーネントの強力なセキュリティアーキテクチャで、Summer '16 の重要な更新でした。この重要な更新は、Winter '17 で自動的に有効になるようにスケジュールされました。この自動有効化日付が Summer '17 まで延期されました。

すべての組織で LockerService の重要な更新を切り替え可能

これまで、一部の組織では Salesforce に連絡しないと、重要な更新を無効化することができませんでした。重要な更新が Summer '17 まで延長されてから、このプロセスが簡略化され、これらの組織で重要な更新を無効化できるようになりました。Lightning コンポーネントの設定ページの新しい設定では、管理パッケージからインストールしたコンポーネントで LockerService を適用するかどうかを制御できます。既存の組織の LockerService の適用に関する動作の変更はありません。

バブルアップしていく前のキャプチャイベント

Lightning コンポーネントフレームワークで、コンポーネントおよびアプリケーションイベントの新しいキャプチャフェーズがサポートされるようになりました。以前のフレームワークでは、コンポーネントイベントのバブルフェーズのみがサポートされていました。フレームワークでアプリケーションイベントのバブルフェーズもサポートされるようになりました。これらのフェーズは DOM の処理パターンと似ており、対象のコンポーネントがイベントに対応したり、場合によっては後続のハンドラの動作を制御したりできます。

コンテナコンポーネントでのバブルイベントの処理

他のコンポーネントが含まれているが、それらのコンポーネントの所有者ではないコンポーネントがあります。これらのコンポーネントは、コンテナコンポーネントと呼ばれます。コンテナコンポーネントでキャプチャイベントまたはバブルイベントを処理できるようになりました。この機能により、動的コンテンツ関連のイベント処理動作を提供するラッパーコンポーネントを使用して、新しいパターンのコンポーネントの設計、構成、および再利用ができるようになりました。

動的に作成されたコンポーネントのイベントの適切な伝達

Winter '17 より前では、`$A.createComponent()` を使用してプログラムでコンポーネントを作成すると、イベントがコンポーネントのコンテインメント階層に伝達されませんでした。このバグは、イベントが起動されるコンポーネントがマークアップで作成されたのか、コードで作成されたのかによってイベント伝達動作に違いがあったことを意味します。Winter '17 では、イベント伝達動作が修正され、コードでプログラム的に作成されたコンポーネントがマークアップで宣言的に作成されたコンポーネントと同じように動作します。

Lightning アプリケーションでの Lightning Design System の使用

Lightning Design System を使用して Lightning アプリケーションのスタイルを設定します。これを行うには、`force:slds` を拡張するか、静的リソースを使用します。Salesforce Lightning Design System では、Lightning Experience と一貫性のあるデザインを作成できます。Lightning Design System スタイルを使用すれば、標準のスタイルをリバースエンジニアリングしなくても Salesforce と一貫性のある UI をカスタムアプリケーションに設定できます。

Lightning Out および Lightning Components for Visualforce の Lightning Design System を使用した一貫性のあるデザインの作成

Lightning Design System が、Lightning Out および Lightning Components for Visualforce アプリケーションに自動的に追加されるようになりました。Lightning Design System では、Lightning Experience と一貫性のあるデザインを作成できます。

カスタム Lightning コンポーネントを特定のオブジェクトに制限

Lightningページで使用するように設計されたカスタムLightningコンポーネントバンドルがある場合、新しい `<sfdc:object>` タグセットを.design ファイルに追加し、コンポーネントを特定のオブジェクトに制限します。

Lightning コンポーネントから別のコンポーネントへの移動 (ベータ)

`force:navigateToComponent` イベントにより、Salesforce1 および Lightning Experience 内で簡単に別のコンポーネントに移動できます。

Salesforce Lightning インスペクタを使用した Lightning コンポーネントの高速で簡単なデバッグ

より多くの製品エリアからコンポーネントの説明を取得したり、トランザクションをグラフィカルに表示したり、イベントコールスタックを確認したり、より多くの言語で Salesforce Lightning Inspector デベロッパーツール拡張機能を取得したりできます。

新規追加または変更された Lightning コンポーネント

コンポーネントは、アプリケーションを迅速に作成するのに役立ちます。これらはLightningアプリケーションまたは Salesforce1 で使用します。

新しい Lightning イベント

イベントにより、コンポーネントにインタラクションのレイヤが追加されます。

Lightning 基本コンポーネントの概要

Lightning 基本コンポーネントは、最新の Lightning Experience、Salesforce1、および Lightning Communities ユーザインターフェースを構成するビルディングブロックです。

Lightning 基本コンポーネントには Lightning Design System のマークアップとクラスが組み込まれており、最小のフットプリントでパフォーマンスとアクセシビリティの向上を提供します。

これらの基本コンポーネントは、HTML と CSS の詳細を処理します。各コンポーネントには、スタイルのバリエーションを有効にする簡単な属性が用意されています。つまり、通常はCSSを使用する必要はまったくありません。Lightning基本コンポーネント属性の簡素化と、その属性の無駄がなく一貫性のある定義によって属性が使いやすくなり、ビジネスロジックに集中できます。

Lightning 基本コンポーネントを `lightning` 名前空間で検索し、既存の `ui` 名前空間コンポーネントを補完できます。一致する `ui` と `lightning` 名前空間コンポーネントがある場合は、`lightning` 名前空間コンポーネントを使用することをお勧めします。`lightning` 名前空間コンポーネントは、一般的な使用事例に合うように最適化されています。Lightning Design System のスタイル設定が装備されているコンポーネントの範囲を超えると、アクセシビリティ、リアルタイム操作、および拡張エラーメッセージが処理されます。

後続のリリースでは、追加の Lightning 基本コンポーネントを提供することを目的としています。やがて `lightning` 名前空間が `ui` 名前空間と同等になり、超えることが想定されています。

また、Lightning 基本コンポーネントは時間と共に Lightning Design System に合わせて進化します。これにより、カスタマイズは引き続き Lightning Experience と Salesforce1 に一致します。

メモ: このリリースには、いくつかのコンポーネントのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。この機能は、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

次のコンポーネントが新規追加されました。

lightning:badge
未読通知の数など、少量の情報を保持する表示ラベル。

lightning:button
ボタン要素。ボタンは表示ラベルのみ、表示ラベルとアイコン、ボディのみ、ボディとアイコンのいずれかにすることができます。

lighting:buttonGroup
一連のボタンを表します。そのボタンを一緒に表示してナビゲーションバーを作成できます。

lightning:buttonIcon
アイコンのみの HTML ボタン。

lightning:buttonMenu (ベータ)
クリックするとアクションのドロップダウンメニューが表示されるボタンを表します。

lightning:card
情報のグループ化の周囲に、スタイル設定されたコンテナを適用します。情報は、1つの項目の場合もあれば、関連リストなど項目のグループの場合もあります。

lightning:formattedDateTime (ベータ)
書式設定された日付と時刻を表示します。

lightning:formattedNumber (ベータ)
小数、通貨、およびパーセントの書式設定された数値を表示します。

lighting:icon
コンテキストを提供して使いやすくするビジュアル要素。アイコンは、別のコンポーネントのボディの内部で使用するか単独で使用できます。

lightning:input (ベータ)
type 属性に応じてユーザ入力を受け入れる対話型コントロールを表します。

lightning:layout
ページ上でコンテナを配置するための反応型グリッドシステムを表します。

lightning:layoutItem
`lightning:layout` 内の項目。

lightning:menuItem (ベータ)
`lightning:buttonMenu` ドロップダウンコンポーネント内のメニュー項目を表します。

lightning:select
HTML `select` 要素を作成します。

lightning:spinner
アニメーション化されたスピナーを表します。

lightning:tab (ベータ)
`lightning:tabset` コンポーネントでネストされる、1 つのタブを表します。

lightning:tabset (ベータ)
コンテンツ領域が複数ある、タブ付きコンテナを表示します。

lightning:textarea
複数のテキスト入力を表します。

変更されたコンポーネント

初期リリース以降、次のコンポーネントが変更されました。

lightning:button

次の属性が新規追加されました。

- `name` — ボタン要素の名前。この値は省略可能であり、コールバック内でボタンを識別するために使用できます。
- `value` — ボタン要素の値。この値は省略可能であり、フォームの送信時に使用できます。

lightning:card

`compact` バリエーションのサポートは終了しました。

lightning:buttonIcon

次の属性が新規追加されました。

- `name` — ボタン要素の名前。この値は省略可能であり、コールバック内でボタンを識別するために使用できます。
- `value` — ボタン要素の値。この値は省略可能であり、フォームの送信時に使用できます。

lightning:buttonMenu

次の属性が新規追加されました。

- `menuAlignment` — ボタンを基準にして、メニューの位置を決めます。使用できるオプションは、`left`、`center`、`right` です。この値のデフォルトは `left` です。
- `name` — ボタン要素の名前。この値は省略可能であり、コールバック内でボタンを識別するために使用できます。
- `value` — ボタン要素の値。この値は省略可能であり、フォームの送信時に使用できます。

次の属性が変更されました。

- `onSelect` — この属性名は `onselect` に変更されました。
- `size` — この属性の名前は `iconSize` に変更されました。

選択されたメニュー項目を判断する式は、`event.detail.target` から `event.detail.menuItem` に変更されました。

lightning:input

次の属性が変更されました。

- `checked` 属性値のデフォルトは `false` になりました。
- `step` 属性は `Decimal` 型から `Object` に変更されました。この属性では、ユーザの入力で float 値を許可する値として `any` がサポートされることになりました。

lightning:tabset

`onSelect` 属性名は `onselect` に変更されました。選択されたタブを判断する式は、`event.detail.target` から `event.detail.selectedTab` に変更されました。

lightning:tooltip

このコンポーネントは Winter '17 で使用できなくなります。最新情報にご注意ください。

このセクションの内容:

Lightning 基本コンポーネントの考慮事項
Lightning 基本コンポーネントの使用に関するガイドラインを確認してください。

Lightning 基本コンポーネントの考慮事項

Lightning 基本コンポーネントの使用に関するガイドラインを確認してください。

Lightning コンポーネントのマークアップに依存しないことをお勧めします。その内部は今後、変更されることがあります。たとえば、`cmp.get("v.body")` を使用して DOM 要素を検討すると、コンポーネントマークアップが今後、変更された場合、大混乱を引き起こす可能性があります。LockerService を適用すると、所有していないコンポーネントの DOM をトラバースできなくなります。DOM ツリーにアクセスする代わりに、コンポーネントツリーに依存して、コンポーネント属性とバインドしている値を利用できます。たとえば、`cmp.find("myInput").getElement().name` の代わりに `cmp.find("myInput").get("v.name")` で十分です。

多くの Lightning 基本コンポーネントは発展中であり、アプリケーションの構築中には次の考慮事項が役立つことがあります。

lightning:buttonMenu (ベータ)
このコンポーネントには、ボタンがトリガされた場合に限って作成されるメニュー項目が含まれます。初期化中、またはボタンがトリガされていない場合は、メニュー項目を参照できません。

lightning:formattedDateTime (ベータ)
このコンポーネントは、Apple Safari 10 以下でフォールバック動作を提供します。次のフォーマッティングオプションには、古いブラウザでフォールバック動作を使用するときに例外があります。

- `era` はサポートされていません。
- `timeZoneName` は、短縮形では `GMT`、長い形式では `GMT-h:mm` または `GMT+h:mm` を追加します。
- `timeZone` は `UTC` をサポートします。別のタイムゾーン値を使用する場合、`lightning:formattedDateTime` はブラウザのタイムゾーンを使用します。

lightning:formattedNumber (ベータ)
このコンポーネントは、Apple Safari 10 以下で次のフォールバック動作を提供します。

- `style` を `currency` に設定した場合、ロケールとは異なる `currencyCode` 値を指定すると、記号の代わりに通貨コードが表示されます。次の例では、フォールバックモードの場合に `EUR12.34` が表示され、その他の場合に `€12.34` が表示されます。

```
<lightning:formattedNumber value="12.34" style="currency"
 currencyCode="EUR"/>
```

- `currencyDisplayAs` では、`symbol` のみがサポートされます。次の例では、`currencyCode` がユーザのロケール通貨と一致する場合に限ってフォールバックモードで `$12.34` が表示され、その他の場合は `USD12.34` が表示されます。

```
<lightning:formattedNumber value="12.34" style="currency"
 currencyCode="USD" currencyDisplayAs="symbol"/>
```

lightning:input (ベータ)

`file` 型はサポートされていません。次のコンポーネントでは日付ピッカーを使用できますが、Lightning Design System スタイルは継承されません。

- `<lightning:input type="date" />`
- `<lightning:input type="datetime-local" />`

パーセント入力と通貨入力の項目では、ネイティブ実装によって要求されるように、段階的な増分を 0.01 に指定する必要があります。

```
<lightning:input type="number" name="percentVal" label="Enter a percentage value"
formatter="percent" step="0.01" />
<lightning:input type="number" name="currencyVal" label="Enter a dollar amount"
formatter="currency" step="0.01" />
```

チェックボックス、ラジオボタン、トグルスイッチを操作するときは、`aura:id` を使用し、コンポーネントの配列をグループ化してトラバースします。グループ化すると、`get("v.checked")` を使用して、どの要素がオンまたはオフになっているかを判断でき、DOM にアクセスする必要はありません。`name` 属性と `value` 属性を使用し、反復中に各コンポーネントを識別することもできます。次の例では、`aura:id` を使用して 3 個のチェックボックスをグループ化しています。

```
<aura:component>
    <form>
      <fieldset>
        <legend>Select your favorite color:</legend>
        <lightning:input type="checkbox" label="Red"
            name="color1" value="1" aura:id="colors"/>
        <lightning:input type="checkbox" label="Blue"
            name="color2" value="2" aura:id="colors"/>
        <lightning:input type="checkbox" label="Green"
            name="color3" value="3" aura:id="colors"/>
      </fieldset>
    <lightning:button label="Submit" onclick="{!c.submitForm}"/>
    </form>
</aura:component>
```

クライアント側のコントローラでは、`cmp.find("colors")` を使用して配列を取得し、`checked` の値を調べることができます。

lightning:tab (ベータ)

このコンポーネントでは、実行中に本文が作成されます。初期化中にはコンポーネントを参照できません。`aura:id` を使用してコンポーネントを参照すると、`cmp.find("myComponent")` の実装時にコンポーネントが未定義の値を返すというように、予期しない結果が返されることがあります。

lightning:tabset (ベータ)

viewport の幅に適合するよりも多くのタブを読み込むと、タブセットはナビゲーションボタンを提供し、横方向にスクロールして、オーバーフローしたタブを表示します。

Lightning Data Service の概要 (開発者プレビュー)

Lightning Data Service を使用すると、Apex コードを必要とせずに、コンポーネントでレコードの読み込み、作成、編集、削除ができます。Lightning Data Service は、共有ルールと項目レベルセキュリティを処理します。Apex を必要としないだけでなく、Lightning Data Service はパフォーマンスとユーザインターフェースの一貫性を改善します。

エディション

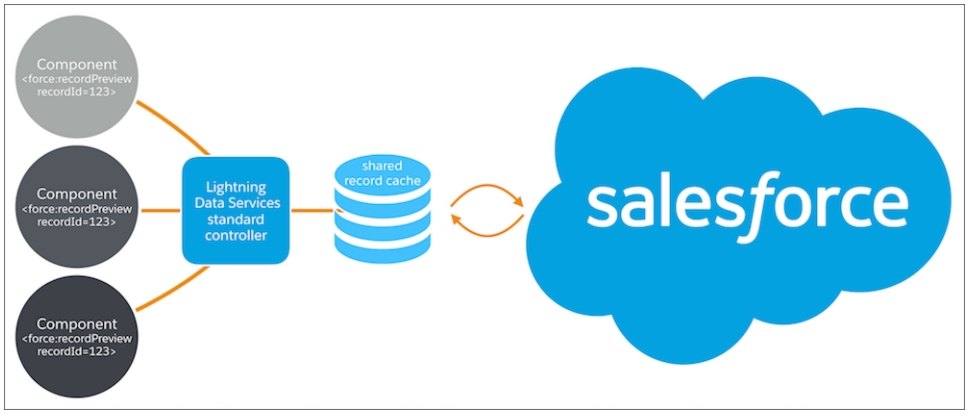
使用可能なエディション: **Developer** Edition

メモ: Lightning Data Service は、現在、開発者プレビューとして利用できます Lightning Data Service は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。Lightning Data Service についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

端的に言うと、Lightning Data Service は、Visualforce 標準コントローラの Lightning コンポーネントバージョンと考えることができます。こう言うと単純化しすぎですが、要点は伝わるでしょう。可能は場合は常に、コンポーネントは Lightning Data Service を使用して、Salesforce データの参照と変更を行う必要があります。

Lightning Data Service を使用したデータアクセスは通常、サーバ側の Apex コントローラを使用した同等の処理よりも簡単です。参照のみアクセスは、コンポーネントのマークアップ内ですべて宣言型にできます。データを変更するコードの場合、コンポーネントの JavaScript コントローラはほぼ同じ量のコードになり、Apex をすべてなくすことができます。さらに、データアクセスコードのすべてがコンポーネントに統合され、複雑さが大幅に緩和されます。

Lightning Data Service には、コード以外にも利点があります。非常に効率のよいローカルストレージ上に構築されます。このローカルストレージはそれを使用するすべてのコンポーネントで共有されます。Lightning Data Service に読み込まれたレコードはキャッシュされ、コンポーネント間で共有されます。



同じレコードにアクセスするコンポーネントでは、パフォーマンスが大幅に改善されます。これはレコードが、それを使用するコンポーネントの数に関係なく 1 回だけ読み込まれるためです。共有レコードもユーザインターフェースの一貫性を高めます。あるコンポーネントがレコードを更新すると、そのレコードを使用する他のコンポーネントに通知され、ほとんどの場合は自動的に更新されます。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: Lightning データサービス (開発者プレビュー)

カスタムアクション用に Lightning コンポーネントを有効化

`force:lightningQuickAction` または `force:lightningQuickActionWithoutHeader` インターフェースを Lightning コンポーネントに追加し、Lightning Experience または Salesforce1 でカスタムアクションとして使用できるようにします。これらのインターフェースのいずれかを実装するコンポーネントを Lightning Experience と Salesforce1 の両方で*オブジェクト固有*のアクションとして使用できます。Salesforce1 でのみこれらのコンポーネントを*グローバル*アクションとして使用できます。

アクションとして使用する場合、`force:lightningQuickAction` インターフェースを実装するコンポーネントは [キャンセル] ボタンなどの標準アクションコントロールがあるパネルに表示されます。これらのコンポーネントにも専用のコントロールを表示でき、実装できますが、標準コントロールからのイベント用に設定されている必要があります。

`force:lightningQuickActionWithoutHeader` インターフェースを実装するコンポーネントは、追加のコントロールなしでパネルに表示され、アクションの完全なユーザインターフェースを提供します。

関連トピック:

- アクションからの Lightning コンポーネントの起動
- *Lightning コンポーネント開発者ガイド*: カスタムアクションのコンポーネントの設定

アクセス権チェック違反の適用

アクセス権チェックの適用は Summer '16 の重要な更新でした。この更新は 2016 年 10 月 15 ～ 19 日のどこかですべての組織に適用されます。Lightning リソースのアクセス権チェックの適用改善により、コンポーネント作成者は、コンポーネントの使用方法をより詳細に制御できます。

次のタグの `access` システム属性を使用して Lightning リソースへのアクセスを制御できます。

- `<aura:application>`
- `<aura:attribute>`
- `<aura:component>`
- `<aura:event>`
- `<aura:interface>`
- `<aura:method>`

Lightning リソースのデフォルト値は `access="public"` で、同じ名前空間内でのみリソースを使用できます。

次のサンプルコンポーネントにはグローバルアクセス権があります。

```
<aura:component access="global">
    ...
</aura:component>
```

アクセス違反

アクセスを許可する `access` システム属性のないコンポーネントや属性などのリソースにコードがアクセスすると、そのコードは実行されないか、`undefined` が返されます。

デバッグモードを有効にした場合は、ポップアップエラーメッセージも表示されます。

アクセス権チェックエラーメッセージの構造

アクセス違反のアクセス権チェックエラーメッセージのサンプルを次に示します。

```
Access Check Failed ! ComponentService.getDef():'markup://c:targetComponent' is not visible to 'markup://c:sourceComponent'.
```

エラーメッセージは、次の 4 つの部分で構成されます。

1. コンテキスト (誰がリソースにアクセスしようとしているか)。この例では、`markup://c:sourceComponent` です。
2. 対象 (アクセスされているリソース)。この例では、`markup://c:targetComponent` です。
3. エラーの種類。この例では、`not visible` です。
4. エラーをトリガしたコード。通常はクラスメソッドです。この例では、対象定義 (コンポーネント) にアクセスできなかったことを示す `ComponentService.getDef()` です。定義には、コンポーネントなどのリソースのメタデータが記述されます。

アクセス権チェックエラーの修正

ヒント: コードが期待どおりに動作しない場合は、デバッグモードを有効にしてより詳細なエラーレポートを取得します。

アクセス権チェックエラーは、次の 1 つ以上の方法を使用して修正できます。

- 所有するリソースに適切な `access` システム属性を追記する。
- 使用できないリソースへの参照をコードから削除する。前の例では `markup://c:targetComponent` に `markup://c:sourceComponent` からのアクセスを許可するアクセス値はありません。
- `<aura:attribute>` 定義を参照して、アクセスしている属性が存在することを確認する。`name` の大文字小文字の区別も含め正しいスペルを使用していることを確認します。

  未定義属性にアクセスした場合も非公開属性などの範囲外の属性にアクセスした場合も、同じアクセス違反メッセージがトリガされます。アクセスコンテキストでは属性が未定義であるかアクセスできないかを判断できません。

`access` システム属性についての詳細は、*『Lightning コンポーネント開発者ガイド』* を参照してください。

LockerService の重要な更新は延期

LockerService は、Lightning コンポーネントの強力なセキュリティアーキテクチャで、Summer '16 の重要な更新でした。この重要な更新は、Winter '17 で自動的に有効になるようにスケジュールされました。この自動有効化日付が Summer '17 まで延期されました。

関連トピック:

Summer '16 リリースノート: LockerService を使用したセキュリティの強化 (重要な更新)

重要な更新: LockerService の変更、Visualforce ページへのクリックジャック保護の追加

すべての組織で LockerService の重要な更新を切り替え可能

これまで、一部の組織では Salesforce に連絡しないと、重要な更新を無効化することができませんでした。重要な更新が Summer '17 まで延長されてから、このプロセスが簡略化され、これらの組織で重要な更新を無効化できるようになりました。Lightning コンポーネントの設定ページの新しい設定では、管理パッケージからインストールしたコンポーネントで LockerService を適用するかどうかを制御できます。既存の組織の LockerService の適用に関する動作の変更はありません。

重要な更新の切り替え

新規組織および一部の古い組織では、重要な更新が自動的に有効になります。

重要な更新を有効化または無効化するには、重要な更新を切り替えます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。
2. [Lightning LockerService セキュリティの有効化] の [有効化] または [無効化] をクリックします。
3. ブラウザページを更新して、LockerService の有効化または無効化に進みます。

LockerService を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストして、コンポーネントが正しく動作することを確認してから本番組織で有効にすることをお勧めします。

管理パッケージからインストールされたコンポーネント

管理パッケージからインストールされたコンポーネントで LockerService が適用されるかどうかを制御する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Lightning コンポーネント*」と入力し、[Lightning コンポーネント] を選択します。
2. 管理パッケージからインストールされたコンポーネントで LockerService を適用するには、[管理パッケージに対して `LockerService` を有効にする] チェックボックスをオンにします。

   メモ: チェックボックスは、重要な更新が有効化されている場合にのみ表示されます。

[管理パッケージに対して `LockerService` を有効にする] チェックボックスをオフにすると、管理パッケージからインストールされたコンポーネントで LockerService が適用されません。組織で作成したコンポーネントは LockerService の制限が適用された状態で実行されます。

新規組織のデフォルト設定

Winter '17 でも、新規組織の LockerService の適用のデフォルト設定は同じです。

次の表に、新規組織の LockerService の適用方法がまとめられています。

組織で作成されたコンポーネントは、デフォルトの名前空間 `c` または組織の名前空間 (名前空間を作成している場合) にあります。

コンポーネントのソース	Developer Edition	サポートされている他のすべてのエディション
組織で作成	○	○

コンポーネントのソース	**Developer Edition**	サポートされている他のすべてのエディション
管理パッケージ	○	×

LockerService **の適用を変更するには、重要な更新 (組織で作成されたコンポーネントの場合) または** ［**管理パッケージに対して** `LockerService` **を有効にする**］**チェックボックス (管理パッケージからのコンポーネントの場合) を切り替えます。**

バブルアップしていく前のキャプチャイベント

Lightning**コンポーネントフレームワークで、コンポーネントおよびアプリケーションイベントの新しいキャプチャフェーズがサポートされるようになりました。以前のフレームワークでは、コンポーネントイベントのバブルフェーズのみがサポートされていました。フレームワークでアプリケーションイベントのバブルフェーズもサポートされるようになりました。これらのフェーズは** DOM **の処理パターンと似ており、対象のコンポーネントがイベントに対応したり、場合によっては後続のハンドラの動作を制御したりできます。**

イベントを起動するコンポーネントは、ソースコンポーネントと呼ばれます。フレームワークでは、異なるフェーズでイベントを処理できます。これらのフェーズにより、アプリケーションのイベントの最適な処理を柔軟に行うことができます。

次のフェーズがあります。

キャプチャ
: **イベントがキャプチャされ、アプリケーションルートからソースコンポーネントに伝達していきます。イベントはコンテインメント階層内のキャプチャイベントを受信するコンポーネントによって処理されます。**

  アプリケーションルートからイベントを起動したソースコンポーネントへと順番にイベントハンドラが呼び出されていきます。

  このフェーズの任意の登録ハンドラでイベントの伝達を停止できます。停止した時点でこのフェーズまたはバブルフェーズのハンドラはそれ以上コールされなくなります。

バブル
: **イベントを起動したコンポーネントはそのイベントを処理できます。その後イベントはソースコンポーネントからアプリケーションルートにバブルアップしていきます。イベントはコンテインメント階層内のバブルイベントを受信するコンポーネントによって処理されます。**

  イベントを起動したソースコンポーネントからアプリケーションルートへと順番にイベントハンドラが呼び出されていきます。

  このフェーズの任意の登録ハンドラでイベントの伝達を停止できます。停止した時点でこのフェーズのハンドラはそれ以上コールされなくなります。

次に、コンポーネントイベントの伝達シーケンスを示します。

1. **イベントの起動 — コンポーネントイベントが起動します。**
2. **キャプチャフェーズ — フレームワークはアプリケーションルートからソースコンポーネントへのキャプチャフェーズをすべてのコンポーネントがトラバースされるまで実行します。任意のイベント処理で、イベントに対して** `stopPropagation()` **をコールして伝達を停止できます。**

3. バブルフェーズ—フレームワークはソースコンポーネントからアプリケーションルートへのバブルフェーズをすべてのコンポーネントがトラバースされるまで、または `stopPropagation()` がコールされるまで実行します。

メモ: アプリケーションイベントには、バブルフェーズの後に実行される個別のデフォルトフェーズがあります。デフォルトフェーズでは、アプリケーションイベントに対するフレームワークの元の処理動作が保持されます。

`<aura:handler>` タグに、イベント処理のフェーズを設定する新しい `phase` 属性が追加されました。`phase` 値を設定しないと、デフォルトフェーズは `bubble` (コンポーネントイベントの場合)、または `default` (コンポーネントイベントの場合) になります。次にアプリケーションイベントのキャプチャフェーズのハンドラの例を示します。

```
<aura:handler event="c:appEvent" action="{!c.handleCapturedEvent}"
    phase="capture" />
```

詳細は、*『Lightning コンポーネント開発者ガイド』* を参照してください。

関連トピック:

コンテナコンポーネントでのバブルイベントの処理

Lightning コンポーネント開発者ガイド: イベントとの通信

コンテナコンポーネントでのバブルイベントの処理

他のコンポーネントが含まれているが、それらのコンポーネントの所有者ではないコンポーネントがあります。これらのコンポーネントは、コンテナコンポーネントと呼ばれます。コンテナコンポーネントでキャプチャイベントまたはバブルイベントを処理できるようになりました。この機能により、動的コンテンツ関連のイベント処理動作を提供するラッパーコンポーネントを使用して、新しいパターンのコンポーネントの設計、構成、および再利用ができるようになりました。

デフォルトのイベント伝達ルール

デフォルトでは、コンテインメント階層のすべての親がキャプチャフェーズおよびバブルフェーズでイベントを処理できるわけではありません。代わりに、イベントはコンテインメント階層のすべての所有者に伝達されます。

コンポーネントの所有者は、その作成を行うコンポーネントです。宣言的に作成されたコンポーネントの場合、所有者はイベントの起動コンポーネントを参照するマークアップが含まれる、最も外側のコンポーネントになります。プログラムで作成されたコンポーネントの場合、所有者コンポーネントはそのコンポーネントを作成するために `$A.createComponent` を呼び出したコンポーネントになります。

イベント伝達の方向 (下) はバブルフェーズ (上) と反対になりますが、キャプチャフェーズにも同じルールが適用されます。

わかりやすく、バブルフェーズの例を使用して説明します。

`c:owner` には `c:container` が含まれ、さらにそこには `c:eventSource` が含まれます。

```
<!--c:owner-->
<aura:component>
```

```
    <c:container>
        <c:eventSource />
    </c:container>
</aura:component>
```

c:eventSource がイベントを起動すると、このコンポーネント自体がイベントを処理します。次に、イベントはコンテインメント階層をバブルアップします。

c:container には c:eventSource が含まれますが、マークアップの最も外側のコンポーネントではないことが原因で所有者にはならないため、バブルイベントを処理できません。

c:owner は、c:container がそのマークアップ内にあるため、所有者です。c:owner はイベントを処理できます。

すべてのコンテナコンポーネントへの伝達

デフォルトの動作では、コンテインメント階層内のすべての親がイベントを処理できるわけではありません。他のコンポーネントが含まれているが、それらのコンポーネントの所有者ではないコンポーネントがあります。これらのコンポーネントは、コンテナコンポーネントと呼ばれます。この例の c:container は、c:eventSource の所有者でないため、コンテナコンポーネントになります。デフォルトでは、c:container は c:eventSource が起動したイベントを処理できません。

コンテナコンポーネントには、Aura.Component[] 型のファセット属性 (デフォルトの body 属性など) があります。コンテナコンポーネントには、定義で {!v.body} などの式が使用されているコンポーネントが含まれます。コンテナコンポーネントは、その式で表されるコンポーネントの所有者ではありません。

コンテナコンポーネントでイベントを処理できるようにするには、コンテナコンポーネントの <aura:handler> タグに includeFacets="true" を追加します。たとえば、includeFacets="true" をコンテナコンポーネント c:container のハンドラに追加すると、c:eventSource からバブルされたコンポーネントイベントを処理できるようになります。

```
<aura:handler name="bubblingEvent" event="c:compEvent" action="{!c.handleBubbling}"
    includeFacets="true" />
```

関連トピック:

- バブルアップしていく前のキャプチャイベント
- *Lightning コンポーネント開発者ガイド*: イベントとの通信

動的に作成されたコンポーネントのイベントの適切な伝達

Winter '17 より前では、$A.createComponent() を使用してプログラムでコンポーネントを作成すると、イベントがコンポーネントのコンテインメント階層に伝達されませんでした。このバグは、イベントが起動されるコンポーネントがマークアップで作成されたのか、コードで作成されたのかによってイベント伝達動作に違いがあったことを意味します。Winter '17 では、イベント伝達動作が修正され、コードでプログラム的に作成されたコンポーネントがマークアップで宣言的に作成されたコンポーネントと同じように動作します。

動的に作成されたコンポーネントのイベント伝達の問題を回避するコードを作成している場合、イベントハンドラが重複していないことを確認してください。たとえば、動的に作成されたコンポーネントの制限を回避するために cmp.addHandler() を使用してハンドラを結び付ける必要はもうありません。

Lightning アプリケーションでの Lightning Design System の使用

Lightning Design System を使用して Lightning アプリケーションのスタイルを設定します。これを行うには、`force:slds` を拡張するか、静的リソースを使用します。Salesforce Lightning Design System では、Lightning Experience と一貫性のあるデザインを作成できます。Lightning Design System スタイルを使用すれば、標準のスタイルをリバースエンジニアリングしなくても Salesforce と一貫性のある UI をカスタムアプリケーションに設定できます。

独自アプリケーションで `force:slds` を拡張すると、自動的に Lightning Design System のスタイルとデザイントークンが使用されます。これが、Lightning Design System 機能強化が常に最新の状態になり、一貫性を維持する最も簡単な方法です。

`force:slds` を拡張する方法は、次のとおりです。

```
<aura:application extends="force:slds">
    <!-- customize your application here -->
</aura:application>
```

`force:slds` を拡張すると、CSS が変更されるたびに Lightning Design System スタイルのバージョンが自動的に更新されます。特定の Lightning Design System バージョンを使用する場合は、そのバージョンをダウンロードし、組織に静的リソースとして追加します。

メモ: 最新の Lightning Design System スタイルが自動的に使用できるよう、`force:slds` を拡張することをお勧めします。特定の Lightning Design System バージョンを使用し続けると、アプリケーションのスタイルが徐々に Lightning Experience のその後のバージョンからずれてしまったり、重複した CSS をダウンロードしてしまったりします。

関連トピック:

Lightning Out および Lightning Components for Visualforce の Lightning Design System を使用した一貫性のあるデザインの作成

Lightning Out および Lightning Components for Visualforce の Lightning Design System を使用した一貫性のあるデザインの作成

Lightning Design System が、Lightning Out および Lightning Components for Visualforce アプリケーションに自動的に追加されるようになりました。Lightning Design System では、Lightning Experience と一貫性のあるデザインを作成できます。

Lightning 連動関係アプリケーションが `ltng:outApp` から拡張されている場合、Lightning Out を使用しているページに Lightning Design System の参照が追加されます。このため、Lightning Experience および Salesforce1 以外で使用される場合でも、Lightning Design System のスタイルおよびリソースが Lightning コンポーネントで「期待どおり」に使用できます。つまり、リリースされていればどこででも使用できる Lightning Design System スタイルに基づいてコンポーネントを作成できます。

以前のリリースでは、Lightning Design System が含まれておらず、別のコンテキストで使用されても同じ外観や動作を維持するコンポーネントを作成することは困難でした。

Lightning Out の使用時に Lightning Design System のリソースが自動的に含まれないようにするには、代わりに `ltng:outAppUnstyled` から連動関係アプリケーションを拡張します。

関連トピック:

- Lightning アプリケーションでの Lightning Design System の使用
- Lightning Out、Lightning アプリケーション、および Visualforce 用の Lightning コンポーネントへの Lightning Design System の拡張
- *Lightning コンポーネント開発者ガイド*: Lightning の連動関係
- *Lightning コンポーネント開発者ガイド*: アプリケーションでの Salesforce Lightning Design System の使用

カスタム Lightning コンポーネントを特定のオブジェクトに制限

Lightning ページで使用するように設計されたカスタム Lightning コンポーネントバンドルがある場合、新しい `<sfdc:object>` タグセットを.design ファイルに追加し、コンポーネントを特定のオブジェクトに制限します。

例: たとえば、「Hello World」コンポーネントと一緒にバンドルするデザインリソースを示します。

```
<design:component label="Hello World">
    <design:attribute name="subject" label="Subject" description="Name of the person
you want to greet" />
    <design:attribute name="greeting" label="Greeting" />
</design:component>
```

2 つのオブジェクトに制限された同じデザインリソースを示します。

```
<design:component label="Hello World">
    <design:attribute name="subject" label="Subject" description="Name of the person
you want to greet" />
    <design:attribute name="greeting" label="Greeting" />
    <sfdc:objects>
        <sfdc:object>Custom__c</sfdc:object>
        <sfdc:object>Opportunity</sfdc:object>
    </sfdc:objects>
</design:component>
```

Lightning コンポーネントから別のコンポーネントへの移動 (ベータ)

`force:navigateToComponent` イベントにより、Salesforce1 および Lightning Experience 内で簡単に別のコンポーネントに移動できます。

メモ: このリリースには、`force:navigateToComponent` のベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。この機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

Lightning コンポーネントから別のコンポーネントに移動するには、`componentDef` を使用してコンポーネント名を指定します。次の例では、コンポーネント `c:myComponent` に移動して、`contactName` 属性に値を設定しています。

```
navigateToMyComponent : function(component, event, helper) {
        var evt = $A.get("e.force:navigateToComponent");
        evt.setParams({
            componentDef : "c:myComponent",
            componentAttributes: {
                contactName : component.get("v.contact.Name")
            }
        });
        evt.fire();
    }
```

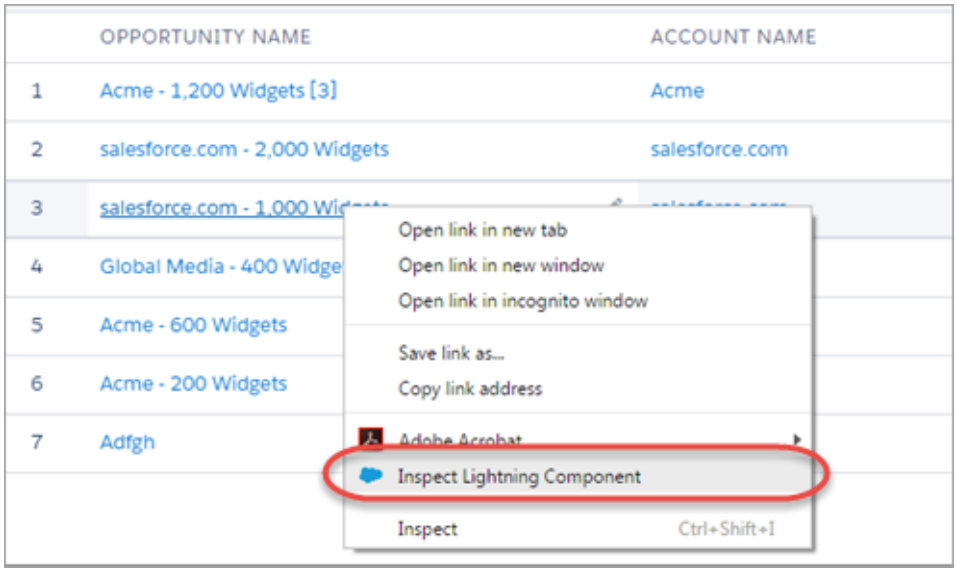
`access="global"` とマークされたコンポーネントまたは現在の名前空間内のコンポーネントにのみ移動できます。

Salesforce Lightning インスペクタを使用した Lightning コンポーネントの高速で簡単なデバッグ

より多くの製品エリアからコンポーネントの説明を取得したり、トランザクションをグラフィカルに表示したり、イベントコールスタックを確認したり、より多くの言語で Salesforce Lightning Inspector デベロッパーツール拡張機能を取得したりできます。

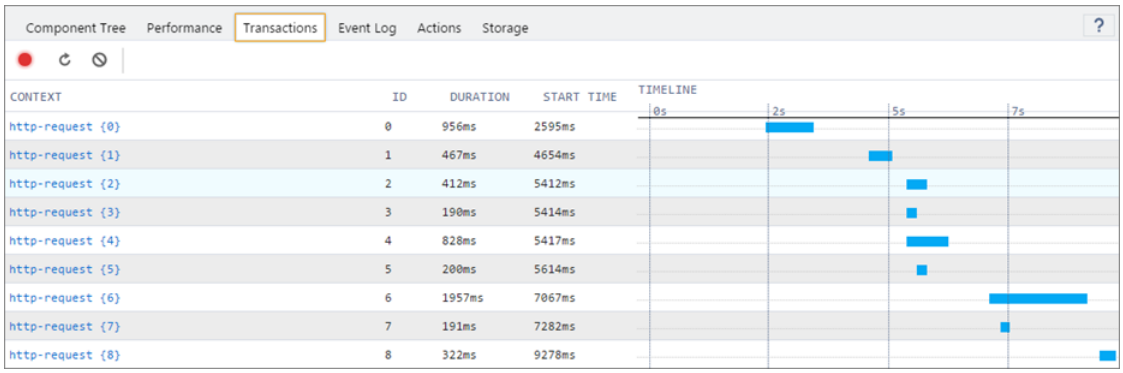
コンポーネント情報の増加

より多くの製品エリアから Lightning コンポーネントに関する情報を取得して、コンポーネントのソースを確認できます。たとえば、ページの任意の DOM 要素で、要素を右クリックして **[Inspect Lightning Component (Lightning コンポーネントを検査)]** を選択し、説明と属性を確認します。あるいは、[DevTools Elements (デベロッパーツール要素)] タブで DOM 要素または `data-aura-rendered-by` 属性の要素をクリックして、[Lightning] タブで説明および属性を確認します。



トランザクションのグラフィック

まったく新しくなったトランザクションをご覧ください。[Transactions (トランザクション)] タブには、各トランザクションのバーがあるタイムラインが表示されます。



コールスタック

イベントログのコールスタックを調べてイベントが起動する兆候を確認します。イベントハンドラをクリックして、コードのどこで定義されているのかを見つけます。黄色の行は最新のハンドラです。

言語の増加

Salesforce Lightning Inspector は、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、スペイン語で使用できるようになりました。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: Salesforce Lightning Inspector

Lightning コンポーネント: その他の変更

Lightning コンポーネントがさらに変更されました。

`$Label` の参照の改善

Lightning コンポーネントで `$Label` グローバル値プロバイダを使用して参照されるカスタム表示ラベルのパッケージ連動関係が自動的に解決されます。パッケージの非Lightning メンバーがなくても、パッケージに含まれるその表示ラベルを参照できるようになりました。また、管理パッケージに含まれるカスタム表示ラベルも参照できるようになりました。

Lightning コンポーネントエラーメッセージの詳細な情報

保存エラーの生成および表示方法が改善されました。コンポーネントバンドル (API を使用しているときは `AuraDefinitionBundle`)の保存またはリリース中にエラーが発生した場合により詳細なエラーメッセージが表示されるため、問題の解決に役立ちます。

`$A.util.format()` メソッドへの参照の削除

`$A.util.format()` への参照がドキュメントから削除されました。この JavaScript メソッドは、フレームワーク内で使用するためのメソッドですが、誤ってドキュメントで参照されていました。

新規追加または変更された Lightning コンポーネント

コンポーネントは、アプリケーションを迅速に作成するのに役立ちます。これらはLightningアプリケーションまたは Salesforce1 で使用します。

新しいコンポーネント

次のコンポーネントが新規追加されました。

forceCommunity:navigationMenuBase
コミュニティのナビゲーションメニューをカスタマイズするための抽象コンポーネントで、メニューデータの読み込みとナビゲーションの処理を行います。カスタマーサービス(Napili)およびカスタムコミュニティテンプレートのカスタムナビゲーションコンポーネントとを作成できます。メニューのデザインは、これを拡張するカスタムコンポーネントによって制御されます。

ui:scrollerWrapper
Salesforce1 でネイティブのスクロールを有効にするコンテナを作成します。

メモ: Lightning Design System のスタイルを適用するコンポーネントを探している場合は、「Lightning 基本コンポーネントの概要」を参照してください。

変更されたコンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

force:inputField
アクセス権チェックが有効な場合に動作するように更新されました。

force:outputField
アクセス権チェックが有効な場合に動作するように更新されました。

新規インターフェース

次のインターフェースが新規追加されました。

forceCommunity:profileMenuInterface
カスタマーサービス (Napili) コミュニティテンプレートのカスタムプロファイルメニューコンポーネントを作成できます。テンプレートの [プロファイルヘッダー] 標準コンポーネントを置き換える場合にこのインターフェースを実装します。作成したカスタムプロファイルメニューコンポーネントは、システム管理者がコミュニティビルダーの [設定] > [テーマ] で選択できます。

forceCommunity:searchInterface
カスタマーサービス (Napili) コミュニティテンプレートのカスタム検索コンポーネントを作成できます。テンプレートの[検索パブリッシャーと投稿パブリッシャー]コンポーネントを置き換える場合にこのインターフェースを実装します。作成したカスタム検索コンポーネントは、システム管理者がコミュニティビルダーの [設定] > [テーマ] で選択できます。

forceCommunity:themeLayout
カスタマーサービス (Napili) コミュニティテンプレートのページの全体的な構造を変換するカスタムテーマレイアウトを作成できます。テンプレートの標準テーマレイアウトを置き換える場合にこのインターフェースを実装します。作成したテーマレイアウトコンポーネントは、システム管理者がコミュニティビルダーの [設定] > [テーマ] で選択できます。

関連トピック:

カスタムテーマレイアウトを使用した迅速なブランド変更
Lightning 基本コンポーネントの概要

新しい Lightning イベント

イベントにより、コンポーネントにインタラクションのレイヤが追加されます。

新しいイベント

次のイベントが新規追加されました。

forceCommunity:analyticsInteraction
Lightning コンポーネントによってトリガされたイベントを追跡し、データを Google Analytics に送信します。テンプレートベースのコミュニティでのみサポートされます。コミュニティビルダーで Google Analytics が有効になっていることとコミュニティが公開されていることを確認します。

forceCommunity:routeChange
ページのURLが変更されると起動します。Lightningコンポーネントは、このシステムイベントをリスンし、分析やSEOなど必要に応じて処理できます。テンプレートベースのコミュニティでのみサポートされます。

lightning:navigateToComponent (ベータ)
Lightning コンポーネントから別のコンポーネントに移動します。このリリースには、`force:navigateToComponent` のベータバージョンが含まれています。

lightning:openFiles

ContentDocument および ContentHubItem オブジェクトの 1 つ以上のファイルレコードを開きます。デスクトップでは、このイベントによって SVG ファイルプレビュープレーヤーが開き、ユーザは画像、ドキュメント、およびその他のファイルをブラウザでプレビューできます。ファイルプレビュープレーヤーでは、全画面プレゼンテーションモードがサポートされており、アップロード、削除、ダウンロード、共有などのファイルアクションにすばやくアクセスできます。モバイルデバイスでは、ファイルがダウンロードされ、デバイスでサポートされていればファイルプレビューがトリガされます。Lightning Experience、Salesforce1、および カスタマーサービス (Napili) テンプレートに基づくコミュニティでのみサポートされています。

Visualforce: Lightning Experience の機能強化

Visualforce を使用して、組織をカスタマイズするアプリケーションを開発します。Visualforce の言語および機能の改善により、アプリケーション開発がさらに容易になりました。このリリースの変更では、Lightning Experience とのインテグレーションの改善に焦点を絞っています。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、*『Visualforce 開発者ガイド』*を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

ページヘッダーのない Visualforce ページのクリックジャック保護の改善
このリリースでは、<apex:page> タグで showHeader="false" を設定してヘッダーが無効化されている Visualforce ページのクリックジャック保護が改善されました。

ページヘッダーのない Visualforce ページの従来のブラウザ用クリックジャック保護 (重要な更新)
この重要な更新では、showHeader="false" に設定された Visualforce ページ用の従来のブラウザ互換のクリックジャック保護を拡張し、ページにバージョン 27.0 より前の API が使用されている場合にも適用します。

PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコールアウトとして動作 (重要な更新)
重要な更新が Summer '15 で導入され、2016 年 10 月 18 日にすべての組織に適用されました。

ページヘッダーのない Visualforce ページのクリックジャック保護の改善

このリリースでは、<apex:page> タグで showHeader="false" を設定してヘッダーが無効化されている Visualforce ページのクリックジャック保護が改善されました。

特定の状況では、[ヘッダーが無効化された Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化] 設定を有効にしている場合でも、バグが原因でクリックジャック保護が完全に機能しない場合があります。

このバグは解決されていますが、一部のページは以前の動作に依存している可能性があります。これらのページの互換性を保つため、この変更はバージョン設定されています。この修正を利用するには、ページを API 38.0 以降に更新する必要があります。更新するまで、showHeader が false に設定されたページはクリックジャック攻撃に対する保護が低下します。

問題のある可能性が高いページは、静的 <head> ブロックがそのページ自体に追加され、ページの HTML 構造を柔軟に制御する <apex:page> タグの applyHtmlTag 属性と applyBodyTag 属性が使用されていないページです。ページに静的 <head> 要素を追加している場合、静的 <html> 要素と <body> 要素も独自に追加して柔軟に制御することをお勧めします。これを行う場合は、必ずページの applyHtmlTag 属性と applyBodyTag 属性を false に設定してください。

ページヘッダーのない Visualforce ページの従来のブラウザ用クリックジャック保護 (重要な更新)

この重要な更新では、showHeader="false" に設定された Visualforce ページ用の従来のブラウザ互換のクリックジャック保護を拡張し、ページにバージョン 27.0 より前の API が使用されている場合にも適用します。

いくつかのセキュリティ設定により、Visualforce ページにクリックジャック保護が追加されます。このうちの 2 つの設定が、この重要な更新によって影響を受けます。[設定] の [セキュリティ] > [セッションの設定] にある [ヘッダーが無効化された Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化] 設定では、ページの showHeader 属性が false に設定されている組織の Visualforce ページでクリックジャック保護が有効になります。[設定] の [開発] > [サイト] にある [クリックジャック保護レベル] 設定では、Force.com サイトに表示される Visualforce ページでクリックジャック保護が有効になります。

最新のブラウザは、X-Frame-Options HTTP ヘッダーの設定によりクリックジャック攻撃から保護されています。Internet Explorer の旧バージョンなどの従来のブラウザではこのヘッダーが考慮されません。このような古いブラウザでクリックジャック保護を有効にするには、HTML マークアップと JavaScript コードをページ自体に追加します。

ただし、標準的な Salesforce ページヘッダーを使用せずに表示すると (ページの showHeader 属性を false に設定)、API バージョン 26.0 以前に設定された Visualforce ページには、従来のブラウザ用にクリックジャック保護スクリプトを埋め込むための HTML マークアップと JavaScript コードが組み込まれません。クリックジャック保護を組み込むように組織またはサイトを設定しても、従来のブラウザのクリックジャック保護は機能しません。

この更新を有効にすると、Visualforce で、ページの API 設定に関係なく期待されるマークアップとコードが必要に応じて追加されます。この更新により、すべての Visualforce ページで組織またはサイトのクリックジャック保護設定が考慮されます。

ページの contentType 属性を「text/html」または「text/xhtml」以外の値に設定したページには、この重要な更新は影響しません。

重要な更新のテスト

この更新を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストして、Visualforce ページの正しい動作を確認してから本番組織で有効にすることをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

この重要な更新を有効化する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。
2. [ページヘッダーのない Visualforce ページの従来のブラウザ用クリックジャック保護] の [有効化] をクリックします。
3. API バージョン 26.0 以前、showHeader 属性が false に設定されている任意の Visualforce ページでテストしてください。

問題のある可能性が高いページは、静的 <head> ブロックがそのページ自体に追加され、ページの HTML 構造を柔軟に制御する <apex:page> タグの applyHtmlTag 属性と applyBodyTag 属性が使用されていないページです。ページに静的 <head> 要素を追加している場合、静的 <html> 要素と <body> 要素も独自に追加して柔軟に制御することをお勧めします。これを行う場合は、必ずページの applyHtmlTag 属性と applyBodyTag 属性を false に設定してください。

PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコールアウトとして動作 (重要な更新)

重要な更新が Summer '15 で導入され、2016 年 10 月 18 日にすべての組織に適用されました。

getContent() および getContentAsPDF() メソッドでは、表示される Visualforce ページのコンテンツがそれぞれ HTML および PDF として返されます。この重要な更新では、PageReference オブジェクトの getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコールアウトとして動作し、コールトランザクションの制限に照らしてコールが追跡されます。

Lightning Design System

Lightning Design System は、Lightning Experience と一貫性のあるデザインを提供する CSS フレームワークです。コンポーネントクラスを使用すれば、標準のスタイルをリバースエンジニアリングしなくても Salesforce と一貫性のある UI を持つカスタムアプリケーションを構築できます。

変更の概要を以下に示します。追加情報およびコンポーネントの例については、https://www.lightningdesignsystem.com/release-notes/ を参照してください。

このセクションの内容:

新しい Lightning Design System コンポーネントクラス
コンポーネントクラスは、Salesforce のエコシステムでアプリケーションと商品を設計する場合に統一した言語と一貫したデザインを提供します。これらは、Lightning アプリケーション、Salesforce1、Lightning Out、および Visualforce の Lightning コンポーネントで使用します。

クラスおよびバリエーションの変更および追加
スタイルオプションを拡張するために次のコンポーネントのクラスとバリエーションを更新しました。

新しい Lightning Design System ユーティリティクラス
新しいユーティリティクラスを使用すると、単一ルールや簡単なパターンをコンポーネントに適用できます。

廃止された Lightning Design System コンポーネントクラス
次のクラスが廃止としてマークされました。

Lightning Out、Lightning アプリケーション、および Visualforce 用の Lightning コンポーネントへの Lightning Design System の拡張
Lightning Design System が Lightning Out、スタンドアロンの Lightning アプリケーション、および Visualforce ページの Lightning コンポーネントで使用できるようになりました。

新しい Lightning Design System コンポーネントクラス

コンポーネントクラスは、Salesforceのエコシステムでアプリケーションと商品を設計する場合に統一した言語と一貫したデザインを提供します。これらは、Lightning アプリケーション、Salesforce1、Lightning Out、および Visualforce の Lightning コンポーネントで使用します。

新しいコンポーネントクラス

次のコンポーネントクラスが新規追加されました。

フィード
: モバイル対応かつ反応型のディスカッションフィードを提供するために、まったく新しいフィードクラスが作成されました。この新しいクラスには、投稿用の新しいアクションバーモデル、投稿の総計値、新しい「いいね!」バーが含まれます。コメント、リンク、およびファイル添付のスタイルも更新されました。

  以前のバージョンのフィードは廃止としてマークされるため、コンポーネントを更新して新しいフィードクラスを使用する必要があります。

ファイル
: ファイルは、添付ファイルとしてアップロードするコンテンツの新しい視覚表現です。

ファイルセレクタ
: ファイルセレクタクラスを使用すると、ユーザがファイルシステムからファイルを選択できます。ファイルセレクタはファイル入力を使用してネイティブに動作します。また、ファイルセレクタを使用してドラッグアンドドロップできます。

グローバルナビゲーション
: ナビゲーションは、ユーザを別のページに移動したり、現在のページ内の各種セクションに移動したりするリンクのリストを表します。

グローバルヘッダー
: グローバルヘッダーは Salesforce プラットフォームのアンカーであり、他のすべての UI 部分にまたがります。ヘッダーの機能は、Salesforce エコシステム (内部またはサードパーティ) 内のすべてのコンテキストに適用されます。

ドック型ユーティリティバー
: ドック型ユーティリティバーは永続的なバーであり、ユーザはこれを使用して、ユーティリティパネルを展開または折りたたんでいる間にアプリケーションを継続して使用し、タスクを完了できます。

クラスおよびバリエーションの変更および追加

スタイルオプションを拡張するために次のコンポーネントのクラスとバリエーションを更新しました。

ボタン
: ボタンアイコンのバリエーションには 2 つの新しいクラスがあります。このクラスを使用すると、境界線付きの逆関数ボタンを作成したり、ボタンアイコンにフロート表示のヒントを追加したりできます。

カード
: このコンポーネントのコンパクトバリエーションが追加されました。

データテーブル
「ベース」データテーブルの名前が「基本」に変更されました。複雑なデータテーブル機能が「詳細」という名前のバリアントに抽象化されました。

フォーム
不確定チェックボックスクラスがこのコンポーネントに追加されました。

画像
画像カードおよび画像比クラスがこのコンポーネントに追加されました。画像カードはコンテンツの自己完結型単位です (キャプション付きの画像など)。

パネル
スライドアウトパネルの名前が「詳細」に変更されました。新しい検索条件パネルを使用すると、ユーザはレコードまたはレコードリストビューを絞り込むことができます。ページヘッダーの検索条件アイコンをクリックすると、このスライドアウト検索条件パネルが開きます。

ポップオーバー
閉じるボタンがエラーポップオーバーに追加されたため、スクリーンリーダーでポップオーバーにアクセスできるようになりました。

商品セレクタ
商品セレクタの名前が「リストビルダー」に変更されました。

新しい Lightning Design System ユーティリティクラス

新しいユーティリティクラスを使用すると、単一ルールや簡単なパターンをコンポーネントに適用できます。

新しいユーティリティクラス

次のユーティリティクラスが新規追加されました。

ハイフネーション
幅の狭いコンテナに提供される可能性があるテキストでハイフネーションクラスを使用できます。

変更されたユーティリティクラス

次のユーティリティクラスが変更されました。

グリッド
横方向および縦方向のパディングを「slds-grid--padded-around-{size}」として「slds-grid--padded」に適用できるようになりました。「position: relative」が「.slds-grid」から削除されました。

インタラクション
「.slds-text-link--reset」内のテキストがリンクとして表示されるようになりました。

テキスト
テキストの色のヘルパーが追加されました。このヘルパーはボディーコピーに色を設定します。テキストタイトルも追加されました。このタイトルヘッダーは、テーブルの列またはリストのセクションの表示ラベルのような小さいミニヘッダーで使用します。軽量のフォントの太さがテキストユーティリティから削除されました。

切り捨て
最大幅コンテナが追加されました。

サイズ調整
絶対サイズユーティリティクラスおよびそれと同等の反応型のユーティリティクラスが追加されました。

廃止された Lightning Design System コンポーネントクラス

次のクラスが廃止としてマークされました。

廃止されたコンポーネントクラス

このリリースでは次のクラスが廃止としてマークされました。これらは 3 回のリリースで削除されます。

フィード **v1**
モバイル対応かつ反応型の新しいフィードコンポーネントクラスによって元のフィードクラスが置き換えられます。コンポーネントを更新して新しいフィードコンポーネントクラスを使用する必要があります。

テキストヘッダー表示ラベルユーティリティ
新しいテキストタイトルユーティリティクラスによってテキストヘッダー表示ラベルユーティリティが置き換えられます。

Lightning Out、Lightning アプリケーション、および Visualforce 用の Lightning コンポーネント への Lightning Design System の拡張

Lightning Design System が Lightning Out、スタンドアロンの Lightning アプリケーション、および Visualforce ページの Lightning コンポーネントで使用できるようになりました。

関連トピック:

- Lightning アプリケーションでの Lightning Design System の使用
- Lightning Out および Lightning Components for Visualforce の Lightning Design System を使用した一貫性のあるデザインの作成

API

API バージョン 38.0 では、より多くのメタデータ型とデータオブジェクトにアクセスできます。

エディション

使用可能なエディション: **Developer** Edition、**Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition、および **Performance** Edition

このセクションの内容:

API コール数を増やして API 制限の計算時の負荷を軽減

API 要求制限の計算を簡素化し、すべての組織に対し、24 時間あたりのコール数を増やしました。Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition および API アクセスを有効にした Professional Edition の場合、以前の計算はライセンス数とライセンスの種類に基づいており、24 時間あたり 15,000 コールという最小値を保証をしていました。今回この最小値を廃止し、すべての組織に対して制限数を 15,000 コール追加しました。Developer Edition 組織と Sandbox の場合の計算は以前と同じです。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

SOQL

Salesforce Object Query Language (SOQL) には、外部キーの名前への参照アクセスが含まれます。

SOSL

Salesforce Object Search Language (SOSL) で WITH SNIPPET 句がサポートされるようになりました。

REST API

REST API には、リソースの変更と、一度に複数の要求を実行するためのパイロットリソースの追加があります。

SOAP API

SOAP API には、新規、変更、および廃止されたコールが含まれます。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。このリリースで、投稿とコメントを不適切またはスパムとしてフラグ設定したり、コメントにリッチテキストやインライン画像を追加したりできるようになりました。また、トピック通知を登録するなどの機能も追加されています。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の機能強化には、分析通知を示す新しいリソース、および新しいレポートとダッシュボードのプロパティへのアクセスが含まれます。

Bulk API

Bulk API の制限が緩和されました。

Messaging

Messaging にはパイロット機能である、プラットフォームイベントが含まれます。

Tooling API

Tooling API で、オブジェクト、コール、リソースが新規追加および変更されました。

アクション API

アクション API は更新され、呼び出し可能なプロセスが反映されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

Open CTI API

Lightning Experience で Open CTI が使用できるようになりました。新しい Open CTI メソッドでは、Salesforce をカスタマイズしてコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムと統合できます。

API コール数を増やして API 制限の計算時の負荷を軽減

API 要求制限の計算を簡素化し、すべての組織に対し、24 時間あたりのコール数を増やしました。Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition および API アクセスを有効にした Professional Edition の場合、以前の計算はライセンス数とライセンスの種類に基づいており、24時間あたり 15,000 コールという最小値を保証をしていました。今回この最小値を廃止し、すべての組織に対して制限数を 15,000 コール追加しました。Developer Edition 組織と Sandbox の場合の計算は以前と同じです。

新しい計算への更新はすぐに有効にならないことがあります。Winter'17へのアップグレード後に古い計算を使用している場合は、アカウントエグゼクティブに問い合わせて新しい計算に切り替えてください。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクト
次のオブジェクトが新規追加されました。

変更されたオブジェクト
次のオブジェクトが変更されました。

新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

AssignedResource
サービス予約に割り当てられたサービス人員を表します。割り当てられたリソースは、サービス予約の[割り当て済み人員] 関連リストに表示されます。

CampaignInfluence
カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスのキャンペーンと商談間の関連付けを表します。

CampaignInfluenceModel
この参照のみのオブジェクトは、カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスのキャンペーンインフルエンスモデルを表します。キャンペーンインフルエンスモデルを使用して、定義したトリガとワークフローの特定のセットで作成した `CampaignInfluence` レコードをグループ化します。

ContentAsset
Lightning Experience のカスタムアプリケーションでアセットファイルに変換された Salesforce ファイルを表します。Salesforce Files を組織の設定および定義のために使用できるようにします。アセットファイルは他のコンポーネントによるパッケージ化と参照が可能です。

MetadataPackage
ログインしている組織で開発された管理パッケージまたは未管理パッケージを表します。

MetadataPackageVersion
ログインしている組織からアップロードされたパッケージバージョン (管理または未管理) を表します。

OperatingHours
サービステリトリー、サービス人員、または取引先がフィールドサービス作業に対応できる時間を表します。

OperatingHoursFeed
業務時間レコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

OperatingHoursHistory
業務時間レコードの追跡項目に対する変更履歴を表します。

PackagePushError
転送要求中に発生したエラーを表します。作成される PackagePushError レコードの数は、エラーになった要求での転送ジョブ数に基づきます。

PackagePushJob
組織で、あるバージョンから別のバージョンへパッケージをアップグレードするための個々の転送ジョブを表します。1 つの転送要求に対して複数の転送ジョブを作成できます。たとえば、5 つの組織を 1 つの転送でアップグレードする場合、1 つの PackagePushRequest レコードと 5 つの PackagePushJob レコードが作成されます。

PackagePushRequest
1つまたは複数の組織で、あるバージョンから別のバージョンへパッケージをアップグレードするための転送要求を表します。

PackageSubscriber
組織でのパッケージのインストールを表します。このオブジェクトには、ログインしている組織で開発された管理パッケージのインストール情報が含まれます。

ResourceAbsence
サービス人員が作業できない期間を表します。

ResourceAbsenceFeed
人員不在レコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

ResourceAbsenceHistory
人員不在の追跡項目に対する変更履歴を表します。

ServiceAppointment
顧客のフィールドサービス作業を完了するための予約を表します。

ServiceAppointmentFeed
サービス予約レコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

ServiceAppointmentHistory
サービス予約の追跡項目に対する変更履歴を表します。

ServiceAppointmentOwnerSharingRule
所有者以外のユーザとサービス予約を共有するルールを表します。

ServiceAppointmentShare
サービス予約の共有エントリを表します。

ServiceResource
フィールドサービスのサービス技術者または派遣担当者を表します。

ServiceResourceCapacity
特定の期間内に業務量ベースのサービス人員が完了できる最大スケジュール時間または最大サービス予約数を表します。

ServiceResourceCapacityFeed
サービス人員業務量レコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

ServiceResourceCapacityHistory
サービス人員業務量レコードの追跡項目に対する変更履歴を表します。

ServiceResourceFeed
サービス人員レコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

ServiceResourceHistory
サービス人員の追跡項目に対する変更履歴を表します。

ServiceResourceOwnerSharingRule
所有者以外のユーザとサービス人員を共有するルールを表します。

ServiceResourceShare
サービス人員の共有エントリを表します。

ServiceResourceSkill
サービス人員が持つスキルを表します。

ServiceResourceSkillFeed
サービス人員スキルレコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

ServiceResourceSkillHistory
サービス人員スキルの追跡項目に対する変更履歴を表します。

ServiceTerritory
フィールドサービス作業を実行できる地域を表します。

ServiceTerritoryFeed
サービステリトリーレコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

ServiceTerritoryHistory
サービステリトリーの追跡項目に対する変更履歴を表します。

ServiceTerritoryMember
サービステリトリーで作業可能なサービス人員を表します。

ServiceTerritoryMemberFeed
サービステリトリーメンバーレコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

ServiceTerritoryMemberHistory
サービステリトリーメンバーの追跡項目に対する変更履歴を表します。

SkillRequirement
特定の作業を完了するのに必要なスキルを表します。スキル要件は、作業種別、作業指示、および作業指示品目に追加できます。

SkillRequirementFeed
スキル要件レコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

SkillRequirementHistory
スキル要件の追跡項目に対する変更履歴を表します。

TimeSlot
指定された曜日の、フィールドサービス作業を実行可能な時間帯を表します。業務時間は、1つ以上の時間枠で構成されます。

TimeSlotHistory
時間枠の追跡項目に対する変更履歴を表します。

UserCustomBadge
ユーザのカスタムバッジを表します。

UserCustomBadgeLocalization
ユーザのカスタムバッジの翻訳バージョンを表します。

WorkType
実行する作業の種別を表します。作業種別は、作業指示または作業指示品目に適用可能なテンプレートです。

WorkTypeFeed
作業種別レコードの詳細ページに表示される 1 つのフィード項目を表します。

WorkTypeHistory
作業種別の追跡項目に対する変更履歴を表します。

変更されたオブジェクト

次のオブジェクトが変更されました。

変更されたオブジェクト

Account

Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition では、取引先レコードの作成時または更新時に Salesforce によって地理位置情報項目が自動的に追加または更新されるようになりました。この機能を使用するには、システム管理者が取引先の地理情報クリーンアップルールを有効にする必要があります。

その他すべてのエディションについては、SOQL、ワークベンチ、SOAP API、REST API、または地理コードサービスを使用して緯度と経度の値を設定します。これにより、住所項目を場所の値として使用できます。地理コードサービスを見つけるには、AppExchange を検索します。

また、取引先オブジェクトに新しい項目 `OperatingHoursId` が追加されました。この項目には取引先と関連付けられた業務時間が表示され、Field Service Lightning が有効になっている場合のみ使用できます。

ApexTestRunResult

ApexTestRunResult オブジェクトに次の 3 つの新規項目が追加されました。

- `MethodsCompleted` — テストの実行時に完了したメソッドの合計数。この値は各クラスの実行後に更新されます。
- `MethodsEnqueued` — テストの実行でキューに追加されたメソッドの合計数。この値はテストの実行前に初期化されます。
- `MethodsFailed` — このテストの実行時に失敗したメソッドの合計数。この値は各クラスの実行後に更新されます。

Case

Case オブジェクトに次の 4 つの新規項目が追加されました。

- `ContactEmail` — 取引先責任者のメールアドレス。Case.ContactEmail 項目は取引先責任者のメール項目を表示し、Case.ContactId はこれを参照します。表示ラベルは［取引先責任者 メール］です。
- `ContactFax` — 取引先責任者の FAX 番号。表示ラベルは［取引先責任者 Fax］です。
- `ContactMobile` — 取引先責任者の携帯電話番号。表示ラベルは［取引先責任者 携帯］です。
- `ContactPhone` — 取引先責任者の電話番号。表示ラベルは［取引先責任者 電話］です。

Contact

Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition では、取引先責任者レコードの作成時または更新時に Salesforce によって地理位置情報項目が自動的に追加または更新されるようになりました。この機能を使用するには、システム管理者が取引先責任者の地理情報クリーンアップルールを有効にする必要があります。

その他すべてのエディションについては、SOQL、ワークベンチ、SOAP API、REST API、または地理コードサービスを使用して緯度と経度の値を設定します。これにより、住所項目を場所の値として使用できます。地理コードサービスを見つけるには、AppExchange を検索します。

ContentDocument

`ContentAssetId` 項目が追加されました。アセットファイルの場合、この項目はファイルアセットを指し示します。ほとんどのファイルで、この項目の値は `null` です。

ContentVersion

`IsAssetEnabled` 項目が追加されました。システム管理者が新規 ContentVersion レコードを作成すると、この項目で、アセットが存在しない場合に関連する ContentDocument ファイルから自動的にアセットを作成するかどうかが指定されます。

EmailMessage

EmailMessage オブジェクトに次の新規項目が追加されました。

`ContentDocumentIds` — メールに関連付けられた、ファイルや添付ファイルなどのコンテンツドキュメントの ID の文字列配列。ID はそれぞれ `ContentDocumentLink` レコードにリンクされます。このレコードはメールメッセージとコンテンツドキュメントレコード間のリレーションを表します。

Entitlement

Entitlement オブジェクトに新規参照項目 `SvcApptBookingWindows` が追加されました。ユーザインターフェースでのこの項目の表示ラベルは［稼働時間］です。この項目にはエンタイトルメントの業務時間が表示され、Field Service Lightning が有効になっている場合のみ使用できます。

FeedComment

FeedComment オブジェクトに次の 2 つの新規項目が追加されました。

- `Status` — 特定のユーザは、フィードコメントが確認待機中であって、ほとんどのユーザに表示されないか、公開済みであって、親フィード項目にアクセスできるすべてのユーザに表示されるかを指定できます。開発者は、フィードコメントの `Status` を確認待機中から公開済みに、および公開済みから確認待機中に変更できます。
- `IsRichText` — フィードの `CommentBody` にリッチテキストが含まれているかどうか、つまりフォーマッティング、インライングラフィック、コードスニペットの組み合わせが含まれているかどうかを示します。

FeedItem

FeedItem オブジェクトの `Status` 項目は正式リリースであり、ベータではなくなりました。開発者は、フィード項目の `Status` を確認待機中から公開済みに、および公開済みから確認待機中に変更できます。

ForecastingItem

ForecastingItem オブジェクトに次の新規項目が追加されました。

- `AmountWithoutOwnerAdjustment` —売上予測所有者が調整せずに表示する予測金額。これは、マネージャまたは部下自身が行った調整に所有者自身の商談の積み上げ集計を加えたものを含む、部下の商談の合計金額です。*売上予測所有者の調整は含まれません。*
- `QuantityWithoutOwnerAdjustment` —売上予測所有者が調整せずに表示する数量ベースの売上予測。これは、マネージャまたは部下自身が行った調整に所有者自身の商談の積み上げ集計を加えたものを含む、部下の商談の合計金額です。*売上予測所有者の調整は含まれません。*

Lead

Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition では、リードレコードの作成時または更新時に Salesforce によって地理位置情報項目が自動的に追加または更新されるようになりました。この機能を使用するには、システム管理者がリードの地理情報クリーンアップルールを有効にする必要があります。

その他すべてのエディションについては、SOQL、ワークベンチ、SOAP API、REST API、または地理コードサービスを使用して緯度と経度の値を設定します。これにより、住所項目を場所の値として使用できます。地理コードサービスを見つけるには、AppExchange を検索します。

LiveChatDeployment

LiveChatDeployment オブジェクトに次の 2 つの新規項目が追加されました。

- `ConnectionTimeoutDuration` — チャットがタイムアウトになるまでの時間 (秒) を示します。
- `ConnectionWarningDuration` — エージェントにタイムアウト警告が表示されるまでの時間 (秒) を示します。

OpportunityLineItemSchedule

OpportunityLineItem レコードが以前にスケジュールを設定した商品に作成されると、OpportunityLineItemSchedule レコードも作成されます。

PlatformAction

PlatformAction オブジェクトに次の 2 つの新規項目が追加されました。

- `IsMassAction` — アクションを複数のレコードに対して実行できるかどうかを示します。
- `RelatedListRecordId` — オブジェクトの関連リスト内のレコードの ID を表します。

また、`ActionListContext` 選択リスト項目に 新しい値、`Assistant` が追加されました。

PermissionSet

PermissionSet オブジェクトに次の 2 つの新規項目が追加されました。

- `LicenseId` — この権限セットに関連付けられた関連 PermissionSet または UserLicense の ID。非推奨で API バージョン 37.0 までしか使用できない `UserLicenseId` の代わりにこの項目を使用してください。
- `PermissionsShowCompanyNameAsUserBadge` — 有効な場合、ユーザの会社名 (使用可能な場合) がコミュニティロールの代わりに表示されます。

PermissionSet および Profile

PermissionSet および Profile オブジェクトに次の新規ユーザ権限が追加されました。

- `PermissionsSendThroughGmail` — ユーザが、Gmail や Office 365 など、組織に設定された外部メールサービスを使用してメールを送信できるようにします。

PermissionSetLicense

PermissionSetLicense オブジェクトに次の新規項目が追加されました。

- `MaximumPermissionsShowCompanyNamesAsUserBadge` — 有効な場合、ユーザの会社名 (使用可能な場合) がコミュニティロールの代わりに表示されます。

Profile

オブジェクト権限、項目権限、設定オブジェクトアクセスを既存のカスタムプロファイルで更新できるようになりました。項目権限と設定オブジェクトアクセスは、既存の標準プロファイルで更新できます。以前は、メタデータ API またはユーザインターフェースでこのような更新を行う必要がありました。たとえば、データローダを使用して、複数のプロファイルで項目レベルの権限を一括更新できます。開発者は、Apex クラスを作成してプロファイルを更新し、承認フローでそのクラスを参照できます。

Profile オブジェクトにも次の新規項目が追加されました。

- `PermissionsShowCompanyNameAsUserBadge` — 有効な場合、ユーザの会社名 (使用可能な場合) がコミュニティロールの代わりに表示されます。

QuoteDocument

QuoteDocument オブジェクトに新規項目 `Template` が追加されました。この項目は、将来の使用のために予約されています。

Skill

Skill オブジェクトに次の 2 つの新規項目が追加されました。

- `Description` — スキルの説明。
- `LastViewedDate` — スキルが最後に表示された日付。

また、`MasterLabel` 項目に新規プロパティ、`idLookup` が追加されました。

TwoFactorMethodsInfo

TwoFactorMethodsInfo オブジェクトに次の新規項目が追加されました。

`HasU2F` — ユーザが U2F セキュリティキーを ID 検証方法として登録しているかどうかを示します。

User

User オブジェクトに次の 3 つの新規項目が追加されました。

- `MediumBannerPhotoURL` — ユーザプロファイルバナー写真 (中) の URL。
- `SmallBannerPhotoURL`—ユーザプロファイルバナー写真 (小) の URL。
- `UserPreferencesHideBiggerPhotoCallout`—プロファイル写真 (大) の下のコールアウトテキストを非表示にできます。

VerificationHistory

次の項目に、Lightning Login の登録とログインに関連する新規選択リスト値が追加されました。

- `Activity` 項目:
  - EnableLL — ユーザが Lightning Login で登録を試行しました。
- `Policy` 項目:

  - `EnableLightningLogin` — Lightning Login でのユーザ登録に ID 検証が必要です。この検証はユーザが登録を試行したときにトリガされます。ユーザに「Lightning Login ユーザ」ユーザ権限があり、[セッションの設定] の [Lightning Login の許可] が組織で有効になっている場合は、登録が可能です。
  - `LightningLogin` — Lightning Login でのユーザのログインに ID 検証が必要です。この検証は登録済みユーザがログインを試行したときにトリガされます。ユーザに「Lightning Login ユーザ」ユーザ権限があり、Lightning Login での登録が成功し、かつ [セッションの設定] の [Lightning Login の許可] が組織で有効になっている場合は、ログインが可能です。

- `VerificationMethod` 項目:
  - `EnableLL` — Lightning Login で登録するために、Salesforce Authenticator がユーザのモバイルデバイスに通知を送信しました。
  - `LL` — Lightning Login でのログインを承認するために、Salesforce Authenticator がユーザのモバイルデバイスに通知を送信しました。

WorkOrder

WorkOrder オブジェクトに次の 5 つの新規項目が追加されました。

- `Duration` — 作業指示を完了するのに必要な予定時間。作業指示のサービス予約はこの値を継承します。
- `DurationType` — 所要時間の単位 (分または時間)。作業指示のサービス予約はこの値を継承します。
- `ServiceTerritoryId` — 作業指示が実行されるサービステリトリー。
- `StatusCategory` — `Status` 項目の値が属するカテゴリ。[状況のカテゴリ] 項目には 8 個のデフォルト値があります。7 個の値はデフォルトの [状況] 値と同じであり、状況のカテゴリがない状況のために [なし] という値があります。
- `WorkTypeId` — 作業指示に関連付けられた作業種別。作業種別が選択されている場合、作業指示はその作業種別のスキル要件、`Duration`、および `DurationType` を継承します。

さらに、[状況] 選択リスト項目には、[保留中]、[キャンセル]、[完了不可] という、3 つの新しい値が追加され、[割り当て済み] と [スケジュール済み] の値は削除されました。

WorkOrder では、地理位置情報複合項目の動作も変更されました。

Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition では、WorkOrder レコードの作成時または更新時に Salesforce によって地理位置情報項目が自動的に追加または更新されるようになりました。この機能を使用するには、システム管理者が WorkOrder の地理情報クリーンアップルールを有効にする必要があります。

その他すべてのエディションについては、SOQL、ワークベンチ、SOAP API、REST API、または地理コードサービスを使用して緯度と経度の値を設定します。これにより、住所項目を場所の値として使用できます。地理コードサービスを見つけるには、AppExchange を検索します。

WorkOrderLineItem

WorkOrderLineItem オブジェクトに次の 16 個の新規項目が追加されました。

- `Address` — 品目が実行される住所。
- `City` — 品目の住所の市区郡。
- `Country` — 品目の住所の国。
- `Duration` — 品目を完了するのに必要な予定時間。

- DurationType — 所要時間の単位 (分または時間)。
- GeocodeAccuracy — 物理的住所と比較した場合の場所の地理座標の精度レベル。
- IsClosed — 品目が完了しているかどうかを示します。品目の状況を Closed に変更すると、ユーザインターフェースでこのチェックボックスがオンになります。
- Latitude — Longitude と一緒に使用して、品目が完了した住所の正確な地理位置情報を指定します。
- Longitude — Latitude と一緒に使用して、品目が完了した住所の正確な地理位置情報を指定します。
- PostalCode — 品目の住所の郵便番号。
- ServiceTerritoryId — 品目が実行されるサービステリトリー。
- State — 品目の住所の都道府県。
- StatusCategory — 品目の状況に対応するカテゴリ。
- Street — 品目の住所の町名・番地。
- Subject — 品目について説明する短い語句。
- WorkTypeId — 品目に関連付けられた作業種別。作業種別が選択されている場合、品目はその作業種別の [所要時間]、[所要時間種別]、および必要なスキルを自動的に継承します。

その他にも、次の項目が変更されました。

- [状況] 選択リスト項目には、[保留中]、[キャンセル]、[完了不可] という、3つの新しい値が追加されました。
- CurrencyIsoCode 項目の更新、作成、null 化ができなくなりました。
- Product2Id 項目の更新と作成ができなくなりました。
- PricebookEntryId 項目が更新可能になりました。

SOQL

Salesforce Object Query Language (SOQL) には、外部キーの名前への参照アクセスが含まれます。

外部キーの名前へのアクセス

参照オブジェクトに対するアクセス権がない場合でも外部キーの名前項目に参照できるようになりました。これまでは、オブジェクトに対するアクセス権がない場合、ドット表記法を使用して取得した名前は null 値になりました。

次の例では、Parent.Name が親オブジェクトへのアクセス権に関係なく正しい値を返します。

```
SELECT Name, Parent.Name FROM Account
```

同様に、アクセス権のないオブジェクトの名前を使用して絞り込みを行うと、条件を満たすすべての行が返されます。

SOSL

Salesforce Object Search Language (SOSL) で WITH SNIPPET 句がサポートされるようになりました。

WITH SNIPPET へのサポートの拡張

Case、CaseComment、FeedItem、FeedComment、Idea、IdeaComment でスニペットと強調表示がサポートされるようになりました。さらに、強調表示された用語は ではなく <mark> でタグ付けされるようになりました。

結果にスニペットと強調表示が含まれるフィード投稿の要求の例を次に示します。

```
FIND {San Francisco} IN ALL FIELDS RETURNING FeedItem, FeedComment WITH SNIPPET
(target_length=120)
```

応答内の強調表示された項目の例を次に示します。

```
"snippet.text" : "The <mark>SF</mark> Bay Area, commonly known as the Bay Area, is a
populated region that"
```

REST API

REST API には、リソースの変更と、一度に複数の要求を実行するためのパイロットリソースの追加があります。

このセクションの内容:

REST API を使用したデータカテゴリと記事へのアクセス
新しいナレッジサポート REST API を使用して、承認済みユーザとゲストユーザの両方が自身の表示可能なデータカテゴリとその関連記事を取得できます。

Composite リソースを使用した複数の要求の一度での実行 (パイロット)
モバイルアプリケーションを作成しているところを想像してみてください。クライアントと Salesforce の間を往復する回数を減らすために、複数の REST API 要求を 1 回のコールで実行する必要があります。Batch リソースを検討しましたが、Batch ではサブ要求間で情報が渡されません。これまでならあきらめるところですが、 もうその必要はありません! Composite リソースを使用すると、1 回のコールで複数の要求を実行でき、あるサブ要求の結果を後のサブ要求で参照できます。

新しいリソース: Flows と Flow Interviews (パイロット)
Visual Workflow の独自のランタイム環境を作成したいと思ったことはありませんか? それが可能になりました。フローを記述する 2 つのリソースとインタビューを記述および操作する 3 つのリソースが提供されます。既存のパイロットユーザの場合、前回のリリースからの変更はありません。

変更されたリソース: Parameterized Search
Case、CaseComment、FeedItem、FeedComment、Idea、IdeaComment でスニペットと強調表示がサポートされるようになりました。

変更されたリソース: Search Suggested Records
1 つの推奨レコード要求内に最大 10 個のオブジェクト種別を指定できるようになりました。このリソースでは、KnowledgeArticleVersion もサポートされるようになりました。さらに、要求内のオブジェクトのリストにサポートされていないオブジェクトが含まれていたらエラーを表示する場合、新しい `ignoreUnsupportedSObjects` パラメータで指定できます。

変更されたリソース: SObject Suggested Articles
記事の提案が、作業指示と作業指示品目でサポートされるようになりました。

REST API を使用したデータカテゴリと記事へのアクセス

新しいナレッジサポート REST API を使用して、承認済みユーザとゲストユーザの両方が自身の表示可能なデータカテゴリとその関連記事を取得できます。

REST API では次のリソースが使用できます。

メモ: リンクは、リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります。

- Data Category Group
- Data Category Detail
- Article List
- Article Detail

関連トピック:

Force.com REST API 開発者ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Composite リソースを使用した複数の要求の一度での実行 (パイロット)

モバイルアプリケーションを作成しているところを想像してみてください。クライアントと Salesforce の間を往復する回数を減らすために、複数の REST API 要求を 1 回のコールで実行する必要があります。Batch リソースを検討しましたが、Batch ではサブ要求間で情報が渡されません。これまでならあきらめるところですが、もうその必要はありません! Composite リソースを使用すると、1 回のコールで複数の要求を実行でき、あるサブ要求の結果を後のサブ要求で参照できます。

メモ: Composite リソースは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Composite リソースは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Composite リソースについてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

Composite

```
/vXX.X/composite
```

新しいリソース: Flows と Flow Interviews (パイロット)

Visual Workflow の独自のランタイム環境を作成したいと思ったことはありませんか? それが可能になりました。フローを記述する 2 つのリソースとインタビューを記述および操作する 3 つのリソースが提供されます。既存のパイロットユーザの場合、前回のリリースからの変更はありません。

メモ: フローランタイム REST API は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。フローランタイム REST API は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。

現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フローランタイム REST API についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

Flows

組織の有効なフロー定義を表示します。

```
/vXX.X/process/flows
```

Specific Flow

特定のフローに関する概要情報を表示します。

```
/vXX.X/process/flows/FlowName
```

Paused Interviews

実行中のユーザが再開できる一時停止中のインタビューを表示します。

```
/vXX.X/process/interviews
```

New Interview

フローインタビューを開始します。

```
/vXX.X/process/interviews/FlowName
```

Specific Interview

進行中のインタビューを続行、一時停止、または終了したり、一時停止中のインタビューを再開したりします。

```
/vXX.X/process/interviews/FlowName/guid
```

変更されたリソース: Parameterized Search

Case、CaseComment、FeedItem、FeedComment、Idea、IdeaComment でスニペットと強調表示がサポートされるようになりました。

たとえば、`q=tourism&sobject=Case&snippet=500` のようになります。

変更されたリソース: Search Suggested Records

1 つの推奨レコード要求内に最大 10 個のオブジェクト種別を指定できるようになりました。このリソースでは、KnowledgeArticleVersion もサポートされるようになりました。さらに、要求内のオブジェクトのリストにサポートされていないオブジェクトが含まれていたらエラーを表示する場合、新しい `ignoreUnsupportedSObjects` パラメータで指定できます。

複数のオブジェクト種別を指定する要求の例を次に示します。

```
search/suggestions?q=Acme&sobject=Lead,Account,Opportunity
```

変更されたリソース: SObject Suggested Articles

記事の提案が、作業指示と作業指示品目でサポートされるようになりました。

SOAP API

SOAP API には、新規、変更、および廃止されたコールが含まれます。

新規、変更、および廃止されたコール

新しいコール

`findDuplicates()`
ルールに基づいて、重複レコードの検索を実行します。入力は sObject の配列で、それぞれが検索する値と重複ルールを示すオブジェクトの種別を指定します。重複ルールを示すオブジェクトごとに、検出された重複が出力で識別されます。`findDuplicates()` はルールを値に適用し、検索を実行します。sObject ごとに、検出された重複が出力で識別されます。

変更されたコール

`describeFlexiPages()` および DescribeFlexiPageResult
`type` 項目が DescribeComponentInstanceProperty に追加されました。この項目値が `null` の場合、ComponentInstanceProperty の値が Lightning コンポーネントに適用されます。この項目値が `decorator` の場合、ComponentInstanceProperty の値が Lightning コンポーネントのコンポーネントデコレータに適用されます。

コンポーネントデコレータは、Lightning コンポーネントを囲むラッパーです。このデコレータでは、Lightning Experience に特定のページを表示するときに、追加の機能をコンポーネントに適用できます。たとえば、Lightning Experience ユーティリティバー上のコンポーネントを囲むコンポーネントデコレータを設定して、開いたときのコンポーネントの高さや幅を設定できます。`UtilityBar` は、コンポーネントデコレータをサポートする唯一のページ種別です。

`describeLayout()` および DescribeLayoutResult
`fieldApiName` 項目が RelatedListColumn に追加されました。この項目は、関連リストのメインの sObject に関連付けられた項目の SOQL 項目構文を表します。`name` とは異なり、`toLabel()` 形式で値を返しません。

`describeQuickAction()` および DescribeQuickActionResult
次の項目が追加されました。

- `lightningComponentBundleId` — Lightning コンポーネントのクイックアクションでコールされる Lightning コンポーネントバンドルの ID。
- `lightningComponentBundleName` — Lightning コンポーネントのクイックアクションでコールされる Lightning コンポーネントバンドルの名前。

type 項目で、Lightning コンポーネントアクションを表す `LightningComponent` 値がサポートされるようになりました。

廃止予定のコール

`describeFlexiPages()` コールは Spring '17 (API バージョン 39.0) で廃止されます。メタデータおよび Tooling API を使用して今後も FlexiPage にアクセスできます。

変更されたデータ型

次のデータ型は API バージョン 38.0 で変更されました。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。このリリースで、投稿とコメントを不適切またはスパムとしてフラグ設定したり、コメントにリッチテキストやインライン画像を追加したりできるようになりました。また、トピック通知を登録するなどの機能も追加されています。

メモ: Salesforce で Chatter およびコミュニティのカスタム操作を作成するには、ConnectApi (Chatter in Apex) を使用します。

このセクションの内容:

新規および変更された Chatter REST API リソース

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

新規および変更された Chatter REST API リソース

コミュニティモデレーション

投稿に不適切またはスパムとしてフラグ付けし、必要に応じてメモを追加する
新しい `type` パラメータを `FlagAsInappropriate` または `FlagAsSpam` に設定し、既存の `/connect/communities/`***`communityId`***`/chatter/feed-elements/`***`feedElementId`***`/capabilities/moderation` リソースに対して POST 要求を実行します。必要に応じて、新しい `note` パラメータを使用してフラグと共にメモを追加します。

コメントに不適切またはスパムとしてフラグ付けし、必要に応じてメモを追加する
新しい `type` パラメータを `FlagAsInappropriate` または `FlagAsSpam` に設定し、既存の `/connect/communities/`***`communityId`***`/chatter/comments/`***`commentId`***`/moderation-flags` リソースに対して POST 要求を実行します。必要に応じて、新しい `note` パラメータを使用してフラグと共にメモを追加します。

ファイルに不適切またはスパムとしてフラグ付けし、必要に応じてメモを追加する
新しい `type` パラメータを `FlagAsInappropriate` または `FlagAsSpam` に設定し、既存の `/connect/communities/`***`communityId`***`/files/`***`fileId`***`/moderation-flags` リソースに対して POST 要求を実行します。必要に応じて、新しい `note` パラメータを使用してフラグと共にメモを追加します。

Chatter フィード

コメントにリッチテキストを追加する
既存の Message Segment Input: Markup Begin および Message Segment Input: Markup End リクエストボディを指定して、既存の `/chatter/feed-elements/`***`feedElementId`***`/capabilities/comments/items` リソースに対し POST 要求を実行します。

バージョン 35.0 以降では、リッチテキストとインライン画像がコメント本文でサポートされます。

コメントにインライン画像を追加する

既存の Message Segment Input: Inline Image リクエストボディを指定して、既存の `/chatter/feed-elements/`***`feedElementId`***`/capabilities/comments/items` リソースに対し POST 要求を実行します。

バージョン 35.0 以降では、リッチテキストとインライン画像がコメント本文でサポートされます。

ユーザ ID ではなくユーザ名でユーザにメンションする

更新された Message Segment Input: Mention リクエストボディを指定して、既存の `/chatter/feed-elements` リソースに対し POST 要求を実行します。

コメントの状況機能にアクセスする

新規 `/chatter/comments/`***`commentId`***`/capabilities/status` リソースに対して GET 要求を実行します。

コメントの承認または状況を確認待機中に設定する

既存の Status Capability Input を指定して、新しい `/chatter/comments/`***`commentId`***`/capabilities/status` リソースに対し PATCH 要求を実行します。

フィード投稿またはコメントの状況を設定できるのは、「フィード投稿とコメントの承認」権限のあるユーザのみです。

フィード投稿の状況を確認待機中に設定する

既存の Status Capability Input を指定して、既存の `/chatter/feed-elements` リソースに対し PATCH 要求を実行します。

フィード投稿またはコメントの状況を設定できるのは、「フィード投稿とコメントの承認」権限のあるユーザのみです。

ファイル

アセットファイルを作成する

新しい `/connect/files/`***`fileId`***`/asset` リソースに対し、リクエストボディを指定せずに POST 要求を実行します。

アセットファイルに関する情報を取得する

新規 `/connect/file-assets/`***`assetId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

Files Connect

リポジトリファイルの Files Connect リポジトリ情報を取得する

新規 `/connect/content-hub/items/`***`repositoryItemId`***`/repository` リソースに対して GET 要求を実行します。

管理トピック

トピックのリストに関連付けられた管理トピックを取得する

新しい `recordIds` パラメータを指定して、既存の `/connect/communities/`***`communityId`***`/managed-topics` リソースに対し GET 要求を実行します。`recordIds` は最大 10 個のトピック ID のリストです。

トピック

ユーザはトピックなどのエンティティをフォローし、フォローしているトピックに関する通知を受信するかどうかを選択します。通知を受信することを選択した場合、アクセス権のある投稿にトピックが追加されるとメールを受信します。

ユーザが登録通知を受信する頻度に関する情報を取得する

新規 `/chatter/subscriptions/notification/`***`entityId`***`/members/`***`userId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

バージョン 38.0 以降では、*`entityId`* をトピック ID にする必要があります。

登録通知を受信するようにユーザを登録する

新しい Notification Member Input または `notificationFrequency` パラメータを指定して、新しい `/chatter/subscriptions/notification/`***`entityId`***`/members/`***`userId`*** リソースに対し POST 要求を実行します。

バージョン 38.0 以降では、*`entityId`* をトピック ID にする必要があります。

ユーザの通知受信を登録解除する

新しい `/chatter/subscriptions/notification/`***`entityId`***`/members/`***`userId`*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

バージョン 38.0 以降では、*`entityId`* をトピック ID にする必要があります。

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

コミュニティモデレーション

Moderation Flag Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `note` — フラグに関するメモ (最大 4,000 文字)。
- `type` — モデレーションフラグのタイプを指定します。
  - `FlagAsInappropriate` — 不適切なコンテンツのフラグ。
  - `FlagAsSpam` — スパムのフラグ。

Chatter フィード

Feed Element Capabilities Input

この新しい `topics` プロパティは、フィード要素に割り当てるトピックのリストです。

Message Segment Input: Mention

この新しい `username` プロパティは、メンションするユーザのユーザ名です。

Topics Capability Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `contextTopicName` — フィード要素が属する、コミュニティの親トピックの名前。
- `topics` — フィード要素に割り当てるトピックのリスト。

トピック

Topics Capability Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `contextTopicName` — フィード要素が属する、コミュニティの親トピックの名前。
- `topics` — フィード要素に割り当てるトピックのリスト。

Notification Member Input

この新しいリクエストボディには `notificationFrequency` という 1 つのプロパティがあります。このプロパティは、ユーザがフォローしているトピックの電子メールを受信する頻度です。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

Chatter フィード

Comment Capabilities

この新しい `status` プロパティは、コメントに表示を決定する状況が設定されているかどうかを示します。

Comment Page

`total` プロパティは公開されたコメントの合計数です。

Related Question

この新しい `interactions` プロパティは、関連質問が表示、いいね!、またはコメントされた回数です。

Social Account

この新しい `externalSocialAccountId` プロパティは、外部ソーシャルアカウントの ID です (使用可能な場合)。

Social Post Capability

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `deletedBy` — ソーシャル投稿を削除したユーザ。
- `messageType` — ソーシャル投稿のメッセージ種別。値は次のとおりです。
  - `Comment`
  - `Direct`
  - `Post`
  - `PrivateMessage`
  - `Reply`
  - `Retweet`
  - `Tweet`
- `recipientId` — ソーシャル投稿の受信者の ID。

ファイル

アセットファイル

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `baseAssetUrl` — アセットのベースダウンロード URL。

- `id` — アセットの ID。
- `masterLabel` — アセットのマスタ表示ラベル。
- `name` — アセットの一意の名前。
- `namespacePrefix` — アセットが含まれるパッケージの名前空間プレフィックス。
- `type` — アセットの種別。

File Details

新しい `fileAsset` プロパティはアセットファイルです。

Files Connect

Repository Folder Detail

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `createdBy` — フォルダを作成したユーザの名前。
- `createdDate` — フォルダの作成日。
- `description` — フォルダの説明。
- `externalFolderUrl` — 外部システムにおけるこのフォルダの Chatter REST API URL。
- `folderItemsUrl` — このフォルダ内のファイルとフォルダをリストする Chatter REST API URL。
- `id` — フォルダの ID。
- `itemTypeUrl` — 項目種別情報への Chatter REST API URL。
- `modifiedBy` — フォルダを最後に変更したユーザの名前。
- `modifiedDate` — フォルダの最終更新日。
- `motif` — フォルダの Motif。
- `name` — フォルダの名前。
- `path` — 外部システムにおけるフォルダの絶対パス。
- `repository` — フォルダの外部リポジトリ。
- `type` — レコードタイプ `folder`。
- `url`—このフォルダの Chatter REST API URL。

ナレッジ

Article Summary

この新しい `viewCount` プロパティは、ナレッジ記事が表示された回数です。

メッセージ

Email Message Capability

この新しい `totalAttachments` プロパティは、メールメッセージの添付ファイルの総数です。

トピック

Notification Member

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `notificationFrequency` —ユーザがメールを受信する頻度を指定します。バージョン 38.0 以降では、`EachPost` が唯一の有効値です。
- `url` — 通知メンバーの URL。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の機能強化には、分析通知を示す新しいリソース、および新しいレポートとダッシュボードのプロパティへのアクセスが含まれます。

新しいリソース: Analytics Notifications、Analytics Notifications List、Analytics Notifications Limits

レポートおよびダッシュボード REST API には Wave 通知を記述する新しいリソースが含まれています。

リソース URI	サポートされている HTTP メソッド	説明
Analytics Notifications List `/services/data/v38.0/analytics/notifications`	GET POST	最近の通知のリストを返します (GET)。 分析通知を作成します (POST)。
Analytics Notifications `/services/data/v38.0/analytics/notifications/notification ID>`	PUT DELETE	リクエストボディで指定された通知への変更を保存します (PUT)。 通知を削除します。削除された通知は復元できません (DELETE)。
Analytics Notifications Limits `/services/data/v38.0/analytics/notifications/limits`	`GET`	作成できる残りの分析数を確認します。分析通知の数に組織全体の制限はありません。代わりに、ユーザごとに制限されます。

詳細は、*『Reports and Dashboards REST API Developer Guide』* を参照してください。

変更されたリソース: `reportMetadata` および Dashboard Results

レポートおよびダッシュボード REST API には、ロール階層検索条件、選択リスト値の色、および Chatter 写真を示す新しいプロパティがあります。

レポート

`reportMetadata` オブジェクトに新しいプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
`supportsRoleHierarchy`	Boolean	ユーザが Lightning Experience のロール階層でレポートを絞り込むことができるか (true) 否か (false) を示します。
`userOrHierarchyFilterId`	String	ロール階層検索条件で使用されるユーザまたはロールの一意のユーザ ID またはロール ID。

ダッシュボード

Dashboard Results リソースに新しいプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
`picklistColors`	String	選択リスト値を表すために使用される 16 進形式の色。
`chatterPhotoUrl`	String	ユーザの Chatter 写真を指し示す URL。

詳細は、 *『Reports and Dashboards REST API Developer Guide』* を参照してください。

Bulk API

Bulk API の制限が緩和されました。

Bulk API で処理できるレコード数が 2 倍に増加

Bulk API で 1 日に 5,000 バッチをアップロードできるよりもよいことは何でしょうか。「1 日に 10,000 バッチをアップロードできること」と答えた方は正解です!すべての組織で 1 日あたりのバッチ制限が 10,000 に緩和されました。

Messaging

Messaging にはパイロット機能である、プラットフォームイベントが含まれます。

プラットフォームイベントを使用してカスタマイズ可能なイベントの配信 (ベータ)

プラットフォームイベントを使用して、Salesforce 内または外部ソースから安全で拡張性の高いカスタム通知を配信します。項目を定義してプラットフォームイベントをカスタマイズします。カスタムプラットフォームイベントにより、Force.com プラットフォームで生成または使用できるイベントデータが決まります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。プラットホームイベントの定義は、Salesforce Classic のみでできます。

エディション

使用可能なエディション: **Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Enterprise** Edition、および **Developer** Edition

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンのプラットフォームイベントが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。プラットフォームイベントは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、

または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Success コミュニティの「プラットフォームイベント」にフィードバックと提案を入力できます。

プラットフォームイベントを使用して、パブリッシャーは Apex または API 経由でカスタマイズしたイベントデータを送信できます。登録者は Salesforce や外部システムからカスタム通知を受信し、Apex または CometD クライアントを使用してアクションを伴う応答ができます。たとえば、インクが残り少なくなったときにプリンタが API コールを行ってイベントを公開できます。カスタムプリンタイベントには、プリンタモデル、シリアル番号、インクレベルのカスタム項目を追加できます。新しいカートリッジを注文する Apex トリガによって、Salesforce でこのイベントが処理されます。

プラットフォームイベントにより、変更を伝達するプロセスや変更に対応するプロセスが簡素化され、複雑なロジックを構築する必要がなくなります。パブリッシャーと登録者はイベント経由で相互に通信を行います。複数の登録者が同じイベントをリスンして、別々の対応策を実行できます。

プラットフォームイベントの定義

プラットフォームイベントは、Salesforce ユーザインターフェースの [プラットフォームイベント] ページで定義します。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「プラットフォームイベント」と入力し、[プラットフォームイベント] を選択します。

プラットフォームイベントは sObject でありカスタムオブジェクトに類似していますが、制限事項がいくつかあります。イベント通知はプラットフォームイベントのインスタンスです。イベント通知は sObject とは異なり、更新ができません。イベント通知をユーザインターフェースで表示することもできません。プラットフォームイベント定義を削除すると、完全に削除されます。

プラットフォームイベントの公開および登録

プラットフォームイベントの定義後、Apex または API を使用してイベント通知を公開し、イベントに登録できます。

Apex で `EventBus.publish` 静的メソッドを使用し、イベントレコードを挿入してイベント通知を公開します。公開された通知を受信するには、イベントオブジェクトに `after insert` トリガを書き込みます。トリガでは、各イベント通知を調査してビジネスロジックを実行できます。Salesforce では定義済みプラットフォームイベントごとにチャネルが自動的に作成されるため、チャネルを作成する必要はありません。

API を使用し、sObject を挿入するのと同じ方法で、イベントレコードを作成してイベントを公開します。SOAP API、REST API、一括 API などの Salesforce API を使用して、プラットフォームイベントを作成できます。Apex とは異なり、イベントを公開するための追加コールはありません。CometD クライアントを使用して、またはイベントオブジェクトに Apex `after insert` トリガを書き込んでイベントに登録します。

例: Apex を使用してイベントを公開

Apex で、`EventBus.publish` メソッドを使用して 1 つ以上のイベントを公開します。イベント API 参照名はイベント名の末尾に `__e` を追加した名前です。この例では、イベント名は `Low Ink`、Apex で使用す

るイベント API 参照名は Low_Ink__e です。ここでは、EventBus.publish メソッドを使用して 2 つの Low_Ink__e イベントが作成され、挿入されます。

```
List<Low_Ink__e> inkEvents = new List<Low_Ink__e>();
inkEvents.add(new Low_Ink__e(Printer_Model__c='XZO-5', Serial_Number__c='12345',
Ink_Percentage__c=0.2));
inkEvents.add(new Low_Ink__e(Printer_Model__c='MN-123', Serial_Number__c='10013',
Ink_Percentage__c=0.15));

// Call method to publish events
List<Database.SaveResult> results = EventBus.publish(inkEvents);
```

例: **Apex を使用してイベントに登録**

この例は Low_Ink__e イベントのトリガです。インク残量僅少の通知を受信すると、このトリガが起動します。トリガは各イベントを反復処理し、プリンタモデルに基づいて、ケースを作成します。最後にトリガはすべての生成されたケースを挿入します。

```
trigger LowInkTrigger on Low_Ink__e (after insert) {
    // Trigger for catching Low_Ink events.
    // Iterate through each notification.

    // List to hold all cases to be created.
    List<Case> cases = new List<Case>();
    for (Low_Ink__e event : Trigger.New) {
        System.debug('Printer model: ' + event.Printer_Model__c);
        if (event.Printer_Model__c == 'MN-123') {
            // Create Case to order new printer cartridge.
            Case cs = new Case();
            cs.Priority = 'Medium';
            cs.Subject = 'Order new ink cartridge for SN ' + event.Serial_Number__c;
            cases.add(cs);
        }
    }

    // Insert all cases corresponding to events received.
    insert cases;
}
```

関連トピック:

プラットフォームイベント (ベータ)

Tooling API

Tooling API で、オブジェクト、コール、リソースが新規追加および変更されました。

『Force.com Tooling API Developer's Guide』(Force.com Tooling API 開発者ガイド) には、すべての Tooling API に関する情報が含まれています。

このセクションの内容:

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト
Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。ManageableState 項目が追加オブジェクトに公開されました。
Tooling API におけるコールおよびリソースの変更
Tooling API では、SOAP コールおよび REST リソースが変更されました。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。ManageableState 項目が追加オブジェクトに公開されました。

新しいオブジェクト

CleanDataService
組織の既存のレコードでデータを追加および更新するデータサービスを表します。

CleanRule
組織の既存のレコードでデータサービスがデータを追加および更新する方法を制御するクリーンアップルールを表します。

Document
ユーザがアップロードしたファイルを表します。添付ファイルレコードとは異なり、ドキュメントは親オブジェクトに添付されません。

EmbeddedServiceConfig
スナップインリリースを作成するための設定ノードを表します。

EmbeddedServiceLiveAgent
スナップイン Live Agent リリースを作成するための設定ノードを表します。

FieldMapping
データサービスにおける項目と、組織におけるオブジェクトの項目の対応付けを表します。データサービスでは2つの異なる項目対応付けが使用されます。1つはデータサービスでオブジェクトのレコードが一致する方法を制御し、もう 1 つはデータサービスが既存のレコードに対しデータを追加または更新する方法を制御します。

FieldMappingField
データサービスの項目に対応付けられる組織のオブジェクトの項目を表します。

FieldMappingRow
組織のオブジェクトレコードの項目に対応付けられるデータサービスレコードの項目を表します。

Group
ユーザレコードのセットを表します。グループには、個人ユーザ、他のグループ、または特定のロールまたはテリトリーのユーザが含まれます。また、グループには階層の特定のロールまたはテリトリー下のすべてのユーザを含めることができます。

MetadataPackage
ログインしている組織で開発された管理パッケージまたは未管理パッケージを表します。

MetadataPackageVersion
ログインしている組織からアップロードされたパッケージバージョン (管理または未管理) を表します。

PackageUploadRequest
登録者組織への最終的なインストール用のパッケージをアップロードする要求を表します。

変更されたオブジェクト

ApexTestRunResult
次の項目が追加されました。

`MethodsCompleted`
テスト実行時に完了したメソッドの合計数。この値は各クラスの実行後に更新されます。

`MethodsEnqueued`
テスト実行でキューに追加されたメソッドの合計数。この値はテストの実行前に初期化されます。

`MethodsFailed`
このテストの実行時に失敗したメソッドの合計数。この値は各クラスの実行後に更新されます。

ApexTestSuite
Apex テストスイートは複数の組織にリリースできるようになりました。ApexTestSuite オブジェクトは Tooling API バージョン 38.0 以降の `mns` 名前空間で使用できます。ApexTestSuite は Tooling API バージョン 36.0 以降の `ens` 名前空間でも使用可能です。

FlexiPage
`Type` 項目で、次の値がサポートされるようになりました。

- `availableforMailAppAppPage`: Lightning for Outlook のデフォルトのレイアウトを上書きするために使用するメールアプリケーションペインを表します。
- `UtilityBar`: Lightning Experience アプリケーションでユーティリティバーとして使用される Lightning ページを表します。

QuickActionDefinition
`Type` 項目で、Lightning コンポーネントアクションを表す `LightningComponent` 値がサポートされるようになりました。

SecurityHealthCheckRisks
次の項目が追加されました。

`OrgValueRaw`
データベースに保存されている、組織のセキュリティ設定の値。通常、測定単位や追加のテキストはありません。

`StandardValueRaw`
データベースに保存されている、セキュリティ設定の Salesforce 推奨の標準値。通常、測定単位や追加のテキストはありません。

追加のオブジェクトで公開される ManageableState 項目

`ManageableState` 項目はパッケージに含まれる指定コンポーネントの管理可能な状態を示します。API バージョン 38.0 では複数の追加オブジェクトで `ManageableState` 項目が公開されました。

- ApexClass

- ApexComponent
- ApexPage
- AuraDefinition
- AuraDefinitionBundle
- CompactLayout
- FlexiPage
- FlowDefinition
- OpportunitySplitType
- QuickActionDefinition
- RemoteProxy
- TransactionSecurityPolicy

Tooling API におけるコールおよびリソースの変更

Tooling API では、SOAP コールおよび REST リソースが変更されました。

変更された SOAP コール

runTestsAsynchronous()

API バージョン 38.0 以降では、`runTestsAsynchronous()` コールに 2 つの新しいパラメータ (`classNames` と `suiteNames`) が必須になりました。`classids`、`suiteids`、`classNames`、および `suiteNames` パラメータのすべてを指定する必要があります。これらのパラメータの一部のみに値を指定するには、残りのパラメータに `null` を指定します。

次の例では、`runTestsAsynchronous` エンドポイントをコールするクラスへのコールを示します。

```
conn.runTestsAsynchronous(classids, suiteids, maxFailedTests, testLevel.value, classNames,
 suiteNames)
```

変更された REST リソース

/completions?type=

API バージョン 38.0 以降では、`/completions` リソースで `?type=`**visualforce** パラメータを使用して Visualforce マークアップで使用可能なコード補完を取得できます。

/runTestsAsynchronous/

API バージョン 38.0 以降では、`/runTestsAsynchronous/` リソースへのコールで 2 つ新しいパラメータ (`classNames` と `suiteNames`) が使用できます。

`RunLocalTests` または `RunAllTestsInOrg` の `testLevel` 値を入力する場合、クラスやスイートを指定しません。`testLevel` 値を指定しない場合、または `testLevel` を `RunSpecifiedTests` に設定する場合は、次のようになります。

- `classNames`、`classids`、`suiteNames`、および `suiteids` の任意の組み合わせを送信できます。
- これら 4 つのパラメータのうち少なくとも 1 つが必要です。

アクション API

アクション API は更新され、呼び出し可能なプロセスが反映されました。

有効なプロセスの呼び出し

現在の組織で有効なプロセスを呼び出すことができるようになりました。以前は、自動起動フローしか呼び出せませんでした。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

新しいメタデータ型

ApexTestSuite
テスト実行に追加する Apex テストクラスのスイートを表します。

CampaignInfluenceModel
カスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスで使用するキャンペーンインフルエンスモデルを表します。メタデータ API でカスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスは設定できませんが、キャンペーンインフルエンスモデルの追加はできます。

ContentAsset
アセットファイルを作成するためのメタデータを表します。Salesforce ファイルを組織の設定および定義のために使用できるようにします。アセットファイルは他のコンポーネントによるパッケージ化と参照が可能です。

CommunityTemplateDefinition
コミュニティテンプレートの定義を表します。

CommunityThemeDefinition
コミュニティテーマの定義を表します。

CleanDataService
標準オブジェクトでデータを追加および更新するデータサービスを表します。

DuplicateRule
オブジェクト内の重複レコードの検出方法を指定するルールを表します。

GlobalValueSet
グローバル選択リスト値セット (カスタム選択リスト項目で使用できる共有値のセット) のメタデータを表します。グローバル値セットは項目ではありません。これに対し、グローバル選択リストに基づくカスタム選択リスト項目は ValueSet 型になります。

GlobalValueSetTranslation
グローバル値セット翻訳の詳細が含まれます。グローバル値セットは複数のカスタム選択リスト項目 (必要に応じて複数オブジェクト間) で共有可能な値のリストです。

StandardValueSet
標準選択リスト項目の値のセットを表します。Metadata メタデータ型を拡張し、その `fullName` 項目を継承します。

StandardValueSetTranslation
標準選択リストの翻訳の詳細が含まれます。翻訳された標準値セットを返します。

更新されたメタデータ型とメタデータ項目

次のメタデータ型が変更され、メタデータ項目も追加または変更されました。

Certificate
次の項目が追加されました。

`encryptedWithPlatformEncryption`
プラットフォームの暗号化を使用して、この証明書が暗号化されているかどうかを示します。

`privateKeyExportable`
この証明書の非公開鍵がエクスポート可能かどうかを示します。証明書を作成するときに `privateKeyExportable` を指定しないと、デフォルト値が `true` になります。

CustomApplication
次の項目が追加されました。

`actionOverrides`
アプリケーションのoverrideアクションを表します。これを使用して、overrideアクションを作成、更新、編集、または削除します。

`brand`
アプリケーションで使用される配色とロゴ。

`enableListViewHover`
Salesforceコンソールアプリケーションでリストビューのフロート表示が有効になっているかどうかを示します。`true` に設定されている場合、ユーザがレコード名にマウスポインタを置くと、反応型リストにレコードに関するサマリー情報が表示されます。ケースの場合は、件名項目にマウスポインタを置きます。

`enableListViewReskin`
Salesforce コンソールアプリケーションで、Salesforce Classic リストビューではなく、反応型リストビューが使用されているかどうかを示します。

`formFactors`
アプリケーションが Lightning Experience に表示されるフォーム要素を示します。

> メモ: バージョン 38.0 の時点で、Salesforce Classic コンソールを除いて、既存の Salesforce Classic アプリケーションでは、`formFactors` は `Large` に設定されます。バージョン 38.0 以前に作成されたパッケージからインストールされた Salesforce Classic アプリケーションでも、`formFactors` は `Large` に設定されます。38.0 以降で作成されたパッケージの Salesforce Classic アプリケーションでは、Lightning Experience デスクトップに表示される Salesforce Classic アプリケーションで `formFactors` を `Large` に設定する必要があります。

`navType`
更新できません。アプリケーションで使用されるナビゲーションの種別を示します。

`utilityBar`
このアプリケーションに関連付けられた UtilityBar の開発者名。

CustomField

次の項目が追加されました。

`valueSet`
カスタム項目で選択リストを構成する値のセットを表します。

次の項目は削除されました。

`globalPicklist`

CustomObject

`enableReports` 項目で外部オブジェクトがサポートされるようになりました。

FlexiPage

`type` 項目で、次の値がサポートされるようになりました。

- `AvailableforMailAppAppPage` 値: Lightning for Outlook のデフォルトのレイアウトを上書きするために使用するメールアプリケーションペインを表します。
- `CommObjectPage`: コミュニティビルダーで作成したように、コミュニティの Lightning Experience でオブジェクトページを上書きするために使用する Lightning ページを表します。
- `CommQuickActionCreatePage`: コミュニティビルダーで作成したように、コミュニティの Lightning Experience でレコードの作成ページを上書きするために使用する Lightning ページを表します。
- `CommRecordPage`: コミュニティビルダーで作成したように、コミュニティの Lightning Experience でレコードページを上書きするために使用する Lightning ページを表します。
- `CommRelatedListPage`: コミュニティビルダーで作成したように、コミュニティの Lightning Experience で関連リストページを上書きするために使用する Lightning ページを表します。
- `CommSearchResultPage`: コミュニティビルダーで作成したように、コミュニティの Lightning Experience で検索結果ページを上書きするために使用する Lightning ページを表します。
- `CommThemeLayoutPage`: コミュニティビルダーで作成したように、コミュニティの Lightning Experience でテーマレイアウトページを上書きするために使用する Lightning ページを表します。
- `UtilityBar` 値: Lightning Experience アプリケーションでユーティリティバーとして使用される Lightning ページを表します。

この新規項目は、ComponentInstanceProperty サブタイプに追加されています。

`type`
この項目値が `null` の場合、ComponentInstanceProperty の値が Lightning コンポーネントに適用されます。この項目値が `decorator` の場合、ComponentInstanceProperty の値が Lightning コンポーネントのコンポーネントデコレータに適用されます。

コンポーネントデコレータは、Lightning コンポーネントを囲むラッパーです。このデコレータでは、Lightning Experience に特定のページを表示するときに、追加の機能をコンポーネントに適用できます。たとえば、Lightning Experience ユーティリティバー上のコンポーネントを囲むコンポーネントデコレータを設定して、開いたときのコンポーネントの高さや幅を設定できます。`UtilityBar` は、コンポーネントデコレータをサポートする唯一のページ種別です。

Flow

`processType` 項目で `InvocableProcess` 値がサポートされるようになりました。この値は他のプロセスによって呼び出し可能なプロセスを表します。

GlobalValueSetTranslation

`valueTranslation` 項目は翻訳されたグローバル値セットの値の翻訳された名前を表します。

LiveChatDeployment

次の項目が追加されました。

`connectionTimeoutDuration`

チャットがタイムアウトになるまでの時間 (秒) を示します。

`connectionWarningDuration`

エージェントにタイムアウト警告が表示されるまでの時間 (秒) を示します。

Network

次の項目が追加されました。

`enableSiteAsContainer`

コミュニティでタブの代わりに Site.com ページを使用するかどうかを決定します。

PermissionSet

`license` 項目には、関連権限セットライセンス、またはこの権限セットに関連付けられているユーザライセンスが含まれます。非推奨で API バージョン 37.0 までしか使用できない `userLicense` の代わりにこの項目を使用してください。

PermissionSet および Profile

ユーザインターフェースでは変更できない項目の場合は、メタデータ API を使用して、項目権限を変更し、項目を編集可能にすることができます。たとえば、`Asset.ProductCode` はユーザインターフェースでは変更できませんが、編集可能項目としてリリースできます。

QuickAction

`type` 項目で、Lightning コンポーネントアクションを表す `LightningComponent` 値がサポートされるようになりました。

次の新規項目が追加されました。

`lightningComponent`

カスタムアクションが Lightning コンポーネントを呼び出す場合、この項目は、そのコンポーネントの完全修飾名を表します。それ以外の場合、この項目は `null` になります。

Report

新しい `numSubscriptions` 項目は、将来の使用のために予約されています。

ReportType

`baseObject` 項目で外部オブジェクトがサポートされるようになりました。

Skill

この新しい `description` 項目では、説明をスキルに追加できます。

Translations

`globalPicklists` 項目は削除され、`customValue` に置き換えられました。これはグローバル値セットまたはカスタム選択リスト項目の値を表します。API バージョン 38.0 以降では、GlobalValueSetTranslation と StandardValueSetTranslation を使用して翻訳が実行されます。

関連トピック:

選択リストのメタデータ API の合理化

リリース: クイックリリースの柔軟性が向上、リリース可能な項目の追加

Open CTI API

Lightning Experience で Open CTI が使用できるようになりました。新しい Open CTI メソッドでは、Salesforce をカスタマイズしてコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムと統合できます。

Lightning Experience の活用が Open CTI API の最新化の契機となり、簡単に使用できる Lightning Experience 専用の新しい Open CTI API が作成されました。API では JSON オブジェクトが個々のパラメータの代わりにパラメータとして使用され、Lightning プラットフォームに対応したわかりやすいエラーメッセージが返されます。

Lightning Experience での Open CTI についての詳細は、「Lightning Experience での Open CTI を使用した通話の発信」および *「Open CTI」* を参照してください。

ISVforce: API を使用したパッケージのアップロードおよびアップグレードの自動化

ISVforce ツールを使用して、アプリケーションと Lightning コンポーネントを容易に作成、パッケージ化、および配布できます。このリリースでは、Tooling API と標準オブジェクトをそれぞれ使用してパッケージのアップロードおよびアップグレードを自動化することで、パッケージ管理からこの作業を取り除くことができます。また、自動メール通知を使用して迅速に登録者の問題に対応することもできます。

エディション

使用可能なエディション: **Developer** Edition

このセクションの内容:

メール通知による登録者パッケージエラーの追跡

登録者がパッケージアプリケーションのインストール、アップグレード、またはアンインストールに失敗したときに、組織のメールアドレスに通知を送信できるようになりました。通知を使用して、管理パッケージおよび未管理パッケージの問題に積極的に対応し、アプリケーションを正常にインストールおよびアップグレードできるように登録者をサポートします。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

API による管理パッケージの転送アップグレードの自動化

6 つの新しい標準オブジェクトで構成される、転送アップグレードの自動化が導入されました。SOQL クエリを実行して、有効なパッケージ登録者の検索、登録者への転送アップグレードのスケジュール、アップグレード状況の監視、エラーリストの表示を行うことができます。

Tooling API を使用した管理パッケージおよび未管理パッケージのアップロード

Tooling API の PackageUploadRequest オブジェクトを使用して、登録者へのパッケージのアップロードを自動化できるようになりました。アップロード要求を作成したら、SOQL クエリを行ってアップロード状況を監視したり、インストール URL の作成をサポートしたりできます。

別名でログインによる登録者組織での難読化コードの表示

管理パッケージの一部である Apex クラス、トリガ、または Visualforce コンポーネントに含まれるコードは、自動的に隠され、インストール先の組織で見ることができません。唯一の例外として、グローバルとして宣言されているメソッドがあります。グローバルなメソッド署名はインストール先の組織でも参照できます。ただしパッケージの所有者は、[別名でログイン] を使用して、隠された Apex クラスを登録者組織で参照できます。

メール通知による登録者パッケージエラーの追跡

登録者がパッケージアプリケーションのインストール、アップグレード、またはアンインストールに失敗したときに、組織のメールアドレスに通知を送信できるようになりました。通知を使用して、管理パッケージおよび未管理パッケージの問題に積極的に対応し、アプリケーションを正常にインストールおよびアップグレードできるように登録者をサポートします。この機能は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

この機能を有効にするには、Salesforce の担当者までお問い合わせください。

メモ: この機能は使用資格のある Salesforce パートナーが使用できます。資格要件を含む、パートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

関連トピック:

ISVforce ガイド

API による管理パッケージの転送アップグレードの自動化

6つの新しい標準オブジェクトで構成される、転送アップグレードの自動化が導入されました。SOQL クエリを実行して、有効なパッケージ登録者の検索、登録者への転送アップグレードのスケジュール、アップグレード状況の監視、エラーリストの表示を行うことができます。

メモ: この機能は使用資格のある Salesforce パートナーが使用できます。資格要件を含む、パートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

アプリケーションベンダーは、API を使用して顧客のパッケージアップグレードを自動化できます。たとえば、Web フォームを作成して、新しいアプリケーションパッケージバージョンにアップグレードするかどうかを顧客に選択させることができます。フォームのボタンがクリックされたら、それらの顧客への転送アップグレードをスケジュールするコードをトリガできます。

関連トピック:

新しいオブジェクト

ISVforce ガイド

Tooling API を使用した管理パッケージおよび未管理パッケージのアップロード

Tooling API の PackageUploadRequest オブジェクトを使用して、登録者へのパッケージのアップロードを自動化できるようになりました。アップロード要求を作成したら、SOQL クエリを行ってアップロード状況を監視したり、インストール URL の作成をサポートしたりできます。

メモ: この機能は使用資格のある Salesforce パートナーが使用できます。資格要件を含む、パートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

関連トピック:

ISVforce ガイド

別名でログインによる登録者組織での難読化コードの表示

管理パッケージの一部である Apex クラス、トリガ、または Visualforce コンポーネントに含まれるコードは、自動的に隠され、インストール先の組織で見ることができません。唯一の例外として、グローバルとして宣言されているメソッドがあります。グローバルなメソッド署名はインストール先の組織でも参照できます。ただしパッケージの所有者は、[別名でログイン] を使用して、隠された Apex クラスを登録者組織で参照できます。

メモ: この機能は使用資格のある Salesforce パートナーが使用できます。資格要件を含む、パートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

マーケティング: かつてない方法で顧客をエンゲージするツール

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。あらゆるソースからの顧客利用データを1か所で表示し、ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化できます。最適なタイミングですべてのチャネルとデバイスにパーソナライズされたコンテンツを配信し、リアルタイムでアプローチを最適化してより優れた結果をもたらすことができるように、ビジネスでの各インタラクションの影響を評価します。

関連トピック:

Marketing Cloud の概要

Marketing Cloud: 2016 年 7 月のリリースノート

Marketing Cloud: 2016 年 5 月のリリースノート

Marketing Cloud: 以前のリリースノート

Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ

重要な更新: LockerService の変更、Visualforce ページへのクリックジャック保護の追加

前回のリリースからの LockerService の重要な更新は延期されました。またこのリリースには、ページヘッダーが非表示の Visualforce ページに、従来のブラウザ互換のクリックジャック保護を拡張する重要な更新が含まれています。

新しいリリースに円滑に移行できるように、それぞれの重要な更新には選択期間が用意されています。この選択期間は、[設定] の [重要な更新] ページに表示される自動有効化日付になると終了します。この期間中は、更新の有効化および無効化を必要に応じて手動で何度でも行って組織への影響を評価し、更新によって影響を受けるカスタマイズを修正することができます。選択期間を過ぎると、更新は自動的に有効になります。詳細は、「重要な更新への対応」を参照してください。

PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコールアウトとして動作 (重要な更新)

重要な更新が Summer '15 で導入され、2016 年 10 月 18 日にすべての組織に適用されました。この重要な更新では、PageReference オブジェクトの `getContent()` および `getContentAsPDF()` メソッドがコールアウトとして動作し、コールトランザクションの制限に照らしてコールが追跡されます。

従来のブラウザ用クリックジャック保護をページヘッダーのない Visualforce ページに追加 (重要な更新)

この重要な更新では、`showHeader="false"` に設定された Visualforce ページ用の従来のブラウザ互換のクリックジャック保護を拡張し、ページにバージョン 27.0 より前の API が使用されている場合にも適用します。

LockerService の重要な更新は延期

LockerService は、Lightning コンポーネントの強力なセキュリティアーキテクチャで、Summer '16 の重要な更新でした。この重要な更新は、Winter '17 で自動的に有効になるようにスケジュールされました。この自動有効化日付が Summer '17 まで延期されました。

コミュニティの LockerService の重要な更新は延期

LockerService は、Lightning コンポーネントの新しい強力なセキュリティアーキテクチャで、Summer '16 のコミュニティの重要な更新でした。この重要な更新は、Winter '17 で自動的に有効になるようにスケジュールされました。この自動有効化日付が Spring '17 まで延期されました。

すべての組織で LockerService の重要な更新を切り替え可能

この重要な更新を無効にするオプションが、すべての組織に含まれることになりました。Lightning コンポーネントの設定ページの新しい設定では、管理パッケージからインストールしたコンポーネントで LockerService を適用するかどうかを制御できます。

ヘルプ & トレーニング

ウォークスルーおよび Trailhead モジュールも追加されました。また Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

このセクションの内容:

ウォークスルー
ウォークスルーとは、作業や機能を案内する一連の対話型ステップのことです。ウォークスルーを開始する前に、Salesforce の正しいページにアクセスできるようにするため、ユーザ権限および機能に関連付けられたライセンスが適切であることを確認してください。

Trailhead
Salesforce や新機能の使用を開始するための便利な方法として、Salesforce をガイド付きで楽しく習得できるインタラクティブツールである Trailhead があります。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールやプロジェクトを選択したりできます。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメント
Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントに季節的な更新が行われました。

ウォークスルー

ウォークスルーとは、作業や機能を案内する一連の対話型ステップのことです。ウォークスルーを開始する前に、Salesforceの正しいページにアクセスできるようにするため、ユーザ権限および機能に関連付けられたライセンスが適切であることを確認してください。

重要: ウォークスルーでは自分のSalesforceアカウントを使用するため、順を追って操作しながら組織内のデータを実際に変更していくことになります。このような変更を加えることが心配な場合は、Sandbox アカウントまたは別のテスト環境でウォークスルーを使用してください。

機能	ウォークスルー	必要なもの
Lightning Experience	: Lightning Experience ナビゲーションバーの概要	Lightning Experience へのアクセス権
Lightning Experience	Lightning Experience でアプリケーションを管理する	「設定・定義を参照する」

Trailhead

Salesforce や新機能の使用を開始するための便利な方法として、Salesforce をガイド付きで楽しく習得できるインタラクティブツールである Trailhead があります。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールやプロジェクトを選択したりできます。

https://trailhead.salesforce.com で Trailhead を確認し、適切なコンテンツを見つけてください。最新のトレイル、モジュール、プロジェクトは次のとおりです

新しいモジュール

コミュニティのロールアウト戦略
コミュニティの構築、開始、育成を行うための戦略を作成します。

AppExchange の基礎
AppExchange から取得したアプリケーション、コンポーネント、サービスを使用して、Salesforce の機能を拡張します。

ナレッジの基礎
オンラインの検索可能な知識ベースを使用して従業員と顧客が答えをすばやく見つけるのに役立ちます。

ナレッジ検索の基礎
Salesforce ナレッジで検索がどのように動作するかを学習し、適切な結果が得られるように組織の検索をカスタマイズします。

Live Agent の基礎
ライブチャットを使用して、仕事に関する最適なエージェントに顧客を接続します。このモジュールの前提条件として、「ブランド化されたチャットの構築」プロジェクトを完了する必要があります。

Salesforce1 ロールアウト
会社が Salesforce1 を使ってより多くのことを行うのに役立つロールアウト戦略を作成します。

Salesforce1 の基礎 (ユーザ向け)
外出中に Salesforce1 モバイルアプリケーションを使用してチームメートとコラボレーションします。

新しいプロジェクト

自動化されたワークショップ管理システムの構築
開発ワークショップの組織化に関連するタスクを自動化します。

ブランドチャットの作成
Live Agent を使用してブランドチャットをサービスチャネルに追加します。コードは不要です。

満足度調査の作成
フローを使用して簡単な顧客満足度調査を作成します。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメント

Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントに季節的な更新が行われました。

通知およびライセンス

通知およびライセンスドキュメントに次の変更が加えられました。

Salesforce
このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

Account Intelligence の機能: セクションが更新されました。

配布ソフトウェア: 配布ソフトウェアの注文書補足条項へのリンクが更新されました。

Analytics Cloud
対象サービス: 情報が更新されました。

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

サードパーティのプラットフォーム: 情報が更新されました。

配布ソフトウェア: 情報が更新されました。

他の Salesforce サービスとの相互運用: 情報が更新されました。

Data.com

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

Data.com データ: 情報が更新されました。

相互運用と顧客データ: 情報が更新されました。

他の Salesforce サービスとの相互運用: 明確化のために新しいセクションが追加されました。

Desk.com

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

ExactTarget

対象サービス: ブランドと製品提供内容に対する変更を反映するために、情報が更新されました。

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

情報の使用制限: ベストプラクティスとガイドラインに関する情報が更新されました。

Advertising Studio: 新しいセクションが追加されました。

Financial Services Cloud

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

Account Intelligence の機能: 情報が更新されました。

配布ソフトウェア: 情報が更新されました。

Health Cloud

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

Account Intelligence の機能: 情報が更新されました。

配布ソフトウェア: 情報が更新されました。

Heroku

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

Heroku 要素: 情報が更新されました。

Heroku 開発センター: 情報が更新されました。

配布ソフトウェア: 情報が更新されました。

IoT Cloud

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

サードパーティのプラットフォーム: 新しいセクションが追加されました。

Marketing Cloud

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

サードパーティの通知:ETサービスと相互運用する商用エンティティへの変更を反映するために、情報が更新されました。

配布ソフトウェア: Marketing Cloud オープンソース Web サイトへのリンクが更新されました。

Pardot

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

サードパーティの通知: 情報が更新されました。

予測インテリジェンス

対象サービス: ブランドと製品提供内容に対する変更を反映するために、情報が更新されました。

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

配布ソフトウェア: 予測インテリジェンスのオープンソース Web サイトへのリンクが更新されました。

SalesforceIQ

対象サービス: 情報が更新され、Salesforce 受信箱が追加されました。

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

サードパーティのアプリケーション: MailChimp、HubSpot、および Zapier との統合を含む、新しいセクションが追加されました。

配布ソフトウェア: 情報が更新されました。

対外サービス:: 対外サービス (EFS) ポリシーを参照する新しいセクション。

他の Salesforce サービスとの相互運用: 明確化のために新しいセクションが追加されました。

Steelbrick

製品タイトルの変更

対象サービス: 情報が更新されました。

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

サードパーティのプラットフォーム: 情報が更新されました。

ソーシャル取引先、取引先責任者、およびリード: セクションが削除されました。

取引先責任者の簡易インポート機能: セクションが削除されました。

Chatter のサードパーティインテグレーション: セクションが削除されました。

取引先ニュース機能: セクションが削除されました。

Files Connect 機能: セクションが削除されました。

Google マップ: セクションが削除されました。

Exchange Sync: セクションが削除されました。

配布ソフトウェア: 情報が更新されました。

他の **Salesforce** サービスとの相互運用: 情報が更新されました。

Work.com

このドキュメントの目的: 注文書の追加条項への言及が追加されました。

セキュリティ、プライバシー、およびアーキテクチャ

セキュリティ、プライバシー、およびアーキテクチャドキュメントに次の変更が加えられました。

Salesforce

対象サービス: 定義済みの用語が Salesforce サービスから対象サービスに変更され、最近買収した MetaMind や BeyondCore に SPARC が対応していないことが明記されました。

Salesforce インフラストラクチャ: フランスでの新しいデータセンターの追加を反映し、プライマリデータセンターとセカンダリデータセンター間の差異を無くすために、インスタンスグラフが改訂されました。プライマリデータセンターとバックアップデータセンターにどのようにデータが存在するかを明記し、Sandbox コピーがリージョン内の他のデータセンターにリダイレクトされる方法を説明する言葉が追加されました。

サードパーティアーキテクチャ: ニュース記事と他のコンテンツをユーザに提供できる Sales Cloud で使用可能な、Account Intelligence 機能についてのセクションが追加されました。

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証がプライバシーシールドの認証に置き換えられました。SOC および ISO 認証とコンプライアンスの PCI 認証からの Work.com の除外が削除され、PCI AoC は暗号化された添付ファイルに対応していることが明記されました。

機密個人データ: Work.com で使用できるデータの制限が解除され、暗号化された添付ファイルは使用可能な選択肢であることが明記されました。

Buddy Media

Salesforce インフラストラクチャ: カナダのデータストレージへの言及が削除されました。

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証への言及が削除されました。

Data.com

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証への言及が削除されました。

監査および認証: ISO 27018 認証への言及が追加されました。

Desk.com

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証への言及が削除されました。

ExactTarget

対象サービス: 新しい Advertising Campaigns のブランドへの言及が追加されました。

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証への言及が削除されました。

セキュリティコントロール: 2 要素認証への言及が削除され、「ID 検証オプション」の説明が明記されました。

セキュリティコントロール: 自己管理される SFTP プロビジョニングの説明が追加されました。

セキュリティの手順、ポリシー、およびログ記録: ウォッチドッグ動作分析プログラムへの言及が削除されました。

Financial Services Cloud

Salesforceインフラストラクチャ:Salesforceインフラストラクチャの詳細情報が削除されました。その代わりに、Salesforce サービスの SPARC を相互参照します。

監査および認証: SOC レポートおよび PCI 認証への言及が追加されました。EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証がプライバシーシールドの認証に置き換えられました。セキュリティテストの説明が明記されました。

機密個人データ:さまざまな種類の機密個人データの送信に関する制限が変更され、暗号化された添付ファイルは使用可能な選択肢であることが明記されました。

Health Cloud

Salesforceインフラストラクチャ:Salesforceインフラストラクチャの詳細情報が削除されました。その代わりに、Salesforce サービスの SPARC を相互参照します。

監査および認証: SOC レポートおよび PCI 認証への言及が追加されました。EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証がプライバシーシールドの認証に置き換えられました。セキュリティテストの説明が明記されました。

機密個人データ:さまざまな種類の機密個人データの送信に関する制限が変更され、暗号化された添付ファイルは使用可能な選択肢であることが明記されました。

Heroku

サードパーティアーキテクチャ: Heroku サービスのプロビジョニングで AWS によってホストされるアーキテクチャが存在する国のリストが更新され、ドイツと日本が追加されました。

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証がプライバシーシールドの認証に置き換えられました。

機密個人データ: さまざまな種類の機密個人データの送信に関する制限が変更されました。

IoT Cloud

Salesforce インフラストラクチャ: IoT Cloud の一部が Heroku インフラストラクチャにホストされていることを示す記述が追加され、Heroku SPARC への相互参照が追加されました。

サードパーティアーキテクチャ: IoT Cloud の一部分のみが AWS で直接ホストされていることが明記されました。

監査および認証: AWS 認証への言及とリンクが追加されました。

Pardot

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証がプライバシーシールドの認証に置き換えられました。社員およびサードパーティによる年間セキュリティ評価に関する規定が追加されました。

セキュリティの手順、ポリシー、およびログ記録:ユーザログに格納されるデータポイントの説明が改訂されました。

予測インテリジェンス

対象サービス: 新しい Predictive Scoring のブランドへの言及が追加されました。

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証への言及が削除されました。

セキュリティの手順、ポリシー、およびログ記録:パスワードストレージへの言及が削除されました。パスワードストレージは、予測インテリジェンスが他の Marketing Cloud サービスを使用したシングルサインオンに移行された後、無効になりました。

Radian6

サードパーティアーキテクチャ: コンテンツ配信ネットワークの使用への言及が削除されました。

SalesforceIQ

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証への言及が削除されました。

Social.com

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証への言及が削除されました。

Social Studio

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証への言及が削除されました。

Steelbrick

対象サービス: 新しいブランドの Salesforce Quote-to-Cash を反映するために、説明が変更されました。

Salesforce インフラストラクチャ: Salesforce インフラストラクチャの詳細情報が削除されました。その代わりに、Salesforce サービスの SPARC を相互参照します。Heroku での PDF 作成機能/見積計算機能のホストに関する説明が改訂され、「サードパーティアーキテクチャ」セクションから「Salesforce インフラストラクチャ」セクションに移動されました。

監査および認証: EU/米国間およびスイス/米国間のセーフハーバーの自己認証がプライバシーシールドの認証に置き換えられました。セキュリティテストの説明が明記されました。

その他の Salesforce 製品

Desk.com

Desk.com は、小規模ビジネスや成長中のチーム向けの、オールインワンカスタマーサポートアプリケーションです。

新機能についての詳細は、「Desk.com Product Updates Blog」を参照してください。

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「Heroku Changelog」を参照してください。